一世紀録

富山県歯科医師会100年史

一世紀録

富山県歯科医師会100年史

平成25（2013）年5月撮影

一世紀録

富山県歯科医師会100年史

富山県歯科保健医療総合センター

発刊のことば

一般社団法人　富山県歯科医師会
会長　吉田　季彦

この度、富山県歯科医師会創立100周年を記念して、富山県歯科医師会100年史『一世紀録』を発刊する運びとなりました。100年という節目を無事迎えることが出来ましたのも、日頃からお世話になっている皆様方のご指導の賜と深く感謝致しております。

富山県歯科医師会の創立は、大正３（1914）年５月３日に設立総会を開催し、同年７月３日に富山県知事から設立の認可を受けたことに始まっております。爾来、100年の歳月が経過したわけでありますが、今日に見る富山県歯科医師会の伝統と、輝かしい歴史を築き上げてこられた歴代会長はじめ諸先輩方に、ここに改めて深甚なる敬意と感謝の意を表するものであります。

これまでの一世紀に及ぶ輝かしい歴史を改めて見直しますと、その歴史を途絶えることなく継承していく責任の重さを痛感するとともに、歴史を引き継ぐ者として大きな節目である創立100周年を契機に、創立時の理念に立ち返り、真摯に日々を積み重ね新しい歴史を築いていくとの決意を強くする次第であります。

県歯科医師会の役割は公益性のある一般社団法人として県民の歯科医療と歯科保健等に寄与することであり、国民が認める学術団体であります。近代日本の発展の歩みの中で、口腔保健の向上を目指して富山県民の健康の保持増進に寄与するべく、多くの会員が学術研鑽に励み、各々の診療環境を整えながら幾多の困難に打ち克って、地道に歯科診療と口腔衛生指導を行って参りました。

100周年の節目を迎えるにあたり、先人のご苦労や多くの方々のご支援の数々に思いを致す時、感謝の念で一杯です。また、100周年の節目を迎える記念すべき年に、予てから要望しておりました「富山県歯と口腔（くう）の健康づくり推進条例」が制定されましたことは、我々にとって大きな喜びとなりました。ご尽力頂きました自由民主党富山県議会議員会の皆様には深くお礼申し上げます。

会史は既に昭和58（1983）年、『富山県歯科医師会 七十年のあゆみ』が発刊されており、今回はそれに継ぐものとなります。この会史は、私達の歴史であると共に、取りも直さず本県歯科衛生の歴史でもあります。従って私達は、この歴史の上に立って、今後一層の団結を強化して県民の健康増進に努力すべきであると思います。

そして富山県歯科医師会が150年、200年に向け脈々と発展を続けるためには会員一人ひとりが歯科医師という天職に誇りをもち自己研鑽に努め、県民の健康増進、口腔衛生思想の普及啓発に全精力を傾注しなければならないと考えております。併せて今日を契機に改めて会員の揺ぎない絆がさらに強固となることを願ってやみません。

会史編纂に際しましては貴重な資料や写真のご提供、ご助言やご支援を賜わりました多くの方々や、編纂委員会委員として労を取られました会員の皆様に深く感謝申し上げますとともに、次代を担う会員諸氏により、本会が更に繁栄していくことを期待して発刊のご挨拶と致します。

富山県歯科医師会創立100周年を祝して

富山県知事
石井　隆一

このたび、富山県歯科医師会が創立100周年を迎えられましたことを心からお祝い申しあげます。

貴会には、大正３年の創立以来、１世紀の長きにわたり、医療活動をはじめ、歯科技工士や歯科衛生士の養成、歯科医学に関する学術研究や教育普及活動などを通じ、地域歯科保健医療の向上に多大なご貢献をいただいています。

とりわけ、「8020運動」や、在宅で寝たきりの方への歯科訪問診療のほか、休日・夜間の救急診療や心身障害児（者）の治療・巡回指導を実施されるなど、県民の皆様の歯と口腔の健康の保持・増進に大変ご尽力いただいています。

ここに、吉田会長をはじめ歴代役員並びに会員の皆様方のたゆまぬご尽力とご熱意に対し、心から敬意を表し、感謝申しあげる次第です。

さて、近年、少子・高齢化の急速な進展や疾病構造の変化､医療技術の高度化など、歯科医療を取り巻く環境が大きく変化しており、本県においても、歯や口腔の健康と全身の健康との関連を踏まえた歯科保健医療、高齢化に伴う在宅歯科医療、災害発生時の口腔ケアなど、歯科保健医療に対するニーズが高度化、多様化しています。

このため、県では、昨年秋に、「富山県歯と口腔の健康づくり推進条例」を制定するとともに、「県民歯と口の健康プラン」を策定し、関係機関の連携・協力のもと、歯と口腔の健康づくりに関する施策を総合的に推進しているところです。

今後とも、この条例やプランを踏まえ、乳幼児期から高齢者までライフステージに応じた歯科疾患の予防、全身の健康との関係を踏まえた歯科保健医療、かむ機能などの口腔機能の維持・向上、在宅歯科医療の推進などに積極的に取り組んでまいりたいと考えています。

貴会には、この記念すべき創立100周年を契機に、さらなる飛躍を遂げられますとともに、本県の歯科保健医療の充実や学校歯科保健の推進、そして「元気とやまの創造」に一層のご尽力、ご協力をいただきますようお願い申しあげます。

終わりに、富山県歯科医師会の限りないご発展と、会員の皆様方のますますのご健勝、ご活躍、ご多幸を心からお祈り申しあげます。

祝　辞

公益社団法人 日本歯科医師会
会長　大久保満男

このたび、一般社団法人富山県歯科医師会の創立100周年記念誌を刊行されるにあたり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

富山県歯科医師会は、大正３年に10名の会員が志を立てられ設立されたとお聞きしております。

わが国において初めて、われわれの身分法である歯科医師法が発布されたのは明治39年でした。これを機に全国に歯科医師会が設立され始めました。

しかし、ここに至るまでの歯科界の道のりは、極めて困難なものでした。それは、明治新政府が、近代医学・医療をヨーロッパから、いわば国策として導入し、国民の健康を守るという意志を示したのに対し、我が歯科医学･医療は､その政策の中に入っていなかったことが、困難な道のりの原因でした。

その時代のわれわれの先達は、自ら来日していた外国人、主として米国人のもとで学び、そして志を立てて米国に渡り、そこでの苦しい学びに耐えて日本に戻り、あるものは歯科医学校を設立し、あるものは開業医として近代歯科医療を国民に提供することに努力しました。その結果が、前述した歯科医師法の成立ですが、これとて医師法が政府立法であったのに対し、歯科医師法は当時の歯科医師の必死の努力による議員立法であったことを、われわれはしっかりと記憶しておかなければなりません。なぜなら歯科医学・医療は、まさにわれわれの先達の自立と自尊の精神のもとに、この日本国の中で花を開かせたからであります。

富山県歯科医師会が創立された年は、未だ、歯科医療の行く末も定かではなく、多くの苦労があったことと思います｡しかし、その中で、わずか10名の先生方が、富山県の歯科界の未来を信じ、それを築こうとされた志と精神を、われわれは今改めて思い起こし、そしてそこから今日に至る100年の歴史の中で、多くの会員の先生方が、その志を引き継ぎ、仲間たちが互いに助け合いながら、現在の歯科医師会の存在があることを、先生方とともに、ここで確認をしたいと思います。

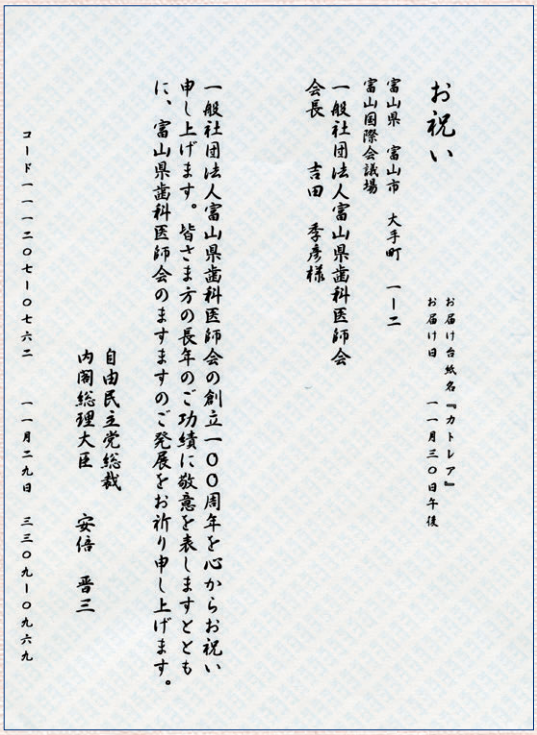
歴史とは史を歴むことです。この100年の富山県歯科医師会の歴んできた歴史を今日振り返り、次の100年に向けて新たに歩んでいかれることをご祈念申し上げ、記念誌へのご挨拶といたします。

創立100周年記念式典・祝賀会

The 100th Anniversary

記念式典

CEREMONY



お祝い

お届け台紙名『カトレア』
お届け日　一一月三〇日午後

富山県　富山市　大手町　一―二
富山国際会議場
一般社団法人富山県歯科医師会
会長　吉田　季彦様

一般社団法人富山県歯科医師会の創立一〇〇周年を心からお祝い申し上げます。皆さま方の長年のご功績に敬意を表しますとともに、富山県歯科医師会のますますのご発展をお祈り申し上げます。

自由民主党総裁
内閣総理大臣　安倍　晋三

コード一一一二〇七一〇七六二　一一月二九日　三三〇九一〇九六九

The 100th Anniversary
祝賀会
CELEBRATION PARTY

創立100周年記念式典 The 100th Anniversary CEREMONY

「富山県歯科医師会100年のあゆみ」スライドで紹介　中道　勇（富山県歯科医師会専務理事）

一般社団法人富山県歯科医師会創立100周年記念式典は、平成25（2013）年12月１日（日）午前11時30分より、富山国際会議場３Ｆメインホールにおいて、石井隆一富山県知事、大久保満男日本歯科医師会会長、宮腰光寛自由民主党富山県支部連合会会長をはじめとするご来賓の方々、会員約360名が出席し、盛大かつ厳かに執り行われた。

開式の辞　安田　篤
（富山県歯科医師会副会長）

物故会員弔慰黙祷

式辞　吉田季彦（富山県歯科医師会会長）

創立100周年記念式典　式次第　於：富山国際会議場

司会　田島悠紀子

1．開式の辞　一般社団法人 富山県歯科医師会副会長　安田　篤
2．物故会員弔慰黙祷
3．式　辞　一般社団法人 富山県歯科医師会会長　吉田　季彦
4．富山県歯科医師会100年のあゆみ
5．来賓祝辞　富山県知事　石井　隆一
　公益社団法人 日本歯科医師会会長　大久保満男
　自由民主党富山県支部連合会会長　宮腰　光寛
6．来賓紹介
7．祝電披露
8．表　彰　(1) 平成25年度厚生部門功労者 富山県知事表彰
　(2) 富山県歯科医師会創立100周年記念表彰
　(3) 平成25年度富山県歯科医師会功労会員表彰
　(4) 平成25年度顕彰者表彰
9．受彰者代表挨拶
10．閉式の辞　一般社団法人 富山県歯科医師会副会長　山﨑　安仁

来賓祝辞

石井隆一様（富山県知事）

大久保満男様（日本歯科医師会会長）

宮腰光寛様
（自由民主党富山県支部連合会会長・衆議院議員）

平成25年度厚生部門功労者 富山県知事表彰

山﨑安仁（富山市）

木村純一（高岡市）

熊木　彰（高岡市）

平木光昭（高岡市）

受彰者代表挨拶　木村純一（高岡市）

富山県歯科医師会創立100周年記念表彰

※表彰者名簿はP418、419に掲載

特別功労者代表 今村勝彦（富山市）

永年会員代表 水野誓夫（富山市）

本会役員・代議員・郡市歯科医師会会長・委員・部員
長期在職者代表 平井和輝（黒部市）

本会職員代表 吉田美津子（歯科衛生士科）

平成25年度富山県歯科医師会功労会員表彰

※表彰者名簿はP422に掲載

功労会員代表 米田仗二（魚津市）

平成25年度顕彰者表彰

※表彰者名簿はP414に掲載

顕彰者代表 櫻木正昭（砺波市）

受彰者代表挨拶　水野誓夫（富山市）

閉式の辞　山﨑安仁
（富山県歯科医師会副会長）

創立100周年記念祝賀会 The 100th Anniversary CELEBRATION PARTY

歓迎　越中おわら節（富山県民謡おわら保存会西町支部）

創立100周年記念祝賀会は、創立100周年記念式典に続いて、午後１時20分よりANAクラウンプラザホテル富山３F鳳の間に会場を移して行われた。富山県民謡おわら保存会西町支部の「越中おわら節」で幕が開け、吉田会長の挨拶、来賓祝辞、鏡開き、乾杯と続いた。

祝宴では、福光送熱太鼓「巴組」の皆さんによる和太鼓演奏が花を添え、和やかな雰囲気の中で会員相互の結束を深めた。

挨拶　吉田季彦（富山県歯科医師会会長）

来賓祝辞　髙木幹正様（日本歯科医師連盟会長）

来賓祝辞　石井みどり様（厚生労働委員長・参議院議員）

来賓祝辞　西村まさみ様（参議院議員）

創立100周年記念祝賀会　式次第

於：ANAクラウンプラザホテル富山
司会　田島悠紀子

1．歓　　迎	越中おわら節（富山県民謡おわら保存会西町支部）	
2．開　　会		
3．挨　　拶	一般社団法人 富山県歯科医師会会長	吉田　季彦
4．来賓祝辞	日本歯科医師連盟会長	髙木　幹正
	厚生労働委員長・参議院議員	石井みどり
	参議院議員	西村まさみ
5．鏡 開 き		
6．乾　　杯	一般社団法人 富山県歯科医師会前会長	栗山　豊実
7．祝　　宴	アトラクション　和太鼓演奏（福光送熱太鼓「巴組」）	
8．万歳三唱	自由民主党富山県議会議員会会長	鹿熊　正一
	一般社団法人 富山県歯科医師会副会長	安田　篤
9．閉会の辞	一般社団法人 富山県歯科医師会副会長	山﨑　安仁

乾杯　栗山豊実（富山県歯科医師会前会長）

万歳三唱　鹿熊正一様（自由民主党富山県議会議員会会長）

万歳三唱　安田　篤（富山県歯科医師会副会長）

閉会の辞　山﨑安仁（富山県歯科医師会副会長）

物故会員追悼慰霊祭

平成25（2013）年10月６日（日）午前10時より、富山県歯科保健医療総合センター３階において、本会創立100周年を記念した「物故会員追悼慰霊祭」を厳かに執り行った。慰霊祭には遺族、会員約120名が参列、参列者全員で30年間に故人となられた先生方172名の在りし日を偲んだ。

※物故会員名簿はP164に掲載

式次第

一、開式のことば
一、黙祷
一、物故会員氏名奉読
一、追悼のことば
一、献花
一、追悼電文披露
一、遺族代表挨拶
一、閉式のことば

富山県歯科保健医療総合センター３階に設けられた祭壇

参列者による黙祷

追悼のことば　吉田季彦（富山県歯科医師会会長）

遺族・会員による献花

遺族代表挨拶　宮本宣良（富山市）

旧体制の歴代会長（大正３年～昭和22年）

第１代会長
島　川　安次郎
T 3.7 ～ T 5.3（１年９カ月）

第２代・第４代会長
阿　部　孫太郎
T 5.4 ～ T 8.3（３年）
T11.4 ～ T13.3（２年）

第３代会長
鷹　島　慶　二
T 8.4 ～ T11.3（３年）

第５代・第９代会長
村　井　信　義
T13.4 ～ T14.3（１年）
S 8.4 ～ S10.3（２年）

第６代会長
湯　浅　　環
T14.4 ～ T15.3（１年）

第７代会長
宮　島　忠　治
T15.4 ～ S 2.3（１年）

第８代会長
小　林　金　次
S 2.4 ～ S 8.3（６年）

第10代・第14代会長
中　島　清　作
S10.4 ～ S14. 3（４年）
S21.4 ～ S22.10（１年７カ月）

第11代会長
宮　本　俊　治
S14.4 ～ S17.3（３年）

第12代会長
山　下　長　藏
S17.4 ～ S17.12（９カ月）

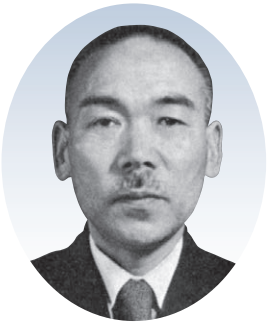
第13代会長
藤　井　義　人
S18.1 ～ S21.3（３年３カ月）

新体制の歴代会長（昭和23年～現在）

※昭和23年２月５日に社団法人富山県歯科医師会設立の認可が下り、新体制が発足

第１代会長
金　森　保　芳
S23.2.5～S24.3.31(1年2カ月)

第２代会長
今　村　彦　治
S24.4.1～S26.3.31（２年）



第３代会長
浦　野　與四郎
S26.4.1～S31.3.31（５年）

第４代会長
栗　山　実　純
S31.5.6～S34.3.31(2年11カ月)

第５代会長
岡　田　信　次
S34.4.1～S38.3.31（４年）

第６代会長
川　口　義　門
S38.4.1～S42.3.31（４年）

第７代会長
阿　部　清　一
S42.4.1～S46.3.31（４年）

第８代会長
深　山　正　之
S46.4.1～S50.3.31（４年）

第９代会長
永　森　　収
S50.4.1～S55.11.28（5年8カ月）

第10代会長
藤　井　　弘
S55.12.15～H13.3.31(20年3カ月)

第11代会長
栗　山　豊　実
H13.4.6～H21.3.31（８年）

第12代会長
吉　田　季　彦
H21.4.1～現在

富山県歯科医師会100年の沿革

大正3年7月3日

内務省令による歯科医師会の設立の許可を得て、10名の会員によって富山県歯科医師会を設立。初代会長に島川安次郎が就任した。

小林歯科医院内部　大正５年　小林憲夫先生提供

大正15年8月11日

歯科医師会令の制定により、強制設立による歯科医師会の組織に改められ、会長には、宮島忠治が就任し、会員は72名となる。

富山県歯科医師会館前にて（昭和17～18年頃）

昭和17年12月31日

国民医療法に基づく医師会令及び歯科医師会令により、富山県歯科医師会が設立許可を受け、初代官選会長に藤井義人が任命され、全く性格の異なった国策団体となる。

昭和22年10月

医師会、歯科医師会及び日本医療団の解散等に関する法律の施行に関する政令公布と同時に本会は解散となる。

金森保芳会長が日歯理事として就任。後列左端

昭和23年2月5日

民法の規定により社団法人富山県歯科医師会が設立、民主選挙により会長に金森保芳が選任され、新しい陣容が整えられた歯科医師会が発足。事務所を富山市袋町から富山市常盤町に移転し、会員は198名となる。

昭和32年10月

富山市舟橋南町の富山県歯科医師会館に移転。

1965

昭和40年5月

富山市舟橋南町に富山県歯科医師会館竣工。

1966

昭和41年4月

富山歯科技工士学院を富山県歯科医師会館内に開校。

1973

昭和48年4月

富山歯科衛生士学院を県立中央病院内で開校。

1979

昭和54年4月

富山県歯科医師会館（現会館）を富山市五福において建設し、事務所を移転。富山歯科技工士学院並びに富山歯科衛生士学院を合併し、富山歯科総合学院として併設する。また、心身障害児（者）の歯科診療・休日急患診療を実施するために富山口腔保健センターを併設する。

1994

平成6年4月

富山口腔保健センターを新築移転し、富山県歯科保健医療総合センターと改称する。

平成24年4月1日

一般社団法人富山県歯科医師会として移行。今日では536名を擁する組織になっている。平成25年に節目の創立100周年を迎えた。

2012

写真で見る富山県歯科医師会の一世紀

富山の歯科医療の夜明け ～昭和元（1926）年

廣告

従來我國ニ野師（入歯細工）ナルモノアリ醫ニアラズシテ猥ニ種々ノ名義ヲ假装シ無責任ニシテ患者ヲ施術ス其危険實ニ恐ル可キモノアリ仍テ茲ニ歯科醫同盟會ヲ起シ本縣歯科醫ノ姓名ヲ廣告シ患者諸君ノ辨別ニ供ス（イロハ順）

富山縣歯科醫同盟會

富山市總曲輪　吉田幸夫
高岡市片原町　永野一彦
富山市覺中町　島川安次郎
富山市泉町　菅田良雄

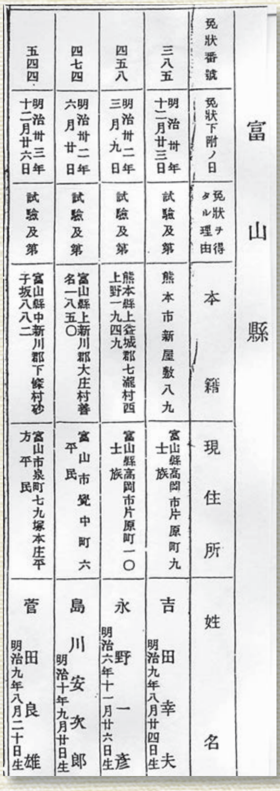
富山県歯科医同盟会新聞広告
（富山日報　明治35年5月17日）

島川歯科醫院

富山市覺中町六番地

院主　島川安太郎

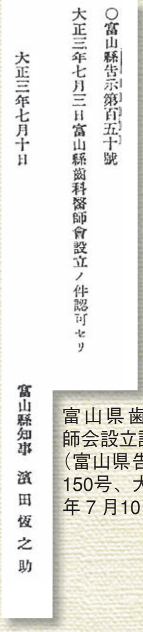
第1代島川安次郎会長の新聞広告
（富山日報　明治43年1月1日）



富山縣

免狀番號	免狀下附ノ日	免狀ヲ得タル理由	本籍	現住所	姓名
三八五	明治卅年十二月廿三日	試驗及第	熊本市新屋敷八九	富山縣高岡市片原町九 士族	吉田幸夫 明治九年八月廿四日生
四五八	明治卅二年三月九日	試驗及第	熊本縣上益城郡七瀧村西上野一九四九	富山縣高岡市片原町一〇 士族	永野一彦 明治六年十一月廿六日生
四七四	明治卅二年六月廿日	試驗及第	富山縣上新川郡大庄村善名一八五〇	富山市覺中町六 平民	島川安次郎 明治十年九月廿日生
五四四	明治卅三年十二月廿六日	試驗及第	富山縣中新川郡下條村砂子坂八八二	富山市泉町七九塚本庄平方 平民	菅田良雄 明治九年八月二十日生

歯科医籍（明治36年末）



○富山縣告示第百五十號

大正三年七月三日富山縣歯科醫師會設立ノ件認可セリ

大正三年七月十日

富山縣知事　濱田恒之助

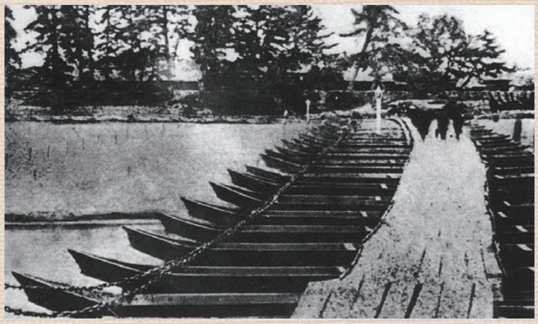
富山県歯科医師会設立認可
（富山県告示第150号、大正3年7月10日）

富山市殿町の庭で菅田良雄先生（右から3人目）を中心として
（大正元年頃）

小林歯科医院内部（大正5年）

血脇・奥村両先生を囲んで富山に於ける東歯同窓（大正8年8月3日）
（後列左から）室橋余所雄　坂口康雄　志村忠一　宮島忠治
（前列左から）神島長次　血脇校長　奥村幹事　清水杢平　藤井義人

明治・大正の富山県



明治初期の神通川舟橋
寛永18（1641）年、富山藩は舟橋の制を定め、舟を並べ太綱（幕末には鉄鎖）でつなぎ幅2尺の板が縦に敷かれた。※

大正15年頃の富山駅前
木造の駅舎は明治41年に完成、その後増改築を重ね昭和20年の戦災で焼失した。市電の停車場と乗合自動車も見える。※

※北日本新聞社提供

昭和初期の富山県歯科医師会 昭和２（1927）年～昭和20（1945）年

富山県学校歯科医会設立（昭和７年）
（後列左から）浦野與四郎　今村彦治　松田外二　坪田忠一　吉田理吉
（中列左から）神島俊一郎　島田余三男　上田薫
（前列左から）小林金次　鷹島慶二　森田孝純　森重治　牧野昶

日歯同窓会（高岡梅松園、昭和12年５月15日）

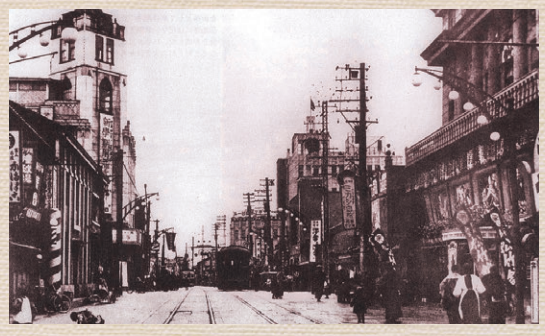
東歯同窓会（昭和16年頃）

第８回全国学校歯科医大会に富山県から４名出席（昭和13年、静岡）

富山県歯科医師会館前にて
（昭和17～18年頃）

白山塾道場にて“みそぎ”中の歯科医師たち（昭和18年）
富山県30名、石川県36名、福井県26名

昭和初期の富山県



昭和初期の西町付近
右手前の松竹館は大正５年開館の映画館。左側の搭屋がそびえる洋風の建物は岡部呉服店で、富山のデパートのはしりといわれ、お洒落な構えが客を呼んだ。※

富山大空襲（昭和20年８月）
８月２日午前零時すぎ、米軍B29爆撃機が投下した爆弾、焼夷弾により市内の大部分が焦土と化した。空襲直後の富山市内、右手に外壁を残した富山大和が見える。※

昭和中期の富山県歯科医師会 昭和21（1946）年～昭和40（1965）年

富山県歯科医師会創立40周年記念行事（昭和28年10月）

創立40周年で表彰された３先生と浦野会長
（左から）小林金次　藤井義人　大道憲治　浦野会長

浦野與四郎先生を囲んで（昭和30年頃）

五箇山赤尾での無歯科医村診療風景。治療する平井先生の他、水野・松能・山下先生

富山県歯科医師会幹部集合写真（昭和30年代前半）

昭和中期の富山県

砺波チューリップフェア開催（昭和26年～、写真は昭和30年頃）
大正年間に始まった砺波のチューリップ栽培は、戦後球根を輸出するようになって急激に広まった。これを観光化しようと昭和26年からチューリップフェアが始まる。※

ちんどんコンクール（第２回、昭和31年４月）
毎年４月に開催される「ちんどんコンクール」は、昭和30年の第1回「桜まつり」から開催され、富山の春を彩る名物行事として市民に親しまれている。※

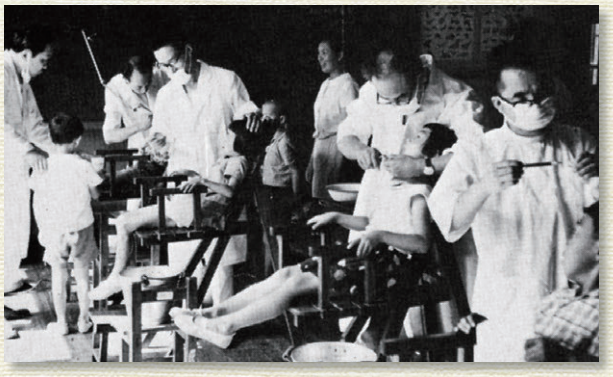
第１回歯の麗人県大会の審査会（昭和30年）

第６回歯の女王・準女王、パレード初日に県庁を表敬訪問（昭和35年７月）

第14回近畿北陸地区歯科医学大会を初めて本県で開催（昭和36年９月）

五箇山無歯科医村診療に向かう途中細尾峠で（昭和38年）

富山県歯科医師会創立50周年記念行事（昭和38年10月）



歯の無料検診を実施（昭和39年頃）

38豪雪（昭和37年末～昭和38年１月）
冬型の気圧配置に覆われ、連日北陸に猛吹雪をもたらした「38豪雪」で交通通信網は寸断され、日常生活に多大な影響を及ぼした。写真は２階まで雪が積もった砺波市。※

富山空港開港（昭和38年８月）
富山県の空の玄関口として、昭和38年８月に供用を開始した富山空港は、全国唯一の河川敷空港として開港。同45年には戦後初の国産旅客機YS-11も就航した。※

昭和後期の富山県歯科医師会 昭和41（1966）年～昭和63（1988）年

第１回富山県歯科医師会体育大会開催（昭和43年10月）

富山歯科技工士学院第１回卒業式（昭和44年３月）

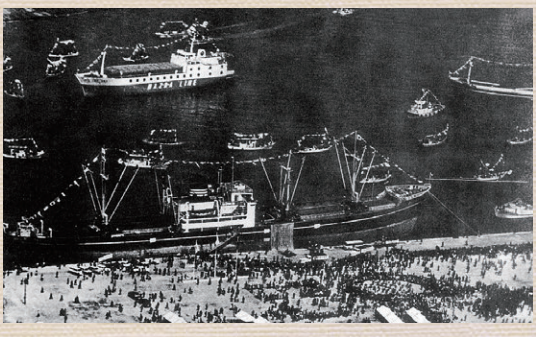
利賀地区無歯科医診療、富山県歯科診療車（しんじゅ号）（昭和44年７月）

富山歯科衛生士学院開校（昭和48年４月）

歯の無料相談（健康相談）を実施
（昭和49年～平成元年）

全国婦人歯科医師会へ分田文子先生出席（昭和40年代後半）

昭和後期の富山県

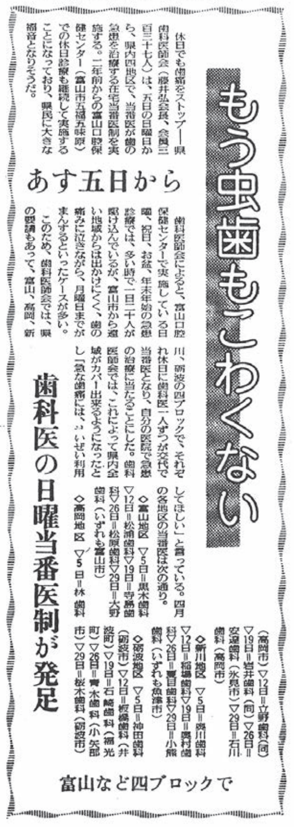


富山新港開港（昭和43年４月）
富山新港が開港した昭和43年４月21日、日本郵船の三河丸が初接岸し、ソビエト船アレクセイ・チリコフ号など３隻が停泊するなか、開港式が挙行された。※

イタイイタイ病裁判に原告勝訴（昭和46年６月）
「原因はカドミウム、排出源は神岡鉱業所」として日本初の公害病に認定されたイタイイタイ病の患者や遺族が提訴。同46年６月、原告勝訴の判決が下された。※

富山県歯科医師会創立60周年記念式典（昭和48年７月）

富山歯科総合センター竣工（昭和54年４月）


もう虫歯もこわくない

あす五日から

休日でも歯痛をストップ―県歯科医師会（藤井弘会長、会員三百三十七人）は、五日の日曜日から、県内四地区で、当番医が歯の急患を治療する在宅当番医制を実施する。二年前からの富山口腔保健センター（富山市五福五味原）での休日診療も継続して実施することになっており、県民に大きな福音となりそうだ。

歯科医師会によると、富山口腔保健センターで実施している日曜、祝日、お盆、年末年始の急患診療では、多い時で一日二十人が駆け込んでいるが、富山市から遠い地域からは出かけにくく、歯の痛みに泣きながら、月曜日までがまんするといったケースが多い。

このため、歯科医師会では、県の要請もあって、富山、高岡、新川、砺波の四ブロックで、それぞれ休日に歯科医一人ずつが交代で当番医となり、自分の医院で急患の治療に当たることにした。歯科医師会では、これによって県内全域がカバー出来るようになったとし「急な歯痛には、せいぜい利用してほしい」と言っている。四月の各地区の当番医は次の通り。

◇富山地区　▽5日＝県木歯科▽12日＝松浦歯科▽19日＝守島歯科▽26日＝松原歯科▽29日＝大野歯科（いずれも富山市）

◇高岡地区　▽5日＝林　歯科（高岡市）▽12日＝立野歯科（同）▽19日＝岩井歯科（同）▽26日＝安達歯科（氷見市）▽29日＝石川歯科（高岡市）

◇新川地区　▽5日＝奥川歯科▽12日＝稲場歯科▽19日＝奥村歯科▽26日＝夏目歯科▽29日＝小熊歯科（いずれも魚津市）

◇砺波地区　▽5日＝神田歯科（砺波市）▽12日＝板橋歯科（井波町）▽19日＝石崎歯科（福光町）▽26日＝青木歯科（小矢部市）▽29日＝桜木歯科（砺波市）

歯科医の日曜当番医制が発足

富山など四ブロックで

全国に先駆けて実施した休日等在宅当番医制度（昭和56年４月）

富山県歯科医師会が第34回保健文化賞受賞（昭和57年９月）

富山県歯の保健文化賞を創設（昭和58年～平成14年）

富山県歯科医師会創立70周年記念行事物故会員追悼式（昭和58年10月）

富山県置県100年（昭和58年５月）

明治16年に石川県から分離独立し、富山県が設置されてから100年目の昭和58年、置県100年記念式典をはじめ100を超えるイベントが開催された。※

北陸自動車道全線開通（昭和63年７月）

昭和41年の着工から22年目の同63年７月、新潟県黒崎～滋賀県米原までの北陸自動車道483km全線がつながった。写真は同49年10月の砺波I.C.で行われた開通式。※

平成期の富山県歯科医師会 昭和64･平成元（1989）年～平成25（2013）年

第41回近畿北陸地区歯科医学大会を本県で開催（平成元年11月）

歯の健康フェスティバル開催（平成２年６月）

富山県歯科医師会創立80周年記念式典（平成５年11月）

富山県歯科保健医療総合センターオープン（平成６年４月）

歯っぴーフェスタ8020開催
（平成６年～、写真は平成21年開催）

平成期の富山県

五箇山合掌造り集落、世界遺産に登録（平成７年）
合掌造りは、岐阜県白川郷と富山県南砺市五箇山地方で見られる急傾斜の切妻造り・茅葺きの民家のこと。平成７年12月、ユネスコ世界遺産に登録された。

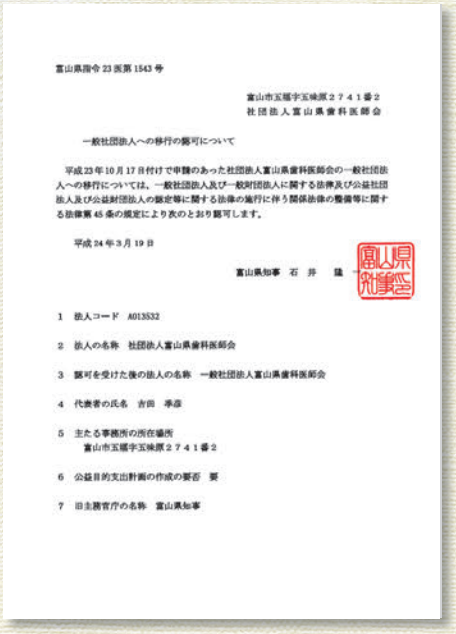
2000年とやま国体開催（平成12年）
第55回国民体育大会「2000年とやま国体」は、「あいの風 夢のせて」をスローガンに県内各地で開催された。写真は幼稚園児と高校生による開会式での人文字。※

第53回近畿北陸地区歯科医学大会を本県で開催（平成13年11月）

富山県歯科医師会創立90周年記念式典（平成15年11月）

県民公開講座「健康はお口から」開催（平成20年９月）

いい歯カムカムすこやか大賞を創設
（平成７年～、写真は平成24年度ポスター）



富山県指令 23 医第 1543 号

富山市五福字五味原２７４１番２
社団法人富山県歯科医師会

一般社団法人への移行の認可について

平成23年10月17日付けで申請のあった社団法人富山県歯科医師会の一般社団法人への移行については、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第45条の規定により次のとおり認可します。

平成24年3月19日

富山県知事 石井 隆一

1 法人コード A013532
2 法人の名称 社団法人富山県歯科医師会
3 認可を受けた後の法人の名称 一般社団法人富山県歯科医師会
4 代表者の氏名 吉田 孝彦
5 主たる事務所の所在場所
富山市五福字五味原２７４１番２
6 公益目的支出計画の作成の要否 要
7 旧主務官庁の名称 富山県知事

一般社団法人 富山県歯科医師会としてスタート（平成24年４月）

富山ライトレール開業（平成18年）
富山港線をJR西日本から引継ぎ、地域密着の公共交通として平成18年４月開業。バリアフリーの低床車両が特徴で、グッドデザイン賞金賞をはじめ多くの賞を受賞。

2015年春、北陸新幹線富山へ（平成27年）
北陸地方と首都圏を約２時間で結ぶ北陸新幹線が、昭和40年の構想発表から半世紀、平成27年春に長野駅ー金沢駅間が開業予定。写真は富山駅外観完成予想図。

富山県歯科医師会100年史　一世紀録

目　次

発刊のことば　一般社団法人 富山県歯科医師会　会長　吉田　季彦 ……5
祝辞　富山県知事　石井　隆一 ……6
公益社団法人 日本歯科医師会　会長　大久保満男 ……7

創立100周年記念式典・祝賀会 ……8
物故会員追悼慰霊祭 ……15
旧体制の歴代会長（大正３年～昭和22年）……16
新体制の歴代会長（昭和23年～現在）……17
富山県歯科医師会100年の沿革 ……18
写真で見る富山県歯科医師会の一世紀 ……20

通史 ……31
第１部　歯科医療の黎明期―大正２年 ……33
第２部　大正３年――昭和22年 ……39
第３部　昭和23年――昭和63年度 ……71
第４部　平成元年度―平成25年度 ……127

テーマ史 ……167
周年行事（創立記念行事）……168
「歯と口の健康週間」と各種表彰事業 ……176
近畿北陸地区歯科医学大会（近北学会）……194
富山歯科総合学院のあゆみ ……206
富山県歯科保健医療総合センターのあゆみ……218

郡市歯科医師会 ……231
一般社団法人 富山市歯科医師会 ……232
一般社団法人 高岡市歯科医師会 ……234
射水市歯科医師会 ……236
魚津市歯科医師会 ……237
氷見市歯科医師会 ……238
滑川市歯科医師会 ……239
黒部市歯科医師会 ……240
砺波市歯科医師会 ……241
小矢部市歯科医師会……242
南砺市歯科医師会 ……243
中新川郡歯科医師会……244
下新川郡歯科医師会……245

富山県歯科医師会の現況 ……247
富山県歯科医師会の概要 ……248
庶務会計部…249　医療管理部……250　学術部 ……251　社会保険部 ……252
福祉共済部…253　広報部 ……254　情報調査部……255　公衆衛生部 ……256
学校保健部…258　総合センター部 259　総合学院部……260　事務局 ……261
富山県歯科医師連盟 ……262　全国歯科医師国民健康保険組合富山県支部…263
富山県歯科医師協同組合 ……264

座談会・寄稿・温故知新 ……265
富山県歯科医師会創立100周年記念　歴代役員座談会
『これまでの100年、これからの100年。』……266
寄　稿　桜木　正昭先生 ….275　川口　義治先生….278　林　俊郎先生 ….280
温故知新　中島　忠一先生 ….282　熊木　甚朔先生….284　近藤　秀雄先生 ….286
芳尾　弘史先生 ….288　深山　正之先生….290　松島　正康先生 ….292
佐渡　永貞先生 ….294　米沢　真一先生….296　中島　清則先生 ….298
島田　栄吉先生 ….300　酒井　信義先生….302　小林　全二先生 ….304
大井ハツ子先生 ….306　魚津　竹男先生….308　吉田　茂先生 ….310
杉江　玄己先生 ….312　山口　清衣先生 …314

資料編 …… 317
現行定款 ……318
富山県歯と口腔(くう)の健康づくり推進条例 ……324
現役員一覧 ……326
一般社団法人富山県歯科医師会 歴代役員等名簿 ……327
郡市歯科医師会別会員数 ……372
入会者・退会者名簿……375
叙勲受章者・表彰受賞者 ……406
特別表彰受賞者 ……415
富山県歯科医師会会長表彰受賞者（功労会員）……420
富山県学校保健会表彰受賞者（学校保健功労）……423
富山県歯科医師会表彰歴 ……426
富山歯科総合学院講師一覧 ……427
一般社団法人富山県歯科医師会 在籍会員名簿 ……434
参考文献・資料一覧……438
創立100周年記念史編纂委員会・編集後記 ……440

一世紀録

富山県歯科医師会100年史

通史

第1部 歯科医療の黎明期―大正2年
第2部 大正3年――――昭和22年
第3部 昭和23年――――昭和63年度
第4部 平成元年度――――平成25年度

一世紀録

富山県歯科医師会100年史

第1部　歯科医療の黎明期―大正2年

歯科医療の黎明期・明治10年代（1860年～1886年）

西洋からの歯科医術の導入

①外国人歯科医師に直接師事した人々

・イーストレーキに師事―長谷川保兵衛、佐藤重、安藤二藏

・エリオットに師事―小幡英之助、佐治職

②留学して歯科医師になった人々

・高山紀齋―在米７年、明治11年帰国、銀座に開業。高山歯科医学院開設。門下生37人。

高山紀齋

・伊澤信平―在米４年、明治25年帰国､京橋南金六町に開業｡門下生56人。

・益田廣岱―在米６年、明治26年帰国、横浜市子安町に開業。

・一井正典―在米９年、明治27年帰国。

③口中医で西洋歯科医術を習得した人々

・伊澤道盛―明治８年試験に合格し銀座開業。

・渡邊良斎―平賀精次郎と「歯科学」を著す。

明治10年代の治療費

貼薬代15銭、抜歯代25～50銭、歯石除去代80銭、ゴム床総義歯代25～30円であった。その当時の家族５人の１カ月の生活費は４～５円であったから、いかに歯科治療が高価であり、一部の特権階級の人のみを対象に行われ、一般大衆には、ほど遠いものであった。

入歯歯抜口中治療医は8～10名

富山県統計表によれば、入歯歯抜口中治療医は明治16年に８名、17年は10名であった。明治の初期にはまだ、大道で居合術を演じて人を寄せ、目の前で歯を抜いて薬を売る者なども沢山あったので、口中治療医までもが“歯抜き”などと呼ばれて、普通の医者とは違った受け取り方をされた。そこで、政府は明治18年に取締規則を設けてこれを規制した。

日本歯科医師会の動き

万延元年（1860）	
一	アメリカ人歯科医イーストレーキ横浜来航、１カ月後離日
慶応２年（1866）	
一	伊澤道盛（26歳）口歯科開業
慶応３年（1867）	
一	アメリカ人歯科医ヘンリーウィン横浜で開業
明治元年（1868）	
一	イーストレーキ横浜に再来、開業
明治３年（1870）	
一	アメリカ人歯科医エリオット横浜開業（小幡英之助が入門）
明治４年（1871）	
一	ドイツ軍医ミューラー、ホフマン東大東校就任（独医学教育開始）
明治７年（1874）	
一	エリオット離日、上海開業
明治８年（1875）	
8.	医師試験（東京）開始、医籍設定
一	小幡英之助、医術開業試験合格
明治11年（1878）	
一	高山紀齋アメリカから帰国
明治14年（1881）	
一	○伊澤道盛が「固齢草」著述
一	○高山紀齋が「保歯新論」著述
一	医業開業試験規則　歯科試験科目きまる
明治17年（1884）	
1.	医籍　歯科医籍（青山千代次第１号）
明治18年（1885）	
3.	入歯歯抜口中療治営業者の布達

富山県内の動き

万延元年（1860）	
4. 18	朝廷、富山藩に北越出兵を命ずる（北越戦争）
明治２年（1869）	
6. 17	版籍奉還により富山藩主前田利同、藩知事となる
明治４年（1871）	
7. 14	廃藩置県により、富山県が設置される
11. 20	富山県を廃止、新川県が設置される
明治６年（1873）	
1. 一	初の戸口調査実施、新川県人口623,977人
明治９年（1876）	
4. 18	新川県が廃止され、石川県に編入となる
明治11年（1878）	
9. 28	明治天皇、越中国を巡幸される
明治12年（1879）	
一. 一	この年、コレラ大流行、死者16,000人
明治16年（1883）	
5. 9	富山県誕生（石川県から分県）、国重正文が初代県令に就任
明治18年（1885）	
5. 31	富山町で大火、官公庁建物477棟、民家5,925戸が焼失
明治19年（1886）	
一. 一	コレラ大流行、死者10,764人確定

世の中の動き

万延元年（1860）	
1. 3	鳥羽伏見の戦い
3. 14	五箇条の御誓文
9. 8	明治改元
明治２年（1869）	
6. 17	版籍奉還、知藩事を置く
明治３年（1870）	
9. 19	平民に苗字を許可
明治４年（1871）	
7. 14	廃藩置県　11月22日府県の廃合、総計３府72県
明治５年（1872）	
5. 7	新橋横浜間汽車開通
8. 3	学制を頒布
12. 1	徴兵令公布
明治７年（1874）	
1. 17	民撰議院設立建白書が提出される
明治９年（1876）	
3. 28	廃刀令出される
明治10年（1877）	
2. 15	西南の役
明治11年（1878）	
7. 22	郡区町村編成法･府県会規則･地方税規則の３新法制定
明治14年（1881）	
10. 12	国会開設の詔が出される
明治15年（1882）	
10. 10	日本銀行が開業する
明治18年（1885）	
12. 22	内閣制度創設

明治20年代（1887年～1896年）

現存する最古の広告（歯科青山堂）

明治22年６月22日高岡市片原町で歯科青山堂が移転開業。「洋法入歯齲歯充填其他口中歯科一切の治療を施す」とあるが、従来家。他に従来家として富山市殿町神林松太郎、富山市常盤町平井茂、同市西堤町徳間務、高岡市大井政之進、出町太田文作等がある。

移轉廣告
歯科青山堂

初の富山県籍歯科医師試験及第者

吉浦昌業（明治元年２月28日生まれの士族）は明治24年12月22日試験及第で159号。後に、北海道小樽区住初町にて開業。

外人の歯痛全治（明治28年１月）

尋常中学校の雇教師フォースタ氏（米国人）は先年横浜に於いて歯痛の際諸医師に就いて治療に就て治療を乞たれども全治せざりし歯が今度富山市西町の歯醫松井源水氏の治療にて全治したるよし。（「富山日報」１月22日）

高山歯科医学院に学んだ人

明治28年の生徒姓名の中に、富山県人３人。

・織田清治　・菅田良雄　・矢野太三郎

清水杢平氏の出張診療

金沢市開業の清水杢平氏は明治25年試験及第181号で、魚津や高岡で出張診療を行った。

人生40年

明治時代（24～31年）の全国の平均寿命は、男42.8歳、女44.3歳で、富山県民はさらに短命であった。 短命の理由としては、

①乳幼児の死亡率が甚だ高かった。明治33年の乳児死亡率は、出生1000に対して234。

②結核患者、特に肺結核患者が多かった。

③医学が未発達で、死ぬ人が甚だ多かった。

④医師・病院の不足。医師一人当り1,300人。

⑤庶民は貧困で、医師にかかれなかった。

⑥伝染病が大流行して、多くの死者を出した。

日本歯科医師会の動き

明治20年（1887）	
7.	歯科交詢会創立
明治21年（1888）	
一	歯科談話会創立。歯科矯和会創立
	○東京歯科専門医学校設立（石橋泉）
	○文部省直轄学校で活力検査（身体検査）
明治22年（1889）	
	○第１回国際歯科コングレス開催（パリ）
明治23年（1890）	
一	高山歯科医学院創立
	○青山松次郎「歯科矯正学」著述（最初の歯科矯正学の書）
明治24年（1891）	
	○山口県、刀菊歯科講習所設立
	○三重県、４小学校の歯科検診実施
明治26年（1893）	
5.	歯科医大懇親会開催
6.	歯科医会設立
	○高山紀齋「歯科器械学」著述（最初の歯科補綴学の書）
	○第２回国際歯科コングレス開催（シカゴ、高山紀齋講演）
明治27年（1894）	
	○愛知歯科医学校、仙台歯科医学校、大阪歯科医学校の３校設立
明治28年（1895）	
	○高山歯科医学院第１回卒業式
明治29年（1896）	
一	日本歯科医会に改組

富山県内の動き

明治22年（1889）	
4. 1	市制、町村制実施、２市31町238村
明治23年（1890）	
6. 1	第一回貴族院多額納税議員選挙、馬場道久当選
明治24年（1891）	
12. 一	内務省土木技師ヨハネス･デレーケの計画により、常願寺川の第１次改修工事に着手する
明治26年（1893）	
4. 1	高岡紡績株式会社が設立される
明治27年（1894）	
2. 1	売薬業者ら、共立富山薬学校を富山市梅沢町に開校する
明治29年（1896）	
4. 1	県下、４郡を新設し８郡となる

世の中の動き

明治20年（1887）	
12. 26	保安条例公布
明治21年（1888）	
4. 25	市制・町村制公布
明治22年（1889）	
2. 11	大日本帝国憲法発布
明治23年（1890）	
11. 29	第１回帝国議会開く
明治24年（1891）	
5. 11	大津事件起こる　９月１日上野ー青森間が全線開通する
明治25年（1892）	
2. 一	衆議院選挙総選挙で選挙大干渉行われる
明治26年（1893）	
9. 19	富岡製糸場を三井組へ払い下げる
明治27-28年（1894-95）	
8. 1	日清戦争
明治28年（1895）	
4. 17	下関条約
4. 23	三国干渉
明治29年（1896）	
4. 6	第１回近代オリンピック、アテネで開催される

明治30年代（1897年～1906年）

明治30年代前半に開業した人

試験及第者で富山県内で開業した人は、明治32年４月の吉田幸夫氏、同じく32年の永野一彦氏、33年８月の島川安次郎氏、34年５月の菅田良雄氏である。

吉田幸夫氏は、熊本県の士族で、婦負郡長吉田安喜氏令息。熊本より移住。歯科医籍385号。６～７年後に県外へ。

永野一彦氏は、吉田氏と同じ熊本県の士族の出身で高岡市三番町に開業した（458号）。

島川安次郎氏は、上新川郡大庄村の出身で、東京歯科醫学院を卒業して、高山紀齋氏の治療所に主任医として従事し経験を積み、富山市覺中町６番地に開業（474号）。

菅田良雄氏は、東京歯科醫学校並びに高山歯科醫学院を卒業し、益田廣岱氏の病院に醫員を奉職し専ら実務に従事した後、富山市殿町に開業（544号）。菅田博子先生の祖父。

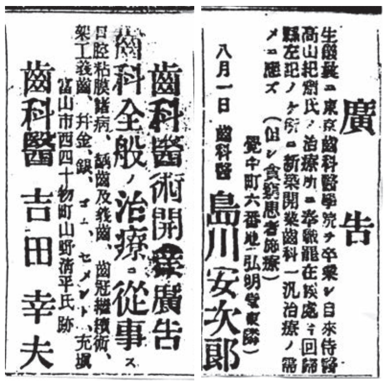
明治35年5月17日　富山縣歯科醫同盟会の結成（「富山日報」広告）

従来我国に野師（入歯細工）なるものあり、醫にあらずして種々の名義を仮装し、無責任にして患者を施術す、其危険実に恐る可きものあり仍て茲に歯科醫同盟会を起し、本縣歯科醫の姓名を広告し患者諸君の弁別に供す。

富山市総曲輪　吉田幸夫
高岡市片原町　永野一彦
富山市覺中町　島川安次郎
富山市泉町　　菅田良雄

明治37年　大日本歯科醫會地方部富山部設立

会員３名（永野一彦　島川安次郎　菅田良雄）。大日本歯科醫會規則（明治36年11月27日）第五條には「一府縣乃至數府縣ノ會員ハ互ニ團結シテ地方部ヲ設ケ本會ノ規則ニ基キ細則ヲ議定シ便宜役員ヲ選舉シ本會々長ニ通告スベシ」とある。


廣告
生儀曾ニ東京歯科醫學院ヲ卒業シ自來侍醫高山紀齋氏ノ治療所ニ奉職罷在候處今回歸縣左記ノ場所ニ新築開業歯科一汎治療ノ需メニ應ズ
（但シ貧窮患者施療）
覺中町六番地（弘明堂東隣）
八月一日　歯科醫　島川安次郎

歯科醫術開業廣告
歯科全般ノ治療ニ從事ス
口腔粘膜諸病、齲歯及義歯、歯冠繼續術、架工義歯、并金、銀、ゴム、セメント、充塡
富山市西四十物町山野淸平氏跡
歯科醫　吉田幸夫

日本歯科医師会の動き

明治31年（1898）	
一.	長交会創立
	○公立学校に学校医配置
	○歯槽膿漏症療法紹介、導入
明治32年（1899）	
一.	関西歯科医懇親会開催
	○神戸、関西歯科講習所設立
明治33年（1900）	
	○東京歯科医学院設立
	○第３回国際歯科コングレス開催（パリ）
明治36年（1903）	
3.	日本歯科医師大会開催（大阪）
11.	大日本歯科医会設立（会長 高山紀齋）
	○東大医学部病院歯科外来設立
明治37年（1904）	
10.	大日本歯科医会の歯科医師法案
10.	陸海軍に歯科医師嘱託
	○第４回国際歯科コングレス開催（セントルイス、高山紀齋参加）
明治38年（1905）	
	○京都歯科医学校、岡山歯科医学校設立
明治39年（1906）	
3.	歯科医師法成立
4.	大日本歯科医会総会（出席者54名）
9.	医師開業試験規則改正の建議
	○第２回聯合医学会に歯科16分科会参加

富山県内の動き

明治31年（1898）	
1. 2	中越鉄道、高岡－城端間が全線開通する
明治32年（1899）	
3. 7	富山電燈株式会社、大久保発電所の運転を開始する
明治33年（1900）	
6. 2	富山市、午砲（ドン）を開始する
明治36年（1903）	
11. 1	２代目梅ヶ谷藤太郎、東京大相撲の20代横綱となる
明治37年（1904）	
5. 9	日露戦争のため、第九師団に派遣の命令が下る
明治39年（1906）	
5. 一	氷見郡熊無村などでクル病及び骨軟化症患者多数発見され、内務省が調査に着手する

世の中の動き

明治30年（1897）	
10. 1	金本位制が成立する
明治31年（1898）	
6. 30	隈板内閣成立（最初の政党内閣）
明治32年（1899）	
4. 30	魚津町出身の横山源之助、「日本之下層社会」を発刊する
明治33年（1900）	
3. 10	治安警察法公布
明治35年（1902）	
1. 30	日英同盟成立
明治37年（1904）	
2. 10	日露戦争
明治38年（1905）	
9. 5	ポーツマス条約
明治39年（1906）	
3. 31	鉄道国有法公布

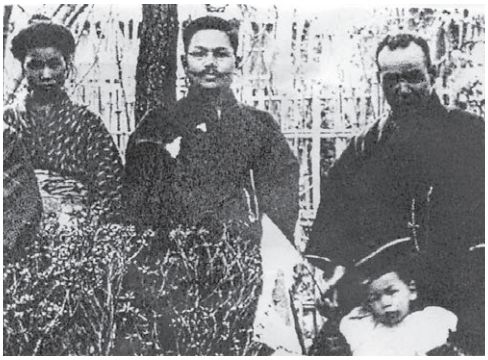
明治40年代（1907年～1912年）

歯科医は菅田

吉田氏の開業した32年頃は歯科医なるものは一般の開業医とは肩を並ぶることができず、まったく度外視せられ、あたかも香具師のような観をもってせられ、菅田や島川が開業した時も同様であったが、菅田は若いに似合わず、大いに奮励してドシドシ斯業の改良発達に志し、舶来の機械は惜し気なく買い込み、普通一般の医者に劣らない設備をなすと共に、総曲輪から現今すなわち殿町の共立病院の跡を買い受けて、総て手広く、そして五六名の助手をも雇い入れて盛んにやり出した結果、今日では菅田なるもの声明は盛んなものである。開業当時、一日に患者十人ばかりであったのが、今日は朝から晩まで客の絶え間なく、取扱い方も病院式に一々番号札を渡して順々に治療している有様。技術の巧妙なる点はいうもさらなり。覗いて見るが証拠である。

金歯の流行は実に凄まじい勢いである。貴顯紳士を始め芸娼妓に至るまで猫も杓子もという有様。こう余計に金歯が出来ては安っぽくなるわけだ。（中略）開業当時、総義歯（和製）は七八円くらいのものであったが、今日では舶来もので四五十円のものでもドンドンかまわずお客さんの方で希望するようになった。菅田が開業した当時（34年）は黒歯（おはぐろ染）はずいぶん多かったが、今日は非常に少くなった。

（北陸タイムス 明治43年11月20日）



写真中央が菅田良雄先生。写真右が父重雄氏（医師）。子どもは菅田晴山先生

明治44年12月　歯科口腔外科坂井医院開業

日本歯科医師会の動き

明治40年（1907）	
4. 一	大日本歯科医会改組
4. 7	日本聯合歯科医会設立
	○東京歯科医学専門学校設立
	○共立歯科医学校設立
明治42年（1909）	
4. 14	日本聯合歯科医会第１回総会
	○日本歯科医学専門学校設立
	○東京女子歯科医学講習所設立
	○第５回国際歯科コングレス開催（ベルリン）
明治43年（1910）	
3. 9	文部大臣に陳情（歯科医師試験の改正）
	○下顎伝達麻酔（ブロック麻酔）紹介
明治44年（1911）	
4. 8	第２回総会
5. 3	医制調委員会設置
	長崎で口腔衛生展覧会
	○大阪歯科医学校設立
	○恩賜財団済生会設立
明治45年（1912）	
1. 25	歯科技術師設置の請願
2. 27	非歯科医師取締強化の請願
4. 22	第３回臨時総会

富山県内の動き

明治40年（1907）	
10. 26	婦負郡東呉羽村に歩兵第69連帯が設置される
明治41年（1908）	
11. 15	富直線、富山ー魚津間が開通する
明治42年（1909）	
2. 19	県立砺波中学校が設置される
明治43年（1910）	
5. 4	県人３家族10人が、ブラジルサンパウロ州に入植するため出航
明治44年（1911）	
5. 6	太刀山峯右衛門、東京大相撲の22代横綱となる
明治45年（1912）	
6. 21	米価騰貴のため中新川郡東水橋・上新川郡東岩瀬の町民、役場などへ救助を嘆願する。以後、米騒動が県内に拡大する

世の中の動き

明治40年（1907）	
3. 21	小学校令が改正される（義務教育６年制）
明治41年（1908）	
4. 28	第１回ブラジル移民が出発
明治42年（1909）	
10. 26	伊藤博文、ハルビンで暗殺される
明治43年（1910）	
5. 25	大逆事件（翌年、幸徳秋水ら死刑）
8. 22	韓国併合
明治44年（1911）	
2. 21	関税自主権回復
明治45年（1912）	
1. 1	中華民国成立
7. 30	明治天皇崩御

大正元年・2年（1912年～1913年）

歯科醫師法第１條

歯科醫師法第１條により、文部大臣より指定された明治45年以後の歯科醫學専門學校の卒業生は無試験開業の資格を与えられることとなった。

歯科醫師法（明治39年５月１日）

第１條　歯科醫師タラムトスル者ハ下ノ資格ヲ有シ内務大臣ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス

一、文部大臣ノ指定シタル歯科醫學校ヲ卒業シタル者

二、歯科醫師試験ニ合格シタル者

三、外國歯科醫學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ歯科醫師免許ヲ得タル者ニシテ命令ノ規定ニ該當スル者

下は地元紙に掲載された生徒募集の広告。

附番校專醫歯両

東京の方

横綱　血脇守之助
大關　奥村鶴吉
關脇　花澤鼎
小結　川上爲次郎
前頭　富安晋
同　牧謙治

蒙御免

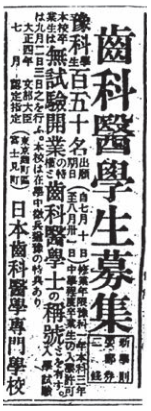
行司
歯科學報社
歯界時報社
歯の
歯科醫報社
歯科新報社

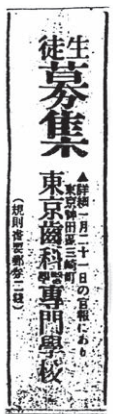
寄年
高山紀齋
一井正典
石原
西村輔
伊澤信平

勸進元
中京歯科評論社

日本の方

横綱　中原市五郎
大關　鈴木俊三
關脇　高島多米治
小結　加藤清治
前頭　高橋直太郎
同　木谷茂吉


歯科醫學生募集
豫科學生百五十名
無試驗開業の特權ご
歯科醫學士の稱號
日本歯科醫學專門學校


生徒募集
東京歯科醫學專門學校

大正年間の日本歯科医学専門学校卒業生

第１回（大正元年）阿部孫太郎
第２回（大正２年）和記見津吉
第３回（大正３年）高井勇三　村井信義
　　仲村音義　鷹島慶二　志村金太郎
第４回（大正４年）清水清通
第５回（大正５年）小林金次
第６回（大正６年）大道憲治　浅岡典常
第７回（大正７年）早見治顕　谷口仙太郎
第８回（大正８年）牧野　昶　本田虎吉
第９回（大正９年）堀井勝三　吉江政保
第11回（大正11年）松田外司　渡邊六郎
第12回（大正12年）今村彦治　金子勝男
　　上田　馨　三崎政男
第13回（大正13年）島田余三男
第14回（大正14年）長谷川徳光

大正年間の東京歯科医学専門学校卒業生

第５回（大正元年）藤井義人　多田正隆
第７回（大正３年）室橋余所雄
第８回（大正４年）片桐正義　高橋愛二
第10回（大正６年）城生越義
第11回（大正７年）宮島忠治
第12回（大正８年）中保仁久
第13回（大正９年）浦上則政　赤祖父元吉郎
　　宮本俊治　渡邊初太郎
第14回（大正10年）岡本　弘
第16回（大正12年）諸澤　繁
第18回（大正14年）和田義孝　関口雄三

（阿部孫太郎氏は阿部弘一先生の祖父。孫太郎氏の父欣二氏は元富山県議会議員）

日本歯科医師会の動き

大正元年（1912）	
12. 一	中学校向け小冊子“歯の衛生”発行 ○指定歯科医学専門学校の卒業生、歯科界に参入 ○国際歯科連盟（ＦＤＩ）大会（ストックホルム、嶋峰徹講演）
大正２年（1913）	
3. 一	小林富次郎からの寄付金3,000円
4. 8	第４回総会 ○広島女子歯科医学校設立

富山県内の動き

大正２年（1913）	
4. 1	北陸本線、米原～直江津間が全線開通する

世の中の動き

大正２年（1913）	
2. 11	桂内閣が総辞職（大正政変）

一世紀録

富山県歯科医師会100年史

第2部　大正3年―昭和22年

大正3年・4年（1914年～1915年）

富山県歯科医師会設立

■会員数　10名（大正3年5月3日現在）

大正3年5月3日　富山県歯科医師会　設立総会

会員10名（１名県外者名義借り）

大正3年7月3日　富山県歯科医師会　設立許可

第1代会長・島川安次郎―富山市覺中町６番地
死亡年不明（大正５年頃）上新川郡大庄村出身　東京歯科醫学院卒業　試験474号

副 会 長・永野　一彦―熊本縣士族　高岡市三番町　明治６年生まれ　試験458号

幹　　事・多田　正隆―富山市衣服町→下新川郡魚津町　東歯卒1509号

・菅田　良雄―富山市殿町　高山歯科醫学院卒業　試験544号 大正７年没

評 議 員・藤井　義人―富山市総曲輪　明治19年生まれ 東歯卒 1528号

・殿城金次郎―富山市袋町　試験1659号　大正８年没

・阿部孫太郎―下新川郡泊町 明治19年生まれ　日歯卒1493号

・柳澤　耕作―下新川郡小摺戸村
明治20年生まれ　試験（醫兼）

・野中　寛治―詳細不明

・（清水　杢平―金沢市梅本町　試験181号　初代石川市歯会長）

中原市五郎氏の祝辞

歯科醫學の進歩は近年に至りて特に長足の進歩を為し、斯學に關する攻究が一面益々學術的たると同時に一面益々社会的たらんとするの傾向あるは、吾人歯科に関係するもの、、寔に欣喜に堪へざる所なり。（中略）

比の時に當りて富山縣の同業者によって、富山歯科醫師會の設立を見るに居りたるは眞に時機の宜しきを得たるものと云う可し。云うに富山縣歯科醫師會が其の標榜して立つ所の起作與を念とし、當業者の発展を期するにあるは余の贅言を俟たざる所むるべし。夫れ然り。而して此の目的を成就せんとせば先づ第一に歯科當業者の人格を修養せずんばあらず。古語に曰く本立って道生ずと。須らく根本に培って以て斯學の枝葉を繁茂せしめざる可からず。賢明なる富山縣歯科醫師會の諸君は夙に眼を茲に注ぎづ、あるべし。今や會は成立せられたり希くは諸君の努力に依りて斯會の正善なる発達を遂げられんことを。茲に遥に富山縣知己諸君の健康を祝し、富山歯科醫師會の前途を祝するの意を致す。

大正三年七月二十五日

日本歯科醫學専門學校校長

中原市五郎

中原市五郎

日本歯科医師会の動き

大正３年（1914）	
4.　2	第５回臨時総会
4.　4	内務、文部大臣へ陳情
12. 19	議会に歯科医師法改正案提案
12. 26	解散により審議未了 ○九州歯科医学校設立
大正４年（1915）	
2. 20	第６回総会
7. 一	向井喜男を講演班員として嘱託 ○下顎の伝達麻酔（ブロック麻酔）導入 ○第６回国際歯科コングレス開催（ロンドン）

富山県歯科医師会の動き

大正３年（1914）	
5.　3	富山県歯科医師会設立総会
7. 26	富山県歯科医師会発会式（富山県県会議事堂）

富山県内の動き

大正３年（1914）	
6.　4	島村抱月・松木須磨子らの芸術座、富山市の福助座で「復活」を公演
大正４年（1915）	
7.　1	浜田恆之助知事、富山県産業奨励方針を策定

世の中の動き

大正３年（1914）	
1. 23	シーメンス事件
8. 23	ドイツに宣戦布告
大正４年（1915）	
1. 18	中国へ21カ条の要求を迫る
11. 10	大正天皇即位の大礼

大正5年・6年（1916年～1917年）

■会員数　16名（大正5年4月2日現在）

大正5年4月2日　定時総会を富山ホテルに於て開会、会長に阿部孫太郎氏を選出

会員16名中出席者13名にて県当局よりは斎藤警察部長並びに佐野警視出席せられ、歯医会則及衛生思想鼓吹方法等に関する意見の交換議事ありて役員改選の結果会長阿部孫太郎氏、副会長藤井義人氏、理事高井勇三氏。当選就任の辞ありて宴に移り歓談舞楽深更に及べる由。

（歯科新報９（４））

（出席者:永野、鷹島、高井、佐藤、室橋、藤井、菅田、殿城、村井、志村、清水、阿部、武井）

大正5年の全国歯科医師名鑑（富山県18名）

富山市（８名）―藤井義人（総曲輪町）、室橋余所雄（覺中町）、佐藤武男（中野新町）、村井信義（石倉町）、清水清通（東堤町）、志村金太郎（中野町）、殿城金次郎（袋町）、菅田良雄（殿町）　**高岡市**（５名）―武井芳茂（新横町）、鷹島慶二（坂下町）、仲村音義（坂下町）、永野一彦（三番町）、四竈文太郎（三番町）　**郡部**（５名）―高井勇三（氷見町）、多田正隆（魚津町）、柳澤耕作（小摺戸村）、阿部孫太郎（泊町）飯淵善男（出町）

日本歯科醫學専門學校校友會富山縣支部発会

大正６年５月27日富山市に於て発会式を挙式。役員は支部會長阿部孫太郎氏、幹事小林金次氏、小暮英作氏、村井信義氏の４氏選任。

歯科医術開業試験

明治16年に医術開業試験規則が制定され、翌年歯科医籍が作られた。歯科医術開業試験は２年以上修学せし者に非ざればこれを受けることができなかったが、及第者は明治37年以後10％以下と非常に低かった。

試験及第者のうち東京歯科医学校卒業者

（大正４年）神島俊一郎（登録者番号2494号）
（大正５年）渡邊庄治（3423号）
（大正６年）山本莊太郎（4535号）
（大正７年）石崎憲吾（4521号）
（大正９年）宮野龍吉（5784号）
（大正10年）北見重吉（6813号）
　　松能喜久次（7364号）
（大正11年）川岸要助（8446号）
（大正12年）原田　進（9669号）
（大正13年）野村貞蔵（10000号）

試験及第者のうち東洋歯科医学校卒業者

（大正６年）池田朝次郎（3720号）
（大正10年）浦野與四郎（7280号）
（大正12年）坪田忠一（9349号）

試験及第者のうち大阪歯科医学校卒業者

（大正10年）大島秋知（6388号）

試験及第者のうち日本歯科医学校卒業者

（大正９年）山下敬松（5512号）

日本歯科医師会の動き

大正５年（1916）	
1. 19	歯科医師法改正実行委員会
1. 25	歯科医師法改正案議会上提
2. 27	歯科医師法改正案議会通過
4. 10	第７回総会・歯科独立10年記念祝賀会
	○東洋歯科医学校設立
大正６年（1917）	
4.　7	第８回総会
	小学校向絵本“歯の養生”発行
9. 18	大蔵大臣、内務大臣に陳情
9. 22	正金銀行と契約
	○大阪歯科医学専門学校設立

富山県歯科医師会の動き

大正５年（1916）	
4.　2	定時総会（富山ホテル）
大正６年（1917）	
5. 27	日本歯科醫學専門學校校友會富山縣支部発会式

富山県内の動き

大正５年（1916）	
9. 11	下新川郡境村でコレラ発生、県内に大流行、死者264人
大正６年（1917）	
	この頃から県内に工場の建設が盛んになる

世の中の動き

大正５年（1916）	
1.　一	吉野作造、民本主義を唱導
10. 10	憲政会が結成される
大正６年（1917）	
11.　2	石井・ランシング協定
11.　7	ロシア革命

入会者

大正５年	小林　金次	渡邊　　實
	片桐　正義	
大正６年	佐渡喜一郎	中島　清作
	渡邊　庄治	

大正7年・8年・9年（1918年～1920年）

大正8年3月23日　定時総会を開催

諸般の報告議事を終わり役員改選

会　長　鷹島　慶二（日歯卒　2163号）

副会長　室橋余所雄（東歯卒　2258号）

富山県歯科医師會々則変更

歯科医師会令発布と共に敏腕なる鷹島会長は直ちに前會則の変更に着手し６月24日付けにて新歯科医師會令の認可を受けた。 新歯科医師會令による会則変更は富山県をもって嚆矢とす。（歯科新報13（７））

歯科医師会規則（大正9年4月1日）

第一條　本令ニ於テ歯科醫師會ト稱スルハ道府縣歯科醫師會又は郡市區歯科醫師會ヲ謂フ

第四條　歯科醫師會ヲ設立セムトスルトキハ會員ト為ルヘキ者十人以上設立委員ト為リ會則案ヲ定メ設立總會ノ議決ヲ経ヘシ

血脇・奥村両先生北陸巡遊で来富

大正８年８月３日、魚津駅まで出迎えた鷹島慶二、藤井義人、室橋余所雄、神島長次、渡邊庄治の５氏に導かれ正午すぎ、富山駅に血脇・奥村両先生が到着し、「富山ホテル」に赴く。

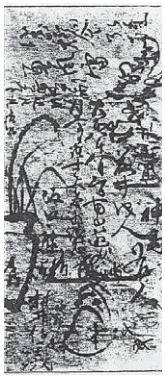
午後３時、車を連ねて売薬の製造所である廣貫堂を見学の後、呉羽山山頂に登る。

午後７時からの宴会では、血脇校長が「富山県下会員相互の融和親密は他県の範に足る」と述べ、10時まで皆大いに盛り上がる。

先導５氏以外の出席者は清水清通、佐渡喜一郎、宮島忠治、浅岡典常、村井信義、小林金次、谷口仙太郎、永野一彦、清水杢平、高垣茂（和歌山県籍）、坂口康雄（群馬県籍東卒4719号）。

血脇守之助

奥村鶴吉


富山の同窓寄書

公休日の決定（大正9年6月）

毎月１日・15日を公休日と決定す。

日本歯科医師会の動き

大正７年（1918）	
4. 1	日本聯合歯科医会第９回総会（会則改正・名称変更）
4. 25	外国歯科医学校卒業者の資格についての上申（内務大臣）
5. 25	榎本会長辞任
6. 24	歯科医師試験についての上申（文部大臣）
7. 一	金払下げについての交渉 ○電気エンジン国産開始 ○明華女子歯科医学校設立
大正８年（1919）	
4. 14	日本聯合歯科医師会第１回総会
5. 9	口腔衛生調査会発足
6. 9	医師で歯科医業を行うものを歯科医師会に加入することについて意見書（内務大臣）
10. 5	歯科医師会令についての意見書（内務大臣） ○蒸和ゴム国産開始
大正９年（1920）	
4. 1	歯科医師会規則公布（内務省）
4. 11	第２回総会
6. 一	歯科医師会規則改正に伴う注意事項通知（日聯歯）
11. 5	ムシ歯デーに協力 ［歯牙及口腔検査の方法及統計について］（口腔衛生調査会） ○慶應義塾大学医学部歯科学講座開設 ○東洋歯科医学専門学校設立

富山県歯科医師会の動き

大正８年（1919）	
3. 23	定時総会
8. 3	血脇･奥村両先生来富
大正９年（1920）	
6. 一	公休日（毎月１・15日）決定

富山県内の動き

大正７年（1918）	
7. 23	魚津町の婦女ら60人を中心に米騒動がおこり、全国に波及する
大正８年（1919）	
9. 10	浅野総一郎、庄川水力電気株式会社を設立
大正９年（1920）	
10. 1	第１回国勢調査、県人口72万4,276人

世の中の動き

大正７年（1918）	
8. 2	シベリア出兵
8. 一	米騒動、全国で延べ70万人参加
大正８年（1919）	
5. 4	5・4運動起こる
6. 28	ベルサイユ条約調印
大正９年（1920）	
1. 10	国際連盟成立
5. 2	上野公園で日本最初のメーデー

入会者

大正７年	大道　憲治	浅岡　典常
	城生越　義	
大正８年	早見　治顕	山本荘太郎
大正９年	大島　秋知	山下　長藏
	堀井　勝三	清水　清通
	牧野　昶	石崎　憲吾

物故者

大正７年	菅田　良雄
大正８年	殿城金次郎

大正10年・11年・12年（1921年～1923年）

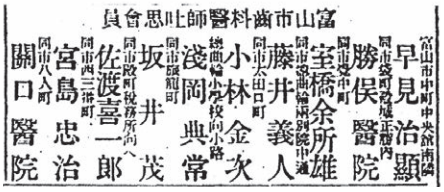
■会員数　51名（大正11年2月28日現在）

富山市歯科医師会発会式（大正10年8月4日）

富山市会議事堂に於いて、午後１時から総会並びに市歯科医師会発会式を開く。当日出席者（13名）―村井信義、小林金次、早見治顕、宮島忠治、谷口仙太郎、浅岡典常、根本茂豊、中村喜三郎、佐渡喜一郎、中島清作、宮本俊治、室橋余所雄、山下長藏。

総会（小林金次座長）では、会則（第１～62条）を諮り、異議なく可決する。午後４時終了。引き続き、発会式を挙行する。役員５名を選任。会長に藤井義人、副会長に小林金次、理事に室橋余所雄、村井信義、早見治顕。

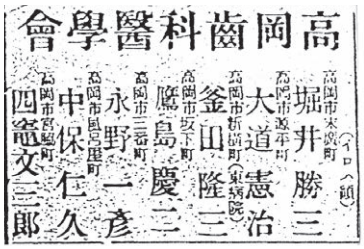
同日午後６時から、桜木町奥田屋に於いて、



宴会を開く。翌年３月23日、県当局より認可証下り正式に設立さる。

高岡歯科医学会の結成

堀井勝三（末廣町）、大道憲治（源平町）、鷹島慶二（坂下町）、永野一彦（三番町）、中保仁久（風呂屋町）、四竈文三郎（宮脇町）、釜田隆三（新横町、東病院）の７名がメンバー。



定時総会（大正11年2月28日）

役員改選　　会員数　51名

会長　阿部孫太郎　副会長　村井 信義

日本聯合歯科医師会代議員　仲村 音義

日本聯合歯科医師会則改正（大正12年4月）

第一條　本會ハ日本聯合歯科醫師會ト稱ス

第二條　本會ハ歯科醫師ノ權利ヲ擁護シ歯科醫事衛生ノ改善發達ヲ図ルヲ目的トス

（第二條の次に下の一條を挿入し第三條とす）

第三條　本會ノ目的ヲ達センガ為メ歯科醫制調査會、口腔衛生調査會及宣傳部ヲ置ク

日本歯科医師会の動き

大正10年（1921）	
4. 21	第３回総会
5. 26	歯科医師を学校医にする建議
5. 26	小学校、師範学校の教科書に口腔衛生の教材を入れる建議
6. 8	陸海軍に歯科軍医制度をおく建議（陸・海軍大臣）
6. 8	各工場に歯科医師をおくように建議（農商務大臣）
6. 8	監獄歯科医をおく建議（司法大臣）
6. 20	歯科医制調査会発足
	○九州歯科医学専門学校設立
	○明華女子歯科医学専門学校設立
大正11年（1922）	
1. 11	血脇会長欧米に出張
2. 一	所得税賦課率について上申
4. 2	第４回総会
4. 23	健康保険法公布
7. 17	全米歯科医大会に血脇会長臨席
8. 15	血脇会長帰国
	○日本大学専門部歯科設立
	○東京女子歯科医学専門学校設立
	○日本女子歯科医学専門学校設立
大正12年（1923）	
4. 10	第５回総会
8. 一	歯科医師法改正運動
8. 一	第１回歯科医勢調査
9. 1	健康保険法についての意見書
9. 1	関東大震災

富山県歯科医師会の動き

大正10年（1921）	
8. 4	富山市歯科医師会発会式
大正11年（1922）	
2. 28	定時総会

富山県内の動き

大正10年（1921）	
2. 20	第１回県スキー競技会が呉羽山で開催
大正11年（1922）	
7. 一	富山市職業紹介所、富山市山王町に開設
大正12年（1923）	
10. 12	７年制の県立富山高等学校の設立を認可

世の中の動き

大正10年（1921）	
11. 12	ワシントン会議
大正11年（1922）	
2. 6	ワシントン海軍制限条約（日英同盟廃棄）
大正12年（1923）	
9. 1	関東大震災

入会者

大正10年	宮本　俊治	
大正11年	松能喜久次	杉江　玄照
	浦野與四郎	柚木　薫
	片之坂藤儀	
大正12年	今村　彦治	坪田　忠一
	三崎　政男	倉田敬二郎

大正13年・14年（1924年～1925年）

■会員数　67名（大正14年2月1日現在）

大正13年2月1日　定時総会（村井樓）

出席者40名

議案（1）豫算　（2）歯科学校醫設置を文部大臣並に縣當局へ建議の件　（3）口腔衛生普及に関する件　（4）聯合歯科醫師会賦課金並びに代議員派遣の件　（5）非歯科醫取締に関する件

役員改選

会　長　村井信義（日歯卒　2201号）
副会長　清水清通（日歯卒　2951号）
幹　事　早見治顕　中保仁久　宮島忠治
　　浅岡典常
評議員　藤井義人　鷹島慶二
　　阿部孫太郎　小林金次　湯浅　環
特別醫制調査委員
　　山下長藏　中島清作　和記見津吉
　　神島長次　中保仁久

大正14年2月1日　定時総会（桜木町奥田屋）

役員改選

会　長　湯浅　環（大阪市出身　583号
　　昭和８年より出町議員）
副会長　中保仁久（東歯卒　5399号）
幹　事　川岸吉之助　四竈文三郎
　　神島長次　中島清作
評議員　藤井義人　小林金次　阿部孫太郎
　　村井信義　鷹島慶二　早見治顕
　　宮島忠治　南川　信
特別醫制調査委員
　　倉田敬二郎　山下敬松
　　浦野與四郎　杉江一明

大正14年歯科医師名簿（富山県59名）

富山市（19名）：藤井義人、坂井茂、村井信義、志村金太郎、小林金次、浅岡典常、宮島忠治、山下長藏、羽柴作蔵、早見治顕、宮本俊治、中島清作、和記見津吉、赤祖父元吉郎、山上昇一、大島秋知、杉江一明、今村彦治、小島平馬

高岡市（11名）：永野一彦、鷹島慶二、四竈文三郎、大道憲治、中保仁久、川岸吉之助、堀井勝三、北見重吉、浦野與四郎、川岸要助、林　浩

下新川郡（４名）：阿部孫太郎、柳澤耕作、渡邊庄治、柚木薫　**中新川郡**（５名）：山本荘太郎、高橋愛二、牧野昶、片桐正義、岡本弘

上新川郡（２名）：松能喜久次、坪田忠一

東礪波郡（６名）：仲村音義、宮野龍吉、湯浅環、渡邊初太郎、松田外司、野村貞蔵　**西礪波郡**（４名）：多田實、石崎憲吾、諸澤繁、神島長次

氷見郡（３名）：高井勇三、南川信、倉田敬二郎

射水郡（４名）：清水清通、和田義孝、山下敬松、首藤親造　**婦負郡**（１名）：城生越義

日本歯科医師会の動き

大正13年（1924）
4. 27　第６回総会
4. 27　A・D・Aへ排日移民法についてのアピール
8. 13　小学校歯科衛生施設についての建議（文部大臣）
8. 一　第２回歯科医勢調査（10,204人）
9. 6　陸海軍歯科軍医制についての建議（陸海軍大臣）
　　○日本歯科医学会を大日本歯科医学会と改名

大正14年（1925）
4. 11　第７回総会（米国バンクロフト大使臨席講演）
4. 14　歯科医師法改正
5. 10　学校医令改正の建議（文部大臣）
6. 4　歯科医師法改正に伴う命令についての希望上申（内務大臣）

富山県歯科医師会の動き

大正13年（1924）
2. 1　定時総会（村井樓）

大正14年（1925）
2. 1　定時総会（桜木町奥田屋）

富山県内の動き

大正13年（1924）
6. 10　馬場はる、ヘルン文庫を富山高等学校へ寄贈

大正14年（1925）
5. 3　富山市に歩兵第35連帯が設置

世の中の動き

大正13年（1924）
1. 10　第２次護憲運動起こる

大正14年（1925）
4. 22　治安維持法
5. 5　普通選挙法公布

入会者

大正13年　浦上　則政　　宮岡宇平次
　　蓮本庄太郎
大正14年　関口　雄三　　長谷川徳光
　　上田　　馨

大正15年・昭和元年（1926年）

■会員数　72名（大正15年8月11日現在）

大正15年3月1日　定時総会（桜木町奥田屋）

役員改選

会　長　宮島忠治（東歯卒　4147号）

副会長　清水清通（日歯卒　2951号）

幹　事　中保仁久　中島清作　山下長藏
川岸吉之助

評議員　藤井義人　四竈文三郎
小林金次　阿部孫太郎　村井信義
鷹島慶二　城生越義　湯浅　環
早見治顕　和記見津吉

醫制調査委員　倉田敬二郎　坪田忠一
浦野與四郎　渡邊庄治
関口雄三

日本聯合歯科医師会の解散

大正14年4月12日の歯科医師法第3次改正の第8条第2項には、道府県歯科医師会により日本歯科医師会を設立する旨の規定がある。そこで、今まで任意団体であった日本聯合歯科医師会は解散して、新しい日本歯科医師会が設立されることになった。

大正15年8月11日　富山県歯科医師会設立総会

午前10時　歯科医師会令により設立総会（富山県議事堂）

会員72名中出席者23名、委任状30通、計53名

午後0時30分　解散総会

出席者は委任状を含め53名

午後2時　第1回総会

役員改選

会　長　宮島忠治

副会長　清水清通

理　事　中保仁久　中島清作　山下長藏
川岸吉之助　宮本俊治

会費　年額　10円

午後5時30分　発会式（富山ホテル）

日本歯科医師会の設立

歯科医師会令では、道府県歯科医師会の強制的な設立期限は、大正15年9月20日となっていた。そこで一番設立の遅い宮崎県歯科医師会の発足（9月20日）を待って、日本歯科医師会設立委員10名が選出された。

11月3日に東京有楽町の帝国鉄道会館で設立総会が開催され、設立認可申請書を翌日、内務大臣に提出し、11月10日に設立が認可された。初代会長には血脇守之助氏が選ばれた。

日本歯科医師会の動き

大正15年（1926）	
3. 17	歯科医師会令公布
4. 4	第8回総会
4. 23	台湾人の歯科医学専門学校特殊入学制度撤廃の上申（台湾総督）
5. 10	健康保険法についての上申（社会局長官）
11. 3	日本歯科医師会設立総会
11. 10	日本聯合歯科医師会解散
11. 10	日本歯科医師会設立認可
11. 11	日本歯科医師会第1回総会（～12） ○東洋女子歯科医学専門学校設立（明華女子歯科医学校改名） ○第7回国際歯科コングレス開催（フィラデルフィア）
11. 13	第9回総会（日本歯科医師会設立総会）

富山県歯科医師会の動き

大正15年（1926）	
2. 15	役員会（高岡市大昌樓）
3. 1	定時総会（桜木町奥田屋）
8. 11	設立総会・解散総会（富山縣議事堂）
8. 11	第1回定時総会（富山縣議事堂）
8. 11	発会式（富山ホテル）
11. 3	日本歯科医師会設立総会（委任状提出）
12. 11	日歯第1回総会（中島清作出席）

富山県内の動き

大正15年（1926）	
5. 22	県営立山砂防工事、国に移管

世の中の動き

大正15年（1926）	
6. ー	府県制、市町村制公布
8. ー	社団法人日本放送協会発足
9. ー	全国家計調査
11. ー	日本薬剤師会設立
12. 25	大正天皇崩御、昭和と改元

入会者

大正15年　田谷　壽夫　三羽　邦定
飯田　半六　島田余三男
青木　勝二

物故者

大正15年　羽柴　作蔵

明治・大正期の歯科関係統計表

医師・歯科医・薬剤師数府県別調査（内務省調査・官報）　明治36年末

	医師	歯科医	薬剤師
北海道	700	18	55
東京	2,887	154	499
京都	923	29	159
大阪	1,186	48	216
神奈川	694	18	98
兵庫	1,071	27	116
長崎	832	14	54
新潟	1,152	13	74
埼玉	635	8	39
群馬	471	18	90
千葉	858	12	44
茨城	976	3	32
栃木	485	13	22
奈良	348	5	16
三重	714	17	79
愛知	1,155	33	133
静岡	742	15	83
山梨	317	4	34
滋賀	451	6	25
岐阜	648	12	46
長野	803	18	62
宮城	694	13	40
福島	653	6	48
岩手	413	1	34
青森	282	5	15
山形	573	9	35
秋田	437	7	25
福井	418	1	31
石川	782	7	68
富山	652	4	56
鳥取	379	4	23
島根	740	6	24
岡山	766	2	39
広島	1,240	18	76
山口	892	17	89
和歌山	413	7	36
徳島	390	3	19
香川	343	7	34
愛媛	910	10	38
高知	981	6	22
福岡	1,461	25	75
大分	735	15	27
佐賀	631	6	54
熊本	1,098	10	59
宮崎	394	2	7
鹿児島	933	7	15
沖縄	117	2	3
計	35,375	685	2,968

各府県歯科医師数　大正4年6月現在

	歯科医
北海道	36
青森県	15
岩手県	13
秋田県	18
山形県	30
宮城県	25
福島県	30
群馬県	32
栃木県	31
茨城県	27
千葉県	42
埼玉県	33
東京府	472
神奈川県	70
山梨県	10
長野県	52
新潟県	56
静岡県	52
愛知県	90
三重県	27
岐阜県	24
石川県	18
富山県	12
福井県	10
滋賀県	13
京都府	78
大阪府	117
兵庫県	108
和歌山県	35
奈良県	23
岡山県	57
広島県	60
山口県	43
島根県	23
鳥取県	12
香川県	18
愛媛県	27
徳島県	16
高知県	16
福岡県	51
佐賀県	11
長崎県	28
熊本県	21
大分県	27
宮崎県	8
鹿児島県	22
沖縄県	3
朝鮮	28
樺太	1
台湾	15
満州	23
総計	2,109

歯科医会技師工所歯科診療所に関する調査（大正13年）

道府県	歯科医師数	道府県歯科医師会の有無	市の数	郡の数	郡市歯科医師会の数	技工所の数	歯科医師に非ざるもの、経営する歯科診療所					
							個人	医師	会社	官公	学校	計
北海道												0
青森	59	有	2	8			1			2		3
岩手	62	有	1	13			3	1				4
秋田	83	有	1	9			5		2	1		8
山形	93	有	3	11								0
宮城	119	有	1	16			14	2		2		18
福島	160	無	3	17	3		1	3				4
群馬	115	有	3	11			3					3
栃木	155	有	1	14			2					2
茨城	139	有	2	18	4		3			1		4
千葉	196	有	1	12		1	4		1	1		6
埼玉	124	有	1	9			6	2	1			9
東京	1,610	無	2	8	6	3	43	4	5	9	5	66
神奈川	214	有	3	11	6	2	11			1		12
山梨	71	有	1	9	1							0
長野	271	有	3	16	9		2			1		3
新潟	198	有	3	16	6		6	1		1		8
静岡	263	有	4	13	8		12					12
愛知	479	無	4	18	12		13			3		16
三重	175	有	3	15			9					9
岐阜	155	有	2	18			7					7
石川	90	有	1	8	2		7					7
富山	67	有	2	8				1				1
福井	34	有	1	11			2					2
滋賀	50	有	1	12			2			1		3
京都	285	有	1	18	4		22		1	2		2疱
大阪	605	無	3	9	2		64		1	3		68
兵庫	510	有	5	25	6		36		1	2		39
和歌山	108	有	1	7	5		2					2
奈良	85	有	1	10			11					11
岡山	256	有	1	19	9		1			1		2
広島	255	有	4	16	2					1	1	2
山口	170	有	2	11			1			1		2
島根	84	無	1	13	2					1		1
鳥取	63	有	1	6			5		3			8
香川	8疱	有	2	7	1		20					20
愛媛	124	有	3	12			10					10
徳島	64	有	1	10			3			1		4
高知	68	有	1	7			3					3
福岡	314	有	8	19	4					2	1	3
佐賀	72	有	1	8			3					3
長崎	126	有	2	8	2				1	2		3
熊本	107	有	1	12								0
大分	112	有	2	12	1			1				1
宮崎												0
鹿児島												0
沖縄												0

（備考）1.歯科医師数は大正14年８月１日現在に依る
2.北海道、宮崎、鹿児島、沖縄の記載なし

歯科医師数の推移（明治36年～大正14年）

年次	総数	官公私立（指定）歯科医学専門学校卒業	外国学校卒業（試験を含む）	試験及第	従来開業
明治36	700	-	9	682	9
37	780	-	12	759	9
38	815	-	14	793	8
39	864	-	13	843	8
40	913	-	14	892	7
41	987	-	22	958	7
42	1,068	-	22	1,040	6
43	1,125	-	29	1,090	6
44	1,241	56	23	1,156	6
45	1,531	158	26	1,333	14
大正２	1,916	351	29	1,519	17
3	2,363	572	30	1,749	12
4	2,945	844	40	2,045	16
5	3,482	1,059	49	2,359	15
6	4,124	1,277	63	2,750	34
7	4,732	1,503	48	3,163	18
8	5,336	1,678	53	3,590	14
9	6,164	1,892	57	4,201	14
10	6,654	2,085	60	4,492	17
11	7,738	2,352	53	5,323	10
12	8,773	2,642	59	6,042	30
13	9,983	2,993	64	6,910	16
14	11,392	3,544	77	7,755	16

歯科医学校数の推移

年次	専門学校	
	私立	卒業者
明治40	1	…
41	1	25
42	2	97
43	2	14
44	2	30
45	2	152
大正２	2	201
3	2	228
4	2	253
5	2	213
6	3	234
7	3	247
8	3	256
9	4	286
10	6	417
11	6	340
12	6	473
13	7	472
14	8	758
計		4,696

歯科医術開業試験の合格率（明治17年～ 28年）

年度	回		受験者数	合格者数	合格率（%）
明治17年（1884）	第1回		3	2	66.66
	第2回		5	4	80.00
明治18年（1885）	第1回		17	11	64.70
	第2回		12	9	75.00
明治19年（1886）	第1回		16	12	75.00
	第2回		19	8	42.10
明治20年（1887）	第1回		20	9	45.00
	第2回		28	9	32.14
明治21年（1888）	第1回		26	11	42.30
	第2回		27	13	48.15
明治22年（1889）	第1回		41	15	36.58
	第2回		74	12	16.21
明治23年（1890）	第1回		62	19	30.64
	第2回		46	10	21.73
明治24年（1891）	第1回		61	15	24.59
	第2回		78	14	17.94
明治25年（1892）	第1回		112	14	12.50
	第2回		90	11	12.22
明治26年（1893）	第1回		104	21	20.19
	第2回		136	17	12.50
明治27年（1894）	第1回		167	16	9.58
	第2回		141	20	14.18
明治28年（1895）	第1回	学説	114	9	
		実地	18	13	
		合計	132	22	16.67
	第2回	学説	120	8	
		実地	15	10	
		合計	135	18	13.33

昭和2年（1927年）

3月15日　第2回定時総会

（富山懸廳内　日本赤十字社支部樓上）

出席者は委任状を含め68名

1．役員改選

会　長　小林金次（日歯卒　3210号）

副会長　中島清作（試験　6561号）

理事長　中保仁久

会　計　山下長藏

理　事　宮本俊治　坪田忠一　浦野與四郎

2．健康保険部役員

部　長　小林金次

副部長　中島清作

理　事　大道憲治　浅岡典常

赤祖父元吉郎　今村彦治

監　事　阿部孫太郎　早見治顕

3．審査委員

白幡　兼（縣衛生課長）　寺林吉平（縣工場監督主事）　宮島忠治　村井信義

鷹島慶二　藤井義人　和記見津吉

4．懇親会（奥田屋）

（小林金次氏が会長になったことにより歯科医師会事務所の住所は富山市太田口町36へ変更となった。）

健康保険法による医療給付始まる

この年の１月１日より、健康保険法による医療給付が始まった。この当時、健康保険組合は316ほどがあり、そのうち、103の組合が道府県歯科医師会と契約していた。残りの組合は、日本歯科医師会と契約していた他、独自の診療施設を持っていたり、嘱託医制を有していた。

その後、

３月12日　健康保険法施行令中改正の件公布

７月１日　健康保険法施行令中改正の件公布

８月９日　「政府ノ管掌スル健康保険ノ歯科診察ヲ拒当スベキ保険医ニ関スル件」公布

当初採用された人頭割請負方式は、実際に診療が実施されると患者が殺到して歯科医の経済に負担をかけ、安定が得られない結果となったので同年９月で廃止。その後、健勤労定額式で政府と契約して、他の組合とは人頭割とした。

日歯を代理として富山県に於いて契約したる健康保険組合

・第一ラミー紡績　・模範工場

・廣貫堂　・日清紡績高岡工場

・富山紡績

日本歯科医師会の動き

昭和２年（1927）

2. 1	学校歯科医職務規程
2. 19	補綴給付の疑義につき上申
3. 15	同上回答
3. 30	政府との契約改正
7. 4	第２回臨時総会
7. 4	歯科診療契約改正案要綱
8. 5	健康保険歯科診療の告示（補綴の承認制）
8. 一	健康保険の取扱についての注意（日歯）
8. 9	健康保険歯科診療に関する協定（全部を定額給付）
11. 3	第３回定時総会 ○北海道帝国大学医学部に歯科設立

富山県歯科医師会の動き

昭和２年（1927）

3. 15	第２回定時総会（富山縣廳内日本赤十字社支部樓上） 事務所住所変更（富山市太田口町36）
7. 4	日歯第２回臨時総会（浦野與四郎出席）

富山県内の動き

昭和２年（1927）

4. 22	経済恐慌のため県内各銀行が臨時休業

世の中の動き

昭和２年（1927）

3. 22	金融恐慌
4. 22	モラトリアム施行　山東出兵
12. 30	上野・浅草間に最初の地下鉄開通

入会者

昭和２年　松浦　三郎　木下　友栄

赤祖父三郎　横田　太一

昭和3年（1928年）

3月15日　第3回定時総会

（富山商工会議所）

出席者は委任状を含め79名

1．副会長欠員選挙　中保仁久　當選

2．懇親会　出席者53名（富山ホテル）

6月4日　歯の衛生週間

(1) 1萬枚のポスターを県下の理髪店、浴場、飲食店に掲示

(2) 掛図400枚を県下小、中学校に寄贈

(3) 講話資料3,000部を警察官、町村長、学校へ配布

(4) 全会員當日無料歯科診断に従事

(5) 標語作文募集、一般より標語、学童より作文を募集

(6) 富山市の各小学児童、幼稚園児へ「リーフレット」1枚宛交付

一般市民へ宣傳ビラ3種1萬5千枚を自動車4台で撒布

活動写真常設館に映画幕間に幻燈写真5枚映写説明

(7) 新聞宣傳、縣下日刊新聞8社に豫防上の記事掲載

8月1日　富山県歯科医師会学術講演会

（高岡市公園前木津樓）

講師　遠藤至六郎

顎骨骨膜炎について

参会者80名　福井県、石川県より出席あり

歯科医師のうち所得税15円以上の者

（富山縣名鑑、昭和3年より）

富山市：藤井義人（73.11円）、坂井茂（169.70円）、志村金太郎（15.60円）、小林金次（123.75円）、宮島忠治（16.29円）、山下長藏（68.36円）、早見治顕（36.50円）、中島清作（70.60円）、和記見津吉（50.60円）、赤祖父三郎（14.54円）、大島秋知（95.60円）、杉江一明（30.60円）、今村彦治（30.60円）、三羽邦定（46.30円）、佐渡喜一郎（34.12円）　**高岡市**：永野一彦（132.20円）、鷹島慶二（83.15円）、四竈文三郎（21.87円）、大道憲治（37.0円）、中保仁久（42.64円）、川岸吉之助（25.83円）、堀井勝三（27.00円）、浦野與四郎（23.10円）　**下新川郡**：阿部孫太郎（31.76円）、沼隈遠慶（20.10円）　**上新川郡**：松能喜久次（72.55円）

これを見ると、富山市や高岡市、そして会の中心で活躍された先生方の納税額が多い。

日本歯科医師会の動き

昭和3年（1928）

1. 一	歯科医師を技術官として採用するよう建議書提出
3. 16	会長、中央衛生会委員
6. 4	第1回ムシ歯予防デー
10. 27	歯科診療標準報酬規程表
11. 1	歯科医師の分布に関する答申（内務大臣）
11. 6	第4回定時総会（京都）
11. 21	歯科医業の将来に関し道府県歯科医師会に対し勧告
	○東京高等歯科医学校設立

富山県歯科医師会の動き

昭和3年（1928）

3. 15	第3回定時総会（富山商工会議所）
6. 4	歯の衛生週間事業（この年より毎年）　第1回ムシ歯予防デー
8. 1	学術講演会（高岡市公園前木津樓）
11. 6	日歯第4回定時総会（小林金次出席）

富山県内の動き

昭和3年（1928）

7. 17	県警察部に特別高等検察課を設置

世の中の動き

昭和3年（1928）

1. 13	日ソ漁業条約調印
2. 一	第1回普通選挙実施（男子）
3. 15	共産党員一斉検挙
5. 3	済南事件

入会者

昭和3年　石黒宗次郎　佐伯清之助　川口　義門

物故者

昭和3年　赤祖父元吉郎

昭和4年（1929年）

3月15日　第4回定時総会

1．役員改選

会　長　小林金次（再）（日歯卒　3210号）
副会長　大道憲治（新）（日歯卒　3847号）
理　事　宮本俊治（再）　山下長藏（再）
　　坪田忠一（再）　折井信雄（新）
　　山下敬松（新）

2．健康保険部監事改選

監　事　阿部孫太郎（再）　早見治顕（再）
理　事　浅岡典常（再）　今村彦治（再）
　　木下友栄（新）　柴太郎（新）
副部長　中島清作（再）
審査会委員　村井信義（再）　宮島忠治（再）　和記見津吉（再）　清水清通（新）　大道憲治（新）

3．日本歯科醫師会議員　鷹島慶二（新）
　　豫備議員　川岸吉之助（新）

11月15日　臨時総会

醫制調査委員を設置し、会規を無視する者を調査する。

歯科専門標榜医

普通医でありながら、特例を以て歯科医業を行っていた医師で、非歯科医のように歯科医師法違反にはならない。歯科医師会にも加入しなくてもよかった。

全国で129名で、富山県は１名が該当した。

昭和4年歯科医師名簿（富山県94名）

※大正14年以降に追加になった人々

富山市（14名）：赤祖父三郎（東歯）、石黒彰彦（日歯）、浦上則政（東歯）、織田ミドリ（京女）、佐渡喜一郎（試）、島田余三男（日歯）、田谷壽夫（日歯）、杉江玄照（試）、高田喜作（東歯）、分田シゲ（試）、松浦三郎（日大）、三羽邦定（試）、大原峰太郎（ドクトル）、山崎安三（東歯）　**高岡市**（４名）：池田伊勢男（試）、木下友栄（試）、柴太郎（東歯）、三崎政男（日歯）　**下新川郡**（６名）：池田朝次郎（試）、沼隈遠慶（試）、原田逝（試）、山浦土雄（試）、奥川熊治（試）、蓮本庄太郎（日大）　**中新川郡**（４名）：佐伯清之助（日歯）、横田太一（日大）、飯田半六（試）、山本千代治（試）　**上新川郡**（１名）：石黒宗次郎（試）　**東礪波郡**（４名）：近江貞仁（日大）、宮岡宇平次（大歯）、川口義門（日大）、片之坂藤儀（試）　**西礪波郡**（６名）：折井信雄（試）、上田馨（日歯）　神島俊一郎（試）、橋本良信（日歯）、青木勝二（試）、成瀬八郎（日大）　**氷見郡**（１名）：長谷川徳光（日歯）　**射水郡**（２名）：和田直樹（東歯）、渡邊六郎（日歯）　**婦負郡**（１名）：松本秀子（試）

（大正14年の名簿に名前があって、昭和４年の名簿に名前がない人　羽柴作蔵、赤祖父元吉郎、杉江一明、林浩、柳澤耕作、多田實、神島長次、首藤親造）

日本歯科医師会の動き

昭和４年（1929）
4. 一　事務所移転（日本橋区通1-6）
6. 4　第２回ムシ歯予防デー
9. 一　歯科医籍等発刊
11. 5　第５回定時総会
12. 5　専門科名につき上申
○東京歯科医学専門学校付属病院に歯槽膿漏科設立
○京城歯科医学専門学校発足（校長柳楽達見）

富山県歯科医師会の動き

昭和４年（1929）
3. 15　第４回定時総会
11. 5　日歯第５回定時総会（鷹島慶二出席）
11. 15　臨時総会

富山県内の動き

昭和４年（1929）
2. 15　帝国農会主催の全国農民代表者大会に富山県の農民300人が参加し、米価引き上げを要求しデモを行う

世の中の動き

昭和４年（1929）
4. 一　最初のロータリー・クラブ大会開催（京都）
10. 24　世界恐慌始まる

入会者

昭和４年　山崎　安三　平井　喜美
大菅　十造　平井　菊枝
西野　俊雄　成瀬　八郎

昭和5年（1930年）

■会員数　98名（昭和5年3月15日現在）

3月15日　定時総会

午後１時より　（富山商工会議所）

会員98名中出席者72名、委任出席22名

議案

(1) 昭和４年会務報告、健康保険部部務

(2) 昭和３年度収入支出　決算に付承認を求むる件

(3) 特別会計　健康保険部　昭和３年度収入支出決算認定の件

(4) 昭和５年度収入収支豫算案

(5) 特別会計　健康保険部昭和５年度収入収支豫算案

(6) 会計規定案

(7) 監事選挙の件　中島清作　川口吉之助當選

(8) 会員業務規定第７條による歯科診療料金規定表中改正の件

(9) 会員制裁の件 業務規定違反者に對し会則に照し懲罰に附すべく滿場一致賛成議定し無記名投票を以ってO、Mに對し過怠金五百圓を科すことを決定せり。

6月15日　臨時総会

業務規定励行、診療料金規定厳守を決議し、これが励行の為極力手を尽くしつつあり、成績良好なりし由なるが、不幸二名の違反者を出し、過怠金三百円乃至二百円を課することに決議し、両会員も其の非を覚りそれぞれ納入了ぜりとの事なり。(『歯科学報』S５.10.１号より)

歯科医業経済調査

１．道府県別（略）

２．市2,517　町2,456　村765

３．開業歴（略）

４．１カ月平均歯科医業収入高　平均291圓
北海道419圓最も高く、茨城214圓最も低い

５．１カ月平均延患者数　全國平均315人
北海道407人最も多く沖縄県の215人最も少
１日平均約10人で１人當りの診療費は93銭

６．１カ月平均歯科器械材料支出高　73圓１ケ月収入に對比すれば25%

７．１カ月平均金地金使用量 全國平均９匁

８．医員助手の數及給料　全國平均0.7人
18圓 市は１人、町は0.7人、村は0.3人

９．家族人員　　全國平均６人

10．醫院賃借料　全國平均29圓　自家の割合40%

A．健康保険との關係

歯科醫業収入の中には健康保険の歯科診療報酬も這入ってゐますので之を調査して見ると、全國平均して９%即ち約１割に當る。

B．１カ年推定額（昭和５年２月末日現在）

イ．歯科醫業収入高　　4,539萬６千圓

ロ．歯科器械材料支出高　　1,138萬８千圓

ハ．金地金使用量　　1,404貫目

ニ．延患者數　　4,914萬人

日本歯科医師会の動き

昭和５年（1930）

1. 23	専門科名につき通知（内務大臣）
6. 4	第３回ムシ歯予防デー
8. ー	歯科医業経済調査
11. 3	第６回定時総会

富山県歯科医師会の動き

昭和５年（1930）

3. 15	定時総会（富山商工会議所）
6. 15	臨時総会（富山商工会議所）
11. 3	日歯第６回定時総会（鷹島慶二出席）

富山県内の動き

昭和５年（1930）

3. ー	富山県庁焼失

世の中の動き

昭和５年（1930）

1. 11	金輸出解禁
1. 21	ロンドン軍縮条約

入会者

昭和５年　岡崎　仁　小泉　直久
中塚音次郎　柴　太郎
立浪　次作　新谷　寿康

物故者

昭和５年　南川　信

昭和6年（1931年）

3月15日　定時総会

（富山商工会議所）　出席者は64名

懇親会（奥田屋）

7月15日　富山県歯科医師会学術講演会

（富山商工会議所）

出席者50名

演題及び講師

１．咬合採得法に就て　溝上喜久男

１．副射蒸和に就て　　竹内惣七

保険診療方針（11月4日　社会局長官通牒）

保険歯科医ノ診療ハ、必要ノ範囲並ニ限度ニ於テ之ヲ行フベク、経済的ニシテ而モ最モ適ナルモノタルヲ要ス

第一　投薬

イ．投薬ハ特ニ必要アル場合ノ外之ヲ為サザルコト

ロ．含嗽薬及罨法薬ハ特別ノ場合ノ外、１日分200グラムヲ標準トシテ、１回ニ２日分ヲ超エテ投与セザルコト（略）

第二　注射

抜歯ノ際以外ノ注射ハ、特ニ必要アリト認ムル場合ノ外之ヲ為サザルコト

第三　手術及処置

イ．手術、処置若ハ繃帯交換ハ、必要ノ程度ニ止ムルコト

ロ．歯槽膿漏ノ手術ハ１顎２回ヲ、後処置ハ７回ヲ標準トスルコト

第四　治療、充填

イ．齲歯ノ治療ニ於テ歯髄ノ処置ヲ為サザルモノハ、３回ヲ限度トスルコト

ロ．歯齦炎、口内炎、舌炎ノ治療ハ５回ヲ標準トスルコト

ハ．「ゴム」充填ニ於テハ「グッタベルカ」ヲ使用スルコト

ニ．歯冠回復又ハ保存ノ見込ナキ歯牙ニ対シテハ、充填ヲ為サザルコト

第五　補綴

イ．補綴及ビ補綴ノ修理ハ、歯牙ノ喪失又ハ歯冠ノ破壊ガ、業務上ノ事由ニ依ル場合ノ外、咀嚼率ガ50％以下ニ低下シタリト認メラル場合ニ限リ之ヲ行フコト、50％以下ハ上下顎ヲ通ジ歯牙（智歯ヲ除ク）ノ喪失又ハ歯冠ノ破壊（充填ニ依リ歯冠回復シ難キ程度）ガ７個以上ニ及ビタルモノヲイフ

ロ．智歯ノ補綴ハ之ヲ行ハザルコト（以下略）

日本歯科医師会の動き

昭和６年（1931）

6. 4	第４回ムシ歯予防デー（よい歯でよくかみましょう）
6. 23	学校歯科医令公布
8.3-8	第８回国際歯科医学会議（パリ）に参加（英文小冊子「日本における歯科の現状」）
11. 4	健康保険の歯科診療指針協定
11. 9	第７回定時総会
12. 11	労働者災害扶助責任保険法による歯科診療に関する政府と協定 ○第１回全国学校歯科医大会 ○第８回国際歯科コングレス開催（パリ）

富山県歯科医師会の動き

昭和６年（1931）

3. 15	定時総会（富山商工会議所）
7. 15	学術講演会（富山商工会議所）
11. 6	日歯第７回定時総会（小林金次出席）

富山県内の動き

昭和６年（1931）

6. 12	神通川廃川地の埋め立て、富岩運河の開削工事の起工式が挙行される

世の中の動き

昭和６年（1931）

3. 31	地租法公布
4. 一	国立公園法公布
9. 18	満洲事変起こる
12. 13	金輸出再禁止

入会者

昭和６年	植田　実	菅田　晴山
	櫻木　成一	河村哲之助
	木下　庄作	阿部彦太郎

昭和7年（1932年）

1月15日　臨時総会

午後１時より　（富山商工会議所）

出席者は委任状を含め72名

議案

(1) 會則の一部改正の件

(2) 学校歯科医会設立の件

(3) 救護法施行に関する件

(4) 労働災害扶助責任保険法施行の件

(5) 會員制裁の件　業務規定違反者に對し会則に照し懲罰に附すべく満場一致賛成議定し無記名投票を以ってOに對し過怠金四百圓、Mに對し過怠金三百圓を科すことを決定せり。(『歯科学報』Ｓ７.２ 37-２より)

3月15日　定時総会

富山県学校歯科医会設立（昭和７年４月）

富山県下に於いては、富山市歯科医師会の学校歯科活勧に刺激されて漸次昭和４、５年頃より各地域にあって熱心な学童の歯科衛生に関心ある歯科医により、それぞれ独自の見解と立場に依って町村役場当局に対し、学校歯科医設置要望を提案していた。(略)昭和５年､県会は｢県小中学校に学校歯科医を置くことを得｣を可決、昭和５年県条令として、発令した。翌年昭和６年には文部省より「学校歯科医及び幼稚園歯科医令」が発令され、富山県では昭和６年４月15日、鈴木敬一知事時代に、省令が発令された。

昭和７年４月富山市桜木町、あらやま亭に於いて、県学校歯科医会を有志によって結成された。県当局より森田孝純衛生技師、森重義主事、小林金次、鷹島慶二、牧野昶、浦野與四郎、松田外司、上田馨、今村彦治、島田余三男、坪田忠一、この他、県歯科医師会事務長、吉田理吉以上集合し、会則をきめ、会費は１カ年50円と定めた。初代会長は、小林金次（富山市太田口町）が就任した。

またその地方に於いては熱心な先生方の努力が、組織だけではなく、個々の力によって村役場や町役場に働きかけていた。

和記憲一著『富山県学校歯科沿革史(昭44年)』より

日本歯科医師会の動き

昭和７年（1932）

2. 1	学校歯科医職務規則公布
2. 22	陸軍衛生部代用品並歯科医採用規則
4. 8	児童を中心とする歯の衛生展覧会（日歯）（～8.7）
4. ―	映画“歯の衛生”完成
4. 11	健康保険歯科診療実施５周年記念会
6. 4	第５回ムシ歯予防デー
6. 30	金地金について、大成内務大臣に上申
7. 25	歯科医師増加について上申（文部大臣）
8. 22	医療救護事業について協力申入れ（内務大臣）社会施設における歯科診療に関する協力通牒(日本歯科医師会)
11. 5	第８回定時総会

富山県歯科医師会の動き

昭和７年（1932）

1. 15	臨時総会（富山商工会議所）
3. 15	定時総会
4. ―	富山県学校歯科医会設立
5. 27	学校歯科医及幼稚園歯科医規則が定められる
11. 5	日歯第８回定時総会（小林金次出席）

富山県内の動き

昭和７年（1932）

9. 17	富山・高岡両市で防空演習を実施

世の中の動き

昭和７年（1932）

3. 1	満州国の建国宣言
5. 15	5.15事件
9. 15	日満議定書調印
11. ―	仏ソ不可侵条約調印

入会者

昭和７年　阿部　清一　　永森　　収
　　奥川　熊治　　時女フミ子

昭和8年（1933年）

■会員数　105名（昭和8年3月15日現在）

3月15日　定時総会（富山商工会議所）

出席者は委任状を含め92名

1．役員改選

会　長　村井信義（日歯卒　2201号）

副会長　浦野與四郎（試験　7280号）

日本歯科医師会議員に中保仁久

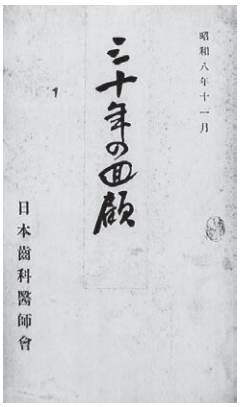
豫備議員に山下長藏を選任

2．懇親会（八清樓）

9月15日　臨時総会（富山商工会議所）

日本歯科医師会創立30周年記念会

日本歯科医師会は明治36年11月27日大日本歯科医師会創立されて以来30周年を迎え、11月７日第10回定時総会を機とし同日会議終了後、午後５時丸ノ内東京会館に於いて記念会を開催した。当日は政府並びに各官庁関係当局、会縁故者、新聞雑誌記者、本会議員、道府県歯科医師会長並びに健康保険部長等を招待して挙行された。当日の出席者主客178名にして、会より『三十年の回顧』と題する小冊子を贈呈。



第一回歯科医勢調査　内閣統計局

富山県推計人口　796,500人（男389,600人　女406,900人）

昭和８年10月１日現在

開業歯科医数　105

開業歯科医一人当たり人口7,586人

都市別調査

富山市人口数　77,300人

歯科医師数　26人

歯科医一人当人口 2,973人

昭和８年６月歯科医師なき町村

町３（人口8,493人）

村222（人口486,705人）

歯科医会現状調査

会長１　副会長１　理事５　計７

医制調査部委員数20　衛生調査部

教育部　学術部（会費一人当10.00円）

郡市歯科医会設置数２（会費一人当5.00円）

健康保険部

部長１　副部長１　理事４　監事２

審査委員７

富山県学校歯科医会　会員数36

学校歯科医数35

日本歯科医師会の動き

昭和８年（1933）

2. 10	“歯科医師に対する所得税課税標準の減額方”陳情
4. 4	歯科医師法改正公布
6. 4	第６回ムシ歯予防デー“ムシ歯祭り”
7. 14	第９回臨時総会
9. 1	歯科医勢調査・予備調査 健康保険歯科診療契約を人頭請負式とする
10. 1	第１回歯科医勢調査
10. 4	歯科診療所取締規則公布
11. 7	第10回定時総会
11. 7	日本歯科医師会創立三十周年記念会

富山県歯科医師会の動き

昭和８年（1933）

3. 15	定時総会（富山商工会議所）
5. 一	第３回全国学校歯科医大会（福岡市、渡邊初太郎氏出席）
7. 14	日歯第９回臨時総会（中保仁久出席）
9. 15	臨時総会（富山商工会議所）
10. 15	第33回北陸医学会（富山薬専）
11. 6	日歯第６回健康保険部長会議（川岸吉之助出席）
11. 7	日歯第10回定時総会（中保仁久出席）

富山県内の動き

昭和８年（1933）

5. 9	置県50周年記念式典を挙行

世の中の動き

昭和８年（1933）

1. 30	ヒトラー内閣成立
3. 27	国際連盟脱退
3. 一	ニューディール政策開始
12. 23	皇太子明仁親王誕生
12. 24	日本劇場開場

入会者

昭和８年　金森　保芳　岡田　信次　関　剛三郎　吉岡　二枝　北山　静次　大井　潤　米田　祐弘

物故者

昭和８年　沼隈　遠影

昭和9年（1934年）

3月15日　定時総会（富山商工会議所）

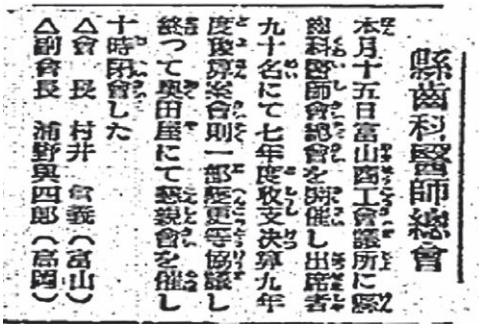
午後１時より富山商工会議所に於て開催、諸般の報告竝に議事を審議決定した。

出席者90名。昭和７年度収支決算、９年度予算案、会則一部変更等協議。後奥田屋にて懇親会。

会　長　村井信義（富山）

副会長　浦野與四郎（高岡）

（『歯科学報』39-５より）


縣歯科醫師總會
本月十五日富山商工會議所に縣歯科醫師總會を開催し出席者九十名にて七年度收支決算九年度豫算會則一部變更等協議し終つて奥田屋にて懇親會を催し十時閉會した
會長　村井信義（富山）
會計　浦野與四郎（高岡）

（昭和9年3月18日北陸タイムスより）

函館火災見舞金

日本歯科医師会より各府県に義捐金の醵出方を依頼　富山県歯科医師会醵出　20.00圓（日歯 四月四日送金分）

4月24日　陳情書提出

歯科医師の所得税課税標準額並に業体別決定標準率の減額減率方につき、富山市歯科医師会との連署陳情書を富山税務署長へ提出す。

（『富山市歯科医師会史』より）

第4回全国學校歯科医大会

５月20日～22日　名古屋市にて開催

参加者　山下長藏　渡邊初太郎　神島俊一郎　松浦三郎

（『富山県学校歯科沿革史』より）

最近六ヶ年間ニ於ケル内務省歯科醫師試験合格者數

昭和４年度	29名	昭和５年度	49名
６年度	46名	７年度	84名
８年度	83名	９年度	96名

県学校歯科医会（昭和8年～10年頃）

２代目会長　川岸吉之助（高岡市桜馬場）

副会長　坪田忠一（岩瀬）

日本歯科医師会の動き

昭和９年（1934）	
2. 26	日本聯合学校歯科医会　学校歯科「クリニック」に対する歯科診療所取締規則の適用に関する意見書提出
3. 24	傷兵院法を公布
4. ー	小学校国語読本に「むしば」の１章が加えられる
6. ー	歯科医師会会報年２回発行（第11号より）
6. 4	第７回ムシ歯予防デー「御国を守れ歯を護れ」
9. 7	歯科医業経済の合理化方法、歯科医師共済機関設置促進の答申
9. 18	金地金高騰
10. 27	齲歯予防デーを一層効果的にならしむる方策についての答申
11. 17	第11回定時総会（日本医師会館）68名の議員出席 役員改選
ー. ー	歯科医師数 18,998人

富山県歯科医師会の動き

昭和９年（1934）	
3. 15	定時総会(富山商工会議所)
ー. ー	函館火災見舞金
4. 24	富山税務署長へ陳情書

富山県内の動き

昭和９年（1934）	
5. 1	カモシカ、国の天然記念物に指定
5. 15	富山・東京間定期航空路開通
7. 2	富山・名古屋間定期航空路開通
7. 9	県内各河川出水、大被害発生
10. 25	飛越線の全通により、富山市で高山本線の開通式を開催
11. 13	日米職業野球富山大会、富山市の神通グラウンドで開催
12. 4	立山ら中部山岳国立公園に指定される

世の中の動き

昭和９年（1934）	
4. ー	帝人事件
7. 12	日印新通商条約に調印
7. ー	国民健康保険制度要綱発表
8. ー	独ヒンデンブルグ大統領没、ヒトラー総統となる
9. 21	関西地方に大風水害
10. ー	健康保険相談所を全国一二ヶ所に設置
11. 2	全米選抜野球チーム（ベーブルース他）来日
12. 29	日本、ワシントン条約破棄をアメリカに通告
12. ー	健康保険法施行規則改正
ー. ー	東北地方冷害凶作

入会者

昭和９年　塚本　栄春

昭和10年（1935年）

3月15日　定時総会（日赤富山支部）

富山県歯科医師会総会開催　日赤富山支部

（『歯科学報』40-５より）

3月15日午後

全國聯合學校衛生會總會準備委員會開催　懸聽に於て

準備委員依嘱　準備委員相談役

村井信義（富山県歯科医師会長）

小林金次（富山県学校歯科医会長）

（昭和10年３月16日富山日報より）

4月　新会長 中島清作　会員数117名

事務所々在地　富山市総曲輪　日本赤十字社富山支部（『都道府県歯科医師会要覧』より）

第14回全國聯合學校衛生會總會開催

５月10日より３日間に亙り富山市神通中學校講堂に於て開催、主催は富山懸學校醫會、同市學校衛生會、帝國學校衛生會の三團體、出席者560餘名、来賓に文部省よりは岩原、大西、田村の３氏、帝國學校衛生會よりは三宅、横手、詫摩、吉田の各理事、其他地方官民百餘名。第１日午前中は型通り會長、議長の選擧を行ひたる後、文相告辭、内相、懸知事、富山、高岡兩市長、日本醫師會長、日本齒科醫師會長等の祝辭あり、諸般の報告の後議事に入り文相諮問事項に就き大西衛生官より説明あつて、15名の特別委員に附託、明年の總會に原案として提案する事に決定した。　（『歯科学報』40-６より）

第5回全国學校歯科医大会出席

５月19日～21日　東京市にて開催

参加者　川岸吉之助　山下長藏　小林金次

三羽邦定　清水清通

（『富山県学校歯科沿革史』より）

学校歯科施設調査（10年10月1日現在）

富山県：学校歯科施設数

幼稚園４　小学校48　中等学校29　計81

：学校歯科医数

幼稚園４　小学校38　中等学校29　計71

：歯科診療設備を有する学校数

幼稚園　-　小学校２　中等学校１　計３

（『日本歯科医師会報』より）

日本歯科医師会の動き

昭和10年（1935）

2. 6	日本歯科医師会々則改正
2. 13	医薬分業時期尚早の声明
3. 1	簡易生命保険被保険者歯科診療契約
6. 4	第８回ムシ歯予防デー「健康は先づ歯から」
6. 18	歯科診療団体契約に関する通知
9. 21	口腔衛生思想普及促進の方策に関する答申
10. 25	地方職員令改正、歯科医師免許を有する技術官任用
10. 30	歯科医師共済機関設置に関する答申
10. 一	官庁に歯科医技術官設置制度
11. 5	第12回定時総会　神田駿河台日本医師会館に於て　72名の議員出席
11. 5	日本歯科医師会健康保険規程改正
12. 14	日本歯科医師会々則改正
一. 一	歯科医師数 20,010人

富山県歯科医師会の動き

昭和10年（1935）

3. 15	富山県歯科医師会総会開催
3. 15	全国聯合学校衛生会総会準備委員会開催
5. 10	全国聯合学校衛生総会開催（～12日）神中講堂にて
11. 5	日本歯科医師会第12回定時総会　山下長藏議員出席（日本医師会館） 富山県歯科医師会より意見書「日本歯科医師会に於て共済機関を設置せられんことを望む」

富山県内の動き

昭和10年（1935）

1. 末	富岩運河竣工
8. 17	新県庁舎、神通川廃用地に竣工
12. 13	ＮＨＫ富山放送局開局

世の中の動き

昭和10年（1935）

1. 一	芥川・直木賞設立
2. 一	湯川秀樹、中間子論発表
3. 17	薬事法改正案撤回
3. 27	国際連盟脱退効力発生
4. 6	満州国皇帝来日
8. 3	天皇機関説問題で、政府、国体明徴を声明
9. 20	日本薬局方調査会官制を公布
10. 一	第4回国勢調査 人口69,254,148人
11. 26	日本ペンクラブ創立
12. 一	国際衛生条約を批准、同条約の締結国となる

入会者

昭和10年　竹林　正俊　　家城　圭一

岩井二三雄　　郷倉　信一

物故者

昭和10年　高井　勇三　　山本千代治

昭和11年（1936年）

会長 中島清作　会員数115名

事務所々在地　富山市総曲輪　日本赤十字社富山支部　（『都道府県歯科医師会要覧』より）

第6回全国學校歯科医大会出席

5月3日～5日　甲府市にて開催

参加者　坪田忠一　森田孝純（衛生技師）

（『富山県学校歯科沿革史』より）

内務省社會局主催の健康保險法實施十周年記念事業に就て

本年は健康保險法實施十周年に當るので内務省社會局では之を記念する為内務大臣を總裁とし社會局長官を會長とする健康保險法實施十周年記念事業協會を組織し日本醫師會、日本歯科醫師會、日本薬劑師會、日本健康保險組合聯合會等の協力を得て左の事業を行ひ三月三十日を期して記念式典を擧げ本事業功勞者に對し感謝状又は表彰状を贈呈された。然して本事業協會に對し本會健康保險特別会計に属する積立金中より金貳千五百圓の寄付をした。

健康保險法実施十周年記念事業

1）記念式典擧行　昭和12年3月30日
　於日比谷公會堂
2）六大都市に於ける記念講演
3）五ヶ年以上被保險者として資格存續者に對する記念品の交付
4）健康保險法實施十周年沿革誌編纂發行
5）健康保險要覧（手帳）の發行
6）健康保險歌の制定及レコードの作製
7）ラヂオ記念放送
8）十ヶ年間健康被保險者に對する賞品の授與

歯科醫師會關係感謝状受領者(富山懸歯科醫師會)

小林金次　中島清作　浦野與四郎　宮島忠治
村井信義　宮本俊治　山下長藏
吉田理吉（事務）

（日本歯科醫師會『第十三回定時總會議事録』より）

日本歯科医師会の動き

昭和11年（1936）

1. 13	鉄道従業員歯科医療組織への陳情
3. 17	衛生省設置に関する建議
4. ―	歯科軍医制度設置につき政府に請願書を提出
4. 22	健康保険用金鈎代用金属試験並指定規則
6. 4	第９回ムシ歯予防デー「強い身体に丈夫な歯」
6. 18	歯科医学校設置抑止の上申
6. ―	所得税賦課率改正の件、大蔵大臣に上申書提出
6. ―	ムシ歯予防デーに合わせて「虫歯は大敵」「ゾラリと並んで」の２つの歌を作成
9. 30	防空法中歯科医師の地位に関する上申
11. 5	第13回定時総会（役員改選）
11. 5	健康保険実施十周年記念式
12. ―	時事の問題を報じる会信を発行
―. ―	この年各地方庁、柔道整復術業者と健康保険につき協定す
―. ―	歯科材料輸入制限実施
―. ―	歯科医師数 21,067人

富山県歯科医師会の動き

昭和11年（1936）

3. 11	富山県歯科医師会と富山市歯科医師会と共同の上会館設立につき意見交換 日本赤十字社富山支部に於て、午後８時から
11. 5	日本歯科医師会第13回定時総会 川岸吉之助議員出席（日本医師会館） 会議員及予備議員異動 富山県選出議員　川岸吉之助氏（11.3.15当選　山下長藏氏辞任のため） 同　予備議員　木下友榮氏（11.3.15当選　川岸吉之助氏辞任のため）

富山県内の動き

昭和11年（1936）

4. 8	富山電気ビルディング、神通川廃用地に竣工
6. 12	第九師団、本県など５県で防空演習実施（～14日）
10. 1	東京・富山間、大阪・富山間の航空路、国営となる

世の中の動き

昭和11年（1936）

1. 15	ロンドン軍縮会議脱退を通告
2. 1	十和田、富士箱根、吉野熊野、大山の四国立公園を指定
2. 26	ニ・二六事件起る
2. 29	戒厳司令部「兵に告ぐ」ラジオ放送
3. 24	メーデー禁止を全国に通達
4. 18	国号「大日本帝国」に統一
5. 18	軍部大臣現役武官制復活
6. 26	危険薬品の不正取引に関する条約
8. 1	ベルリンオリンピック開幕
11. 7	国会議事堂竣工
11. 14	方面委員令を公布
11. 25	日独防共協定に調印

入会者

昭和11年　分田　文子　　金山　吉雄
小高　啓三　　島田　栄吉
中川　　武　　伊東　祐年
村井　玉枝

物故者

昭和11年　三崎　恒子

昭和12年（1937年）

会長 中島清作　会員数125名

事務所々在地　富山市総曲輪429番地の８

（『都道府県歯科医師会要覧』より）

全國一齊にムシ歯豫防デー

（昭和12年6月4日、富山日報）

今４日全國一斉に催されるムシ歯豫防デーは今回が丁度十週年に當るが此の國民的衛生運動のムシ歯豫防デーは日本が先ず世界の魁をしたもので近時ドイツ、アメリカ、中華民國等の諸者は非常な關心を以て其の効果に注目してをりムシ歯豫防にも所謂非常時が來た譯で早くムシ歯を駆逐すべきだ、陸軍々醫學校の三内博士がムシ歯と健康に就いて詳しい調査發表をした。

富山懸では毎年の例による十二年度優良齒牙保有生徒兒童の表彰を各學校を通じてこの日おこなふことになつてゐるがその數は中等學校三十八名、小學校で六十五名の合計百三名である。

（昭和12年６月４日富山日報より一部抜粋）

支那事変と歯科界

昭和12年支那事変起るや、歯科界よりも、多数の動員応召があり、警視庁からは診療所又は歯科診療所の管理に関して、留守中の継続管理手続を簡易にするよう通牒した。

記録に残る応召勇士（富山）

中川　武　浦上則政　小泉直久

岡崎　仁　藤田庸三

その後の出征勇士

渡辺成二

（『歯界五十年　高津弍 古希記念執筆』より）

県学校歯科医会（昭和11年～12年頃）

３代目会長　清水清通（新湊市）

副会長　牧野　昶（五百石）

日本歯科医師会の動き

昭和12年（1937）	
1. 18	国民健康保険法対策及意見書上申
3. 30	健康保険法実施十周年記念式典（於日比谷公会堂）
6.　4	第10回ムシ歯予防デー「つとめて受けよ歯の検査」
6.　一	歯科医療用金地金に対する特別の配慮を大蔵・内務大臣に陳情
9.　一	歯科医師静脈注射事件についての上申書を、東京刑事地方裁判所に提出
10. 15	歯科医業合理化についての答申
10.　一	歯科軍医制度の制定に関する陳情書を陸軍大臣に提出
11.　6	第14回定時総会
11. 18	国民精神総動員計画通知
12. 24	日本歯科医師会会信発行（以後月１回）
12. 28	金使用規則公布
一. 一	歯科医師数 22,072人

富山県歯科医師会の動き

昭和12年（1937）	
1. 24	県歯科医師会、富山市歯科医師会会館落成式
3. 31	第五期議員、予備議員は昭和12年３月末日を以ってその任期満了 第六期本会議員　大道憲治 予備議員　山崎安三
11.　6	日本歯科医師会第14回定時総会　大道憲治議員出席（日本医師会館）

富山県内の動き

昭和12年（1937）	
8. 24	歩兵第六十九連隊に中国派遣の動員下令
9.　9	歩兵第三十五連隊に動員下令
9. 28	県国民精神総動員実行委員会設置
12. 14	県会決議により知事へ公娼制度廃止を建議

世の中の動き

昭和12年（1937）	
1. 27	学校身体検査規程を定む
3. 31	母子保護法（13.1.1より施行）軍事扶助法（7.1より施行）を公布
4.　5	防空法、保健所法を公布
5.　6	日本学術振興会国民体力に関し建議
7.　7	日華事変起る
8.　2	診療用エックス線装置取締規制を制定
8. 24	国民精神総動員実施要綱を閣議決定
10. 12	国民精神総動員中央連盟結成
11.　6	日独伊三国防共協定を締結
12. 13	日本軍、南京占領

入会者

昭和12年　奥平ユキヱ　林　弘　岡田　正三　酒井　信義　千鳥　健二　島田　正三　吉村　史郎

物故者

昭和12年　村井　信義　宮島　義

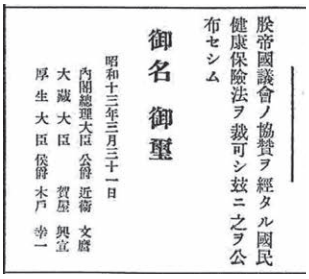
昭和13年（1938年）

厚生省設置（1月11日）

当時の厚生省は、官房及び体力、衛生、予防、社会、労働の五局、臨時軍事援護部、保険院から成る。医師・歯科医師に関する業務は衛生局医務課で管轄していた。

国民健康保険法公布

健康保険法が制定されて10年、保険診療が労働者の中に定着、その保険制度の発展に関連して、工場労働者以外の農山漁村の居住者、都市の中小商工業者など少額所得者を対象に国民の経済生活において最も脅威を感じている医療費負担の問題を社会保険の方法によって解決し、国民の健康を守らんとする制度が国民健康保険制度であった。


脫帝國議會ノ協賛ヲ經タル國民健康保險法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和十三年三月三十一日

内閣總理大臣　公爵　近衛　文麿
大藏大臣　賀屋　興宣
厚生大臣　侯爵　木戸　幸一

官報第3371號

第8回全国學校歯科医大会出席

５月１日～３日　静岡市にて開催

参加者　渡邊初太郎　山下長藏　神島俊一郎　山本莊太郎（『富山県学校歯科沿革史』より）

金使用制限強化

金合金の製造は原則として禁止、医療用は許可使用となった。従って歯科医療に必要であることの確認方法について、日本歯科医師会は歯科医療用金地金使用券を発行することとし、会員の請求に応じて都道府県歯科医師会から交付させる事にした。

けふから歯科醫へ
金冠の〝貞操切符〟
眼鏡修繕も儘ならぬ金制限

（昭和13年8月20日、読売新聞）

医療関係者職業能力申告令公布

医療関係者職業能力申告令は、国家総動員法に基づき、医師・歯科医師を戦時国家統制下におくもので、歯科医師は、氏名、男女の別、出生の年月日、本籍、住所、兵役関係、歯科医籍登録番号及び登録年月日学歴及職歴、就業の場所、態様、俸給給料を受くる者なる時は其の額、健康状況特に総動員業務従事に関する支障の有無、希望、配偶者の有無及現に扶養する者の数、その他の技能について申告する義務を負わされた。

県学校歯科医会（昭和13年～）

４代目会長　牧野　昶　（五百石）

日本歯科医師会の動き

昭和13年（1938）	
2. 25	歯科医師クロールカルシウム静脈注射事件、東京刑事地方裁判所無罪判決
6. 4	第11回ムシ歯予防デー「正しい歯列に輝く健康」
8. 6	金地金使用券に関する通知
8. 24	医療関係者職業能力申告令を公布
9. ―	健康保険医療規格調査会発足
11. 1	日本パラヂウム合金協会設立
11. 25	第15回定時総会（役員改選）
12. 6	国民体力管理制度調査会官制を公布
12. ―	全国医薬品原料配給統制会設立
―. ―	歯科医師数22,735人

富山県歯科医師会の動き

昭和13年（1938）	
11. 25	日本歯科医師会第15回定時総会大道憲治議員出席（日本医師会館）

富山県内の動き

昭和13年（1938）	
2. 7	県内の公娼廃止で、全国６番目の廃娼県となる
2. 26	本県からの満蒙開拓青少年義勇隊97人、茨城県の訓練所へ向け富山駅を出発
―. ―	木炭バス走る
―. ―	氷見町大火
―. ―	高岡市会に解散命令

世の中の動き

昭和13年（1938）	
1. 11	厚生省設置
1. 29	公衆衛生院官制を公布
3. 25	商店法を公布
3. 31	社会事業法（7.1施行）を公布
4. 1	国民健康保険法（7.1施行）を公布
4. 1	国家総動員法を公布
4. 6	電力国家管理法公布
4. 15	教員保養所全国７ヶ所に設置

入会者

昭和13年　小島　平焉　　清水　幸七
　　菅野　宜紀

昭和14年（1939年）

4月　新会長 宮本俊治　会員数128名

事務所々在地　富山市総曲輪429

（『都道府県歯科医師会要覧』より）

国民健康保険委員任命

富山県

官　吏―坂田啓造、菅澤肇

組　合―牧田喜代治、松井良治

醫歯薬―館保二、岡本重保、中島清作（歯科医師）、神島俊一郎（歯科医師）、森正英、富川保太郎

（『歯科学報』44-１より）

職員健康保険法制定　4月6日

職員健康保険法は高級職員以外の俸給生活者を対象とした保険制度であり前年に公布施行された国民健康保険と双璧をなすものである。

船員保険法制定　4月6日

船舶乗組員の健康保険及び生活安定を目的とし、汽船、発動機船、帆船、漁船等、海上を航行する船舶に乗り組む船長の健康を保護することを企図されたものである。

第12回ムシ歯予防デー

５月４日、第12回ムシ歯予防デー行事が行われた。この年より日本歯科医師会主催から厚生省主管の国民体位向上を旨とする健康週間行事に加わって実施する事になった。

・齲歯予防思想普及に関する通牒

・健康保険補綴制限の撤廃

北陸歯科医学会結成

富山・石川・福井三県連合の歯科医学会が結成された。事務所は石川県歯科医師会内に設置、この年第１回が富山で開催された。

第１回北陸歯科医学会開催

８月１日　富山電気ビルに於て　午後１時～

〔講 師〕日本歯科医学専門学校教授 山崎 清

ライオン細菌研究所 藤正政人

（『富山市歯科医師会史』より）

日本歯科医師会の動き

昭和14年（1939）

3. 25	帝国陸海軍に歯科軍医設置の請願。歯科用金合金配給に関する建議。小学校児童の歯科診療に関する建議。歯科医療用器械、材料並材品の原料配給に関する建議
4. 1	日歯通達、齲歯予防思想普及に関する件
4. 18	齲蝕予防協議会
5. 4	第12回ムシ歯予防デー（健康週間の１日）「歯牙の愛護に輝く体位」
7. 25	歯科材料規格調査会設置陳情
8. 2	歯科用蒸和ゴム協会設立
9. 16	歯科医師再教育（補習教育）の答申
10. 16	時局下歯科衛生思想普及の方策に関する答申
11. 1	金冠代用金属に銀パラジウム合金が承認
11. 25	日本歯科医師会第16回定時総会開催。日本歯科医師会健康保険規程改正
―. ―	歯科医師数 23,311人

富山県歯科医師会の動き

昭和14年（1939）

―. ―	北陸歯科医学会結成（富山 石川 福井三県連合歯科医学会）事務所　石川県歯科医師会館内
8. 1	第１回北陸歯科医学会開催〔講 師〕日本歯科医学専門学校教授 山崎 清 、ライオン細菌研究所 藤正政人
11. 24	第12回日本歯科医師会健康保険部長会議　宮本俊治部長出席（日本医師会館）
11. 25	日本歯科医師会第16回定時総会　城生越義議員出席（日本医師会館）

富山県内の動き

昭和14年（1939）

3. 29	東岩瀬港、開港場に指定され、伏木東岩瀬港と改称
4. 1	県内263警防団設置
4. 1	県招魂社、県護国神社と改称

世の中の動き

昭和14年（1939）

3. 30	工場就業時間制限令を制定
3. 31	賃金統制令を公布
4. 6	職員健康保険法船員保険法を公布
4. 12	米穀配給統制法を公布
5. ―	ノモンハン事件（～９月）
5. 13	七帝国大学及び六官立医科大学に臨時医専を設置
7. 8	国民徴用令を公布
8. 25	人口問題研究所官制を公布
9. 1	第二次世界大戦勃発
9. 3	英仏対独宣戦第二次世界大戦起る
10. 3	国民体力審議会に国民体力管理制度案要綱を附議す
10. 18	価格統制令を公布
―. ―	この年　第十回明治神宮体育大会、厚生省主催にて挙行、体力章検定制度始まる。

入会者

昭和14年　関　清子　田中　直次

物故者

昭和14年　坂井　茂　深山　敏弘　近江　貞仁

昭和15年（1940年）

会長 宮本俊治　会員数134名

事務所々在地　富山市総曲輪429

（『都道府県歯科医師会要覧』より）

配給統制

２月１日より銀パラジウム合金、４月１日より蒸和ゴム、８月１日から歯科用Ｘ線フィルムと歯科用アマルガム精製水銀が切符制による配給統制を受けることになった。

歯科軍医制度

３月30日、勅令第213号による陸軍武官官等表の改正で歯科軍医制度が実現する。この制度は長きにわたり日本歯科医師会が政府に要望してきたものである。

ムシ歯デー 5月4日となる（護歯デー（５.４デー））

支那事変に依る国家統制は衛生行事にまで及び６月４日のムシ歯予防デーは内閣情報部の方針に基き５月４日に期日を変更する事になった。

第十回全国學校歯科医大会出席

５月11日～16日　宮崎市にて開催

参加者　松浦三郎　渡邊初太郎　青木勝二

山下長藏　神島俊一郎

（『富山県学校歯科沿革史』より）

醫藥品配給統制要綱並に衛生材料統制要綱

昭和15年11月現在

・醫薬品商業組合

富山縣薬品卸商業組合　四月三十日設立

富山市總曲輪二九一日報ビル

理事長　金岡又左衛門　組合員數　十八

同小賣商業組合　組合數　二

總組合員數　二六二

・衛生材料卸商業組合

富山縣衛生材料卸商業組合　十月二十二日設立

富山市中野町　理事長　福森亀太郎

組合員數十五

（『日本歯科醫師會定時總會議事録』より）

皇紀2600年記念歯科医学会開催

（東京／参加4,500人、11月７日～９日）

共立講堂 学士会館 一橋講堂 日大歯科医院にて

日本歯科医師会の動き

昭和15年（1940）

1. 1	歯科医療用金地金使用券の発行を大蔵大臣の許可を必要とする
1. 22	歯科用銀協会設立
3. 30	陸軍武官官等表（勅令）改正（陸軍歯科軍医）
4. 1	歯科用蒸和ゴム、臨床用精製水銀　日歯発行購入券にて購入
4. 6	特殊歯材製造協会設立
4. 18	国産歯科用バー協会設立
4. 23	歯科用バー輸入協会設立
5. 4	第13回ムシ歯予防デー（国民健康増進週間）「強い歯は母で作つて子で護れ」
7. 19	金地金使用券に関する件、道府県歯科医師会会長へ通知
10. ―	歯科医事衛生史前巻発刊
12. 7	第17回定時総会（役員改選）
12. 7	日歯「兵器等献納」道府県歯科医師会へ懇望　１口１円
12. 7	日本歯科医師会社会保険規程制定
―. ―	歯科医師数 23,214人

富山県歯科医師会の動き

昭和15年（1940）

6. 15	道府県歯科医師会長協議会開催（九段坂下軍人会館に於て）宮本俊治会長出席
10. 17	第２回北陸歯科医学会開催（金沢市西町、金沢公会堂）特別講演　日本歯科医学専門学校教授 医学博士 豊田 實 石川県歯科医師会副会長 医学博士 和田直樹
12. 6	第13回日本歯科医師会健康保険部長会議 今村彦治部長出席
12. 7	日本歯科医師会第17回定時総会　島田余三男議員出席（日本医師会館）

富山県内の動き

昭和15年（1940）

1. ―	大雪のため県内各地に大被害発生
3. 22	県産業報国連合会結成
7. 18	県、砂糖の切符制実施について各市町村長に通牒
11. 10	県内各地で紀元2600年奉祝式典挙行

世の中の動き

昭和15年（1940）

2. 23	職員・船員保険法施行令制定
4. 8	国民体力法を公布
4. 30	学校給食奨励規程を定む
5. 1	国民優生法を公布（16.7.1より施行）ロックフェラー財団寄附による公衆衛生院完成
6. 20	厚生省落雷のため類焼す、そのため医籍歯科医籍の一部焼失す
7. 7	ぜいたく品に関する七・七禁止令施行
9. 27	日独伊三国同盟を締結
9. ―	部落会、町内会、隣保班、市町村常会設置を通達
10. 1	第５回国勢調査 総人口73,114,308人
10. 12	大政翼賛会発足

入会者

昭和15年　堀井　富子　　大野　静夫

渡邊　親良

物故者

昭和15年　橋本　良信

昭和16年（1941年）

会長 宮本俊治　会員数134名

事務所々在地　富山市総曲輪429

（『都道府県歯科医師会要覧』より）

第十一回全国學校歯科医大会出席

6月14日～15日　秋田市にて開催

参加者　今村彦治　松浦三郎　菅田武雄

（『富山県学校歯科沿革史』より）

日本歯科医師会の歯科無医村全国調査

富山県　有医町村数　町　27　村　6

無医町村数　町　6　村　201

（『日本歯科評論1941（13）』より）

歯科診療報酬点数計算規程

4月1日、大正15年12月に定めた日本歯科医師会健康保険歯科診療報酬点数計算規程を大幅に改めた。また歯科診療点数を市部と郡部に分けた。

日歯の戦時体制下の決意

9月13日、日本歯科医師会は全国の各道府県歯科医師会宛てに戦時体制下の新たな決意を固めるために以下の項目を骨子とする要望書を送付した。

1衛生指導の強化徹底　2歯科医療の普及刷新

3非常救護の準備協力　4歯科器材の受護活用

5事務機構の整備充実　6歯科医師会の再組織

昭和16年　第二回兵器等献納

富山県歯科医師会 醵出金額 670円

日本歯科医師会の動き

昭和16年（1941）

1. 一	国民体力法実施に際し、歯科医師の管理医としての採用を求める上申書を提出
4. 1	歯科診療報酬点数計算規程実施 1点単価10銭とし診療点数を市部と郡部に区別した
5. 4	第14回ムシ歯予防デー（国民健康増進運動）
5. 一	歯科用バーは日歯発行の使用券が必要に
7. 1	歯科診療方針実施
7. 5	全国歯科医師会会長会議（東京）時局下の歯科医政完遂を期す
7. 25	兵器献納 飛行機1機 35,600円（陸軍へ） 内火艇1艇 20,000円（海軍へ）
9. 9	保険歯科医療講習会（金沢医科大学）（～11日）
9. 13	道府県歯科医師会への要望
9. 20	航空記念日に兵器献納陸軍飛行機命名式挙行 「愛国第630号歯科」と命名
10. 27	保険歯科医療講習会（東北帝国大学）（～29日）
10. 28	妊産婦口腔診査実施
11. 17	保険歯科医療講習会（名古屋帝国大学）（～19日）
11. 22	第18回定時総会
11. 22	日本歯科医師会社会保険規程改正
12. 16	詔書奉戴全国歯科医師大会
一. 一	歯科医師数 24,614人

富山県歯科医師会の動き

昭和16年（1941）

7. 5	道府県歯科医師会長協議会開催 日本医師会館に於いて　山下長藏会長出席
8. 31	国民健康保険組合普及状況（厚生省調査） 富山県 設立数 23　被保険者数 49,341
9. 9	保険歯科医療講習会（金沢医科大学、～11日）富山県から10名参加 目的：社会保険歯科診療及び事務取扱の趣旨を徹底する
10. 26	第3回北陸歯科医学会開催（福井市会議事堂）
11. 21	第14回日本歯科医師会社会保険部長会議　山下長藏部長出席（日本医師会館） 富山県（北陸3県）より協議題：高價薬注射薬の指定及其の報酬點数に関する件
11. 22	日本歯科医師会第18回定時総会　渡邊初太郎議員出席（日本医師会館）

富山県内の動き

昭和16年（1941）

1. 7	町村金五、知事に就任
2. 18	臨時飯米配給実施要綱制定実施を通牒
3. 31	県内の小学校が国民学校に改称
4. 1	富山県農民道場、富山県民道場と改称
10. 20	富山青果物配給統制会社設立
12. 8	町村知事が英米への宣戦大詔渙発について告論

世の中の動き

昭和16年（1941）

1. 11	新聞紙等掲載制限令を公布
2. 5	医薬品統制規則を制定
3. 1	小学校令を改正国民学校令を公布
3. 5	医療保護法を公布（10.1より施行）
4. 1	生活必需物資統制令を公布
4. 13	日ソ中立条約と締結
5. 7	医薬品及衛生材料生産配給統制規則を制定
5. 26	医事に関する専門委員設置
5. 28	海軍武官官階表改正（海軍歯科軍医）
6. 21	社会保険審査会を設け、保険制度調査会廃止
7. 1	国民優生法を施行、公立癩療養所を厚生省に移管
7. 25	英米、日本資産凍結を通告
8. 4	日本軍仏領インドシナに進駐
8. 8	医療保護法施行令公布
10. 16	大学等の在学年限、または修業年限の臨時短縮に関する勅令及文部省令公布
10. 18	東条英機内閣成立
11. 29	日本保健婦協会設立
12. 一	正月用もち米1人あて7合、清酒1升特配切符発行さる
12. 8	太平洋戦争起る
12. 15	医療関係者徴用令を公布
12. 16	戦艦大和竣工

入会者

昭和16年　芳尾　弘史　関　信一
谷井　三郎　大井ハツ子
魚津　佐一　岡本　正

物故者

昭和16年　岡本　弘

昭和17年（1942年）

4月　新会長 山下長藏

事務所々在地　富山市総曲輪429

（『都道府県歯科医師会要覧』より）

12月　新歯科医師会長任命

医師会新體制により新しく設立された本県医師会並びに歯科医師会に対し､12月31日付を以て４日県へ厚生大臣から設立認可の指令があり、同時に新医師会長に酒井修白氏、歯科医師会長に藤井義人氏を任命する旨発令があった。歯科医師会長に新任の藤井氏は富山市総曲輪に開業し、本年59歳、富山中学から東京歯科医専に学び大正13年以来富山陸軍病院の嘱託となっている。

富山県歯科医師会長に任命された藤井義人氏は、北日本新聞（昭和18年１月５日）の中で次のように語っている。「（前略）今日の時局は余りにも重大であり我々医師としては従来の観念で動くことは断じて許されるべきではないと考える。国民の健康を増進するため（中略）今後は積極的に街頭に進出して医療報国に挺身する決意が必要である（中略）国民の中に一人の病弱者も居ないよう活躍するのが私ども医師に課せられた重大使命であると信じ、正式任命の上は県下百五十名の歯科医師会員と共にこの信念で御奉公する覚悟でいます」

新醫師會長任命

酒井修白、藤井義人兩氏

積極的に奉公、

藤井義人氏談

（昭和18年1月5日　北日本新聞より）

日本歯科医師会の動き

昭和17年（1942）	
2. 3	歯科材料配給統制
2. 7	日本歯科用品配給統制株式会社設立。歯科材料と歯科薬品は全部統制品に指定
3. 16	保険歯科医療講習会（東京帝国大学）（～18日）
5. 3	第15回ムシ歯予防デー（健民運動）「良い歯でよく噛みませう」
8. 13	保険歯科医療講習会（大阪帝国大学）（～15日）
8. 17	保険歯科医療講習会（札幌医科大学）（～19日）
8. 21	医師会及歯科医師会令を公布 勅令第634号
9. 25	医師歯科医師一元化運動の通知
11. 12	歯科医師会改組に関する通知（ブロック会議６カ所）

富山県内の動き

昭和17年（1942）	
4. 1	配電統制令に基づき北陸配電株式会社設立
4. 9	県、かいにゅう立木伐採による軍需用材供出について、各市町村長に通牒
4. 20	売薬業者１県１社に統合
4. 21	県に統制課設置
6. 1	県営水力電気事業、日本発送電株式会社に現物出資される
12. 22	県内私鉄４社の合併認可

富山県歯科医師会の動き

昭和17年（1942）	
6. 5	高岡市覺校へ歯科医を増員
7. 18	北陸医界新体制協議会開催（金沢県会議事堂）
10. 17	第４回北陸歯科医学会開催（富山県歯科医師会館）
11. 5	国民健康保険組合普及促進運動実施に関する件　富山県内政部長より依頼
11. 20	国民健康保険組合普及促進運動（～30日）
12. 1	軍事扶助法施行細則改正 歯科醫療費點數計算規程によるものとする　１點に付 拾銭
12. 11	富山県歯科医師会設立議員選挙を開会（歯科医師会館）、午後３時から（選挙長・松能喜久次）
12. 15	富山県歯科医師会設立総会議員選学会に於いて当選 富山市、上新川郡、 婦負郡：藤井義人、 高岡市：大道憲治、 中新川郡：牧野 昶、 下新川郡：柚木 薫 射水郡、氷見郡、東礪波郡、 西礪波郡：渡邊初太郎
12. 31	富山県歯科医師会設立認可　富山県告示第十三號（昭和18年１月９日）

世の中の動き

昭和17年（1942）	
1. 9	国民勤労報告令施行規則に基づき学徒出動命令下る
1. 16	大日本翼賛壮年団結成
1. 18	日独伊新軍事協定調印
1. 19	医療関係者徴用扶助規則を制定
2. 1	衣料品の点数切符制実施
2. 1	技監制度を設く
2. 2	大日本婦人会発足
2. 18	売薬営業整備要綱を定む
2. 21	食糧管理法を公布
2. 23	国民医療法公布
4. 1	国民学校卒業児童にBCGを接種
4. 18	米陸軍機、本土初空襲
5. 20	翼賛政治会結成
6. 5	ミッドウェー海戦
8. 5	戦艦武蔵竣工
9. 1	青少年の国民登録実施
11. 1	大東亜省設置
11. 2	衛生事務を警察部から内務部に移管
11. 6	日本医師会解散総会
12. 10	健康保険法施行令の改正公布
12. 23	大日本言論報国会設立

入会者

昭和17年	中島　清則	平井　茂光
	島田　忍子	越野培名男
	小倉　直義	

物故者

昭和17年	永野　一彦	山下　敬松

昭和18年（1943年）

1月　官選会長 藤井義人　会員数139名

事務所々在地　富山市総曲輪439

（『都道府県歯科医師会要覧』より）

富山県歯科医師会の無歯科医村の挺身診療の計劃と其実施

富山県歯科医師会理事　渡邊初太郎

日本歯科医師会に報告せし計劃内容

最も医療に恵まれぬ個所から着手する事とし、本年度は春秋二回に分け第１回に利賀村を６月に、第２回に平村を11月に実施することとし１回に45名の会員が５日間宛の予定で出張挺身診療に従事することにした。

縣歯科醫師會主催講演會開催

７月27日午後１時より富山縣歯科醫師會館に於て開催。

講演：「歯科醫療の態勢」（奥村校長）、「最近の歯科補綴の態勢」（堀江教授）、「血液型と輸血の話」（米澤助教授）

（『歯科学報』48-９より）

北陸歯科醫學會第五回講演會

10月17日金澤市醫師會堂に於て午前九時より開催され、次の講演竝実示があり、更に輸血の実習を施行した。

・特別講演

１）防空救護に関する救急処置

１．血液型檢査並輸血術式（実示実習）

２．動脈結紮法

３．気管切開法（奥田義正博士）

２）総義歯製作法の理論と実際（無歯顎印象採得法実示）（松岡操一博士）

・會員研究發表

（『歯科学報』48-11より）

日本歯科医師会の動き

昭和18年（1943）	
1. 8	国民医療法に基く道府県歯科医師会の設立完了
1. 9	厚生大臣より日本歯科医師会設立委員任命（道府県歯科医師会長11名）
1. 15	日本歯科医師会臨時総会
1. 28	国民医療法に基づく日本歯科医師会設立認可 会長　血脇守之助　副会長　加藤清治 専務理事　西村豊治
2. 3	医師会及歯科医師会令第43条第２項の規定に依る厚生大臣の命令條項を地方長官に指示通牒
2. 15	日本歯科医師会設立総会開催 日本医師会館於て
3. 12	健康保険歯科医療養担当規定
3. 24	日本歯科医師会第一回定時総会開催　58名出席　富山県より藤井義人議員出席
3. 24	第１回保険部長会議開催　富山県より中島清作保険部長出席
3. ー	保険医、保険歯科医及び保険薬剤師の療養担当規則を制定
4. 1	日本歯科医師会保険医務規程施行
4. －	健保人頭割請負方式廃止
5. 4	健民運動齲歯予防強調日
5. 27	歯科医学専門学校卒業生の医専上級編入の上申
8. 3-6	歯科医師補習教育実施（15か所）
9. ー	日本歯科医師会会報第一号発行
ー. ー	歯科医師数 12,364人

県歯科医師会の動き

昭和18年（1943）	
5. 8	学校醫及学校歯科醫調査（５月15日迄に報告）
6. 1	無歯科医村挺身診療（五ケ山地方、～５日）45名の会員が従事
9. 5	第６回歯科医師補習教育（～８日）石川県河内村白山塾にて92名参加 富山県からは30名参加
10. 17	第５回北陸歯科医学会開催（金沢市殿町　金沢市医師会堂）
11. 7	第２回無歯科医村挺身診療（五ケ山地方、婦負郡、～11日） 第１隊：五ケ山地方（５～８日） 第１班：上平村　第２班：平村 第２隊：婦負郡 第１班：仁歩村、大長谷村（８～11日）　第２班：室牧村、野積村（７～10日）

富山県内の動き

昭和18年（1943）	
1. 1	交通事業大統合により、富山地方鉄道株式会社設立
4. 1	富山高等学校、官立へ移管 男女県師範学校統合
4. 22	坂信弥が、県知事に就任
6. 10	校地に雑穀作付けを学校長に通牒
7. 31	県下４銀行統合、北陸銀行誕生
9. 2	第六十九連隊に動員令
12. 18	宮市大丸富山店、丸越高岡店を株式会社大和の富山・高岡支店と改称

世の中の動き

昭和18年（1943）	
1. 16	国立健康保険療養所官制を公布
2. 2	保険医及び保険薬剤師の指定に関する件を制定
3. 12	薬事法を公布
6. 25	学徒戦時動員体制確立要綱閣議決定
6. ー	学生勤労奉仕法制化
8. 13	医薬品製造整備要綱を定む
9. 28	企画院及び商工省を廃止、軍需省を設置
10. ー	「在学徴集延期臨時特例」に関する勅令公布 学徒出陣
10. 6	薬剤師会令を公布
10. 10	教育に関する戦時非常措置方策を閣議決定
10. 18	統制会社法を公布
10. 23	医薬品及衛生材料配給機構整備要綱及び小売薬業整備要綱を定む
12. 21	都市疎開実施要綱閣議決定

入会者

昭和18年　佐渡　永貞　　近藤　秀雄
　　倉田　　卓　　宮本　乙男

物故者

昭和18年　藤井　義次

昭和19年（1944年）

國民體力管理醫委嘱

國民體力法施行令第十三條ノ規定ニ依リ昭和十九年度國民體力管理醫ヲ昭和十九年三月二十日左ノ通委嘱セリ

富山市—浅岡典常、宮島忠治、早見治顕、山下長藏、宮本俊治、中島清作、大島秋知、今村彦治、浦上則政、田谷壽夫、三羽邦定、松浦三郎、山崎安三、松能喜久次、坪田忠一、阿部清一、松田逸郎、平井茂光、本告武人、平野良久、高田育三

高岡市—柴　太郎、今井元信、小高啓三、島田榮吉、大道憲治、川岸吉之助、浦野與四郎、木下友榮、櫻木成一、清水清通、西田義孝、治郎丸亮吉、岡田正三

上新川郡—石黒宗次郎

中新川郡—佐渡永貞、牧野　昶、岡本　正、山本莊太郎、横田太一、佐伯清之助、飯田半六、三室長邦、奥平ユキエ、中川　武

下新川郡—奥川熊治、谷井三郎、久保田力、清水幸七、渡邊庄治、蓮本庄太郎、河村哲之助、柚木薫、近藤秀雄、阿部孫太郎、阿部彦太郎、大菅十造、片桐正義

婦負郡—城生越義、大井ハツ子、關　清子

射水郡—島田余三男、立浪次作、郷倉信一、岩井二三雄

氷見郡—倉田敬三郎、長谷川徳光、千鳥健二、時女フミ子

東礪波郡—湯浅　環、渡邊初太郎、松田外司、仲村音義、仲村義重、宮野龍吉、片之坂藤儀、新谷利次、近江貞之、宮岡宇平次、川口義門

西礪波郡—島田正三、菊池原八郎、神島俊一郎、吉村史郎、青木勝二、渡邊親良、石崎憲吾、伊東祐年、成瀬八郎

救護班を強化

厚生省に防空課が新設されたのに呼應して日本醫師曾、歯科醫師曾、薬剤師曾、看護婦曾等関係団体と連絡、全國の醫師、歯科醫、薬剤師、産婆、看護婦を打って一丸とする強力な救護陣を結成。（読売新聞、昭和19年３月８日より）

日本歯科医師会の動き

昭和19年（1944）

2. 24	第２回定時総会開催　東京丸の内　大東亜会館に於て　議員55名出席
6. 1	社会保険診療報酬算定協議会設立　医師側11人（歯科医師１人）、官庁側11人、公立病院団体側11人　合計33人
8. 11	飛行機献納（陸海軍へ）
8. 16	日本歯科医師会会報発刊中止
8. 16	日歯回覧板発行（毎月２回）
8. ー	防空救護指導者講習会（各地）
8. ー	第３回兵器献納
9. 11	「疎開学童に対する医療保健指導に関する件」都道府県歯科医師会に協力を通知
9. 29	「全歯科医師憤激顯現運動実施に関する件」都道府県歯科医師会長に通知
11. 15	陸軍飛行機「愛国5008号全歯科第３号」と命名
ー. ー	日歯、会員叱責激励文

富山県歯科医師会の動き

昭和19年（1944）

3. 20	国民體力管理醫委嘱　歯科醫師89名　富山県告示第百七十三號（昭和19年３月23日）
4. 23	健康保険診療報酬点数改正に当ってブロック別初回保険医療事務打ち合わせ会開催（石川にて）

富山県内の動き

昭和19年（1944）

1. 18	県下16社軍需会社指定
2. 25	西村彰一、知事に就任
3. 2	女子勤労挺身隊員250人軍需工場へ
7. 12	県、県内中等学校約40校5,000人に通年学徒動員を発令
7. 25	岡本茂、知事に就任
8. ー	東京都より県内各地へ第１次学童1,200人集団疎開

世の中の動き

昭和19年（1944）

2. 25	決戦非常措置要綱を閣議決定
5. 17	学校身体検査規定を定む
6. 19	マリアナ沖海戦
6. 30	「学童集団疎開促進要綱」を閣議決定。米軍本土空襲激化
6. ー	社会保険診療報酬算定協議会設置
7. ー	サイパン島陥落
7. 22	東条内閣総辞職小磯内閣成立
10. 19	厚生省衛生局長より「疎開学童の歯科診療に関する件」、各都道府県長官宛に通知
12. 7	東南海大地震（M7.9）

入会者

昭和19年　和記　憲一　藤井　三郎　杉江　玄己　石多　謙三　吉岡　達雄　木村　美明　高広　勇次

物故者

昭和19年　和記見津吉　大金　均　鷹島　慶二　仲村　義重　近江　貞之

歯科医政お国巡り　（34）富山県の巻　（『日本歯科評論1944（40）』より一部抜粋）

日本歯科評論　昭和16年１月より府県を巡り來つた「歯科医政お国巡り」に当時の富山県歯科医師会及び会員の様子が記載されている。

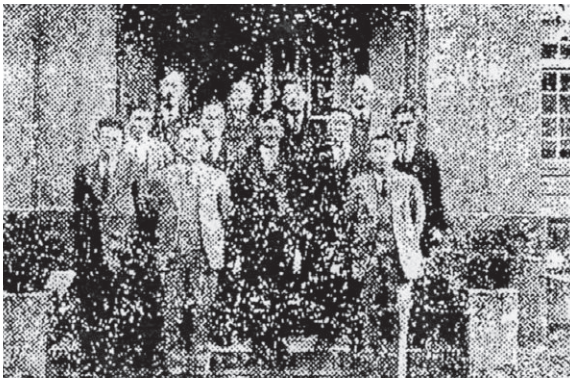
富山県歯科医師会は現在會員百四十二人、富山市、高岡市、中新川郡、下新川郡、婦負郡、射水郡、氷見郡、東礪波郡、西礪波郡の九支部に分かれていて、その陣容は次の通りである。

会　　長　藤井　義人（富山）
副 会 長　中島　清作（富山）
専務理事　岡崎　　仁（富山）
理　　事　松能喜久次（富山）　松浦　三郎（富山）　三崎　政男（高岡）
　　清水　清通（射水）　渡邊初太郎（東礪波）

支部役員

支部名	支部長	副支部長	議員	予備議員
富 山 支 部	浦上　則政	山崎　安三	小林　金次	今村　彦治
高 岡 支 部	大道　憲治	三崎　政男	大道　憲治	關　剛三郎
中新川支部	牧野　　祁	山本莊太郎	山本莊太郎	飯田　半六
下新川支部	柚木　　薫	阿部彦太郎	渡邊　庄治	
婦 負 支 部	城生越　義	三羽　邦定	城生越　義	關　　清子
射 水 支 部	島田余三男	立浪　次作	岩井二三雄	
氷 見 支 部	倉田敬二郎	長谷川徳光	長谷川徳光	
東礪波支部	新谷　利次	宮岡宇平次	川口　義門	仲村　義重
西礪波支部	石崎　憲吾	上田　　馨	神島俊一郎	青木　勝二
特別議員	宮島　忠治	山下　長藏	湯浅　　環	
顧　　問	阿部孫太郎			

富山にて
（前列左より）山下長藏　和記見津吉　藤井義人　松浦三郎　高津主筆
　　小林金次　浅岡典常　本告武人　中島清作
（後列左より）岡崎仁　小泉直久　浦上則政　松能喜久次　菅田武雄
　　芳尾弘文　林弘　菅洞栄蔵　平野良久



福野にて
（前列）仲村義重　渡邊初太郎　宮岡宇平次
（中列）伊東祐年　川口義門　高津主筆　神島俊一郎　成瀬八郎
（後列）仲村音義　上田馨　石崎憲吾　新谷利次

富山

●藤井義人君　東歯第一回の元老、午前中は毎日衞戍病院通ひである。長男義次君も東歯を出で開業後病歿、今は次男が醫院にゐる狩獵もやるが、何と云つても晩酌に二本ないと夜の過せぬ人、相當苦勞してゐるらしい。

●和記見津吉君　日歯第二回の元老ながら若々しく見える。鐵砲をやり酒を好むこと藤井君に同じ。

●山下長藏君　田村一吉君の清衷會出身、挺身診療をした五ヶ山部落の出身だといふから平家の落人の後裔かも知れぬ。前會長である一寸利かぬ氣の面構えだが、おはら節の大家だといふから案外軟かいかも知れぬ。

●浦上則政君　富山の支部長だが好々爺である。

●岡崎仁君　專務理事の大役を引受けて、醫院の方も一人で切り廻して忙しいのだが歸還勇士だけに體力に物をいはせてよく働く。大食家の評判高く、餅を三十二切（約二升）食つたと會長が折紙をつけた。

●小泉直久君　一言居士だと誰かが云つたが、相當意見のある男で外科には興味が深いらしい。

●松浦三郎君　名會計理事である。それで松浦君の全般がわかるよと會長がいふ。

●菅田武雄君　三味線、謠曲、尺八、カメラ等々並べたてれば際限がないが、要するに熱し易く冷め易い男ですヨと自ら云ふ。

●松能喜久次君　牧謙治君のオフイスに社の松田君などと一緒にゐたといふ。禿げつ振りよろしく挺身診療の時、新聞社の寫眞班に之を撮られたといふ。二本ばかり缺けた歯を、有床義歯にして入れたり外したり玩具にしてござる。

●中島清作君　副會長であると同時に社會保險は創始時代から關係してゐる權威者である。女の兒ばかり四人、長女は前掲、次女は女高師にゐる。碁は一級だといふ。

●平野良久君　不二越の醫員、歸還勇士である。

●本告武人君　もとをりと訓む。不二越の歯科醫長、まだほんの診療所が出來た時、日歯から推薦されて赴任した人、歯と民族衞生の山崎博士と同期だといふ眞面目な男である。

●菅洞榮藏君　正に落城せんとしてはゐるが遊廓の眞ん中に開業して酒は呑まず堅い一方、宇奈月に分院のあつたことがある。

●芳尾弘文君　酒席の人氣者で、又運動は萬能選手である。防空演習の名指導者だといふ。

●浅岡典常君　眞面目な人である浅岡君は日が暮れると寝る人だと會長がいつたら頻りに辨解してゐたといつた人である。

●小林金次君　元老である。先年輕い腦溢血をやつたがもう大丈夫らしく酒も呑んでゐる。此人が眼を細くして笑ふととても可愛いゝお父さんだ。

　も一人元老に宮島忠治君があるがお目にかゝれなかつた。銀座の敬文館にゐる山本啓次郎君は此地の出身である。

福野

●新谷利次君（井波）　東の支部長である。年彦と姓名判斷か何かで改名組だ。書生時代河村利次郎氏やその頃神田にゐた杉本昇二君の門下にゐたことがあり金澤の田上順吉氏の養子になつたことのある人、頗る思想家で、坊主になつてゐたらもつと偉くなつてゐたかも知れぬといふ男だ。

●宮岡宇平次君（城端）　前町長の息で、大

地主だから醫院の方はどうでもいゝといふ恵まれた人、それでゐて碁を娯しむ位の聖人だといふ。

●川口義門君（大鋸屋） 美男子である。踊りがうまく、酒童のほまれが高い。

●仲村音義君（福野） 佐渡の出身だといふ。釣の大家である。御曹子義重君がもうしつかりしてゐるから樂隱居の形である。親と子と一緒に開業してゐて調子のいゝのは息子が偉いからだと喝破したら親父憤慨し乍ら悦に入つてゐた。正にいゝ御曹子である。

●渡邊初太郎君（出町） 精稈な男である。縣の理事として健民部長を承つてゐるが蓋し適役である。碁は二級だといふ。御曹子は金澤醫大を出て、海軍々屬としてスマトラへ出かけるといふ。

●石崎憲吾君（福光） 西の支部長である。福光の素封家の出で、醫院も忙しく所得税は縣下第一だといふ。町議であり翼壯の幹部であり、附近の數會社の重役でもある。おとなしい好漢といつた人物だ。

●成瀬八郎君（福光） 律義さうな人小學校の先生でもして來た人のやうだ。

●伊東祐年君（福光） 青年歯科醫で俳句をやる。

●上田馨君（石動） 四國阿波の産である。高岡の親友三崎君を訪ねて來た關係で石動に居据る。日歯在校中は相當の猛者だつたと自ら任じてゐるのであるが（同校の庭球部の創始者である）まことに痛快な男である。保守的な北陸の地で外來人たる彼が町會議員となり警防團の副團長となり更に在鄉軍人會の分會長（彼は中尉殿である）をやつてゐるところ正に偉い。

●神島俊一郎君（石動） 私と同じ頃の夜學出、づつしりとした體軀と比較的の雄辯家で、よく諸國の會合に出て歩く。釣の大家だといふ。息子俊喜君が高歯を出てもう働いてゐる。音樂家だといふ。

東の出町に湯淺環といふ元老がゐる。歯科醫籍五八三だから縣下第一の長老だらう。子供を悉く失つてまことに淋しい境涯だといふ。石動に吉村史郎君といふ詩吟の大家がある。

高岡

●三崎政男君 日歯在學中は級長だつたといふ秀才、香川縣の産で人なつつこい侠客風な男高岡一の流行家だといふ。鐵道醫でもありなかなか立派なオフイスである。金光教の信者だといふことを特記する。

●浦野與四郎君 小鳥と骨董いぢりを娯しみとし、世話好きと酒好きだといふ。

●木下友榮君 金澤にゐた人、旅行が趣味、誰か、株成金だといふ。

●金山吉雄君 才子肌の男、讀書と碁といつた地味な趣味。

●菅野宜紀君 高岡に開業してゐるが自宅が附近にあつて、そこの村會議員だといふ。酒は強いといふ。

●島田榮吉君 投網の名人である。

●櫻木成一君 非常な讀書家だといふ。一寸坊さんのやうなタイプの人だ。

●吉岡二枝さん 紅一點、夫君は尺八の大家でたびたび放送もせられるといふ。

●關信一君 土地の名門の出、令兄は大きな外科病院を開いてゐる。そのすぐ近くでやつてゐるので分室の觀がある。小男ながらなかなかよく氣のつく男で、テニスをやるといふ。

●大道憲治君 日歯六回出、始めは獨法志願

で在學中友人と吉原へのして歩く内、その内の者が大喧嘩を始めて、とゞ新聞記事となりそば杖を喰つて放校され、その揚句歯科醫にも學校があるといふことを見つけて日歯へ遖入つたのだといふ。釣と鐵砲が趣味。

魚津

●柚木薫君（入善） 木下君が糞眞面目なだけですヨといふ。全く克明な支部長である。カメラは相當得意らしく、碁も少々うつ。

●蓮本庄太郎君（櫻井） 櫻井町は新名稱で三日市といつた方が通りがよい。「のんきなとうさん」式の好々爺で、釣と盆栽が趣味といふのも相當である。

●河村哲之助君（櫻井） 五尺六寸の長身、外科が相當得意らしい。甘黨だといふ。

●阿部彦太郎君（泊） これも同じ寸法の大男、元老孫太郎君の御曹子である、マゴ太郎、ヒコ太郎で君の子はヤシャゴ太郎かと聞いたら、どうも人が笑ふから弘一とつけたといふ。小樽にしばらくゐたといふ。謡、尺八、弓、釣等々が道樂、おやぢさんは健在かと聞くと、煙草ばかり吸つてゐるといふ。

●魚津佐一君（舟見） 支那事變に從軍した勇士である。學生時代角力の選手でいゝ體格をしてゐる。最近夫人を失つたといふ。

●北山靜次君（生地） 謡と釣が趣味、時々趣句を發すといふ。

●近藤秀雄君（入善） 最近の開業。品川にしばらくゐたといふ好もしい青年、トロンペットを吹くともいふ。

●清水幸七君（經田） 美男であるギタァの名手であり、カメラも相當の腕前だといふ。

●谷井三郎君（魚津） ハーモニカの名手、このところ三人よれば立派なバンドが出來さうだ。奥さんと仲よくハイキングを樂しむといふ。

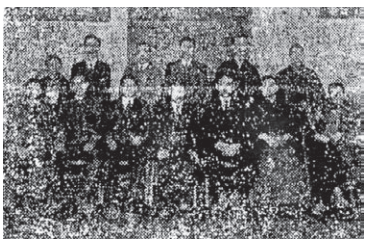
●木下庄作君（魚津） 正確にいふと下野方村なのだが道一重で魚津であり電鐵魚津の驛前である。八方美人で、よく氣の利く男である。カメラ相當の腕前らしい。

●松下等さん（泊） トシ子さんと訓む。漢字だけ書いてあると男と思はれる。今日の紅一點、大森出で横濱に開業してゐたことがあり最近鄉里へ開業せられた方、なかなかさばけた女性である。

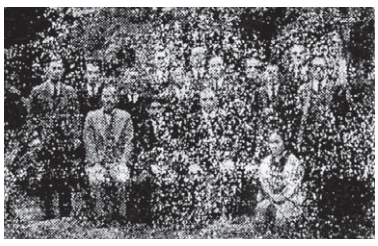
●田中直次君（生地） 生家が二十割子の問屋だけに藝人である。又菊造りの名人だといふ。

●奥川熊治君（魚津） 淺草の五木田氏の門下だつたといふ、謡をやる。

●岡本正君（雄山） 雄山町も新名五百石といつた方がよくわかる。弘君の舍弟で同君歿後の醫院を護つてゐる。哲學家といふか、令兄の死に非常なショックを感じたといふので少し妙なところもある。



髙岡にて
（前列左より）關信一　上田肇　三崎政男　高津主筆
浦野與四郎　木下友榮　清水清通
（後列左より）吉岡二枝　菅野宜紀　金山吉雄
島田榮吉　櫻木成一　會前書記



魚津にて
（前列）柚木薫　高津主筆　魚津佐一　松下等
（中列）岡本正　谷井三郎　蓮本庄太郎
北山靜次　清水幸七　近藤秀雄　木下庄作
（後列）田中直次　河村哲之助　奥川熊治
阿部彦太郎

昭和20年（1945年）

北陸三県歯科医師医科転科講習会

6月1日、医師不足を補うことを目的に、歯科医師に一般の専門医学教育と実習を行うため、金沢医大に養成機関が設けられ、北陸3県から希望会員約100名が受講した。延日数55日、延時間330時間の教育と実習が行われ、富山県からは国家試験に2名が合格した。

北陸三県歯科医師医科転科講習会

富山市の空襲

8月1日、B29約170機は夜半約2時間にわたり富山市付近を焼夷攻撃し、全人口の66％が被災した。死亡者は2,275名を、重傷者は約1,900名を数えた。

富山空襲により次の富山市会員が死亡した。松浦三郎、植田実、北森愛子、藤井三郎。なお、会員近親者では永森収夫人も亡くなった。戦災会員は、永森、松浦、菅洞、金森、小林、家城、植田、松能、佐渡、和記、山下、織田、分田、大島、平井、堀井、本告、宮島、山崎、今村、三羽、赤祖父、浅岡、阿部、中島、早見、宮田、芳尾、菅田、石谷、小幡、杉江。

北陸地区歯科医師会事務協議会

11日5日、北陸地区歯科医師会事務協議会が石川県で開催された。

ここで、以下の説明・指示がなされた。

1．戦災復興対策に関する件

2．歯科器材に関する件

3．社会保険診療費の適正化に関する件

日歯は、混乱している歯科医師の当面の生活を守り、診療に従事することを求めた。

日本歯科医師会の動き

昭和20年（1945）

2. ―	「歯科医師手帳」発行
3. ―	戦時特例の勅令により総会は開催せず、総会の議決を要する事項は厚生大臣の許可を得て会長が処理
7. 27	保険歯科医に対する戦災慰労金支給手続の方法に関して都道府県歯科医師会に通知
10. 27	事務協議会（8ブロックで開催）
10. ―	罹災歯科医師調査を実施
11. 6	日歯主催、近畿歯科医師会事務協議会（滋賀県）
11. ―	歯科医師会を自主的運営
11. ―	金銀、又は白金の取引及び使用等の禁止
11. ―	歯科医師会令改正公示、現役員任期は昭和21年2月10日までとする
12. ―	医療保健紙発刊

富山県歯科医師会の動き

昭和20年（1945）

6. 1	医師試験の試験前講習会（6.1～7.30） 延日数55日間、延時間330時間、金沢医大にて 北陸地区より約100名参加 国家試験　富山県から2名合格
11. 5	北陸地区ブロック別歯科医師会事務協議会開催（石川県） 新潟 長野 富山 石川 福井 協議内容　戦災復興対策、歯科資材　等

富山県内の動き

昭和20年（1945）

1. ―	大雪、大被害発生
5. 31	県国民義勇隊結成
7. 16	富山・高岡両市の国民学校28校が初等科の全授業停止
8. 1	B29、174機富山市を空襲
8. 15	岡本知事、終戦に当たり県民に告論
8. 17	松村謙三、厚生大臣兼文部大臣に
10. 10	県内の4乗合自動車会社、富山地方鉄道株式会社に統合
10. 27	吉武恵市、知事に就任
12. 20	富山軍政部が電気ビルに設置される

世の中の動き

昭和20年（1945）

2. 4	ヤルタ会談開催
3. 7	勅令「医師会及び歯科医師会及び薬剤師会令に関する戦時特例の件」
4. 2	内閣より戦時医療措置要綱が出される
4. 5	勅令医師免許の特例に関する件公布（歯科医師の医師試験）
7. 17	ポツダム会談
8. 6	広島に原子爆弾投下
8. 9	長崎に原子爆弾投下
8. 15	日本無条件降伏。第二次世界大戦終結
9. 22	GHQ、公衆衛生対策の覚書を日本政府に示す
10. 24	国際連合発足
11. ―	歯科医師会令、医師会令第1次改正（歯科医師会の民営化）
12. 22	労働組合法を公布

入会者

昭和20年　米沢　卯一

物故者

昭和19年　松浦　三郎　　北森　愛子
　　藤井　三郎　　植田　　実

昭和21・22年（1946年～1947年）

終戦直後の富山県内医療施設の状況

終戦直後の富山県在住の医師は536名、歯科医師203名であったが、戦争終結に伴う復員者、引揚者が増加した。医師、歯科医師の復員、海外引揚者の開業又は病院に勤務した者は医師86名、歯科医師16名であった。戦災地であった富山市は全医療施設を焼失したが、その復旧は順調で病院施設４、診療所43、歯科診療所40が復帰した。

医師、歯科医師、病院、診療所、歯科診療所数

医師610名（市部231、町部207、村部182）
歯科医師196名（市部72、町部99、村部25）
病院数48（結核療養所を含む）
診療所435（市部119、町部159、村部157）
歯科診療所187（市部58、町部96、村部33）
無医地域　18村

歯科医師会の改組

国民医療法下の歯科医師会は当然改組され、官選特別職役員制度を廃止し、会員から選出された代議員会または総会で選出することが決まった。日本歯科医師會では改組審議会をつくって審議をはじめた。

新生歯科医師会の条件

(1) 新生歯科醫師會は民主的結集と民主的役員の選擧により、民主的結成を完了することを絶對條件とする
(2) 新生歯科醫師會の性格をパンフレット又は其の他の宣傳によって、會員及一般に周知せしめること
(3) 現在の役員は、新生歯科醫師會の圓滿なる結成と其の發達に極力援助を與へること

昭和21年４月～22年10月まで中島清作氏が県歯会長を務めた。

富山県歯科医師会の動き

昭和21年（1946）	
4. ―	中島清作　会長就任（～22年10月）
昭和22年（1947）	
10. ―	医師会、歯科医師会および日本医療団の解散等に関する法律の施行に関する制令公布と同時に本会は解散となる

日本歯科医師会の動き

昭和21年（1946）	
2. ―	厚生省衛生局医務課を予防課に改称し、所掌事項にう歯が加わる
2. ―	臨時総会開催。大正８年就任の血脇会長病気のため辞任、加藤清治会長を選任
2. ―	改正歯科医師会令による日本歯科医師会執行部成立
11. ―	日本歯科医師会回覧板第29号にて絶版
12. 6	日歯第５回臨時総会（東京都歯科医師会館）「歯科医師会改組要項案」作成確定
12. ―	日本歯科医師会、歯科医師会改組要綱案発表
― ―	歯科医師数 24,273人
昭和22年（1947）	
4. 1	第１回歯科医師国家試験実施　受験者数1,079名（春・秋２回実施）
5. 16	第１回日本歯科医学大会開催（東京）会費30円
5. ―	日本学校衛生会歯科医学部会発足（～18日）（日本学校歯科医会の前身）部会長　奥村鶴吉
8. 8	日本歯科医師会解散等経費、都道府県歯科医師会会員１人当たり30円の特別会費徴収
9. 15	厚生省より新定款認可
10. 31	官制日本歯科医師会解散
11. ―	社団法人日本歯科医師会設立認可
12. 26	加藤清治会長辞任、西村豊治会長代行
― ―	この年、床用アクリルレジン発売

世の中の動き

昭和21年（1946）	
1. ―	天皇人権宣言
2. 17	金融緊急措置、新円切替
3. ―	社会保険制度調査会（国）設置
4. 15	連合軍、歯科教育審議会設置指示
5. 3	極東国際軍事裁判（東京裁判）開廷
5. 30	歯科医学専門学校を大学制度に改める
7. 19	東京歯科大学が設立認可
8. 27	東京医科歯科大学歯学部設立認可
8. 30	歯科医師国家試験制度を制定
10. 2	GHQ、歯科医師会改組指令
11. 3	日本国憲法公布
昭和22年（1947）	
4. 20	第１回参議院議員選挙
4. 31	教育基本法・学校教育法公布
4. ―	新学制制度実施
5. 3	日本国憲法施行
6. 3	片山哲連立内閣成立
9. 1	健康保険法改正　甲乙２区分に改変１点３～４円 地域差
9. ―	健康保険診療報酬算定協議会設置
9. ―	労働省設置
10. ―	国勢調査
10. ―	医師会ならびに歯科医師会解散に関する法律公布
12. ―	児童福祉法公布
12. ―	国民医療法第１次改正

一世紀録

富山県歯科医師会100年史

第3部　昭和23年―昭和63年度

昭和23・24年（1948年～1949年）
社団法人　富山県歯科医師会設立

■会員数　198名（昭和23年2月5日設立時）　200名（昭和23年4月1日現在）　211名（昭和24年4月1日現在）

昭和23年2月5日　社団法人富山県歯科医師会設立

金森執行部発足（昭和23年２月～24年３月）

会　　長	金森保芳
副 会 長	本告武人　横田太一
監　　事	三羽邦定　田谷壽夫
日歯代議員	岡田信次
事 務 所	富山市常盤町17

昭和23年4月　日本歯科医師会佐藤執行部誕生

会　　長	佐藤運雄
副 会 長	石川周策　西奥喜與志
専務理事	沖野節三　中村恆吉
理　　事	市川鶴男　林　　了
	與五澤正　中澤　勇
	金森保芳　垣見庸三
監　　事	正木史郎　田島時博

金森保芳県歯会長が日歯の理事に就任。

福井大地震への金森会長の対応

昭和23（1948）年６月28日午後５時14分に福井地方を襲った大地震は、その震度は関東大震災に匹敵する強震で、福井県の大部分と石川県の一部を一瞬の間に壊滅的な惨状にさらした。金森県歯会長・日歯理事は７月３日から３日間、中島県歯理事を伴い、福井、石川両被害地を踏査し罹災会員を見舞い訪問し、日歯に概況報告をした。富山県は福井、石川とは地方的特殊関係もあり、福井県罹災会員へ見舞金２万円を贈呈した。

第2代会長に今村彦治氏（昭和24年４月～26年３月）

会　　長	今村彦治
副 会 長	横田太一　桜木成一
監　　事	三羽邦定　田谷壽夫

富山県歯科医師会の動き

昭和23年（1948）

2. 5	新制富山県歯科医師会（社団法人富山県歯科医師会）発足（富山市常盤町17）
2. 5	金森保芳　会長就任
2. 5	委員会は学術委員会、裁定審議委員会の２委員会
3. 12	社団法人呉山以西歯科医師会発足
8. 21	北陸歯科医学会（金沢市、～22日）
10. 16	北信学術会議（日歯共催）（金沢医科大講堂、～17日）

昭和24年（1949）

4. 1	今村彦治　会長就任
6. 29	税務懇親会
9. 13	保険歯科医業指導講習会　中新川郡（上市保健所）
9. 14	同上　富山市・婦負郡・上新川郡（富山保健所）
9. 16	同上　高岡市・氷見郡・射水郡（高岡商工会議所）
9. 19	同上　下新川郡（桜井保健所）
9. 22	同上　東砺波郡・西砺波郡（福野保健所）

日本歯科医師会の動き

昭和23年（1948）

6. 1	むし歯予防教育実践強調運動 ムシ歯予防デー復活「よい歯でよく噛みませう」（～10日）
6. ―	「日本歯科医師会会報」発行（５回のみで中止）
7. ―	「薬事法」「医療法」改正「歯科医師法」公布 ※死亡診断書作成不可と明記される（～1953年まで）
8. 1	日歯内に日本歯科医学会発足
8. ―	社会保険診療報酬算定協議会設置
11. ―	「日本歯科医師会雑誌」発刊
―. ―	歯科医師数 27,715人

昭和24年（1949）

4. ―	三志会（現在の三師会）設立
5. ―	初の歯科衛生士養成機関７校開所
5. ―	歯科医師法第１次改正
6. 1	ムシ歯予防デーが口腔衛生週間となる（～７日）「からだも心も輝くよい歯」
8. ―	日本女子歯科厚生学校開校（初の歯科衛生士養成学校）
9. ―	社会保障制度審議会
―. ―	歯科医師数 28,108人

世の中の動き

昭和23年（1948）

4. 1	新制高等学校が発足する
5. 12	厚生省が母子手帳の配布を開始する
7. 20	国民の祝日法が公布される
10. 15	第２次吉田茂内閣成立
11. 11	GHQが企業合理化３原則を指令
11. 12	極東国際軍事裁判で東條英機ら25被告に有罪判決
12. 10	国連総会で世界人権宣言が採択される
12. 18	GHQが経済安定９原則を発表

昭和24年（1949）

3. 7	ドッジ・ライン実施、以後デフレ不況深刻化
4. 4	北大西洋条約機構（NATO)設立
4. 23	１ドル360円の単一為替レートが実施される
6. 1	日本国有鉄道（国鉄）・日本専売公社が発足する
8. 26	シャウプ使節団、日本の税制改革に関する報告書提出（シャウプ勧告）
11. 3	湯川秀樹がノーベル物理学賞受賞
12. 26	身体障害者福祉法が公布される

昭和25・26年度（1950年1月～1952年3月）

■会員数　216名（昭和25年4月1日現在）　222名（昭和26年4月1日現在）

富山県歯科医師会会報創刊

本会と会員の連絡機関の一環として、昭和26（1951）年７月に第１巻第１号（創刊号）が発刊された。年に１、２回の総会のみでは、会員の意見を十分に聞くことができない等のことで、会報を通じて、本会および会員の近況報告、歯科医業を行うための必要伝達事項の掲載、会員の意見や研究、発表の場として、また各会議の決議事項の紹介の場として、本県歯科医師会への貢献を目的とする。

第１巻第１号の記事としては、浦野與四郎会長の挨拶、歯科保険医指導雑感、新制歯科医師会の歩み、北信地区歯学大会出席、代議員会報告、常任委員会委員名、健康保険疑義解釈など、情報提供会報としての役割を果たしている。

発行は総務委員会が行い、第１巻第１号発行責任者および編集委員は、大道憲治先生、和記憲一先生、家城圭一先生、岡田信次先生であった。

富山県歯科医師会会報創刊号（昭和26年７月発行）

富山県歯科医師会の動き

昭和25年（1950）

6. 23	保険歯科医業指導講習会（本会）
10. 15	北信５県社会保険協力委員会

昭和26年（1951）

4. 1	浦野與四郎　会長就任 副会長　永森　収　専務理事　岡田信次 理　事　山本荘太郎、河村哲之助、川口義門、松島正康
6. 19	日本歯科医師会保険協力委員会総会（日歯）（山本社会保険委員）
6. 21	常任委員会設置決定 総務・学術研究・財政・社会保険・厚生の５委員会
6. 27	北信地区歯科医学大会（新潟市公会堂）（山崎学術委員長）
7. 26	富山県歯科医師会報発刊（第１号）
9. 3	社会保険講習会（厚生省、日歯共催）（和記総務委員、～５日）
9. 23	社会保険指導講習会　呉東地区（富山保健所）
9. 24	北陸３県対抗歯科野球大会（金沢市・桜ヶ丘高校）
9. 30	社会保険指導講習会　呉西地区（高岡保健所）
10. 5	第１回全国学校保健大会・全国学校歯科医師協議大会（学校歯科医令公布20周年記念、北九州・福岡市）（～８日）
10. 13	北信５県社会保険協力委員会（芦原温泉）（栗山委員長）
10. 14	北信５県ブロック会議（芦原温泉）（浦野会長ほか２名）
10. 28	火災保険代理店業務開始（興亜火災）
11. 20	日本歯科医師会緊急会長会議（日歯）（浦野会長）
12. 1	社会保険対策委員会総会（日大歯学部）（浦野会長）
12. 2	富山県歯科医師政治連盟結成（浦野委員長、永森副委員長）
12. 2	本会功労者表彰（藤井義人、小林金次、中島清作、宮本俊治、山下長蔵）

昭和27年（1952）

2. 23	富山県学校衛生会大会（西砺波郡福岡町・福岡中学校）
2. 24	富山県学校衛生会歯科部会大会（富山市議場）
3. 16	社会保険講習会（富山保健所）

日本歯科医師会の動き

昭和25年（1950）

3. ―	中央医療協議会（中医協）発足、歯科から２名の委員
6. 1	口腔衛生週間（～７日） 「みんな受けよう歯の検査」「歯の衛生も新しい世界へ」
6. ―	第１回全国歯科医師会会長会議開催
―. ―	歯科医師数 27,420人
―. ―	この年、ペニシリン臨床使用開始

昭和26年（1951）

4. 6	日本歯科医師政治連盟結成、自治庁に届出（29年解散）
4. ―	東京医科歯科大、大阪大学歯学部認可
6. 1	口腔衛生週間（～７日）「いつも清い歯、丈夫なからだ」
10. 28	日本歯科衛生士会創立
11. 20	日歯連盟総辞退決議（１点単価騒動）
12. 1	日医は、社会保険問題で保険医総辞退を敢行
―. ―	歯科医師数 28,908人
―. ―	この年、クリストバライト埋没材、14Ｋ合金、歯冠色即重レジン発売

世の中の動き

昭和25年（1950）

4. 15	公職選挙法が公布される
6. 25	朝鮮戦争勃発
7. 8	GHQ、警察予備隊を創設
7. 11	日本労働組合総評議会（総評）が結成される
7. ―	GHQによるレッドパージ開始
12. 13	地方公務員法が公布される

昭和26年（1951）

5. 5	児童憲章が制定される
6. 21	日本、国際労働機関（ILO）および国連教育科学文化機関（ユネスコ）に加盟
9. 8	サンフランシスコ講和会議開催 対日講和条約・日米安全保障条約調印、1952. 4 .28 発効
10. 15	戦後初の民間航空機が東京ー大阪ー福岡間を運行

昭和27・28年度（1952年4月～1954年3月）

■会員数　223名（昭和27年4月1日現在）　228名（昭和28年4月1日現在）

富山県歯科医師会40周年記念式典開催

昭和28（1953）年10月18日、歯科医師会40周年記念式典が開催された。当日は東別院にて午前９時より45名の物故会員の慰霊祭がしめやかに行われた後、富山市千歳町薬業会館に場所を移し、11時30分より記念式典が開催された。

大正３年にわずか10名によって設立された富山県歯科医師会は40年を経て230名となった。藤井義人、小林金次、大道憲治の三氏が功労者表彰を受けた。

昭和28（1953）年11月発行の富山県歯科医師会報第３巻第12号に、大正３年の本会創立に功労があり三期会長を務めた藤井義人氏の40周年回顧談記事があるので概要を紹介する。

大正元年12月をもって開業するも、富山県には何等統制のとれた歯科医師会もなく、医療担当者として何を根拠に患者の医療費をもらえばよいか困惑した。

県庁からも口腔衛生の啓蒙指導をするように指示があってもこれを処理する機関もないので、何としても歯科医師会を設立して医事行政の道を立てるべきと深く信じた。まず県衛生課を通じて地方長官に懇願することとした。当時の歯科医師会は内務省令によれば10名以上の会員がなくてはならず、かつ郡市歯科医師会が設立されてから県歯科医師会が設置されるのが建前であった。これでは設立まで何年も要することとなるので、なんとか特別の計らいしていただきたいと再三お願いをした。それでは内務省へ申請を出してみるということになったが、当時県内には９名の歯科医師しかおらず、金沢市の清水杢平氏にお百度詣りをして了解をしてもらい、10名にして申請にこぎつけた。

大正３年３月に衛生課より面談の呼び出しがあり、かねて出願中の県歯科医師会設立の件を許可するから、早急に会の責任者を届けるようにとのことであった。ただちに業界の先輩島川安次郎氏、泊町の阿部孫太郎氏、高岡市の永野一彦氏と相談の結果、初代会長を島川氏に決し県庁にその手続きを了し、ここに初めて富山県歯科医師会が誕生の産声をあげた。

以来昭和17年に至るまで歴代会長は県の衛生課と緊密な連絡の下に適材適所に産婆役を務めたのであります。ところが昭和18年東條内閣が生まれるや翼賛会の設立をみ、各府県の歯科医師会会長は総理大臣の推選により之を定る事とし19年３月をもって翼賛会富山県支部顧問並歯科医師会長に推選されたが、一応受け入れを拒絶し、病院長、連隊長、憲兵隊長の意見を聞きたるところ、軍官民一体となり堅き決意で行かなければ此の戦争は勝ち抜くことが出来ないのであるから快く承諾すべしとなり、県庁に承諾の旨を申告した。

数日後、東條内閣総理大臣より辞令がまいり、ここに官選の会長が定められた。任期は21年３月までであり、21年４月より吾々の自主性による選挙が行われ、代々の会長が歴任して今日に至った。（以下省略）

40周年記念式典（昭和28年10月18日）

富山県歯科医師会の動き

昭和27年（1952）

4. 13　社会保険講習会（高岡保健所）
4. 20　第１回学術会（富山保健所）
4. 26　富山県歯科医師俳句大会
6. 7　北信ブロック協議会（奥長野上林温泉・上林ホテル）（栗山委員長）
6. 21　第４回日本歯科医師会社会保険協力委員会総会（日歯講堂）（浦野会長）
7. 6　第１回社会保険講習会・第２回学術会（富山市町村会館）
8. 28　良い歯のコンクール県予選（富山保健所）
　１位　松崎かほる・松崎信雄（射水郡老田村願海寺）
9. 1　共済審査委員会設置
10. 5　北信地区歯科医学大会（福井市・人絹会館）
10. 16　無歯科医村巡回診療（東砺波郡山田村・山田小学校）
10. 19　北陸３県歯科医師会対抗野球大会（福井市）
10. 27　無歯科医村巡回診療（中新川郡白萩村東部小学校）
10. 28　無歯科医村巡回診療（中新川郡白萩村西部小学校）
10. 28　健康保険法施行25周年並びに厚生年金法施行10周年記念式典（日比谷公会堂）
11. 1　講習会打合会（支払基金事務所）
11. 3　本会功労者表彰（上田 馨、片桐正義）
11. 16　呉西呉東野球大会（富山県営球場）
11. 30　社会保険講習会（高岡商工会議所）

昭和28年（1953）

2. 8　学術大会・社会保険講習会（富山市町村会館）
2. 15　北陸３県打合会（石川県）
2. 25　保険監査（支払基金）
2. 27　保険監査（高岡保健所）
3. 8　全国事務長会議（日歯）（木勢事務長）
　全国歯科医師会長会議（日歯）（浦野会長）
3. 9　日歯代議員会（日歯）（関予備代議員）
3. 10　日歯第６回定時総会（日歯）（岩井副会長）
4. 1　昭和28・29年度役員
　会　長　浦野與四郎
　副会長　岩井二三雄　専務理事　阿部清一
　理　事　小幡義雄、川口義門、松島正康、河村哲之助
4. 12　社会保険伝達講習会（富山保健所）
5. 24　北信ブロック協議会（新潟市）（岩井副会長ほか２名）
6. 5　口腔衛生強調運動座談会（N.H.K.富山放送局）
6. 14　北陸３県歯科医師会野球大会（富山市安野屋小学校）
6. 21　第５回日本歯科医師会社会保険協力委員会総会（日歯）（浦野会長）
7. 4　社会保険医療事務講習会（金沢市）（阿部専務理事、松島理事）
7. 6　厚生省技官による保険監査実施（～８日）
8. 2　社会保険医療事務講習会（高岡商工会議所）
9. 20　北信地区歯科医学大会（石川県繊維会館）
10. 18　富山県歯科医師会創立40周年記念式典（富山県薬業会館）
　物故会員慰霊祭（東別院）
　記念祝賀懇親会（富山ホテル）
　創立40周年記念表彰（藤井義人、小林金次、大道憲治）
10. 31　第５回日歯医学会総会（日本生命ビル７階）（川口、松島理事）
10. 31　日本歯科医師会50周年記念式典（大手前会館）（浦野会長）
　記念表彰（藤井義人、小林金次、中島清作）
11. 18　学術講演会（本会会議室）

昭和29年（1954）

1. 24　北陸３県打合会（大和富山店７階）
1. 30　日歯代議員会（日歯）（大道代議員）
2. 28　社会保険講習会（高岡市公会堂）
3. 8　富山税務署訪問、社会保険の所得税について（阿部専務理事）
3. 21　日歯代議員会第11回（日歯）（浦野会長）
　北陸地区の富山、石川、福井の３県を近畿地区に編入する件（提案者　浦野與四郎ほか２名）、満場一致可決
　方法については理事会一任
3. 22　日歯会長連絡会議（浦野会長）
　日歯第８回定時総会（浦野会長）

日本歯科医師会の動き

昭和27年（1952）

4. 1　琉球中央政府発足
7. ー　日本医師連盟発足
8. 3　第16回全国学校歯科医大会（宮城県松島町）
　日本学校歯科医会設立
　委員長 松原 勉
9. ー　厚生省・日歯共催、第１回「母と子のよい歯のコンクール」開催
ー. ー　この年、真空焼成陶歯、ダイヤモンド切削材発売
ー. ー　歯科医師数 28,941人

昭和28年（1953）

4. 1　歯科で抗生物質が保険初適用
4. ー　歯科界の中央政権進出成る（林了参院全国区で当選）
6. 4　口腔衛生強調週間（～10日）
　（標語：前年と同じ）
7. ー　歯科医師法改正（死亡診断書交付権復活）
10. 31　歯科医師会創立50周年記念式典（大阪府）
ー. ー　歯科医師数 30,086人

昭和29年（1954）

3. ー　日本歯科医師会、災害基金設置
3. ー　日本歯科医師政治連盟開催
3. ー　学校教育法改正（昭和29年度より）
　新制歯科大学、医歯系大学６年制に編成実施（昭和30年から進学課程設置）

世の中の動き

昭和27年（1952）

4. 28　GHQ廃止。対日講和・日米安全保障条約発効
5. 1　皇居前広場でデモ隊と警官隊が衝突（血のメーデー事件）
7. 19　日本、戦後初めてオリンピックに参加（ヘルシンキオリンピック）
8. 1　保安庁が設置される（10.15 警察予備隊が保安隊に改組）
8. 13　日本、国際通貨基金（IMF）、国際復興開発銀行（世界銀行）に加盟
ー. ー　この年、１人当たりの国民所得がほぼ戦前水準に回復

昭和28年（1953）

2. 1　NHKがテレビ本放送を開始
3. 14　吉田内閣不信任案可決・国会解散（バカヤロー解散）
3. 23　中国引き揚げ第１船が舞鶴に入港
7. 27　朝鮮休戦協定が調印される
8. 28　日本テレビが民間テレビ初の本放送を開始
9. 1　町村合併促進法が公布される
12. 15　水俣病患者第１号が発病する
12. 24　奄美群島が日本に返還される
12. ー　東京・青山に日本初のスーパーマーケット・紀ノ国屋開店
ー. ー　この年、東京都内に赤電話登場

昭和29年（1954）

1. 1　50銭以下の小銭が廃止される
3. 1　第五福竜丸がアメリカのビキニ水爆実験で被ばく

昭和29年度（1954年4月～1955年3月）

■会員数　229名（4月1日現在）

診療費の支払遅延

昭和29（1954）年には、支払基金からの診療報酬が遅払いとなった。当時の会報（第５巻第16号）に「診療費が遅払いとなり随分ご迷惑をかけた。遅払基金、基金ではなく飢饉、と云う様に有難くない名前もつけて頂いた。８月診療分までは約束の通り支払が出来たが、９月診療分からは完全に手をあげた。（中略）何はともあれ10月分迄年内に支払完了したのである。」と、富山県支払基金幹事長の寄稿が掲載された。

富山県歯科医師会の動き

昭和29年（1954）

4. 1　都道府県歯科医師会地方ブロック改編により北信越ブロックより近畿ブロックに編入される
4. 5　富山税務署訪問、社会保険の所得税について
4. 7　日歯第１回理事会において地区編成変更決定
全国９ブロックとなり、北陸地区は近畿地区に編入
5. 20　近畿地区編入後最初の協議会（京都府）
（浦野会長、阿部専務理事、三羽社会保険委員長、木勢事務長）
6. 4　口腔衛生強調運動
１．夕餉の談話室（富山放送局第一放送）
浦野與四郎
２．口腔衛生座談会（北日本新聞社会議室）
出席者：浦野会長、阿部専務理事、
松島理事、川口理事、中川理事、
熊木委員、木勢事務長
6. 11　富山税務署訪問
6. 20　北陸３県ブロック会議（福井県）
7. 4　税懇親会
学術講演会（富山保健所）
社会保険講習会（富山保健所）
7. 15　全国会長会議（日歯）
7. 24　全国会長会議（日歯）
社会保障部総会（日歯）
7. 25　日歯第12回代議員会（日歯）
7. 26　日歯第９回臨時総会（日歯）
8. 10　よい歯の母子選彰会第１次審査会（各保健所）
主催：富山県衛生部、富山県歯科医師会、富山新聞社
協賛：富山県保健婦協会
8. 14　よい歯の母子選彰会第２次審査会（富山保健所）
第１位　細野昭子・細野満貴子
8. 22　本会第４回代議員会において功労者表彰（柚木 薫、清水清通、早見治顕）
9. 23　北陸３県歯科学術大会（石川県）
北陸３県協議会（石川県）
北陸３県歯科医師会協議会規約制定可決
10. 17　よい歯の母子選彰会の反省会
11. 14　近畿ブロック学術大会（京都市・京都府立医科大学）（～15日）
12. 2　県保険課監査施行（支払基金）
12. 3　県保険課監査施行（高岡市民病院）
12. 5　会員大会開催　社会保険制度の改善（県医師会）
特別学術講演会（県医師会）
社会保険講習会（県医師会）
12. 15　事務長連絡会議（日歯、～16日）
12. 19　全国会長連絡協議会（日歯）（浦野会長）
12. 19　社会保険講習会（富山保健所）
12. 20　社会保険講習会（魚津保健所）

昭和30年（1955）

2. 7　富山税務署長と懇談（阿部理事）
2. 19　租税特別措置法に関する講演会
3. 12　全国会長連絡協議会（日歯）（浦野会長）
3. 13　第13回日歯代議員会（日歯）（浦野代議員）
3. 14　第10回日歯定時総会（日歯）
3. 15　厚生省監査施行（支払基金）（～16日）
3. 17　厚生省監査施行（高岡市民病院）
社会保険に関する講演会（高岡市・延対寺）

日本歯科医師会の動き

昭和29年（1954）

4. 一　日歯地区編成を再編
（近畿６府県に富山、石川、福井を追加）
6. 4　口腔衛生強調週間（～10日）「歯は健康の見える窓」
8. 5　近畿地区緊急対策委員会
9. 30　厚生省、新医療費体系発表。医薬分業他
同年12月撤廃
10. 一　日本学校歯科医会設立総会
12. 8　日本歯科医師政治連盟再結成
※租税特別措置法改正などで政治力の強化がのぞまれることとなり中央緊急対策委員会で提案される
一. 一　歯科医師数 30,659人
一. 一　この年、ユニット装着型Ｘ線装置発売

世の中の動き

昭和29年（1954）

4. 20　第１回全日本自動車ショーが開催される
4. 22　全日本労働組合会議（全労会議）が結成される
6. 3　教育関係２法、学校給食法が公布される
6. 9　防衛庁設置法・自衛隊法が公布される（７. １ 施行・発足）
9. 26　青函連絡船洞爺丸が台風15号で沈没、死者行方不明者1,155人
12. 10　第１次鳩山一郎内閣成立
一. 一　この頃、電気洗濯機・冷蔵庫・掃除機が「三種の神器」と呼ばれる

昭和30年（1955）

1. 28　総評傘下の６単産が春季賃上げ共闘会議を結成（春闘の始まり）
2. 15　第１回重要無形文化財（人間国宝）に30人指定

昭和30年度（1955年4月～1956年3月）

■会員数　225名（4月1日現在）

第46回代議員会が開催され、名誉会員決まる

昭和30（1955）年10月30日、本会事務所にて開催された第46回代議員会において、本会の名誉会員として藤井義人先生、小林金次先生が定款第十条により満場一致で推薦された。藤井義人先生は富山市開業44年･71才･本会会長三期･本会の創設功労によるもの、小林金次先生は富山市開業40年・66才・本会会長三期・功績特に顕著によるものとして名誉会員となった。

県歯会報昭和31年１月第６巻20号に掲載された藤井義人先生、小林金次先生が寄稿された文章を紹介する。

名誉会員になるまで

顧問　藤井　義人

大正元年の開業当時、医師会、歯科医師会が内務省令によらなければ会の設立は如何ともする事が出来ない。会員数も10名以上存住する必要があるので本県では会員９名にて１名不足であり富山県歯科医師会設立不可能となり。なお、郡市歯科医師会の創立後に県歯科医師会が設立することになっており従って県歯科医師会の設立は不可能とあり何とかして浜田長官に対して設立方を力説して止まなかったのであります。

処が大正３年３月県衛生課から小使が私宅へ参りました、詳細を聞きたる処申請の件許可するとの話しで私は突然欣喜勇躍万歳を三唱したのである。富山県歯科医師会が設立されたのである。実に大正３年３月20日であった。私は泊町在住の阿部孫太郎君を呼び共々に富山県歯科医師会創設の万歳を高く三唱してやみませんでした。四十余年後の今日もあの感激は忘却することが出来ません。同志に推され或は官選をうけて三回にわたり会長の職を汚し、70歳を越した今日まだ元気に診療室に立つことが出来ることは医療人として無上の幸福と思っています。今度名誉会員に推薦をうけ感慨無量であります。

名誉会員になるまで

顧問　小林　金次

大正５年７月、日本歯科を卒業し、その年の９月に開業し、翌年10月、室橋副会長辞任のあとを受けて副会長の席を汚し、10年の３月辞任したのであります。その間、富山市歯科医師会を大正９年に設立し、藤井義人会長の元に副会長を務め、10年４月会長に選任され、12年３月大過なく責任を果して職を辞しました。

昭和２年３月本会会長に就任し、同時に日本歯科医師会代議員並びに本会の保険部長になりました。そして昭和８年３月に３期６ケ年に渡る会員諸氏のご支援とご協力を感謝しつつ、辞任したのであります。その間に昭和４年春、富山県学校歯科医会を設立し、７年４月会長に就任しました。８年４月、富山市歯科医師会会長に再びなりました。

回顧すれば何らなすことなき私に対し、名誉あるお言葉や重々の記念品等が贈られ、しかもこの老骨が名誉会員に推薦されましたことは望外の栄誉であります。身体の続く限り本会のために挺身したいと考えています。挨拶に代えて擱筆いたします。

富山県歯科医師会の動き

昭和30年（1955）

4. 1 昭和30年度役員
　会　長　浦野與四郎
　副会長　岩井二三雄
　理　事　松島正康、小幡義雄、川口義門、
　　中川　弘、竹林正俊
4. ー 氷見無歯科医地区歯科診療始まる
5. 28 口腔衛生強調運動
第１回　歯の麗人　地方審査会
（口腔衛生強調運動期間中の活動）
１．無料検診の実施（6/6歯槽膿漏予防の日）
２．集団検診の積極的協力
３．母と子のよい歯のコンクールに協力
４．児童福祉法に基づく母子歯科衛生指導に尽力
５．妊産婦、乳幼児の歯科診療
６．農山漁村歯科保健指導の徹底　など
5. 29 社会保険講習会・学術講演会（中部高校講堂）
6. 3 北日本放送対談
6. 4 対談　N.H.K.第一放送　7.45
6. 5 朝の訪問　浦野與四郎（富山新聞社３階）
第１回歯の麗人県大会（富山新聞社３階）
　歯の麗人　米田寿美子（21）
6. 22 近畿北陸地区協議会
6. 26 北陸３県協議会（片山津温泉みたにや）
7. 27 よい歯の母子コンクール富山県大会
　第１位　高瀬百合子・高瀬信夫（魚津市）
7. 31 社会保険運営指導協議会
8. 7 地区別社会保険指導懇談会
　富山地区　58名出席
　高岡地区　74名出席
　新川地区　28名出席
　共催：県保険課、支払基金、本会
8. 28 口腔衛生強調運動の反省会（千歳）
9. 3 保険歯科医指導者講習会（大阪市）（岩井副会長、川口理事）
9. 25 第２回北陸３県歯科学術大会（高岡市公会堂）
社会保険伝達講習会（高岡市公会堂）
北陸３県歯科医師会協議会（高岡市公会堂）
10. 11 全国会長会議（日本医師会館）（浦野会長）
10. 13 第１回アジア歯科学術会議（日本学術会議講堂）（竹林理事）
11. 13 第10回近畿北陸地区緊急対策委員会（兵庫県）（浦野会長）
12. 24 全国会長連絡協議会（日本歯大）

昭和31年（1956）

1. 14 第15回日歯代議員会（東京商工会議所）（浦野代議員）
1. 27 近畿北陸地区保険歯科医総決起大会（大阪・中之島・中央公会堂）（川口・松島・中川理事）
2. 5 全国歯科医師社会保険対策総決起大会（神田共立講堂）（浦野会長、岩井副会長、小幡理事、竹林理事、金森委員長）
3. 2 全国会長連絡協議会（東京商工会議所）（浦野会長）
3. 3 日歯第16回代議員会
日歯第11回総会（共に東京商工会議所）
3. 25 本会定時総会において功労者表彰（牧野 昶、堀井勝三）

日本歯科医師会の動き

昭和30年（1955）

5. 1 日歯会館建設趣意書送付
　昭和26年 会館建設資金 会員１人当り100円
　昭和29年より1,000円 本年3,000円拠出依頼
6. 4 口腔衛生強調週間（～10日）
「よい歯で よくかみ よいからだ」
7. 1 日本短波放送「歯科医の時間」放送開始
8. 8 医薬分業改正案成立
「医師 歯科医師が患者に対して診療上薬剤を調剤して投与する必要があると認めた場合には、患者又は現にその看護に当たっている者に対して処方箋を交付しなければならない」。ただし、「患者が希望した場合、暗示的効果を期待する場合、病状の短時間毎の変化に対応する場合等は医師 歯科医師が調剤できる」
8. 16 歯科技工士法公布
10. 13 第１回アジア歯科学術会議（東京）
10. ー 歯科百年祭挙行
※小橋英之助免許取得80年、西洋歯学100年を記念
11. 25 厚生省の新医療費体系発表に猛反対
　物と技術を分離しているが技術評価が不合理であり、日歯は再度反対
12. 24 全国会長緊急協議会
　新医療費体系に全面的に反対することを決議
ー. ー 歯科医師数 31,109人
ー. ー 第１回社会保険指導者講習会（以後毎年開催）
ー. ー この年、歯科Ｘ線装置ブーム、筆積み即重レジン発売

昭和31年（1956）

1. ー 東京都歯科医師会「社会保険改悪粉砕大会」１日休診
2. 5 全国歯科医師社会保険対策総決起大会（東京）5,800人参加
3. 3 第16回定時代議員会・第11回総会

世の中の動き

昭和30年（1955）

5. 5 第１回東京国際見本市が開催される（～18日）
6. 7 第１回日本母親大会が開催される
7. 25 日本住宅公団が発足する
8. 6 第１回原水爆禁止世界大会が広島で開催される（15日東京大会）
8. 24 森永ヒ素ミルク事件が発覚
9. 10 日本、関税及び貿易に関する一般協定（GATT：ガット）に加盟
12. 19 原子力３法（原子力基本法・原子力委員会設置法・原子力局設置法）が公布される（1956. 1．1施行）
ー. ー この年後半から神武景気が始まる

昭和31年度（1956年4月～1957年3月）

■会員数　230名（4月1日現在）

新会長就任と功績を残して去る人々

昭和31（1956）年５月６日、第48回代議員会において会長補欠選挙がおこなわれ、新会長に栗山実純氏が当選確認された。

昭和26（1951）年４月から連続３期の重責を果たして去った浦野與四郎前会長は勇猛果敢であっただけに本会に残した業績も大きなものがあった。

岩井前副会長の３期にわたる女房役も功績を多とすべきであり、これら輝く業績の基礎ともいうべき代議員会前議長の手腕と凄いまでの英知こそ最も甚大であるといっても過言でなかろう。（『富山県歯科医師会報』第６巻第21号より）

富山県歯科医師会の動き

昭和31年（1956）

4. 7　全国会長連絡協議会（東京商工会議所）（浦野）
5. 6　栗山実純　会長就任
　副会長　阿部清一
　理　事　関　剛三郎、松島正康、菅野宜紀、竹林正俊、阿部彦太郎
5. 7　国民健康保険振興大会（県議場）（栗山会長）
5. 26　第17回日歯臨時代議員会
全国会長連絡協議会（全国都市会館）
※学校むし歯半減運動始まる
6. 1　口腔衛生強調運動
　7.45 N.H.K.富山放送局第１放送　朝の訪問
　栗山会長（口腔衛生強調運動期間中の活動）
6. 3　歯の女王地方審査会
　呉東　富山保健所　呉西　高岡保健所
6. 8　全国会長連絡協議会（全国都市会館）
6. 10　北陸３県親善野球大会（富山中部高校）
6. 10　第２回歯の女王県大会（富山新聞社３階ホール）
　歯の女王　高源文子（22）（全国大会出場）
6. 17　北陸３県歯科医師会協議会（宇奈月館）
6. 24　第１回学術講演会（富山市役所別館講堂）
7. 21　全国会長連絡協議会（東京・椿山荘）
7. 22　よい歯の母子コンクール第１次予選（福野･石動保健所）
7. 29　近畿北陸地区協議会（石川県）
8. 2　社会保険医療担当者県監査
8. 6　よい歯の母子コンクール富山県大会表彰式（富山保健所）
9. 5　会館建設委員会設置
9. 10　魚津市大火により罹災者３名
9. 16　近畿北陸地区学会第２回協議会（石川県）
9. 23　地区別社会保険講習会
　富山地区　67名受講（本会会館）
　高岡地区　82名受講（高岡保健所）
　新川地区　42名受講（桜井保健所）
10. 5　社会保険医療担当者県監査（支払基金）
10. 14　近畿北陸地区学会第３回協議会（石川県）
10. 17　第１回県歯科技工士試験合格者発表
10. 21　近畿北陸８地区歯科医学大会　北陸３県当番（金沢市中央公民館）
11. 11　本会第50回代議員会において功労者に感謝状贈呈（浦野與四郎、岩井二三雄、大道憲治）
11. 25　北陸３県協議会（石川県）
11. 28　全国会長連絡協議会（日本歯科大学講堂）

昭和32年（1957）

1. 26　社会保険歯科医療指導者講習会（静岡県修善寺）
近畿北陸地区保険歯科医大会（大阪中央公会堂）
1. 27　保険改悪反対富山県歯科医師保険医大会（本会会館）
保険改悪反対座談会
2. 18　竹中参議院議員労働厚生行政視察
2. 24　社会保険伝達講習会（県医師会館）
3. 9　日歯第18回定時代議員会（全国都市会館）
3. 10　全国会長連絡協議会
日歯第12回定時総会（共に全国都市会館）
3. 17　健康保険法施行30周年記念式（富山市公会堂）
3. 24　本会定時総会において功労者表彰（浦野與四郎、大道憲治）

日本歯科医師会の動き

昭和31年（1956）

6. 8　会長連絡協議会
　健康保険法改正案は６月３日廃案になったため、総辞退態勢を解散
10. 1　日歯福祉共済会発足
　負担金400円、死亡、火災50万円
11. 5　日歯・産経新聞主催第１回「歯の女王コンクール」開催（全国22府県）（昭和35年まで）
一. 一　歯科医師数 31,642人

昭和32年（1957）

1. 26　近畿北陸地区保険医総決起大会（大阪府）4,000人参加
3. 18　健保法改悪絶対反対､全国医師･歯科医師総決起大会（日歯、日医合同／東京）参加２万人
3. 26　健康保険法施行30周年記念式典（日比谷公会堂）

世の中の動き

昭和31年（1956）

4. 1　医薬分業が実施される
5. 1　水俣病が公式に確認される
7. 17　経済企画庁が経済白書で「もはや戦後ではない」と発表
10. 10　文部省が教科書調査官を設置
10. 19　日ソ国交回復共同宣言・通商航海議定書が調印される
11. 8　南極観測船「宗谷」が東京港を出航（1957. 1 .29 オングル島上陸、昭和基地設営）
12. 18　国連総会で日本の加盟が承認される
12. 23　石橋湛山内閣成立

昭和32年（1957）

2. 25　岸信介内閣成立
3. 31　原爆被爆者の医療法が公布される

昭和32年度（1957年4月～1958年3月）

■会員数　232名（4月1日現在）

会館の移転

昭和32（1957）年10月27日、富山市常盤町から舟橋南町へ富山県歯科医師会館の移転が行われた。

当日は、午後零時半より鹿島神社宮司による清祓式を多数代議員･郡市代表が列席して行い、午後１時から第57回代議員会、午後２時より総会を行い、午後３時より講堂にて多数の来賓を招き会館移転披露宴が行われた。しかしこの会館は、暫定の会館であって５年後を目標にコンクリートの会員結束の象徴である会館建設を目指すことを、栗山実純会長が挨拶の中で述べている。

会館移転記念撮影（昭和32年10月27日）

本会は何を求めている

理事 菅野宜紀

本県歯科医師会には現段階に於いて何が求められ且必要なのであろうか。私は漱石の草枕にある知と情論を再び思い浮かべてみた。兎角本会会員の中には知に働く人が多すぎはしないだろうか。そのためにややもすれば角が立ち批判的になり過ぎ、結局会が住みにくくなる。本会は会員自身の会である。会員自身が良くしようと努力しなければ誰が一体良くしてくれるか。今日より明日、明日より明後日と一歩一歩明るい住みよい会にしたい。それには今少しく情を働かせたいものだと思う。各々の会員は皆多分に情を持っているのだがそれがどうも表面に出てこない。ではどうしたらよいか。それには相互理解に基づく融合をはかることである。具体的に言うと全会員が業務上以外のことで出来るだけ多く接触する機会を作ることである。之が実行には、一つ明年度の予算に厚生部の予算を一躍多くして、一部の人を対象とせず、全会員が楽しめるレクリエーションの計画を立てることである。それには全会員が集って行う運動会、又麻雀、囲碁、将棋、短歌、俳句等趣味全般にわたって全会員が集まる大会等々を時折催して

之によって会員が知らず知らず打ち解け、それによって皆が会に対する愛着心が出来てくる。そこで凡てのことが知に走らず、情を以って解決できる様に必ず到達できるであろう事を私は確信する。最後に会の役員となる人は公平無私、超然として然も熱意を以って会の世話を出来る人を求めたい。学閥は絶対に排除しない。そして皆で明るい進歩的な会を作り上げる様努力したいものである。

（『富山県歯科医師会報』第７巻第23号より）

富山県歯科医師会の動き

昭和32年（1957）

4. 1 国保委員会設置
4. 1 昭和32・33年度役員
　会　長　栗山実純
　副会長　岡田信次、川口義門
　理　事　竹林正俊、小高啓三、渡辺親良
　　菅野宜紀、酒井信義、阿部彦太郎
4. 16 県国保連合会総会並びに表彰式（県議場）
5. 2 全国会長連絡協議会
第１回歯科医師記念日式典（共に東京・椿山荘）
（感謝状：金森保芳、岡田信次、浦野與四郎、大道憲治、栗山実純）
（表彰状：藤井義人、小林金次、宮本俊治、山下長藏、牧野 昶）
5. 16 舟橋南町酒類協会試験所買収決定
5. 16 近畿北陸地区社会保険指導者講習会（兵庫県）
近畿北陸地区緊急対策委員会（兵庫県）
5. 25 歯の女王コンクール　地方審査会
　応募者139名、優良者20名
　（富山・高岡・魚津保健所、滑川会館）
6. 2 第３回歯の女王県大会（富山新聞社３階ホール）
　歯の女王　京橋多三江（20）（全国大会出場）
6. 2 第10回近畿北陸地区歯科医学大会第１回準備会（大津市滋賀会館）
6. 4 口腔衛生座談会　北陸夕刊共催
　マイク横丁「歯医者さん」（N.H.K富山放送局第一放送　6.45）
6. 16 北陸３県協議会（芦原温泉・有楽荘）
6. 20 昭和32年度患者調査打合会（県庁・特別室）
6. 21 第13回国体富山県実行委員会第１回実行委員会（県庁議場）
6. 23 第１回学術講演会、社会保険講習会（県医師会）
6. 28 歯の女王表彰式（富山市公会堂）
8. 3 よい歯の母子選彰会（富山保健所）
　１位　尾山キミ子（33）・尾山丸子（5）（黒部市前沢）
8. 18 口腔衛生強調運動、歯の女王コンクール反省会（丸三食堂）
8. 25 第２回学術講演会、社会保険講習会（婦人会館）
9. 1 社会保険懇談会
9. 13 全国会長連絡協議会（日本大学歯学部大学院講堂）（栗山会長）
9. 30 会館売買登記
10. 1 旧会館売買登記完了
10. 1 新会館へ移転、引越し（富山市舟橋南町30）
10. 3 歯の女王全国大会（東京・九段会館、浅草国際劇場、～５日）
　富山県女王・京橋多三江参加、選外となる
10. 13 第10回近畿北陸地区歯科医学大会、緊急対策委員会（大津市・県立滋賀会館）
10. 27 本会新会館移転式（神式）披露宴
10. 31 国保基金運営委員会（東京・自治会館）（岡田副会長）
11. 7 歯科保険医指定後講習会　保険課と共催
11. 10 第11回北陸３県医学会（金沢商工会議所）
11. 17 北陸３県野球大会　富山県優勝（兼六球場）
12. 24 東砺波郡上平村地区歯科診療

昭和33年（1958）

1. 26 日歯代議員、全国会長合同協議会（日歯）（浦野代議員、栗山会長）
2. 12 第４回日歯社会保障部会（日歯）（金森社会保障部会参事）
3. 8 富山県学校安全設立準備委員会（岡田副会長）
3. 13 日歯第20回定時代議員会（浦野代議員）
3. 14 全国会長連絡協議会（日歯）（栗山会長）
日歯第13回定時総会（日歯）（栗山会長）
日歯福祉共済部役員会（日歯）（栗山会長）
3. 29 北陸３県事務協議会（小川温泉）
3. 30 定時総会において本会功労者表彰（佐渡喜一郎、渡辺実）
3. 30 本会定時総会において富山県歯科医師会館建設功労者表彰
（委員長常任委員：三羽邦定、浦野與四郎、永森 収、松能喜久次）
（委員：阿部清一、中川 武、関剛三郎、大道憲治、三崎正春、越野培名男、倉田敬二郎、中川 弘、吉村史郎、吉田 茂、小幡義雄、立浪次作、家城圭一、島田栄吉、酒井信義、北山静次、岡本文夫、河原信隆）
3. 31 富山県学校安全会第２回設定準備委員会（富山荘）（栗山会長）

日本歯科医師会の動き

昭和32年（1957）

4. ー 国民皆保険推進本部設置
5. 2 歯科医師記念日制定（歯科医師法公布日）
5. 16 近畿北陸地区緊急対策委員会（兵庫県）
6. 4 口腔衛生週間
「強い歯は　母でつくって子で守れ」
8. ー 単価闘争で日医と初の合同理事会開催
11. ー 第１回歯科疾患実態調査
ー. ー 歯槽膿漏学会創立
ー. ー この年、チオコールラバー印象材、モーターチェアーが発売される

昭和33年（1958）

1. 26 日本歯科医師会会館落成
　東京都千代田区九段４丁目６ー７

世の中の動き

昭和32年（1957）

8. 27 茨城県東海村・日本原子力研究所第１号実験炉点火（日本初の「原子の火」）
10. 1 日本が国連安保理事会非常任理事国に
10. 4 ソ連が人類史上初の人工衛星「スプートニク１号」の打ち上げに成功
12. 6 日ソ通商条約が調印される
ー. ー この年、株価暴落でなべ底不況となる

昭和33年（1958）

1. 1 欧州経済共同体（EEC）が発足
1. 20 日本・インドネシア間で平和条約・賠償協定が調印される
2. 4 日印通商協定が調印される（初の円借款供与）
3. 9 下関ー門司を結ぶ関門国道トンネル開通
3. 18 文部省が小・中学校の道徳教育実施要綱を通達

昭和33年度（1958年4月～1959年3月）

■会員数　236名　（4月1日現在）

会報30号を迎えて

昭和26（1951）年に創刊されて30号となる、昭和34年１月発行の第９巻第30号に創刊以来編集委員を務められた大道先生の寄稿があるので、以下に紹介する。

昭和26年に会報が創刊されて以来、遡って当時の編集委員の顔ぶれを見れば、和記憲一君、岡田信次君、家城圭一君等である。猛暑の中疲れた五体に鞭打って夜遅くまで奮闘していただいた。

春は桜花の酔いを外にして、夏は蚊取り線香にくゆられて、秋は月明かりを窓にして、冬は凍った雪を踏みしめて、縁の下の力持ち的な仕事をコツコツとやっていただいたことが積み重なってついに30号を発刊することができた次第である。この間苦労を共にした編集委員をあげてみると、元井英夫君、松島正康君、阿部清一君、関剛三郎君である。

会報はみんなの会報である。原稿もどしどし寄せていただきたい。寸暇をさいて必ず一読していただきたい。必ずしも完璧と申し上げられない編集に建設的な意見も寄せてほしいものである。　（編集委員長　大道憲治）

（１）　昭和34年1月　社団法人 富山県歯科医師会報　第9巻 第30号

昭和三十四年一月

富山歯科医師会報

第九巻 通巻 第三十號

（記念号）

新年名刺交換会

日時 昭和三十四年一月一日 午後一時より

場所 県歯科医師会館

会費 金壱百円也

富山地区歯科医師会協同の新年名刺交換会開催いたします。多数会員御参加下さい。

富山地区歯科医師会

年頭の辞

会長 栗山実純

新年を迎えて

富山県 厚生部長 大熊治一

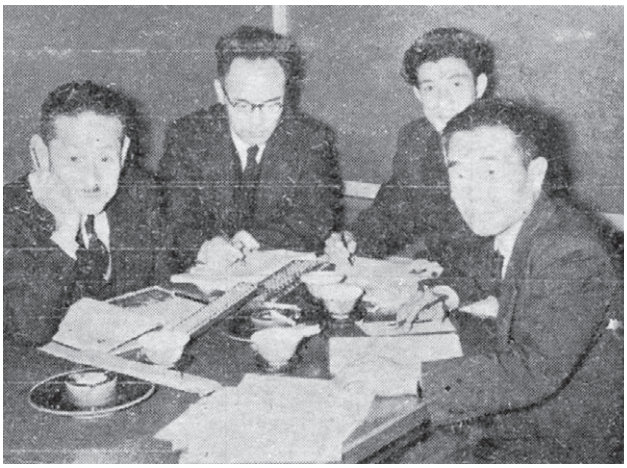
新年所感

医務課長 亀谷統三

年頭の言葉

保険課長 田坂明一

歯科医師会会報第9巻第30号（昭和34年１月）



編集室（30号編集）
（左から）大道委員長、竹林委員、四日委員、木勢事務局長

歯の無料相談所開設

昭和33（1958）年６月４日から10日まで、全会員の診療所を「歯の無料相談所」として開設した。とても好評で、１つの診療所あたり１日平均10名程度の方が利用された。

第11回近畿北陸地区歯科医学大会

昭和33（1958）年10月18日、大阪市に於いて第11回近畿北陸地区歯科医学大会が開催された。本県の講演者、および本会会員出席者は次の通りであった。

◎県代表講演　石田新也「人類歯齦特に上皮層並びに乳頭層に於ける神経終末に関する研究」

◎一般講演　松田正男「唾液小体の形態学的変化」

◎示説講演　松島正康「余の考案せるフラスコについて」

◎本会会員の出席者　川口義門、竹林正俊、小高啓三、松島正康、松田正男、石田新也、桜木成一、寺島祐輔、広井清策

富山県歯科医師会の動き

昭和33年（1958）

4. 21　富山県学校安全会第３回設立準備委員会（富山荘）
　　富山県学校安全会設立総会（富山荘）
4. 26　保険医療機関および保険医講習会　主催：富山県
5.　9　歯の女王第２回打合会
5. 12　国体事務打合会（県医師会館）
5. 18　第１回学術講演会並びに社会保険講習会（富山市公会堂）
5. 23　富山県学校保健会役員総会（富山荘）
5. 25　歯の衛生週間30年記念　歯の女王コンクール　地方予選会（～26日）
　　応募者200名、合格者20名（富山・高岡・魚津各保健所）
5. 26　よい歯の母子選彰会打合会（富山新聞社）
5. 31　北陸３県協議会（山中温泉・翠明）
6.　3　婦人の時間　N.H.K.富山放送局　午後1.45～
6.　4　４日～10日まで各診療所で無料相談
6.　8　第４回歯の女王県大会（富山新聞社３階ホール）
　　歯の女王　古沢美和子（21）（全国大会出場）
6. 17　第１回よい歯の学校運動
6. 22　全国会長連絡協議会（日歯）（栗山会長）
6. 23　日歯第21回臨時代議員会（日歯）（大道代議員）
6. 24　歯の女王表彰式（富山市公会堂）
7. 16　ブロック別講習会　主催厚生省（富山市公会堂）
7. 17　社会保険指導者講習会　主催日歯（本会講堂）
　　長野・福井・石川・富山４県
7. 28　支払基金10周年記念式（富山市公会堂５階ホール）
8.　3　よい歯の母子選彰会（富山保健所）　主催　富山県、本会、富山新聞
　　最優秀者　長森ナツ子（29）、長森己輝（4）（上新川郡富南村辻塚）
8. 24　第２回学術講演会、社会保険伝達講習会（婦人会館）
8. 27　国体医療救護合同打合会（県医師会館）（菅野理事）
9.　9　第５回日歯社会保障部会（日歯）（金森参事）
9. 14　北陸３県歯科学術大会（石川県）
　　北陸３県協議会（石川県）
9. 21　日本臨床歯科医学会（日歯）（栗山会長）
9. 26　全国会長連絡協議会（日歯）（栗山会長）
10.　1　新点数表実施
10.　3　国民健康保険法施行20周年記念式典（日比谷公会堂）
10. 18　第11回近畿北陸地区歯科医学大会（大阪市・大手前会館）
10. 19　第13回国民体育大会（富山県）
10. 29　全日本歯の母子コンクール（日歯）　富山県代表は選外（29日・31日）
10. 30　国民健康保険法施行20周年記念式典（県議場）
11.　2　北陸３県親善野球大会（雨で中止）
11. 25　全国会長連絡協議会（日歯）（栗山会長）
12. 21　第３回社会保険講習会（富山市公会堂４階）

昭和34年（1959）

1. 25　富山県歯科医師会報30号記念会（高岡温泉）
1. 26　新国民健康保険法説明会（～30日）
　　26日　県医師会館（富山地区）
　　27日　高岡商工会議所
　　28日　砺波信連会館
　　29日　魚津市役所
　　30日　医師会館（中新川、婦負）
3.　7　日歯第22回定時代議員会（日歯）（阿部予備代議員）
3.　7　日歯第14回定時総会（日歯）（栗山会長、阿部委員）
3.　8　全国会長連絡協議会（日歯）（栗山会長）
3. 22　国民健康保険組合設立準備委員会
3. 29　本会定時総会において本会功労者表彰（浅岡典常、城生越義、山本荘太郎、石崎憲吾）
3. 31　歯の女王打合会（富山新聞社）

日本歯科医師会の動き

昭和33年（1958）

4. 10　学校保健法公布、大学以外学校歯科医必置制
6.　4　口腔衛生週間から歯の衛生週間に
　　「よい歯で よくかみましょう」（30周年）
6. 30　保険診療甲乙２表選択自由制
　　日歯甲表選択承認（会長専決）
6. ー　社保診療報酬点数告示（歯科は甲表を採択）
10. 18　第11回近畿北陸地区歯科医学大会（大阪）
　　調査　社会保険診療報酬の歯科補綴差額負担範囲の拡大について
10. ー　社会保険新点数表　甲表採択
　　※甲乙２表を採ることは医療の混乱を招き、患者の逆選択の自由による歯科医師の自滅を意味するという意見などで、一本化
ー. ー　歯科医師数 32,484人

世の中の動き

昭和33年（1958）

12. 23　東京タワーが完成
12. 27　新国民健康保険法が公布される（1959. 1 . 1 施行）
ー. ー　この年、フラフープが流行

昭和34年（1959）

1.　1　メートル法が実施される
1. 18　安保条約改定案が発表される
3. 28　安保改定阻止国民会議が結成される

昭和34年度（1959年4月～1960年3月）

■会員数　241名（4月1日現在）

夢物語

「タービンエンジンが音もなく回転してダイヤモンドバーが300万回転の速さで歯冠を削ってゆく。抜髄も電気焼灼でアッと云うまに終わり、同時に根充完了。インレーも冠も模型をオートメーション機に入れてスイッチ押すだけでピタリと合うものが飛び出してくる。装着する合成液を流すだけで完了、来院より30分間でC_3が処置完了」―これは小生が考える夢物語である。（中略）早く実現させたいものだ。科学の驚くべき発達による医療の迅速と的確さが薬学の進歩と合わせて完璧な治療のできる時代を。「求めよ、されば与えられん」である。（三崎生）

（『会報第10巻35号』より）

富山県歯科医師会の動き

昭和34年（1959）

4. 1　岡田信次　会長就任
　副会長　川口義門、酒井信義
　理　事　関　剛三郎、家城圭一、島田栄吉
　松島正康、河原信隆、高田育三
4. 13　第１回社会保険講習会　鹿島日歯専務理事（富山市町村会館）
4. 19　全国会長連絡協議会（日歯）（岡田会長）
4. 27　社会保険歯科医指定後講習会（県医師会）
5. 24　第１回学術講習会（富山市公会堂５階ホール）
5. 26　歯の女王第２回打合会（富山新聞社）
5. 31　歯の女王コンクール地方予選（富山、高岡保健所）入選者20名
5. ―　東砺波郡上平村地区、氷見市無歯科医地区歯科診療
6. 4　歯の衛生週間　ラジオグラフ「ご存知ですか」
　N.H.K富山放送局第１放送　7.20～35
6. 7　第５回歯の女王県大会（富山新聞社３階ホール）
　歯の女王　岡田けい子（19）（全国大会出場、準女王２位に入賞）
6. 14　北陸３県歯科医師会協議会（氷見・誉一山荘）
6. 20　よい歯の学校運動表彰式（富山市公会堂大ホール）
6. 28　第２回学術講演会並びに第２回社会保険講習会（富山市公会堂５階ホール）
6. 30　歯の女王表彰式（富山市公会堂５階ホール）
7. 16　日歯機構特別委員会（日歯）（岡田会長）
7. 19　社会保険懇談会
7. 21　近畿北陸地区役員連絡協議会（兵庫県）（川口副会長）
7. 25　第23回臨時代議員会（日歯）（阿部予備代議員）
7. 26　全国会長連絡協議会（日歯）
8. 24　中部地区歯科審査研究協議会（堺捨）
8. 30　第４回北陸３県歯科学術大会（富山市公会堂５階ホール）
8. 30　北陸３県協議会（富山市公会堂食堂）
8. 30　第12回近畿北陸地区歯科医学大会第２回打合会（兵庫県）（松島理事）
9. 13　よい歯の母子選彰会（富山保健所）
　１位（知事賞）大塚フサ子・大塚智佳子（高岡市宮田町）
10. 5　第３回歯の女王全国大会（日歯、～６日）
　富山県代表・岡田けい子さん準女王の２位となる（高田理事）
10. 11　第12回近畿北陸地区歯科医学大会（神戸商工会議所）
10. 11　近畿北陸地区役員連絡協議会（兵庫県）（岡田会長、川口副会長、島田理事）
11. 5　日歯会機構整備特別委員会（日歯）
11. 26　全国会長連絡協議会（日歯）（川口副会長）
12. 13　日歯会機構整備特別委員会（日歯）（岡田会長）

昭和35年（1960）

1. 8　社会保険医療事務打合会（北陸銀行健保組合宇奈月寮）
1. 20　全国会長連絡協議会（日歯）（岡田会長）
1. 24　第３回学術講演会並びに第３回社会保険講習会（高岡産業会館ホール）
1. 26　近畿北陸地区役員連絡協議会（兵庫県）（川口副会長）
2. 6　第５回機構整備特別委員会（日歯）（岡田会長）
2. 26　第24回日歯臨時代議員会（日歯）（阿部予備代議員）
2. 26　第15回臨時総会（日歯）
3. 13　代議員会において歯科医師国保組合設置について協議
3. 13　第25回日歯定時代議員会（日歯）（大道代議員）
3. 14　第16回臨時総会（日歯）（酒井副会長）
　全国会長連絡協議会（日歯）（酒井副会長）
　災害基金特別委員会（日歯）（酒井副会長）
3. 27　本会定時総会において本会功労者表彰（松能喜久次、杉江玄照、倉田敬二郎、三崎政男、坪田忠一）
3. 27　国保組合設立準備委員会（本会講堂）

日本歯科医師会の動き

昭和34年（1959）

6. 4　歯の衛生週間
　「よい歯でよくかみよいからだ」
7. 25　日歯臨時代議員会会計問題報告
9. ―　米国歯科医師会百年祭・万博歯科医学会に参加
10. 25　第８回日本歯科医学会総会（東京）
―. ―　歯科医師数 32,871人
―. ―　この年、国産初エアータービン（30万回転）発売

昭和35年（1960）

2. ―　日歯、日医、厚生省で社会保険指導の申し合わせ合意

世の中の動き

昭和34年（1959）

4. 10　皇太子殿下・正田美智子妃ご成婚
4. 15　最低賃金法案が公布される
4. 16　国民年金法が公布される
6. 15　厚生省が小児麻痺を指定伝染病とする
9. 12　大蔵省がドル為替の自由化を実施
9. 26　伊勢湾台風が中部地方を直撃、死者行方不明者約5,000人以上
11. 11　政府、貿易の自由化を開始（対ドル地域輸入制限180品目を自由化）
11. 27　安保阻止のデモ隊が国会内で座り込みを実施
―. ―　この年後半から岩戸景気が始まる

昭和35年度（1960～1961年）

■会員数　245名（4月1日現在）

富山県歯科医師会の動き

昭和35年（1960）

4. 1　国保組合設立準備地区総会（～10日）
　1日　富山地区、3日　高岡市・中新川郡
　7日　下新川郡、8日　氷見市
　10日　婦負郡・東砺波郡・西砺波郡
4. 22　社会保険個別指導申合せに関する打合会（本会）
5. 15　県下野球大会　呉東勝つ
5. 15　近畿北陸地区歯科医学打合会（京都・万養軒）
5. 21　北陸3県協議会（福井県三国町･若えびす旅館、～22日）
5. 29　国保組合設立準備委員会（本会講堂）
5. ー　氷見市無歯科医地区歯科診療
6. 5　第6回歯の女王県大会（富山新聞社3階ホール）
　歯の女王　上野　邦枝（18）（全国大会に出場、準女王に入賞）
6. 12　北陸3県協議会（福井繊維ビル食堂）
　第5回北陸3県歯科学術大会（福井繊維ビル3階ホール）
6. 24　第3回よい歯の学校運動県表彰大会（高岡市公会堂）
7. 2　歯の女王表彰式（富山市公会堂大ホール）
7. 3　第1回学術講演会、第1回社会保険講習会（富山市公会堂5階ホール）
7. 23　近畿北陸地区役員連絡協議会（神戸観光ホテル）（松島理事）
8. 21　第13回近畿北陸地区歯科医師会交歓野球大会
　大阪府優勝
　（小松市営球場、小松実業高校球場）
9. 13　保険医療機関指定後講習会（県医師会館）
9. 15　全国会長連絡協議会（日歯）
10. 2　国保組合設立準備委員会
10. 5　全日本歯の女王コンクール（日本歯科医師会館）
　富山県代表・上野邦枝さん　準女王4位に入賞
10. 23　国保組合設立準備委員会
10. 27　第26回臨時代議員会（日歯）（岡田会長）
10. 30　第13回近畿北陸地区歯科医学大会（京都会館）
11, 13　第2回学術講演会並びに社会保険講習会（富山市役所講堂）
11. 26　近畿北陸地区歯科医学大会打合会（36年）（京都）（松島理事、阿部委員長）

昭和36年（1961）

1. 8　技工士並びに衛生士養成機関設立準備特別委員会
1. 8　国保組合設立準備小委員会
1. 8　近畿北陸地区歯科医学大会準備特別委員会
1. 12　全国会長連絡協議会（日歯）（岡田会長）
2. 12　北陸3県医療連絡協議会（福井県）（川口副会長、松島理事）
2. 19　日歯第27回臨時代議員会（日歯）（岡田会長）
2. 19　全国1日休診断行　富山地区保険医総決起大会
　氷見市保険医（氷見消防署2階）
　富山地区保険医（本会）
　中新川郡保険医（水橋町・望月）
　婦負郡保険医（八尾町・松風荘）
　下新川郡保険医（入善町・清八）
　新湊市保険医（清水宅）
　高岡市保険医（大和・グリル）
　西砺波郡保険医（石動・岡本宅）
　射水郡保険医（大門・小橋宅）
　東砺波郡保険医（砺波市深松）
2. 20　医療保険改革全国歯科医師総決起大会
　（東京九段会館ホール）（岡田会長外5名）
3. 5　第3回学術講演会（高岡産業会館）
3. 5　全国会長連絡協議会（日歯）（川口副会長）
3. 11　全国会長連絡協議会（日歯）（岡田会長）
3. 12　第28回定時代議員会（日歯）（岡田会長）
　第17回定時総会（日歯）（岡田会長）
3. 19　近畿北陸地区歯科医学大会準備委員会（本会）
3. 26　本会定時総会において本会功労者表彰（栗山実純、浦上則政、宮岡宇平次、蓮本庄太郎、長谷川徳光）

日本歯科医師会の動き

昭和35年（1960）

5. ー　全日本よい歯の学校表彰開始
6. 4　歯の衛生週間（～10日）
　「よい歯で　よくかみ　よいからだ」
6. ー　「日歯ニュース」（昭和37年から日歯広報）発刊
7. 23　近北地区歯科医師会役員連絡協議会（神戸市）
10. 27　日歯会計処理問題
　昭和23年から32年までの使途不明金は6,956万6,585円62銭にのぼり、処理特別委員会は全員辞任し、後処理を執行部に任せた
11. ー　日米修好歯科100年記念会
ー. ー　歯科医師数 33,177人
ー. ー　この年、日本歯科放射線学会・歯科理工学会・歯科医療管理学会・日本歯科医学会設立
ー. ー　この年、微粒子アマルガム発売、オイルタービン（7万回転）発売
ー. ー　この年、レントゲンインスタントフイルム発売

昭和36年（1961）

1. 9　日本歯科医師会声明発表
2. ー　日本歯科医師会ポスター発行
2. ー　日本医師会・日本歯科医師会医療費問題で厚生省と対立、全国一斉休診を指令し突入

世の中の動き

昭和35年（1960）

5. 20　自民党、衆議院で新安保条約を強行単独採決
5. 24　チリ地震による津波が日本列島太平洋岸に襲来、死者・行方不明者139人
6. 4　安保改定阻止第1次ストに560万人参加、以後運動拡大
6. 23　新日米安保条約発効。岸首相退陣を表明
6. 25　道路交通法が公布される（12.20 施行）
7. 1　国産カラーテレビが発売される
7. 19　第1次池田勇人内閣成立
9. 10　カラーテレビの本放送が開始される
9. 14　石油産出5カ国が石油輸出国機構（OPEC）を結成
10. 12　浅沼社会党委員長、右翼少年に刺殺される
12. 27　国民所得倍増計画が閣議で決定
ー. ー　この年、電気冷蔵庫が普及
ー. ー　この年、ダッコちゃん人形が大ブーム

昭和36年度（1961年4月～1962年3月）

■会員数　244名（4月1日現在）

富山県歯科医師会の動き

昭和36年（1961）

4. 1　昭和36・37年度役員
　会　長　岡田信次
　副会長　川口義門、桜木成一
　理　事　関　剛三郎、酒井信義、島田栄吉
　吉田　茂、松島正康、柚木　薫
　家城圭一、高田育三（37.2.12～）
4. 6　社会保障部会（日歯）
4. 9　近畿北陸地区学会準備委員会（本会）
4. 14　近畿北陸地区学会実行委員会部長会
4. 16　近畿北陸地区役員連絡協議会（和歌山県白浜温泉・白浜観光ホテル）（岡田会長）
4. 16　国保組合設立準備委員会
4. 22　昭和36年度地区学会審議会（日歯）（阿部学術委員長）
4. 22　北陸３県歯科医師会協議会（宇奈月・宇奈月館、～23日）
4. 30　近畿北陸地区学会、近畿北陸地区役員打合会（電気ビル５階社交倶楽部）
5. 7　第７回近畿北陸地区編集連絡協議会（兵庫県）
5. 12　全国会長連絡協議会（日歯）（岡田会長）
5. 13　公約促進全国医師・歯科医師大会（東京・渋谷野外音楽堂）（岡田会長、桜木副会長）
5. 19　国保組合設立準備小委員会
5. ー　氷見市無歯科医地区歯科診療
6. 11　第７回歯の女王県大会（富山新聞社２階会議室）
　歯の女王　森　由美子（20）
6. 18　近畿北陸学会講演・会場部会（富山市公会堂５階）
　第１回学術講演会、社保講習会（富山市公会堂５階）
6. 19　歯の女王表彰式（富山市公会堂大ホール）
6. 21　よい歯の学校運動表彰式（富山市公会堂大ホール）
6. 25　近畿北陸学会・部長、副部長会議
　近畿北陸学会・展示部会
7. 1　富山県赤ちゃん保健コンテスト事務打合（北日本新聞社５階）
7. 2　近畿北陸学会･観光部会、懇親部会、渉外部会、案内（宿泊）部会、受付部会、接待部会
7. 9　近北学会・総務部会、会計部会、プログラム編集委員会
7. 11　全国会長連絡協議会（日歯）（岡田会長）
7. 23　近畿北陸地区会長連絡協議会（大阪歯科大学病院７階会議室）
7. 23　医療保険改善県対策本部委員会（本会）
7. 25　全国会長連絡協議会並びに日歯政連理事会合同緊急会議（日歯）（桜木副会長）
7. 30　近畿北陸学会・実行委員会部会、副部長会議
7. 30　第２回緊急医療保険改善県対策本部委員会（本会）
9. 3　近畿北陸学会･接待部会、渉外部会、総務部会、案内（宿泊）部会、観光部会、講演会会場部会
9. 7　近畿北陸学会・展示部会
9. 10　近畿北陸学会・３県実行委員会
9. 12　近畿北陸学会・受付部会、会計部会、懇親部会
9. 17　近畿北陸学会・部長、副部長会議、記録部会
9. 23　第14回近畿北陸地区歯科医学大会（富山市公会堂）
9. 27　中部地方歯科医師会懇談会（長野県渋温泉臨泉閣）（岡田会長、関理事）
9. 29　医療保険改善対策本部会（日歯）（岡田会長）
　全国会長連絡協議会（日歯）（岡田会長）
10. 13　近畿北陸学会・会計部会（本会）
10. 20　第５回富山県赤ちゃんコンクール県審査（県庁３階県議場）（関理事、家城理事）
10. 21　第９回社会保障部会（東京・西武健康会館）
10. 31　県学校保健安全研究大会（大島小学校）（岡田会長）
11. 1　無歯科医地区巡回診療打合会（県庁２階会議室）（関理事）
11. 5　技工士、衛生士養成機関設立準備委員会（本会）
11. 10　近畿北陸地区役員協議会（神戸観光ホテル）（川口副会長）
11. 23　医療担当諸団体（県医師会長、県薬剤師会長、県歯医会長）懇談会（県医師会館）
11. 25　第８回近畿北陸地区編集者連絡協議会（大阪府）
11. 26　北陸３県役員協議会（堺捨）
12. 3　第２回社会保険講習会（富山市公会堂５階ホール）
12. 10　近畿北陸学会実行委員会正・副部長会（本会）

昭和37年（1962）

1. 26　東海、近畿、北陸地区社会保険指導者講習会（大阪歯科大学、～27日）（吉田、島田）
1. 28　第２回学術講演会（北日本新聞社５階）
2. 18　技工士、衛生士養成機関設立準備委員会（本会）
2. 23　近畿北陸地区役員連絡協議会（大阪市・坂口楼）（岡田会長）
3. 4　社会保険伝達講習会（北日本新聞社５階）
3. 9　全国会長連絡協議会（日歯）（岡田会長）
　日歯福祉共済部役員会（日歯）（岡田会長）
3. 10　第29回臨時代議員会（日歯）（岡田会長）
　第30回定時代議員会（日歯）（岡田会長）
　第18回定時総会（日歯）（岡田会長）
3. 15　国保組合設立準備小委員会（高陵ホテル）
3. 23　国保組合設立準備小委員会（高陵ホテル）
3. 25　本会定時総会において本会功労者表彰（三羽邦定、島田余三男、青木勝二、飯田半六）

日本歯科医師会の動き

昭和36年（1961）

5. 13　公約促進全国医師・歯科医師大会
6. 4　歯の衛生週間（～10日）
　「よい歯でよく噛みよいからだ」
6. ー　児童福祉法一部改正、３歳児の歯科検診実施決まる
7. 19　日医・日歯、再度の保険医総辞退共同声明
7. ー　医療４原則で合意し辞退中止を指令。新医療費告示
7. ー　全国学童歯科衛生図画ポスターコンクール開始
10. ー　中央社会保険医療協議会改正。医療側要求採用に対して支払側不満提出。診療報酬緊急是正見送り
12. ー　緊急是正告示なる
ー. ー　歯科医師数 33,617人

昭和37年（1962）

2. 20　中央医療協議会発足
3. 10　日歯第29回定時代議員会（会長 中原 實）
　会計処理に関する件 委員会報告一部改正承認

世の中の動き

昭和36年（1961）

4. 12　ソ連・ガガーリンが世界初の有人宇宙飛行に成功
6. 12　農業基本法公布
9. 15　台風18号（第二室戸台風）で近畿地方を中心に被害（最大瞬間風速84.5m、死者194人、被害家屋98万戸）
10. 26　文部省、中学２、３年生を対象に「全国中学一斉学力調査」を実施
ー. ー　この年、レジャーブーム始まる
ー. ー　この年の実質経済成長率14.5％（高度成長期最高）
ー. ー　この年から四日市でぜんそく患者増加

昭和37年（1962）

3. 1　テレビの受信契約が1,000万件を突破
3. 31　義務教育諸学校の教科書用図書の無償に関する法律（教科書無償法）が公布される

昭和37年度（1962年4月～1963年3月）

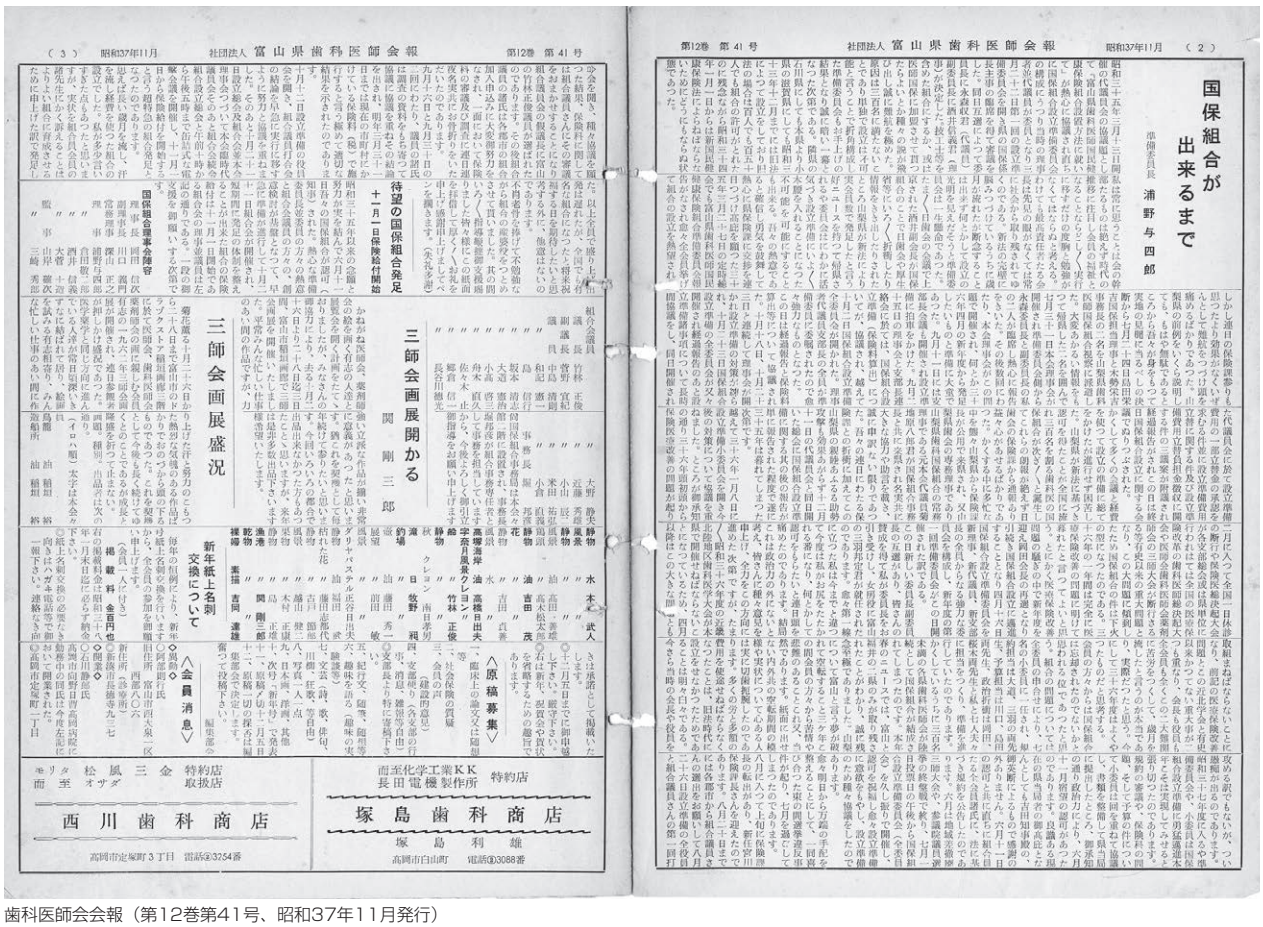
■会員数　243名（4月1日現在）

国保組合設立に当たって

昭和37（1962）年10月21日、富山県歯科医師国民健康保険組合の設立が決定し、11月１日に発足、保険給付開始となった。以下に、会報第12巻第41号（昭和37年11月発行）に掲載された岡田会長（当時）の記事を抜粋引用して紹介する。

去る10月21日に待望の富山県歯科医師国民健康保険組合の設立が決定し、11月１日より発足しました。永い準備期間を経ての発足で、各会員には不満な点、不十分な事も多々ありましょうが、今後のご協力をお願いするものであります。

まず給付制限を撤廃しあらゆる療養が十分にでき、医療給付内容の充実を図り、不幸の発生したときは心おきなく療養に専念でき、休診しても向後の憂いのないような相応な傷病手当を給付できるよう、扶養家族の方々にも全額給付をし、心から喜んでいただける事業に到達することを念願しています。現在は市町村の国保の保険料を当組合保険料に移行して支払っていただくこととしていますが、４月の新年度からは理想の相互扶助に基づいた高度な保健福祉事業を形成すべく各自の保険料を確定し、健全なる財政予算を組んでいきたいと思っていますので、ご理解のうえ、ご協力くださることを念願してやみません。



歯科医師会会報（第12巻第41号、昭和37年11月発行）

富山県歯科医師会の動き

昭和37年（1962）

4. 1 魚津市歯科医師会（支部）発足
4. 12 社会保険並びに税問題座談会
　魚津会場（新川信用金庫）
　富山会場（本会）
4. 13 社会保険並びに税問題座談会
　砺波会場（砺波商工会議所）
　高岡会場（高岡市公民会館）
4. 14 北陸３県歯科医師会協議会（粟津温泉・法師）
4. 23 国保組合設立準備事務打合会（本会）
4. 24 公約違反糾弾、地域差撤廃、医師・歯科医師・薬剤師全国大会（東京・台東体育館）（川口副会長）
4. 27 全国会長連絡協議会（日歯）（岡田会長）
第31回臨時代議員会（日歯）（岡田会長）
5. 2 国保組合準備予算打合会（高陵ホテル）
5. 4 国保連合会事務打合会（国保連絡会）（岡田会長、島田理事）
5. 13 北陸３県学会に関する打合会（石川県）（岡田会長、吉田理事、島田理事）
5. 27 第１回学術講演会並びに社会保険講習会（北日本新聞社５階）
5. 30 国民皆保険達成記念式典（日比谷公会堂）
5. ― 氷見市無歯科医地区歯科診療
6. 5 歯の女王コンクール申込締切り、第１次書類審査により47名県大会へ出場とする
6. 10 北陸３県保険課、歯科医師会合同集団指導講習会（金沢女子短大体育館）
6. 11 富山県歯科医師国民健康保険組合認可（知事）
6. 12 公約尊重、地域差撤廃富山県医師・歯科医師・薬剤師大会打合会（県医師会館）
6. 17 第８回歯の女王県大会（富山新聞社２階会議室）
　歯の女王　有田　淑子（19）
6. 22 よい歯の学校運動表彰式（富山市公会堂大ホール）
6. 23 第17回県優良乳幼児表彰会表彰式（県議場）
6. 24 公約尊重、地域差撤廃富山県医師・歯科医師・薬剤師大会（富山市公会堂５階ホール）
6. 25 県社会保険個別指導（魚津保健所）
6. 27 歯の女王表彰式（富山市公会堂大ホール）
7. 1 国保組合設立準備委員会（本会講堂）
7. 20 都道府県歯科医師会長連絡協議会並びに日本歯科医師政治連盟理事会合同会議（日歯）（川口副会長）
8. 26 黒部市支部発足
8. 26 国保組合会議員打合会（本会）
9. 13 社保、国保審査委員打合会（高陵ホテル）
9. 16 国保組合会議員打合会（本会）
9. 23 国保組合準備役員会（本会）
9. 29 中部地方歯科医師会懇談会（岐阜県歯医会）（岡田会長、関理事）
10. 10 保険医指定後講習会（支払基金）
10. 12 第14回富山県学校保健安全会研究大会（福野中学校）
10. 12 国保組合設立準備委員会役員会（本会）
10. 21 富山県歯科医師国民健康保険組合設立総会（本会講堂）
富山県歯科医師国民健康保険組合組合会（本会講堂）
10. 26 三師会展　第１回（稲垣画廊３階、～28日）
10. 28 第２回学術講演会並びに社会保険講習会（富山市公会堂５階ホール）
10. 30 近畿北陸地区役員協議会（大阪府）
11. 1 国保組合給付開始
11. 18 第15回近畿北陸地区歯科医学大会（和歌山市）（川口、松島、島田、家城、高田理事）

昭和38年（1963）

2. 17 歯科技工士並びに歯科衛生士養成機関設立準備委員会
3. 9 厚生年金保険法10周年記念式典（北日本新聞社講堂）（関理事）
3. 15 都道府県歯科医師会長連絡協議会（日歯）（岡田会長）
日歯福祉共済部役員会（日歯）（岡田会長）
3. 16 第32回定時代議員会及び第19回定時総会（日歯）（岡田会長）
3. 24 本会定時総会において本会功労者表彰（木下友栄、赤祖父三郎、川口義門、柴 太郎）
3. 28 技工士・衛生士養成機関設立準備委員会
3. 28 医療保険改善対策本部委員会（本会）

日本歯科医師会の動き

昭和37年（1962）

4. 24 公約違反糾弾、地域差撤廃、全国医師・歯科医師・薬剤師大会
6. 4 歯の衛生週間（～10日）
「よい歯でよく噛みよいからだ」
7. ― 日歯ニュースを日歯広報に改称
11. 8 社会保険報酬地域差撤廃全国大会（大津市）
滋賀･奈良・和歌山三県主唱にて全国会議を開催
11. 15 第１回よい歯の幼稚園表彰
―. ― 歯科医師数 34,163人
―. ― この年、無鉛アマルガム、水硬性セメント発売

昭和38年（1963）

2. 23 国民健康保険強化全国大会（東京／参加者3,000人）
2. ― 三師会主催の「国民健康保険強化　医療経済体系確立推進全国大会」開催。全国から2,500余名参加
3. 9 近北地区役員連絡協議会（大阪市）

世の中の動き

昭和37年（1962）

4. 26 全日本労働総同盟会議が結成される
5. 10 新産業都市建設促進法が公布される
5. 23 東京・築地の国立がんセンターが診療を開始
6. 10 北陸本線敦賀ー南今庄間で日本最長の北陸トンネル完成（１万3,870m）
8. 12 堀江謙一が日本人初、ヨットでの太平洋単独横断に成功
8. 30 国産飛行機YS11がテスト飛行に成功
9. 13 茨城県・東海村の日本原子力研究所で、国産１号原子炉が稼働
10. 5 閣議で全国総合開発計画（全総）が決定
10. 22 アメリカ・ケネディ大統領がキューバ海上封鎖を指令（キューバ危機）
―. ― この年、テレビの受信契約数1,000万を超える

昭和38年（1963）

1. 26 アメリカが原子力潜水艦の日本寄港を要請
1. ― 北陸地方で三八豪雪（死者178人、家屋全半壊1,566戸）
2. 6 国際通貨基金（IMF）理事会が、日本に８条国への移行を勧告

昭和38年度（1963年4月～1964年3月）

■会員数　251名（4月1日現在）

五箇山歯科巡回診療に参加して

歯科巡回診療について、会報第13巻第43号（昭和38年８月発行）に掲載された坂本清志会員の記事を抜粋引用して紹介する。

上平村立皆葎小学校を訪れると子供達が待っていた。理科室に器械を据えて、口腔検査をするものと抜歯を重点とするものとに分かれて治療を開始。歯磨訓練体操では学校の先生も熱心に協力してくださった。本日はアマ充130本、抜歯80本余り。子供達は歯ブラシを学校に持っていて、昼食後に歯を磨くそうだ。健康教育が地道に行われているのに感心させられた。

錦秋の50周年記念式典

昭和38（1963）年10月13日、創立50周年記念学術大講演会が富山市公会堂にて開催された。

講演者は、『前歯部ブリッジについて』 東京医科歯科大学教授石原寿郎、『3/4冠及びピンレッジの製作法について』 同大助教授尾花甚一、『社会保険の現状と今後の在り方について』日歯常務理事辻本春男の３氏であった。

同年10月20日東別院にて物故会員71氏の慰霊祭、その後富山市公会堂にて記念式典を開催。10名の結盟は300名の偉容となった。以下に、島田栄吉副会長の式辞を掲載する。

50周年記念に当たって40周年後の本会のさまざまな行事を回顧すると確かに飛躍したと思う。大きなものを取り上げてみると、口腔衛生普及啓蒙を主眼として昭和31（1956）年に始めた歯の女王は、本年で９回目を数え富山県の催事の欠くべからざる１つとなった。

昭和32（1957）年の秋には常盤町の会館に別れを告げ現在の会館に移り、新しい現代建築を誇る会館建設への第一歩を踏み出した。

昭和36（1961）年９月には第14回近畿北陸地区歯科医学大会を開催。長い期間の努力と汗の結晶であった。昭和36年暮れから火蓋を切った医療保険改善対策は史上最大のものであり三師会あげて蹴起した。「一日休診」の札を下げて名実ともに血と汗の戦いであった。公約違反地域差撤廃全国大会の後、昭和37（1962）年６月24日には三師会決起大会を開催し闘争に明け暮れる日々であった。

国民皆保険の実施となり、昭和38（1963）年７月16日をもって厚生省より疑義解釈に基づく診療内容の拡大が打ち出され９月１日には宿願の地域差撤廃が実施となり、１点単価10円50銭となった。朝の早くから夜遅くまで労働を続ける我々には社会保障は全くない有様で、せめて国民健康保険組合を自らの手で作ろうと着手したのが昭和35（1960）年３月で、37（1962）年11月１日ようやく発足することができた。批評の嵐の中で長い間苦慮したことは生涯忘却することはできない。昭和38（1963）年11月１日より国保は、世帯主準世帯主は７割給付となった。

待望久しい本会会館新築も昭和39（1964）年４月を期して着工することに内定した。富山県歯科医師会の象徴である会館新築には全会員一丸となり協力し永久に輝くものにしたいと、50周年に当たり祈るものである。

（島田栄吉）

富山県歯科医師会の動き

昭和38年（1963）

4. 1 川口義門　会長就任
副会長　関　剛三郎、島田栄吉
理　事　家城圭一、松島正康、四日善一、吉田　茂
魚津佐一、松能喜一、藤井　弘
4. ー 氷見市無歯科医地区歯科診療
5. 18 北陸３県歯科医師会協議会（福井県芦原温泉・仁泉）
6. 9 第９回歯の女王県大会（富山新聞社３階ホール）
歯の女王　津山　捷子（20）
6. 9 富山地区歯科医師会無料検診　愛育園、ルンビニ園
6. 16 学術講演会（富山市公会堂）
6. 18 国保、社保審査委員合同会議（よしわら旅館）
6. 19 歯の女王表彰式（富山市公会堂大ホール）
6. 30 北陸３県学術講演会（福井市・福井銀行４階ホール）
7. 5 都道府県歯科医師会長連絡協議会（日歯）（川口会長）
8. 4 歯科技工士、歯科衛生士養成機関設立準備委員会（富山市役所第２委員会室）
8. 4 社会保険指導講習の伝達講習会（富山市役所講堂２階）
8. 23 東砺波郡上平地区歯科診療
9. 5 国民健康保険法の一部改正による細部打合会（市町村会館２階）
9. 11 第11回北陸３県学校保健研究協議会（氷見・誉一山荘、～12日）（松能理事）
9. 12 都道府県歯科医師会長連絡協議会（日歯）
日歯第33回臨時代議員会（日歯）
9. 12 健康なよい歯の持主表彰式（福野町役場）（家城、松能理事、渡辺国保委員）
9. 16 歯科疾患実態調査地区別打合会（名古屋市・愛知県職員会館）（藤井理事）
9. 19 麻薬取締役改正の説明会（本会）
9. 28 中部地方歯科医師会懇談会（和倉温泉・加賀屋）（川口会長、家城理事）
10. 13 富山県歯科医師会創立50周年記念式典学術大講演会（富山市公会堂５階ホール）
10. 20 富山県歯科医師会創立50周年記念式典物故会員慰霊祭（東別院）
10. 20 富山県歯科医師会創立50周年記念式典・式典、懇親会（富山市公会堂５階ホール）
記念表彰（岩井二三雄、家城圭一、早見治顕、長谷川徳光、大井 潤、大道憲治、岡田信次、渡辺親良、和記憲一、河原信隆、米田祐弘、吉田 茂、吉村史郎、立浪次作、高田育三、竹林正俊、坪田忠一、成瀬八郎、中川 武、中川 弘、中島清則、永森 収、浦上則政、栗山実純、倉田敬二郎、山崎安三、山下長蔵、松能喜久次、松島正康、牧野 昶、舟木直久、小高啓三、越野培名男、郷倉信一、赤祖父三郎、阿部清一、佐渡喜一郎、酒井信義、木下友栄、柚木 薫、三羽邦定、宮本俊治、三崎政男、島田余三男、島田栄吉、関剛三郎、菅野宜紀、杉江玄照、蓮本庄太郎、〈職員〉吉川敏子）
10. 26 日本歯科医師会創立60周年記念式典（大阪・フェスティバルホール）
記念表彰（会務貢献者：浦野與四郎、大道憲治、岡田信次）（永年会員：米沢真一、永森 収、栗山実純、坪田忠一）（会務貢献：吉川敏子）
10. 26 第10回日本歯科医学大会（大阪・新朝日会館）
11. 8 三師会展　第２回（稲垣画廊、～10日）
11. 10 国保健康保険法施行25周年記念式　主催　富山県、国保連合会（市町村会館ホール）
11. 17 歯科助手（介助者）及び事務員の講習会（富山保健所講堂）

昭和39年（1964）

1. 10 都道府県歯科医療管理経営指導者及び歯科助手養成指導者総合講習会（日歯、～11日）（家城理事、菅野委員長）
3. 3 近畿北陸地区会長、日歯代議員連絡協議会（京都府）（川口会長）
3. 8 本会理事、代議員、監事、支部長、歯科技工士、歯科衛生士養成所準備委員会合同協議会（本会）
3. 22 本会定時総会において本会功労者表彰（石黒宗次郎、成瀬八郎、大菅十造、平井喜美、小泉直久）

日本歯科医師会の動き

昭和38年（1963）

4. ー 厚生省医務局に歯科衛生課復活
6. 4 歯の衛生週間
「よい歯で　よくかみ　よいからだ」
6. 27 近北地区役員連絡協議会（京都府）
6. ー 新中医協発足（医療審議会７年ぶり再開）
10. 26 日本歯科医師会創立60周年記念式典（大阪市・フェスティバルホール）
会旗・会員記章・会歌を制定
10. 26 第10回日本歯科医学会総会（大阪府）
11. ー 第２回歯科疾患実態調査
ー. ー 歯科医師数 34,517人
ー. ー 日本小児歯科学会設立
ー. ー この年、エアーモーターハンドピース発売

昭和39年（1964）

1. ー 自民党内に医療問題議員懇談会結成
2. 7 近北地区役員連絡協議会（京都府）

世の中の動き

昭和38年（1963）

5. 4 厚生省が初めて児童福祉白書を発表
6. 5 関西電力黒部川第四発電所（黒四ダム）完成
6. 29 外国為替管理令改正公布により貿易外資本取引が自由化される
7. 11 老人福祉法が公布される（８．１施行）
7. 15 名神高速道路栗東ー尼崎間が開通、日本初の高速道路
7. 20 中小企業基本法が公布される
8. 14 日本政府、部分的核実験停止条約に調印
11. 22 アメリカ・ケネディ大統領が暗殺される
11. 23 初の太平洋横断日米間テレビ宇宙中継
ー. ー この年、高校で女子の家庭科が必修となる

本会初めての歯科助手の事務並びに臨床補助講習会が開催された。百十数名が受講した（昭和38年11月17日）

創立50周年記念式典

昭和39年度（1964年4月～1965年3月）

■会員数　248名（4月1日現在）

富山県歯科医師会の動き

昭和39年（1964）

4. 26　社保、国保審査委員及び理事合同協議会（本会）
5. 9　北陸３県歯科医師会役員協議会（城端町林道温泉・酒池ホテル、～10日）
5. 20　都道府県歯科医師会長連絡協議会（日歯）
5. 21　日歯第35回臨時代議員会（日歯）
5. ー　氷見市無歯科医地区歯科診療
6. 10　富山地区歯科医師会無料検診　愛育園、ルンビニ園
6. 13　東砺波郡上平地区歯科診療（～14日）
6. 14　第10回歯の女王県大会（富山新聞社）
　歯の女王　姫野　範代（17）
6. 19　都道府県歯科医師会専務理事会（日歯）（家城理事）
6. 27　歯の女王表彰式（富山市公会堂大ホール）
6. 27　近畿北陸地区合同調査集計方法に関する打合会（大阪府）（島田副会長）
6. 28　第９回北陸３県歯科医学大会（富山市公会堂）
6. 28　北陸３県連絡協議会
7. 10　第７回よい歯の学校運動表彰式（県議会議場）
7. 25　歯の女王10周年記念京阪旅行（女王、準女王、～26日）
7. 26　親睦紅白交歓野球大会（東部小学校グランド）
8. 11　富山県歯科福祉会館建築資金融資陳情のため年金事業福祉団へ（川口会長外３名）
8. 24　第１回中央研修ゼミナール（名古屋・愛知学院）（魚津理事、杉江委員）
9. 16　第28回学校歯科医大会（～19日）
　16日　学校歯科衛生研究協議会（富山市公会堂）
　17日　日本学校歯科医会理事会､総会（富山市公会堂）
　18日　大会（県民会館）
　19日　観光（黒部、宇奈月）
9. 19　近畿北陸地区役員連絡協議会（神戸､須磨）（川口会長）
9. 20　第17回近畿北陸地区歯科医学大会（姫路市民会館）（川口会長、島田副会長、松島、魚津理事）
9. 26　中部地方歯科医師会懇談会（～27日）（関副会長、家城理事）
9. 29　都道府県歯科医師会長連絡協議会（日歯）（川口会長）
9. 30　第36回臨時代議員会及び第21回臨時総会（日歯）（川口会長）
10. 15　富山県歯科医師会館入札（11業者参加）
　寺崎工業株式会社落札　35,350,000円
10. 15　県立歯科衛生士学院設置要望について医務課長へ要望（関副会長、高田委員）
10. 17　日新建築設計事務所と設計監理委託契約締結
10. 21　寺崎工業株式会社と富山県歯科医師会館建築請負契約締結
　なお、旧会館は25万円で売買契約締結し、10月26日取毀す
10. 23　三師会展　第３回（稲垣画廊、～25日）
10. 28　学校保健安全研究大会（戸出小学校）（松能理事）
11. 1　地鎮祭
11. 19　近畿北陸６県歯科医師会役員協議会（大津市）（川口会長）
11. 27　都道府県歯科医師会長連絡協議会（日歯）（川口会長）
11. 28　三師会協議会（県医師会）
11. 29　第２回歯科医学大会（富山市公会堂５階ホール）
12. 1　会館建設鍬入式
12. 23　よい歯の幼稚園表彰式　めぐみ保育園（松能理事）

昭和40年（1965）

2. 21　第２回都道府県歯科医療管理経営指導者及び歯科助手養成指導者総合講習会（日歯）（家城理事、菅野委員長）
2. 22　近畿北陸地区会長､専務連絡協議会（京都府）（川口会長）
3. 12　第37回日歯代議員会（日歯）（川口会長）
3. 21　本会定時総会において本会功労者表彰（大道憲治、浦野與四郎、山崎安三、菅田晴山、新谷寿康）

日本歯科医師会の動き

昭和39年（1964）

4. ー　日歯共済加入者への立替払制新設
5. 21　臨時代議員会で実力行使の要求貫徹を決議
6. 4　歯の衛生週間（～10日）
「よい歯でよく噛みよいからだ」
8. ー　第１回中央研修ゼミナール
　歯槽膿漏症、総義歯、抜歯に関する諸問題
8. ー　医療問題議員懇談会総会開催
8. ー　第１回日歯セミナー開催
9. ー　第36回臨時代議員会で日歯定款改正
※都道府県歯会を法人会員とする
・同会・代議員会を３月・９月に開催する
・会長連絡協議会を法人代表者会議とする
11. 19　近北六県歯科医師会役員連絡協議会
　昭和35年発会の三県（和歌山県・滋賀県・奈良県）に北陸三県の参加を得て発足。三県役員連絡協議会は継続
11. 20　医療費緊急是正 政府決定0.5％
11. 21　東京の歯科医5,500人一斉休診
ー. ー　歯科医師数 35,079人
ー. ー　この年、チェアーユニット（坐位診療型）発売

昭和40年（1965）

1. 4　NET「テレビ歯学講座」放送開始

世の中の動き

昭和39年（1964）

4. 1　日本、国際通貨基金（IMF）８条国となる
4. 1　海外渡航が自由化される
4. 28　日本、経済協力開発機構（OECD）加盟国となる
6. 16　新潟地震発生（M7.7、死者・行方不明者38人）、昭和石油のタンクが爆発炎上
10. 1　東海道新幹線開業。東京-新大阪間を「ひかり」４時間、「こだま」５時間で結ぶ
10. 10　東京オリンピック開催。アジア初、94カ国5,541人参加
11. 9　第１次佐藤栄作内閣成立

昭和40年（1965）

1. 28　慶応大学生が学費値上げ反対全学スト実施
2. 1　原水爆禁止国民会議が結成される
2. 7　アメリカ軍、ベトナムへの北爆開始

昭和40年度（1965年4月～1966年3月）

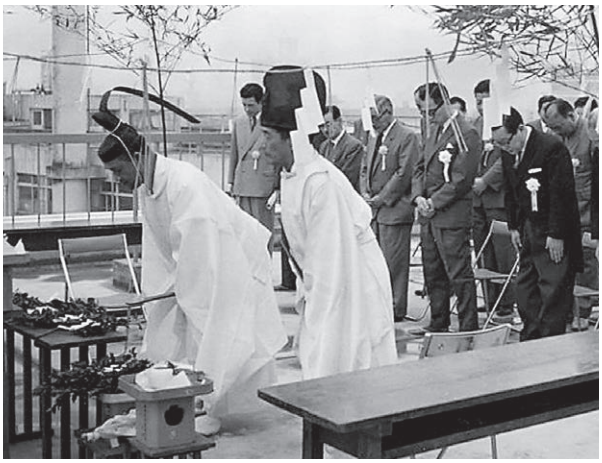
■会員数　252名（4月1日現在）

富山県歯科医師会館竣工式を挙行

かねてよりの念願であった新しい富山県歯科医師会館が、昭和40（1965）年５月30日に竣工した。前年の同39（1964）年10月15日、11社による競争入札が行われ、寺崎工業株式会社が落札。同年11月１日に地鎮祭が行われ工事が始まり、翌40年５月９日の竣工検査をパスして、はれの日を迎えた。会館は、鉄筋３階建て、総延べ床面積712㎡を誇る「白亜の殿堂」と評するに値する立派な会館である。会館内には歯科技工士養成所の併置も決まり、会員の英知が結集された建物となっている。

竣工式は、吉田実・富山県知事（県厚生部長代理出席）をはじめ多数の来賓を招いて、新会館２階広場で盛大に挙行された。式では、川口義門・富山県歯科医師会長の式辞に続いて祝辞、祝電披露が行われ、会館建設に多大な功績のあった会員、団体に対して川口会長から表彰状や感謝状が授与された。その後、３階ホールに場所を移して完成記念祝賀パーティーが開催され、出席者全員で完成を祝った。新会館は今後、会員の親睦と団結の場のみならず、各種学会や講習会の開催、歯科技工士および歯科衛生士の教育・養成、県民への公衆衛生の啓蒙と普及の向上の場として活用されることとなる。

同年６月13日、新会館３階ホールにおいて、会館完成記念学会が開催された。特別講演に古本啓一・日本歯科大学教授、真泉平治・日本歯科大学教授を招き、それぞれ「臨床上必要な歯科放射線について」「歯科臨床におけるいろいろな薬の扱い方について」と題した講演をいただき、多くの会員が熱心に聴講した。



修抜式風景（会館屋上）

会員期待と希望の新しい歯科医師会館

竣工式役員一同記念写真

竣工式風景（表彰状ならびに感謝状贈呈）

富山県歯科医師会の動き

昭和40年（1965）

4. 1 広報室及び調査室設置
4. 1 国保委員会を社会保険委員会に統合
4. 1 昭和40・41年度役員
会　長　川口義門
副会長　関　剛三郎、島田栄吉
理　事　家城圭一、松島正康、四日善一
吉田　茂、魚津佐一、中川　武
松能喜一、三崎秀郎
4. 24 北陸３県歯科医師会協議会（粟津、～25日）
5. 8 第３回近畿北陸６県歯科医師会役員連絡協議会（大津市）（川口会長、島田副会長）
5. 9 会館竣工検査（旧会館、舟橋南町30）
5. 30 富山県歯科医師会竣工式（舟橋南町30）
富山県歯科医師会館建設功労者表彰
（表彰状：浦野與四郎、栗山実純、岡田信次、川口義門、大道憲治、倉田敬二郎、永森 収、青木勝二、三羽邦定、関 剛三郎、島田栄吉、中川 武、深山正之、魚津竹男）
（感謝状：石川県歯科医師会、福井県歯科医師会、高岡市歯科医師会、婦負郡歯科医師会、三羽邦定、牧野 昶、関 清子、金山吉雄）
6. 6 第11回歯の女王県大会（本会新館）
歯の女王　小池　早苗（19）
6. 13 富山県歯科医師会館竣工記念学会（本会３階ホール）
6. 20 歯の女王表彰式（富山市公会堂ホール）
7. 20 第２回中央研修ゼミナール（東京歯科大学、～21日）
8. 18 社会保険指導者講習会（東京文化会館、～19日）（関、島田副会長、吉田、山本委員）
9. 19 第10回北陸３県歯科医学大会（石川県）
9. 29 法人代表者会議（日歯）（川口会長）
9. 30 第38回日歯代議員会（日歯）（川口会長）
9. ― 氷見市無歯科医地区歯科診療
10. 1 日歯福祉共済部10周年記念式典（日歯）
表彰（川口義門、吉川敏子）
10. 2 中部地方歯医会懇談会（長野県）（島田副会長、家城理事）
10. 16 近畿北陸地区社保担当理事連絡協議会（大阪）（吉田、松島理事）
10. 17 第18回近畿北陸地区歯科医学大会（京都）
10. 24 第２回歯科医学大会（本会３階ホール）
10. 31 第１回歯科補助者講習会（本会３階ホール）
11. 14 第２回歯科補助者講習会（本会３階ホール）
11. 15 第４回よい歯の幼稚園表彰式（日歯）
11. 20 近畿北陸６県歯科医師会役員連絡協議会（片山津）（川口会長、家城理事）
12. 19 日本歯科医師会年金制度合同促進説明会（日歯）

昭和41年（1966）

1. 23 日本歯科医師会年金制度説明会（日歯）
2. 13 技工士会との懇談会（本会）
2. 19 第13回都道府県歯科医師会医療管理指導者及び歯科助手養成指導者総合講習会（日歯）
2. 23 医療連絡懇談会（市町村会館）
2. 27 北陸３県会長会議並びに北陸３県保険担当役員協議会（石川県）
3. 6 技工士会との懇談会（本会）
3. 24 富山歯科技工士学院入学試験
3. 27 本会定時総会において本会功労者表彰
（木下庄作、桜木成一、河村哲之助、立浪次作）

日本歯科医師会の動き

昭和40年（1965）

4. ― 日歯･日薬協定処方集を作成
7. 4 参議院選挙、鹿島俊雄当選
7. 12 第２回中央ゼミナール（大阪府）
7. 18 近北２府７県役員連絡協議会（滋賀県）
日歯法人会員に加入
9. 5 第18回近北地区親善野球大会（奈良県）
9. 29 日歯法人代表者会議
9. 30 第38回日歯通常代議員会、日歯年金制度決定
9. 30 第23回日歯通常総会
10. 1 日歯福祉共済10周年記念式典
10. 21 近北地区歯科医師会会長会
11. 1 診療報酬改正（歯科0.173％引上げ）
11. 20 第３回近北６県役員連絡協議会（石川県）
一. ― 歯科医師数 34,163人
一. ― この年、球状アマルガム発売
一. ― エアータービン普及率88％
一. ― kerr社とsimens社によるマイクロモーター・ハンドピースの開発（小型モーターをハンドピースに内蔵）

昭和41年（1966）

1. 25 東海近畿北陸地区歯科医師会役員連絡協議会開催（初）
1. ― 社団法人日本歯科衛生士会創立
2. 1 日歯年金制度発足

世の中の動き

昭和40年（1965）

5. 28 山一証券事件
6. 22 日韓基本条約と付属の協定に調印（日韓国交樹立）
6. ― 名神高速道路全線開通
8. ― 母子保健法公布
10. ― 朝永振一郎、ノーベル物理学賞受賞
11. 10 中国 文化大革命始まる
11. 17 プロ野球第１回新人選択（ドラフト）会議
11. 19 戦後初の赤字国債発行を決定
一. ― 第10回国勢調査 総人口9,827万4,961人

昭和41年（1966）

2. 4 全日空B727羽田沖墜落
3. 4 カナダ航空DC8羽田防潮堤衝突
3. 5 BOAC B-707富士山付近空中分解
3. ― 総人口１億人突破

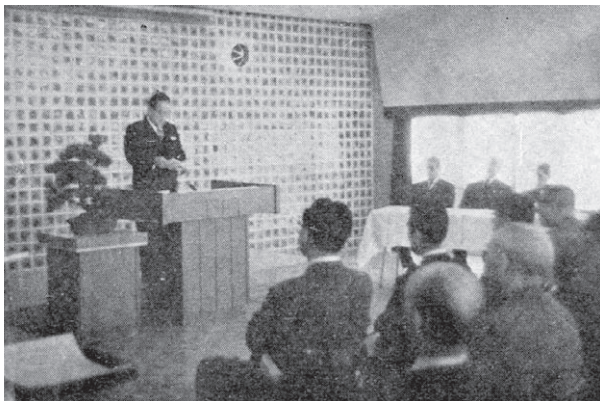
昭和41年度（1966年4月～1967年3月）

■会員数　249名　（4月1日現在）

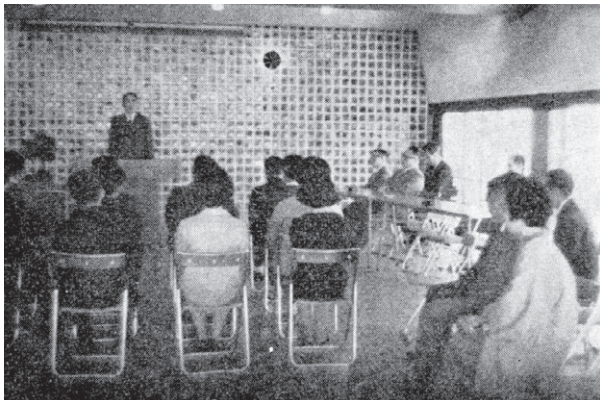
富山歯科技工士学院開校

歯科医学の進歩発展は著しく、これに見合う高度な技術を修得した優秀な歯科技工士の養成が強く望まれていたなか、昭和41（1966）年４月１日、富山歯科技工士学院が厚生大臣の認可を受け、４月15日、盛大に開校式が挙行された。

前年の富山県歯科医師会館と同時に養成所が完成し、その養成所設置委員会を置いて設立準備を行っていた。開校式では、川口義門富山県歯科医師会長の式辞に続いて、富山県知事、富山市長に祝辞を賜り、学院設立経緯が報告された。その後、学院設置功労者として、設立準備委員会のメンバーである高田寅四郎、三崎正春、杉江玄己、坂本清志、飯田弘各氏に川口学院長より感謝状が贈られた。



富山歯科技工士学院開校式（昭和41年4月15日）



富山歯科技工士学院第1回入学式（昭和41年4月20日）

本学院の設立は、北陸三県では初めてであり、基礎的な知識や技術のみならず、最新の歯科医療に対応する高度な技工能力を修得する場としてスタート。４月20日、第１期生19名を迎えて、来賓・父兄多数が臨席されるなか、富山歯科技工士学院第１回入学式が盛大に挙行された。

富山県歯科技工士会の歴史

狂乱のインフレや食糧危機もようやく峠にさしかかった昭和25（1950）年頃、富山市内の技工士が集まり歯科技工士会設立の機運が高まってきた。その流れは県下全域に広まり、翌26（1951）年９月に「富山県歯科技工士会創立総会」を開催した。初代会長に谷口十代次郎氏が就任、事務所を富山市神通町、前田清作氏宅内に置き、会員数32名でその巨歩が踏み出された。昭和41（1966）年には、会員数62名、歯科技工所開設者は22名を数えるに至った。

富山県歯科技工士会のメンバー（出展『創立50周年記念会史』社団法人 富山県歯科技工士会より）

富山県歯の女王選彰会開催

毎年「歯の衛生週間」協賛行事として、富山県歯科医師会と富山新聞社の共催で行われているこのコンテストも今回12回目を迎えた。本年は、富山新聞復刊20周年を記念し「歯の女王」、「準女王」に対して京洛路遊覧の旅にご招待など

の特典もあるとのことで、多数の応募者があった。その中から第一次書類審査で57名に絞り、５月22日に富山県歯科医師会館に集合、12名の審査員により厳正に審査された。６月１日、表彰式が富山市公会堂で開催され、ステージにずらりと並んだ受賞者に対し、会場につめかけた二千人の人々から惜しみない拍手が送られた。

富山県歯の女王選彰会開催

富山県歯科医師会の動き

昭和41年（1966）

4. 1 富山歯科技工士学院（３年制）厚生大臣指定
4. 15 富山歯科技工士学院開校式
富山歯科技工士学院設置功労者感謝状 （高田寅四郎、三崎正春、杉江玄己、坂本清志、飯田 弘）
4. 20 富山歯科技工士学院入学式（第１回）
4. 23 北陸３県役員連絡協議会（福井県芦原温泉）
5. 17 法人代表者会議（日歯）（川口会長）
5. 18 第40回臨時代議員会（日歯）(川口会長)
第25回臨時総会（日歯）(川口会長)
5. 22 第12回歯の女王県大会（本会会館）
歯の女王 岩瀬久美子（18）
6. 1 歯の女王表彰式（富山市公会堂）
6. 6 医療連絡懇談会（健保会館）（島田副会長）
6. 11 近畿北陸地区２府７県歯科医師会役員協議会（川口会長、島田副会長）
6. 25 近畿北陸地区専務理事協議会（奈良市）（家城理事）
7. 19 中央研修ゼミナール（大阪市、～20日）（松田、青木学術委員）
8. 20 社会保険指導者講習会（大阪市、～21日）（吉田、松島理事）
8. 27 近畿北陸６県歯科医師会緊急役員連絡協議会（奈良県）（川口会長）
8. 31 医療連絡懇談会（市町村会館）（川口会長）
9. 17 近畿北陸地区歯科医師会役員協議会（金沢・都ホテル）
9. 18 第19回近畿北陸地区歯科医学大会（福井県民会館）
9. 28 医療懇談会（市町村会館）
9. 29 法人代表者会議､日歯福祉共済部役員会､年金役員会（日歯）
9. 30 第41回日歯代議員会（日歯）（川口会長）
9. 30 第26回日歯総会（日歯）（川口会長）
9. ― 氷見市無歯科医地区歯科診療
10. 6 健康保険組合との事務打合会（富士銀行）（吉田理事）
10. 7 健康保険組合との事務打合会（北陸銀行荒町支店）（関副会長）
10. 8 第11回日本歯科医学会総会（東京都、～11日）
10. 23 親善野球大会（技工士会）（東部小学校グラウンド）
10. 23 第６回三師会展（稲垣画廊、～25日）
11. 3 北陸３県役員連絡協議会（福井県)(川口会長､家城理事)
11. 8 歯科衛生士学院設置について県及び議会へ陳情
11. 12 中部地方歯科医師会懇談会（宇奈月、～13日）
11. 13 第２回歯科医学会（本会３階ホール）
11. 18 健康をよろこぶ運動富山県大会 国民健康づくり運動協会・国保連合会主催
（表彰状：小倉直義）

昭和42年（1967）

1. 20 医療管理及び助手養成指導者講習会（日歯）（魚津理事）
1. 29 社会保険講習会（本会３階ホール）
3. 5 近畿北陸地区歯科医師会役員協議会（金沢市）（関、島田副会長、家城理事）
3. 16 法人代表者会議、年金部役員会、福祉共済部役員会（日歯）
3. 18 第42回日歯代議員会（日歯）（川口会長）
3. 18 第27回日歯総会（日歯）（川口会長）
3. 24 歯科技工士学院入学試験 合格者27名
3. 26 本会定時総会において本会功労者表彰
（永森 収、阿部清一、時女フミ）

日本歯科医師会の動き

昭和41年（1966）

5. ― 日本学校歯科医会「学校保健のてびき」発行
6. ― 口腔衛生教育絵本「歯の健康」発刊
10. 8 第11回日本歯科医学会総会に皇太子・同妃両殿下御臨席
12. ― 日歯がう歯予防法制定臨時委員会設置
―. ― 歯科医師数 36,022人
―. ― 全国初「医療費通報制度」無断決行（高知県）
この年、全国に先駆けて高知県国保連合会が無断で決行したことに、高知県歯科医師会が猛反対。折衝を重ねたが受け入れられず、高知県歯は国保保険医総辞退を行った。その後、県知事が通報制全廃の勧告を国保連合会に提出することになり、高知県歯は辞退届を撤回した（しかし、昭和56年に厚生省主導で全国的に実施される事となる）

昭和42年（1967）

2. ― 竹中恒夫・鹿島俊雄参院議員がそれぞれ大蔵・商工各委員長に就任
3. 12 青年医師連合
3. ― 日歯政連全体理事会で次期参院選候補の選出を巡って紛糾、満岡文太郎氏と決定

世の中の動き

昭和41年（1966）

6. ― 敬老の日（９月15日）、体育の日（10月10日）新設
6. 29 ザ･ビートルズ来日
9. ― 子規、漱石、極堂生誕100年祭
10. ― 厚生年金基金制度が発足
11. 13 全日空YS-11松山空港沖墜落、50名死亡

昭和42年（1967）

2. 11 初の建国記念日
3. ― 日本航空世界一周路線の営業開始

昭和42年度（1967年4月～1968年3月）

■会員数　252名（4月1日現在）

富山県歯科医師会の動き

昭和42年（1967）

4. 1　昭和42・43年度役員
　会　長　阿部清一
　副会長　島田栄吉、竹林正俊
　理　事　深山正之、山崎安隆、水野誓夫
　藤井　弘、千保　利、高田育三
　近藤秀雄、高田寅四郎
4. 1　財政委員会を経理委員会に改称
4. 1　砺波市支部発足
4. 20　歯科技工士学院入学式　第2期生
5. 28　第13回歯の女王県大会（本会会館）
　歯の女王　大塚　純子（20）
6. 7　歯の女王表彰式（富山市公会堂）
6. 10　北陸３県歯科医師会協議会（宇奈月）
6. 13　中央研修ゼミナール（日大歯、～14日）
6. 15　中央研修ゼミナール（大阪歯大、～16日）
6. 17　第19回近畿北陸地区広報連絡協議会（大阪）（近藤理事）
6. 17　富山県よい歯の学校運動10周年記念大会（富山市公会堂）
7. 28　近畿北陸地区歯医師会役員協議会（大阪）（阿部会長、深山理事）
7. 31　医療保険連絡協議会（健保会館）（竹林副会長）
8. 8　社会保険指導者講習会（京都）（山崎理事）
9. 1　小矢部市支部発足
9. 3　北陸３県協議会（本会３階ホール）
9. 24　歯科補助者講習会（本会３階ホール）
9. 27　法人代表者会議（日歯）（阿部会長）
9. ー　氷見市無歯科医地区歯科診療
10. 6　近畿北陸地区会長懇談会（大阪市）（阿部会長）
10. 16　医療経済調査員講習会（長野県）（島田副会長）
10. 22　北陸３県歯科医学大会（富山市第一生命ビル）
10. 25　第７回三師会展（富山旧城跡内郷土博物館、～11月５日）
11. 11　近畿北陸地区歯科医師会役員協議会（奈良県）（阿部会長、島田、竹林副会長）
11. 26　社会保険伝達講習会（本会３階ホール）
11. 28　社会保険伝達講習会（本会３階ホール）
12. 10　社会保険医療担当規則一部改正並びに診療報酬点数表の改正要点の説明会（本会３階ホール）

昭和43年（1968）

1. 29　医療懇談会（市町村会館）（竹林副会長）
2. 10　近畿北陸地区歯科医師会役員協議会（大阪府）
2. 20　医療懇談会（健保会館）
3. 11　第７回法人会員代表者会議（日歯）
3. 12　第44回通常代議員会（日歯）
3. 12　第29回通常総会（日歯）
3. 15　厚生省より学院視察
3. 24　歯科技工士学院入学試験　合格者22名

日本歯科医師会の動き

昭和42年（1967）

5. 25　全国三師会共闘健保法改悪反対全国大会
7. ー　日歯年金ローンの融資制度発足
9. ー　中医協で歯科医療費12.65％引き上げ、歯科保険診療の制限撤廃、差額診療の導入など決定
9. ー　政管、共済・健保組合、船員など本人初診負担100→200円
11. 17　歯科領域に於ける差額徴収の取り扱い一部改正
11. ー　医療経済実態調査実施
12. 1　診療報酬改定（歯科改定率12.65％引き上げ）
　療養担当規則大幅改正 差額徴収適用範囲拡大
ー. ー　歯科医師数 36,524人
ー. ー　次期参議院単一候補者 現専務 満岡文太郎決定
ー. ー　この年、メタルボンドポーセレン、真空吸引器、マイクロモーター、リン酸塩埋没材発売

昭和43年（1968）

3. 13　第２回全国歯科国保組合集会
3. 31　「緊急是正を欲しがる日本歯科医師会は墓場の乞食」武見日医会長発言
　年頭より開始された医療費引上げ問題について日医は厚生省の従来からの薬価調査方法に反対し事態は紛糾。この影響を受け歯科医療費審議会は後回しとなり棚上げ状態が続いたため、業を煮やした。日歯が「これ以上後回しにされるのであれば日医との共同歩調は取れない」と、歯科医療費の緊急是正先議を要求。これに対し日医・武見会長は自民党医療議員懇話会の席上「緊急是正を欲しがる日歯は墓場の乞食」と発言し日歯と更に対立することとなった
3. ー　竹中恒夫氏、日歯会長に当選

世の中の動き

昭和42年（1967）

4. ー　初の革新都知事、美濃部知事誕生
4. ー　神戸開港百年祭
7. 1　EC成立
7. ー　西日本に豪雨禍。神戸市布引の市ケ原で生き埋め死亡21人など被害多数
7. ー　ヨーロッパ共同体（EC）発足
8. 3　公害対策基本法公布
8. 8　ASEAN結成
10. ー　故吉田茂元首相、戦後初の国葬行われる（日本武道館）
12. 11　佐藤首相、非核３原則を言明

昭和43年（1968）

1. ー　国保の世帯員７割給付実施
1. ー　東大紛争
1. ー　全国で学園紛争のピーク（～12月）

昭和43年度（1968年4月～1969年3月）

■会員数　258名　（4月1日現在）

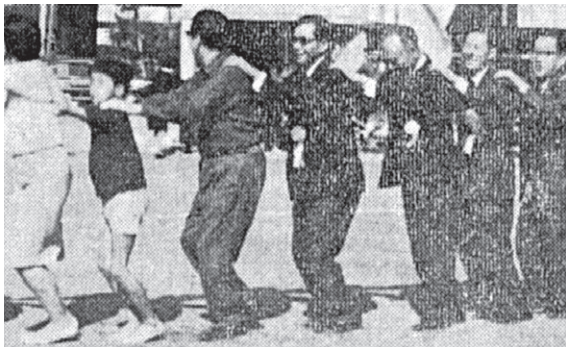
第１回富山県歯科医師会体育大会を開催

昭和43（1968）年10月13日、かねてより厚生委員会で計画されていた第１回富山県歯科医師会体育大会が、県立雄峰高等学校グラウンドにおいて開催された。

体育大会当日は秋晴れの天気になり、約400名の歯科関係者が一同に会し盛大に開催され、各々が親睦を深めあった。競技には、歯科技工士学院の生徒も参加し、全員が一つの輪になってジェンカを踊ったり、各種競技に一喜一憂しながら楽しい一日を過ごした。

参加者にはとても好評で、来年度も是非同様の大会を開いてほしいとの要望が多く、理事会でも話題となった。

ジェンカを踊る参加者（第1回富山県歯科医師会体育大会）



富山歯科技工士学院第1期生卒業式

昭和44（1969）年３月１日、富山歯科技工士学院において第１期生17名の卒業式が多数の来賓、講師、父兄らのご臨席のもと厳粛に挙行された。永森学院長より一人ひとりに卒業証書が授与された後、「身体に注意し、今日の感激と誇りを忘れず、この学院で習得された技術を益々練磨し、技工の道に邁進して欲しい」と式辞があった。その後、来賓祝辞、祝電、在校生からのお祝いの言葉､卒業生からの答辞があり、蛍の光を全員で合唱し、送る者、送られる者共に万感胸に迫るなか、滞りなく式が終了した。

第1期生卒業式（昭和44年3月1日）

富山県歯科医師会の動き

昭和43年（1968）

4. 1	上新川郡支部発足
4. 6	第12回日本歯学会総会協力委員会（大阪府）
4. 7	本会定時総会において本会功労者表彰（大井 潤、岡田信次、吉岡二枝、北山静次、米田祐弘、岩井二三雄）
4. 13	北陸３県歯科医師会協議会（石川県）
4. 21	歯科技工士学院入学式　第３期生
5. 2	第14回歯の女王県大会（本会３階ホール） 歯の女王　下条　玲子（21）
5. 13	全国歯科医師会専務理事連絡協議会（東京都）
5. 22	第45回臨時代議員会（日歯）
5. 27	歯科点数表の疑義解釈説明会（本会３階ホール）
6. 6	第１回社会保険講習会（本会３階ホール）
6. 11	歯の女王表彰式（富山市公会堂）
6. 23	第１回歯科医学会並びに社会保険講習会（本会３階ホール）
8. 10	社会保険指導者研修会（京都市）（島田、山崎理事）
8. 18	第５回中央研修ゼミナール（大阪、～19日）（水野誓夫、高橋日出夫、阿部則行）
8. 22	中部地方各県歯科医師会役員協議会（新潟市）（阿部、竹林、島田、深山）
9. 1	北陸３県会長、総務、保険、学術部理事連絡協議会（石川県）
9. 17	近畿北陸地区役員連絡協議会（兵庫県）（島田副会長）
9. 26	第46回通常代議員会（日歯）（阿部会長）
9. 27	第９回法人会員代表者会議（日歯）（阿部会長）
9. 29	歯科医師会館、技工士学院増築落成式
10. 2	社保、国保審査委員合同協議会（堺捨）
10. 13	第１回富山県歯科医師会体育大会（県立雄峰高校）
10. 27	第21回近畿北陸地区歯科医学大会（神戸市・国際会館）
10. ―	氷見市無歯科医地区歯科診療
11. 4	知事との懇談会（堺捨）
11. 16	近畿北陸東海地区歯医会役員会（浜松市）（阿部会長）
11. 17	北陸３県歯科医学大会（金沢観光会館）
11. 24	歯科助手講習会（本会３階ホール）
12. 1	第２回歯科医学会並びに第５回中央研修ゼミナール伝達講習会（本会３階ホール）
12. 1	歯科助手講習会（本会３階ホール）
12. 15	歯科助手講習会（本会３階ホール）

昭和44年（1969）

1. 22	税対策説明会（本会３階ホール）
2. 13	保険懇談会（堺捨）
2. 18	社保、国保審査委員合同協議会（堺捨）
2. 25	第６回歯科医師会医療管理指導者及び歯科助手養成指導者総合講習会（日歯）（山崎、水野理事）
2. 28	医療懇談会
3. 1	富山歯科技工士学院卒業式　第１期生17名
3. 19	歯科技工士試験（県、～20日）　第１期生全員合格
3. 19	第47回通常代議員会及び第31回通常総会（日歯）（阿部会長）
3. 20	第８回法人代表者会議（日歯）（阿部会長）
3. 23	富山歯科技工士学院入学試験　合格者23名
3. 26	都道府県社会保険担当理事連絡協議会（日歯）（山崎理事）
3. 28	医療懇談会（市町村会館）（竹林副会長）
3. 30	本会定時総会において本会功労者表彰（伊東祐年、郷倉信一、和田義孝、竹林正俊）

日本歯科医師会の動き

昭和43年（1968）

4. ―	竹中恒夫執行部発足
9. 26	第46回日歯代議員会紛糾
9. ―	労働基準法に歯科医師による健康診断を加えるよう労働大臣に要望
9. ―	FDI（国際歯科連盟）に正会員としての加盟承認（翌年１月１日より加盟）
―. ―	歯科医師数 36,943人
―. ―	この年、メタルボンド用ノンプレシャスメタル、エアーベアリングハンドービス発売

昭和44年（1969）

1. 1	FDI（国際歯科連盟）正式加盟

世の中の動き

昭和43年（1968）

4. 4	米国・キング牧師暗殺
5. 8	イタイイタイ病、政府公害認定
6. 26	小笠原諸島、正式日本復帰
7. ―	郵便番号制度スタート
8. 20	ソ連軍チェコ進入
8. ―	札幌医大で初の心臓移植手術
10. 12	メキシコオリンピック開幕
12. 10	３億円事件
―. ―	川端康成、ノーベル文学賞受賞

昭和44年（1969）

1. 18	東京大学「安田講堂」機動隊8,500人にて封鎖解除
1. 20	東京大学入試中止

昭和44年度（1969年4月～1970年3月）

■会員数　256名（4月1日現在）

地区別巡回社保懇談会開催

医療担当者にとって日常そのものが保険に明け暮れる現況において、不審な点等が非常にたくさん存在する。今まで、定期的な社保講習会なるものが開催されてきたが、もっと成果の上がる講習会を開催してはどうかということで、地区別ごとに、各審査委員の先生方とともに気軽に雑談的に最後まで理解できるよう話し合うという懇談会が計画としてあがり、昭和44（1969）年６月12日、下新川、黒部地区より順次開催された。

富山県歯科医師会の動き

昭和44年（1969）

4. 1　昭和44・45年度役員
　会　長　阿部清一
　副会長　竹林正俊
　（前期）島田栄吉、（後期）芳尾弘史
　理　事　高田育三、山崎安隆、近藤秀雄
　藤井　弘、坊　明男、松浦　実
　三崎正春、中島忠一
4. 20　歯科技工士学院入学式　第４期生
4. 23　近畿北陸地区歯科医師会長連絡協議会（兵庫県）（阿部会長）
5. 10　北陸３県歯科医師会役員協議会（芦原温泉）
6. 1　第15回歯の女王県大会（本会）
　歯の女王　杉村恵子（19）
6. 1　近畿北陸地区歯医会役員連絡協議会（京都）（阿部会長、高田総務理事）
6. 6　第48回臨時代議員会（日歯）
6. 12　地区別巡回社会保険懇談会　下新川・黒部（栄亭）
6. 24　地区別巡回社会保険懇談会　魚津・滑川（魚津市医師会館）
7. 6　歯の女王表彰式（富山県民会館）
7. 10　地区別巡回社会保険懇談会　富山・上新川・中新川（本会３階ホール）
7. 12　東砺波郡利賀地区歯科診療（～13日）
7. 17　地区別巡回社会保険懇談会　富山・婦負（本会３階ホール）
7. 23　法人代表者会議（日歯）（阿部会長）
8. 2　社会保険研修会（京都）（竹林副会長、山崎理事）
8. 6　歯科医療問題議員懇談会（日歯）（永森 収）
9. 10　氷見市無歯科医地区歯科診療
9. 11　地区別巡回社会保険懇談会　東砺波・西砺波・小矢部（福光町福祉会館）
9. 14　現代歯学研修会（本会３階ホール）
9. 26　第49回日歯代議員会（日歯）（阿部会長）
9. 26　第32回日歯総会（日歯）（阿部会長）
10. 10　第22回近畿北陸地区歯科医学会並びに第12回日本歯科医学会（大阪）
10. 17　社保、国保審査員合同会議（堺捨）
10. 26　第２回富山県歯科医師会体育大会（奥田中学校）
11. 8　中部地方各県歯科医師会役員連絡協議会懇談会（芦原温泉・有楽荘）
11. 23　北陸３県学会（福井・福井放送会館）
11. 30　第１回歯科医学会並びに社会保険講習会（本会３階ホール）
12. 24　法人代表者会議（日歯）（阿部会長）

昭和45年（1970）

1. 25　歯科点数の改正説明会（富山商工会議所）
2. 6　税務署説明会（本会３階ホール）
2. 22　新点数表改正説明会（住友生命ビル）
2. 25　税務署申告記載説明会（本会３階ホール）
3. 2　歯科技工士学院卒業式　第２期生24名
3. 11　第50回日歯代議員会（日歯）（阿部会長）
3. 11　第33回日歯総会（日歯）（阿部会長）
3. 12　法人代表者会議（日歯）（阿部会長）
3. 12　第２回評議員会（日歯）（阿部会長、竹林副会長）
3. 15　歯科技工士学院入学試験　合格者21名
3. 25　議員懇談会（日歯）（阿部会長）
3. 29　本会定時総会において本会功労者表彰
（島田栄吉､小高啓三､千鳥健二､吉村史郎､村井玉枝､分田文子）

日本歯科医師会の動き

昭和44年（1969）

6. 6　日歯「医療保険制度抜本改革要綱」承認
8. 6　日歯歯科問題自民党議員懇談会発足
8. ー　政連が歯科医療問題議員懇談会を結成
9. ー　会館増築完成
10. ー　第12回日本歯科医学会総会
ー. ー　歯科医師数 37,406人

昭和45年（1970）

2. 1　診療報酬改正 歯科9.73％引上げ
但し歯科のみ差額徴収に関する下記付帯事項がついた
　1．差額徴収に関する苦情処理機関を都道府県毎に設置
　2．給付外医療行為に関するポスターを窓口に掲示する
　3．差額徴収の実態調査を行い、日歯はこれに協力する
3. 11　日歯第50回通常代議員会
　次期会長　奥野半蔵 45票（当選）
　副会長　稲葉福次、高木健吉、井上方明
3. ー　城西歯科大学、鶴見大学歯学部設置認可

世の中の動き

昭和44年（1969）

5. 26　東名高速道路全線開通
5. ー　いざなぎ景気
7. 20　米アポロ11号人類初の月面着陸、アームストロング宇宙飛行士ら月面に第１歩
10. ー　厚生省チクロ使用禁止
12. ー　東京都老人医療費無料化実施

昭和45年（1970）

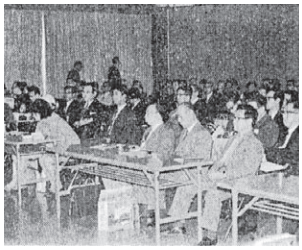
3. 14　日本万国博覧会開幕（大阪府吹田市）
3. 31　赤軍派 日航機「よど号」ハイジャック

昭和45年度（1970年4月～1971年3月）

■会員数　263名（4月1日現在）

北陸三県歯科医学大会

昭和45（1970）年10月18日、富山第一生命ビルにおいて、北陸三県歯科医学大会が開催された。特別講演として、日本歯科大学・菊池進教授が「乳歯歯冠修復について」、東京歯科大学・木村吉太郎教授が「歯周疾患治療の問題点について」と題し、それぞれ講演をされ、出席者全員が熱心に聴講した。会場には、最新式の歯科用機械や材料も展示され、好評を博した。


北陸三県歯科医学大会

富山県歯科医師会の動き

昭和45年（1970）

4. 11　歯科技工士学院入学式　第５期生
4. 21　第３回評議員会（日歯）（竹林副会長）
5. 16　北陸３県歯科医師会協議会（氷見・誉一山荘、～17日）
5. 20　第51回日歯臨時代議員会（日歯）（阿部会長）
5. 20　法人代表者会議（日歯）（阿部会長）
6. 21　第16回歯の女王県大会（本会３階ホール）
　歯の女王　海内美和子（18）
6. 27　東砺波郡利賀地区歯科診療（～28日）
6. 28　歯の女王表彰式（富山市公会堂）
7. 11　東砺波郡上平地区歯科診療（～12日）
7. 19　西砺波郡福光地区歯科診療
8. 18　過疎対策協議会（丸の内会館）（竹林副会長）
8. 23　厚生省・富山県共同指導講習会（富山商工会議所、～24日）
8. 27　医療懇談会（健保会館）（竹林副会長）
9.　6　社保指導者講習会（兵庫県）（竹林副理事長、山崎、藤井理事）
9. 17　第52回日歯代議員会（日歯）（阿部会長）
9. 17　第34回日歯総会（日歯）（阿部会長）
9. 18　日歯法人代表者会議（日歯）（阿部会長）
9. 一　氷見市無歯科医地区歯科診療
10. 11　第３回富山県歯科医師会体育大会（富山市体育館）
10. 18　北陸３県歯科医学大会（第一生命ビルホール）
11.　6　第７回中央研修ゼミナール（兵庫県歯医会、～７日）
11. 21　医療経済調査説明会（兵庫県）（竹林副会長）

昭和46年（1971）

1. 16　総務担当者講習会（兵庫県）（芳尾副会長、高田理事）
2.　7　近畿北陸地区歯医会役員協議会（和歌の浦）（阿部会長、竹林副会長）
2. 10　北陸３県歯科医師会協議会部会連絡協議会（山中温泉・岩間荘、～11日）
2. 13　中部ブロック歯医会役員協議会（下呂）（阿部会長、竹林、芳尾副会長）
3.　4　歯科技工士学院卒業式　第３期生21名
3. 10　第53回日歯代議員会（日歯）（阿部会長）
3. 10　第35回日歯総会（日歯）（阿部会長）
3. 11　日歯法人代表者会議（日歯）（阿部会長）
3. 14　歯科技工士学院入学試験　合格者26名
3. 28　本会定時総会において本会功労者表彰
（林 弘、奥平ユキヱ、阿部彦太郎、酒井信義、島田正三、高田育三）

日本歯科医師会の動き

昭和45年（1970）

4. 一　保険医辞退届のとりまとめを決定
4. 一　奥野半蔵執行部発足
6.　4　歯の衛生週間日歯主催標語（～10日）
「歯をみがこうそれが我が家の合言葉」
9. 一　奥野半蔵会長がFDI総会（ルーマニア）で理事に就任
一. 一　歯科医師数 37,859人
一. 一　エアータービン94.5%、超音波スケーラー普及20.2%

昭和46年（1971）

1. 一　国民大衆向けテレビ「歯の時間です」放映
日本テレビ・全国ネット・毎週土曜日（昭和57年１月まで）
1. 一　厚生省保険局に歯科医療管理官配置（稲葉利正氏）
2. 一　前日歯竹中恒夫会長急逝
2. 一　中医協での「診療報酬適正化資料」に反発し医療担当者側委員退席
2. 一　日大松戸歯学部、岐阜歯科大学設置認可

世の中の動き

昭和45年（1970）

7. 18　東京都で新公害、光化学スモッグ発生
9. 17　和歌山県公害白書発表
10.　2　日本最長六甲トンネル（山陽新幹線）
11. 一　三島由紀夫氏割腹自殺（自衛隊東部総監部）

昭和46年度（1971年4月～1972年3月）

■会員数　268名（4月1日現在）

保険医総辞退

70年代初めの医療に対する政府の態度は、国民健康保険法一部改正法案、特に再診時一部負担金の提案、中央社会保険医療協議会における医療費の引き上げを故意に遷延するための審議メモの提出など、国民と医師を無視した事態が発生していた。

昭和46（1971）年２月10日、三師会は、「本法案が専ら組合健保の擁護と患者負担増を招く健保改悪である」として、全国民と共に反対闘争を行うという声明を発表した。その背景には、昭和36（1961）年７月に厚生大臣、日本医師会、日本歯科医師会（日歯）の間で交わした保険制度の抜本改正を含む四原則が、10年を過ぎた今日に至っても全く実現されず、無誠意ぶりを露呈している政府への不信感も手伝っていることも否めない。日本歯科医師会は、日本医師会と歩調を合わせ、「保険医（社保のみ）総辞退」という強硬態度で対決することとなった。

昭和46（1971）年５月19日、東京・九段会館において、「保険医総辞退全国歯科医師大会」を開催し、大会スローガンを満場一致で採択した。当日は、全国的に一定時間休診が行われ総辞退突入態勢が確立された。５月25日までに保険医登録抹消請求書を所属歯科医師会に提出、６月28日、事務手続きの遅れている２、３の歯科医師会を除き一斉に各都道府県知事に提出した。

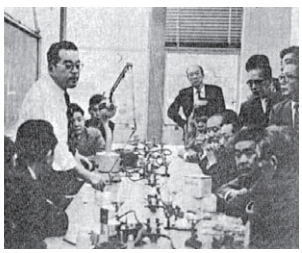
こうした事態打開のため、７月15日、厚生大臣と奥野日本歯科医師会長の第１回会談が行われるものの、物別れに終わった。同月27日に第２回会談が行われたが、解決への具体的な話し合いが行われるものの妥結には至らなかった。

７月29日、第３回会談が行われ、日本医師会と政府との間で妥結した８項目に加え、歯科医療の特性に鑑みた２項目が追加されるかたちでようやく妥結をみた。

日歯は即刻辞退届けの撤回を決め、各都道府県歯科医師会に会談の経過と妥結した項目を伝達し、８月１日の強硬突入は回避された。妥結後、各都道府県歯科医師会長が預かっていた保険医登録抹消届は、昭和47（1972）年３月に、各会員に返却された。

歯科医学大会開催

昭和46（1971）年10月24日、歯科医師会館において本年度第２回歯科医学大会が開催された。日本歯科大学・横塚繁雄助教授、仲井孝志助手をお迎えして「ポーセレンジャケットクラウン」について、特別講演とデモが行われた。ポーセレンジャケットクラウンは、最近とみに需要が増加してきており、会員からの希望も多かった内容で、多くの受講者が熱心に聴講した。


第2回歯科医学大会

富山県歯科医師会の動き

昭和46年（1971）

4. 1 昭和46・47年度役員
　会　長　深山正之
　副会長　四日善一、藤井　弘
　理　事　中島清則、近藤秀雄、高田育三
　水野誓夫、吉岡達雄、米沢真一
　高田寅四郎、永森尚之
4. 10 歯科技工士学院入学式　第６期生
5. 10 日歯会長会議（日歯）（深山会長）
5. 13 近畿北陸地区時局協議会（大阪府）（深山会長、四日副会長、中島理事）
5. 18 日歯時局対策委員会､政連代表者会議（日歯）（深山会長）
5. 19 保険医総辞退全国歯科医大会（九段会館）（深山会長、高田育三、高田寅四郎、永森尚之理事）
5. 22 北陸３県歯科医師会連絡協議会（粟津温泉）
6. 6 富山地区歯科医師会無料検診　ルンビニ園
6. 13 第１回社保講習会並びに学術講演会（３階ホール）
6. 15 日歯法人代表者会議（日歯）
6. 20 第17回歯の女王県大会（本会３階ホール）
　歯の女王　氷見知偉子（20）
6. 29 歯の女王表彰式（３階ホール）
7. 15 広報連絡会議（大津市）
7. 27 法人代表者会議（日歯）（深山会長、中島理事）
8. 3 法人代表者会議（日歯）（深山会長）
8. 3 第55回日歯代議員会（日歯）（永森代議員）
8. 15 近畿北陸地区協議会（大阪府）
8. 21 第８回中央研修ゼミナール（日歯主催）（日歯、愛知県歯医会、～22日）（吉岡理事、松能理事、青木理事）
8. 28 税務委員会設置
9. 12 第４回富山県歯科医師会体育大会（富山市体育館）
9. 15 第24回近畿北陸地区歯科医学会（金沢市）
9. 18 氷見市無歯科医地区歯科診療
9. 22 第56回代議員会（日歯）（永森代議員）
9. 22 第36回通常総会（日歯）（深山会長）
9. 23 第19回法人代表者会議（日歯）（深山会長）
9. 24 医療管理、税務講習会（本会）
10. 24 第２回歯科医学大会（３階ホール）
10. 31 三師会展（県民会館、～11月５日）
11. 14 第１回有料研修会
11. 20 近畿北陸地区役員協議会（粟津温泉）
12. 5 第２回有料研修会

昭和47年（1972）

2. 6 近畿北陸地区会長、専務理事会議（京都府）（深山会長、中島理事）
2. 10 法人代表者会議（日歯）（深山会長）
2. 27 第３回社会保険講習会（３階ホール）
3. 5 歯科技工士学院卒業式　第４期生22名
3. 10 第57回日歯代議員会（日歯）（永森代議員）
3. 10 第37回日歯通常総会（日歯）
3. 10 保険関係指導者に対する歯科衛生講習会（３階ホール）
3. 19 歯科技工士学院入学試験　合格者29名
3. 22 歯科技工士国家試験（～23日）
3. 24 厚生省学院視察
3. 26 本会定時総会において本会功労者表彰
（清水幸七、関 剛三郎）

日本歯科医師会の動き

昭和46年（1971）

4. ー 厚生省に歯科医療管理官制度が発足
5. 19 保険医総辞退全国大会（東京／参加2,000人）
5. 30 近北地区決起大会（京都）
6. 28 奥野日歯会長が６月28日午前10時をもって保険医登録抹消届提出を支持した
7. 1 日医保険医総辞退に突入
7. 28 奥野日歯会長が佐藤首相、武見日医会長と会談
7. 29 日医・日歯と厚生大臣が対立していた12項目について合意し、保険医総辞退は回避された
8. 21 第８回中央研修ゼミナール（愛知県、～22日）
「困難な総義歯とその対策」
11. ー 日歯青色申告会全国連合会発足
11. ー （社）日本学校歯科医会設立
ー. ー 歯科医師数 39,218人
ー. ー この年、パノラマレントゲン、接着性レジン充填材発売
ー. ー 歯科技工士による代診問題

昭和47年（1972）

1. 19 厚生省「無資格者による医業及び歯科医業の防止について」都道府県知事宛通知
1. 26 奥野日歯会長が引責辞任
1. ー 松本歯科大学、日歯大新潟歯学部、東北歯科大学設置認可
2. ー 日歯が老人医療無料化に対する意見を提出
3. 10 日歯第57回通常代議員会、第37回通常総会
　次期会長　中原　實　無投票当選
　副会長　　宮井伸造、藤木　昇、斎藤静三

世の中の動き

昭和46年（1971）

6. ー 沖縄返還協定調印
7. ー 全日空機と自衛隊機が雫石上空で衝突、162名死亡
7. ー 環境庁発足
8. ー ニクソンショック
12. 20 初の円切り上げ１ドル308円

昭和47年（1972）

1. 24 グアム島にて元日本兵横井庄一救出
2. 3 札幌オリンピック開幕、ジャンプ金銀銅独占
2. 19 連合赤軍浅間山荘事件発生、２月28日午前10時に機動隊が突入し収束
3. 7 連合赤軍、妙義山中リンチ大量殺人事件発覚
3. 15 山陽新幹線、新大阪ー岡山間開通

昭和47年度（1972年4月～1973年3月）

■会員数　277名（4月1日現在）

富山県歯科医師会の動き

昭和47年（1972）

4. 10　歯科技工士学院入学式　第７期生
4. 14　近畿北陸地区役員連絡協議会（大阪）（会長外７名）
5. 10　日歯評議員会（日歯）（深山会長）
5. 10　第58回日歯代議員会（日歯）（永森代議員）
5. 10　法人代表者会議（日歯）（深山会長）
5. 20　北陸三県歯科医師会協議会（福井県芦原）
5. 28　第18回歯の女王県大会（本会３階ホール）
　歯の女王　尾崎由紀子（20）
5. 28　第１回歯科助手講習会（３階ホール）
5. 28　叙勲者祝賀会（県民会館）
6.　2　歯の女王表彰式（富山市公会堂）
6. 17　東砺波郡上平地区歯科診療
6. 25　第１回歯科医学大会（３階ホール）
7. 16　第９回中央研修ゼミナール（東京九段会館､～17日）（吉岡達雄、宮本乙男、石川静郎）
7. 30　社会保険伝達講習会（３階ホール）（水野理事）
8. 13　第２回歯科医学大会（３階ホール）
9.　9　氷見市無歯科医地区歯科診療
9. 10　富山県歯科医師国民健康保険組合創立10周年記念式典（県民会館ホール）
　設立運営功労者
　（感謝状：浦野與四郎、岡田信次、永森 収、島田栄吉、川口義門、酒井信義、阿部清一、深山正之、林 弘、中島清則、菊地原八郎、堀 邦彦）
9. 26　第59回日歯代議員会（日歯）（永森代議員）
9. 27　法人代表者会議（日歯）（深山会長）
10. 10　第１回歯科衛生士の衛生講習会（３階ホール）
10. 14　税務講習会（３階ホール）
10. 14　富山県歯科医師会青色申告会結成総会
10. 22　北陸３県歯科医学大会（福井繊維会館）
10. 29　第５回富山県歯科医師会体育大会（中部高校グランド）
11. 11　近畿北陸地区役員連絡協議会（大阪歯科大学）
11. 12　第25回近畿北陸地区歯科医学大会（大阪府）

昭和48年（1973）

1. 14　有料研修会
1. 21　老人福祉法による老人医療給付と手続講習会
1. 29　厚生省歯科衛生士学院視察
2. 25　富山県歯科衛生士学院入学試験　合格者22名
2. 28　富山県歯科衛生士学院厚生大臣指定
3.　4　富山歯科技工士学院卒業式
　第５期生22名、第６期生（繰上）26名
　歯科技工士養成所指定規則附則第３項により修業年限３年が廃止となったので､３年生（第５期生）２年生（第６期生）の卒業式を同時に行う
3. 11　富山歯科技工士学院入学試験　合格者30名
3. 16　第60回日歯代議員会（日歯）（四日副会長）
3. 16　第39回日歯総会（日歯）（四日副会長）
3. 17　法人代表者会議（日歯）（深山会長）
3. 17　日歯評議員会（日歯）（深山会長）
3. 25　本会定時総会において本会功労者表彰
　（関 清子、田中直次、堀井富子）
3. 26　歯科技工士国家試験（～27日）

日本歯科医師会の動き

昭和47年（1972）

5. 10　第58回日歯臨時代議員会
　中原会長は自らの方針について「中原についてこい。異議ある者はすぐに立て」と述べ会場を見渡した
　沖縄県歯科医師会が日歯へ入会
5. 13　近畿北陸地区歯科医師国保組合協議会（大津市）
6.　4　歯の衛生週間（～10日）
　「よい歯でよくかみよいからだ」
7. 16　第９回中央研修ゼミナール（東京）
7. ―　日歯広報から日歯公報に改称
9. 26　日歯代議員会「脱保険、計画診療実施」発表
9. ―　日歯青色ローン制度できる
9. ―　労働省「歯科医師の職務等について」通達
10. ―　日歯脱保険運動提唱
―. ―　歯科医師数 40,293人
―. ―　無歯顎の咬合、ゴシックアーチと中心咬合位

昭和48年（1973）

1. 25　日歯「計画診療」ポスター配布

世の中の動き

昭和47年（1972）

5. 15　沖縄返還（沖縄県発足）
5. ―　日本赤軍テルアビル空港乱射事件
6. ―　労働安全衛生法公布
6. ―　田中角栄日本列島改造論発表
7. ―　田中角栄内閣発足
8. 26　ミュンヘンオリンピック、金12個
9. 29　日中国交正常化共同声明

昭和48年（1973）

1.　1　老人医療費（70歳以上）無料化
1. ―　ベトナム停戦
3. 29　ベトナム戦争終結宣言
3. ―　日本、変動相場制（為替）に移行

昭和48年度（1973年4月～1974年3月）

■会員数　279名（4月1日現在）

富山歯科衛生士学院を開校

昭和48（1973）年４月８日、富山県歯科医師会館において、富山歯科衛生士学院開校式が挙行された。昭和23（1948）年に歯科衛生士法が施行、全国に次々と歯科衛生士養成所が設立されてきた。石川県において既に卒業生が活躍していることもあり、「本県においても早期に養成所設立を」という要望に応えての開校となった。

前年の昭和47（1972）年５月７日、第１回歯科衛生士養成所設立準備委員会が発足し、９名の委員が選出され、全会員の総意に応えるべく活動が本格化した。県当局、議会への陳情運動、厚生省への設立申請書の作成など、会長をはじめ各委員の並々ならぬ活動があったことは言うまでもない。特に、場所の選定には紆余曲折があり、婦人相談所、元農業試験所、元県立保健婦専門学院や歯科医師会館に併設して一部改装という案も出た中で、最終的には県立中央病院の元保健婦専門学院の一部貸与に決着した。

昭和48（1973）年１月15日、学院の建物が完成し、同月29日、厚生省三井歯科衛生課長補佐による実地検分を経て、２月28日、厚生大臣指定を受け、晴れの開校式を迎えることとなった。

開校式には、多数の来賓出席の中、会長の式辞、島信行設置実行委員長の設立経過報告、設立に功績のあった会員に対する感謝状贈呈が行われた。式終了後、祝賀会が行われ、皆でその完成を祝った。

昭和48（1973）年４月10日、午前10時より、富山歯科衛生士学院（富山市西長江、県立中央病院内）において、第１期生の入学式が挙行された。式には、２月25日の学科並びに面接試験に合格した第１期生22名が希望を胸に整列。父兄、多数の来賓ご臨席のなか厳粛に行われ、１年間の学院生活がスタートした。

富山県立中央病院内に完成した富山歯科衛生士学院

富山歯科衛生士学院第1回入学式（昭和48年4月10日）

富山県歯科医師会の動き

昭和48年（1973）

4. 1 富山歯科技工士学院は歯科技工士養成所指定規則附則第３項により、昭和48年３月31日をもって修業年限３年が廃止となったので、昭和48年度より２年制となる
4. 1 本会常任委員会を総務、財務、社会保険、学術、福祉共済、広報調査、医療管理、税務、公衆衛生の９委員会となる
4. 1 富山県歯科医師会会務処理規程、富山県歯科医師会委員会規程を廃止して、新規程を施行
4. 1 昭和48・49年度役員
会　　長　深山正之
副 会 長　四日善一、松能喜一
総務理事　中島清則
理　　事　水野誓夫、吉岡達雄、米沢真一
吉田　茂、永森尚之、高田寅四郎
三崎正春、宝田　力
4. 8 富山歯科衛生士学院開校式
4. 8 富山歯科衛生士学院設置功労者表彰
（島 信行、中島忠一、飯田 弘、三崎正春、千保 利、今村勝彦、山崎安隆、松田正男、山本壯一）
4. 10 富山歯科技工士学院入学式　第８期生
富山歯科衛生士学院入学式　第１期生
5. 12 北陸３県歯科医師会連絡協議会（氷見・誉一山荘）
5. 19 東砺波郡上平地区歯科診療（～20日）
6. 3 第19回歯の女王県大会（本会３階ホール）
歯の女王　池亀　克美（18）
6. 3 富山地区歯科医師会無料検診　ルンビニ園
6. 13 歯の女王表彰式（富山市公会堂）
6. 17 計画診療講習会
富山県歯科医師会報第27巻通算66号より横書きとなる
6. 28 社保、国保審査員合同協議会
7. 11 上平村西赤尾地区巡回診療（～12日）
7. 12 社会保険指導者講習会
7. 15 富山県歯科医師会創立60周年記念式典
第１部　慰霊祭（西別院）
第２部　記念学会（県民会館）
第３部　記念式典（県民会館）
第４部　記念パーティ（県民会館８階ホール）
7. 15 富山県歯科医師会創立60周年記念表彰
（杉江玄照、浦野與四郎、倉田敬二郎、赤祖父三郎、永森 収、立浪次作、大菅十造、阿部清一、川口義門、岡田信次、伊東祐年、島田栄吉、岩井二三雄、家城圭一、魚津佐一、竹林正俊、高田育三、菅野宜紀、坂下孝則、吉村史郎、深山正之、茶山信吉、田中直次、松島正康、近藤秀雄、中島清則、田上 修、四日善一、谷井三郎、小林全二、仲村 博、水野誓夫、山崎安隆、魚津竹男、小森甚作、吉田 茂、羽井良三、松能喜一、三崎正春、米沢真一、杉江玄己、中島忠一、千保 利、山田外雄、松田正男、高田寅四郎、渡辺綱男、藤井 弘、水野公之、飯田 弘、今村勝彦、山本壯一、他職員４名）
7. 25 上平村皆葎地区巡回診療（～26日）
8. 2 近畿北陸地区役員連絡協議会（神戸市）
8. 17 八尾町大長谷地区巡回診療（～18日）
8. 23 八尾町大長谷地区巡回診療（～24日）
9. 8 氷見市無歯科医地区歯科診療
9. 16 第１回計画診療推進委員会（本会）
9. 16 第１回税務講習会（３階ホール）
9. 21 日歯第61回代議員会（日歯）（永森代議員）
9. 22 日歯法人代表者会議（日歯）（深山会長）
9. 22 日本歯科医師会創立70周年記念式典（帝国ホテル）
記念表彰
（永年会員：石崎憲吾、早見治顕、佐渡喜一郎）
（会務貢献者：浦野與四郎、倉田敬二郎、永森 収、立浪次作、川口義門、岡田信次、竹林正俊、島田栄吉、深山正之、阿部清一、中島清則、酒井信義、岩井二三雄、赤祖父三郎、大菅十造、家城圭一、山下長藏、菅田晴山、宮本俊治、坪田忠一、吉田 茂、藤井 弘、近藤秀雄、千保 利、米沢真一、清水周明、越野培名男、坂下孝則、小高啓三、島田余三男、高田寅四郎）
（叙勲褒章知事賞受賞者：吉岡達雄、金山嘉城）
（永年会務貢献職員：吉川敏子）
9. 29 第23回全国学校保健研究大会（富山市公会堂、～10月１日）
10. 6 歯科衛生士学院戴帽式
10. 7 第６回富山県歯科医師会体育大会（中部高校グランド）
10. 14 第３回計画診療推進委員会（３階ホール）
10. 14 北陸３県歯学大会準備委員会（３階ホール）
10. 20 北陸３県歯科医師ボウリング大会（富山グランドボウル、～21日）
10. 21 北陸３県歯科医学大会（富山商工会議所10階ホール）
11. 3 日本歯科医師会表彰状伝達式（３階ホール）
11. 11 第26回近畿北陸地区歯科医学大会（大津市・滋賀県立体育館）
11. 25 第２回歯科医学大会（３階ホール）

昭和49年（1974）

1. 25 近畿北陸地区役員連絡協議会（兵庫県）（深山会長、四日副会長、吉田理事）
1. 27 歯科診療報酬の改定説明会（３階ホール）
2. 14 日歯青申評議員会（日歯）
2. 17 点数改正説明会（３階ホール）
2. 24 乙種第１歯科助手講習会（富山県社会福祉会館、～３月24日）
2/24、3/3、3/17、3/24の４回
3. 3 歯科技工士学院卒業式　第７期生　28名
3. 10 歯科衛生士学院卒業式　第１期生　20名
3. 14 第63回日歯代議員会（日歯）（深山会長）
3. 15 日歯代表者会議（日歯）（深山会長）
3. 31 本会定時総会において本会功労者表彰
（菅野宜紀、家城圭一、大野静夫、本告武人、渡辺親良）

日本歯科医師会の動き

昭和48年（1973）

5. 28 産業歯科医指導者講習会開催（初）
5. ― 第１回産業歯科医研修会
5. ― 第１回労働衛生コンサルタント講習会
8. ― 第１回歯学研修セミナー（政府委託事業）
中央研修ゼミナールから歯学研修セミナーへ名称変更
8. ― 日本歯科医師会、自由診療声明
9. 22 日歯創立70周年記念式典
11. 11 寝たきり老人医療及び重症心身障害者医療について日歯は協力拒否
―. ― 歯科医師数 40,490人

昭和49年（1974）

2. ― 第１回歯科技工士研修会開催（政府委託）
3. 14 日歯第63回通常代議員会第41回通常総会
日歯会長選挙　中原　實当選
副会長　堀尾義勝、門司貞男、斎藤静三

世の中の動き

昭和48年（1973）

4. ― 交通ゼネスト
6. ― オイルショック始まる
8. ― 金大中事件起こる
10. 1 社会保険家族給付、５割から７割に引上げ
10. 23 江崎玲於奈、ノーベル物理学賞受賞
10. ― 寝たきり者（65歳以上）医療費無料化
11. 2 石油ショックでガソリン・紙など品不足
11. ― 関門橋開通

昭和49年（1974）

1. ― 石油危機による電力規制始まる
2. ― 歯科診療報酬点数表の一部改正
2. ― 診療報酬改定　歯科19.9％
3. 10 小野田寛郎元陸軍少尉をルバング島で救出

昭和49年度（1974年4月～1975年3月）

■会員数　288名（4月1日現在）

永森収先生の叙勲祝賀会

昭和49年度、秋の文化の日に勲五等双光旭日章を受けられた永森収先生の叙勲祝賀会が、12月８日電気ビルにおいて盛大に開催された。式には富山県知事代理富山県厚生部長渋谷知一様、富山市長改井秀雄様ら多数の来賓出席のなか、祝辞、祝電披露、パーティーと続き、出席者全員が永森先生の功績を讃えた。

永森収先生の叙勲祝賀会

富山県歯科医師会の動き

昭和49年（1974）

4. 10　歯科技工士学院入学式　第９期生
　　歯科衛生士学院入学式　第２期生
5. 19　第１回学術講演会（３階ホール）
5. 19　第１回社会保険講習会（３階ホール）
6. 1　北陸３県協議会（石川県片山津）
6. 2　第20回歯の女王県大会（本会３階ホール）
　　歯の女王　鷲塚　祐子（23）
6. 9　歯の無料相談　富山市（北電サービスセンター）高岡市（大和高岡店）
6. 10　歯の女王表彰式（県民会館）
6. 13　保険課との懇談会（本会）
6. 23　第２回歯科医学会（３階ホール）
7. 28　請求事務説明会（３階ホール）
8. 20　八尾町大長谷地区巡回診療（～21日）
8. 25　第３回学術講演会（３階ホール）
9. 10　八尾町大長谷地区巡回診療（～11日）
9. 15　第９回全日本歯科医師ボウリング大会（スポーデンボウル）
9. 26　日歯法人代表者会議（日歯）（深山会長）
9. 27　第65回日歯代議員会（日歯）（深山会長）
9. 29　点数改正説明会（３階ホール）
10. 10　第７回富山県歯科医師会体育大会（八人町小学校）
10. 16　上平村西赤尾地区巡回診療（～17日）
10. 20　北陸３県歯科医学大会（金沢市）
10. 26　上平村皆葎地区巡回診療（～27日）
11. 10　第１回近畿北陸地区医学会準備委員会（本会）
11. 10　第１回税務講習会
11. 19　近畿北陸地区役員協議会（京都）（深山会長、四日副会長、中島理事）
12. 8　叙勲祝賀会（永森 収先生）（電気ビル）
12. 9　法人代表者並びに政連代表者合同会議（日歯）（深山会長）
12. 15　第２回近畿北陸地区医学会準備委員会（本会）

昭和50年（1975）

2. 16　第４回歯科医学大会（３階ホール）
3. 2　日歯法人代表者会議（日歯）（深山会長）
3. 2　近畿北陸地区役員協議会（京都）（松能副会長）
3. 2　歯科技工士学院卒業式　第８期生　30名
3. 7　歯科衛生士学院卒業式　第２期生　22名
3. 10　日歯時局対策委員会（日歯）（深山会長）
3. 13　日歯法人代表者会議（日歯）（深山会長）
3. 14　第66回日歯代議員会（日歯）（深山会長）
3. 14　第43回日歯総会（日歯）（深山会長）
3. 23　第３回近畿北陸地区医学会準備委員会（本会）
3. 30　本会定時総会において本会功労者表彰
　　（小倉直義、魚津佐一、芳尾弘史、関 信一、岡田正三、谷井三郎、大井ハツ子、越野培名男）

日本歯科医師会の動き

昭和49年（1974）

6. ー　三師会主催「医療危機の根源・中医協解体要求全国大会」
7. 7　参議院議員選挙、満岡文太郎は落選（44万票 前回に次いで）
11. 11　「歯の110番」開設
11. 25　日歯「苦情相談係」設置
11. ー　各地消費者団体も「歯の110番」を設ける
　　※差額徴収社会問題となる
11. ー　中医協、歯科差額問題で「専門部会」設置
ー. ー　歯科医師数 41,680人

昭和50年（1975）

1. ー　日本歯科医学会会誌創刊
2. ー　厚生省関係審議委員総辞退届
　　厚生行政協力拒否声明書提出
2. ー　文部省国立大学へ歯科差徴の標準値を通知
3. 6　全国5,000カ所に苦情相談窓口設置
3. 14　日歯第66回通常代議員会第43回通常総会紛糾（中原会長不信任可決）

世の中の動き

昭和49年（1974）

4. 1　テレビ和歌山開局
4. ー　高校進学率90％超す
5. 18　インドが初の地下核実験
8. 8　ウォーターゲート事件でニクソン米大統領辞任
10. 14　巨人・長嶋茂雄選手が現役を引退
10. ー　診療報酬改定　歯科16.2％
11. ー　田中首相金脈問題で退陣
ー. ー　佐藤栄作、ノーベル平和賞受賞

昭和50年（1975）

2. 10　新関門トンネル供用開始
2. 19　大阪消費連“歯の苦情110番”開設
2. ー　ロッキード疑惑発覚
3. 10　山陽新幹線、博多まで開通

昭和50年度（1975年4月～1976年3月）

■会員数　299名（4月1日現在）

富山県歯科医師会の動き

昭和50年（1975）

4. 1　昭和50・51年度役員
　会　　長　永森　収
　副 会 長　山崎安隆、藤井　弘
　総務理事　田上　修
　理　　事　青木康三、石川静郎、水野公之
　寺島祐輔、飯田　弘、吉村史郎
　坊　明男、松田正男
4. 10　歯科技工士学院入学式　第10期生
　歯科衛生士学院入学式　第３期生
4. 27　社会保険説明会（３階ホール）
4. 27　第１回近畿北陸地区学会準備委員会（３階ホール）
5. 1　近畿北陸地区役員連絡協議会（奈良市・春日ホテル）
5. 17　北陸３県歯科医師会連絡協議会（氷見・誉一山荘）
5. 20　第32回法人代表者会議（都道府県会館）（永森会長）
5. 27　日歯代議員会（日歯）（深山代議員）
6. 1　第21回歯の女王県大会（本会３階ホール）
　歯の女王　鍋島美百合（19）
6. 1　第２回近畿北陸地区学会準備委員会（３階ホール）
6. 7　第３回近畿北陸地区学会準備委員会（３階ホール）
6. 8　歯の無料相談　180人（富山大和店８階、大和高岡店１階）
6. 24　第67回臨時代議員会（日歯）（深山代議員）
6. 29　歯の女王表彰式（富山市公会堂）
7. 6　学校歯科研修会（３階ホール）
7. 16　法人代表者会議（日歯）
7. 20　中央研修ゼミナール（東京農協ホール）（寺島理事、山下、小倉学術委員）
8. 2　第28回近畿北陸地区歯科医学大会第１回実行委員会（３階ホール）
8. 27　社会保険指導者研修会（京都国際会館）（藤井副会長、水野理事、佐渡委員）
9. 6　第28回近畿北陸地区歯科医学大会第２回実行委員会（３階ホール）（西田事務長）
9. 7　社会保険の説明会（３階ホール）
9. 18　日歯法人代表者会議（日歯）（永森会長）
9. 19　第68回日歯代議員会（日歯）（深山代議員）
9. 19　第45回日歯総会（日歯）（深山代議員）
9. 20　第28回近畿北陸地区歯科医学大会第３回実行委員会（３階ホール）
9. 28　第28回近畿北陸地区歯科医学大会（富山県民会館大ホール）
10. 10　第８回富山県歯科医師会体育大会（八人町小学校）
10. 11　氷見市無歯科医地区歯科診療
10. 19　富山歯科技工士学院創立10周年記念式典（富山県民会館８階ホール）
（理事長功績：阿部清一、川口義門、深山正之、永森 収）
（役員功績：松田正男、山本壮一、中島忠一、今村勝彦、杉江玄己、内田安博、宮田靖雄）
（講師功績：小倉孝夫、松原清一郎、水野公之、永森尚之、石川哲夫、松原明男、水橋哲夫、逸見 玲、金森安信、山岸敏治、永森靖夫、家城佳夫、金井希則）
（事務職員功績：西田重晴、藤田信子）
10. 31　歯科衛生士学院戴帽式
11. 22　顕彰祝賀会（婦人会館）
12. 15　法人代表者会議（日歯）（永森会長）

昭和51年（1976）

2. 5　日歯青色申告者全国連絡会議（日歯）（藤井、飯田理事）
2. 11　第１回歯科医学大会（３階ホール）
2. 21　近畿北陸地区役員連絡協議会（奈良）
3. 7　歯科技工士学院、歯科衛生士学院合同卒業式
　技工士学院 第９期生 31名　衛生士学院 第３期生 26名
3. 9　日歯法人代表者会議（日歯）（永森会長）
3. 9　第69回日歯代議員会（日歯）（永森会長）
3. 10　総合会館建設敷地（五福）について富山県と売買契約締結
3. 18　日歯法人代表者会議（日歯）（藤井副会長）
3. 19　総合会館敷地（五福）代金支払完了
3. 28　本会定時総会において本会功労者表彰
（平井茂光、島田忍子、近藤秀雄、中島清則、佐渡永貞、倉田 卓、宮本乙男、吉岡達雄、木村美明、石多謙三、高広勇次、米沢卯一、吉野克男、小林全二、栗山実純、杉江玄己、長久良一、宇和山礼三、大道勇二、斉藤義寿、山崎安隆）

日本歯科医師会の動き

昭和50年（1975）

5. 11　近畿北陸地区歯科医師会役員連絡協議会（奈良県）
　日歯正常化、診療報酬適正化要望
6. 24　日歯第67回臨時代議員会第44回通常総会
　会長 中原 實メッセージにて謝罪
11. ―　第４回歯科疾患実態調査
―. ―　歯科医師数 43,586人
―. ―　第３回歯学生涯研修セミナー
「乳幼児の歯科保健管理と治療」
―. ―　この年、チタン合金発売

昭和51年（1976）

3. 9　日歯第69回通常代議員会、第46回通常総会
　役員選挙　会　長　川崎　勇 46（当選）
　山崎数男 45
　副会長　稲葉　宏、森脇知巳、斎藤静三

世の中の動き

昭和50年（1975）

4. 30　ベトナム政府軍無条件降伏
5. 7　エリザベス女王夫妻、初来日
5. 16　日本女子登山隊、エベレスト初登頂
6. ―　医療法第17次改正（広告・診療科名）
7. 19　沖縄海洋博開会式（昭和51年１月18日閉幕）
9. 30　天皇、皇后両陛下初の訪米
11. 26　公労協スト権スト、国鉄全線ストップ
12. ―　３億円事件時効成立（７年間延べ約17万人の捜査員）
―. ―　新幹線博多まで延長運転

昭和51年（1976）

1. ―　初の五つ子誕生
1. 21　カゼ猛威、１週間に61万6830人罹患
2. 4　ロッキード事件発覚

昭和51年度（1976年4月～1977年3月）

■会員数　308名　（4月1日現在）

歯科差額徴収の廃止について

「差額徴収」とは、保険で定められている医療費以外に、材料代や技術料を徴収できるシステムである。昭和36（1961）年、国民皆保険制度の導入で医療費が増大したため、その抑制策として認められた制度で、その上乗せ額には基準はなかった。そのため、一部歯科医師による制度の濫用、過大請求が相次ぎ、倫理的に許されない行為として昭和40年代後半に社会問題となり、大きな社会的批判を受けた。その原因の一つには､濫用した者の徹底的な処分ではなく、保険の解釈として取り繕い抜本的な改革をせず今日に至った歯科医師会の体質も挙げられる。

昭和49（1974）年10月、厚生省は中医協に対して「保険診療における歯科領域の差額問題に関し」諮問を行った。同年11月に、この問題を審議することとなっていたが、委員の辞任届の提出により一時中断し、昭和51（1976）年２月10日になり再開された。

同年３月15日の全員懇談会において、日本歯科医師会推薦委員２名は、歯科差額問題に対する日本歯科医師会の見解を表明するとともに、審議には協力できないとして退席した｡しかし、中医協は歯科委員欠席のまま審議を継続し、３月23日、歯科点数表の改訂を除いた診療報酬の改訂、および差額問題に関して答申をまとめ田中厚生大臣に提出した。

日歯は４月15日に臨時代議員会を開催し､「歯科保険診療の適正評価が行われていない保険制度の現状において、差額徴収を単に材料費のみに限定することになれば、差額徴収制度を廃止し、保険診療と自由診療との間に明確な区分を確立する」旨の決議を表明した。その後も、日歯は中医協の答申に対する行政措置について関係者と鋭意折衝を重ねた。

そのような各方面の動きの中で、厚生省は、保険局長通知で「従来の歯科領域における差額徴収に係る通知を７月31日限りにすべて廃止する」旨の通知を６月29日に出した。この通達に対し、日歯は翌30日に開催した第39回都道府県歯科医師会長会議で､「厚生省のとった歯科差額徴収制度廃止の措置はやむをえない。歯科医療が社会問題化したことについては率直に反省し、会員に指導していき、現状の混乱を一日も早く正常化するよう努力する」旨を発表した。その後の、第40回都道府県歯科医師会長会議で「めやす料金」および「会員指導要綱」を了解し、これに基づいて各都道府県歯科医師会は８月１日以降の保険給付外診療に対し、会員の指導を行うことになった。これにより、従来差額徴収に該当していた診療は、８月１日より自由診療の取り扱いとなった。

これを機に、日歯は４月以降、積み残されていた診療報酬引き上げの早期解決のため、７月26日に中医協へ関口、鶴巻両常務理事を推薦。７月28日に中医協は４ヶ月ぶりに再開され、診療報酬9.6％引き上げについての諮問案を一部修正して、８月１日から引き上げをする答申を行った。

富山県歯科医師会総合会館（仮称）建設合同会議開催

昭和51（1976）年４月17日、本会３階ホールにおいて、建設委員、執行部の第一回富山県

歯科医師会総合会館（仮称）建設合同会議が開催された。委員長に阿部清一先生、副委員長に黒木正直先生を選出し、早急に計画を推進することを確認した。

5月29日に第二回目の会議が開催され、委員会規約が提案、承認され、新たに四日善一先生が副委員長に選出された。山崎、藤井両副会長が他県の口腔衛生センターの視察の結果をスライドで説明、また、優秀な設計士の推薦を次回まで4～5社選択することを執行部に一任し閉会した。

富山県歯科医師会の動き

昭和51年（1976）

4. 1 富山県歯科医師会総合会館建設特別委員会設置
4. 10 歯科技工士学院、歯科衛生士学院合同入学式
　技工士学院第11期生　衛生士学院第4期生
4. 15 日歯法人代表者会議（日歯）（永森会長）
4. 15 第70回日歯代議員会（日歯）（深山代議員）
4. 24 北陸3県歯科医師会協議会（福井県芦原、～25日）
4. 26 医療経済実態調査説明会（名古屋）（藤井副会長）
4. 28 日歯評議員会（日歯）（深山先生）
5. 14 医療経済実態調査説明会（兵庫県）（藤井副会長）
5. 15 近畿北陸地区役員協議会（福井県芦原）
5. 29 近畿北陸地区歯科医師会長会議（大阪府）（永森会長）
5. 30 第22回歯の女王県大会（本会3階ホール）
　歯の女王　宮本美智代（20）
6. 6 歯の女王表彰式（3階ホール）
6. 6 歯の無料相談　350人（大和富山店6階、大和高岡店1階）
6. 22 上平村巡回診療（～10月21日）
　（皆葎）6/22、10/21
　（西赤尾）8/5、8/25、9/21
6. 25 時局対策委員会（日歯）（永森会長）
6. 27 第1回学術講演会（3階ホール）
6. 30 日歯法人代表者会議（日歯）（永森会長）
7. 13 助手講習会講師合同会議
7. 23 日歯法人代表者会議（日歯）（永森会長）
7. 25 八尾町大長谷巡回診療
7. 25 歯科助手資格認定講習会　①　（3階ホール）
7. 27 時局講演会（3階ホール）
8. 1 歯科助手資格認定講習会　②　（3階ホール）
8. 1 社会保険伝達講習会（3階ホール）
8. 8 歯科助手資格認定講習会　③　（3階ホール）
8. 22 歯科助手資格認定講習会　④　（3階ホール）
8. 29 歯科助手資格認定講習会　⑤　（3階ホール）
8. 29 富山地区歯科医師会無料検診　ルンビニ園
8. 31 八尾町大長谷巡回診療
9. 9 日歯評議員会（日歯）（永森会長）
9. 12 第29回近畿北陸地区歯科医学大会（京都市京都会館）
9. 13 日歯法人代表者会議（日歯）（永森会長）
9. 14 第71回日歯代議員会（日歯）（永森会長）
9. 24 国税局管内税務指導者会議（3階ホール）
9. 26 有料研修会
10. 7 第72回日歯臨時代議員会（日歯）（永森会長）
10. 17 北陸3県学会（福井）
10. 24 社会保険説明会（3階ホール）
10. 26 歯科衛生士学院戴帽式
10. 31 第2回学術講演会（3階ホール）
11. 4 三師会展（富山市産業奨励館、～7日）
11. 14 歯学研修セミナー（3階ホール）
11. 20 顕彰祝賀会（婦人会館）
11. 25 総合会館建設設計説明会（参加7社）
11. 30 富山生活学校講話と研修（山王公民館）
12. 4 青色申告モデル地区税務指導懇談会（3階ホール）
12. 6 近畿北陸地区会長会議（大阪府）（永森会長）
12. 14 総合会館建築設計説明会（変更）

昭和52年（1977）

1. 22 富山県歯科医師会青色申告会理事、評議員合同会議（3階ホール）
1. 22 富山県歯科医師会青色申告会発会式（3階ホール）
1. 23 総合会館設計図審査会
1. 28 第73回日歯臨時代議員会（日歯）（永森会長）
2. 20 第3回歯科医学会（3階ホール）
3. 3 日歯評議員会（日歯）（深山正之）
3. 6 技工士学院、衛生士学院合同卒業式（3階ホール）
　技工士学院　第10期生33名
　衛生士学院　第4期生24名
3. 9 日歯法人代表者会議（日歯）（永森会長）
3. 10 第74回日歯代議員会（日歯）（永森会長）
3. 10 第48回日歯総会（日歯）（永森会長）
3. 27 本会定時総会において本会功労者表彰
（松能喜一、吉田 茂、青木康三、茶山信吉、河原信隆、牧野貞子、沖田弘正、四日善一、中島忠一、吉岡シゲ、三崎正春、清水周明）

日本歯科医師会の動き

昭和51年（1976）

4. 15 日歯第70回臨時代議員会
　川崎 勇新会長「差額徴収を廃止し、保険診療と自由診療との間に明確な区分を確立する」との方針を決定
6. 29 厚生省、差額徴収にかかる通知を廃止
6. ― 厚生省「歯科領域における差額徴収について」発表（歯科材料差額廃止）
8. 1 歯科差額徴収診療全面禁止
8. ― 会員指導要綱、保険給付外診療報酬（めやす料金）を提示
―. ― 歯科医師数 44,382人
11. ― 川崎 勇日歯会長、病気辞任

昭和52年（1977）

1. 28 日歯第73回臨時代議員会
　日歯会長選挙　山崎数男当選
2. ― 徳島、昭和大学歯学部設置認可

世の中の動き

昭和51年（1976）

4. ― 天安門事件
7. 1 ベトナム社会主義共和国成立
7. 17 モントリオールオリンピック開幕
7. 27 ロッキード事件で田中角栄前首相逮捕
8. ― 診療報酬9.6%アップ
10. 6 中国、江青ら四人組逮捕
11. ― 米カーター大統領就任

昭和52年（1977）

1. 10 警視庁、23年ぶりに覚せい剤取締本部設置

昭和52年度（1977年4月～1978年3月）

■会員数　312名（4月1日現在）

富山県歯科医師会の動き

昭和52年（1977）

4. 1　昭和52・53年度役員
　会　　長　永森 収
　副 会 長　山崎安隆、藤井　弘
　専務理事　田上　修
　理　　事　青木康三、吉村史郎、石川静郎
　寺島祐輔、水野公之、飯田　弘
　坊　明男、松田正男
4. 10　技工士学院、衛生士学院合同入学式（３階ホール）
　技工士学院　第12期生、衛生士学院　第５期生
4. 26　近畿北陸地区会長会議（大阪府）（田上理事）
4. 30　北陸３県役員連絡協議会（石川県片山津）
5. 22　第23回歯の女王県大会（本会３階ホール）
　歯の女王　一家　恵子（22）
5. 28　第３回歯科技工士養成所教務主任会議（県民会館）
5. 29　北陸３県歯科医師ゴルフ大会（石川県山代・山中ゴルフクラブ）
6. 4　歯の女王表彰式（富山市中央広場健康博会場内）
6. 5　街頭歯の無料相談（大和富山店６階、大和高岡店１階、魚津サンプラザ１階）
6. 5　富山地区歯科医師会無料検診　ルンビニ園
7. 14　上平村巡回診療（～10月27日）
　（西赤尾）7/14、8/11、9/22、10/27
　（皆葎）8/25、9/29、10/13
7. 17　第１回学術講演会（３階ホール）
8. 7　社会保険全体講習会（厚生省）（富山商工会議所）
9. 3　産業歯科講習会（岐阜）
9. 8　近畿北陸地区役員連絡協議会（大阪）
9. 8　近畿北陸地区広報担当者会議（大阪）（松原委員長）
9. 13　日歯法人代表者会議（日歯）（永森会長）
9. 14　第75回日歯代議員会（日歯）（永森会長）
9. 18　氷見市無歯科医地区歯科診療
9. 18　北陸３県歯科医学会（石川県）
9. 21　日歯評議員会（日歯）（永森会長、深山）
9. 25　有料研修会（３階ホール）
9. 27　日本自転車振興会へ補助金交付要望書提出
9. 29　総合センター建築設計監理委託契約締結（㈱福見建築設計）
10. 27　衛生士学院戴帽式
10. 30　医療請求事務講習会（３階ホール）
11. 13　第30回近畿北陸地区歯科医学会（和歌山市文化会館）
12. 15　第50回日歯臨時総会（日歯）（永森会長）

昭和53年（1978）

1. 23　社保、国保審査員、社保理事伝達講習会（３階ホール）
1. 29　社会保険診療報酬新点数表説明会（富山商工会議所）
2. 15　近畿北陸地区役員連絡協議会（大阪）
2. 16　日歯法人代表者会議（日歯）（永森会長）
2. 25　請求明細書の記載事務講習会
3. 5　技工士学院、衛生士学院卒業式
　技工士学院　第11期生34名
　衛生士学院　第５期生28名
3. 8　日歯法人代表者会議（日歯）（永森会長）
3. 9　第76回日歯代議員会（日歯）（永森会長）
3. 14　近畿北陸地区会長、専務会議（永森会長、寺島理事）
3. 17　日歯評議員会（永森会長、深山）
3. 26　本会定時総会において本会功労者表彰
（熊木甚朔、三島三郎、米沢真一、島 信行、小森甚作、佐々木 止、千保 利、高田澄子、石黒 繁、高橋日出夫、奥野和男、中島吉春）
3. 31　富山県歯科医師国民健康保険組合が解散

日本歯科医師会の動き

昭和52年（1977）

6. 11　第１回フッ素によるむし歯予防全国大会（新潟県）
6. ー　１歳６ヶ月児健診実施を通知
8. ー　中医協再開
10. 15　第14回日本歯科医学会総会開催（東京）
10. ー　１歳６ヶ月児童歯科健康診査実施（実施団体市町村）
11. 22　国民医療擁護全国歯科医師大会（東京都）
ー. ー　歯科医師数 45,715人
ー. ー　第14回生涯研修セミナー（政府委託事業）
「国民の幸せのための歯科医療」各地

昭和53年（1978）

2. ー　歯科医療費12.5％引き上げ決定
3. 3　全国歯科医師国民健康保険組合創立（15府県）
3. 9　日歯第76回代議員会第51回通常総会
　日歯会長　山崎数男　無投票当選
　副会長　　正岡建夫、武石信治、矢吹水男
3. ー　鹿児島、東日本学園大学歯学部設置認可

世の中の動き

昭和52年（1977）

5. ー　成田空港開港
6. 12　樋口久子、全米女子プロゴルフ選手権で日本人初優勝
6. 15　有田市で集団コレラが発生
6. ー　平均寿命が世界一に（男72.69歳・女77.95歳）
7. 14　日本初静止気象衛星「ひまわり」打上げ
7. ー　海洋２法施行、200カイリ時代へ
8. ー　有珠山噴火
8. ー　日中平和友好条約
9. 3　巨人・王貞治選手、756号の本塁打世界記録樹立
9. 28　日航機、日本赤軍にハイジャックされる
12. ー　独占禁止法改正施行

昭和53年（1978）

1. ー　健保法一部改正（本人一部負担金初診時200円を600円に）
2. ー　伊方原発送電開始

昭和53年度（1978年4月～1979年3月）

■会員数　317名（4月1日現在）

富山県歯科医師会の動き

昭和53年（1978）

4. 1　富山県歯科医師国民健康保険組合が全国歯科医師国民健康保険組合に加入し富山県支部となる
4. 10　歯科技工士学院（第13期生）歯科衛生士学院（第６期生）入学式
4. 11　近畿北陸地区会長、専務理事会議（神戸）（永森会長、田上専務理事）
4. 23　第１回学術研修会
5. 13　北陸三県学会協議会（福井県芦原）
5. 18　法人代表者会議（日歯）（永森会長）
5. 21　第24回歯の女王県大会（本会３階ホール）
　歯の女王　中谷　典子（19）
5. 23　富山歯科総合センター地鎮祭
5. 27　日本自転車振興会へ補助金交付申請書提出
6. 4　街頭無料相談　富山（大和５階）高岡（大和１階）魚津（サンプラザ３階）
6. 4　富山地区歯科医師会無料検診　ルンビニ園
6. 14　全国会長会議（日歯）（永森会長）
6. 17　歯の女王表彰式（富山市公会堂）
6. 20　富山歯科総合センター建築工事入札、前田建設工業㈱落札（12社参加）
6. 24　近畿北陸地区連絡協議会（石川県片山津）（逸見、山田委員）
7. 1　保険請求事務講習会（高岡末広センター）
7. 13　上平村巡回診療（～11月16日）
（西赤尾地区）7/13、7/27、8/24、9/21、10/12、10/26、11/16
7. 16　第２回学術研修会
7. 20　上平村巡回診療（～11月19日）
（皆葎地区）7/20、8/10、9/28、10/19、11/19
7. 29　社会福祉法人セーナー苑の事業資金寄付につき内閣総理大臣より褒状を受賞
8. 25　社会保険指導者講習会（神戸）（水野理事）
9. 3　北陸三県学会（福井）
9. 9　氷見市無歯科医地区歯科診療
9. 13　法人代表者会議（日歯）（永森会長）
9. 14　第78回日歯代議員会（日歯）（永森会長）
9. 17　社会保険全体講習会（富山商工会議所）
9. 26　大阪府歯科医師会肢体不自由児歯科診療センター視察（～28日）（寺島理事、山岸、石多委員）
10. 15　第31回近畿北陸地区歯科医学大会（大阪）
10. 17　大阪府歯科医師会肢体不自由児歯科診療センター視察（～19日）（家城、小倉、杉本委員）
10. 29　第２回学術講演会（３階ホール）
10. 29　口腔衛生センターの管理運営等についての研修会
11. 3　三師会展（西武デパート、～５日）
11. 7　大阪府歯科医師会肢体不自由児歯科医療センター視察（～９日）（石川、夏目委員）
11. 26　顕彰祝賀会（名鉄７階グリル）
12. 2　医療請求事務講習会（３階ホール）
12. 23　歯科総合学院専修学校認可

昭和54年（1979）

1. 19　日歯法人代表者会議（日歯）（永森会長）
1. 27　社会保険講習会
2. 13　日歯評議員会（日歯）（永森会長）
3. 4　歯科技工士学院、歯科衛生士学院卒業式
　技工士学院　第12期生35名
　衛生士学院　第６期生26名
3. 15　第79回日歯代議員会（日歯、～16日）（永森会長）
3. 17　本会定時総会において本会功労者表彰
（小杉元治、岡本文夫、吉沢 進、小山辰二、峰村綾子、島 秀雄、対馬久雄、高田寅四郎、上田 昌）
3. 26　近畿北陸地区役員連絡協議会（神戸）（山崎副会長、吉村理事）
3. 30　富山歯科総合センター建物竣工検査
3. 30　富山歯科総合学院　学則等変更承認
3. 31　富山県歯科医師会　定款変更認可
3. 31　富山歯科総合センター建物の引渡しを受ける（前田建設工業㈱より）

日本歯科医師会の動き

昭和53年（1978）

4. 1　全国歯科医師国民健康保険組合発足
9. ―　日歯広報500号を発刊
9. ―　日歯は文部大臣に対し歯科大学新設中止の要望書を提出
10. ―　歯科標榜、矯正歯科・小児歯科新設
―. ―　歯科医師数 48,731人
―. ―　この年、付加型シリコーン印象材、高周波鋳造機発売
―. ―　文部省「むし歯予防推進指定校」設置

世の中の動き

昭和53年（1978）

5. 20　新東京国際空港（現成田国際空港）開港
5. ―　植村直己、単身犬ぞりで北極点に到達
5. ―　ベトナム、カンボジア侵攻
7. 25　イギリスで世界初の体外受精児誕生
8. 12　日中平和友好条約調印（10月23日発効）
11. 27　「日米防衛協力のための指針（ガイドライン）」を決定
12. 15　米・中国交正常化発表
12. ―　第１次大平正芳内閣成立

昭和54年（1979）

1. 1　アメリカ合衆国、中華人民共和国国交回復
1. 13　初の国公立大学共通一次試験実施
3. ―　社会保険診療報酬課税の特別措置法改正（５段階方式）
3. ―　米国スリーマイルアイランド原発で大事故

昭和54年度（1979年4月～1980年3月）

■会員数　323名（4月1日現在）

富山歯科総合センターが完成

昭和52年９月における会員数は300名を越え、昭和40年に建設された会館ではかなり手狭となってきた。特に保険講習会等の開催の際の収容人数、膨大となってきた事務処理、技工士科における部屋数の不足、今後の会員数の増加を考えたとき、新会館建設の必要性が叫ばれていた。

昭和53（1978）年５月23日、富山市五福字五味原地内において新会館の地鎮祭、６月20日には工事入札を行い、前田建設工業株式会社が３回目の入札で落札し工事を着工、翌54（1979）年３月30日に建物竣工検査を受け、４月７日、めでたく竣工式を迎えるに至った。

新しい会館は、「富山歯科総合センター」と称し、５億６千万円余りをかけ、鉄筋コンクリート４階建て、延べ面積3200㎡を擁する建物となっている。

ここ数年来、全国において救急医療対策の確立が叫ばれ、各地で救急センターが設立されている。歯科部門においても全国各地で設立・運営がなされていることから、当センター内に「口腔保健センター」を併設することとなった。竣工間もない４月15日から休日急患診療が、４月17日からは心身障害児（者）の診療が開始され、積年の夢であった地域社会との信頼関係の確立、医療福祉を通じての御恩報謝ができることとなり、本会にとって明るい第一歩を踏み出す記念すべき日となった。

また、この歯科総合センターの竣工と同時に、従来の歯科技工士学院と歯科衛生士学院とが統合され、「富山歯科総合学院」の技工士科、衛生士科として生まれ変わり、４月８日、合同の入学式が盛大に挙行された。

新会館地鎮祭

富山歯科総合センター竣工式

併設された口腔保健センター

富山県歯科医師会の動き

昭和54年（1979）

4. 1 専門委員会に口腔保健センター、総合学院委員会を設置し、それぞれ理事会を組織する
4. 1 昭和54・55年度役員
会　　長　永森 収
副 会 長　山崎安隆、藤井　弘
専務理事　田上　修
理　　事　青木康三、飯田　弘、水野公之
佐渡哲雄、石川静郎、栗山豊実
坊　明男、吉村史郎、寺島祐輔
中島忠一、今村勝彦
4. 7 富山歯科総合センター竣工式（4階ホール）祝賀会（電気ビル）
4. 8 歯科総合学院入学式
歯科技工士科第14期生　歯科衛生士科第7期生
4. 15 口腔保健センター診療開始
4. 22 富山歯科総合センター竣工記念歯科医師会員家族パーティー（4階ホール）
5. 20 第25回歯の女王県大会（総合センター4階ホール）
歯の女王　竹田紀美子（22）
5. 24 上平村巡回診療
東部赤尾地区（児童センター、〜10月25日）
5/24、6/28、7/26、8/30、9/27、10/25
5. 26 北陸三県役員連絡協議会（総合センター）
6. 3 歯の無料相談（大和富山店、大和高岡店、魚津サンプラザ、砺波サンプラザ）
6. 3 富山地区歯科医師会無料検診　ルンビニ園
6. 10 歯の女王表彰式（総合センター）
6. 12 近畿北陸地区役員連絡協議会（京都）
6. 14 上平村巡回診療
皆葎地区（〜11月8日）
6/14、7/12、8/9、9/13、10/11、11/8
7. 15 歯科助手認定講習会　7/15、7/29、8/5、9/19
7. 19 富山歯科総合センター建物保存登記完了
7. 20 法人代表者会議（日歯）（永森会長）
7. 21 歯学研修セミナー（総合センター、〜22日）
7. 28 請求事務者講習会（総合センター）
8. 7 北陸三県歯科技工士学院助手講習会（〜8日、日歯）
8. 11 近畿北陸地区歯科医師会公衆衛生連絡協議会（立山国際ホテル）
8. 25 第26回厚生省委託日本歯科医師会主催　歯科衛生士研修会（総合センター）
8. 31 社会保険指導者講習会（大阪）（水野理事）
9. 2 北陸三県歯科医学学術講演会（総合センター）
9. 8 氷見市無歯科医地区歯科診療
9. 13 第51回法人代表者会議（日歯）（藤井副会長）
9. 13 第80回日歯代議員会（日歯、〜14日）（藤井副会長）
9. 15 社会保険疑義講習会
9. 30 第32回近畿北陸地区歯科医学大会（福井）
10. 10 社会保険全体講習会（総合センター）
10. 13 北陸三県役員協議会
10. 14 有料研修会
10. 25 衛生士科戴帽式
11. 11 第2回学術講演会
11. 24 顕彰祝賀会（電気ビル5階）
12. 8 所得税確定申告説明会　砺波税務署管内（福光農業改良センター）

昭和55年（1980）

1. 18 保健関係指導者講習会（総合センター）
1. 23 近畿北陸地区役員連絡協議会（京都府）
1. 24 第81回日歯臨時代議員会（日歯）（田上理事）
2. 12 富山県議会厚生常任委員会行政視察
2. 18 日本自転車振興会の調査
2. 23 北陸三県保険担当役員会（石川県）
2. 28 歯科技工士、歯科衛生士試験（〜29日）
3. 2 歯科総合学院卒業式
歯科技工士科　第13期生38名
歯科衛生士科　第7期生41名
3. 8 社会保険講習会（伝達）（総合センター）
3. 11 第82回日歯代議員会（日歯、〜12日）（田上理事）
3. 30 本会定時総会において本会功労者表彰
（三羽博久、源 三郎、板橋 修、松島正康、柚木一夫、宝田 力、水野誓夫、金山喜吉）

日本歯科医師会の動き

昭和54年（1979）

4. 1 「歯学研修セミナー」日歯と都道府県歯共催に変更
4. ー 健保連「医療費通知」運動始まる
5. ー 小児歯科保健・医療制度国際研究集会開催
5. ー 保健所法改正、歯科医師・歯科衛生士追加
8. ー 日歯と母子歯科保健推進協議会主催の「国際児童年・チビッ子集まれ！」開催
9. ー 医療指導官、医療事務指導官設置
11. 9 第43回全国学校歯科保健大会（神戸市）
11. ー 歯科材料価格基準の改定（急騰のため）
ー ー 健保連、医療費通知を推奨
ー ー 歯科医師数 48,731人

昭和55年（1980）

1. 24 日歯臨時代議員会で新会館建設を議決
2. 22 国民歯科医療擁護全国歯科医師大会を開催
健保法改悪阻止へ都道府県代表600名が参加
3. 1 歯科材料基準改定、金銀パラジウム合金20%から12%に
3. 11 日歯第82回代議員会第56回通常総会
日歯会長　山崎数男　無投票当選
定款改正　役員任期2年から3年に（昭和57年から）
3. ー 岡山大学歯学部、長崎大学歯学部設置認可

世の中の動き

昭和54年（1979）

4. 1 特措法28%廃止、5段階経費率適用
4. 7 選抜高校野球大会、箕島高校2年ぶり3度目の優勝
5. ー 英、サッチャー初の女性首相に就任
6. ー 東京サミット開催
10. 26 WHO、天然痘根絶宣言
10. ー 韓国の朴大統領暗殺
11. ー イラン米大使館人質事件
12. ー ソ連軍、アフガニスタンに侵攻

昭和55年（1980）

1. ー 北京からパンダ上野動物園に到着

昭和55年度（1980年4月～1981年3月）

■会員数　339名（4月1日現在）

富山県歯科医師会の動き

昭和55年（1980）

4. 6　歯科総合学院入学式
　　歯科技工士科　第15期生
　　歯科衛生士科　第８期生
4. 9　税務指導者連絡協議会
4. 15　法人税説明会
5. 3　東海北信越技工士会役員協議会
5. 11　第26回歯の女王県大会（総合センター）
　　歯の女王　中磯　祐子（21）
5. 28　第83回日歯臨時代議員会（日歯）
5. 29　第13回全国保健衛生大会（富山市公会堂大ホール）
6. 1　街頭無料相談（検診）（大和富山店７階、大和高岡店５階、魚津サンプラザ、砺波サンプラザ）
6. 1　富山地区歯科医師会無料検診　ルンビニ園
6. 1　歯の女王表彰式（総合センター講堂）
6. 8　第33回近畿北陸地区歯科医学大会（大阪歯科大学）28名出席
6. 18　上平村巡回診療（～９月18日）
　　東部、西赤尾地区　6/18、8/7、9/18
6. 22　第１回学術講演会（総合センター）
7. 17　上平村巡回診療（～10月16日）
　　皆葎地区　7/17、9/13、10/16
8. 18　都道府県会長会議（日歯）（藤井副会長）
8. 19　社会保険指導者講習会（兵庫県）（水野、佐渡理事）
8. 23　保険講習会、学術映写会（総合センター）
8. 30　北陸三県歯科医師会協議会（片山津矢田屋）
9. 4　近畿北陸地区会長会議（滋賀県）（藤井副会長、田上専務理事）
9. 13　氷見市無歯科医地区歯科診療
9. 18　第84回日歯代議員会（日歯）（藤井副会長）
9. 19　第57回日歯総会（日歯）（藤井副会長）
9. 21　利賀村巡回指導（～11月16日）
　　9/21、9/28、10/5、10/12、10/19、10/26、11/2、11/9、11/16
9. 28　税務講習会（総合センター）
10. 15　日歯青申連評議員会（日歯）
10. 18　北陸三県歯科医師会保険部会（石川県）
10. 19　北陸三県学会（石川県）
10. 24　金沢国税局管内税務指導者協議会
10. 26　衛生士科戴帽式
11. 28　永森収会長　急性肺炎のため逝去
11. 29　医療請求事務者講習会（総合センター）
11. 30　第３回学術講演会（総合センター）
12. 7　故 永森収先生　富山県歯科医師会葬
12. 15　藤井弘会長就任（残任期間）
12. 19　第54回都道府県歯科医師会長会議（日歯）（藤井会長）
12. 19　第85回臨時代議員会（日歯）（藤井会長）

昭和56年（1981）

2. 5　近畿北陸地区役員連絡協議会（大津市琵琶湖ホテル）
2. 12　４地区税務確定申告説明会
2. 20　医療懇談会
2. 24　厚生省学院検査
3. 1　歯科総合学院卒業式
　　技工士科　第14期生43名
　　衛生士科　第８期生49名
3. 6　第55回都道府県歯科医師会長会議（日歯）（藤井会長）
3. 18　第86回代議員会（日歯）（藤井会長）
3. 29　口腔保健センター講習会
3. 29　本会定時総会において本会功労者表彰
（山岸確次、元井英夫、仲村 博、山下銀七、細川喜代子、青木健治、斉藤孝雄、青木 進、藤井 弘、立野泰三）

日本歯科医師会の動き

昭和55年（1980）

5. ー　歯科材料価格基準一部を緊急是正
6. ー　政府管掌の医療費通知制を通達
9. ー　札幌歯科医師会に公正取引委員会立入調査
9. ー　第84回代議員会で歯科大学（歯学部）新増設ならびに定員増反対を決議
11. 19　第１回全国歯科保健大会（横浜市）
「小児の歯科保健」
11. ー　岡山、長崎大学歯学部設置認可
ー. ー　歯科医師数 53,602人
ー. ー　この年、メタレジン発売

世の中の動き

昭和55年（1980）

6. ー　衆参同日選挙（史上初）、大平正芳首相急逝
7. 19　モスクワオリンピック、日本不参加
9. ー　イラン・イラク戦争突入
10. ー　第13回国勢調査で人口世界第７位に
10. ー　巨人軍・長島茂雄監督辞任
11. 4　巨人・王貞治選手現役引退
11. ー　３年ごしの健保法改正が第93回国会で可決、成立（本人の初診時、入院時負担が改定）
11. ー　米大統領選でレーガン勝利

昭和56年（1981）

2. ー　ローマ法王パウロ二世来日（広島）
3. 1　健康保険法改正
　　健保本人初診時一部負担、600円から800円に
　　家族負担　３割負担から２割負担に
3. ー　神戸「ポートピア'81」開幕
3. ー　第１次中国残留孤児47人来日

昭和56年度（1981年4月～1982年3月）

■会員数　346名（4月1日現在）

富山県歯科医師会の動き

昭和56年（1981）

4. 1　昭和56・57年度役員
　会　　長　藤井　弘（再任）
　副 会 長　水野誓夫、三崎正春
　専務理事　水野公之
　理　　事　山本壮一、飯田　弘、今村勝彦
　佐渡哲雄、浦野　潤、桜木正昭
　栗山豊実、山田正昭、坊　明男
　福井　洋、石川哲夫、北山善之進
　宮田靖雄
4. 1　広報調査委員会を広報委員会と調査委員会に分離し、それぞれ広報部、調査部とする
4. 1　休日在宅当番医制を実施
4. 1　三師会展（富山市産業奨励館、～5日）
4. 5　歯科総合学院入学式
　歯科技工士科第16期生、衛生士科第9期生
5. 17　新規採用従業員指導講習会（総合センター）
5. 24　第27回歯の女王県大会（総合センター）
　歯の女王　稲場真理子（19）
5. 29　西日本連合会歯科医師会協議会（大阪）
5. 29　診療報酬改正伝達講習会（日歯）（佐渡、浦野理事）
5. 30　保険全体講習会（総合センター）
6. 1　診療報酬点数表改正
6. 7　歯の女王表彰式（総合センター）
6. 7　歯の無料相談（大和富山店、大和高岡店、魚津サンプラザ、砺波サンプラザ）
6. 7　富山地区歯科医師会無料検診　ルンビニ園
6. 13　北陸三県歯科医師会協議会（福井県芦原温泉べにや）
6. 20　請求事務者講習会（総合センター）
6. 28　受彰者祝賀会（電気ビル）
7. 3　都道府県専務理事連絡協議会（日歯）（水野専務理事）
7. 12　有料研修会
7. 12　精神薄弱者の福祉向上につき富山県精神薄弱者育成会より感謝状を受く
7. 15　上平村赤尾地区巡回診療
7. 20　北陸三県ソフトボール大会（福井開発グランド）
7. 23　「歯科医師の為の健康管理」講演会（総合センター）
8. 21　社会保険指導者研修会（東京商工会議所）
9. 3　第9回産業医学講習会（岡山県、～5日）
9. 5　近畿北陸地区歯科医師会役員連絡協議会（本会当番電気ビル）
9. 5　歯学研修セミナー（福井）
9. 5　富山歯科総合学院歯科衛生士科の修業年限（2年）、入学定員（48名）、学科課程（時間数）等の変更について厚生大臣承認（57年4月より）
9. 12　氷見市無歯科医地区歯科診療
9. 24　第87回日歯代議員会（日歯）（藤井会長）
9. 24　第59回日歯総会（日歯）（藤井会長）
9. 26　厚生省学院検査
9. 27　共済レクリエーション（石川県森林公園）
10. 5　歯科衛生思想の普及向上と心身障害者治療、休日急患診療、在宅当番医制の功績により富山県知事表彰を受く
10. 7　婦中町大瀬谷地区巡回診療
10. 14　上平村皆葎地区巡回診療
10. 16　保健関係指導者講習会（総合センター）
10. 17　歯科助手資格認定講習会
（総合センター、～25日）10/17、10/24、10/25
10. 18　北陸三県学会（福井）
10. 24　第2回全国歯科保健大会（京都）（藤井会長、水野副会長、針山事務長）
　歯科保健の向上に尽力した功績により歯科保健大会において厚生大臣表彰を受く
11. 6　第9回産業歯科医研修会（～7日）
11. 10　金沢国税局管内税務指導者協議会（福井）（藤井会長他7名）
11. 15　第34回近畿北陸地区歯科医学大会（神戸）
11. 15　近畿北陸地区役員連絡協議会（神戸）
12. 5　社会保険全体講習会（総合センター）
12. 12　会員忘年会（電気ビル）
12. 19　代議員会

昭和57年（1982）

1. 16　臨時代議員会
1. 16　保険全体講習会（総合センター）
1. 20　日歯青申連合会評議員会（日歯）（水野副会長）
2. 17　第56回都道府県会長会議（日歯）（藤井会長）
2. 24　富山県医療機関整備審議会（県民会館）（藤井会長）
2. 28　第2回有料研修会
3. 7　歯科総合学院卒業式
　歯科技工士科　第15期生38名
　歯科衛生士科　第9期生50名
3. 11　第88回日歯代議員会（日歯、～12日）（藤井会長）
3. 13　顕彰祝賀会（電気ビル）
3. 28　本会定時総会において本会功労者表彰
（岩倉リイ、宮森正次、魚津竹男、中川 弘、鴻池叢恵、小橋長造、永森尚之）
3. 28　富山県歯科医師協同組合設立総会

日本歯科医師会の動き

昭和56年（1981）

6. ー　医療費引き上げ（歯科5.9%）欠損補綴中心に改善
6. ー　日歯、NHKが放映した「当世入れ歯事情」に抗議
9. ー　労働衛生コンサルタント講習会を産業医学講習会と改称
10. 24　京都で第2回全国歯科保健大会
11. 14　第1回日本歯科医師会学術講習会（神戸市）
11. ー　患者向けポスター（厚生省・日歯連盟）
「普通の診療は健康保険で受けられます」作成
11. ー　第5回歯科疾患実態調査
ー. ー　歯科医師数 56,841人

昭和57年（1982）

1. 25　第1回保育所（園）・幼稚園表彰
3. 11　日歯第88回通常代議員会第60回通常総会
　日歯会長選挙　現会長　山崎数男当選
　副会長　奥野喜一、小川時敏、渋川哲夫（任期3年）

世の中の動き

昭和56年（1981）

4. 12　スペースシャトル「コロンビア」打ち上げ成功
6. ー　診療報酬改定（3年ぶり）5.9%アップ
※56年度の国民医療費推計総額は12兆8,709億円、対GNP比50%突破
7. 29　チャールズ皇太子とダイアナ嬢が結婚式
8. ー　公正取引委員会「医師会の活動に関する独占禁止法上の指針」を発表
10. ー　福井謙一、ノーベル化学賞受賞
10. ー　北炭夕張新鉱でガス突出事故、死者・行方不明93人
ー. ー　国民障害者年

昭和57年（1982）

2. 8　東京ホテルニュージャパン火災
2. 9　日航機羽田沖墜落事故

昭和57年度（1982年4月～1983年3月）

■会員数　343名　（4月1日現在）

富山県歯科医師協同組合設立総会

昭和57（1982）年３月28日、富山歯科総合センターにおいて、富山県歯科医師協同組合設立総会が開催された。会長挨拶のあと、設立の経緯、経過が報告された。本組合設立にあたり、昭和54年度に岐阜県、三重県などの歯科医師協同組合、並びに富山県医師協同組合の定款等の資料収集開始、福井県歯科医師会への視察などを経て本県の定款､事業計画の策定が完了した。事業内容としては、

1. 必要な医薬品、材料の共同購入
2. 事業資金の貸付
3. 教育、情報の提供
4. 組合員、家族に対する健康管理やレクリエーションの開催

など非常に多くの事業が可能になる。

総会では、11号議案すべてが原案どおり可決承認され、４月１日より本組合の活動がスタートした。本年は、８月22日に日本大学松戸歯学部教授　谷津三雄先生をお迎えして健康管理講習会を開催、９月26日には宮崎海岸、魚津水族館への家族旅行を行った。

歯科医師協同組合主催で行った家族旅行（魚津水族館）

富山県歯科医師会が保健文化賞受賞

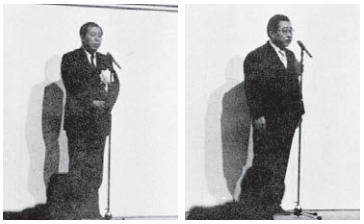
昭和57（1982）年８月17日、富山県歯科医師会の保健文化賞受賞が決定した。この賞は、この方面では最も権威があり最高の栄誉とされる賞として認められており、本会の活動が高く評価されたことを示すものである。

秋晴れの９月30日、午後４時30分より東京のホテルオークラにおいて保健文化賞贈呈式が盛大に行われ、本会からは藤井会長夫妻、三崎、水野両副会長、針山事務長が出席しその栄誉に浴した。

式では、第一生命保険相互会社取締役会長　塚本亮一氏の挨拶のあと、森下元晴厚生大臣から一人ひとりに厚生大臣賞を手渡された。続いて第一生命保険相互会社取締役社長　西尾信一氏から感謝状と副賞が、また朝日新聞厚生文化事業団賞、ＮＨＫ厚生文化事業団賞がそれぞれ手渡された。

後日、12月11日、富山第一ホテルにおいて、富山県政功労賞受賞と合わせての祝賀会が開催され、関係者、会員でその受賞を祝った。

第34回保健文化賞贈呈式（昭和57年9月30日）



保健文化賞および富山県政功労賞受賞祝賀会（昭和57年12月11日）

富山県歯科医師会の動き

昭和57年（1982）

4. 1 富山県歯科医師協同組合発足
4. 1 富山歯科総合学院歯科衛生士科の修業年限を２年、定員48名とする
4. 2 近畿北陸地区会長会議（大阪）（藤井会長）
4. 4 歯科総合学院入学式
　歯科技工士科　第17期生
　歯科衛生士科　第10期生
4. 17 有料研修会（総合センター、～18日）
4. 21 税務指導者講習会（富山商工会議所）
4. 27 歯学研修セミナー打合（日歯）（桜木理事）
5. 6 富山県歯科医師協同組合設立の認可
5. 8 北陸三県役員連絡協議会（富山海老亭）
5. 12 三師会展（富山市産業奨励館、～16日）
5. 14 置県百年記念事業推進会議（第一生命ビル）（藤井会長）
5. 16 第28回歯の女王県大会（総合センター）
　歯の女王　鳥山　陽子（21）
5. 17 富山県歯科医師協同組合　法人登記
5. 25 近畿北陸地区役員連絡協議会（大阪）
5. 28 都道府県会長会議（日歯）（藤井会長）
5. 28 第89回日歯代議員会（日歯）（水野副会長）
5. 28 北陸三県歯科技工士専門学校ソフトボール大会（富山県軟式球場）
5. 29 新規採用従業員講習会（総合センター）
6. 6 歯の女王　表彰式（総合センター）
6. 6 歯の無料相談（大和富山店、大和高岡店、魚津サンプラザ、砺波サンプラザ）
6. 6 富山地区歯科医師会無料検診　ルンビニ園
6. 15 上平村検診
7. 2 都道府県歯科医師会事務長連絡会議（日歯）（針山事務長）
7. 11 北陸三県歯科医師会三役連絡協議会（金沢）
7. 22 社会保険医療担当者指導講習会（県民会館）
7. 25 北陸三県歯科医学学術講演会（総合センター）
7. 27 上平村検診（～30日）
8. 22 健康管理講演会　協同組合主催（総合センター）
8. 23 富山県事前監査
8. 28 歯学研修セミナー（総合センター、～29日）
8. 30 社会保険指導者講習会（大阪、～31日）（藤井会長、水野専務理事）
9. 2 富山県本監査
9. 4 近畿北陸地区歯科医師会長、専務理事会（大阪ホテルプラザ）（藤井会長、水野専務理事）
9. 10 氷見市無歯科医地区歯科診療
9. 11 コンピューター事務者研修会（総合センター）
9. 16 第90回日歯臨時代議員会（日歯）（藤井会長、水野専務理事）
9. 17 第61回日歯通常総会（日歯）（藤井会長、水野専務理事）
9. 18 保険請求事務講習会（総合センター）
9. 26 会員レクリエーション（魚津水族館、宮崎海岸）
9. 30 第34回保健文化賞受賞　贈呈式（ホテルオークラ）
10. 1 第34回保健文化賞受賞　皇居参内（藤井会長）
10. 24 第35回近畿北陸地区歯科医学大会（奈良、史跡文化センター）
10. 30 第３回全国歯科保健大会（広島市公会堂）（水野、三崎副会長）
11. 2 昭和57年度富山県功労者表彰式（県庁４階ホール）
11. 5 金沢国税局管内税務指導者協議会
11. 11 審査員合同協議会（電気ビル）
11. 13 保険全体講習会（総合センター）
11. 20 保険講習会
12. 2 厚生省養成所管理者講習会（厚生省）（北山、宮田理事）
12. 11 第34回保健文化賞、昭和57年度富山県政功労賞受賞祝賀会（第一ホテル）

昭和58年（1983）

1. 12 老人保健担当責任者連絡協議会（日歯）（水野副会長）
1. 19 日歯青申連合会評議員会（日歯）（今村理事）
1. 29 保険全体講習会（総合センター）
2. 15 医療懇談会（職員会館）（水野副会長、佐渡・浦野理事）
2. 19 請求事務者講習会（総合センター）
2. 27 学術講演会（総合センター）
3. 6 歯科総合学院卒業式
　歯科技工士科　第16期生44名
3. 11 富山新聞文化賞　受賞式
3. 15 都道府県会長会議（日歯）（水野副会長）
3. 16 第91回日歯代議員会（日歯、～17日）（水野副会長）
3. 17 第62回日歯通常総会（日歯）（水野副会長）
3. 19 口腔保健センター研修会（総合センター）
3. 27 本会定時総会において本会功労者表彰
（藤井起三郎、及川哲夫、羽井良三、大島輝哉、水野公之、今村勝彦）

日本歯科医師会の動き

昭和57年（1982）

4. 1 日歯役員任期、３年間とする
4. ― 歯科技工士免許は厚生大臣免許となる
4. ― 献血が従来の「預血」から「寄付」というかたちとなる
4. ― 歯の衛生啓発番組「歯の時間です」に替わり「笑顔カムカム」をフジテレビで放送開始
4. ― 唇顎口蓋裂歯科矯正の保険導入
4. ― 歯科医師会立口腔保健センター等医療保険業非課税に
5. ― 歯科医師国家試験漏洩問題発覚
5. ― 国民医療問題懇談会開催
5. ― 歯科医師国家試験改善委員会設置
8. 17 老人保健法交付、70歳以上無料制度廃止
10. 22 日歯広報役員連絡協議会にて「一生自分の歯で食べよう」提唱
10. 30 第３回全国歯科保健大会（広島）
―. ― 歯科医師数 58,362人
―. ― この年、軟質床用レジン（フッ素樹脂系）、コードレスマイクロモーター、コンポジットレジン発売

昭和58年（1983）

1. ― 薬価基準4.9％引き下げ
3. 16 代議員会で医療法改正案に反対決議

世の中の動き

昭和57年（1982）

6. 23 東北新幹線開業
8. ― 参院全国区制改正案成立、全国区は拘束名簿式比例代表制に
8. ― 老人保健法成立
付帯決議　①歯科保険事業の確立、②歯科検診の導入など
10. 1 ソニーが世界初のCDプレーヤー発売
10. ― 厚生省「国民医療費適正化総合対策推進本部」を設置
11. 15 上越新幹線開業
11. ― 中曽根康弘内閣成立
12. ― カード式公衆電話テレホンカード発売

昭和58年（1983）

2. 1 老人保健法（改定）施行、有料化（一部負担400円）
3. ― 東北大で日本最初の体外受精妊娠に成功（10月出産）

昭和58年度（1983年4月～1984年3月）

■会員数　354名（4月1日現在）

「国民医療破壊阻止三師大会」に参加

昭和59（1984）年２月21日、東京・霞ヶ関の久保講堂において日本医師会、日本歯科医師会、日本薬剤師会の全国大会が開かれ、富山県歯科医師会からは水野副会長、三崎副会長が緊迫した雰囲気のなか大会に参加した。

大会では、花岡堅而・日本医師会長をはじめ山崎日本歯科医師会長、高木日本薬剤師会長のあいさつで開会し、参加者は全国から約1,000人が集まり盛大に行われた。大会には来賓として自民党の衆参両議院議員80名が出席。会の中で、森下元晴・党医療基本問題調査会長（元厚生大臣）は「診療担当者との相互理解を深めたい」と述べたが、具体的な給付率引き下げ問題には触れず、さらに橋本龍太郎・党行財政調査会長（元厚生大臣）も「自民党の社会部はまだ法案について態度決定していない。議論はこれからだ」と、さすがに頭脳の冴えを感じさせる熱弁を振るった。

次に議長団として、各師会から２名の選出が諮られ、日本歯科医師会（日歯）からは大塚代議員会議長と斉藤政連議長が選出された。第１号議案には、国民医療を破壊する健保改悪絶対反対の件が挙げられ、日歯の毛利専務理事は歯科医師会を代表して自民党の公約に違反する一連の背信行為を厳しく批判して注目を集めた。

その後、日本薬剤師会（日薬）の高橋副会長の発言に続き、被保険者の家族を代表して主婦の神津博子さんが本人の一割負担がいかに生活費を圧迫するかを訴えられ、会場に同感の空気がひしひしと流れた。採決は、割れんばかりの拍手のなか、満場一致で可決された。

大浜、関口の両医系議員から、「我々は身体を張って発言している、非常に難しく長い戦いだが今後ともがんばっていく」との力強い挨拶があり、最後に宣言案および決議案が読み上げられ、満場一致で承認採択された。さらに抗議団を結成して、自民党・藤尾政調会長に今大会の宣誓、決議を手渡すべく15名（日歯からは小川副会長、毛利専務）が自民党本部へ出発した。

記

1. 国民と医療団体を無視した一方的な制度の改悪に反対する
2. 勤労者と低所得者の負担増をきたす制度の改悪に反対する
3. 受診を抑制し、国民の健康を阻害する制度の改悪に反対する

上決議する。

昭和59年２月21日

国民医療破壊阻止全国三師会大会

富山県歯科医師会の動き

昭和58年（1983）

4. 1 昭和58・59年度役員
　会　　長　藤井　弘（再任）
　副 会 長　水野誓夫、三崎正春
　専務理事　水野公之
　理　　事　大野繁彦、山本壯一、立野泰三
　今村勝彦、桜木正昭、佐渡哲雄
　浦野　潤、福井　洋、栗山豊実
　山田正昭、坊　明男、永森靖夫
　北山善之進、宮田靖雄
4. 3 歯科総合学院入学式
　歯科技工士科　第18期生
　歯科衛生士科　第11期生
4. 11 置県百年記念事業推進県民会議（名鉄ホテル）
4. 20 三師会展　本会当番（産業奨励館、～24日）
5. 9 置県百年記念式典（県民会館）
5. 17 第92回日歯臨時代議員会（日歯）（水野副会長）
5. 20 保険研修会
5. 21 北陸三県役員連絡協議会（金沢）
5. 23 富山医科薬科大学協力会理事会（県民会館）
5. 26 歯科医長、歯科衛生士主任会議（総合センター）
5. 27 保険研修会
5. 27 第93回日歯臨時代議員会（日歯）（水野副会長）
5. 28 新規採用従業員講習会（総合センター）
5. 28 顕彰祝賀会（電気ビル）
5. 29 第29回歯の女王選彰会（総合センター）
　歯の女王　村本　縁（20）
6. 2 全国歯科技工士教育協議会（大分）（大井学院理事）
6. 3 審査委員合同連絡協議会（まつや）
6. 5 歯の女王表彰式（総合センター）
6. 5 歯の無料相談（大和富山店７階、大和高岡店５階、魚津サンプラザ、トーカマート小矢部店）
6. 5 富山地区歯科医師会無料健診　ルンビニ園
6. 9 歯科衛生士科戴帽式
6. 18 保険研修会
6. 22 社会保険医療担当者指導講習会（県民会館）
6. 22 上平村巡回診療
6. 25 歯学研修セミナー（石川、～26日）
7. 25 上平村巡回診療（～29日）
8. 2 上平村巡回診療（～３日）
8. 9 北陸三県歯科技工士学院専任教員研修会（～10日、総合センター）
8. 11 審査委員合同協議会（総合センター）
8. 23 社会保険指導者講習会（東京商工会議所）（藤井会長外７名）
8. 28 有料研修会（総合センター）
8. 30 都道府県歯科医師会長会議（日歯）（三崎副会長）
9. 11 富山県歯科医師会創立70周年記念ゴルフ大会（呉羽）
9. 15 会員レクリエーション（いこいの村）
9. 18 社会保険伝達講習会（総合センター）
9. 21 第94回日歯代議員会（日歯）
9. 22 日歯代議員会（日歯）・第65回日歯通常総会（日歯）
9. 23 本会創立70周年記念マージャン大会
9. 24 医療請求事務者講習会
10. 5 富山県歯の保健文化賞事前審査
10. 12 富山県歯の保健文化賞審査会
10. 17 本会創立70周年記念式典準備委員会
10. 22 富山県歯科医師会創立70周年記念式典
　追悼式（総合センター）　式典（電気ビル）
10. 23 歯科助手認定講習会（総合センター）
10. 26 歯の女王　サンスター見学（～27日）
10. 29 第１回富山県歯の保健文化賞表彰式（歯科総合センター）
　受賞者　大田輝子、坂下栄作
10. 29 歯科助手認定講習会（～30日、総合センター）
11. 26 歯科衛生士卒後研修会（総合センター）
12. 21 日歯事務連絡会議（日歯）

昭和59年（1984）

1. 18 日歯青色申告会評議員会（日歯）
1. 26 都道府県歯科医師会長・政連会長合同会議（日歯）（三崎副会長、水野専務理事）
1. 28 社保、国保審査員合同会議
2. 8 富山地区確定申告説明会
2. 17 医療懇談会（高志会館）
2. 19 有料研修会
2. 21 国民医療破壊阻止三師大会（久保講堂）（水野、三崎副会長）
2. 26 保険伝達講習会（総合センター）
2. 29 近畿北陸地区会長・専務理事連絡協議会
3. 4 総合学院卒業式
　歯科技工士科　第17期生33名
　歯科衛生士科　第10期生39名
3. 8 保健関係指導者講習会（総合センター）
3. 11 定時代議員会
3. 10 口腔保健センター研修会（総合センター）
3. 15 第95回日歯代議員会（日歯）
3. 16 第66回日歯通常総会（日歯）
3. 24 医療請求事務講習会（総合センター）
3. 25 本会定時総会において本会功労者表彰（深山正之、中野由蔵、山口清衣、渡辺綱男、内田安博、松浦 實）

日本歯科医師会の動き

昭和58年（1983）

4. ー 日歯、福祉共済の死亡共済金800万円となる
4. ー 老人保健事業調査を5カ年計画で岩手県ほか10県市で開始
5. 12 近畿北陸地区歯科医師会役員連絡協議会（兵庫県）
6. 10 第４回歯科保健大会（新潟）
9. ー 日歯、新会館半蔵門ビルに移転（千代田区隼町3-16）、業務開始
11. 9 第15回日本歯科医学会総会（～21日）（近畿北陸地区歯科医学大会 休止）
第71回FDI年次世界歯学大会（東京都）
「長寿のための歯学」
　歯を長持ちさせることの意義
　歯を長持ちさせるための予防法
　歯を長持ちさせるための臨床歯学
11. ー 第71回FDI年次世界歯学大会（東京都）

昭和59年（1984）

2. 21 国民医療破壊阻止全国三師会大会開催（東京／参加1,000人）

世の中の動き

昭和58年（1983）

4. 15 東京ディズニーランド開園
5. ー 日本海中部地震（秋田沖）M7.7、大津波で99人死亡
6. ー 戸塚ヨットスクールでスパルタ教育による傷害致死事件
6. ー 第13回参院選で初の比例代表制を導入
7. ー 厚生省レセプトのコンピューター処理システム（レインボーシステム）基本構想を発表
8. ー 金融機関、初めて第２土曜日休日制を一斉実施
8. ー フィリピン アキノ元議員暗殺される
9. ー サハリン沖で大韓民国機撃墜
10. 12 ロッキード裁判の田中角栄被告に懲役４年、追徴金５億円の実刑判決
10. ー 初の体外授精児出産

昭和59年（1984）

1. ー 中曽根内閣現職初の靖国神社参拝
3. ー マッキンリーの植村直己さん消息断つ
3. ー グリコ森永事件

昭和59年度（1984年4月～1985年3月）

■会員数　365名（4月1日現在）

富山県歯科医師会の動き

昭和59年（1984）

4. 8　総合学院入学式
　歯科技工士科　第19期生　30名
　歯科衛生士科　第12期生　50名
4. 21　北陸三県役員連絡協議会（芦原）
4. 23　改正税法説明会（農協会館）
4. 26　藤井会長、富山県第14回青年海外派遣団（青年の翼）の団長としてマレーシア、オーストラリアへ派遣（～5月9日）
4. 27　都道府県会長・政連会長合同会議（日歯）
5. 18　21世紀の国民の医療を考える会（旧ヒルトンホテル）（藤井会長）
5. 19　第30回歯の女王選彰会（総合センター）
　歯の女王　壁　美千代（18）
5. 23　近畿北陸地区歯科医師会役員・政連連絡協議会（京都都ホテル）
5. 27　学術講演会（総合センター）
5. 31　支払基金との打合会
6. 1　上平村巡回診療
6. 2　全国技工士教育協議会（新潟）
6. 3　第30回歯の女王表彰式（総合センター）
6. 3　歯の無料相談（大和富山店7階、大和高岡店4階、魚津サンプラザ2階、ベル福光2階）
6. 3　富山地区歯科医師会無料検診　ルンビニ園
6. 9　地区別保険労務管理講習会（砺波・小矢部・東砺波・西砺波）
6. 10　新規採用従業員指導講習会（総合センター）
6. 11　審査員連絡協議会
6. 16　日歯歯学研修セミナー（福井、～17日）
6. 20　社会保険医療担当者指導講習会（農協会館）
6. 28　歯科衛生士科戴帽式
6. 30　地区別保険、労務管理講習会（魚津・滑川・中新川）
7. 1　顕彰祝賀会（電気ビル）
7. 3　健保連懇談会
7. 14　第12回産業歯科医研修会（総合センター）
7. 25　上平村巡回診療（～27日）
7. 27　都道府県歯科医師会長・政連代表者合同会議（日歯）
7. 29　健康管理講演会（総合センター）
7. 30　上平村巡回診療（～8月2日）
8. 12　法務大臣 住栄作先生を囲む集い
8. 30　三師会展（県民会館、～9月2日）
9. 4　社会保険指導者歯科研修会（日歯）
9. 10　都道府県歯科医師会長・政連会長会議（日歯）
9. 20　第96回日歯代議員会（日歯、～21日）
9. 29　社会保険伝達講習会（総合センター）
10. 1　健康保険法の一部を改正（本人1割負担）する法律施行
10. 6　医療請求事務講習会（総合センター）
10. 6　会員レクリエーション（富山県家族旅行村）
10. 12　歯科衛生士科理事講師、医長合同協議会
10. 14　歯科衛生士卒業研修会（総合センター）
10. 17　歯科医療従事者無料職業紹介事業の認可申請書を労働大臣へ提出
10. 24　日歯社保委員会（日歯）
11. 6　厚生省、県共同指導（～7日）
11. 7　社会保険医療担当者集団指導講習会（総合センター）
11. 8　第5回全国歯科保健大会（愛知）
11. 9　金沢国税局管内税務指導者協議会（福井）
11. 11　北陸三県歯科医学学術講演会（福井）
11. 14　歯の保健文化賞審査会
11. 18　第1回有料研修会（総合センター）
11. 20　新入会員税務講習会
11. 27　第97回日歯代議員会
11. 30　第2回富山県歯の保健文化賞表彰式（総合センター）
　個人　嶋畑慶子
　団体　財団法人鉄道弘済会富山保健所
　　入善子供の歯を守る会
12. 13　近畿北陸地区歯科医師会役員連絡協議会（京都）
12. 15　映写会「さあ、お口を開けて」（総合センター）
12. 16　忘年ディナーショー（名鉄トヤマホテル）　会員、家族、従業員155名出席

昭和60年（1985）

1. 22　本会定款変更申請書を県知事へ提出
2. 4　本会定款変更認可
2. 8　本会定款変更登記完了
2. 20　歯科医療従事者の無料職業紹介事業労働大臣認可
2. 23　第2回有料研修会（富山医科薬科大学）
2. 24　社会保険伝達講習会
3. 1　社会保険診療報酬改正
3. 10　総合学院卒業式
　歯科技工士科　第18期生　27名
　歯科衛生士科　第11期生　54名
3. 13　第98回日歯代議員会（日歯）
3. 14　第69回日歯総会（日歯）
3. 16　口腔保健センター研修会
3. 23　医療請求事務者講習会
3. 24　本会定時総会において本会功労者表彰（上滝元彦、山田外雄、水橋哲夫、坂下孝則）
3. 30　主任衛生士会議

日本歯科医師会の動き

昭和59年（1984）

4. ー　歯の衛生啓発番組「笑顔でカムカム」を「ご存じですか歯の健康情報」に変更し日本テレビで放映
6. 4　歯の衛生週間
「よい歯でよくかみよいからだ」「一生自分の歯で食べよう」
10. ー　ラジオたんぱで日歯企画の「歯科医院経営の時代」放送開始
11. 28　日歯創立80周年式典（日歯会館）
ー. ー　歯科医師数 63,145人

昭和60年（1985）

3. 13　日歯第98回通常代議員会第69回通常総会
　日歯会長選挙　現会長　山崎数男　無投票当選
　副会長　田窪才祐、矢口省三、小川時敏、秋山友蔵

世の中の動き

昭和59年（1984）

7. 28　ロサンゼルスオリンピック開幕
8. 14　健康保険法改正公布、本人一割負担
9. 12　グリコ事件犯人「かい人21面相」森永製菓も脅迫、製品に青酸混入
10. ー　インド、ガンジー首相暗殺
10. ー　健康保険法改正、被用者保険本人一割徴収、退職者医療制度の創設など
11. 1　新紙幣発行、千円に夏目漱石、五千円に新渡戸稲造、一万円札には福沢諭吉

昭和60年（1985）

3. 16　国際科学技術博覧会「つくば'85」開催
3. 22　厚生省、日本発のエイズ患者確認を発表
3. ー　青函トンネル貫通、世界最長53.85km

昭和60年度（1985年4月～1986年3月）

■会員数　375名（4月1日現在）

富山県歯科医師会の動き

昭和60年（1985）

4. 1　藤井弘会長再任（４選）
4. 1　本会定款改正
　従前の委員会を廃止し､部会として発足｡部会は総務、財務、医療管理、税務、学術、保険、福祉共済、公衆衛生、広報、調査、口腔保健センター、総合学院歯科衛生士科及び歯科技工士科の13部会とする。口腔保健センター及び総合学院に理事会を置く。本会役員、代議員、予備代議員、部員、口腔保健センター及び総合学院理事、支部長の任期を３年とする。
4. 7　総合学院入学式
　歯科技工士科　第20期生28名
　歯科衛生士科　第13期生43名
5. 9　口腔保健センター研修会
5. 15　日歯歯学研修セミナー打合会（日歯）
5. 24　第99回日歯代議員会（日歯）（藤井会長）
5. 25　新規採用従業員講習会（総合センター）受講者64名
5. 31　都道府県歯科医師会長会議（日歯）（藤井会長）
6. 2　歯の無料相談
（大和富山店７階、北陸ジャスコ高岡店、魚津サンプラザ、福野ショッピングセンターピステ）
6. 2　富山地区歯科医師会無料検診　ルンビニ園
6. 18　歯の保健文化賞審査会
6. 19　都道府県歯科医師会事務長連絡会（日歯）
6. 22　歯学研修セミナー（総合センター、～23日）
6. 27　歯科衛生士科戴帽式
6. 28　第３回富山県歯の保健文化賞表彰式（総合センター）
　個人　大野和子
　団体　高岡市姫野地区愛育班
6. 29　北陸三県歯科医師会役員連絡協議会
7. 11　近畿北陸地区役員連絡協議会（滋賀）
8. 30　社会保険指導者研修会（日歯）
9. 5　三師会展（県民会館、～８日）
9. 12　第100回日歯代議員会（日歯）
9. 13　日歯代議員会、第70回日歯通常総会（日歯）
9. 15　第37回近畿北陸地区歯科医学大会（石川）
9. 29　歯科衛生士卒後研修会（総合センター）受講者64名
10. 5　顕彰祝賀会（電気ビル）
10. 11　医長会議
10. 12　歯科助手資格認定講習会（総合センター、～13日）
10. 17　日本公衆衛生学会（～18日）
10. 19　歯科助手資格認定講習会（総合センター）受講者79名
10. 20　歯科医師協同組合レクリエーション（太閤山ランド）参加者156名
10. 30　医療経営実態調査説明会
11. 2　無歯科医地区巡回診療　上平村（～４日）
11. 7　新入会員の会務等説明会
11. 17　有料研修会（総合センター）
　参加者　歯科医師58名、歯科衛生士46名
11. 19　新規開業者税務講習会
11. 21　社会保険全体講習会（総合センター）
11. 23　第２回日本障害者歯科学会（名古屋、～24日）
12. 5　保健関係指導者歯科講習会（総合センター）受講者154名
12. 22　ファミリークリスマスパーティ（名鉄ホテル）参加者205名
12. 26　富山県並びに県議会の懇談会

昭和61年（1986）

1. 29　近畿北陸地区役員連絡協議会（滋賀）
2. 5　日歯青色申告評議員会（日歯）
2. 22　第２回有料研修会（医薬大）
3. 8　口腔保健センター研修会
3. 9　総合学院卒業式
　歯科技工士科　第19期生29名
　歯科衛生士科　第12期生46名
3. 10　近畿北陸地区歯科医師会会長・専務理事会（京都）（三崎副会長、今村専務理事）
3. 13　第102回日歯代議員会（日歯）
3. 14　第71回日歯総会（日歯）
3. 16　定時代議員会
3. 22　歯科技工士会との打合会
3. 30　社会保険伝達講習会
3. 30　定時総会において本会功労者表彰

日本歯科医師会の動き

昭和60年（1985）

8. ー　日航機墜落事故で山崎会長地元検視班を激励
9. 12　第100回日歯代議員会記念式典
10. ー　歯学研修セミナー実施
11. ー　日航機墜落事故、身元確認作業のボランティア活動に対し総理府より群馬県歯、藤岡・多野氏に感謝状
11. ー　福岡で第６回全国歯科保健大会
11. ー　高度先進医療の実施
12. 27　医療法の一部を改正する法律公布
ー. ー　歯科医師数 48,386人
ー. ー　この年、国産光重合CR発売

昭和61年（1986）

2. ー　国民歯科医療問題懇談会開催
3. ー　歯科医師急増対策等文部大臣に申し入れ 外注技工料問題再浮上

世の中の動き

昭和60年（1985）

4. 1　NTT、日本たばこ産業会社発足
5. ー　男女雇用機会均等法成立
6. ー　大鳴門橋開通
6. ー　豊田商事事件
7. ー　総人口１億2,000万人突破
8. 12　日本航空ボーイング747ジャンボ機が群馬県上野村御巣鷹尾根に墜落。死者520人、４人が奇跡的に生存
8. ー　健康政策局長名で「医療計画について」都道府県知事に通知
10. ー　プロ野球・阪神タイガースが21年ぶりにセリーグ優勝 11月２日には初の日本一に
11. ー　医療法第23～25次改正（一人法人61.10.1より実施）
ー. ー　国勢調査、総人口１億2,104万8,923人
ー. ー　エイズ世界各国に発生
ー. ー　国際青年年

昭和61年（1986）

1. 28　スペースシャトル チャレンジャー号爆発事故、７名死亡

昭和61年度（1986年4月～1987年3月）

■会員数　390名（4月1日現在）

富山県警察に法歯学協力医を設置

富山県歯科医師会では、富山県警本部および各警察署にそれぞれ身元確認のため法歯学協力医として21名が設置された。

●協力要請内容

1　検視、鑑定等に際し、法歯学を利用した身元確認及び歯型鑑定等の捜査協力に関すること

2　警察職員に対する法歯学知識の研修に関すること

3　その他警察本部長が必要と認める事項

後に平成７（1995）年７月に富山県警察と「協力援助体制に関する覚書」を締結し、会員にも協力を願い、身元確認活動を行っている。

平成９（1997）年３月には、富山県警察本部と富山県歯科医師会で「富山県警察法歯学活動マニュアル」をまとめ、毎年富山県警察法歯学協力医研修会を実施し、警察協力歯科医として研修に努めている。

●設置された法歯学協力医（昭和61年４月１日）

富山県警察本部	古田　勲
入善警察署	小杉与三雄
黒部警察署	平井　和輝
魚津警察署	奥村　朋宏
滑川警察署	水橋　哲夫
上市警察署	佐伯　正清
富山北警察署	水野　隆俊
富山警察署	松浦　実
	中嶋　渉
	高石　叡
大沢野警察署	米沢　徹
八尾警察署	大井　克彦
小杉警察署	立浪　次夫
新湊警察署	青木　一登
高岡警察署	阿部　輝夫
	山田　真樹
氷見警察署	中辻　義忠
井波警察署	山本　武夫
砺波警察署	菅野　勝紀
福光警察署	新谷　政彦
小矢部警察署	上田外喜男

富山県警察法歯学協力医緊急会合

昭和61（1986）年11月19日（水）午後７時30分より富山歯科総合センター１階会議室において、富山県警察法歯学協力医の緊急会合が行われた。11月18日富山市三熊の古洞ダムで発見された女性の腐乱死体の身元確認のための調査である。

最初に富山県警の岡本鑑識課長より事件の状況説明後、富山医科薬科大学医学部法医学講座滝沢教授や口腔外科の古田教授の検死結果の報告が行われた。各支部の法歯学協力医の先生方に渡された資料および実際の遺体の所見観察から数多くの意見が出された。翌日（11月20日）（木）各支部において警察の方をまじえて支部会を開くことを決め閉会した。

藤井弘会長、藍綬褒章受章祝賀会開かれる

昭和61（1986）年５月31日（土）、藤井弘会長の藍綬褒章受章祝賀会が電気ビル大ホールにて開かれた。祝賀会には、中沖豊富山県知事、山崎数男日本歯科医師会会長、綿貫民輔自民党県連会長ら多数の来賓、各界の代表、歯科医師会員ら約500名が出席された。

発起人代表・三崎正春副会長の開会の挨拶、来賓のお祝いの言葉に続いて、藤井会長は「受章は私にとって生涯最大の喜びであります。皆様がたの御指導、御鞭撻に感謝し、今後とも歯科界発展の為努力いたします」と受章の挨拶を述べた。祝賀会は、終始和やかな雰囲気のなか、執り行われた。

富山県歯科医師会の動き

昭和61年（1986）

4. 6 総合学院入学式
　歯科技工士科　第21期生20名
　歯科衛生士科　第14期生53名
4. 18 近畿北陸地区歯科医師会会長・専務理事連絡協議会（和歌山）
4. 19 医療請求事務講習会
5. 14 都道府県歯科医師会長会議（日歯）
5. 17 歯学研修セミナー（総合センター、～18日）受講者80名
5. 22 歯の保健文化賞審査会
6. 1 歯の無料相談
　富山会場（大和富山店）150名
　高岡会場（北陸ジャスコ高岡店１階）100名
　砺波会場（北陸ジャスコ砺波店）
　滑川会場（エール）
　黒部会場（メルシー黒部）
　福岡会場（サンエール）50名
　氷見会場（サンパークひみ）100名
　婦中会場（パピ１階）83名
6. 4 第４回歯の保健文化賞表彰式（総合センター）
　細入村愛育班、富山県学校保健会養護教諭会
6. 14 新規採用従業員講習会（総合センター）受講者63名
6. 21 北陸三県歯科医師会役員連絡協議会（石川）
6. 24 歯科医長会議
6. 26 歯科衛生士科戴帽式
6. 26 県監査委員監査
7. 19 学術講演会（総合センター、～20日）受講者73名
7. 28 県監査委員監査
8. 27 社会保険指導者研修会（日歯）
9. 4 三師会展（県民会館、～７日）
9. 6 第１回有料研修会（～７日）出席者40名
9. 9 都道府県歯科医師会長会議（日歯）
9. 17 第103回日歯代議員会（日歯）
9. 18 第72回日歯通常総会（日歯）
9. 27 第38回近畿北陸地区歯科医学大会（大阪）
9. 27 近畿北陸地区役員連絡協議会（大阪）
9. 28 会員レクリエーション（金沢サニーランド）参加者75名
10. 27 社会保険医療担当者の共同指導（総合センター、～28日）
11. 24 顕彰祝賀会（電気ビル）
12. 10 保険関係者指導歯科講習会　出席者303名

昭和62年（1987）

1. 29 日歯代議員協議会（日歯）
2. 4 日歯青色申告評議員会（日歯）
2. 15 歯科衛生士科入学試験
　出願者97名　合格者53名
2. 21 第２回有料研修会（富山医薬大）出席者63名
2. 24 保健関係指導者歯科講習会　出席者107名
2. 28 口腔保健センター研修会
3. 8 総合学院卒業式
　歯科技工士科　第20期生28名
　歯科衛生士科　第13期生42名
3. 8 特別学術講演会
3. 12 第104回日歯代議員会（日歯）
3. 13 第73回日歯通常総会（日歯）
3. 29 定時総会において本会功労者表彰

日本歯科医師会の動き

昭和61年（1986）

4. ― 診療報酬1.5%アップ
　前装鋳造冠保険導入
4. ― 歯科医師国家試験、１年に２回から１年に１回に変更
5. 9 近畿北陸地区会長・専務理事会
7. ― 老健法の保健事業、歯科保健対策を初めて明記
7. ― 歯科医師需給で昭和70年を目途に20%の削減を厚生省発表
11. 15 第７回全国歯科保健大会開催（宮城県）
11. ― 老健法案修正可決、外来負担月額800円に（実施昭和62年１月１日より）
―. ― 日歯、新会館地鎮祭
―. ― 歯科医師数 66,797人
―. ― この年、国産可視光線照射器、国産光重合歯冠用レジン発売

昭和62年（1987）

1. ― 国民医療総合対策本部を設置

世の中の動き

昭和61年（1986）

4. 1 男女雇用機会均等法施行
4. 11 企業60歳定年制義務付け
4. 26 ソ連、チェルノブイリ原発事故
4. ― 明石海峡大橋起工
5. ― 東京サミット
6. ― エイズ世界に広がる
7. ― 平均寿命、男74.84歳・女80.46歳
10. ― 伊豆大島三原山噴火

昭和62年（1987）

1. 1 老人保健法一部負担改定
　外来月400円から800円に
1. 17 日本初の女性エイズ患者を認定
1. ― イラン･イラク戦争

昭和62年度（1987年4月～1988年3月）

■会員数　403名　（4月1日現在）

運動会盛大に開催

昭和62（1987）年５月24日（日）、前夜から続いたきびしい雨と明け方の霧雨、時々の強風、気温低下、降水確率30％の状況のもと富山県歯科医師会大運動会が、13年ぶりに歯科総合センター前の元富山商業高校グラウンドで開催された。

早朝より開催に関する問い合わせの電話が鳴り響く中、予備日がなく準備を整えてきた主催者としてはなんとしても実施したくスコップ、バケツ、スポンジ、一輪車を使った人海戦術により、水たまりを排除し、砂を入れ、グラウンド整備に全力をあげた。

その甲斐あって10時より開会式が行われ、参加者約550名が赤団（富山市）、青団（高岡市）、白団（呉東、呉西）に分かれて入場行進・整列することができた。

藤井大会会長より開会の挨拶に続いて松浦富山ブロック長の選手宣誓が行われ、競技前には富山女子短期大学・石田先生指導のもと参加者全員で楽しく準備体操が行われた。グラウンドが軟弱であること、気温が低いことから競技前はウォーミングアップの指導、怪我をしないよう自分の体力を過信しないよう注意があった。しかし第１種目の50メートル走が開始と同時に先ほどの注意はどこへやら、一般男子の最初から全力疾走の迫力の中、ゴール直前では転倒など、この先怪我が心配な幕開けとなった。

時折小雨がぱらつく中､競技は順調に進行し、レース参加者も予定していた数より多く、より白熱した熱戦もみられ、応援も次第に力が入ってきたところで午前の種目が終了した。

午後の部に移ると、天候も次第に回復し、薄日がさしてきたところで役員の借り物レースやジュース・ビール飲み競争が始まった。そして３チーム総当たりの綱引きとなり、いよいよ力が入り日頃使っていない筋肉をつかって全力を出し切った。最後のメインイベント、ブロック別リレーは、全力疾走による迫力充分な見応えのあるレースとなった。

全競技が怪我なく無事終了したところで、閉会式に移り、予想どおり１位赤団、２位白団、３位青団となった。藤井会長より表彰状が贈られ、三崎副会長の挨拶で閉幕となった。

藤井大会会長による開会の挨拶

一般男子の部50メートル走

一般女子の部50メートル走

ジュース・ビール飲み競争

綱引き

三崎副会長による閉会の挨拶

富山県歯科医師会の動き

昭和62年（1987）

4. 5 総合学院入学式
　歯科技工士科　第22期生28名
　歯科衛生士科　第15期生53名
4. 28 第105回日歯代議員会（日歯）
5. 9 社会保険全体講習会（総合センター）
5. 16 歯科研修セミナー（総合センター、〜17日）受講者88名
5. 20 第４回歯の保健文化賞審査委員会
5. 20 富山県学校歯科医会との打合会
5. 24 富山県歯科医師会大運動会（旧富山商業高校グラウンド）
5. 30 北陸三県歯科医師会役員連絡協議会（福井）
6. 4 第５回歯の保健文化賞表彰式（電気ビル）
　富山県立高志学園口腔ケアグループ
　中伏木校下愛育班
6. 7 歯の無料相談
　富山会場（大和富山店）
　高岡会場（北陸ジャスコ高岡店）125名
　新湊会場（トーカマート新湊店）70名
　魚津会場（魚津サンプラザ）60名
　黒部会場（メルシー黒部）
　小矢部会場（小矢部マルシェ店）60名
　井波会場（サンモール）70名
　八尾会場（ララエイト）126名
6. 20 全国歯科技工士教育協議会理事､校長､教務主任会議（昭和大学医学部、〜21日）
6. 23 歯科医長会議
6. 25 歯科衛生士科戴帽式
7. 19 学術講演会（総合センター）受講者102名
7. 25 第34回歯科衛生士研修会（総合センター、〜26日）
7. 25 第15回歯科技工士研修会（総合センター、〜26日）
8. 25 近北地区歯科医師会・歯科医師連盟合同役員連絡協議会（奈良県）
8. 26 保健関係指導者歯科講習会（総合センター）受講者105名
8. 27 三師会展（県民会館、〜30日）
9. 3 都道府県歯科医師会長・政連会長合同会議（日歯）
9. 12 保険、税務全体講習会
9. 17 第106回日歯代議員会（日歯、〜18日）
9. 27 第１回有料研修会（総合センター）参加者51名
9. 27 第１回HBs抗原・抗体検査
10. 4 第１回HBs抗原・抗体検査
10. 11 第１回ワクチン接種
10. 17 第８回全国歯科保健大会（長野）
10. 18 第１回ワクチン接種
10. 22 近畿北陸地区歯科医師会会議（京都）
10. 24 歯科助手資格認定講習会（〜25日）
10. 31 歯科助手資格認定講習会
11. 8 第２回ワクチン接種
11. 15 第39回近畿北陸地区歯科医学大会（滋賀）
11. 15 第２回ワクチン接種
11. 20 生涯研修事業打合会（日歯）
11. 24 中医協調査説明会
11. 25 顕彰祝賀会（電気ビル）
11. 28 北陸三県歯科医学学術講演会（福井）
11. 30 近畿北陸地区役員連絡協議会、会長会（大阪）
12. 5 忘年ディナーショー（電気ビル）
12. 26 近畿北陸地区歯科医師会会長会議

昭和63年（1988）

1. 6 近畿北陸地区歯科医師会会長会議（京都）
1. 12 都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
1. 12 新入会員税務講習会
1. 13 日歯青色申告評議員会（日歯）
1. 19 日歯臨時代議員会（日歯）
1. 30 近畿北陸地区歯科医師会会長・専務会（京都）
1. 30 近畿北陸地区歯科医師会並びに政連役員連絡協議会（京都）
2. 20 口腔保健センター研修会
2. 28 第２回有料研修会（総合センター）参加者120名
2. 5 労働衛生担当者及び保健関係指導者歯科講習会
2. 6 総合学院卒業式
　歯科技工士科　第21期生16名
　歯科衛生士科　第14期生51名
3. 10 第109回日歯代議員会（日歯、〜11日）
3. 15 定時代議員会
3. 26 定時総会において本会功労者表彰

日本歯科医師会の動き

昭和62年（1987）

4. 2 日歯エイズ対策プロジェクト発足
4. 28 臨時代議員会で財団法人歯科医学臨床研修振興財団設立を承認
6. ― 各歯科大学（歯学部）と日本歯科医師会役員との懇談会開かれる
6. ― 第１回国際歯科学会開催（日本歯科医師会、日本歯科医学会、山形県が後援）
6. ― 歯科臨床研修振興財団設立（卒直後研修開始）
8. ― 「国民のための歯科医療に理解を」冊子作成
10. 3 第16回日本歯科医学会総会（〜５日）
　歯科医院における感染症対策
　「歯の健康心得10か条」配布
11. ― 第６回歯科疾患実態調査
―. ― 歯科医師数 50,939人
―. ― この年、国産光重合直接リベース材、床用光照射器発売

昭和63年（1988）

1. 19 臨時代議員会で診療報酬改定問題を集中論議
2. 5 日本歯科医師会新会館竣工
2. 21 近北地区歯科医師会役員連絡協議会（京都府）
　日歯会長選挙について
3. 10 日歯第109回通常代議員会第76回通常総会
　会　長　山崎数男　当選
　副会長　持山彌之助、村井俊郎、佐藤裕一当選

世の中の動き

昭和62年（1987）

4. 1 国鉄分割国営化、JR ６社等発足
5. ― 朝日新聞阪神支局に散弾銃発射、記者１人死亡
6. ― 広島カープ、衣笠祥雄選手、連続試合出場世界新記録2,131試合、国民栄誉賞授与
10. ― 利根川進氏、ノーベル生理学賞受賞（邦人初）
11. 29 大韓航空機がビルマ沖で爆破墜落
11. ― 日本航空民営化
―. ― NTTが携帯電話サービス開始
―. ― 世界の人口が50億人を突破

昭和63年（1988）

2. 13 カルガリーオリンピック開幕
3. 13 世界最長の青函トンネル開通、青函連絡船運航終了
3. 25 Ｂ型肝炎、AIDS汚染防止対策ガイドライン

昭和63年度（1988年4月～1989年3月）

■会員数　413名（4月1日現在）

富山県歯科医師会の動き

昭和63年（1988）

4. 1　定款の一部改正による役員の任期改正後、第２回目の改選によって藤井弘会長５選される
4. 3　第３回ワクチン接種
4. 7　近畿北陸地区歯科医師会長会議（敦賀）
4. 10　総合学院入学式
　歯科技工士科　第23期生　28名
　歯科衛生士科　第16期生　52名
4. 10　第３回ワクチン接種
4. 17　文化講演会
4. 25　近畿北陸地区会長会議（京都）
4. 26　都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
5. 8　HBs検査
5. 11　歯科研修セミナー合同打合会（日歯）
5. 11　第１回富山県健診協力医講習会　受講者141名
5. 14　全国歯科技工士教育協議会（日本歯科大学）
5. 15　HBs検査
5. 22　北陸三県歯科医師会役員連絡協議会（電気ビル）
5. 23　日本歯科医学会臨時評議員会（日歯）
5. 25　富山県歯の保健文化賞審査会
5. 26　第110回日歯臨時代議員会（日歯）
5. 31　保険全体講習会
6. 1　歯科診療報酬点数改正
6. 4　第６回富山県歯の保健文化賞表彰式（電気ビル）
　個人　米田由紀子
　団体　富山市桜谷保育園、滑川市有金地区愛育班
6. 5　歯の無料相談
　富山会場（大和富山店７階）72名
　高岡会場（北陸ジャスコ高岡店１階）130名
　射水会場（太閤山パスコ）
　魚津会場（魚津サンプラザ）
　黒部会場（メルシー黒部）
　砺波会場（北陸ジャスコ砺波店）80名
　婦中会場（ショッピングセンターパピ）100名
　福光会場（ショッピングセンターベル２階）
6. 18　新規採用歯科助手講習会　受講者77名
6. 21　厚生省共同指導、全体講習会（～22日）
6. 25　保険請求事務者講習会
6. 28　歴代会長・副会長懇談会
6. 30　戴帽式
7. 8　日本歯科医学会評議員会（日歯）
7. 10　近畿北陸地区役員連絡協議会（県民会館、第一ホテル）
7. 21　第28回近畿北陸地区学会経験者と懇談会（総合センター）
7. 30　歯学研修セミナー（総合センター、～31日）受講者172名
9. 2　社会保険指導者研修会（東京虎の門ニッショーホール）
9. 9　都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
9. 13　近畿北陸地区学会準備委員会
9. 15　明治、大正会員懇談会　参加者38名
9. 21　第111回日歯代議員会（～22日）
9. 22　記念誌、広報部準備委員会
10. 4　近北学会準備委員会
10. 7　三師会展（県民会館、～10日）
10. 7　近北学会歯科医師会会長会議（京都）
10. 17　国民健康保険施行50周年記念式典（県教育文化会館）
10. 23　北陸三県歯科医学学術講演会（総合センター）
11. 8　保健関係指導者歯科講習会　受講者154名
11. 11　労務管理講習会　受講者56名
11. 20　第40回近畿北陸地区歯科医学大会（神戸）
11. 20　近畿北陸地区役員連絡協議会（神戸）
11. 23　歯科総合学院10周年記念講演会（総合センター）
11. 25　税務講習会
11. 29　民間歯科医療保険講習会
12. 3　忘年ディナーショー（名鉄ホテル）
12. 3　第１回有料研修会（～４日）受講者91名
12. 9　日本歯科医師会評議員会（日歯）
12. 27　近畿北陸地区歯科医師会会長・専務会（京都）

昭和64年／平成元年（1989）

1. 17　新入会員税務講習会
1. 26　近北学会準備会場講演部会
1. 29　会員マージャン大会
2. 10　日歯青申連評議員会（日歯）
2. 25　口腔保健センター研修会（名鉄ホテル）
2. 26　第２回有料研修会　受講者72名
3. 1　都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
3. 4　労働衛生担当者及び健診協力歯科医講習会
3. 5　総合学院卒業式
　歯科技工士科　第22期生　26名
　歯科衛生士科　第15期生　52名
3. 7　近北学会準備会場講演部会
3. 14　定時代議員会
3. 16　第112回日歯代議員会（～17日）
3. 17　社会保険伝達講習会
3. 25　顕彰祝賀会（名鉄トヤマホテル）
3. 25　本会定時総会において本会功労者表彰
3. 29　税務講習会

日本歯科医師会の動き

昭和63年（1988）

4. ー　日歯生涯研修制度スタート
6. 15　第１回生涯研修委員会制度実施
6. ー　中医協歯科問題小委員会設置
6. ー　歯科診療報酬改定1.0％のアップ
7. ー　文部大臣、厚生大臣、私立歯科大学協会長に歯科大学入学定員20％削減の完全実施要望
9. ー　大蔵省民間歯科保険を認可
9. ー　民間歯科保険新発売

世の中の動き

昭和63年（1988）

4. 1　「マル優」制度廃止
4. 10　瀬戸大橋が開通
4. ー　アフガニスタン和平協定調印
7. ー　リクルート疑獄事件
8. 20　イラン･イラク戦争停戦協定成立
9. 17　ソウルオリンピック開幕
12. ー　消費税法案成立、竹下内閣改造

昭和64年／平成元年（1989）

1. 7　昭和天皇が崩御。皇太子明仁が即位し、「平成」に改元
1. ー　米国、ブッシュ政権スタート
2. 24　昭和天皇大葬の礼
2. ー　エイズ予防法が施行

一世紀録

富山県歯科医師会100年史

第4部 平成元年度―平成25年度

平成元年度（1989年4月～1990年3月）

■会員数　432名（4月1日現在）

富山県歯科医師会の動き

平成元年（1989）

4. 9　総合学院入学式
　歯科技工士科　第24期生26名
　歯科衛生士科　第17期生51名
4. 19　歯学研修セミナー合同打合会（日歯）
4. 25　新潟県歯科医師会視察来県
5. 13　歯学研修セミナー（～14日）　受講者121名
5. 17　都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
5. 23　富山県歯の保健文化賞審査委員会
5. 27　北陸三県歯科医師会役員連絡協議会（石川）
6. 3　第７回富山県歯の保健文化賞表彰式（電気ビル）
　個人　高島きぬ子（在宅歯科衛生士）
　団体　大島町新開発母子愛育班
　　杉原地区むし歯予防啓発推進事業実行委員会
6. 4　歯の無料相談　県下８会場
　富山会場（大和富山店８階）45名
　高岡会場（北陸ジャスコ高岡店）121名
　八尾会場（八尾ショッピングセンターララエイト）
　氷見会場（サンパーク氷見）
　魚津会場（魚津サンプラザ３階）109名
　福野会場（福野ショッピングセンターピステ）100名
　黒部会場（メルシー黒部）60名
　福岡会場（サンエール１階）86名
6. 13　第１回税務講習会　受講者65名
6. 16　中医協医療経済実態調査説明会
6. 17　近畿北陸地区役員連絡協議会（滋賀県）
6. 17　日本歯科医療管理学会大会（～18日）
6. 24　歯科助手資格認定講習会（～25日）
6. 27　区長会議
6. 29　歯科衛生士科戴帽式
6. 30　都道府県歯科医師会事務長、事務連絡会（日歯）
7. 8　歯科助手資格認定講習会（～９日）受講者126名
7. 16　歯科衛生士卒後研修会　受講者154名
7. 17　近畿北陸地区歯科医師会会長・専務理事会（京都）
8. 22　第１回褒賞審議会（日歯）
8. 24　都道府県歯科医師会会長・専務理事会（日歯）
9. 5　社会保険指導者研修会（日歯）
9. 12　在宅寝たきり老人歯科保健推進協議会
9. 17　会員レクリエーション（島尾海岸）参加者164名
9. 20　第113回日歯代議員会（～21日）
9. 26　口腔保健センター研修会
9. 27　国民医療問題議員懇談会（日歯）
9. 30　税務・保険講習会　受講者255名
10. 3　近畿北陸地区歯科医師会会長会議（福井）
10. 8　医療管理講習会　受講者53名
10. 28　寝たきり老人訪問歯科診療講習会（高岡本丸会館）
10. 29　北陸三県歯科医学学術講演会（石川）
11. 11　第41回近畿北陸地区歯科医学大会デンタルショー（県民会館）
11. 12　第41回近畿北陸地区歯科医学大会（県民会館）
11. 18　全国歯科保健大会（愛媛）
12. 2　忘年ディナーショー（名鉄ホテル）
12. 6　保健関係指導者歯科講習会　出席者221名
12. 9　医療請求事務者講習会

平成２年（1990）

1. 16　新入会員税務講習会
2. 1　三師会展（県民会館、～４日）
2. 14　都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
2. 16　労務管理講習会　受講者47名
2. 25　有料研修会　受講者75名
2. 25　近畿北陸地区歯科医師会会長・日歯代議員合同協議会（大阪）
3. 1　第114回日歯代議員会（日歯）
3. 2　第80回日歯総会（日歯）
3. 3　労働衛生担当者及び事業所健診協力歯科医講習会
3. 4　総合学院卒業式
　歯科技工士科　第23期生27名
　歯科衛生士科　第16期生46名
3. 5　医療懇談会
3. 9　近畿北陸地区歯科医師会会長会議（大阪）
3. 13　定時代議員会
3. 17　口腔保健センター研修会
3. 24　本会定時総会において本会功労者表彰
3. 24　顕彰祝賀会（電気ビル）
3. 28　日歯青色申告会評議員会（日歯）
3. 31　社会保険伝達講習会

日本歯科医師会の動き

平成元年（1989）

4. 一　日歯会員証を発行
4. 一　歯科診療報酬の0.32％の引き上げを実施（消費税導入による）
6. 一　歯科衛生士法改正公布（厚生大臣免許となる）
9. 20　新歯科医師法施行40周年記念式典
12. 一　歯科医師年金基金の設立を決定
12. 一　厚生省成人歯科保険対策検討会が中間報告で「8020運動」を提言

平成２年（1990）

3. 一　日歯役員と各歯科大学（歯学部）長との連絡協議会開催

世の中の動き

平成元年（1989）

4. 1　消費税（３％）実施
6. 3　宇野宗佑内閣成立
6. 4　中国政府、民主化運動を武力弾圧（第二次天安門事件）
8. 9　海部俊樹内閣成立
11. 9　東ドイツ、ベルリンの壁を実質撤廃し国境開放
11. 13　島根医大で日本初の生体肝移植手術が行われる
12. 3　米ソ首脳、マルタ会談で冷戦終結宣言。東欧社会主義諸国の崩壊始まる

平成２年（1990）

1. 13　第１回大学入試センター試験実施

平成2年度（1990年4月～1991年3月）

■会員数　456名（4月1日現在）

富山県歯科医師会の動き

平成２年（1990）

4. 1　社会保険診療報酬保険点数改定
4. 2　近畿北陸地区歯科医師会会長会議（大阪）
4. 8　総合学院入学式
　　歯科技工士科　第25期生39名
　　歯科衛生士科　第18期生51名
4. 21　医療請求事務者講習会
4. 25　歯学研修セミナー合同打合会（日歯）
5. 14　近畿北陸地区会長会議
5. 19　北陸三県歯科医師会役員連絡協議会（福井）
5. 22　富山県歯の保健文化賞審査委員会
5. 23　近畿北陸地区歯科医師会役員連絡協議会（京都）
5. 26　新規採用歯科助手講習会　受講者74名
5. 27　有料研修会　受講者42名
5. 31　厚生省集団指導講習会
6. 3　歯の健康フェスティバル'90（富山市民プラザ）
6. 3　第８回富山県歯の保健文化賞表彰式
　　個人　砺波市立出町中学校教諭　島田直子
　　団体　大阪野町母子保健推進協議会
　　新湊市片口校下愛育班
6. 7　県監査委員監査
6. 10　医療管理、税務講習会　受講者69名
6. 10　Ｂ型肝炎　ワクチン検査
6. 17　Ｂ型肝炎　ワクチン検査
6. 21　県監査委員監査
6. 26　歯科医長会議
6. 28　歯科衛生士科戴帽式
7. 6　日本歯科医学評議員会（日歯）
7. 7　日本口腔衛生学会甲信越北陸地方会発起人会
7. 14　歯学研修セミナー（～15日）受講者125名
7. 24　近畿北陸地区歯科医師会長会議（京都）
7. 26　都道府県歯科医師会長会議（日歯）
9. 6　新潟県歯科医師会視察来会
9. 7　社会保険指導者研修会（日歯）
9. 16　明治大正会　参加者54名
9. 20　第115回日歯代議員会（日歯、～21日）
9. 24　富山市歯科医師会70周年記念式典（電気ビル）
9. 30　学術講演会　受講者126名
10. 2　厚生部との懇談会
10. 13　第11回全国歯科保健大会（北海道）
10. 14　北陸三県歯科医学学術講演会（福井）
10. 28　部会対抗ゴルフコンペ（呉羽）
11. 14　口腔保健センター研修会
11. 25　第42回近畿北陸地区歯科医学大会（京都）
11. 25　近畿北陸地区役員連絡協議会（京都）
11. 29　埼玉県歯科医師会視察
12. 1　社会保険、税務講習会
12. 7　保健関係指導者歯科講習会　出席者210名
12. 7　日本歯科医学会評議員会（日歯）
12. 8　歯科医師会忘年会
12. 27　近畿北陸地区会長・専務理事連絡協議会（大阪）

平成３年（1991）

1. 21　近畿北陸地区会長会議（京都）
1. 29　日歯青色申告会評議員会
1. 30　県議会と懇談会
1. 30　三師会展（県民会館、～２月３日）
2. 1　近畿北陸地区地区歯科医師会事務長会（京都）
2. 13　医療管理講習会　受講者40名
2. 24　有料研修会　受講者77名
2. 27　都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
3. 2　労働衛生担当者及び事業所健診協力歯科医講習会
3. 3　総合学院卒業式
　　歯科技工士科　第24期生　24名
　　歯科衛生士科　第17期生　49名
3. 7　第116回日歯代議員会（日歯）（藤井会長）
3. 8　第82回日歯総会（日歯）（藤井会長）
3. 9　口腔保健センター研修会
3. 12　定時代議員会
3. 24　本会定時総会において本会功労者表彰
3. 24　顕彰祝賀会（電気ビル）
3. 27　歯科医長会議

日本歯科医師会の動き

平成２年（1990）

4. 1　生涯研修事業全面実施
4. 1　日歯福祉共済制度改正
　　45歳未満　死亡1000万円
4. ―　歯科診療報酬の改定、1.4%のアップ
6. ―　第１回日本国際歯科大会（千葉市）
9. 20　第115回日歯代議員会で山崎会長が今期限りで日歯会長退任を表明
9. ―　日本歯科医師会が口腔インプラント臨床指針を作成
9. ―　歯科医師法施行規則の一部改正が公布
10. 13　第43回近畿北陸地区歯科医師親善野球大会（大津市、～14日）

平成３年（1991）

1. ―　日本歯科医師会、第７回「歯科医学を中心とした総合的な研究を推進する集い」を開催
3. 7　日歯第116回通常代議員会第82回通常総会
　　会　長　中原　爽 83票　坂本豊美 40票　選挙
　　副会長　松島悌二、臼田貞夫、天野恵　無投票

世の中の動き

平成２年（1990）

6. 23　海部俊樹首相、首相として初めて沖縄戦没者追悼式に出席
8. 2　イラク軍、クウェート侵攻
10. 3　東西ドイツ統一、ドイツ連邦共和国成立
11. 12　天皇即位の礼
― ―　この年、バブル経済崩壊

平成３年（1991）

1. 17　アメリカを中心とする多国籍軍、イラク空爆開始。湾岸戦争勃発
1. 30　第１回日朝国交正常化交渉開催

平成3年度（1991年4月～1992年3月）

■会員数　456名（4月1日現在）

富山県歯科医師会の動き

平成３年（1991）

4. 1　藤井弘会長再任（６選）
4. 7　歯科総合学院入学式
　歯科技工士科　第26期生26名
　歯科衛生士科　第19期生44名
4. 11　歯科医師国民年金基金（仮称）説明会
5. 15　都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
5. 16　歯学研修セミナー打合会（日歯）
5. 22　富山県歯の保健文化賞審査委員会
5. 23　第117回日歯臨時代議員会（日歯）（藤井会長）
6. 2　歯の健康フェスティバル'91（富山市民プラザ）
6. 4　第９回富山県歯の保健文化賞表彰式（電気ビル）
　個人　細入村　悟道秀子
　団体　高岡市母子保健推進員協議会
　富山県立砺波学園歯科保健グループ
6. 9　第1回有料研修会　受講者50名
6. 9　HBs抗原・抗体検査
6. 13　都道府県専務理事連絡協議会（日歯）
6. 15　近畿北陸地区役員連絡協議会（石川）
6. 16　HBs抗原・抗体検査
6. 29　歯科助手認定講習会（～30日）受講者137名
7. 4　歯科衛生士科戴帽式
7. 5　都道府県歯科医師会事務長会議（日歯）
7. 6　総合学院懇談会
7. 9　税務スクール第一講座　受講者76名
7. 11　医療経済実態調査説明会
7. 17　社会保険講習会
7. 27　歯学研修セミナー（～28日）出席者110名
8. 8　北陸三県歯科医師会会長・専務理事連絡協議会（石川）
9. 3　社会保険指導者講習会（東京）
9. 4　近畿北陸地区歯科医師会会長・専務理事会（大阪）
9. 10　税務スクール第二講座　受講者56名
9. 11　近畿北陸地区歯科医師会会長・日歯代議員合同会議（大阪）
9. 12　都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
9. 18　口腔保健センター研修会
9. 18　小規模県歯科医師会役員懇談会（東京）
参加県
　青森県、岩手県、秋田県、山形県、山梨県
　富山県、石川県、福井県、滋賀県、鳥取県
　島根県、徳島県、香川県、高知県、佐賀県
　宮崎県、沖縄県
9. 19　第118回日歯代議員会（日歯）
9. 20　第83回日歯通常総会（日歯）
9. 22　会員懇談会（明治大正会）（名鉄）参加者40名
9. 28　医療請求事務者講習会
10. 13　北陸三県歯科医学学術講演会（総合センター）出席者92名
10. 20　近畿北陸地区野球大会（京都）
10. 30　歯科総合学院推薦入学検討委員会
11. 3　部会対抗ゴルフ大会（呉羽）
11. 10　第43回近畿北陸地区歯科医学大会（和歌山）
11. 12　税務スクール第三講座　受講者53名
11. 16　第12回全国歯科保健大会（佐賀）
11. 17　医療管理講習会　受講者97名
12. 4　保健関係指導者歯科講習会　参加者250名
12. 10　四地区合同税務説明会　受講者92名

平成４年（1992）

1. 15　近畿北陸六県会長会議（福井）
1. 25　在宅寝たきり老人歯科歯科保健講習会
1. 28　日歯青申連評議員会
1. 30　医療管理講習会　受講者106名
2. 17　近畿北陸地区会長・専務理事連絡協議会（京都）
2. 22　口腔保健センター研修会
2. 23　第２回有料研修会　受講者68名
2. 26　総合学院推薦入学検討委員会
2. 29　労働衛生担当者及健診協力歯科医講習会
3. 8　総合学院卒業式
　歯科技工士科　第25期生　37名
　歯科衛生士科　第18期生　50名
3. 12　第119回日歯代議員会（日歯）
3. 13　第84回日歯総会（日歯）
3. 17　定時代議員会
3. 23　社会保険講習会
3. 29　本会定時総会において本会功労者、永年勤続従業員表彰
3. 29　顕彰祝賀会（名鉄トヤマホテテル）

日本歯科医師会の動き

平成３年（1991）

4. 22　歯科医師国民年金基金創立総会
4. ー　歯科医師国民年金基金スタート
6. 20　学校歯科医制度60周年及び（社）日本学校歯科医会設立20周年記念式典（東京）
10. ー　山崎数男氏がFDI会長に就任

平成４年（1992）

1. ー　NHKが特別番組「かめない、話せない、笑えない、入れ歯のハナシ」内外に大きな反響
1. ー　歯科医師国家試験問題漏洩事件
2. 22　ワークショップ8020（愛知）
3. 11　第３回小規模県歯科医師会役員懇話会（東京）

世の中の動き

平成３年（1991）

4. 1　牛肉・オレンジの輸入自由化開始
4. 26　自衛隊の掃海艇をペルシャ湾へ派遣。自衛隊初の海外派遣
5. 8　消費税法改正・大店法改正成立
5. 8　育児休業法・暴力団不当行為防止法成立
6. 3　長崎県の雲仙・普賢岳で大火砕流発生、死者・行方不明者43人
6. 30　すべての小学校教科書に「日の丸が国旗」「君が代が国歌」と記述される
7. 25　富士銀行赤坂支店幹部行員による巨額不正融資事件発覚
11. 5　宮沢喜一内閣成立
12. 25　ソ連、ゴルバチョフ大統領辞任。ソ連消滅

平成４年（1992）

1. 31　大店法施行
3. 1　暴力団対策法施行

平成4年度（1992年4月～1993年3月）

■会員数　458名　（4月1日現在）

富山県歯科医師会の動き

平成４年（1992）

4. 1　社会保険診療報酬点数改正
4. 5　総合学院入学式
　　歯科技工士科　第27期生
　　歯科衛生士科　第20期生
4. 14　歯学研修セミナー合同打合会（日歯）
4. 18　新規採用歯科助手講習会
4. 25　医療請求事務者講習会
5. 12　一人医療法人有料セミナー　受講者48名
5. 27　社会保険医療担当者の集団指導者講習会
5. 30　北陸三県役員連絡協議会（石川）
5. 31　歯の健康フェスティバル'92（富山市民プラザ）来場者350名
6. 6　総合学院進学指導講習会
6. 14　第１回有料研修会　受講者56名
6. 14　HBs抗原・抗体検査
6. 20　近畿北陸地区役員連絡協議会（和歌山）
7. 2　歯科衛生士科戴帽式
7. 15　第２回税務スクール第一講座　受講者37名
7. 18　総合学院見学会
7. 24　医療管理講習会
7. 31　都道府県事務長事務連絡会
8. 27　都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
9. 4　社会保険指導者研修会（日本消防会館）
9. 9　小規模歯科医師会役員懇談会（日歯）
9. 10　第120回日歯代議員会（日歯）・第85回日歯総会（11日）
9. 12　歯学研修セミナー（～13日）受講者101名
9. 16　第２回税務スクール第二講座　受講者40名
9. 27　第44回近畿北陸地区歯科医学大会（大阪府）
10. 20　富山県歯の保健文化賞審査委員会
10. 24　社会保険講習会
10. 27　国民歯科医療問題議員懇談会
11. 6　第13回全国歯科保健大会（千葉）
11. 10　第10回富山県歯の保健文化賞表彰式（総合センター）
　　個人　婦中町　佐藤君子・瀬川宣子
　　団体　婦中町母子保健推進員協議会
　　砺波市母子保健推進員連絡協議会
　　子供の歯を守るマーガレットの会
11. 10　保健関係指導者歯科講習会　受講者164名
11. 15　学術講演会　受講者86名
11. 18　第２回税務スクール第３講座
11. 29　医療管理講習会
12. 16　四地区合同税務説明会　受講者108名

平成５年（1993）

1. 14　近畿北陸地区会長・専務理事連絡協議会（大阪）
1. 19　日歯青申連評議員会（日歯）
2. 18　小規模歯科医師会役員懇話会（日歯）
2. 21　第２回有料研修会　受講者65名
2. 25　都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
2. 27　労働衛生担当者及び健診協力歯科医講習会　受講者63名
3. 5　健保連との打合会
3. 7　総合学院卒業式
　　歯科技工士科　第26期生23名
　　歯科衛生士科　第19期生40名
3. 8　近畿北陸地区会長・専務理事・日歯代議員合同協議会（大阪）
3. 11　定時代議員会
3. 18　第121回日歯代議員会（日歯）
3. 19　第86回日歯総会（日歯）
3. 25　技工士との懇談会
3. 27　定時総会
3. 27　顕彰祝賀会（電気ビル）

日本歯科医師会の動き

平成４年（1992）

4. 一　歯科診療報酬改定2.7%アップ
　　前装冠、ダミー３歯以上のブリッジ導入
7. 30　歯周疾患モデル事業（全国14地区）
8. 17　前日歯会長、山崎数男がFDI出張中、南アフリカにて急逝
　　日歯会長を６期14年務める（享年72歳）
9. 一　入学定員削減の徹底を私立歯大協会長に依頼
9. 10　第120回代議員会で「歯大・歯学部入学者20%削減の完全実施に関する要望書」を作成

平成５年（1993）

2. 一　全国歯科大学・歯学部長懇談会開催
（1）医療法改正（2）歯科医師の需要供給（3）卒業後歯科医師臨床研修について協議

世の中の動き

平成４年（1992）

5. 1　国家公務員の週休二日制実施
5. 9　国連で地球温暖化防止条約採択
6. 1　外国人登録法改正公布
6. 15　衆議院本会議で国際平和維持活動（PKO）協力法・国際緊急援助派遣法改正可決成立
6. 26　金融制度改革法公布、銀行・証券・信用３業界の相互参入を承認（1993.4.1）
7. 6　敦賀市の原子炉もんじゅへプルトニウム燃料が初めて輸送される
8. 27　金丸自民党副総裁、佐川急便からの５億円の献金を公表し辞意表明
9. 17　自衛隊、国連平和維持活動（PKO）の一環としてカンボジアへ派遣

平成５年（1993）

3. 6　金丸信元自民党副総裁、脱税容疑で逮捕。13日起訴
3. 16　最高裁、第１次教科書訴訟で検定制度を合憲判決

平成5年度（1993年4月～1994年3月）

■会員数　463名（4月1日現在）

富山県歯科保健医療総合センター起工式

平成５（1993）年３月27日開催の定時総会において建設基本計画が承認された富山県歯科医療総合センターの起工式は、同年４月27日午前10時30分から、歯科総合センター隣接地（建設予定地）において、中沖豊・富山県知事をはじめ来賓ならびに会員等関係者約60名が出席し執り行われた。起工式では苅初めの儀で藤井県歯科医師会長が鎌を入れ、穿初めの儀では福見建築設計事務所所長が鍬を、前田建設工業株式会社北陸支店長が鋤を入れ、来賓並びに工事関係者等が玉串捧げ、工事の安全と早期完成を祈願した。

起工式終了後、直会が行われ、藤井会長が「新しいセンターは、予防から治療までの総合歯科保健医療推進拠点として、県民に対して口腔衛生思想を普及啓発するとともに、歯科疾患の予防処置の徹底を図り、歯科健診、歯科診療を通じて地域歯科医療に貢献し、より一層県民の健康づくりに努めたい」と挨拶した。

中沖富山県知事から祝辞が述べられ、渡辺自民党県議会議員会総務会長の乾杯の音頭により、新センターの起工を祝い直会が盛大に執り行われた。

富山県歯科保健医療総合センター完成予想図

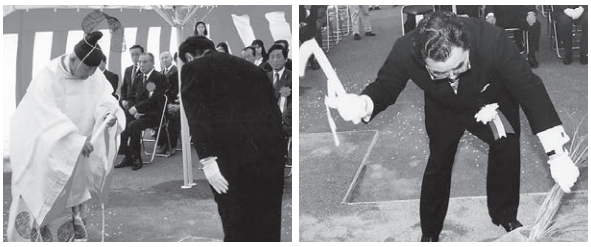
県歯科保健医療対策会議の発足について

平成６（1994）年２月８日午後、新装となった富山歯科保健医療総合センター会議室で、第１回富山県歯科保健医療対策会議が県主催のもとで開かれた。この対策会議は、明るい長寿社会を実現するため、歯の健康づくりを総合的に推進しようと県が策定、富山歯科保健計画をまとめる機関として設置されたものである。

この計画の目標は、2000年（中間目標）で、５～６歳児の50％がう蝕罹患経験を持たない等を柱とするものであった。対策会議のメンバーは、各界有識者23名で構成。初代会長に藤井弘県歯科医師会長が選ばれ協議が行われた。

会議はまず県から歯科保健事業の現状と問題点の説明があり、①健診結果の記入基準や集計方法が統一されていない、②集計結果が分析まで至っていないので歯科保健（予防）対策に活かされていない、③幼稚園の歯科保健の実態は把握されていない、などの問題提起があった。

続いて質疑、提案に入り、①幼少期から歯磨きの習慣つけが大切。家庭の留守をあずかるお



富山県歯科保健医療総合センター起工式

起工式後に行われた直会

ばあちゃんを対象とした指導に力を入れてほしい、②歯科医に保健婦、歯科衛生士同行の在宅訪問は非常に好評であるので更に推進してほしい、③事業所歯科健診（成人健診）からもれる遠隔地事業所の勤労者をも含めて対象としたい、④食生活の中に、カルシウム摂取に関心を持つよう啓蒙していきたい、⑤現在実施している障害児（者）定期健診にあらたに歯科部門を加えたいので、ぜひ協力していただきたい、⑥某高校で女子生徒400人中40人の生徒に不正咬合がみられ、中には手術を必要とするものもいた。今後も増加が懸念されるので、生徒自身自分の口の中の異常に早く気付くよう指導が必要である、等の発言があった。

引き続き会議を重ね、富山県歯科保健計画をまとめることが決められた。

富山県歯科医師会の動き

平成５年（1993）

4. 11　歯科総合学院入学式
　　歯科技工士科　第28期生25名
　　歯科衛生士科　第21期生51名
4. 27　富山歯科総合センター改築工事起工式
5. 12　第３回税務スクール第１講座
5. 15　全国歯科技工士教育協議会理事長、校長会議（東京）
5. 22　医療請求事務者講習会
5. 29　北陸三県役員連絡協議会
6. 13　学術講演会
6. 13　HBs抗原・抗体検査
6. 14　近畿北陸地区会長・専務会（大阪）
6. 18　第３回税務スクール第２講座
6. 20　HBs抗原・抗体検査
6. 26　歯科助手資格認定講習会（～27日）
7.　1　歯科衛生士科戴帽式
7.　1　小規模歯科医師会役員懇話会（日歯）
7. 10　近畿北陸地区役員連絡協議会（大阪）
7. 10　歯科助手資格認定講習会（～11日）
7. 15　北陸三県会長・専務理事連絡協議会（石川）
8.　4　歯科保健関係事務打合会
8. 25　都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
9.　3　社会保険指導者研究会（東京）
9.　5　医療管理講習会
9.　8　第３回税務スクール第３講座
9. 16　第122回日歯代議員会（日歯）
9. 17　第87回日歯総会（日歯）
9. 25　第１回有料研修会
9. 28　都道府県専務理事連絡協議会（日歯）
10.　5　支払基金との打合会
10. 19　歯の保健文化賞審査委員会
10. 19　歯科保健計画ワーキング委員会
11.　4　近畿北陸地区会長会議（大阪）
11. 11　第11回富山県歯の保健文化賞表彰式（県民会館）
　　個人　富山市　荒川　豊
　　団体　新湊市作道校下母子愛育班
　　八尾町母子保健推進連絡協議会
11. 11　歯科保健フォーラム（県民会館）
11. 11　歯科保健関係者講習会
11. 14　第45回近畿北陸地区歯科医学大会（福井）
11. 18　第14回全国歯科保健大会（神奈川県民ホール）
11. 28　富山県歯科医師会創立80周年記念式典（第一ホテル）
12.　4　近畿北陸地区６県会長会議（京都）
12. 10　四地区合同税務説明会
12. 12　第２回有料研修会

平成６年（1994）

1.　6　歯科保健医療総合センター建物の引渡を受ける（前田建設工業㈱より）
1.　9　歯科保健医療総合センター診療開始
2.　8　富山県歯科保健医療対策会議
2. 14　近畿北陸地区会長会議（大阪）
2. 19　口腔保健センター研修会
2. 23　小規模県歯科医師会役員懇話会（日歯）
2. 24　日本歯科医師会会長会議（日歯）
3.　1　定時代議員会
3.　3　学校歯科医会との懇談会
3.　6　総合学院卒業式
　　歯科技工士科　第27期生29名
　　歯科衛生士科　第20期生49名
3. 17　第123回日歯代議員会（日歯）
3. 18　日歯代議員会、第88回日歯総会（日歯）
3. 19　顕彰祝賀会
3. 23　社会保険講習会
3. 27　富山県歯科保健医療総合センター竣工式
3. 30　富山県歯科保健医療対策会議

日本歯科医師会の動き

平成５年（1993）

4. ー　“歯っぴいスマイルキャンペーン”展開
9. 16　日歯創立90周年記念式典・祝宴
10. ー　第１回「歯っぴいスマイル・イメージガール」開催
11.　8　日歯「いい歯の日」制定
　　「歯っぴいスマイルキャンペーン」開始
11. 27　厚生省､歯科医師に対するHIV等感染予防講習会（大阪府）
11. ー　「日本歯科医師会史」を刊行

平成６年（1994）

1.　7　金属床義歯への特定療養費の給付案提示
1. ー　歯科技工法一部改正。歯科技工士法に改称
3. 15　日歯広報1,000号発行記念
3. ー　第２次中原執行部誕生

世の中の動き

平成５年（1993）

4. ー　医療法一部改正
5. 15　プロサッカー・Ｊリーグ開始
6.　9　皇太子徳仁親王、小和田雅子さんご成婚
7. 12　北海道南西沖地震M7.8、津波のため奥尻島で死者176人
8.　9　細川護熙非自民６党連立内閣発足。自民党38年ぶり下野
8. 26　レインボーブリッジ開通
8. ー　土井たか子、女性初の衆院議長に
12.　9　法隆寺、姫路城、屋久島、白神山地が世界遺産に登録

平成６年（1994）

1. ー　平安建都1200年
2.　4　純国産大型ロケットH–II打ち上げ成功
2. 12　リレハンメルオリンピック開幕

平成6年度（1994年4月～1995年3月）

■会員数　465名（4月1日現在）

富山県歯科医師会の動き

平成６年（1994）

4. 1　藤井弘会長再任（７選）
4. 1　第１回臨時代議員会
4. 10　総合学院入学式
　歯科技工士科　第29期生31名
　歯科衛生士科　第22期生47名
4. 23　医療請求事務者講習会
5. 27　第125回日歯臨時代議員会（日歯）
6. 5　歯っぴーフェスタ8020（アピタ富山店）
6. 9　支部長会議
6. 19　HBs抗原・抗体検査
6. 25　新規採用歯科助手講習会
6. 26　第１回有料研修会
6. 26　HBs抗原・抗体検査
7. 9　高齢者歯科保健部講習会
7. 16　総合学院見学会
7. 22　第１回税務スクール
7. 23　近北地区歯科医師会役員連絡協議会（福井）
7. 28　第２回臨時代議員会
7. 30　生涯研修セミナー（～31日）
8. 4　第126回日歯臨時代議員会（日歯）
8. 9　健康づくりガイド打合せ会
8. 23　歯科保健指導者テキスト作成委員会
8. 31　都道府県歯科医師連盟会長会議（日歯）
9. 1　とやま医療ガイド作成打合せ会
9. 9　歯科保健打合せ会
9. 9　社会保険指導者研修会（東京）
9. 12　小規模県歯科医師会役員懇話会（日歯）
9. 13　第127回日歯代議員会（日歯、～14日）
9. 14　第１回税務スクール第２講座
9. 15　レクリエーション「太閤山ランド」
9. 22　第３回臨時代議員会
9. 24　第２回学院見学会
9. 27　とやま医療ガイド作成打合せ会
10. 6　日歯連盟理事長会議（日歯）
10. 16　第46回近北地区歯科医学大会（兵庫）
10. 16　近北地区役員連絡協議会（兵庫）
10. 19　支払基金との懇談会
10. 21　歯の保健文化賞審査委員会
10. 28　日本船舶振興会監査
10. 29　第15回全国歯科保健大会（広島）
11. 8　第12回富山県歯の保健文化賞表彰式
11. 8　保健関係者指導者歯科講習会
11. 8　とやま医療ガイド作成委員会
11. 8　テキスト作成委員会
11. 11　母と子の良い歯のコンクール表彰式
11. 12　総合学院推薦入学試験
11. 13　北陸三県歯科医学学術講演会
11. 27　医療管理・税務講習会
12. 3　功労会員表彰式、顕彰祝賀会兼忘年会
12. 9　４地区合同税務説明会
12. 19　歯科保健対策会議

平成７年（1995）

2. 10　都道府県歯科医師連盟会長会議
2. 15　中原爽富山県後援会、鹿熊安正富山県歯科医師後援会総決起大会
2. 16　歯科保健ワーキング打合会
2. 17　近北六県歯科医師会会長・専務理事会（富山）
2. 19　第２回有料研修会
2. 21　小規模県歯科医師会役員懇話会（日歯）
2. 22　富山県警察法歯学協力医連絡会
2. 22　都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
2. 24　富山県歯科保健医療対策会議
2. 25　労働衛生担当者及び事業所健診協力医講習会
3. 4　障害者歯科医療研修会
3. 5　総合学院卒業式
3. 8　学校健康診断の改正研修会
3. 9　定時代議員会
3. 15　医療管理講習会
3. 16　第128回日歯代議員会（日歯、～17日）
3. 18　岐阜県歯科医師会保険部会視察
3. 30　定時総会
3. 30　第67回日歯評議員会（日歯）

日本歯科医師会の動き

平成６年（1994）

4. 2　「8020探検隊」放送スタート
4. ー　日歯広報1,000号達成
4. ー　日本歯科医師政治連盟を日本歯科医師連盟に改称
4. ー　歯科診療報酬改定 2.1%アップ
　金属床総義歯の特定療養費への導入、在宅訪問診療の改定
7. 8　世界口腔保健学術大会（東京都）
11. ー　第１回ベスト・スマイル・オブザイヤー賞に田中真紀子科学技術庁長官とイチロー選手
12. 8　学校保健法施行規則改正

平成７年（1995）

1. 27　8020運動推進シンポジウム
2. 13　近北地区会長・専務理事会（大阪府）
　阪神・淡路大震災について
2. 18　６歳臼歯保護育成運動推進シンポジウム
3. 16　第128回代議員会で「地震被災会員に係る福祉共済金給付に関する特別措置」など決定

世の中の動き

平成６年（1994）

4. 28　羽田孜連立内閣成立
6. 21　NY外国為替市場で円相場が戦後初の１ドル99円台
6. 28　松本サリン事件発生
6. 30　村山富市自民・社会・さきがけ連立内閣発足
9. 4　関西国際空港開港、日本初の24時間稼働
11. 9　年金法改正公布、支給開始年齢の段階的な引上げ等

平成７年（1995）

1. 1　関税貿易一般協定（GATT)に替わり、世界貿易機関（WTO）発足
1. 17　阪神淡路大震災発生（死者6,432人、家屋全壊11万7,489棟）
3. 20　地下鉄サリン事件発生（死者12人、重軽傷者5,500人超）

平成7年度（1995年4月～1996年3月）

■会員数　465名（4月1日現在）

むし歯予防パーフェクト作戦事業の実施について

平成７（1995）年11月28日に歯の健康プラン事業概要の具体的な打ち合わせ会が東野富山県健康課長出席のもと、歯科保健医療総合センターで開催された。

開会挨拶の後、東野健康課長からパーフェクト作戦事業の概要説明、続いて現在までの取り組み状況、平成８年３月に向けての県の対応および事業の具体的実施について説明があった。

事業の概要として、以下が報告された。

1　事業の趣旨

歯と歯ぐきの健康を保持することは身体の健康づくりの基本であるとして事業を展開する。

2　事業の実施主体

市町村事業として平成12年（西暦2000年）度を目標に県下全市町村で実施する（2000年以降も事業定着まで長く継続する由）

3　事業の内容

必須事業

1. 歯科保健推進協議会の運営

住民の生涯にわたる歯と歯ぐきの健康づくりを推進するため協議会を設置し､当該市町村の“歯科保健実施計画”を策定するとともに計画の進行管理を行う。

2. 歯科管理指導事業(乳児～中学３年生)

歯科健診管理票の統一と歯科健診結果等の統計管理を行う。

3. 乳歯むし歯予防事業（１才６か月～３才６か月）

歯科衛生士による歯垢染め出し剤を使用した個別歯磨き指導と個別管理指導、希望者にはフッ化物歯面塗布を行う。

選択事業

1. 保育所・幼稚園児永久歯むし歯予防事業（４才児および５才児）
2. 小中学校永久歯むし歯予防教室（小学１年生～中学３年生）
3. 妊婦歯科健診事業（妊娠初期の妊婦）

現在までの取り組み状況は、次のとおりである。

1　啓蒙普及状況として平成７年３月８日の学校歯科健診の改正説明会を皮切りに県議会、県幹部、各保健所、市町村、学校保育所および歯科衛生士会、看護婦、栄養士など対象に延べ36回、3,700人の方々に説明するとともに、歯の健康プラン2,000部とその普及版3,000部を印刷し、普及版は全歯科医師会員に配布した。

2　平成７年度事業実施町村は９月から井波町、10月から大沢野町、上市町、立山町、平村、井口村で実施された。また県の補助金は、必須事業では１．協議会費、２．歯科管理事業、３．乳歯むし歯予防事業に、選択事業では１．保育所･幼稚園永久歯むし歯予防事業、２．小中学生永久歯むし歯予防事業、３．妊産婦歯科健診事業に対して、それぞれ金額が示された。

平成８年３月に向けての県の対応として、

1　平成７年度実施町村への支援

町村担当者と県健康課、保健所およ

び県歯科医師会、地域歯科医師、学校歯科医などによる事業打ち合わせ会並びに保健所、小中学校への啓発など実施町村への支援を行う。

2　平成８年度実施市町村への働きかけ

市町村保健担当課長会議及び実施担当者（保健婦、衛生士、保母、教諭など）の指導並びに８年度の実施に向けて検討中の市町村への重点的個別の働きかけを各支部長、班長の先生方の側面的協力援助のもと行われている。

以上のことが、報告された。

富山県歯科医師会の動き

平成７年（1995）

4. 9	総合学院入学式
4. 13	支部長会議
4. 19	生涯研修セミナー合同打合せ会（日歯）
5. 13	医療請求事務者講習会
5. 21	第１回学術研修会
6. 4	歯っぴーフェスタ8020（ダイエープラザ）
6. 11	HBs抗原・抗体検査
6. 18	HBs抗原・抗体検査
6. 24	歯科助手資格認定講習会（～25日）
6. 24	北陸三県歯科医師会役員連絡協議会（石川）
7. 6	歯科衛生士科戴帽式
7. 8	近北地区歯科医師会役員連絡協議会（奈良）
7. 9	歯科助手資格認定講習会
7. 12	税務スクール第１講座
7. 13	第１回臨時代議員会
7. 15	富山歯科総合学院見学会
7. 19	障害者歯科医療研究会
7. 22	生涯研修セミナー（～23日）
8. 9	北陸三県歯科技工士学校専任教員研修会（富山）
8. 29	小規模県歯科医師会役員懇話会（日歯）
8. 30	都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
9. 6	社会保険指導者研修会（東京）
9. 10	第47回近北地区歯科医学大会（奈良）
9. 10	近北地区歯科医師会役員連絡協議会（奈良）
9. 13	税務スクール第２講座
9. 13	第129回日歯代議員会（日歯、～14日）
9. 15	レクリエーション「太閤山ランド」
9. 20	日歯連盟評議員会（日歯）
9. 21	歯科医師連盟総会
9. 30	総合学院見学会
10. 13	歯科保健フォーラム
10. 13	第13回富山県歯の保健文化賞表彰式
10. 13	第１回富山県いい歯カムカムすこやか大賞表彰式
10. 14	長勢甚遠歯科後援会、住博司歯科後援会、綿貫民輔歯科後援会設立発会式
10. 18	事業所健診協力歯科医講習会
10. 22	学術講演会
10. 26	第２回臨時代議員会
11. 11	高齢者歯科講習会
11. 24	第16回全国歯科保健大会（東京）
11. 25	第18回日本歯科医学会総会（東京、～27日）
11. 28	役員・支部長・班長合同会議
12. 2	功労会員表彰式・顕彰式・祝賀会兼忘年会
12. 3	医療管理・税務講習会
12. 8	４地区合同税務説明会
12. 9	近畿北陸信越地区歯科衛生士教育協議会（名鉄トヤマホテル）
12. 13	法歯学講習会

平成８年（1996）

1. 10	日歯在宅当番事業打合せ会
1. 24	日歯青申連評議員会（日歯）
2. 16	デンタルトップセミナー
2. 22	都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
2. 23	小規模県歯科医師会役員懇話会（日歯）
2. 25	第２回学術研修会
3. 3	総合学院卒業式
3. 6	医療管理講習会
3. 9	障害者歯科医療研修会
3. 10	北陸三県歯科医師会歯科医学学術講演会（石川）
3. 13	小児・学校歯科保健講習会
3. 14	第130回日歯代議員会（日歯、～15日）
3. 19	定時代議員会
3. 22	日歯連盟評議員会（日歯）
3. 23	社会保険伝達講習会
3. 26	富山県歯科保健医療対策会議
3. 30	定時総会

日本歯科医師会の動き

平成７年（1995）

4. 一	日歯広報の紙面刷新 紙面を刷新、文字を大きくカラー写真採用、新コラムを掲載
4. 一	老人保健法に、基づく総合健康診査における歯周疾患検診事業の実態
10. 一	FDI次期会長に鶴巻克雄氏が当選（平成９年９月に就任）
12. 22	新指導大綱・新監査要綱通知、平成８年度から実施

世の中の動き

平成７年（1995）

4. 9	第13回統一地方選で東京・青島幸男、大阪・横山ノックの両「無党派知事」誕生
4. 19	東京外国為替市場で一時１ドル＝79円75銭（初の70円台突入）
5. 16	オウム真理教代表麻原彰晃（松本智津夫）らを殺人罪容疑等で逮捕
5. 19	地方分権推進法公布（7.3施行）
7. 1	製造物責任法（PL法）が施行される
8. 29	高速増殖炉「もんじゅ」の発送電が開始される
9. 8	日銀、公定歩合を史上最低の年0.5％とする（先進国で初めて１％未満）
9. 28	大田沖縄県知事、米軍用地更新の代理署名を拒否
11. 1	食糧管理法が廃止され、新食糧法施行（米の生産・流通・販売が自由化される）

平成８年（1996）

1. 11	第１次橋本龍太郎内閣成立（自・社・さ３党連立）

平成8年度（1996年4月～1997年3月）

■会員数　467名（4月1日現在）

富山県歯科医師会の動き

平成８年（1996）

4. 7　総合学院入学式
4. 10　生涯研修セミナー合同打合せ会（日歯）
4. 12　富山県警察法歯学協力医登録証交付式（富山県警察本部）
4. 20　医療請求事務者講習会
5. 19　第１回学術研修会
5. 30　協同組合総代会
6. 2　歯っぴーフェスタ8020（ダイエープラザ）
6. 9　HBs抗原・抗体検査
6. 12　一人医師医療法人税務説明会
6. 15　新規採用歯科助手講習会
6. 16　HBs抗原・抗体検査
6. 22　北陸三県歯科医学学術講演会（福井）
6. 29　北陸三県歯科医師会役員連絡協議会（福井）
7. 3　富山県歯科保健医療対策会議
7. 4　総合学院衛生士科戴帽式
7. 6　第１回学院見学会
7. 11　第１回臨時代議員会
7. 13　近畿北陸地区役員連絡協議会（兵庫）
7. 17　障害者歯科医療研修会
7. 27　平成８年度生涯研修セミナー（～28日）
8. 4　立山室堂平散策バスツアー
8. 28　小規模県歯科医師会役員懇談会（日歯）
8. 29　都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
9. 4　社会保険指導者研修会（東京）
9. 11　平成８年度税務スクール
9. 11　国民歯科医療問題議員懇談会（東京）
9. 12　第131回日歯代議員会（日歯）
9. 13　日歯代議員会・第93回通常総会（日歯）
10. 5　第２回学院見学会
10. 6　第48回近北地区歯科医学大会（京都）
10. 6　近北地区役員連絡協議会（京都）
10. 18　税務スクール第２講座
10. 20　千葉県柏市歯科医師会視察来県
10. 24　歯の保健文化賞審査委員会
10. 27　平成８年度学術講演会
11. 8　第14回富山県歯の保健文化賞表彰式
11. 8　第２回富山県いい歯カムカムすこやか大賞表彰式
11. 8　第２回保健関係指導者歯科講習会
11. 16　総合学院推薦入学試験
11. 30　長野県歯科医師会視察来県
12. 1　小児・学校歯科保健講習会
12. 1　高齢者歯科保健講習会
12. 1　医療管理・税務講習会
12. 6　４地区合同税務説明会
12. 7　功労会員表彰式・顕彰式・祝賀会兼忘年会（名鉄トヤマホテル）
12. 15　第２回学術研修会

平成９年（1997）

1. 18　富山県歯科医師連盟自由民主党総裁表彰に輝く
1. 22　日歯青色申告会評議員会（日歯）
2. 15　総合学院一般入学試験
2. 25　小規模県役員懇話会（日歯）
2. 26　日歯会長会議（日歯）
2. 27　デンタルトップセミナー
3. 1　障害者歯科医療研修会
3. 6　定時代議員会
3. 9　総合学院卒業式
3. 13　歯科健診事業打合せ会（電気ビル）
3. 13　第132回日歯代議員会（日歯）
3. 14　第94回日歯通常総会（日歯）
3. 18　富山県歯科保健医療対策会議専門委員会
3. 25　社会保険伝達講習会
3. 27　定時総会

日本歯科医師会の動き

平成８年（1996）

4. 一　歯科診療報酬改定の実施
　改定率2.2％を確保、補綴物の維持管理などを評価
6. 14　歯科医師法一部改正
　卒後臨床研修制度法制化され、来春より実施
6. 16　医療保険制度改正関連法成立一部負担増
7. 一　労働安全衛生法一部改正（歯周疾患健診努力義務）
9. 1　標榜診療科名「歯科口腔外科」が追加された
9. 一　日本歯科医師会に「防災功労者内閣総理大臣表彰」
9. 一　健保法、老人保健法一部改正（本人２割負担、高齢者医療費負担増）
11. 28　国民歯科医療を守る総決起大会
　新指導大綱　卒後研修１年
12. 一　介護保険法成立（2000年４月から40歳以上の国民から徴収）

世の中の動き

平成８年（1996）

4. 12　日米、沖縄・普天間基地の５～７年以内の全面返還で合意
4. 15　平成7年度の企業倒産、負債総額８兆4,170億円で過去最悪となる
6. 18　住専処理法案可決、住宅金融専門会社の焦げ付き債権処理に6,850億円の財政支出決定
9. 28　民主党結成（代表：菅直人、鳩山由紀夫）
10. 20　小選挙区比例代表並立制による初の衆院選実施

平成9年度（1997年4月～1998年3月）

■会員数　476名（4月1日現在）

富山県歯科医師会の動き

平成９年（1997）

4. 1　藤井弘会長再任（８選）
4. 1　第１回臨時代議員会
4. 6　総合学院入学式
4. 9　近北地区会長・専務理事会（名鉄トヤマホテル）
4. 19　医療請求事務者講習会
5. 1　歯科衛生士科戴帽式
5. 8　支部長会議
5. 8　歯科医師国保組合支部運営協議会
5. 13　「生涯研修セミナー」合同打合せ会（日歯）
5. 20　歯科医師国保組合理事会
5. 29　協同組合総代会
5. 30　第133回日歯代議員会（日歯）
6. 1　歯っぴーフェスタ8020（ダイエープラザ）
6. 20　第72回臨時評議員会（日歯）
6. 21　平成９年度歯科助手資格認定講習会（～22日、29日）
6. 22　HBs抗原・抗体検査
6. 25　富山県警察法歯学協力医連絡会及び法歯学講習会
6. 28　北陸三県歯科医師会役員連絡協議会（電気ビル）
6. 29　HBs抗原・抗体検査
7. 4　都道府県歯科医師連盟会長会議（日歯）
7. 5　第１回総合学院見学会
7. 6　第１回学術研修会
7. 11　都道府県歯科医師連盟理事長連絡会議（日歯）
7. 12　近北地区会長・専務理事会（名鉄トヤマホテル）
7. 12　近北地区役員連絡協議会（名鉄トヤマホテル）
7. 16　障害者歯科医療研修会
7. 24　第２回臨時代議員会
8. 23　日歯生涯研修セミナー（～24日）
8. 26　小規模県歯科医師会役員懇話会（日歯）
8. 27　都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
8. 29　日歯連盟理事会（日歯）
8. 30　歯科医師国保役員等研修会（東京）
9. 3　社会保険指導者研修会（東京）
9. 6　都道府県介護担当者研修会（日歯）
9. 7　レクリエーション「八尾 魚の公園」
9. 10　税務スクール
9. 11　第134回日歯代議員会（日歯、～12日）
9. 21　在宅歯科医療推進歯科医師研修
9. 27　歯科医師に対するHIV等感染予防講習会
10. 4　第２回学院見学会
10. 7　参議院議員大島慶久氏・永田良雄氏を励ます会
10. 15　税務スクール
10. 19　第49回近北地区歯科医学大会（石川）
10. 19　近北地区役員連絡協議会（石川）
10. 23　第15回歯の保健文化賞審査委員会
10. 23　代議員・支部長・班長・役員合同懇談会（第一ホテル）
11. 7　第15回歯の保健文化賞表彰式
11. 7　第３回いい歯カムカムすこやか大賞表彰式
11. 7　平成９年度保健関係指導者歯科講習会
11. 16　医療管理・税務講習会
11. 30　北陸三県歯科医学学術講演会
12. 5　４地区合同税務説明会・４税務署管内別懇談会
12. 6　功労会員表彰式・顕彰式・祝賀会兼忘年会（電気ビル）

平成10年（1998）

1. 20　都道府県歯科医師連盟理事長連絡会議（日歯）
1. 25　第２回学術研修会
1. 28　日歯青色申告会評議員会（日歯）
2. 19　富山県公衆衛生学会
2. 20　日歯連盟理事会（日歯）
2. 21　平成９年度障害者歯科医療研修会
2. 24　小規模県歯科医師会役員懇話会（日歯）
2. 25　都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
3. 1　在宅歯科医療推進歯科医師研修
3. 1　産業歯科保健講習会
3. 6　大島慶久先生を励ます会
3. 8　総合学院卒業式
3. 10　定時代議員会
3. 12　第135回日歯代議員会（日歯）
3. 13　第96回日歯通常総会（日歯）
3. 20　歯科医師国保組合役員会
3. 24　社会保険伝達講習会
3. 26　定時総会
3. 27　日本歯科医師連盟評議員会（日歯）

日本歯科医師会の動き

平成９年（1997）

4. 一　歯科診療報酬改定の実施、改定率2.2％を確保
7. 一　世界口腔保健学術大会記念シンポジウム開催（東京）
　テーマ「咬むことが健康の始まり」
7. 一　医療制度及び医療保険制度改革動向に対し、日歯の見解まとめる（歯科医業の特性に係わる基本的事項の考察）
10. 6　日歯、朝日新聞社に厳重注意
　歯科の不正請求記事に抗議

平成10年（1998）

2. 15　歯科医師需給問題連絡協議会設立総会
　発起人代表　神成庸一 新潟県歯科医師会長
　参加36県　後に40道県
　「歯科医師需給調整に関する緊急アピール」日歯へ提出
　平成22年、一応の役目を終えて解散
2. 26　HIV歯科診療研究会
2. 一　日歯主催の公開シンポジウム開催（東京）

世の中の動き

平成９年（1997）

4. 1　消費税税率が３％から５％に引き上げとなる
6. 18　改正独占禁止法公布
6. 18　改正日銀法公布
7. 1　イギリス、香港を中国に返還
7. 一　タイ・バーツの変動相場制移行に端を発したアジア通貨危機発生
11. 24　山一証券経営破綻、負債総額３兆円超
一 一　この年、金融機関の破綻相次ぐ（11.17北海道拓殖銀行、11.24山一証券等）

平成10年（1998）

2. 2　郵便番号７桁に変更
2. 18　預金法改正および金融機能安定化緊急措置法公布施行

平成10年度（1998年4月～1999年3月）

■会員数　487名（4月1日現在）

富山県歯科医師会の動き

平成10年（1998）

4. 5　総合学院入学式
4. 10　富山県警察法歯学協力医登録証交付式（県警察本部）
4. 25　医療請求事務者講習会
5. 7　歯科衛生士科戴帽式
5. 7　全技協総会理事長校長教務主任会議（長崎）
5. 13　大島慶久富山県後援会・永田良雄富山県歯科医師後援会総決起大会
5. 17　在宅歯科医療推進歯科医師研修
5. 30　総合学院創立20周年記念講演会
5. 30　平成10年度生涯研修セミナー（～31日）
6. 7　歯っぴーフェスタ8020（アルプラザ小杉）
6. 14　HBs抗原・抗体検査
6. 20　北陸三県歯科医師会役員連絡協議会（石川）
6. 21　HBs抗原・抗体検査
6. 27　新規採用歯科助手講習会
7. 4　第１回学院見学会
7. 11　近北地区歯科医師会役員連絡協議会（滋賀）
7. 16　日本口腔衛生学会甲信越北陸地方会打合せ会
7. 18　日本口腔衛生学会甲信越北陸地方会（電気ビル）
7. 23　第１回臨時代議員会
7. 24　母と子のよい歯のコンクール審査会
7. 25　近北地区歯科医師会合同作業部会（石川）
8. 8　歯科医師需給問題連絡協議会第１回幹事会（東京）
8. 25　第１回小規模歯科医師会役員懇話会（日歯）
8. 26　都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
9. 1　社会保険情報ネットワーク連絡協議会（東京）
9. 2　社会保険指導者研修会（東京）
9. 9　税務スクール
9. 10　第136回日歯代議員会（日歯）
9. 11　第97回日歯通常総会（日歯）
9. 13　レクリエーション「太閤山ランド」
9. 19　第２回学院見学会
10. 4　第50回近北地区歯科医学大会（大阪）
10. 4　近北地区役員連絡協議会（大阪）
10. 14　税務スクール
10. 18　平成10年度学術講演会
10. 22　歯の保健文化賞審査委員会
11. 6　第16回富山県歯の保健文化賞表彰式
11. 6　第４回いい歯カムカムすこやか大賞表彰式
11. 6　第１回歯科保健関係者講習会
11. 12　第２回臨時代議員会
11. 14　第19回全国歯科保健大会（兵庫）
11. 21　富山県歯科保健医療総合センター創立20周年記念特別研修会（名鉄トヤマホテル）
11. 29　医療管理・税務講習会
12. 5　代議員・支部長・班長合同会議（電気ビル）
12. 5　功労会員表彰式・顕彰式・祝賀会兼忘年会（電気ビル）
12. 11　４地区合同税務説明会
12. 11　４税務署管内別懇談会

平成11年（1999）

1. 22　日本歯科医師会歯科医師青色申告会全国連合会評議員会（日歯）
1. 23　総合学院第１回一般入学試験
1. 25　富山県厚生部との打合せ会
1. 30　総合学院創立20周年記念祝賀会（電気ビルレストラン）
2. 21　学術研修会
2. 24　都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
3. 4　産業歯科保健講習会　医療懇談会
3. 7　北陸三県歯科医学学術講演会（石川）
3. 9　定時代議員会
3. 11　第137回日歯代議員会、第98回日歯通常総会（日歯、～12日）
3. 14　総合学院卒業式
フォーラム8020 '98東京（東京）
3. 17　第２回保健関係指導者歯科講習会
3. 24　富山県歯科保健医療対策会議
3. 25　定時総会　歯科医師連盟定時総会
3. 26　日本歯科医師連盟評議員会（日歯）
3. 28　第２回在宅歯科医療推進歯科医師研修

日本歯科医師会の動き

平成10年（1998）

4. 一　社会保障関係費のキャップ制（歳出上限制）停止
4. 一　診療報酬改定　1.5%引き上げ
8. 8　歯科医師需給問題役員連絡協議会発足
10. 5　日歯連盟退会訴訟提訴される

平成11年（1999）

2. 一　日歯、毎日新聞、西日本新聞社主催の歯科保健シンポジウムを開催
2. 一　「噛むことと全身機能」をテーマに東京で一般公開シンポジウム
3. 11　日歯代議員会（～12日）
次期会長 臼田貞夫
財団法人8020推進財団（仮称）設立承認

世の中の動き

平成10年（1998）

6. 12　中央省庁等改革基本法公布、現行１府22省庁を１府12省庁に改編
7. 12　第18回参議院選挙で自民惨敗、民主・共産が躍進
7. 30　小渕恵三内閣成立
10. 23　政府、債務超過のため日本長期信用銀行を一時国有化（民間銀行初）

平成11年度（1999年4月～2000年3月）

■会員数　497名（4月1日現在）

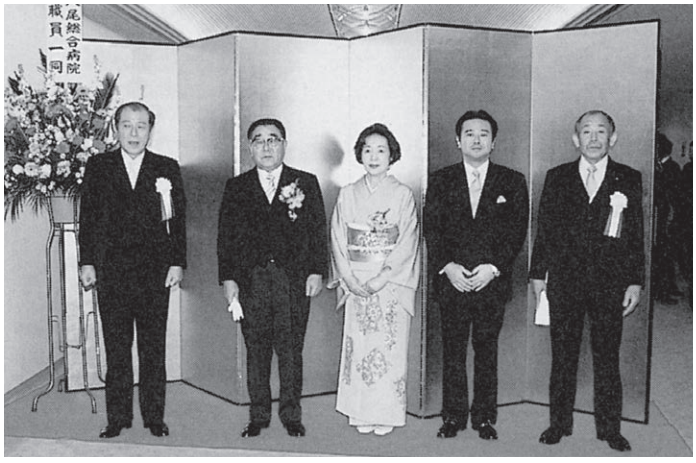
藤井弘会長、勲四等旭日小綬章受章

秋の叙勲で勲四等旭日小綬章を受章した藤井弘会長の記念祝賀会が、好天に恵まれた平成11（1999）年12月12日、名鉄トヤマホテルにて開かれた。

来賓、歯科医師会会員等約400名が臨席された受章記念祝賀会は、厳粛なうちに開式のことば、経歴紹介に続いて、発起人代表の中沖知事が「藤井会長の永年のご功績をたたえ、県民の健康と福祉のために一層力を尽くしてほしい」と、挨拶に立った。続いて綿貫民輔衆議院議員、長勢甚遠衆議院議員、日本歯科医師会会長中原爽参議院議員、平村国光県議会議長、沢田寿朗滑川市長が順に祝辞を述べられ、歯科の休日当番医制の導入や歯の健康プランの作成、障害者施設の開設など、藤井会長の功績に敬意をはらわれたことばが贈られた。

記念品贈呈、花束贈呈のあと、藤井会長から「受章は皆さんの指導のおかげ」と謝辞を述べられ、閉式となった。

次いで行われた祝宴は、松井信勝友人代表のことばで始まり、来賓紹介のあと、正橋正一富山市長の音頭で乾杯、宮腰光寛衆議院議員、河合常則自民党県議会議員会長が祝辞を述べられた。越中八尾おわら保存会による「おわら踊り」で会場も華やかに彩られ祝宴も最高潮に達し、時間の経つのも忘れかけたところで、中斉忠男大沢野町長の発声による祝い締めとして万歳三唱が行われ、親戚代表鹿熊安正参議院議員、藤井久丈八尾総合病院院長の両者による閉宴のことばとなった。最後に藤井会長から「ご臨席の皆様方への万歳三唱」があり、盛会で有意義なうちに受章記念祝賀会は幕を閉じた。



発起人代表・中沖豊富山県知事（左）らと藤井会長夫妻

勲四等旭日小綬章受章記念祝賀会

ご臨席の皆様方への万歳三唱（藤井弘会長）

富山県歯科医師会の動き

平成11年（1999）

4. 4 総合学院入学式
4. 24 医療請求事務者講習会
5. 6 総合学院歯科衛生士科戴帽式
5. 6 全国歯科技工士教育協議会総会・理事長校長教務主任会議（東京、～7日）
5. 15 北陸三県歯科医師会役員連絡協議会（福井）
5. 23 第1回在宅歯科医療推進歯科医師研修
5. 25 歯科医師国保組合富山県支部役員会
5. 27 富山県歯科医師協同組合第17回通常総代会
5. 28 社会保険医療に関する打合せ会
5. 30 歯っぴーフェスタ8020（アルプラザ小杉）
6. 13 生涯研修セミナー　HBs抗原・抗体検査
6. 16 富山県警察法歯学協力医研修会
6. 20 HBs抗原・抗体検査
6. 29 富山県警察本部との懇談会
7. 3 歯科助手資格認定講習会（～4日）
7. 8 第1回臨時代議員会
7. 10 近畿北陸地区歯科医師会役員連絡協議会（京都）
7. 10 近畿北陸地区歯科医師連盟役員連絡協議会（京都）
7. 11 歯科助手資格認定講習会
7. 17 日本口腔衛生学会甲信越北陸地方会（山梨）
7. 21 皇太子同妃両殿下・奉送迎
7. 22 第1回臨時総会
8. 6 第1回正しい保険請求に関する勉強会
8. 8 レクリエーション「立山室堂散策バスツアー」
8. 26 小規模県歯科医師会役員懇話会（東京）
8. 27 都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
9. 2 社会保険情報ネットワーク連絡協議会（東京）
9. 3 社会保険指導者研修会（東京）
9. 9 日本歯科医師会第137回代議員会、第98回通常総会（日歯、～10日）
9. 17 建設連合国民健康保険組合の歯科健診説明会
9. 28 日本歯科医師連盟評議員会（日歯）
10. 17 学術講演会
10. 19 歯の保健文化賞審査委員会
11. 4 第2回正しい保険請求に関する勉強会
11. 8 第5回富山県「いい歯カムカムすこやか大賞」第2次審査会
11. 8 「いい歯の日」表彰式（県庁4階ホール）
11. 14 第51回近畿北陸地区歯科医学大会（滋賀）
11. 14 近畿北陸歯科医師会役員連絡協議会（滋賀）
11. 14 第23回むし歯予防全国大会（東京）
11. 21 北陸三県歯科医学学術講演会（福井）
11. 27 医療管理・税務講習会
11. 30 第1回保健関係指導者歯科講習会
12. 10 四地区合同税務説明会・四税務署管内別懇談会
12. 12 藤井弘会長・勲四等旭日小綬章受章記念祝賀会

平成12年（2000）

1. 17 三師会懇談会
1. 22 総合学院第1回一般入学試験
1. 28 日本歯科医師会歯科医師青色申告会全国連合会評議員会（日歯）
1. 30 学術研修会
2. 4 第3回正しい保険請求に関する勉強会
2. 6 フォーラム8020 '99東京
2. 23 都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
2. 26 障害者歯科医療研修会
3. 4 総合学院第2回一般入学試験
3. 4 第2回在宅歯科医療推進歯科医師研修
3. 8 産業歯科保健講習会
3. 9 定時代議員会
3. 12 総合学院卒業式
3. 16 日本歯科医師会第139回代議員会、第100回通常総会（日歯、～17日）
3. 24 日本歯科医師連盟評議員会（日歯）
3. 25 定時総会、歯科医師連盟定時総会（電気ビルレストラン）
3. 25 功労会員表彰式・顕彰式・祝賀会兼懇談会（電気ビルレストラン）
3. 28 歯科保健医療対策会議
3. 28 社会保険伝達講習会

日本歯科医師会の動き

平成11年（1999）

4. 1 日歯年金大改正
4. ー 日歯年金実績配当型年金制度に変更
6. 30 国民歯科医療問題議員懇談会
7. 25 第2回歯科医師需要問題役員連絡協議会幹事会
8. 28 第4回全国警察歯科フォーラム（幕張）
11. 25 日本歯科医師連盟訴訟
11. ー 歯っぴいスマイル・イメージガールに、瑞原希さん（神奈川県）が優勝

平成12年（2000）

3. ー 21世紀の国民健康づくり運動（健康日本21）発表

世の中の動き

平成11年（1999）

8. 9 日の丸・君が代を国旗・国歌とする法律公布
8. 18 組織犯罪対策3法、改正住民基本台帳法公布
9. 30 茨城県東海村ウラン加工施設で臨界事故発生、作業員ら150人被曝
11. 22 沖縄県、普天間基地の移転先を名護市辺古野に決定
12. 1 超党派国会議員団（団長：村山富市）が北朝鮮訪問

平成12年（2000）

2. 7 石原東京都知事、外形標準課税の導入を発表

立山室堂散策バスツアー

平成12年度（2000年4月～2001年3月）

■会員数　505名　（4月1日現在）

訪問歯科診療協力歯科医制度の設立

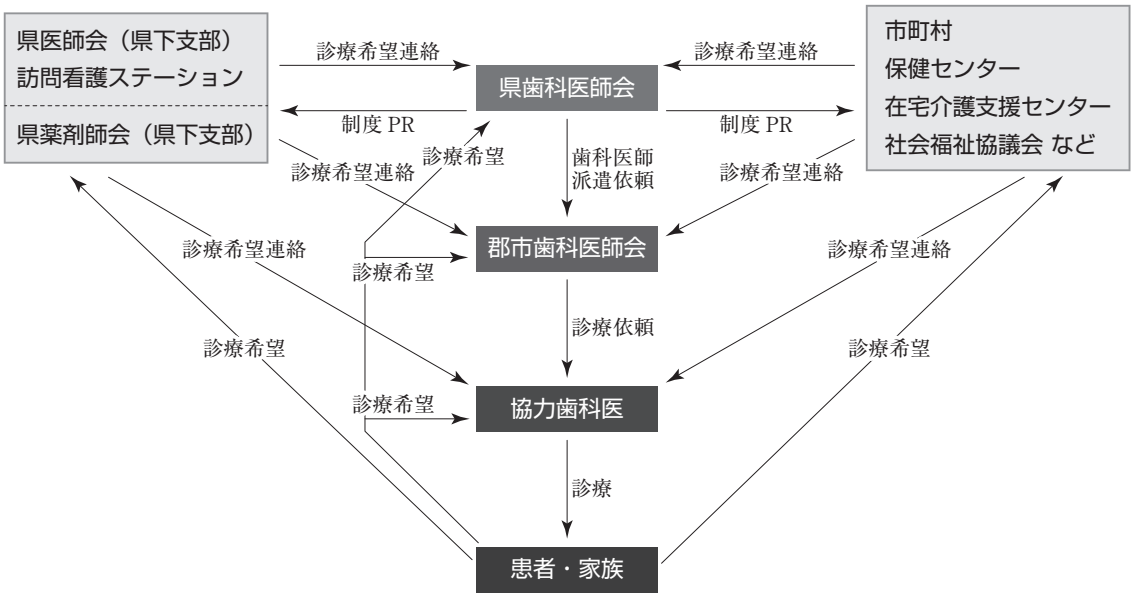
平成12年度第１回支部長・班長合同会議が４月27日（木）、午後７時30分から富山県歯科医師会館において開催された。会議は藤井会長挨拶の後、報告事項として各支部より選出された支部長・班長の選出結果、並びに平成12年度富山県歯科医師会事業概要について各担当理事より説明され、協議事項に入った。

今後の訪問歯科診療への取り組みについて山岸高齢者歯科保健担当理事より、「介護保険の導入を期に今後は訪問歯科診療の依頼が在宅・施設を問わず増えてくると思われる。訪問歯科診療を希望する患者およびその家族が診療を依頼する歯科医がいない場合に、その要望に応えるため県歯科医師会として訪問歯科診療協力歯科医制度を各支部長・班長の先生方の賛同を得て、設立したい」旨の協力依頼があり全員の賛同を得た。

挨拶に立つ藤井会長

会議に出席した支部長・班長

■ 訪問歯科診療フローチャート



富山県歯科医師会の動き

平成12年（2000）

4. 1 藤井弘会長再任（９選）
4. 1 第１回臨時代議員会
4. 3 富山県警察法歯学協力医登録証交付式（富山県警察本部）
4. 9 総合学院入学式
4. 22 医療請求事務者講習会
4. 27 支部長・班長合同会議
5. 13 北陸三県歯科医師会会長・専務理事会（石川）
5. 15 全国歯科技工士教育協議会理事長・校長・教務主任会議及び総会（東京、～16日）
5. 17 「生涯研修セミナー」合同打合せ会（日歯）
5. 24 日本歯科医師会第140回代議員会（日歯）
5. 25 富山県歯科医師協同組合第18回通常総代会
5. 27 日本歯科医学会総会（東京、～29日）
6. 1 総合学院歯科衛生士科戴帽式
6. 4 歯っぴーフェスタ8020（アルプラザ小杉）
6. 9 日本歯科医師連盟評議員会（日歯）
6. 10 北陸三県歯科医師会役員連絡協議会（名鉄トヤマホテル）
6. 18 HBs抗原・抗体検査
6. 21 正しい保険請求に関する勉強会
6. 25 日歯生涯研修セミナー
6. 25 HBs抗原・抗体検査
7. 1 新規採用歯科助手講習会
7. 9 第３回感染症予防歯科衛生士講習会
7. 13 第２回臨時代議員会
7. 23 レクリエーション「トロッコで行く、神岡坑道ツアー」
7. 27 第１回臨時総会　歯科医師連盟第１回臨時総会
7. 30 第１回学術研修会
8. 3 富山県歯科保健医療対策会議
8. 5 健康イベント「しっかり噛んで健康家族」（NHK富山放送局、～６日）
8. 6 歯科医師需給問題連絡協議会幹事会（東京）
8. 19 第５回全国警察歯科フォーラム（神奈川）
8. 23 都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
9. 4 社会保険情報ネットワーク連絡協議会（東京）
9. 5 社会保険指導者研修会（東京）
9. 12 第３回臨時代議員会
9. 13 日本歯科医師会第141回代議員会､第101回通常総会（日歯、～14日）
9. 20 日本歯科医師連盟第81回評議員会（日歯）
9. 28 第２回臨時総会
10. 14 第17回日本障害者歯科学会（千葉、～15日）
10. 22 第52回近畿北陸地区歯科医学大会（兵庫）
10. 22 近畿北陸地区歯科医師会役員連絡協議会（兵庫）
10. 26 第４回臨時代議員会
10. 26 富山県歯の保健文化賞審査委員会
10. 27 第６回富山県「いい歯カムカムすこやか大賞」第２次審査会
11. 4 総合学院推薦入学試験
11. 5 第24回むし歯予防全国大会（東京）
11. 8 「いい歯の日」表彰式（富山県民会館）
11. 12 北陸三県歯科歯学学術講演会
11. 17 税務講習会
11. 22 第１回在宅歯科医療推進歯科医師研修　「若年者歯科健診」説明会
12. 2 功労会員表彰式・顕彰式祝賀会兼忘年会（富山電気ビルレストラン）
12. 13 産業歯科保健講習会
12. 26 富山県歯科保健医療対策会議

平成13年（2001）

1. 12 日本歯科医師連盟第82回臨時評議員会（日歯）
1. 17 第５回正しい保険請求に関する勉強会
1. 17 日本歯科医師会歯科医師青色申告会全国連合会評議員会（日歯）
2. 1 「暴力団員による不当請求に対応する責任者」講習会
2. 15 中沖富山県知事への陳情
2. 17 障害者歯科医療研修会
2. 20 小規模県歯科医師会役員懇話会（日歯）
2. 21 都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
2. 25 第２回学術研修会
3. 2 歯科保健関係者講習会（呉東地区）
3. 4 医療管理・税務講習会
3. 6 歯科保健関係者講習会（呉西地区）
3. 6 代議員・支部長・班長合同会議
3. 7 歯科健診事業情報交換会
3. 11 総合学院卒業式
3. 13 定時代議員会
3. 15 日本歯科医師会第142回代議員会（日歯、～16日）
3. 16 日本歯科医師会第102回通常総会（日歯）
3. 25 第２回在宅歯科医療推進歯科医師研修
3. 29 定時総会　富山県歯科医師連盟定時総会

日本歯科医師会の動き

平成12年（2000）

4. ― 診療報酬改定、歯科2.5％引き上げ
　かかりつけ歯科医初診料…270点
　かかりつけ歯科医再診料…40点
4. ― 歯科用貴金属（金パラなど）の国際的価格変動に対応するため、特定保険医療材料を６カ月毎に見直す臨時改定方式実施される
12. ― 厚生省、8020財団の設立認可

平成13年（2001）

2. ― ㈶8020財団設立
3. ― 歯科衛生士の修養年限延長を決定

世の中の動き

平成12年（2000）

4. ― 小渕首相が病に倒れ森連立内閣発足
4. ― 小渕首相死去
4. ― 介護保険法制度施行
6. ― 分断後初の南北朝鮮首脳会談実現
7. 8 伊豆諸島三宅島雄山17年ぶり噴火
7. 19 ２千円札発行
7. ― 沖縄サミット
8. 1 新五百円硬貨発行
9. 15 シドニーオリンピック開幕
　女子マラソンの高橋尚子が金メダル
10. 26 参議院選挙比例区非拘束名簿式に変更
11. 1 カメラ付き携帯電話新発売
12. 1 BSデジタル放送開始

平成13年（2001）

1. ― 老人保健法など見直し
3. ― 機密費流用など外務省で不祥事相次ぐ

平成13年度（2001年4月～2002年3月）

■会員数　512名（4月1日現在）

栗山豊実・新会長就任および藍綬褒章受章記念祝賀会

藤井会長の後継として、平成13（2001）年４月６日に富山県歯科医師会長に就任され、また春の褒章で藍綬褒章を受けられた「栗山豊実先生の会長就任・受章記念祝賀会」が、好天に恵まれた平成13（2001）年６月23日、名鉄トヤマホテルで開催された。

来賓、歯科医師会会員等約300名が臨席して行われた同会は、厳粛なうちに開式のことば、経歴紹介の後、発起人を代表して宮田副会長が「栗山会長の業績をたたえるとともに、21世紀に相応しい県民歯科医療の推進に努めてほしい」と挨拶に立った。続いて綿貫民輔衆議院議長、中沖豊県知事代理奥田紀元厚生部長、山田圭蔵北陸経済連合会長、向井英二富山県議会議員、臼田日本歯科医師会会長代理梅田昭夫専務理事の順で祝辞が述べられ、在宅寝たきり老人歯科診療事業の創設や歯科健康プランに基づき乳歯むし歯予防に貢献されたこと等、栗山新会長の功績に敬意と更なる発展を期待することばが続いた。

記念品贈呈の後、栗山会長から「この度の受章は皆様のご指導のおかげ。これを契機に地域歯科医療の推進に一層尽力したい」旨の謝辞が述べられた。次いで、来賓の皆様が中央壇上に飾られた３個の酒樽を囲み、掛け声も凛々しく鏡開きが行われた。その後、長勢甚遠衆議院議員の音頭で乾杯が行われ、祝宴に移った。

桐朋オーケストラアカデミーのメンバーが奏でる華やかな演奏に、会場は和み賑わい、祝宴も最高潮に達し時間の経過も忘れかけたところで花束贈呈が行われ、正橋正一富山市長の発声により祝い締めの万歳三唱となった。続いて栗山会長から「ご臨席の皆様への万歳三唱」さらにご子息様から「お礼のことば」があり、最後に閉会のことばによって、栗山会長の会長就任・受章記念祝賀会が盛会裏に幕を閉じた。

謝辞を述べる栗山新会長

営利法人(有限会社)の設立

平成14（2002）年３月12日（火）富山県歯科保健医療総合センターにおいて、平成13年度定時代議員会は、物故会員（新谷寿康先生、谷口博朗先生、吉岡二枝先生、吉田茂先生）に対し黙祷が捧げられ、出席員の点呼の後、開会された。

栗山会長から診療報酬の改定問題や営利法人（有限会社）の設立について説明があり、議事録署名員に宇和山議員、水越議員が指名され会務報告の後、議事に入った。

栗山会長、山﨑専務理事より第１号議案として営利法人（有限会社）の設立に関する件についての説明後、原案どおり議決確定した。

また、５月23日（木）午後７時30分から富山県歯科保健医療総合センターにおいて、第20回通常総代会が開催された。

栗山会長は、挨拶の中、営利法人（有限会社）設立の趣旨や出資について説明され、また協同組合の近況等が報告された。続いて奥川監事よ

り５月２日（木）に実施した会計監査の報告として決算関係書類は、法令及び定款に従い、組合の財産及び損益の状況は正しく表示している旨の報告があり議事に入り、営利法人（有限会社）の設立並びに出資に関する件を含む５つの議案が原案どおり可決され、閉会となった。

平成13年度定時代議員会

富山県歯科医師会の動き

平成13年（2001）

4. 6 栗山豊実会長就任（残任期間）
4. 8 総合学院入学式
4. 21 医療請求事務者講習会
4. 24 第１回臨時代議員会
5. 9 保険医療機関等の指導に関する打合せ会
5. 14 全国歯科技工士教育協議会理事長・校長・教務主任会議及び総会（大阪、～15日）
5. 15 栗山会長藍綬褒章伝達式・天皇陛下拝謁
5. 19 近畿北陸地区歯科医師会会長・専務理事会（和歌山）
5. 20 日歯生涯研修セミナー
5. 24 富山県歯科医師協同組合第19回通常総代会
5. 31 総合学院歯科衛生士科戴帽式
6. 3 歯っぴーフェスタ8020（アルプラザ小杉）
6. 4 富山県監査委員会事前監査
6. 8 歯科医師国保組合富山県支部役員会
6. 10 富山県警察法歯学協力医研修会　HBs抗原・抗体検査
6. 16 北陸三県歯科医師会役員連絡協議会（石川）
6. 17 HBs抗原・抗体検査
6. 23 栗山豊実先生富山県歯科医師会会長就任・藍綬褒章受章祝賀会（名鉄トヤマホテル）
6. 24 第16回甲北信越矯正歯科学会大会（富山市民プラザ）
6. 28 支部長会議
6. 29 富山県監査委員会監査
7. 1 歯科助手資格認定講習会
7. 7 近畿北陸地区歯科医師会役員連絡協議会（和歌山）
7. 8 歯科助手資格認定講習会
7. 12 第２回臨時代議員会
7. 14 第１回総合学院見学会
7. 15 学術研修会
7. 26 第１回臨時総会
7. 27 母と子のよい歯のコンクール審査会
8. 17 富山県歯科保健医療対策会議
8. 23 富山県歯科保健医療対策会議
8. 24 都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
8. 25 第６回全国警察歯科フォーラム（日歯）
8. 26 レクリエーション「バーベキューと五箇山そば打ち体験ツアー」
9. 4 社会保険情報ネットワーク連絡協議会（東京）
9. 5 社会保険指導者研修会（東京）
9. 13 日本歯科医師会第143回代議員会（日歯、～14日）
9. 14 日本歯科医師会第103回通常総会（日歯）
9. 21 日本歯科医師連盟第84回評議員会（日歯）
9. 30 第１回在宅医療推進歯科医師研修
10. 11 第３回臨時代議員会
10. 14 第20回日本小児歯科学会中部地方会（サンフォルテ）
10. 18 富山県歯の保健文化賞審査委員会
10. 26 第７回富山県「いい歯カムカムすこやか大賞」第２次審査会
11. 8 「いい歯の日」表彰式（富山県庁）
11. 11 第53回近畿北陸地区歯科医学大会（富山国際会議場）
11. 11 近畿北陸地区歯科医師会役員連絡協議会（富山全日空ホテル）
11. 15 第１回歯科保健関係者講習会
11. 21 医療管理・税務講習会
11. 22 富山県厚生部との懇談会
11. 28 第６回正しい保険請求に関する勉強会
12. 1 功労会員表彰式・顕彰式祝賀会兼忘年会（富山第一ホテル）
12. 12 税務講習会
12. 21 第７回正しい保険請求に関する勉強会

平成14年（2002）

1. 23 臼田日歯会長・長勢衆議院議員との懇談
1. 29 日本歯科医師会歯科医師青色申告会全国連合会評議員会（日歯）
2. 21 小規模県歯科医師会役員懇話会（日歯）
2. 22 都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
2. 27 第２回歯科保健関係者講習会
3. 1 第２回在宅歯科医療推進歯科医師研修
3. 3 北陸三県歯科医学学術講演会（石川）
3. 10 総合学院卒業式
3. 12 定時代議員会
3. 14 日本歯科医師会第144回代議員会（日歯、～15日）
3. 15 日本歯科医師会第104回通常総会（日歯）
3. 22 社会保険伝達講習会
3. 28 定時総会　富山県歯科医師連盟定時総会
3. 29 日本歯科医師連盟第85回評議員会（日歯）

日本歯科医師会の動き

平成13年（2001）

8. ー 国民向けホームページを開設
9. ー 「唇顎口蓋裂後遺症によるそしゃく機能障害に関する歯科医師の意見書の取扱いについて」の一部改正（身体障害者手帳の交付の申請手続き）
※歯科医師は従来意見書しか作成できないとされてきたが診断書も作成できることとなった
12. ー 医療保険制度改悪阻止で、医師会看護協会とともに、署名運動、決起大会
12. ー 国民医療を守る全国総決起大会

世の中の動き

平成13年（2001）

4. 1 情報公開法が施行
4. 26 小泉純一郎内閣成立
9. 11 アメリカで同時多発テロ発生
9. 22 千葉県で日本初のBSE（牛海綿状脳症）感染が確認される
10. 7 アメリカ軍、アフガニスタン空爆開始
10. 10 野依良治、ノーベル化学賞受賞
10. 29 テロ対策特別措置法案などテロ３法案可決成立

平成14年度（2002年4月～2003年3月）

■会員数　521名（4月1日現在）

富山県歯科医師会の動き

平成14年（2002）

4. 3　富山県警察法歯学協力医登録証交付式及び講演会（富山県警察本部）
4. 7　総合学院入学式
4. 24　医療請求事務者講習会
5. 11　全国歯科技工士教育協議会理事長・校長・教務主任会議及び総会（新潟、～12日）
5. 23　富山県歯科医師協同組合第20回通常総代会
5. 30　総合学院歯科衛生士科戴帽式
5. 30　歯科医師国保組合富山県支部役員会
6. 2　歯っぴーフェスタ8020（アルプラザ小杉）
6. 9　日歯生涯研修セミナー
6. 9　HBs抗原・抗体検査、HCV抗体検査
6. 15　北陸三県歯科医師会役員連絡協議会（福井）
6. 16　HBs抗原・抗体検査、HCV抗体検査
6. 22　新規採用歯科助手講習会
6. 28　産業歯科保健講習会
7. 6　近畿北陸地区歯科医師会・歯科医師連盟合同役員連絡協議会（大阪）
7. 11　第１回臨時代議員会
7. 12　社会保険講習会
7. 14　第１回在宅歯科医療推進歯科医師研修
7. 19　母と子のよい歯のコンクール２次審査
7. 25　第１回臨時総会
7. 28　第１回学術研修会
8. 25　レクリエーション「志賀原子力発電所見学ツアー」
8. 30　都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
9. 3　社会保険情報ネットワーク連絡協議会（東京）
9. 4　社会保険指導者協議会（日歯）
9. 12　日本歯科医師会第145回代議員会（日歯、～13日）
9. 13　社会保険講習会
9. 13　日本歯科医師会第104回通常総会（日歯）
9. 18　税務講習会
9. 29　学術講演会
10. 3　富山県歯科保健医療対策会議
10. 16　税務講習会
10. 17　第20回富山県歯の保健文化賞審査委員会
10. 25　第８回富山県「いい歯カムカムすこやか大賞」第２次審査会
10. 27　第54回近畿北陸地区歯科医学大会（京都）
10. 27　近畿北陸地区歯科医師会役員連絡協議会（京都）
11. 8　「いい歯の日」表彰式（富山県庁）
11. 10　医療管理講習会
11. 17　第２回学術研修会
11. 21　富山社会保険事務局長との打合せ会
11. 28　第２回臨時代議員会
12. 5　第１回歯科保健関係者講習会
12. 7　功労会員表彰式・顕彰式祝賀会兼忘年会（名鉄トヤマホテル）
12. 12　第２回臨時総会

平成15年（2003）

1. 13　臼田日歯会長との懇談
1. 24　歯科保健教育懇談会（電気ビルレストラン）
1. 28　日本歯科医師会歯科医師青色申告会全国連合会評議員会（日歯）
2. 2　北陸三県歯科医学学術講演会（福井）
2. 28　都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
3. 8　障害者歯科医療研修会
3. 9　総合学院卒業式
3. 11　定時代議員会
3. 13　日本歯科医師会第146回代議員会（日歯、～14日）
3. 14　日本歯科医師会第106回通常総会（日歯）
3. 19　第２回歯科保健関係者講習会
3. 26　日本歯科医師連盟第87回評議員会（日歯）
3. 27　定時総会

日本歯科医師会の動き

平成14年（2002）

4. 一　「医療に関する広告規制の緩和について」告示
4. 一　診療報酬初のマイナス1.3%改定
歯周疾患継続総合診療料（月１回）
8. 24　長野市にて第１回警察歯科医会全国大会
8. 一　健康増進法成立
9. 一　日歯「会員之章」の作製、配布
10. 一　日歯によるテレビスポット作成が決定、8020財団予算で準備中
12. 一　四師会（三師会十日本看護協会）「被用者保険３割自己負担の実施凍結」などの共同声明発表

平成15年（2003）

2. 4　歯科医師需給問題検討特別委員会最終報告書

世の中の動き

平成14年（2002）

4. 16　政府、有事補正関連３法案の提出決定
5. 31　サッカー・ワールドカップ日韓大会開催（～6.30）
8. 5　住民基本台帳ネットワークシステム（住基ネット）開始
9. 17　小泉首相、初の訪朝。「日朝平壌宣言」調印
10. 8　小柴昌俊、ノーベル物理学賞受賞
田中耕一、ノーベル化学賞受賞
10. 15　北朝鮮拉致被害者５人、帰国し家族と再会
一 一　この年、ゆとり教育による学力低下が問題化

平成15年（2003）

3. 20　イラク戦争開戦、4.9 フセイン体制崩壊
3. 一　中国広東省、香港等でSARS（重症急性呼吸器症候群）発生（７月までに死者774人）

平成15年度（2003年4月～2004年3月）

■会員数　519名（4月1日現在）

日本歯科医師会創立100周年記念式典を祝う

日本歯科医師会創立100周年記念式典は、平成15（2003）年11月27日、天皇皇后両陛下をお迎えし東京帝国ホテルにおいて挙行された。

同記念式典には、小泉内閣総理大臣、坂口厚生労働大臣はじめ衆参国会議員など600人が参加され、本会からは栗山会長が出席した。

臼田日歯会長の式辞の後、天皇陛下より歯科医師会の功績を称えられ、お祝いと励ましのお言葉を頂いた。

また、創立100周年記念表彰者1,800人を代表して、元副会長の村上勝先生に表彰状が贈られた。

＜富山県歯科医師会受賞者＞

藤井　弘	坊　明男	今村　勝彦	桜木　正昭
栗山　豊実	北山善之進	宮田　靖雄	山岸　敏治
福島　武人	山崎　宣夫	高畠　隆	熊木　彰
水橋　哲夫	奥川　澄夫	石川　静郎	上田　昌
平井　和輝	山田　正昭	山本　武夫	喜多美知子(職員)

社団法人富山県歯科医師会創立90周年記念式典•祝賀会

平成15（2003）年11月29日午後６時より、名鉄トヤマホテル４階において、来賓並びに会員225名が出席し、本会の創立90周年記念式典が挙行された。司会の山﨑専務理事の進行により、まず栗山会長が式辞を述べられた後、創立90周年記念表彰、平成15年度功労会員表彰、顕彰者表彰が行われ、表彰状並びに記念品が授与された。

続いてご臨席いただいた富山県知事（代理・大永尚武副知事）、富山市長（代理・石田淳富山市助役）から祝辞をいただいた後、阿部富山県厚生部長ほか、多数の来賓が紹介された。最後に受賞者を代表して、坊明男先生より謝辞が述べられ閉会となった。

式典に引き続き、会場を３階に移し、祝賀会が開催された。祝賀会は、宮田副会長の開宴のことばに続いて、中国獅子舞でオープニングを迎えた。栗山会長の挨拶、来賓の臼田日本歯科医師会会長より祝辞をいただき、阿部富山県厚生部長の乾杯の音頭で祝宴が和やかに始まった。杯が進むにつれムードが高まるなかアトラクションが始まり、○×クイズやビンゴゲームで盛り上がった。終わりに来賓の奥田富山県健康課長から歯科医師会に対して、また奥村副会長から来賓に対して、それぞれ万歳三唱があり盛会裏に閉宴となった。

創立90周年記念式典記念撮影

創立90周年記念祝賀会

富山県歯科医師会の動き

平成15年（2003）

4. 1 栗山豊実会長再任（２選）
4. 1 第１回臨時代議員会
4. 6 総合学院入学式
4. 16 保険医療機関等の指導に関する打合せ会
4. 17 第１回三者（保険者・診療担当者・支払基金）懇談会
4. 24 支部長会議
5. 14 日歯生涯研修セミナー合同打合せ会（日歯）
5. 15 富山社会保険事務局との打合せ会
5. 15 全国歯科技工士教育協議会理事長・校長・教務主任会議並びに総会（東京、～16日）
5. 17 富山県学校歯科医会創立50周年記念式典
5. 22 日本歯科医師会第148回臨時代議員会（日歯）
5. 29 富山県歯科医師協同組合第21回通常総代会
5. 29 総合学院歯科衛生士科戴帽式
5. 30 日本歯科医師連盟第88回臨時評議員会（日歯）
6. 1 歯っぴーフェスタ8020（アルプラザ小杉）
6. 8 HBs抗原・抗体検査、HCV抗体検査（８日、15日）
6. 15 日歯生涯研修セミナー
6. 19 第１回富山県成人歯周病予防事業検討連絡会
6. 21 北陸三県歯科医師会役員連絡協議会（名鉄トヤマホテル）
6. 27 富山県警察法歯学協力医研修会
7. 1 富山県厚生部長との打合せ会
7. 3 日本歯科医師連盟第89回臨時評議員会（日歯）
7. 6 歯科助手資格認定講習会
7. 10 第２回臨時代議員会
7. 13 歯科助手資格認定講習会
7. 24 第１回臨時総会
7. 25 第52回母と子のよい歯のコンクール２次審査
7. 27 第１回学術研修会
8. 9 第２回警察歯科医会全国大会（静岡）
8. 29 都道府県歯科医師会会長会議、都道府県歯科医師連盟代表者・理事長合同会議（日歯）
8. 31 歯科医師需給問題連絡協議会第６回幹事会（東京）
9. 2 社会保険情報ネットワーク連絡協議会（東京）
9. 3 社会保険指導者研修会（東京）
9. 11 日本歯科医師会第148回代議員会（日歯、～12日）
9. 12 日本歯科医師会第107回通常総会（日歯）
9. 16 第１回支部長・班長合同会議
9. 19 医療管理講習会
9. 21 レクリエーション「こどもゲーム大会・バーベキュー」（太閤山ランド）
9. 26 日本歯科医師連盟第90回臨時評議員会（日歯）
9. 28 社会保険講習会
10. 5 第55回近畿北陸地区歯科医学大会（和歌山）
10. 5 近畿北陸地区歯科医師会役員連絡協議会（和歌山）
10. 9 第３回臨時代議員会
10. 15 第１回歯科保健関係者講習会
10. 19 北陸三県歯科医学学術講演会
10. 22 日本口腔外科学会創立70周年記念式典･第48回総会（富山国際会議場）
10. 24 日本口腔外科学会：歯科臨床医リフレッシュセミナー（富山全日空ホテル）
10. 31 第９回富山県「いい歯カムカムすこやか大賞」第２次審査会
11. 8 「いい歯の日」表彰式
11. 10 富山県学校歯科医会との打合せ会
11. 16 障害者歯科医療研修会
11. 29 富山県歯科医師会創立90周年記念式典・祝賀会（名鉄トヤマホテル）
12. 4 三師会定期懇談会
12. 11 富山県学校歯科医会との打合せ会

平成16年（2004）

1. 20 日本歯科医師会歯科医師青色申告会全国連合会評議員会（日歯）
2. 6 前富山県歯科医師会会長 藤井 弘先生逝去
2. 19 富山県歯科保健医療対策会議　公益法人の実地検査
2. 22 第２回学術研修会
2. 26 小規模県歯科医師会役員懇話会（日歯）
2. 27 都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
3. 4 富山県学校歯科医会との打合せ会
3. 9 定時代議員会
3. 11 日本歯科医師会第149回代議員会（日歯、～12日）
3. 12 第108回通常総会（日歯）
3. 14 総合学院卒業式
3. 18 社会保険講習会
3. 25 第２回歯科保健関係者講習会
3. 25 定時総会
3. 26 日本歯科医師連盟第91回臨時評議員会（日歯）
3. 27 全国歯科技工士教育協議会北陸・信越地区ブロック協議会（新潟）

日本歯科医師会の動き

平成15年（2003）

10. 25 第56回近北地区歯科医師会親善野球大会（橿原市、～26日）
11. 27 日本歯科医師会創立100周年記念式典、天皇・皇后両陛下御臨席（帝国ホテル）

平成16年（2004）

1. 一 日歯・日歯連盟事件
2. 3 贈収賄容疑で、東京地検特捜部が日歯会館を捜査
2. 24 日歯「新歯科医療対策」提言

世の中の動き

平成15年（2003）

4. 1 被保険者本人３割負担実施
4. 1 日本郵政公社が発足
4. 14 米・英軍イラク全土を掌握
4. 一 第２次臼田執行部スタート
5. 23 個人情報保護法成立
5. 一 健康増進法が施行
7. 一 日本、イラクに自衛隊派遣
9. 一 阪神タイガース18年ぶりのリーグ優勝
10. 15 中国有人宇宙飛行成功、３カ国目
11. 一 衆議院選の結果、本格的な２大政党時代に
12. 13 米軍、フセイン元イラク大統領拘束
12. 23 アメリカでBSEの牛発見、翌日米国産牛肉の輸入停止

平成16年（2004）

2. 一 京都丹波町浅田農産で高病原性鳥インフルエンザ感染鶏の大量死を隠蔽

平成16年度（2004年4月～2005年3月）

■会員数　527名（4月1日現在）

富山県学校歯科医会との合併

平成16（2004）年３月９日（火）、富山県歯科保健医療総合センターにおいて平成15年度定時代議員会が開催され、４月１日をもって富山県歯科医師会と富山県学校歯科医会が合併することを決定した。

本会の組織については新たに「学校保健部会」を設置し、その中で児童・生徒等の健康の保持増進を図るため学校歯科保健に関する調査研究を行うとともに、学校保健の普及および振興に努め、もって円滑に会務運営を行うこととなった。学校保健担当理事には、清田築先生が指名を受け、４月１日付で就任された。

富山県歯科医師会の動き

平成16年（2004）

4. 4	総合学院入学式
4. 7	富山県警察法歯学協力医登録証交付式及び講演会（富山県警察本部）
4. 23	医療請求事務者講習会
4. 28	都道府県歯科医師会会長会議・都道府県歯科医師連盟会長合同会議（日歯）
5. 13	支部長・班長合同会議
5. 21	日本歯科医師会第150回臨時代議員会（日歯）
5. 27	富山県歯科医師協同組合第22回通常総代会
5. 27	総合学院歯科衛生士科戴帽式
6. 6	歯っぴーフェスタ8020（アルプラザ小杉）
6. 12	新規採用歯科助手講習会
6. 20	HBs抗原・抗体検査、HCV抗体検査（20日、27日）
6. 27	日歯生涯研修セミナー
7. 1	第98回都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
7. 3	総合学院講師合同研修会
7. 8	第１回臨時代議員会
7. 16	三師会定期懇談会
7. 16	第53回母と子のよい歯のコンクール審査会
7. 22	第１回臨時総会
7. 29	「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」第１次審査会
7. 31	第26回学校歯科保健研究会（近畿北陸ブロック）指導者養成研修セミナー（名鉄トヤマホテル、～８月１日）
8. 19	「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」第２次審査会
8. 28	第３回警察歯科医会全国大会（愛媛）
9. 5	医療管理講習会
9. 12	日本歯科医学会平成16年度学術講演会「富山県大会」
9. 16	日本歯科医師会第151回代議員会（日歯、～17日）
9. 17	日本歯科医師会総会（日歯）
9. 26	レクリエーション「トロッコ電車でゆく黒部峡谷の旅」
9. 30	第２回臨時代議員会
10. 23	しっかり噛んで健康家族チューイング・コンテスト（富山県西部体育センター、～24日）
10. 24	第10回富山県「いい歯カムカムすこやか大賞」第２次審査会
10. 29	第20回日本歯科医学会総会（神奈川、～30日）
10. 31	障害者歯科シンポジウム2004
11. 4	富山県医療推進協議会設立会（富山県医師会館）
11. 7	第56回近畿北陸地区歯科医学大会（大阪）
11. 7	近畿北陸地区歯科医師会役員連絡協議会（大阪）
11. 8	「いい歯の日」表彰式（富山県民会館）
11. 12	社会保険講習会
11. 18	正しい歯の磨き方講習会（庄川小学校・庄川中学校）
11. 25	第１回歯科保健関係者研修会
11. 27	国民の医療を守る県民集会（タワー111）
11. 28	学術研修会
12. 4	功労会員表彰式・顕彰式・祝賀会兼忘年会（富山第一ホテル）
12. 5	第４回8020フォーラム（宮城）

平成17年（2005）

2. 8	第３回臨時代議員会
2. 16	日本学校歯科医会加盟団体長会議（日歯）
2. 20	学術フォーラム2005
2. 24	第１回支部長会議　小規模県歯科医師会役員懇話会（日歯）
2. 25	都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
3. 3	社会保険医療懇談会
3. 6	北陸三県歯科医学学術講演会（石川）
3. 8	定時代議員会
3. 10	日本歯科医師会第152回代議員会（日歯、～11日）
3. 11	日本歯科医師会総会（日歯）
3. 13	総合学院卒業式
3. 17	第２回歯科保健関係者研修会
3. 24	定時総会

日本歯科医師会の動き

平成16年（2004）

4. 一	臼田貞夫日歯会長逮捕
5. 21	臨時代議員会、日歯会長に井堂孝純
5. 22	臨時代議員会、日歯連盟会長に大久保満男
8. 29	日本歯科医師連盟寄付１億円政治資金規正法違反事件
10. 27	日歯第１回裁定審議会
10. 30	第１回日本スポーツ・健康づくり歯学協議会（神奈川）
12. 16	日本歯科医師会改革第一次答申
12. 21	日本歯科医師会理事会声明

平成17年（2005）

3. 一	日歯連盟会費17年度より減額（10,000円減の23,000円へ）

世の中の動き

平成16年（2004）

5. 22	拉致被害者の家族５人が帰国
6. 2	道路公団民営化関連法案が成立
6. 14	有事法制関連７法が成立
11. 1	千円札、五千円札の新札発行（20年ぶり）
11. 26	政府、地方財政の三位一体改革決定（補助金削減、地方への財源移譲、地方交付税見直し）
12. 26	スマトラ沖地震発生（M9.0、死者30万人）

平成17年（2005）

2. 16	地球温暖化防止のための京都議定書発効

平成17年度（2005年4月～2006年3月）

■会員数　535名　（4月1日現在）

富山県歯科医師会の動き

平成17年（2005）

4. 6　生涯研修セミナー合同打合せ会（日歯）
4. 7　第１回医療管理講習会
4. 10　総合学院入学式
4. 20　富山県医療推進協議会（富山県医師会館）
4. 20　南砺市歯科医師会設立総会
4. 26　第１回社会保険講習会
5. 26　総合学院歯科衛生士科戴帽式
5. 26　第23回富山県歯科医師協同組合通常総代会
5. 29　学術研修会
6. 5　歯っぴーフェスタ8020（アルプラザ小杉）
6. 15　学校歯科保健懇談会
6. 18　北陸三県歯科医師会役員連絡協議会（福井）
6. 19　富山県警察法歯学協力医研修会
6. 19　HBs抗原・抗体検査、HCV抗体検査（19日、26日）
6. 25　第37回西日本歯科医師親善ボウリング大会（ノースランドボウル）
6. 26　歯科助手資格認定講習会
6. 30　日本歯科医師会第153回臨時代議員会（日歯）
7. 2　総合学院講師合同研修会（ボルファート富山）
7. 3　歯科助手資格認定講習会
7. 9　近畿北陸地区歯科医師会役員連絡協議会（兵庫）
7. 10　「三世代お口さわやか大賞」審査会
7. 14　第１回臨時代議員会
7. 14　富山県歯科保健医療対策会議
7. 15　三師会定期懇談会
7. 15　「第54回母と子のよい歯のコンクール」審査会
7. 21　「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」第１次審査会
7. 23　高岡市歯科医師会設立記念式典（ホテルニューオータニ高岡）
7. 28　第１回臨時総会
7. 31　第５回フォーラム8020（神奈川）
8. 18　第１回歯科保健関係者研修会
8. 18　「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」第２次審査会
8. 19　第100回都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
8. 21　第４回警察歯科医会全国大会（秋田）
8. 25　都道府県歯科医師連盟会長会議（日歯）
8. 31　富山県保険者協議会設立総会
9. 9　社会保険指導者研修会（日歯）
9. 9　社会保険情報ネットワーク連絡協議会（東京）
9. 15　日本歯科医師会第154回代議員会（日歯）
9. 16　日本歯科医師会第154回代議員会・総会（日歯）
9. 21　厚生労働省東海北陸厚生局の養成施設等指導調査
9. 23　レクリエーション「ボローニャパン工場・キリンビアパーク北陸の見学､いしかわ動物園･金沢辰口温泉入浴（石川）」
9. 27　郡市歯科医師会会長会議
9. 28　日本歯科医師連盟第96回評議員会（日歯）
10. 2　第57回近畿北陸地区歯科医学大会（福井）
10. 2　近畿北陸地区歯科医師会役員連絡協議会（福井）
10. 4　国民健康保険健康づくり富山県大会
10. 11　「学術フォーラム2005 II」一般講演予演会
10. 13　第２回臨時代議員会
10. 16　学術講演会
10. 20　富山県歯科保健医療対策会議
10. 23　第11回富山県「いい歯カムカムすこやか大賞」第２次審査会
10. 26　日歯生涯研修セミナー第１回DVD研修会
10. 26　正しい歯の磨き方講習会（富山市立清水町小学校・東部中学校）
10. 30　障害者歯科医療研修会
11. 8　「いい歯の日」表彰式（富山県庁）
11. 10　第55回全国学校歯科医協議会（滋賀）
11. 12　第26回全国歯科保健大会（新潟）
11. 13　学術フォーラム2005 II
11. 17　第２回歯科保健関係者研修会
11. 19　全国歯科技工士教育協議会北陸・信越地区ブロック会議（名鉄トヤマホテル）
11. 21　富山県医療推進協議会（富山県医師会館）
11. 25　第２回医療管理講習会
11. 27　ヘリカルCT肺がん検診
11. 27　日歯生涯研修セミナー（兵庫）
12. 3　功労会員表彰式・顕彰式・祝賀会兼忘年会（電気ビルレストラン）
12. 4　介護予防推進歯科専門職研修会（歯科衛生士）
12. 10　国民の医療を守る県民集会（富山国際会議場）
12. 14　日歯生涯研修セミナー第２回DVD研修会
12. 15　富山県成人歯周病予防事業検討連絡会

平成18年（2006）

1. 27　日本歯科医師会歯科医師青色申告会全国連合会評議員会・適正申告推進モデル地区代表者連絡会（日歯）
2. 5　富山県歯科技工士会社団法人設立10周年並びに創立55周年記念祝賀会
2. 7　都道府県歯科医師連盟会長会議（日歯）
2. 14　日本学校歯科医会加盟団体長会（日歯）
2. 16　歯科保健医療関係者研修会
2. 23　小規模県歯科医師会役員懇話会（日歯）
2. 24　日歯生涯研修事業教材研修（ビデオ勉強会）
2. 24　第101回都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
3. 2　社会保険医療懇談会
3. 3　介護予防推進歯科専門職研修会（歯科医師）
3. 5　北陸三県歯科医学学術講演会（福井）
3. 9　定時代議員会
3. 10　日本学校歯科医会第68回総会（日歯）
3. 12　総合学院卒業式
3. 16　介護予防推進医科歯科調整連絡会（富山県医師会館）
3. 16　日本歯科医師会第155回代議員会（日歯、～17日）
3. 17　日本歯科医師会総会（日歯）
3. 23　社会保険伝達講習会
3. 24　日歯連盟第97回評議員会（日歯）
3. 28　定時総会

日本歯科医師会の動き

平成17年（2005）

4. 20　日本歯科医師会裁定審議会中間答申
4. 20　第１回地域保健委員会
5. ー　日歯禁煙宣言

平成18年（2006）

2. ー　「歯科疾患総合指導料」の新設を答申

世の中の動き

平成17年（2005）

4. 1　ペイオフ解禁。個人情報保護法施行
4. 25　JR福知山線脱線事故発生（死者107人）
10. 14　郵政民営化法成立
ー. ー　この年、マンション・ホテルの耐震強度偽装発覚

平成18年度（2006年4月～2007年3月）

■会員数　539名　（4月1日現在）

医療ルネサンス北陸フォーラム

医療ルネサンス北陸フォーラム（読売新聞北陸支社、富山県国保連合会主催、富山県、富山県歯科医師会、富山県医師会後援）が平成19（2007）年２月18日、高岡市のウイング・ウイング高岡で開催された。

基調講演には東京歯科大学微生物学講座奥田克爾教授、シンポジストに清田築氏（県歯科医師会理事)･木戸日出喜氏（県医師会理事)･荒木千加子氏（県歯科衛生士会副会長）を招き、県民約350人もの参加があった。

まず、基調講演の奥田克爾教授は「健康寿命を縮める口の病気～きときと健康ライフは爽やかなお口から～」という富山弁を交えたテーマで、歯周病が全身に及ぼす影響やその免疫との関係をわかりやすく説明していただいた。

シンポジウムは「高齢者の口腔ケアの重要性」と題して、読売新聞高岡支局の竹村一郎支局長がコーディネーターを務められ、県医師会理事の木戸日出喜氏（介護老人保健施設長）が口腔ケアの重要性、誤嚥性肺炎の予防について講演され、県歯科医師会理事の清田築氏からは、「義歯を装着するとADLの向上がみられる」等の臨床現場での具体的事例が紹介された。続いて県歯科衛生士会副会長の荒木千加子氏からは、具体的な歯ブラシの選び方やブラッシング方法、また要支援者の方々が退院された後の口腔内の状態について経験に基づいた説明と今後の歯科衛生士の役割として高齢者の口腔内の知識を高め、介護者との連携を強めるなどの対策が必要との発言があった。

最後に奥田教授から会場の人々に健康に過ごすためのアドバイスを頂き閉会となった。

近年ますます高齢化が進むわが国において多くの人々が口腔内の健康へ対する関心を持っていただくため、このフォーラムを開催したわけであるが、多くの県民の皆様の参加を頂き、県民の口腔内への関心の高さを認識させられ、今後の本会の活動の方向付けに役立つ一日となった。

基調講演（奥田克爾・東京歯科大学教授）

シンポジウム「高齢者の口腔ケアの重要性」

富山県歯科医師会の動き

平成18年（2006）

4. 1 栗山豊実会長再任（３選）
4. 1 第１回臨時代議員会
4. 7 富山県警察法歯学協力医登録証交付式及び講演会（富山県警察本部）
4. 9 総合学院入学式
4. 16 射水市歯科医師会創立記念祝賀会
4. 20 歯科医師国保組合富山県支部運営協議会
4. 22 医療請求事務者講習会
5. 10 生涯研修セミナー合同打合せ会（日歯）
5. 11 全国歯科技工士教育協議会総会、理事長・校長会議、教務主任会議（愛知、～12日）
5. 12 石井富山県知事との懇談会
5. 19 第１回医療管理講習会
5. 23 第24回富山県歯科医師協同組合通常総代会
5. 25 総合学院歯科衛生士科戴帽式
5. 25 日本歯科医師会第156回臨時代議員会（日歯）
6. 2 日歯連盟第98回臨時評議員会（日歯）
6. 4 歯っぴーフェスタ8020（アルプラザ小杉）
6. 8 第１回歯ぐき元気プロジェクト指導用媒体検討会
6. 10 新規採用歯科助手講習会
6. 11 第21回甲北信越矯正歯科学会大会（ウイング･ウイング高岡）
6. 17 北陸三県歯科医師会役員連絡協議会（富山第一ホテル）
6. 18 HBs抗原・抗体検査、HCV抗体検査（18日、25日）
6. 21 日本学校歯科医会第69回総会（日歯）
6. 24 日本歯科大学創立100周年記念日本歯科大学校友会北陸地区会員大会
7. 1 総合学院講師合同研修会（ボルファートとやま）
7. 8 近畿北陸地区歯科医師会会長・専務理事会（名鉄トヤマホテル）
7. 8 近畿北陸地区歯科医師会・歯科医師連盟役員合同連絡協議会（名鉄トヤマホテル）
7. 9 「三世代お口さわやか大賞」審査会
7. 13 第２回臨時代議員会
7. 14 母と子のよい歯のコンクール第２次審査会
7. 14 三師会定期懇談会
7. 20 「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」第１次審査会
7. 22 日本口腔インプラント学会第26回近畿・北陸支部総会・学術大会（ボルファートとやま、～23日）
7. 25 第１回社会保険講習会
7. 27 第１回臨時総会
7. 30 学術研修会
8. 5 第５回警察歯科医会全国大会（福岡）
8. 7 歯ぐき元気プロジェクト事業歯科衛生士研修（７日、10日）
8. 19 日本学校歯科医会・石川県歯科医師会との懇談会
8. 24 第１回歯科保健関係者研修会
8. 24 「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」第２次審査会
8. 25 第102回都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
9. 2 障害者歯科医療研修会
9. 5 都道府県歯科医師連盟会長会議（日歯）
9. 7 日本学校歯科医会との懇談会（石川）
9. 11 社会保険情報ネットワーク連絡協議会（東京）
9. 12 社会保険指導者研修会（東京）
9. 14 日本歯科医師会第157回代議員会（日歯、～15日）
9. 15 日本歯科医師会第113回通常総会（日歯）
9. 17 レクリエーション「斑尾高原でスポーツ＆リフレッシュ」
9. 22 日本歯科医師連盟第99回評議員会（日歯）
10. 11 全国歯科技工士教育協議会理事会（大阪）
10. 12 第２回歯科保健関係者研修会
10. 15 北陸三県歯科医学学術講演会
10. 19 第70回全国学校歯科保健研究大会（千葉、～20日）
10. 25 第65回日本公衆衛生学会総会（富山、～27日）
10. 28 第46回北信越薬剤師大会（名鉄トヤマホテル）
10. 29 第12回富山県「いい歯カムカムすこやか大賞」第２次審査会
11. 2 正しい歯の磨き方講習会（富山市清水町小･東部中学校）
11. 8 「いい歯の日」表彰式（富山県民会館）
11. 9 第56回全国学校歯科医協議会（島根）
11. 11 第27回全国歯科保健大会（長崎）
11. 13 国民健康保険健康づくり富山県大会（富山市民プラザ）
11. 17 歯科保健医療関係者講習会
11. 19 第58回近畿北陸地区歯科医学大会（兵庫）
11. 19 近畿北陸地区歯科医師会役員連絡協議会（兵庫）
11. 30 日歯生涯研修セミナー DVD研修会
12. 2 功労会員表彰式・顕彰式・祝賀会兼忘年会（名鉄トヤマホテル）

平成19年（2007）

1. 25 富山県歯科保健医療対策会議専門委員会
2. 9 日歯歯科医師青色申告会全国連合会評議員会（日歯）
2. 9 都道府県歯科医師連盟会長会議（日歯）
2. 15 富山県歯科保健医療対策会議
2. 18 医療ルネサンス北陸フォーラム（高岡市生涯学習センターホール）
2. 21 日本学校歯科医会加盟団体長会（日歯）
2. 22 小規模県歯科医師会役員懇話会（日歯）
2. 22 保護者等成人歯周病研修会（魚津市PTA連合会理事会）
2. 23 第103回都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
2. 23 保護者等成人歯周病研修会（富山市PTA連絡協議会ブロック長・評議員会）
2. 24 全国歯科技工士教育協議会北陸・信越地区ブロック会議（とやま自遊館）
3. 8 定時代議員会
3. 8 社会保険医療懇談会
3. 11 総合学院卒業式
3. 15 日本歯科医師会第158回代議員会（日歯、～16日）
3. 16 日本歯科医師会総会（日歯）
3. 16 学校歯科医研修会
3. 20 日本学校歯科医会第70回総会（日歯）
3. 21 「新老人の会」富山県支部設立記念講演会
3. 22 定時総会
3. 22 保護者等成人歯周病研修会（小矢部市PTA連絡協議会理事会）
3. 23 日本歯科医師連盟第100回評議員会（日歯）

日本歯科医師会の動き

平成18年（2006）

4. ― 診療報酬マイナス1.5%改定。患者への文書提供義務化
4. ― 日歯診療報酬緊急対策チームを設置
5. ― 日歯・日本歯科医学会等が「湘南宣言」
6. ― 8020達成者、初めて20%超す
6. ― 日歯改革プロジェクト始動
8. ― 役員任期２年制、平成21年度を視野に
―公益法人制度改革―

平成19年（2007）

1. ― 「医療安全管理･院内感染対策指針（モデル）」作成
2. ― 在宅医療推進のための医科・歯科連携ワークショップ開催

世の中の動き

平成18年（2006）

5. 1 日米安保協議において、普天間基地移設とアメリカ海兵隊の一部グアム移転などに合意
6. 20 小泉首相、陸上自衛隊のイラク撤退を表明
7. 5 北朝鮮ミサイル発射、日本海に着弾
9. 26 第１次安倍晋三内閣発足
12. 15 改正教育基本法成立、愛国心が盛り込まれる

平成19年（2007）

2. 17 社会保険庁で公的年金の加入記録不備が発覚

平成19年度（2007年4月～2008年3月）

■会員数　537名　（4月1日現在）

富山県歯科医師会の動き

平成19年（2007）

4. 8　総合学院入学式
4. 25　第１回医療管理講習会
5. 10　全国歯科技工士教育協議会総会、理事長・校長会議、教務主任会議（高知、～11日）
5. 18　第１回学術講演会
5. 24　第25回富山県歯科医師協同組合通常総代会
5. 24　総合学院歯科衛生士科戴帽式
5. 30　医療請求事務者講習会
6. 3　歯っぴーフェスタ8020（フューチャーシティ ファボーレ）
6. 15　富山県警察法歯学協力医研修会
6. 17　HBs抗原・抗体検査、HCV抗体検査（17日、24日）
6. 23　北陸三県歯科医師会役員連絡協議会（石川）
6. 24　歯科助手資格認定講習会
6. 29　社会保険特別研修会
7. 2　三師会定期懇談会
7. 5　「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」第１次審査会
7. 8　三世代お口さわやか大賞審査会
7. 12　第１回臨時代議員会
7. 26　第１回臨時総会
7. 27　北陸三県技工士学校専任教員研修会
8. 4　第６回警察歯科医会全国大会（群馬）
8. 9　第47回北陸三県学校保健研究協議会兼富山県学校保健研究大会（富山国際会議場）
8. 22　厚生労働省東海北陸厚生局第１回養成施設等指導調査
8. 28　第１回歯科保健関係者研修会
8. 28　富山県知事・厚生部長との懇談会
8. 31　第104回都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
9. 2　第２回医療管理講習会（接遇・応対マナー講座）
9. 3　社会保険情報ネットワーク連絡協議会（東京）
9. 4　都道府県歯科医師連盟会長会議（日歯）
9. 4　社会保険指導者研修会（東京）
9. 13　日本歯科医師会第159回代議員会（日歯、～14日）
9. 14　日本歯科医師会第115回通常総会（日歯）
9. 20　中原　爽先生を慰労する会（東京）
9. 21　日本歯科医師連盟第101回評議員会（日歯）
9. 23　レクリエーション「伝統工芸にチャレンジ ゆったりとゆっくりと温泉入浴（石川）」
9. 30　北陸三県歯科医学学術講演会･日歯生涯研修セミナー（石川）
10. 7　第59回近畿北陸地区歯科医学大会（奈良）
10. 7　近畿北陸地区歯科医師会役員連絡協議会（奈良）
10. 18　中部管区広域緊急援助隊合同訓練
10. 19　第71回全国学校歯科保健研究大会（福岡）
10. 20　センター同門会総会（奥田屋）
10. 24　日歯生涯研修セミナー DVD研修会
10. 25　口腔外傷対策事業委員会
10. 26　第13回富山県「いい歯カムカムすこやか大賞」第２次審査会
11. 8　「いい歯の日」表彰式（富山県民会館）
11. 8　第57回全国学校歯科医協議会（香川、～９日）
11. 12　障害児（者）歯科医療提供体制検討会
11. 14　国民歯科医療を守る総決起大会、国民歯科医療問題議員懇談会（東京）
11. 17　第28回全国歯科保健大会（東京）
11. 18　第２回学術講演会
11. 22　正しい歯の磨き方講習会（南砺市立井口小学校･井口中学校）
11. 29　富山県歯科保健医療対策会議
12. 1　功労会員表彰式・顕彰式・祝賀会兼忘年会（電気ビルレストラン）
12. 5　第２回歯科保健関係者研修会
12. 15　日本歯科医師会警察歯科医身元確認研修会（日歯）
12. 19　歯周病予防推進禁煙指導事業医療機関連携体制整備検討会（総合福祉会館）
12. 21　厚生労働省東海北陸厚生局第２回養成施設等指導調査

平成20年（2008）

1. 22　歯周病予防推進禁煙指導事業医療機関連携体制整備検討会
2. 8　日本歯科医師会歯科医師青色申告会全国連合会評議員会（日歯）
2. 12　保護者等成人歯周病研修会（射水市）
2. 16　保護者等成人歯周病研修会（滑川市）
2. 19　歯周病予防推進禁煙指導事業医療機関連携体制整備検討会
2. 20　保護者等成人歯周病研修会（朝日町）
2. 21　歯周病予防推進禁煙指導事業医療機関連携体制整備検討会
2. 22　富山県歯科保健医療対策会議
2. 22　障害児（者）歯科医療提供ネットワーク事業登録医研修会
2. 28　小規模県歯科医師会役員懇話会（日歯）
2. 29　第105回都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
3. 2　「8020運動推進特別事業」研修会
3. 5　女性歯科医師の会（仮称）設立打合せ会（日歯）
3. 6　社会保険医療懇談会
3. 7　都道府県歯科医師連盟会長会議（日歯）
3. 9　総合学院卒業式
3. 11　定時代議員会
3. 13　日本歯科医師会第160回代議員会（日歯、～14日）
3. 14　日本歯科医師会第116回通常総会（日歯）
3. 14　口腔外傷対策事業委員会
3. 16　富山県歯科保健医療総合センター県民公開講座
3. 21　障害児・者歯科医療提供体制検討会
3. 22　全国歯科医師国保組合本部組合会･創立30周年記念式典（東京）
3. 25　定時総会
3. 27　社会保険伝達講習会
3. 27　口腔外傷対策事業関係者連携体制整備検討委員会
3. 28　日本歯科医師連盟第102回評議員会（日歯）

日本歯科医師会の動き

平成19年（2007）

4. ー　日歯、「日本糖尿病協会歯科医師登録医制度」創設
4. ー　「日本歯科総合研究機構」設置
6. ー　『歯科関係者のための食育推進支援ガイド』刊行
8. 2　日本歯科総合研究機構設立記念シンポジウム開催

平成20年（2008）

2. 7　日本学校歯科医会「基本研修会平成19年度モデル事業」

世の中の動き

平成19年（2007）

5. 14　国民投票法成立（5.18 施行）
8. 9　米国・サブプライムローンに起因する世界同時株安発生
10. 1　日本郵政グループ〈日本郵政㈱、郵便事業㈱、郵便局㈱、㈱郵貯銀行、㈱かんぽ生命保険〉発足

平成20年（2008）

2. 2　トヨタ自動車の生産台数（2007年）、世界トップに

平成20年度（2008年4月～2009年3月）

■会員数　529名　（4月1日現在）

県民公開講座「健康はお口から」開催

平成20（2008）年９月28日（日）、富山県歯科医師会主催で「健康はお口から―歯周病と全身の関わり―」と題した県民公開講座が富山国際会議場において開催され、会場には700名を超える方が来場し、理解を深めた。

公開講座に先立ち、栗山豊実県歯科医師会長より「今年で20周年を迎える8020運動が目標とする口腔の健康が、生活の質を支える全身の健康の礎となることをふまえ、県民に歯科保健の正しい知識を深めていただき、健康づくりへの一助とすることが本講座開催の目的とするところであり、県民総ぐるみで歯の健康運動を盛り上げていきたい」との挨拶があり、その後伊藤公一・日本大学歯学部歯周病学講座教授と、小林正・富山大学附属病院病院長による特別講演が行われた。

伊藤教授は、「生活習慣病のとらえ方―歯周病と糖尿病との関わり―」と題して、歯周病などの口腔感染症は全身疾患のリスクファクターであり、生活習慣の中の喫煙、悪い食習慣などは口腔の健康にも影響を及ぼすことを示した上で、「これらの共通するリスクファクターへのアプローチは口腔と全身の双方の健康増進に重要であり、それを支援するのが歯科医師の責務である。皆さんが歯・口のみならず全身の健康づくりを行うためにはかかりつけの歯科医を持つことが大切である」と結んだ。

引き続いて、小林病院長は「生活習慣病の改善を目指して―戦略研究の結果を踏まえて―」をテーマに講演された。「糖尿病の一因は内臓脂肪の蓄積による代謝異常（メタボリックシンドローム）であり、これは高血圧症や高脂血症など、他の生活習慣病を引き起こす原因となるうえに、放置すると重篤な脳卒中や心筋梗塞、糖尿病合併症へと進展する危険性がある」と指摘し、「歯周病の治療が糖尿病の改善に有効であるなど、最近の研究で歯周病と糖尿病が密接な関係にあることが分かってきている。従来の糖尿病の医療ネットワークに歯科の連携を含める必要性がある」と結んだ。

両先生の講演は、一部非常に専門的内容を含んでいたにもかかわらず、一般の方にも大変受け入れやすいものであった。これを機に、県民のオーラルヘルスケアへの関心がより一層向上することが期待されている。

栗山会長による開会の挨拶

特別講演（伊藤公一･日本大学教授）

特別講演（小林正・富山大学附属病院長）

県民公開講座「健康はお口から」会場の様子

富山県歯科医師会の動き

平成20年（2008）

4. 6 総合学院入学式
4. 11 富山県警察法歯学協力医登録証交付式及び講演会（富山県警察本部）
4. 19 医療請求事務者講習会
5. 10 近畿北陸地区歯科医師会会長・専務理事会（京都）
5. 15 全国歯科技工士教育協議会総会、理事長・校長会議、教務主任会議（神奈川、～16日）
5. 21 社会保険特別研修会
5. 22 第26回富山県歯科医師協同組合通常総代会
5. 22 総合学院歯科衛生士科戴帽式
5. 25 医療管理（医療安全管理）講習会
6. 1 歯っぴーフェスタ8020（イオンモール高岡）
6. 15 学術（医療安全管理）講習会
6. 15 HBs抗原・抗体検査、HCV抗体検査
6. 21 北陸三県歯科医師会役員連絡協議会（福井）
6. 22 HBs抗原・抗体検査、HCV抗体検査
6. 25 日本学校歯科医会第73回総会（日歯）
7. 10 第１回臨時代議員会
7. 10 「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」第１次審査会
7. 11 よい歯のコンクール２次審査会
7. 13 三世代お口さわやか大賞審査会
7. 15 障害児（者）歯科医療提供ネットワーク事業第１回研修会
7. 16 三師会定期懇談会
7. 24 第１回臨時総会
7. 30 新公益法人制度に関する説明会
7. 31 「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」第２次審査会
8. 6 富山県学校保健会養護教諭設立60周年記念式典
8. 11 富山県知事・厚生部との懇談会（かわい）
8. 19 障害児（者）歯科医療提供ネットワーク事業第２回研修会
8. 21 第１回歯科保健関係者研修会
8. 29 第106回都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
8. 31 歯科医師需給問題連絡協議会第11回幹事会（日歯）
9. 1 社会保険情報ネットワーク連絡協議会（東京）
9. 2 社会保険指導者研修会（東京）
9. 2 都道府県歯科医師連盟会長会議（日歯）
9. 7 富山歯科総合学院創立30周年記念講演会
9. 11 日本歯科医師会第161回代議員会（日歯、～12日）
9. 12 日本歯科医師会第117回通常総会（日歯）
9. 19 日本歯科医師連盟第103回評議員会（日歯）
9. 21 レクリエーション「りんご狩りとひるがの高原でリフレッシュ（岐阜）」
9. 24 保護者等成人歯周病研修会（高岡市）
9. 28 県民公開講座「健康はお口から」（富山国際会議場）
10. 5 日本学校歯科医会「学校歯科医研修事業」基礎研修会モデル事業（滋賀）
10. 9 新公益法人制度に関する説明会
10. 12 北陸三県歯科医学学術講演会・日歯生涯研修セミナー（福井）
10. 16 第２回歯科保健関係者研修会
10. 17 第14回富山県「いい歯カムカムすこやか大賞」第２次審査会
10. 18 第７回警察歯科医会全国大会（北海道）
10. 19 第60回近畿北陸地区歯科医学大会（京都）
10. 19 近畿北陸地区歯科医師会役員連絡協議会（京都）
10. 28 保護者等成人歯周病研修会（入善町）
11. 6 正しい歯の磨き方講習会（南砺市立井口小学校・井口中学校）
11. 6 第58回全国学校保健研究大会・全国学校歯科医協議会（新潟）
11. 6 日本歯科保存学会第129回学術大会（～７日）
11. 7 「いい歯の日」表彰式（富山県民会館）
11. 9 第２回医療管理（医療安全）講習会
11. 14 第21回日本歯科医学会総会（神奈川）
11. 22 富山歯科保健医療総合センター創立30周年記念特別研修会・祝賀会（ANAクラウンプラザホテル富山）
11. 22 第29回全国歯科保健大会（山口）
12. 6 功労会員表彰式・顕彰式・祝賀会兼忘年会（名鉄トヤマホテル）
12. 9 歯科医療機関禁煙支援実施状況評価委員会
12. 17 第１回障害児・者歯科医療提供体制強化検討会
12. 18 日歯生涯研修セミナー DVD研修会
12. 28 東海北陸厚生局管内歯科医師会担当者連絡協議会（愛知）

平成21年（2009）

1. 24 富山県内科歯科合同カンファレンス（サンシップとやま）
2. 4 日本学校歯科医会加盟団体長会（日歯）
2. 14 近畿北陸地区六県歯科医師会会長・専務理事会（奈良）
2. 18 富山県歯科保健医療対策会議
2. 19 むし歯予防対策強化事業研修会
2. 19 小規模県歯科医師会役員懇話会（日歯）
2. 20 第105回都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
3. 3 都道府県歯科医師連盟会長会議（日歯）
3. 5 社会保険医療懇談会
3. 8 総合学院卒業式
3. 10 定時代議員会
3. 12 日本歯科医師会第162回代議員会（日歯、～13日）
3. 13 日本歯科医師会第118回通常総会（日歯）
3. 18 日本学校歯科医会第74回総会（日歯）
3. 19 日本歯科医師連盟第104回評議員会（日歯）
3. 19 歯科医療機関禁煙支援実施状況評価委員会
3. 26 定時総会

日本歯科医師会の動き

平成20年（2008）

4. 1 新日歯生涯研修事業スタートEシステムなど
7. ― 国民医療推進協議会「地域医療崩壊阻止のための総決起大会」開催
社会保障費の2,200億円削減政策撤廃を決議
10. ― 日歯レセコンASPサービス（愛称レセック）開発を決定
12. 5 8020運動20周年の節目で記念式典・シンポジウム開催

平成21年（2009）

3. 7 在宅医療推進多職種協働懇話会（京都市）
3. ― 『歯科医療白書2008年度版』刊行

世の中の動き

平成20年（2008）

4. 1 後期高齢者医療制度スタート
6. 6 国会で「アイヌは先住民族」と決議
9. 15 アメリカ証券会社リーマン・ブラザーズ経営破綻（リーマン・ショック）
9. 24 麻生太郎内閣発足
10. 1 国土交通省観光庁発足
10. 7 日本人４人ノーベル賞受賞（物理学賞：南部陽一郎・小林誠・益川敏英、化学賞：下村脩）
12. 13 初の日中韓サミット開催（於：九州）

平成21年度（2009年4月～2010年3月）

■会員数　530名　（4月1日現在）

栗山豊実前県歯会長、旭日小綬章受章記念祝賀会

平成21年秋の叙勲で、旭日小綬章を受章された栗山豊実前県歯会長の受章記念祝賀会が、平成22（2010）年２月21日（日）、名鉄トヤマホテルにおいて開催された。これは、吉田県歯会長を代表とする発起人会が主催したもので、石井富山県知事をはじめ、大久保日歯会長並びに関係各界から約200名の有志が集まり受章の栄誉をたたえた。

祝賀会は、発起人の山﨑安仁県歯副会長の開会の辞で始まり、発起人を代表して、吉田季彦県歯会長が栗山前会長の本会ならびに富山市歯科医師会における業績について紹介、さらに「このたびの受章は、栗山先生ご本人のみならずご家族、ご親族の皆様にとりましては勿論のこと、富山県歯科医師会にとりましても大変名誉なことであり、私たち後輩を叱咤激励していただき、引き続きご指導願いたい」と挨拶された。

来賓の石井隆一富山県知事は、「栗山先生の長年にわたるご尽力に、心から敬意を表し、感謝申し上げる次第であります。どうか栗山さんには、これからもご壮健で、富山県の限りない発展のため、一層のご指導、ご尽力をいただきますよう心からお願い申し上げます」と祝辞を述べられ、続いて、長勢甚遠衆議院議員、富山市長代理の杉原伸介副市長、大久保満男日歯会長よりお祝いのことばが述べられた。

次に、参加者を代表して、金川直博東京歯科大学同窓会富山県支部長より記念品、富山県歯科医師会職員より花束がそれぞれ贈呈された。

謝辞に立った栗山豊実前県歯会長は、「今回の受章は私個人のものではなく、富山県歯科医師会全体に対する評価と考えている。治療にこれでいいということはない。感謝の気持ちを忘れず、歯科医療のために貢献していきたい」と挨拶された。

続いて、栗山先生を中心に、ご来賓の代表者20余名が中央壇上に飾られた３個の酒樽を囲み、掛け声も凛々しく鏡開きとなり、河合常則参議院議員の音頭で乾杯が行われ、祝宴に移った。

祝電が披露される頃から、各テーブルでは活発な歓談が始まった。祝宴も最高潮に達し時間の経過も忘れかけたところで、中締めとして、中田郁平日本学校歯科医会会長より万歳三唱があり、続いて、発起人の家城佳夫元富山市歯科医師会会長よりお礼のことばが述べられ、ご参会の皆様へ万歳三唱された。

最後に発起人の安田篤県歯副会長の閉会の辞で、受章記念祝賀会は盛会裏に幕を閉じた。

受章祝賀会で挨拶に立つ栗山前会長

富山県歯科医師会の動き

平成21年（2009）

4. 1 吉田季彦会長就任
4. 1 第１回臨時代議員会
4. 5 総合学院入学式
4. 16 郡市歯科医師会会長会議
4. 16 歯科医師国保組合富山県支部運営協議会
4. 24 社会保険特別研修会
5. 13 日本歯科医師連盟第105回評議員会（日歯）
5. 14 全国歯科技工士教育協議会総会、理事長・校長会議、教務主任会議（京都、～15日）
5. 19 新型インフルエンザ対策本部第１回会合
5. 26 第27回富山県歯科医師協同組合通常総代会
5. 28 日本歯科医師会第163回臨時代議員会（日歯）
6. 7 歯っぴーフェスタ8020（アルプラザ小杉）
6. 14 医療管理（医療安全管理）講習会
6. 19 歯ぐき元気プロジェクト事業保護者等成人歯周病研修会（砺波市）
6. 20 北陸三県歯科医師会役員連絡協議会（名鉄トヤマホテル）
6. 21 HBs抗原・抗体検査、HCV抗体検査（21日、28日）
6. 28 第１回学術（医療安全）研修会
7. 9 第２回臨時代議員会
7. 9 日本学校歯科医会「学校歯科医生涯研修制度」基礎研修会（日歯）
7. 10 三師会定期懇談会
7. 10 母と子のよい歯のコンクール第２次審査会
7. 12 三世代お口さわやか大賞審査会
7. 16 「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」第１次審査会（８月20日第２次審査会）
7. 23 第１回臨時総会
7. 31 第19回近畿北陸地区歯科衛生士教育協議会（大阪）
8. 20 第１回歯科保健関係者研修会
8. 21 日本歯科医師連盟第106回評議員会（日歯）
8. 26 有限会社ティー・ディー・エス取締役会（五万石）
8. 30 北陸三県歯科医学学術講演会・日歯生涯研修セミナー
8. 30 歯科医師需給問題連絡協議会第12回幹事会（日歯）
8. 31 社会保険情報ネットワーク連絡協議会（東京）
9. 1 社会保険指導者研修会（東京）
9. 6 歯科助手資格認定講習会（６日、13日）
9. 10 日本歯科医師会第164回代議員会（日歯、～11日）
9. 11 日本歯科医師会第119回通常総会（日歯）
9. 16 富山県警察法歯学協力医研修会
9. 17 第108回都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
9. 18 日本歯科医師連盟第107回臨時評議員会（日歯）
9. 27 レクリエーション「恐竜博物館見学とスキージャム勝山（福井）」
10. 1 第２回学術研修会
10. 8 第２回歯科保健関係者研修会
10. 23 第15回富山県「いい歯カムカムすこやか大賞」第２次審査会
10. 25 第61回近畿北陸地区歯科医学大会（石川）
10. 25 近畿北陸地区歯科医師会役員連絡協議会（石川）
10. 29 総合学院歯科衛生士科戴帽式
10. 30 第73回全国学校歯科保健研究大会（京都）
11. 6 「いい歯の日」表彰式（富山県民会館）
11. 11 レセプトオンライン化に関する説明会
11. 11 いきいきとやま・第22回健康と長寿の祭典
11. 11 第10回健康日本21全国大会
11. 14 第33回むし歯予防全国大会in富山
11. 14 第８回警察歯科医会全国大会（新潟）
11. 18 歯ぐき元気プロジェクト事業保護者等成人歯周病研修会（黒部市）
11. 20 日本歯科医師連盟第108回臨時評議員会（日歯）
11. 21 第30回全国歯科保健大会（高知）
11. 22 東海北陸厚生局管内歯科医師会担当者連絡協議会（愛知）
11. 26 正しい歯の磨き方講習会（富山市立水橋西部小学校）
11. 29 第３回学術研修会
12. 5 功労会員表彰式・顕彰式・祝賀会兼忘年会（電気ビルレストラン）
12. 5 日本歯科医師会警察歯科医身元確認研修会（日歯）
12. 5 歯ぐき元気プロジェクト事業保護者等成人歯周病研修会（立山町）
12. 12 財団法人8020推進財団学術集会第７回フォーラム8020（日歯）

平成22年（2010）

2. 3 日本学校歯科医会加盟団体長会（日歯）
2. 12 都道府県歯科医師連盟会長会議（日歯）
2. 18 富山県歯科保健医療対策会議
2. 19 日本歯科医師連盟第109回臨時評議員会（日歯）
2. 21 栗山豊実先生旭日小綬章受章祝賀会（名鉄トヤマホテル）
2. 25 小規模県歯科医師会役員懇話会（日歯）
2. 26 第109回都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
3. 4 妊婦歯科保健指導者研修会
3. 7 総合学院卒業式
3. 9 定時代議員会
3. 11 日本歯科医師会第165回代議員会（日歯、～12日）
3. 12 日本歯科医師会第120回通常総会（日歯）
3. 14 障害者歯科医療研修会
3. 19 日本歯科医師連盟第110回評議員会（日歯）
3. 24 日本学校歯科医会第76回総会（日歯）
3. 25 社会保険伝達講習会
3. 26 全国歯科衛生士教育協議会総会（東京）
3. 30 定時総会

日本歯科医師会の動き

平成21年（2009）

4. ― 日歯、新型インフルエンザ対策本部設置（５月に行動計画策定）
6. ― TOOTH FAIRYプロジェクト開始
7. ― 国民歯科医療のあるべき姿委員会設置
7. ― 日歯、「標準的な成人歯科健診プログラム・保健指導マニュアル」作成
8. ― 生きがいを支える国民歯科会議設置
11. 14 日本学校歯科医会「学校歯科医生涯研修制度基礎研修会」（日歯会館）
11. 18 都道府県歯科医師会専務理事会連絡協議会（日歯会館）
11. 27 標準的な成人歯科健診プログラム・保健指導マニュアル説明会（日歯会館）

世の中の動き

平成21年（2009）

5. 15 省エネ家電促進制度「エコポイント」スタート
5. 21 裁判員制度開始
6. 11 新型インフルエンザ、世界的大流行
7. 13 改正臓器移植法成立、「脳死は人の死」とする
8. 30 衆議院選挙で民主党大勝（民主308、自民119）

平成22年（2010）

3. 31 平成の市町村大合併終了、市町村数半減

平成22年度（2010年4月～2011年3月）

■会員数　532名　（4月1日現在）

富山県歯科医師会の動き

平成22年（2010）

4. 4　総合学院入学式
4. 9　富山県警察法歯学協力医登録証交付式及び研修会（富山県警察本部）
4. 21　社会保険特別研修会
4. 23　医療請求事務者講習会
5. 14　訪問歯科診療に対する社会保険講習会
5. 20　全国歯科医師国保組合富山県支部理事会
5. 23　第１回学術（医療安全）研修会
5. 27　第28回富山県歯科医師協同組合通常総代会
6. 6　歯っぴーフェスタ8020（アルプラザ小杉）
6. 19　北陸三県歯科医師会役員連絡協議会（石川）
6. 20　HBs抗原・抗体検査、HCV抗体検査（20日、27日）
6. 20　ヘリカルCT肺がん検診
6. 27　「学校歯科医生涯研修制度」基礎研修会
6. 27　第１回北信越障害者歯科臨床研究会（新潟）
7. 8　第１回臨時代議員会
7. 8　「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」第１次審査会
7. 9　母と子のよい歯のコンクール第２次審査会
7. 11　歯科医療従事者に対する感染症予防講習会
7. 13　三師会定期懇談会
7. 22　第１回臨時総会
7. 22　第32回学校歯科保健研修会（近畿北陸ブロック）（兵庫）
7. 31　「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」第２次審査会
8. 8　三世代お口さわやか大賞審査会
8. 21　第９回警察歯科医会全国大会（兵庫）
8. 25　第１回歯科保健関係者研修会
8. 27　第110回都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
8. 29　歯科医師需給問題連絡協議会第13回幹事会（東京）
9. 3　都道府県歯科医師連盟会長会議（日歯）
9. 5　第２回学術研修会
9. 9　日本歯科医師会第166回代議員会（日歯、～10日）
9. 10　日本歯科医師会第121回通常総会（日歯）
9. 12　レクリエーション「信州めぐりツアー戸隠そばと小布施散策（長野）」
9. 17　日本歯科医師連盟第111回臨時評議員会（日歯）
9. 22　「糖尿病診療情報提供書」打合せ会
9. 25　2010年スペシャルオリンピック日本 東海・北信越ブロック大会（富山）
9. 26　北陸三県歯科医学学術講演会･日歯生涯研修セミナー（石川）
9. 30　いきいきとやま･第23回健康と長寿の祭典（～10月1日）
10. 3　富山県歯科医師会DCLSコース（ヘルスケアプロバイダートレーニングセンター）
10. 4　社会保険情報ネットワーク連絡協議会（東京）
10. 5　第１回歯科用CT導入に伴う取り扱い説明会
10. 5　社会保険指導者研修会（東京）
10. 12　東海北陸厚生局地方社会保険医療協議会（愛知）
10. 17　障害者歯科医療研修会
10. 19　第２回歯科用CT導入に伴う取り扱い説明会
10. 28　総合学院歯科衛生士科戴帽式
10. 28　第74回全国学校歯科保健研究大会（茨城）
10. 29　第16回富山県「いい歯カムカムすこやか大賞」第２次審査会
10. 29　第74回全国学校歯科保健研究大会（茨城）
10. 31　第１回高齢者歯科保健医療研修会
11. 4　第２回歯科保健関係者研修会
11. 6　第31回全国歯科保健大会（山形）
11. 7　第62回近畿北陸地区歯科医学大会（大阪）
11. 7　近畿北陸地区歯科医師会役員連絡協議会（大阪）
11. 8　「いい歯の日」表彰式
11. 14　健口フォーラム2010（富山県民共生センターサンフォルテ）
11. 18　第60回全国学校歯科医協議会（群馬）
11. 19　歯ぐき元気プロジェクト事業保護者歯周病予防研修会（氷見市）
11. 25　正しい歯の磨き方講習会（富山市立水橋西部小・水橋中学校）
12. 4　功労会員表彰式・顕彰式・祝賀会兼忘年会（名鉄トヤマホテル）
12. 4　日本歯科医師会警察歯科医身元確認及び災害コーディネーター研修会（日歯）
12. 7　歯科用CT取り扱いのアドバンスコース
12. 12　第２回高齢者歯科保健医療研修会
12. 16　富山県歯科保健医療対策会議
12. 18　歯ぐき元気プロジェクト事業保護者歯周病研修会（南砺市）

平成23年（2011）

1. 25　健康スポーツ歯科全国指導者講習会（日歯）
2. 6　富山県歯科技工士会創立60周年並びに社団法人設立15周年記念祝賀会（名鉄トヤマホテル）
2. 9　日本学校歯科医会加盟団体長会（日歯）
2. 24　小規模県歯科医師会役員懇話会（日歯）
2. 25　第111回都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
3. 3　いい歯カムカム妊婦啓発事業歯科専門職研修会
3. 3　社会保険医療懇談会
3. 4　都道府県歯科医師連盟会長会議（日歯）
3. 6　総合学院卒業式
3. 8　定時代議員会
3. 10　日本歯科医師会第167回代議員会（日歯、～11日）
3. 11　日本歯科医師会第122回通常総会（日歯）
3. 13　医療管理講習会
3. 15　郡市歯科医師会会長会議
3. 24　定時総会
3. 24　全国歯科衛生士教育協議会（東京）
3. 30　日本歯科医師連盟第112回評議員会（日歯）
3. 31　日本学校歯科医会第78回総会（日歯）

日本歯科医師会の動き

平成22年（2010）

12. 9　平成22年度学校保健統計調査結果が文科省より発表
30年で３割以上改善
中学校43.31％、幼稚園40.43％
小学校34.35％、高等学校35.95％

平成23年（2011）

1. 29　日歯・日本栄養士会第２回共催事業シンポジウム「食べることは生きること」（日歯会館）
1. ー　国立がん研究センターとの連携事業開始
3. ー　「東日本大震災」で対策本部設置
3. ー　海上保安庁と歯牙鑑定の立会い等で協定書締結

世の中の動き

平成22年（2010）

4. 1　子ども手当法、高校無償化法が施行
4. 20　宮崎県で口蹄疫の牛が確認される
9. 7　中国漁船、尖閣諸島付近で海上保安庁巡視船に衝突
9. 21　中国がレアアース（希土類）対日輸出禁止措置
10. 6　鈴木章、根岸英一がノーベル化学賞受賞

平成23年（2011）

3. 11　東日本大震災発生（M9.0）。地震・津波による死者１万5,884人・行方不明者2,640人（2014年１月10日時点）

平成23年度（2011年4月～2012年3月）

■会員数　535名（4月1日現在）

一般社団法人への移行に伴う定款・規則の改正が議決される

平成23（2011）年７月14日（木）午後７時30分より富山県歯科保健医療総合センターにおいて平成23年度第２回臨時代議員会が開催された。

公益法人制度改革に伴い、定款並びに定款施行規則、選挙規則、選挙委員会規則、入会金及び会費等に関する規則の改正案が原案のとおり可決決定され、平成24（2012）年４月１日に一般社団法人へ移行することとなった。

「歯科口腔保健の推進に関する法律」が成立

第177回通常国会において、「歯科口腔保健の推進に関する法律」が可決･確定した。審議は、参議院先議で行われ、平成23（2011）年７月26日の参議院厚生労働委員会、27日の参議院本会議、29日の衆議院厚生労働委員会を経て８月２日の衆議院本会議において成立した。

国民が健康で質の高い生活を営む上で、基礎的かつ重要な役割を担うため、「歯科口腔保健の推進に関する法律」の成立は、歯科界にとって長年の責務であった。

■歯科口腔保健の推進に関する法律の概要

○口腔の健康は、国民が健康で質の高い生活を営む上で基礎的かつ重要な役割
○国民の日常生活における歯科疾患の予防に向けた取り組みが口腔の健康の保持に極めて有効

国民保健の向上に寄与するため、歯科疾患の予防等による口腔の健康の保持（以下「歯科口腔保健」）の推進に関する施策を総合的に推進するために、平成23（2011）年８月10日に、「歯科口腔保健の推進に関する法律」が公布、施行された。

基本理念

①国民が、生涯にわたって日常生活において歯科疾患の予防に向けた取り組みを行うとともに、歯科疾患を早期に発見し、早期に治療を受けることを促進
②乳幼児期から高齢期までのそれぞれの時期における口腔とその機能の状態及び歯科疾患の特性に応じて、適切かつ効果的に歯科口腔保健を推進
③保健、医療、社会福祉、労働衛生、教育その他の関連施策の有機的な連携を図りつつ、その関係者の協力を得て、総合的に歯科口腔保健を推進

責　務

①国及び地方公共団体、②歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士等、③国民の健康の保持増進のために必要な事業を行う者、④国民について、責務を規定
国…施策の総合的な実施のための方針、目標、計画その他の基本的事項を策定・公表する
都道府県…基本的事項の策定の努力義務　※国及び地方公共団体は、必要な財政上の措置等を講ずるよう努める。
口腔保健支援センター…都道府県、保健所設置市及び特別区が設置〔任意設置〕　※センターは、歯科医療等業務に従事する者等に対する情報の提供、研修の実施等の支援を実施
国民…日常生活での歯科疾患予防に向けた取り組みを行い、定期的な歯科検診を受け、必要に応じて歯科保健指導を受ける

歯科口腔保健の推進に関する具体的な施策

①歯科口腔保健に関する知識等の普及啓発等歯科口腔保健に関する知識と予防に向けた取り組みを広め、理解を高める

②定期的に歯科検診を受けること等の勧奨等定期的に歯科検診を受けることを推奨する、必要に応じて歯科保健指導を受けることを推奨する

③障害者等が定期的に歯科検診を受けること等のための施策等
障害者、介護を必要とする高齢者などが、定期的に歯科検診が受けられる施策を検討する

④歯科疾患の予防のための措置等
個別的または公衆衛生の見地から行う歯科疾患（虫歯や歯周病など）予防などの措置をとる

⑤口腔の健康に関する調査及び研究の推進等お口の健康に関する調査及び研究の推進を行う

富山県歯科医師会の動き

平成23年（2011）

4. 1 吉田季彦会長再任（２選）
4. 1 第１回臨時代議員会
4. 3 総合学院入学式
4. 27 社会保険特別研修会（５月10日）
5. 13 全国歯科技工士教育協議会理事長・校長会議教務主任会議並びに総会（大阪）
5. 26 第29回富山県歯科医師協同組合通常総代会
6. 2 日本歯科医師会第168回臨時代議員会（日歯）
6. 2 被災地復興に向けて元気を送る会（東京）
6. 3 日本歯科医師連盟第113回臨時評議員会（日歯）
6. 3 日本顎顔面補綴学会総会・学術大会（～４日）
6. 5 歯っぴーフェスタ8020（イオンモール高岡）
6. 7 総合センター研修会　ベーシックコース
6. 8 総合センター研修会　アドバンスコース（８日、16日）
6. 9 カミング30推進事業指導内容検討会（富山県庁）
6. 19 HBs抗原・抗体検査、HCV抗体検査（19日、26日）
6. 19 歯科助手資格認定講習会（19日、26日）
6. 19 日歯生涯研修セミナー（福井）
6. 22 日本学校歯科医会第79回総会（日歯）
6. 22 学校歯科医制度80周年・日本学校歯科医会設立40周年記念式典（東京）
6. 25 北陸三県歯科医師会役員連絡協議会（福井）
6. 26 第２回北信越障害者歯科臨床研究会（新潟）
7. 7 （仮称）歯科保健条例の素案作成勉強会
7. 10 歯科専門職研修会（学術部）
7. 13 東海北陸厚生局養成施設指導調査
7. 14 第２回臨時代議員会
7. 15 三師会定期懇談会
7. 19 日本歯科医学会第86回評議員会（日歯）
7. 28 「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」第１次審査会
7. 28 第１回臨時総会
7. 29 第21回近畿北陸地区歯科衛生士教育協議会（大阪）
8. 5 歯科保健条例制定の打合せ
8. 7 三世代お口さわやか大賞審査会
8. 8 富山県議会議員会政務調査会との懇談会
8. 13 「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」第２次審査会
8. 23 全国歯科医師国保組合富山県支部理事会
8. 25 第１回歯科保健関係者研修会
8. 26 第112回都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
9. 2 都道府県歯科医師連盟会長会議（日歯）
9. 4 法歯学研修会
9. 8 日本歯科医師会第169回代議員会（日歯、～９日）
9. 9 日本歯科医師会第123回通常総会（日歯）
9. 15 第１回在宅歯科医療連携推進事業研修会（富山国際会議場）
9. 16 日本歯科医師連盟第114回臨時評議員会（日歯）
9. 25 レクリエーション「飛騨高山散策の旅（岐阜）」
9. 25 社会保険情報ネットワーク連絡協議会（東京）
9. 26 社会保険指導者研修会（東京）
10. 2 障害者歯科医療研修会
10. 4 いきいきとやま・第24回健康と長寿の祭典（富山県民会館、～５日）
10. 13 第２回在宅歯科医療連携推進事業研修会（富山国際会議場）
10. 16 第１回学術研修会
10. 16 日本糖尿病協会富山県支部創立20周年式典（富山国際会議場）
10. 20 第75回全国学校歯科保健研究大会（愛媛、～21日）
10. 21 第17回富山県「いい歯カムカムすこやか大賞」第２次審査会
10. 21 第75回全国学校歯科保健研究大会（愛媛）
10. 27 総合学院歯科衛生士科戴帽式
10. 27 第61回全国学校歯科医協議会（静岡）
11. 4 第10回警察歯科医会全国大会（岩手）
11. 6 第63回近畿北陸地区歯科医学大会（滋賀）
11. 6 近畿北陸地区歯科医師会役員連絡協議会（滋賀）
11. 8 「いい歯の日」表彰式（富山県庁）
11. 9 富山県歯科保健医療対策会議
11. 10 正しい歯の磨き方講習会（小矢部市立大谷小・中学校）
11. 19 第32回全国歯科保健大会（岐阜）
11. 24 第３回臨時代議員会
12. 4 日本学校歯科医会生涯基礎研修会（石川）
12. 7 第２回歯科保健関係者研修会
12. 10 功労会員表彰式・顕彰式・祝賀会兼忘年会（電気ビルレストラン）
12. 10 警察歯科医身元確認および災害コーディネーター研修会（日歯）

平成24年（2012）

1. 7 富山市歯科医師会創立90周年記念式典・祝賀会（富山第一ホテル）
2. 8 日本学校歯科医会加盟団体長会（日歯）
2. 11 「歯科口腔保健の推進に関する法律」成立記念式典及び国民向けシンポジウム（東京）
2. 16 日歯生涯研修セミナー DVD研修会
2. 23 小規模県歯科医師会役員懇話会（日歯）
2. 24 第113回都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
3. 1 社会保険医療懇談会（カナルパークホテル）
3. 2 都道府県歯科医師連盟会長会議（日歯）
3. 4 医療管理（医療安全）講習会
3. 8 日本歯科医師会第170回代議員会（日歯、～９日）
3. 9 日本歯科医師会第124回通常総会（日歯）
3. 11 総合学院卒業式
3. 15 定時代議員会
3. 16 日本歯科医師連盟第115回評議員会（日歯）
3. 21 日本学校歯科医会第80回総会（日歯）
3. 27 定時総会
3. 27 全国歯科衛生士教育協議会（東京）
3. 29 社会保険伝達講習会

日本歯科医師会の動き

平成23年（2011）

7. 9 世界口腔保健学術大会記念第17回口腔保健シンポジウム開催（大阪）
8. 2 「歯科口腔保健の推進に関する法律」成立（８月10日公布）
8. ― 身元確認システム統一等へ警察庁、厚労省との検討会設置
10. 4 第32回全国歯科保健大会開催（岐阜）
10. 22 口腔保健フォーラム2011「歯と口からはじまる健康ファミリー」開催（～23日）

平成24年（2012）

1. 21 日本栄養士会・日本歯科医師会第３回共同シンポジウム開催
2. 11 「歯科口腔保健の推進に関する法律」成立記念シンポジウム開催
2. ― 『歯科医師会からの提言　食べる―生きる力を支える』第１巻刊行（６月までに全３巻刊行）

世の中の動き

平成23年（2011）

6. 24 東日本大震災復興基本法公布・施行
6. 30 政府与党が消費税増税を含む「社会保障と税の一体改革」案を決定
7. 1 東北電力管内で電力使用制限令発動
9. 2 野田佳彦内閣成立
9. 19 東京で６万人規模の脱原発デモ

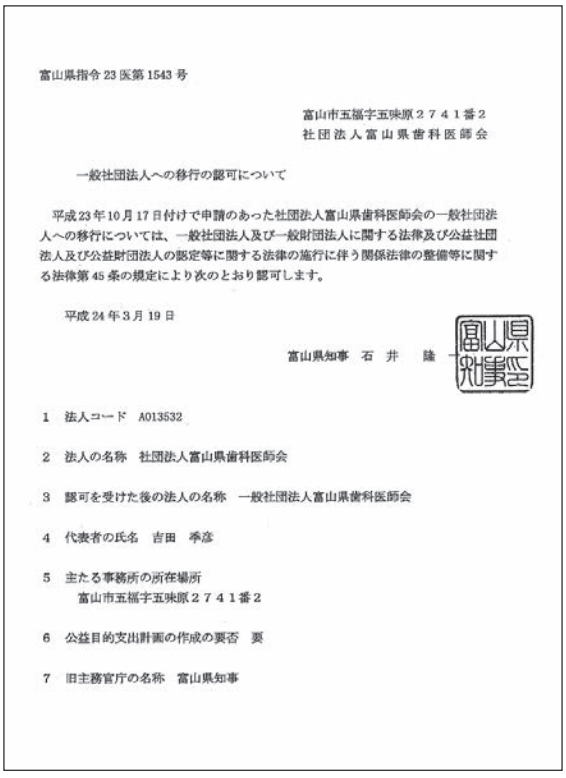
平成24年度（2012年4月～2013年3月）

■会員数　536名（4月1日現在）

一般社団法人への移行について

社団法人富山県歯科医師会は平成24（2012）年３月19日付で一般社団法人への移行認可を受け、４月１日付にて「一般社団法人富山県歯科医師会」として移行登記された。

移行登記をもって、本会は、正式に一般社団法人となり、改正された定款・規則が施行することとなり、これで公益法人制度改革が完了した。



富山県指令 23 医第 1543 号

富山市五福字五味原２７４１番２
社団法人富山県歯科医師会

一般社団法人への移行の認可について

平成 23 年 10 月 17 日付けで申請のあった社団法人富山県歯科医師会の一般社団法人への移行については、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第 45 条の規定により次のとおり認可します。

平成 24 年 3 月 19 日

富山県知事　石　井　　隆

1　法人コード　A013532

2　法人の名称　社団法人富山県歯科医師会

3　認可を受けた後の法人の名称　一般社団法人富山県歯科医師会

4　代表者の氏名　吉田　孝彦

5　主たる事務所の所在場所
　富山市五福字五味原２７４１番２

6　公益目的支出計画の作成の要否　要

7　旧主務官庁の名称　富山県知事

一般社団法人認可証

第１回全国歯科医師会野球大会に参加

本会では会員有志が写真、ボウリング、硬式テニス、野球同好会を結成して活動を行っている。中でも野球は歴史が古く、10月６日（土）・７日（日）両日に京都で行われた近畿北陸地区歯科医師会親善野球大会は回を重ねること65回、平成26年度には富山県で開催されることが決まっている。平成22（2010）年からは富山県歯科医師会会長杯野球大会が開催され、本年も５月20日（歌の森運動公園野球場）、８月19日（新港の森・新港球場）、９月17日（五福公園野球場）の日程で２回戦のリーグ戦が行われた。参加チームは富山タイタンズ、射水シャングリラ、新川ディアーズ、高岡デンチャーズの４チーム。優勝は高岡デンチャーズ（４勝１敗１分）で、昨年度４位からの躍進となった。

杉木進野球同好会監督以下13名の野球同好会のメンバーは、８月25日・26日に開催された第１回全国歯科医師会野球大会「絆・がんばろう！東北！」に参加した。アルカディア市ヶ谷で行われた前夜祭では、東日本大震災の復興状況などが報告され、元メジャーリーガー佐々木主浩氏も駆けつけチャリティーオークションが行われた。当日販売されたＴシャツの販売益を含む義援金は300万円を超えた。翌日、本会メンバーは西武ドームに会場を移し、群馬県との試合に臨んだ。結果は、粘りを見せたものの４対10で惜しくも敗れた。

西武ドームで行われた試合に出場した同好会メンバー

富山県歯科医師会の動き

平成24年（2012）

4. 5 富山県警察法歯学協力医登録証交付式及び研修会（富山県警察本部）
4. 8 総合学院入学式
4. 25 医療請求事務者講習会
5. 16 社会保険特別研修会
5. 17 全国歯科技工士教育協議会理事長・校長会議教務主任会議並びに総会（埼玉）
5. 24 第30回富山県歯科医師協同組合通常総代会
5. 30 訪問歯科診療に対する社会保険講習会
5. 31 富山県歯科保健対策会議・企画委員会合同会議
6. 3 歯っぴーフェスタ8020（イオンモール高岡）
6. 10 第64回近畿北陸地区歯科医学大会（兵庫）
6. 14 8020ワークショップ2012（日歯）
6. 17 HBs抗原・抗体検査、HCV抗体検査（17日、24日）
6. 17 ヘリカルCT肺がん検診
6. 21 郡市歯科医師会会長・班長合同会議
6. 24 学術（医療安全）講習会
6. 26 総合センター研修会（CT、～28日）
6. 27 日本学校歯科医会第81回総会（日歯）
6. 28 富山県歯科医師連盟定時総会　定時代議員会
7. 6 母と子のよい歯のコンクール２次審査会
7. 10 第１回総合センター研修会
7. 12 「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」第１次審査会
7. 20 三師会定期懇談会
7. 22 第１回歯科専門職研修会（在宅歯科診療）
7. 25 全国歯科医師国保組合通常組合会（東京）
8. 9 第１回歯科保健関係者研修会
8. 9 「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」第２次審査会
8. 24 第114回都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
8. 25 第11回警察歯科医会全国大会（三重）
8. 30 金沢国税局管内税務指導者協議会（ANAクラウンプラザホテル富山）
9. 4 第２回総合センター研修会
9. 7 都道府県歯科医師連盟会長会議（日歯）
9. 13 第171回日歯代議員会（日歯）
9. 14 第171回日歯代議員会・第125回通常総会（日歯）
9. 16 レクリエーション「なつかしくて新しい日本昭和村で遊ぼう!」
9. 26 「学校歯科医生涯研修制度」基礎研修会
9. 28 第29回日本障害者歯科学会総会および学術大会（北海道）（28～30日）
9. 29 北陸三県歯科医師会役員連絡協議会（富山）
9. 30 日歯生涯研修セミナー
9. 30 北陸三県歯科医学学術講演会（富山）
9. 30 歯科衛生士リカバリー研修会
9. 30 社会保険情報ネットワーク連絡協議会（東京）
10. 1 社会保険指導者研修会（東京）
10. 3 いきいきとやま第25回健康と長寿の祭典
10. 4 正しい歯の磨き方講習会（小矢部市立大谷小・中学校）
10. 6 第65回近畿北陸地区歯科医師会親善野球大会（京都、～７日）
10. 16 在宅歯科医療連携推進研修会（国際会議場）
10. 19 第18回富山県「いい歯カムカムすこやか大賞」第２次審査会
10. 25 歯科総合学院歯科衛生士科戴帽式
10. 25 第76回全国学校歯科保健研究大会（群馬）
10. 25 歯科保健対策会議企画委員会
10. 27 第33回全国歯科保健大会（青森）
10. 31 都道府県歯科医師連盟会長・理事長・事務局長連絡会（日歯）
11. 8 歯科衛生士リカバリー研修会
11. 8 「いい歯の日」表彰式
11. 8 第62回全国学校歯科医協議会（熊本）
11. 11 近畿北陸地区歯科医師会役員連絡協議会（大阪）
11. 12 富山県知事との懇談会
12. 4 第２回歯科保健関係者研修会
12. 8 功労会員表彰式・顕彰式・祝賀会兼忘年会（富山第一ホテル）
12. 12 歯科医師国保組合指導監督

平成25年（2013）

1. 17 （仮称）歯科保健関係条例打合せ会
1. 31 全国都道府県・郡市区歯科医師連盟代表者連絡会議（東京）
2. 12 （仮称）歯科保健関係条例打合せ会
2. 13 日本学校歯科医会加盟団体長会（日歯）
2. 19 第３回総合センター研修会
2. 21 小規模県歯科医師会役員懇話会（日歯）
2. 22 第115回都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
2. 24 障害者歯科医療研修会
2. 27 歯と口腔の健康づくり条例（仮称）検討プロジェクトチーム会議
3. 3 歯科衛生士研修会
3. 7 社会保険医療懇談会（ボルファートとやま）
3. 8 都道府県歯科医師連盟会長会議（日歯）
3. 10 総合学院卒業式
3. 14 第172回日歯代議員会（日歯）
3. 15 第172回日歯代議員会・第126回通常総会（日歯）
3. 24 第２回歯科専門職研修会
3. 26 全国歯科衛生士教育協議会総会（東京）
3. 27 日本学校歯科医会第82回総会（日歯）
3. 28 臨時代議員会

日本歯科医師会の動き

平成24年（2012）

4. 1 シンポジウム「なくそう 減らそう 歯の病気～考えようハミガキの大切さ～」開催
4. 7 第33回健康づくり提唱のつどい（日歯共催）
5. 9 2012年「歯の健康シンポジウム」開催
7. 7 世界口腔保健学術大会記念 第18回口腔保健シンポジウム開催
11. 9 第22回日本歯科医学総会開催（～11日、大阪）
11. ― 日歯年金保険と日歯福祉共済保険　特定保険業に認可
12. 1 日歯災害コーディネーター（身元確認・災害歯科保健）研修会（兵庫）

平成25年（2013）

1. ― 日体協と同協会公認スポーツデンティスト育成へ覚書交わす（平成25年度から養成講習会開始）
3. 21 内閣総理大臣より公益社団法人認定書公布される
3. 31 歯科インプラント市民フォーラム2013開催
3. ― 医事紛争対応の手引書の改訂版『医事紛争を起こさないために』作成

世の中の動き

平成24年（2012）

4. 17 石原慎太郎東京都知事、ワシントンで尖閣諸島購入計画を発表
8. 10 消費税増税を柱とする社会保障・税一体改革関連法可決、成立
8. 10 韓国・李明博大統領、竹島に上陸。14日、天皇に謝罪要求
9. 11 政府、尖閣諸島を購入・国有化
9. ― 中国で「尖閣問題」を巡り反日激化
12. 10 山中伸弥教授がノーベル医学生理学賞受賞
12. 16 衆院選で自民党圧勝、３年３カ月ぶりの政権奪還
12. 26 第２次安倍晋三内閣成立

平成25年（2013）

1. 1 東京証券取引所グループと大阪証券取引所が合併。株式会社日本取引所グループに商号変更

平成25年度（2013年4月～12月）

■会員数　535名（4月1日現在）

「富山県歯と口腔の健康づくり推進条例」が成立

富山県歯科医師会が予てより要望していた歯科保健関係の条例制定について、平成25（2013）年６月12日、自由民主党富山県議会議員会で「富山県歯と口腔の健康づくり推進条例（仮称）」の素案が策定された。歯と口腔の健康づくりを総合的かつ計画的に推進し、県民の生涯を通じた健康づくりに寄与するのが目的である。平成25年２月に条例検討プロジェクトチームが設置されて以来、医療・介護関係者、教育・保育関係者、市町村関係者など、様々な方々のご意見を積極的に取り入れ、議員提案であることのメリットを最大限に活かし、政策が着実に実施されるよう具体的な規定を盛り込まれたものとなった。

■自由民主党富山県議会議員会　歯と口腔の健康づくり推進条例（仮称）検討プロジェクトチーム

座　　長	五十嵐務（福祉環境部会長）
副 座 長	宮本光明（政務調査会長）
事務局長	山本　徹（政務調査会副会長）
事務局次長	奥野詠子（福祉環境部会副部会長）
メンバー	武田慎一（政務調査会副会長）
	矢後　肇（厚生環境委員長）

６月12日（水）から７月11日（木）までの間、富山県議会のホームページ等でパブリックコメントを実施され、９月30日、富山県議会平成25年９月定例会において、条例案が提案され成立した。（「富山県歯と口腔の健康づくり推進条例」p.324参照）

■条例案提案理由

歯と口腔の健康が生涯にわたって健康で質の高い生活を営む上で基礎的かつ重要な役割を果たすことにかんがみ、県民の歯と口腔の健康づくりについて、基本理念を定め、県等の責務及び歯科医師等の役割を明らかにし、施策の基本となる事項を定めることにより、歯と口腔の健康づくりを総合的かつ計画的に推進するもの。

富山県口腔保健支援センター設置

平成25（2013）年11月８日（金）、富山県厚生部健康課内に「富山県口腔保健支援センター」が設置された。富山県歯と口腔の健康づくり推進条例や県民歯と口の健康プランに沿った施策を拡充することを目的としている。

具体的には、要介護者や障害者の在宅歯科医療、保育所・幼稚園や小中学校でのフッ化物洗口、歯周病と糖尿病などとの関係を踏まえた普及啓発や医科歯科連携等の推進に取り組まれる。

県庁健康課前に山崎康至厚生部長と吉田季彦県歯科医師会長がセンターの看板を掲げた。

センターの看板を掲げる吉田会長

物故会員追悼慰霊祭を開催

平成25（2013）年10月６日（日）午前10時より、富山県歯科保健医療総合センター３階において、「物故会員追悼慰霊祭」を厳かに執り行った。慰霊祭にはご遺族、会員約120名が参列、御霊の御冥福を祈り黙祷を捧げた後、事務局より物故会員172名（本会創立70周年記念物故会員追悼式以降の方々）の氏名が奉読された。

吉田会長が「本会の所期の目的を達成するため会員一丸となって本会の発展と福祉の増進に寄与することをご霊前にお誓いいたします」と追悼のことばを述べ、栗山前会長、安田・山﨑両副会長と共に特別献花を行い、続いてご遺族、会員による献花が行われ、参列者全員で故人となられた先生方の在りし日を偲んだ。

吉田会長による追悼のことば

物故会員芳名

（昭和58年10月22日以降　逝去年月日順）

佐々木　止	飯田　弘	三鍋　厚樹	稲場　文久	小泉　明久	近藤　秀雄
渡辺　親良	郷倉　信一	伊東　祐年	小山　辰二	藤井　弘	岡崎　満雄
石崎　憲吾	早見　治顕	木下　信雄	米沢　真一	岩井　道雄	原田　昭博
杉江　玄照	北山　静次	古戸　充	島田　栄吉	細川喜代子	片山　浄慧
四日　善一	千保　利	青木　健治	竹林　正俊	三島　三郎	北山善之進
渋谷　孝雄	林　弘	永森　尚之	山田　阿月	黒木　正直	松島　正康
宮本　乙男	小高　啓三	熊木　甚朔	奥野　和男	北口　力也	阿部　則行
宮本　俊治	原田　修逸	関　清子	沖田　弘正	奥村　朋宏	及川　哲夫
高野秀次郎	倉田　卓	青木　進	島　秀雄	杉江　玄己	田中　貢
山下　長蔵	小山　俊彦	松能　二郎	河原　信隆	和田　信雄	高田　澄子
小泉　直久	時女外与三	牧野　貞子	石黒　繁	島田　正三	岡田　洋昭
中野　由蔵	竹島　恵子	長久　隆	源　三郎	水野　知之	小杉　元治
岡本　学	清水　周明	岡田　正三	新谷　寿康	吉沢　進	倉田　雅人
大野　静夫	家城　圭一	酒井　信義	谷口　博朗	宝田　力	斉藤　孝雄
菅田　晴山	石多　謙三	横田　一二	吉岡　二枝	上滝　元彦	吉崎　定夫
三羽　博久	山田　外雄	小森　甚作	吉田　茂	小林　全二	島　信行
倉田敬二郎	石多　謙治	高広　勇次	板橋　修	荒井　亮雄	成瀬　達雄
中川　弘	平井　喜美	松本　秀子	奥平ユキエ	堀井　富子	逸見　玲
玉井　健三	山本　壮一	芳尾　弘史	広瀬　一男	高石　叡	大江　金雄
成瀬　八郎	宮本　菊枝	茶山　信吉	大井ハツ子	鷹取　昭治	平井　高明
吉村　史郎	木下　庄作	小橋　長造	金森　安信	川上　清江	山口　清衣
赤祖父三郎	大道　勇二	中保　朔男	柚木　一夫	坂下　孝則	中尾　修
青木　勝二	木下　友栄	大菅　十造	佐渡　永貞	福島　武人	寺崎　久良
藤井起三郎	仲村　博	対馬　久雄	関　信一	坪田　忠近	近川　洋
岩井二三雄	桜木　成一	水野　公之	勝木　完司	中島　清則	恵森　登
清水　幸七	三崎　譲司	直江　尚利	魚津　竹男	深山　正之	黒川五一郎
島田余三男	大野　繁彦	山崎　安隆	立野　泰三	岩井　輝雄	吉川　由治
岩倉　リイ	田中　直次	中島　忠一	島田　忍子	渡辺　綱男	
菅野　宜紀	米田　祐弘	田上　修	小林　信	神田　純郎	

創立100周年記念ゴルフ大会を開催

本会創立100周年記念事業の一環で、平成25（2013）年９月29日（日）、日本海と立山連峰が一望できる呉羽カントリークラブ(富山市三熊)立山コースにおいて、創立100周年記念ゴルフ大会を富山県歯科医師グリーン会との共催で開催した。

好プレー、珍プレーが繰り広げられる中、やはりというか、優勝は、県下トップアマの宮本将利先生だった。プレー後のパーティーでは、吉田会長よりご挨拶があり、いつものグリーン会では出てこない美味しいステーキをいただきながら、ゴルフ談義に花が咲いた。

吉田会長より、豪華賞品（すべて松茸）が、優勝の宮本先生はじめ入賞の先生方に手渡され、皆さん松茸ゲットで大喜びだった。

100周年を記念するにふさわしい親睦を深める素晴らしいゴルフ大会であった。

優勝おめでとう！「ハハハ…やっぱり。」

今日はエージシュートだぞ！

楽しいゴルフでした。でも疲れた～。

本会会員人命救助で感謝状受ける

平成25（2013）年８月15日、岩瀬浜海水浴場で小学４年の男児が溺れ、現場に居合わせた本会会員の山田耕先生とご子息ら３人が脈拍の確認、気道確保、人工呼吸などの応急処置を行った。男児は当初意識がなかったが、救急隊員到着時には意識レベルが回復していた。富山北署は、同月28日、救命措置を行った３人に感謝状を贈った。

岩瀬浜で男児おぼれ
大学院生ら救命処置
命に別条なし

15日午前11時15分ごろ、富山市岩瀬古志町の岩瀬浜海水浴場で、親戚ら6人で泳ぎに来ていた同市八尾町井田、会社員、堀井一宏さん(45)の長男、雅仁君(10)＝同市杉原小学校4年＝がおぼれ、海水浴客が110番した。居合わせた大学院生らが救命処置を実施。大量の海水を飲んだ雅仁君は肺水腫のため県立中央病院の集中治療室に入っているが、意識や呼吸はあり、命に別条はないという。

富山北署によると、雅仁君が遊泳区域内の沖合約40メートル付近でおぼれているのを親戚の男児が見つけ、叔父が救助した。雅仁君は当初、意識がない状態だったという。

近くにいた同市金泉寺の富山大大学院生、山田浩太さん(30)と父親(59)、別の男性(36)ら5人が協力。同署などに通報、雅仁君の気道を確保し人工呼吸を続けた。救急隊員の到着時には、意識レベルが回復していたという。

同署は「雅仁君を助けようと救命処置をしてくれた方々に感謝したい。一日も早い回復を祈っている」と話した。

人命救助を伝える新聞記事（北日本新聞、平成25年8月16日）

富山県歯科医師会の動き

平成25年（2013）

4. 7 総合学院入学式
4. 9 東海北陸厚生局地方社会保険医療協議会（愛知）
4. 17 社会保険特別研修会
4. 21 富山県警察協力歯科医（法歯学）研修会
5. 10 全国歯科技工士教育協議会「理事長･校長会議教務主任会議並びに総会」（鹿児島）
5. 15 都道府県歯科医師連盟理事長･事務局長連絡会（日歯）
5. 31 第116回都道府県歯科医師会会長会議（日歯）
6. 2 歯っぴーフェスタ8020（イオンモール高岡）
6. 7 都道府県歯科医師連盟会長会議（日歯）
6. 12 自民党富山県議会議員会 歯と口腔の健康づくり条例（仮称）検討ＰＴとの打合せ会（奥田屋）
6. 16 HBs抗原･抗体検査、HCV抗体検査（16日、23日）
6. 16 歯科助手資格認定講習会（16日、23日）
6. 18 総合センター研修会ベーシックコース
6. 19 総合センター研修会アドバンスコース①
6. 20 総合センター研修会アドバンスコース②
6. 20 第173回日歯代議員会（日歯）
6. 23 第４回北信越障害者歯科臨床研修会（長野）
6. 25 定時代議員会　吉田季彦会長再任（３選）
6. 26 日本学校歯科医会第81回総会（日歯）
6. 27 第31回富山県歯科医師協同組合通常総代会
6. 27 富山県歯科医師連盟定時総会
7. 9 本会創立100周年記念座談会（天米）
7. 11 「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」第１次審査会
7. 12 親と子のよい歯のコンクール２次審査会
7. 13 近畿北陸地区歯科医師会会長・専務理事会（奈良）
7. 16 第１回総合センター研修会
7. 18 郡市歯科医師会会長会議・国保組合運営協議会
7. 24 全国歯科医師国保組合本部組合会（東京）
7. 25 第１回臨時代議員会
7. 28 第１回歯科専門職研修会（学術研修会）
8. 1 第50回北陸三県学校保健研究協議会
8. 2 関西北陸地区歯科技工士学校連絡協議会（京都）
8. 4 日歯生涯研修セミナー・北陸三県歯科医学学術講演会（石川）
8. 4 三世代お口さわやか大賞審査会
8. 9 三師会定期懇談会
8. 12 「歯・口の健康に関する図画・ポスター展」（富山市民プラザ、12～15日）
8. 13 「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」第２次審査会
8. 22 富山県歯科保健医療対策会議
8. 24 第12回警察歯科医会全国大会（福島）
8. 27 第１回歯科保健関係者研修会
8. 29 在宅歯科医療連携推進研修会
9. 4 新任学校歯科医研修会
9. 12 第174回日歯代議員会（日歯）
9. 15 レクリエーション「上高地の旅」
9. 17 第２回総合センター研修会
9. 26 社会保険情報ネットワーク連絡協議会（東京）
9. 27 社会保険指導者研修会（東京）
9. 29 富山県歯科医師会創立100周年記念ゴルフ大会（呉羽カントリークラブ）
10. 3 歯と口の健康教室（朝日町立あさひ野小・朝日中学校）
10. 6 富山県歯科医師会物故会員追悼慰霊祭
10. 9 いきいきとやま第26回健康と長寿の祭典（県民会館、～10日）
10. 11 第30回日本障害者歯科学会総会及び学術大会（兵庫、～13日）
10. 17 第77回全国学校歯科保健研究大会（熊本、～18日）
10. 18 第19回富山県「いい歯カムカムすこやか大賞」第２次審査会
10. 24 歯科衛生士科戴帽式
10. 27 第65回近畿北陸地区歯科医学大会（富山国際会議場）
10. 27 近畿北陸地区歯科医師会役員連絡協議会（富山）
11. 7 第63回全国学校保健研究大会（秋田）
11. 8 「いい歯の日」表彰式（県民会館）
11. 12 第３回総合センター研修会
11. 16 第34回全国歯科保健大会（大分）
12. 1 一般社団法人富山県歯科医師会創立100周年記念式典・祝賀会（富山国際会議場）
12. 4 がん診療医科歯科連携推進協議会（日歯）
12. 6 国民医療を守るための総決起大会（日比谷公会堂）
12. 12 平成25年度第２回歯科保健関係者研修会

日本歯科医師会の動き

平成25年（2013）

4. 一 公益社団法人に移行登記
5. 8 2013年歯の健康シンポジウム
5. 19 「なくそう　減らそう　歯の病気」シンポジウム
6. 一 『大規模災害時の歯科医師会行動計画』改訂版を作成（身元確認マニュアルの改訂含む）
7. 6 第19回口腔保健シンポジウム
8. 1 第34回全国歯科保健大会実行委員会（大分県）
9. 12 日歯創立110周年を祝う会･役員就任披露パーティー（ホテルニューオータニ）
11. 8 ベストスマイル・オブ・ザ・イヤー2013授賞式

世の中の動き

平成25年（2013）

4. 19 公職選挙法改正案が参議院で可決成立、インターネット選挙運動が解禁
5. 12 富山県置県130年記念式典開催（県民会館）
6. 22 富士山、世界文化遺産に登録
7. 21 参議院議員選挙投開票、自由民主党が12年ぶりに比例区で第一党に
8. 9 財務省、「国の借金」が初めて1000兆円を突破したことを発表
8. 12 高知県四万十市で日本国内観測史上最高気温（41度）を記録
9. 7 2020年夏季オリンピック開催都市が東京に決定
11. 3 東北楽天ゴールデンイーグルス、球団創設９年目、日本シリーズに初めて進出して日本一に

平成26年（2014）

1. 13 第92回全国高校サッカー選手権　富山第一高校初優勝

上高地の旅

富山一 全国制覇
富山新聞
高校サッカー
土壇場 2点差逆転
延長で星稜下し県勢初
長崎部長、大塚監督

平成26年1月14日付　富山新聞

一世紀録

富山県歯科医師会100年史

テーマ史

周年行事（創立記念行事）

創立100周年記念式典（平成25年12月1日）

大正３（1914）年に誕生した富山県歯科医師会は、平成25（2013）年に創立100周年を迎えた。本会では、過去の事績を讃え、その足跡を振り返るとともに、会員一同が一致団結して更なる発展へと向かう新たなスタートの原点として、10年ごとに節目を祝う周年行事（創立記念式典等）を開催してきた。

ここでは、富山県歯科医師会報に記録されている創立40周年以降の周年行事から、本会のこれまでの諸先輩方の歩みを総覧する。

・創立40周年記念行事　昭和28年10月18日
・創立50周年記念行事　昭和38年10月13日･20日
・創立60周年記念行事　昭和48年７月15日
・創立70周年記念行事　昭和58年10月22日
・創立80周年記念行事　平成５年11月28日
・創立90周年記念行事　平成15年11月29日
・創立100周年記念行事　平成25年12月１日

創立60周年記念式典（昭和48年7月15日）

物故会員追悼式（昭和58年10月22日）

創立40周年記念行事

昭和28（1953）年10月18日、本会創立40周年記念行事が執り行われた。記念行事は、午前９時より、東別院において物故会員45氏の遺族を招いた慰霊祭で始まった。その後、富山駅近くの富山県薬業会館に場所を移し、創立40周年記念式典が本会関係者をはじめ、多数の来賓が臨席するなか開催された。

浦野與四郎富山県歯科医師会長の式辞で始まった式典は、まず本会創立に尽力された藤井義人顧問、小林金次顧問、大道憲治代議員会議長の三氏に創立40周年記念功労者表彰が贈られた。その後、高辻武邦富山県知事の祝辞（代読）に続いて、竹中恒夫日本歯科医師会副会長、正木芳隆富山県医師会長が祝辞を述べ、阿部清一専務理事より祝電が披露された。

式典半ばで、藤井義人顧問より本会創立に至るまでの経緯と苦労が回顧談として語られ、遠藤県衛生部長による万歳三唱、岩井副会長の閉会の挨拶で終了した。

式典に続いて行われた記念講演会では、小野寅之助大阪歯科大学教授による『歯疾の本質からみた我が国健保診療の現状』、社会保険のエキスパートでもある竹中恒夫日本歯科医師会副会長による『社会保険と税の関連について』の講演に耳を傾けた。

その後富山ホテルに場所を移し、40周年記念祝賀懇親会が行われ、無事幕を閉じた。

創立40周年記念式典慰霊祭にて追悼された物故会員（45氏）

島川安次郎	菅田良雄	山本千代治	橋本良信	大金均	川岸吉之助	岡崎仁
谷口仙太郎	殿城金次郎	三崎恒子	岡本弘	仲村義重	仲村音義	渡辺庄治
宮島忠治	羽柴作蔵	村井信義	永野一彦	近江貞之	渡辺初太郎	高木善鉞
川岸要助	赤祖父元吉郎	宮島義	山下敬松	松浦三郎	近藤緑	
田中安義	南川信	近江貞仁	藤井義次	北森愛子	阿部孫太郎	
秋知八平	沼隈遠影	坂井茂	和記見津吉	藤井三郎	神島俊一郎	
草刈博	高井勇三	深山敏弘	鷹島慶二	植田実	宮田正	

創立50周年記念行事

本会創立50周年記念行事は、昭和38（1963）年10月13日、20日の２日間の日程で執り行われた。

第１日目は、午前10時より富山市公会堂５階ホールにおいて記念学術講演会が行われた。魚津学術担当理事の開会の辞に始まり、川口義門会長による挨拶に続いて、石原寿郎東京医科歯科大学教授がまず登壇し、『前歯部ブリッジについて』の講演が行われた。その後、尾花甚一同大学助教授による『3/4冠およびピンレッジの製作法について』、辻本春男日本歯科医師会常務理事による『社会保険の現状と今後のあり方について』の講演を拝聴した。

第２日目は、まず午前10時より東別院において物故会員71氏の遺族を招いた慰霊祭を厳粛に催し、その後会場を富山市公会堂に移し、山崎日本歯科医師会常務理事をはじめ多数の臨席を賜るなか創立50周年記念式典が行われた。

式典は、川口義門県歯科医師会長の式辞に続いて、多年に亘って本会に功労のあった50名の会員に対して、川口会長から一人ひとりに表彰状と記念品が贈られた。さらに、中原實日本歯科医師会長、吉田実富山県知事、湊栄吉富山市長の祝辞（代読）、厚生大臣などから届いた祝電が披露された。

その後、被表彰者を代表して浦野與四郎元会長が謝辞を述べ、牧野昶元代議員の50周年回顧談に耳を傾けた。記念式典の後、同会場において記念祝賀懇親会が開かれた。

富山県歯科医師会創立50周年記念表彰（昭和38年10月20日）

被表彰者		
岩井二三雄	家城　圭一	早見　治顕
長谷川徳光	大井　　潤	大道　憲治
岡田　信次	渡辺　親良	和記　憲一
河原　信隆	米田　祐弘	吉田　　茂
吉村　史郎	立浪　次作	高田　育三
竹林　正俊	坪田　忠一	成瀬　八郎
中川　　武	中川　　弘	中島　清則
永森　　収	浦上　則政	栗山　実純
倉田敬二郎	山崎　安三	山下　長藏
松能喜久次	松島　正康	牧野　　昶
舟木　直久	小高　啓三	越野培名男
郷倉　信一	赤祖父三郎	阿部　清一
佐渡喜一郎	酒井　信義	木下　友栄
柚木　　薫	三羽　邦定	宮本　俊治
三崎　政男	島田余三男	島田　栄吉
関　剛三郎	菅野　宣紀	杉江　玄照
蓮本庄太郎	（職員）	吉川　敏子

創立50周記念式典慰霊祭にて追悼された物故会員（71氏）

島　川　安次郎	山　下　敬　松	松　田　外　司
谷　口　仙太郎	藤　井　義　次	宮　野　竜　吉
宮　島　忠　治	和　記　見津吉	田　谷　壽　夫
川　岸　要　助	鷹　島　慶　二	中　島　清　作
高　橋　愛　二	大　金　　均	上　田　　馨
秋　知　八　平	仲　村　義　重	横　田　太　一
田　中　安　吉	近　江　貞　之	松　田　逸　郎
菅　田　良　雄	松　浦　三　郎	清　水　清　通
殿　城　金次郎	北　森　愛　子	中　保　仁　久
羽　柴　作　蔵	藤　井　三　郎	魚　津　佐　吉
赤祖父　元吉郎	植　田　　実	岡　本　　正
南　川　　信	川　岸　吉之助	加　藤　喜四郎
沼　隈　遠　影	仲　村　音　義	金　森　保　芳
高　井　勇　三	渡　辺　初太郎	金　川　俊　一
山　本　千代治	近　藤　　緑	片　桐　正　義
三　崎　恒　子	阿　部　孫太郎	佐　伯　清之助
村　井　信　義	神　島　俊一郎	小　幡　義　雄
宮　島　　義	宮　田　　正	奥　川　熊　治
近　江　貞　仁	草　刈　　博	藤　井　義　人
坂　井　　茂	岡　崎　　仁	小　林　金　次
深　山　敏　弘	渡　辺　庄　治	城生越　　義
橋　本　良　信	高　木　善　鉞	堀　井　勝　三
岡　本　　弘	大　島　秋　知	山　本　荘太郎
永　野　一　彦	片之坂　藤　儀	

創立60周年記念行事

本会創立60周年記念行事は、昭和48（1973）年７月15日に、４部構成で執り行われた。

第１部は西別院を会場に、遺族および会員80名が参列して物故会員慰霊祭が行われた。祭主である深山正之県歯科医師会長は「本会が今日あるのは各位の尊い精神と功績が基盤となっていることを銘記し、発展に邁進、社会福祉に寄与してご霊に応えんことを期す」旨を追悼のことばとして述べた。参列者全員が在りし日の故人を偲び、心新たに冥福を祈り、午前11時半に閉式となった。

第２部は、富山県民会館に会場を移して午後１時より創立60周年記念学会が催された。中静正愛知学院大学教授を招き、「歯周病の予防と咬合問題について」をテーマに特別講演をしていただいた。

第３部は、同会館８階ホールにおいて来賓ならびに会員150名が参加して創立60周年記念式典が行われた。深山会長の式辞に続いて、60周年を記念して功労会員･職員の表彰が行われた。その後、来賓を代表して中原實日本歯科医師会長、中田幸吉富山県知事、改井秀雄富山市長などより祝辞を戴いた。式典終了後、同会場にて第４部の記念パーティーが行われた。

富山県歯科医師会創立60周年記念表彰（昭和48年7月15日）

被表彰者		
杉江　玄照	浦野與四郎	倉田敬二郎
赤祖父三郎	永森　　収	立浪　次作
大菅　十造	阿部　清一	川口　義門
岡田　信次	伊東　祐年	島田　栄吉
岩井二三雄	家城　圭一	魚津　佐一
竹林　正俊	高田　育三	菅野　宜紀
坂下　孝則	吉村　史郎	深山　正之
茶山　信吉	田中　直次	松島　正康
近藤　秀雄	中島　清則	田上　　修
四日　善一	谷井　三郎	小林　全二

被表彰者		
仲村　　博	水野　誓夫	山崎　安隆
魚津　竹男	小森　甚作	吉田　　茂
羽井　良三	松能　喜一	三崎　正春
米沢　真一	杉江　玄己	中島　忠一
千保　　利	山田　外雄	松田　正男
高田寅四郎	渡辺　綱男	藤井　　弘
水野　公之	飯田　　弘	今村　勝彦
山本　壮一		
（勤続職員）	西田　重晴	吉川　敏子
中林くみ子	竹内　和美	

創立60周年記念式典慰霊祭にて追悼された物故会員（23氏）

堀　井　勝　三	坂　本　清　志	山　崎　安　三
山　本　荘太郎	金　山　晴　顕	関　　剛三郎
志　村　金太郎	金　山　吉　雄	大　井　　潤
蔦　　まつみ	大　道　憲　治	三　崎　秀　郎
塚　本　栄　春	蓮　本　庄太郎	長谷川　徳　光
橋　本　静　雄	中　川　　武	牧　野　　昶
三　崎　政　男	柴　　太　郎	和　記　憲　一
松　能　喜久次	柚　木　　薫	

創立70周年記念行事

昭和58（1983）年10月22日、県歯科医師会物故会員追悼式と本会創立70周年記念式典が執り行われた。

まず午後２時より、富山歯科総合センターにおいて物故会員追悼式が厳かに行われた。水野誓夫県歯科医師会副会長の物故会員氏名奉読に続いて、藤井弘県歯科医師会長が物故会員への感謝と今後の本会の発展を誓う追悼のことばを述べた。その後参列者全員で献花を行い、追悼電文披露の後、遺族を代表して永森光枝さんが挨拶に立たれた。

追悼式終了後､富山電気ビルに会場を移して、多数の来賓が臨席されるなか創立70周年記念式典が盛大に行われた。式典は、藤井会長の式辞に続いて、多年に亘る精進、苦労に対して功労会員・職員の表彰が行われた。表彰者を代表して家城圭一氏が謝辞を述べた後、来賓による祝辞が述べられた。

中沖豊富山県知事は「歴代会長、会員の方々の不断の努力により、心身障害児者の歯科保健事業をはじめ、へき地歯科保健事業、休日等歯科診療事業、さらには全国に先駆けての歯科在宅当番医制を実施されるなど、数多くの公衆衛生活動を通じて総合歯科保健事業を推進され、全国的にも高い評価を得ています。今後とも口腔保健衛生の普及向上という県民の大きな期待にこたえていただくよう御尽力をお願いします」と、述べられた。その後、臨席された方々よりあたたかい心のこもったお祝いのことばをいただき、式典は滞りなく終了した。続いて５階ホールにおいて、祝賀立食パーティーが開催された。

なお、本会の70周年記念行事の一環として、同年９月23日にホテルまつやにおいて70周年記念麻雀大会を、９月11日に呉羽カントリークラブ日本海コースにおいて70周年記念ゴルフ大会を開き、創立70周年を記念して『富山県歯科医師会七十年のあゆみ』を発刊した。

富山県歯科医師会創立70周年記念表彰（昭和58年10月22日）

被表彰者		
（本会関係）	藤井　弘	水野　誓夫
三崎　正春	水野　公之	山崎　安隆
田上　修	青木　康三	飯田　弘
石川　静郎	今村　勝彦	中島　清則
吉村　史郎	岩井二三雄	寺島　祐輔
倉田　卓	坊　明男	佐渡　哲雄
栗山　豊実	家城　圭一	黒木　正直
小林　全二	高橋日出夫	奥村　朋宏
竹林　正俊	青木　進	立野　泰三
熊木　甚朔	四日　善一	長谷川富久
水橋　哲夫	女川　清	高田寅四郎
千保　利	青木　健治	上田　昌
佐伯　正清	小杉与三雄	三羽　博久
高広　勇次	石崎　護	桜木　正昭
山田　正昭	奥川　澄夫	鷹取　昭治
佐渡　永貞	近藤　秀雄	中尾　修
川口　義治	棚田　昌俊	
（口腔保健センター関係）		
永森　靖夫	家城　佳夫	石川　哲夫
小倉　孝夫	岡田　洋昭	山岸　敏治
石多　謙治	高石　叡	

被表彰者		
（学院関係）	内田　安博	山本　壮一
宮田　靖雄	杉江　玄己	大井　克彦
松田　倫雄	吉田　季彦	山本　征彦
小林　憲夫	木村　純一	松原清一郎
杉本　友夫	川渕　金哉	和記　徳郎
篠原　昭道	大道　素夫	中島　忠一
北山善之進	大浦　重光	林　俊郎
菅野　勝紀	小泉　明久	逸見　玲
金山　嘉城	島　信行	大城　宣之
福井　洋	水野　隆俊	山崎　宣夫
河野　吉秀	柚木　邦夫	
（外部講師）	金井　希則	谷　みどり
佐藤　良正	中川　秀幸	東　敬介
粟田喜代治		
（職　員）	中林くみ子	竹内　和美
藤田　信子	喜多美知子	

創立70周年物故会員追悼式にて追悼された物故会員（41氏）

松本常久	栗山実純	岡田信次	浦野與四郎	三羽邦定	吉沢　啓	長久良一	
阿部清一	小倉直義	河村哲之助	阿部彦太郎	宇和山礼三	永森　収	立浪次作	
浅岡典常	坪田忠一	和田義孝	吉岡達雄	谷井三郎	渡辺　実	斉藤義寿	
宮岡宇平次	魚津佐一	木村美明	平井茂光	山岸確次	川口義門	佐渡喜一郎	
米沢卯一	本告武人	千鳥健二	吉野克男	元井英夫	今村彦治	浦上則政	
松田正男	飯田半六	松能喜一	時女フミ子	横田とも	石黒宗次郎		

創立80周年記念行事

平成５（1993）年11月28日、富山第一ホテルにおいて来賓ならびに会員140名が出席して本会創立80周年記念式典が盛大に挙行された。

藤井弘県歯科医師会長から「乳幼児・児童から高齢者まで生涯を通じた歯の健康づくりの総合歯科保健医療の推進のため、予防から治療に対する県民のニーズに応えていきたい」との式辞が述べられ、続いて創立80周年記念表彰、平成５年度功労会員表彰、顕彰者表彰が行われた。被表彰者を代表して石川静郎氏に表彰状が授与された。

来賓の吉田富山県厚生部長からは「県民の健康増進、歯科保健医療の向上は、貴会と県が車の両輪となってはじめて成し得るものであり、今後とも格別のご協力を賜りたい」との祝辞が述べられた。

富山県歯科医師会創立80周年記念表彰（平成5年11月28日）

被表彰者		
（本会関係）	石川　静郎	今村　勝彦
上田外喜男	大野　繁彦	奥川　澄夫
奥村　朋宏	川口　義治	北山善之進
小杉与三雄	桜木　正昭	島田　正美
新谷　政彦	釣谷　東民	藤井　　弘
坊　　明男	水橋　哲夫	宮田　靖雄
山田　正昭		

被表彰者		
（口腔保健センター関係）		
平木　光昭		
（学院関係）	岩﨑　弘治	河野　吉秀
中嶋　　渉	福島　武人	古田　　勲
加藤　高男	狩野　　覚	小林　憲夫
城川　和夫	松原清一郎	三﨑　公晴

創立90周年記念行事

平成15（2003）年11月29日、名鉄トヤマホテル４階を会場に来賓ならびに会員225名が出席して、本会創立90周年記念式典が挙行された。

挨拶に立った栗山豊実県歯科医師会長は「創立90周年記念式典を挙行できることは深く喜びとするところであり、このように発展したのも長年に亘る諸先輩や会員ならびに関係各位の絶大なご努力とご尽力の賜物である」と式辞を述べ、続いて創立90周年記念表彰、平成15年度功労会員表彰、顕彰者表彰が行われた。

富山県知事（代読）、富山市長（代読）、阿部富山県厚生部長など多数の来賓からご祝辞を戴いた後、被表彰者を代表して坊明男氏より謝辞が述べられ、閉会となった。

式典終了後、会場を３階に移して祝賀会が開催された。宮田県歯科医師会副会長の開宴のことばに続いて、中国獅子舞によるオープニング、栗山会長の挨拶と続き、来賓の臼田貞夫日本歯科医師会長より祝辞を戴いた。続いて阿部富山県厚生部長の乾杯の音頭で祝宴が和やかにはじまり、アトラクションやゲームなどで盛り上がった。

富山県歯科医師会創立90周年記念表彰（平成15年11月29日）

被表彰者		
（本会関係）	坊　　明男	奥川　澄夫
酒井　義博	北山善之進	岩井　道雄
林　　俊郎	家城　佳夫	山岸　敏治
山田　正昭	黒川勇次郎	篠原　昭道
安達　　昭	福島　武人	杉本　友夫
金川　直博	山崎　宣夫	米田　仗二
高畠　　隆	熊木　　彰	安田　　篤
平木　光昭	焼田志図夫	坂本喜久雄
中道　　勇	山田　真樹	山本　武夫
渡辺　和夫	小森　　実	得能　昭夫

被表彰者		
（歯科保健医療総合センター関係）		
吉川　由治	堀　比佐司	
（歯科総合学院関係）		
古田　　勲	加藤　高男	島　　秀一
島　　信博	城川　和夫	網谷　伸治
永森　　司	山田　雅敏	新谷　明宏
上田　　均		

無料検診を実施（昭和39年6月）

「歯と口の健康週間」と各種表彰事業

毎年６月４～10日は、「歯と口の健康週間」として、全国各地でさまざまな趣向を凝らした啓発イベントが行われている。「歯の衛生に関する正しい知識を国民に対して普及啓発するとともに、歯科疾患の予防処置の徹底を図り、併せてその早期発見、早期治療を励行することにより歯の寿命を延ばし、国民の健康の保持増進を寄与すること」が目的である。

「歯と口の健康週間」は歴史的に、昭和３(1928)年に日本歯科医師会が「６（む）４（し）」に因んで６月４日を「虫歯予防デー」に制定したことに始まる。その後同14（1939）年から同16（1941）年までは「護歯日」、翌17（1942）年は「健民ムシ歯予防運動」として実施され、太平洋戦争による中断を経て、同24（1949）年、「口腔衛生週間」が制定された。その後同27（1952）年に「口腔衛生強調運動」、同31（1956）年に「口腔衛生週間」に名称変更され、同33（1958）年から平成24（2012）年まで「歯の衛生週間」として実施された。

その後平成23（2011）年８月の「歯科口腔保健の推進に関する法律」の施行に伴い、歯のみでなく口腔およびその周囲等の健康を増進していくことを目的とするため、同25（2013）年度より名称を「歯と口の健康週間」に変更した。

また、日本歯科医師会は、「いつまでも美味しく、そして、楽しく食事をとるために、口の中の健康を保っていく」という願いを込めて、厚生労働省とともに平成元（1989）年より「80歳になっても自分の歯を20本以上保とう」という「8020運動」を積極的に推進している。「いい歯の日」は、その「8020運動」推進の一環で、国民への歯科保健啓発の強化を目的として、平成５（1993）年、11月８日を「い（1）い（1）歯（8）」の語呂合わせで「いい歯の日」に設定された。

富山県歯科医師会では、「歯と口の健康週間」「いい歯の日」に、無料健診や無料相談・指導、普及啓発イベントの開催や表彰事業など、さまざまな取り組みを行っている。

昭和３●1928
— 日本歯科医師会、「６（む）４（し）」に因んで６月４日に「虫歯予防デー」を実施
昭和14●1939
— ６月４日を「護歯日」に制定
昭和17●1942
— ６月４日に「健民ムシ歯予防運動」を実施。その後昭和23年まで中止
昭和24●1949
— 「健民ムシ歯予防運動」を復活させ、「口腔衛生週間」を制定
昭和27●1952
— 「口腔衛生強調運動」に名称変更
６月　富山県歯科医師会、無料検診を実施
昭和30●1955
５月　口腔衛生強調運動の一環として、「歯の麗人地方審査会」を実施
６月　富山県歯科医師会、第１回「歯の麗人県大会」開催
昭和31●1956
— 「口腔衛生週間」に名称変更
昭和33●1958
— 「歯の衛生週間」に名称変更
昭和49●1974
６月　富山県歯科医師会、街頭にて歯の無料（健康）相談を実施
昭和57●1982
９月　富山県歯科医師会、第34回保健文化賞受賞
昭和58●1983
10月　富山県歯科医師会、第１回「歯の保健文化賞」を実施
平成元●1989
— 「8020運動」を制定
平成２●1990
６月　富山県歯科医師会、歯の健康フェスティバルを開催
平成５●1993
— 11月８日を「いい歯の日」に設定
平成６●1994
６月　富山県歯科医師会、歯っぴーフェスタ8020を開催
平成７●1995
10月　富山県歯科医師会、第1回「いい歯カムカムすこやか大賞」を実施
平成25●2013
— 「歯と口の健康週間」に名称変更

「歯と口の健康週間」標語一覧

西暦（元号）	標語
1928、1929年度（昭和3、4年度）	—
1930年度（昭和5年度）	六歳臼歯を大切に
1931年度（昭和6年度）	よい歯で　よく噛みましょう
1932年度（昭和7年度）	強い歯をつくれ
1933年度（昭和8年度）	歯は健康の第一線
1934年度（昭和9年度）	御国を守れ　歯を護れ
1935年度（昭和10年度）	健康は先ず　歯から
1936年度（昭和11年度）	強い身体に　丈夫な歯
1937年度（昭和12年度）	つとめて受けよ　歯の検査
1938年度（昭和13年度）	正しい歯列で　輝く健康
1939年度（昭和14年度）	歯牙の愛護に　輝く体位
1940年度（昭和15年度）	強い歯は　母でつくって　子で護れ
1941、1942年度（昭和16、17年度）	よい歯で　よくかみましょう
1943～1948年度（昭和18～23年度）	—
1949年度（昭和24年度）	からだも　心も輝く　よい歯
1950年度（昭和25年度）	みんなで受けよう歯の検査
1951年度（昭和26年度）	いつも清い歯　丈夫なからだ
1952、1953年度（昭和27、28年度）	歯は健康の見える窓
1954年度（昭和29年度）	歯は健康のみえる窓
1955、1956年度（昭和30、31年度）	よい歯で　よくかみ　よいからだ
1957年度（昭和32年度）	強い歯は　母でつくって　子で守れ
1958年度（昭和33年度）	よい歯で　よくかみましょう
1959～1968年度（昭和34～43年度）	よい歯で　よくかみ　よいからだ
1969年度（昭和44年度）	—

西暦（元号）	標語
1970、1971年度（昭和45、46年度）	歯をみがこう　それが我が家の　合言葉
1972～1987年度（昭和47～62年度）	よい歯で　よくかみ　よいからだ
1988～1991年度（昭和63～平成3年度）	歯がだいじ　食べる楽しみ　いつまでも
1992～1994年度（平成4～6年度）	長生きは　丈夫な歯から　歯ぐきから
1995年度（平成7年度）	心がけ　ひとつでのびる　歯の命
1996年度（平成8年度）	おいしいね かめる喜び みんなの幸せ
1997年度（平成9年度）	80年　心も元気　歯も元気
1998年度（平成10年度）	いつまでも みがいてかんで じょうぶな歯
1999年度（平成11年度）	かがやく歯 あなたの笑顔の パートナー
2000年度（平成12年度）	めざそうよ 家族全員 きれいな歯
2001年度（平成13年度）	歯がつくる こころの元気 からだの元気
2002年度（平成14年度）	じょうぶな歯 健康づくりの 第一歩
2003年度（平成15年度）	わたしの歯 みらいへつづく たからばこ
2004年度（平成16年度）	いつまでも すてきな笑顔と かがやく歯
2005年度（平成17年度）	じょうぶな歯 いつもごはんが おいしいね
2006年度（平成18年度）	ごちそうさま おはしをブラシに 持ちかえる
2007年度（平成19年度）	ずっとずっと　いっしょがいいな　自分の歯
2008年度（平成20年度）	ありがとう　いつもはたらく　歯に感謝
2009年度（平成21年度）	かみしめる　生きる喜び　歯とともに
2010年度（平成22年度）	広げよう　「噛（か）む」から始まる　健康づくり
2011年度（平成23年度）	みがこうよ　未来へつなげる　じょうぶな歯
2012年度（平成24年度）	歯みがきは　じょうぶなからだの　第一歩
2013年度（平成25年度）	健康は　食から　歯から　元気から

平成10年度

平成13年度

平成16年度

平成19年度

平成22年度

平成25年度

歯の女王選彰会 昭和30（1955）年～昭和59（1984）年

昭和23（1948）年に新制富山県歯科医師会発足以降、昭和27（1952）年に「口腔衛生強調運動」と名称変更してからは、毎年歯の無料相談を実施する一方、昭和30（1955）年から同59（1984）年まで、口腔衛生強調運動の一環として「歯の麗人（後に歯の女王）選彰会」を、全県下を対象に開催した。

この選彰会は、広く大衆に歯科の衛生思想を広め、「むし歯予防」に役立たせようと考えられたイベントで、美人の形容詞とされた「明眸皓歯」のことばから、歯と瞳の美しい麗人を選彰したものである。

選彰会で女王、準女王となった女性たちは、王冠・純白のドレスを纏い、県庁や市役所を表敬訪問したり、ニュースカーでパレードしたり、近畿北陸地区歯科医学大会などの一大イベント時には来賓に記章をつけるお手伝いをするなど、大いに活躍した。

最後の第30回大会では、歴代の女王および子どもの検診が行われ、表彰式後に第30回歯の女王、準女王を囲んで座談会が開かれた。

第1回歯の麗人入賞者（会報第5巻第17号より）

第3回歯の女王選彰会入賞者

第3回歯の女王・京橋多三江さん

第6回歯の女王審査会（教養部門）

第6回歯の女王・準女王、パレード初日に県庁を表敬訪問

第10回歯の女王コンクール表彰式　（左より）西本美絵子　仲井由紀子　吉永栄子　高野礼子

第16回歯の女王・準女王

富山、高岡市で
ムシ歯予防デー
歯の無料相談会

歯の女王や準女王も参加
予防セットを贈る
高岡会場

子供づれが中心
富山会

歯の女王／準女王、歯の無料相談会に参加
（昭和53年6月5日、富山新聞）

第30回歯の女王・準女王（パレード初日）

「歯の女王選彰会」

第1回大会　昭和30年度（1955）		応募者数：79名　入選者数：20名
県大会開催月日・会場		6月5日　富山新聞社3階ホール
入賞者	歯の女王	米田　寿美子（魚津市・21歳）　※第1回は歯の麗人
	準女王	川口　智恵子（高岡市）　佐藤　千恵子（高岡市）　柴　貞子（富山市）
	優秀（良）者	中村　千代子（氷見市）　笹川　彰子（高岡市）　吉岡　嘉子（魚津市） 平田　弘子（黒部市）　橋本　操（高岡市）　岡田　君子（富山市） 湯川　満子（富山市）　高田　愛子（福野町）
第2回大会　昭和31年度（1956）		応募者数：52名　入選者数：18名
県大会開催月日・会場		6月10日　富山新聞社3階ホール
入賞者	歯の女王	高源　文子（入善町・22歳）　※第1回全国大会出場
	準女王	成瀬　靖子（魚津市）　赤尾　喜代美（富山市）　金田　康子（高岡市）
	優秀（良）者	清水　滋子（高岡市）　亀田　孝子（富山市）　田又　絹枝（入善町） 中島　能子（砺波市）　石崎　多加枝（福光町）　畑中　喜美子（福光町） 四十物　和子（滑川市）　五十嵐　芳子（入善町）
第3回大会　昭和32年度（1957）		応募者数：139名　入選者数：20名
県大会開催月日・会場		6月2日　富山新聞社
入賞者	歯の女王	京橋　多三江（高岡市・20歳）　※全国大会出場
	準女王	寺田　悦子（魚津市）　吉岡　信子（福岡町）　福島　葉子（魚津市） 縄　キヨ（入善町）
	優秀（良）者	浜松　麗子（高岡市）　田中　恵美子（富山市）　池田　慧子（朝日町） 丘部　敦子（立山町）　中島　周子（富山市）　松岡　粂子（高岡市） 入江　峰子（水橋町）　村山　わか子（富山市）
第4回大会　昭和33年度（1958）		応募者数：103名　入選者数：20名
県大会開催月日・会場		6月8日　富山新聞社3階ホール
入賞者	歯の女王	古沢　美和子（砺波市・21歳）　※全国大会出場
	準女王	米田　美樹子（高岡市）　中野　敏子（黒部市）　清水　美恵子（宇奈月町） 福沢　玲子（富山市）　照田　スミ子（富山市）
	優秀（良）者	桃井　陽子（富山市）　斉藤　のり（新潟県）　笹林　諄子（新湊市） 野崎　明子（立山町）　高橋　信子（新潟県）　高田　京子（滑川市） 吉田　喜代子（新潟県）　中島　周子（富山市）
第5回大会　昭和34年度（1959）		応募者数：96名　入選者数：20名
県大会開催月日・会場		6月7日　富山新聞社3階ホール
入賞者	歯の女王	岡田　けい子（新湊市・19歳）　※全国大会出場　準女王2位に入賞
	準女王	中島　幸子（魚津市）　鈴木　久美子（朝日町）　松岡　映子（上市町） 神保　信子（滑川市）　尾山　絹子（高岡市）
	優秀（良）者	林　百合子（富山市）　北上　盛子（高岡市）　黒田　保子（富山市） 中村　幸子（富山市）　浅野　典子（富山市）　浜田　登志子（高岡市） 高田　潤子（上市町）　米山　聖子（朝日町）
第6回大会　昭和35年度（1960）		応募者数：92名　入選者数：20名
県大会開催月日・会場		6月5日　富山新聞社3階ホール
入賞者	歯の女王	上野　邦枝（大沢野町・18歳）　※全国大会出場　準女王に入賞
	準女王	森田　弘子（富山市）　紙谷　小夜子（高岡市）　小林　絹子（高岡市） 森　邦子（富山市）　渋沢　祐子（滑川市）
	優秀（良）者	野上　紀代美（富山市）　浦本　真佐子（婦中町）　北山　元子（魚津市） 宮下　美佐子（呉羽町）　中島　周子（富山市）　島倉　ひさ子（大沢野町） 大上戸　末子（黒部市）　谷口　茂子（大沢野町）
第7回大会　昭和36年度（1961）		応募者数：96名　入選者数：20名
県大会開催月日・会場		6月11日　富山新聞社2階会議室
入賞者	歯の女王	森　由美子（立山町・20歳）
	準女王	高尾　麗子（呉羽町）　野上　紀代美（富山市）　瀬川　キクヱ（富山市） 鈴木　靖子（小杉町）　長谷川　秀子（魚津市）
	優秀（良）者	瀬川　睦子（富山市）　奥田　啓子（富山市）　伊藤　淑子（魚津市） 熊野　淑子（富山市）　安部　久江（呉羽町）　山田　往子（上市町） 野徳　美枝（滑川市）　佐々木　直女（魚津市）
第8回大会　昭和37年度（1962）		応募者数：102名　入選者数：47名
県大会開催月日・会場		6月17日　富山新聞社2階会議室
入賞者	歯の女王	有田　淑子（高岡市・19歳）
	準女王	井田　ヒデ子（入善町）　浦田　悦子（富山市）　黒崎　万里子（上市町） 高野　宏美（魚津市）　長沢　美津枝（富山市）
	優秀（良）者	高山　浩子（魚津市）　林　幸江（黒部市）　川上　篤子（黒部市） 京橋　弘佳（高岡市）　星山　貞子（大沢野町）　寺田　優子（魚津市） 遠藤　士津子（氷見市）　瀬川　睦子（富山市）

第９回大会　昭和38年度（1963）		応募者数：113名　入選者数：42名
県大会開催月日・会場		６月９日　富山新聞社３階ホール
入賞者	歯の女王	津　山　捷　子（魚津市・20歳）
	準女王	稲　坂　敦　子（水橋町）　米　田　光　子（富山市）　五　島　富喜子（魚津市） 北　角　正　子（高岡市）
	優秀（良）者	庵　杉　美智子（富山市）　橋　本　和　子（滑川市）　前　田　幸　子（黒部市） 島　田　洲　子（富山市）　江　幡　寿　子（氷見市）　松　島　睦　子（富山市） 中　村　一　美（富山市）　密　岡　英　子（富山市）　大　門　雅　子（高岡市）
第10回大会　昭和39年度（1964）		応募者数：124名　入選者数：51名
県大会開催月日・会場		６月14日　富山新聞社
入賞者	歯の女王	姫　野　範　代（高岡市・17歳）
	準女王	西　本　美絵子（魚津市）　吉　永　栄　子（富山市）　仲　井　由紀子（富山市） 高　野　礼　子（黒部市）
	優秀（良）者	長慶寺　久　美（高岡市）　田　原　明　子（魚津市）　木　村　陽　子（魚津市） 臼　田　栄　子（富山市）　田　辺　喜美子（入善町）　島　田　洲　子（富山市） 稲　垣　愛　子（富山市）　石　井　照　子（富山市）
第11回大会　昭和40年度（1965）		応募者数：146名　入選者数：52名
県大会開催月日・会場		６月６日　富山県歯科医師会館
入賞者	歯の女王	小　池　早　苗（黒部市・19歳）
	準女王	杉　谷　登志子（富山市）　高　山　小夜子（黒部市）　浜　田　和　恵（富山市） 中　西　泰　子（砺波市）
	優秀（良）者	荻　野　京　子（黒部市）　林　　美佐子（宇奈月町）　黒　川　久　子（富山市） 山　本　文　子（舟橋村）　山　田　邦　子（富山市）　竹　田　秋　子（黒部市） 舘　盛　由紀子（富山市）　山　崎　孝　子（氷見市）　城　野　　瞳（滑川市）
第12回大会　昭和41年度（1966）		応募者数：134名　入選者数：57名
県大会開催月日・会場		５月22日　富山県歯科医師会館
入賞者	歯の女王	岩　瀬　久美子（富山市・18歳）
	準女王	横　江　睦　子（富山市）　坂　林　和　美（高岡市）　川　向　昌　子（小杉町） 蔭　島　多美江（高岡市）
	優秀（良）者	舘　盛　由紀子（富山市）　村　田　房　子（婦中町）　吉　本　啓　子（富山市） 前　川　純　子（富山市）　木　田　寛　美（入善町）　増　川　滝　子（高岡市） 佐　藤　志津子（富山市）　山　崎　清　美（砺波市）　酒　井　和　子（富山市） 堤　下　フミ子（氷見市）
第13回大会　昭和42年度（1967）		応募者数：152名　入選者数：52名
県大会開催月日・会場		５月28日　富山県歯科医師会館
入賞者	歯の女王	大　塚　純　子（富山市・20歳）
	準女王	山　本　ルミ子（上市町）　四　日　澄　子（新湊市）　前　田　順　子（魚津市） 稲　塚　恵久子（富山市）
	優秀（良）者	小　西　ミツ子（富山市）　坂　井　信　子（新湊市）　東　　敬　子（小矢部市） 棚　本　鈴　子（大沢野町）　井　林　美和子（高岡市）　中　田　ふみ子（富山市） 小川内　邦　子（富山市）　杉　本　啓　子（黒部市）　土　合　真佐子（高岡市） 浜　松　節　子（富山市）
第14回大会　昭和43年度（1968）		応募者数：142名　入選者数：52名
県大会開催月日・会場		６月２日　富山県歯科医師会館
入賞者	歯の女王	下　条　玲　子（新湊市・21歳）
	準女王	中　川　静　枝（福光町）　北　村　嘉　子（小矢部市）　橋　本　まち子（富山市） 朝　野　道　子（魚津市）
	優秀（良）者	塩　谷　和　子（新湊市）　左　近　恵　子（上市町）　高　杉　光　子（富山市） 江　幡　靖　子（魚津市）　守　田　裕　子（富山市）　西谷内　正　子（高岡市） 竹　内　紀　子（婦中町）　林　　尋　美（高岡市）　前　里　由美子（細入村） 堤　下　フミ子（氷見市）
第15回大会　昭和44年度（1969）		応募者数：152名　入選者数：46名
県大会開催月日・会場		６月１日　富山県歯科医師会館
入賞者	歯の女王	杉　村　恵　子（黒部市・19歳）
	準女王	川　田　市　子（魚津市）　永　原　芳　子（上市町）　酒　井　典　子（大沢野町） 下　条　絹　子（新湊市）
	優秀（良）者	杉　田　美香子（入善町）　島　崎　美津子（魚津市）　新　川　絹　子（新湊市） 松　本　外　美（富山市）　中　居　多美子（砺波市）　清　水　洋　子（魚津市） 高　木　悦　子（氷見市）　小　林　裕　子（高岡市）　北　浜　真利子（氷見市） 内　島　あい子（入善町）

第16回大会　昭和45年度（1970）		応募者数：163名　入選者数：41名
県大会開催月日・会場		6月21日　富山県歯科医師会館
入賞者	歯の女王	海　内　美和子（大島町・18歳）
	準女王	八　島　静　子（小杉町）　塚　本　公　子（高岡市）　北　浜　都志子（氷見市） 新　川　絹　子（新湊市）
	優秀（良）者	沢　田　昌　子（高岡市）　渡　辺　美　根（富山市）　押　田　春　枝（富山市） 阿　美　陽　子（新湊市）　森　　英　子（大山町）　石　吾　里　美（滑川市） 大　丸　　薫（富山市）　藤　井　順　子（富山市）　新　井　京　子（高岡市） 谷　口　亜美子（上市町）
第17回大会　昭和46年度（1971）		応募者数：172名　入選者数：50名
県大会開催月日・会場		6月20日　富山県歯科医師会館
入賞者	歯の女王	氷　見　知偉子（滑川市・20歳）
	準女王	北　尾　美紀子（細入村）　増　川　敦　子（高岡市）　中　谷　理　恵（富山市） 鴻　渕　純　子（小杉町）
	優秀（良）者	畑　野　雅　子（高岡市）　福　島　律　子（富山市）　境　　晴　美（魚津市） 金　　としみ（新湊市）　伊　勢　麗　子（高岡市）　辻　　和　子（氷見市） 村　内　律　子（富山市）　片　野　純　子（富山市）　森　田　美奈子（福野町） 押　田　春　枝（富山市）　上　杉　静　江（富山市）
第18回大会　昭和47年度（1972）		応募者数：183名　入選者数：28名
県大会開催月日・会場		5月28日　富山県歯科医師会館
入賞者	歯の女王	尾　崎　由紀子（高岡市・20歳）
	準女王	堀　田　秀　子（富山市）　桜　井　美千代（富山市）　松　平　和佳子（滑川市） 筏　井　紀久子（高岡市）
	優秀（良）者	松　沢　公　子（高岡市）　渡　辺　美根子（富山市）　金　　とし子（新湊市） 北　野　やす子（小矢部市）　四十内　小夜子（魚津市）　佐　渡　美　子（富山市） 照　田　陽　子（富山市）　黒　川　智　子（立山町）　平　田　裕　子（富山市） 永　井　千恵子（富山市）
第19回大会　昭和48年度（1973）		応募者数：136名　入選者数：35名
県大会開催月日・会場		6月3日　富山県歯科医師会館
入賞者	歯の女王	池　亀　克　美（黒部市・18歳）
	準女王	高　松　政　子（黒部市）　久　湊　由美子（新湊市）　森　田　美奈子（福野町） 石　田　秀　子（富山市）
	優秀（良）者	松　沢　公　子（高岡市）　上　島　百合子（黒部市）　新　木　一　枝（富山市） 細呂木　弘　美（高岡市）　藤　原　みどり（上市町）　横　井　明　美（富山市） 細　川　恵　子（上市町）　沢　田　明　美（黒部市）　柞　山　伸　子（婦中町） 遠　藤　詩都影（砺波市）
第20回大会　昭和49年度（1974）		応募者数：163名　入選者数：35名
県大会開催月日・会場		6月2日　富山県歯科医師会館
入賞者	歯の女王	鷲　塚　祐　子（高岡市・23歳）
	準女王	大　平　康　子（朝日町）　松　田　貞　子（大沢野町）　室　　和　美（高岡市） 市　村　智美子（富山市）
	優秀（良）者	野　田　恵　子（魚津市）　中　村　倫　子（富山市）　栗　山　千鶴子（富山市） 武　田　恵　子（婦中町）　越　後　磨理子（新湊市）　山　田　幸　美（福岡町） 鍋　島　美百合（入善町）　北　野　仁　子（富山市）　佐　藤　克　美（富山市） 近　堂　真知子（富山市）
第21回大会　昭和50年度（1975）		応募者数：172名　入選者数：35名
県大会開催月日・会場		6月1日　富山県歯科医師会館
入賞者	歯の女王	鍋　島　美百合（入善町・19歳）
	準女王	桑　名　範　子（富山市）　新　谷　文　子（富山市）　西　田　祐　子（婦中町） 木　内　晶　子（魚津市）
	優秀（良）者	広　見　邦　子（富山市）　近　堂　真知子（富山市）　中　村　倫　子（富山市） 舘　林　好　美（高岡市）　往　蔵　友　子（井波町）　桃　井　千津子（高岡市） 川　尻　典　子（滑川市）　高　正　真智子（立山町）　貴　堂　雅　代（富山市） 目　黒　加代子（入善町）
第22回大会　昭和51年度（1976）		応募者数：141名　入選者数：44名
県大会開催月日・会場		5月30日　富山県歯科医師会館
入賞者	歯の女王	宮　本　美智代（富山市・20歳）
	準女王	堺　　真理子（高岡市）　早　川　由美子（上市町）　伊　東　裕　子（黒部市） 桃　井　千津子（高岡市）
	優秀（良）者	堀　　正　子（富山市）　山　田　幸　美（福岡町）　佐　渡　裕　子（富山市） 吉　田　政　子（富山市）　伊　藤　明　美（高岡市）　前　田　由美子（高岡市） 二　谷　悦　子（富山市）　野　上　良　恵（富山市）

第23回大会　昭和52年度（1977）		応募者数：154名　入選者数：43名
県大会開催月日・会場		5月22日　富山県歯科医師会館
入賞者	歯の女王	一　家　恵　子（高岡市・22歳）
	準女王	安　田　聖　子（大沢野町）　関　口　恭　子（富山市）　大　津　弘　子（富山市） 笠　谷　智　子（高岡市）
	優秀（良）者	中　村　美記子（高岡市）　中　谷　典　子（黒部市）　小　川　はるみ（富山市） 明　和　裕　子（舟橋村）　早　瀬　範　子（富山市）　石　須　洋　子（小杉町） 常　木　弘　子（氷見市）　大　角　綾　野（入善町）　岡　村　のり子（富山市）
第24回大会　昭和53年度（1978）		応募者数：174名　入選者数：35名
県大会開催月日・会場		5月21日　富山県歯科医師会館
入賞者	歯の女王	中　谷　典　子（黒部市・19歳）
	準女王	太　田　小　夜（立山町）　浜　崎　直　美（富山市）　杉　森　雅　美（大山町） 田　畑　有　喜（小矢部市）
	優秀（良）者	永　原　広　子（富山市）　程　山　留　美（富山市）　中　田　雅　恵（黒部市） 大　角　綾　野（入善町）　吉　田　一　美（黒部市）　山　田　真理子（富山市） 広　瀬　祐　子（大沢野町）　堀　田　典　子（富山市）　明　和　裕　子（舟橋村）
第25回大会　昭和54年度（1979）		応募者数：162名　入選者数：44名
県大会開催月日・会場		5月20日　富山歯科総合センター
入賞者	歯の女王	竹　田　紀美子（富山市・22歳）
	準女王	小　泉　謡　子（高岡市）　程　山　留　美（富山市）　青　木　弘　美（新湊市） 酌　井　美智代（富山市）
	優秀（良）者	佐々木　房　枝（富山市）　広　上　須実子（高岡市）　萩　中　啓　子（上市町） 松　井　博　美（婦中町）　松　田　千佳子（大門町）　岡　島　智恵子（黒部市） 金　戸　美　幸（砺波市）　榎　本　幸　子（黒部市）　村　沢　貴　子（富山市）
第26回大会　昭和55年度（1980）		応募者数：174名　入選者数：41名
県大会開催月日・会場		5月11日　富山歯科総合センター
入賞者	歯の女王	中　磯　祐　子（富山市・21歳）
	準女王	野　島　英　子（富山市）　沖　村　春　美（富山市）　大　茂　こずえ（富山市） 江　尻　智　香（大門町）
	優秀（良）者	山　崎　端　穂（富山市）　上　田　悦　子（富山市）　五十嵐　美智子（黒部市） 西　脇　和可子（砺波市）　伊　井　スミ子（黒部市）　砂　原　清　美（滑川市） 森　本　恵　子（富山市）　神　谷　加代子（滑川市）　中　村　悦　子（富山市）
第27回大会　昭和56年度（1981）		応募者数：151名　入選者数：35名
県大会開催月日・会場		5月24日　富山歯科総合センター
入賞者	歯の女王	稲　場　真理子（滑川市・19歳）
	準女王	井　上　千　景（新湊市）　塚　田　文　子（入善町）　金　山　正　美（大山町） 青　木　郁　子（富山市）
	優秀（良）者	沢　井　悦　子（婦中町）　松　井　敦　子（富山市）　森　川　久美子（富山市） 中　川　陽　子（富山市）　梅　本　由紀子（婦中町）　沢　　裕　美（八尾町） 中　山　千恵子（富山市）　杉　谷　直　子（富山市）　月　見　由　子（富山市）
第28回大会　昭和57年度（1982）		入選者数：35名
県大会開催月日・会場		5月16日　富山歯科総合センター
入賞者	歯の女王	鳥　山　陽　子（高岡市・21歳）
	準女王	金　田　順　子（高岡市）　北　野　明　子（小杉町）　小　森　久留美（入善町） 金　戸　美　幸（砺波市）
	優秀（良）者	野　山　昌　代（富山市）　大　住　久　美（八尾町）　辻　　悦　子（富山市） 月　見　由　子（富山市）　長　崎　智津子（朝日町）　久　田　和　美（上市町） 中　村　美　和（富山市）　沢　井　悦　子（婦中町）　家　城　伸　江（富山市）
第29回大会　昭和58年度（1983）		入選者数：43名
県大会開催月日・会場		5月29日　富山歯科総合センター
入賞者	歯の女王	村　本　　縁（高岡市・20歳）
	準女王	小鍛治　浩　美（大島町）　長　谷　純　子（富山市）　村　上　令位子（富山市） 船　木　晴　美（立山町）
	優秀（良）者	広　田　啓　子（富山市）　金　田　敦　子（富山市）　月　見　由　子（富山市） 坂　井　恵　子（高岡市）　大　野　一　美（滑川市）　宮　ケ　ゆかり（新湊市） 道　野　恵　子（富山市）　本　田　　峰（大沢野町）　田　口　由美子（八尾町）
第30回大会　昭和59年度（1984）		入選者数：31名
県大会開催月日・会場		5月19日　富山歯科総合センター
入賞者	歯の女王	壁　　美千代（新湊市・18歳）
	準女王	柴　田　邦　恵（富山市）　杉　森　由佳子（小矢部市）　飯　田　桂　子（氷見市） 女　川　貴　子（立山町）
	優秀（良）者	森　川　章　子（井波町）　吹　沢　桂　子（山田村）　岩　城　祥　子（滑川市） 新　村　益　美（八尾町）　浦　田　方　子（上市町）　泉　　智　子（富山市） 橋　本　雅　子（富山市）　和　田　愛　子（高岡市）　細　川　浩　美（富山市）
※第30回を記念して歴代の女王9名を招待し、歴代の女王および子どもの検診が行われ、表彰式後に本年度女王、準女王とともに座談会が開かれた。		

歯の無料相談～歯っぴーフェスタ8020　昭和49（1974）年～現在

「歯の女王選彰会」に先立って、「口腔衛生強調運動（後に「歯と口の健康週間」と名称変更）」の６月４～10日に、本会が実施したのが歯の無料相談・指導である。

昭和27（1952）年から、会員が各自の診療所において歯の無料相談日を指定して、地域住民の歯科疾患への関心の向上に努めてきたが、昭和49（1974）年から、富山県歯科衛生士会の協力のもと、街頭での無料相談を実施することとなった。この街頭での無料相談は、昭和54（1979）年以降富山、高岡、魚津、砺波の４地区に拡大、さらに昭和61（1986）年からは県下８会場に拡大して行われた。

その後平成２（1990）年より、会場を一つに統合して、「歯の健康フェスティバル」として、歯の健康相談コーナーや歯科衛生士会によるブラッシング指導を実施した。

さらに、平成６（1994）年からは、80歳になっても20本以上の歯を保つ「8020運動」の推進と連動した「歯っぴーフェスタ8020」に名称変更して、富山県の助成を得て新しい事業として現在も継続して行われている。

歯の無料相談

開催日	富山会場	件数	高岡会場	件数	魚津会場	件数	砺波会場	件数
昭和49年６月９日	北電サービスセンター	90	大和高岡店	55				
昭和50年６月８日	大和富山店	122	大和高岡店	60				
昭和51年６月６日	大和富山店	214	大和高岡店	132				
昭和52年６月５日	大和富山店　６階	250	大和高岡店　１階	175	魚津サンプラザ　１階	77		
昭和53年６月４日	大和富山店　５階	227	大和高岡店　１階	158	魚津サンプラザ　３階	55		
昭和54年６月３日	大和富山店　４階	246	大和高岡店　１階	132	魚津サンプラザ　３階	60	砺波サンプラザ　１階	45
昭和55年６月１日	大和富山店　７階	240	大和高岡店　５階	160	魚津サンプラザ　１階	64	砺波サンプラザ　１階	52
昭和56年６月７日	大和富山店　７階	255	大和高岡店　５階	150	魚津サンプラザ　１階	72	砺波サンプラザ　１階	50
昭和57年６月６日	大和富山店　７階	138	大和高岡店　５階	88	魚津サンプラザ　１階	56	砺波サンプラザ　１階	41
昭和58年６月５日	大和富山店　７階		大和高岡店　５階	80	魚津サンプラザ　１階		トーカマート小矢部店	100
昭和59年６月３日	大和富山店　７階		大和高岡店　４階	60	魚津サンプラザ　２階		ベル福光　２階	76
昭和60年６月２日	大和富山店　７階	130	北陸ジャスコ高岡店	120	魚津サンプラザ　１階	72	福野ピステ	104
開催日	富山会場	件数	高岡会場	件数	滑川会場	件数	砺波会場	件数
昭和61年６月１日	大和富山店	150	北陸ジャスコ高岡店	100	エール		北陸ジャスコ砺波店	
	黒部会場	件数	福岡会場	件数	氷見会場	件数	婦中会場	件数
	メルシー黒部		サンエール	50	サンパークひみ	100	パピ１階	83
開催日	富山会場	件数	高岡会場	件数	魚津会場	件数	新湊会場	件数
昭和62年６月７日	大和富山店		北陸ジャスコ高岡店	125	魚津サンプラザ	60	トーカマート新湊店	70
	黒部会場	件数	小矢部会場	件数	井波会場	件数	八尾会場	件数
	メルシー黒部		小矢部マルシェ店	60	サンモール	70	ララエイト	126
開催日	富山会場	件数	高岡会場	件数	魚津会場	件数	射水会場	件数
昭和63年６月５日	大和富山店　７階	72	北陸ジャスコ高岡店	130	魚津サンプラザ	104	太閤山パスコ	
	黒部会場	件数	砺波会場	件数	福光会場	件数	婦中会場	件数
	メルシー黒部	70	北陸ジャスコ砺波店	80	ベル２階		パピ１階	100
開催日	富山会場	件数	高岡会場	件数	魚津会場	件数	氷見会場	件数
平成元年６月４日	大和富山店　８階	45	北陸ジャスコ高岡店	121	魚津サンプラザ	109	サンパークひみ	
	黒部会場	件数	福岡会場	件数	福野会場	件数	八尾会場	件数
	メルシー黒部	60	サンエール	86	ピステ	100	ララエイト	

歯の健康フェスティバル

開催日	会場	名称	来場者数
平成２年６月３日	富山市民プラザ	歯の健康フェスティバル'90	
平成３年６月２日	富山市民プラザ	歯の健康フェスティバル'91	500
平成４年５月31日	富山市民プラザ	歯の健康フェスティバル'92	400

歯っぴーフェスタ 8020

開催日	会場	キャラクターショー	来場者数	成人	小児
平成６年６月５日	アピタ　富山店	それいけ！アンパンマン 虫歯はやだー	220		
平成７年６月４日	ダイエープラザ（富山市）	クレヨンしんちゃん アクション仮面に会うぞの巻	200	22	178
平成８年６月２日	ダイエープラザ（富山市）	忍たま乱太郎 野外学習はきびしいの段	203	22	181
平成９年６月１日	ダイエープラザ（富山市）	はりもぐハーリーショー	216	33	183
平成10年６月７日	アルプラザ小杉	クレヨンしんちゃん ブリブリざえもんの巻	308	32	276
平成11年５月30日	アルプラザ小杉	ドクタースランプショー	225	22	203
平成12年６月４日	アルプラザ小杉	アンパンマンショー	321	42	279
平成13年６月３日	アルプラザ小杉	おじゃる丸キャラクターショー	350	51	299
平成14年６月２日	アルプラザ小杉	ウルトラマン・まんま君と遊ぼう	272	28	244
平成15年６月１日	アルプラザ小杉	ひょっこりひょうたん島	273	26	247
平成16年６月６日	アルプラザ小杉	ざわざわ森のがんこちゃん	270	52	218
平成17年６月５日	アルプラザ小杉	クレヨンしんちゃんキャラクターショー	236	64	172
平成18年６月４日	アルプラザ小杉	ざわざわ森のがんこちゃん	220	37	183
平成19年６月３日	フューチャーシティ ファボーレ	ケロロ軍曹 毎日が日曜日!?であります	353	31	322
平成20年６月１日	イオンモール高岡	ケロロ軍曹はコピーが上手!?であります	222	55	167
平成21年６月７日	アルプラザ小杉	ケロロ軍曹 エコ活動で侵略大作戦	209	41	168
平成22年６月６日	アルプラザ小杉	クレヨンしんちゃん 風間くんのヒミツだゾ～	187	42	145
平成23年６月５日	イオンモール高岡	のび太の目指せ！ラッキーチャンピオン	229	61	168
平成24年６月３日	イオンモール高岡	ハッピーバースデイドラえもん	193	47	146
平成25年６月２日	イオンモール高岡	パッコロリンキャラクターショー	230	58	172

歯の無料相談

歯の健康相談（富山会場、昭和63年6月5日）

歯の健康相談（砺波会場、昭和63年6月5日）

歯の健康相談（黒部会場、昭和63年6月5日）

歯の健康フェスティバル

歯の健康フェスティバル'90

歯の健康フェスティバル'90（歯の健康相談コーナー）

歯の健康フェスティバル'90（展示コーナー）

歯っぴーフェスタ8020

歯っぴーフェスタ8020（平成16年度）

歯っぴーフェスタ8020（平成16年度）

歯っぴーフェスタ8020（平成16年度）

歯っぴーフェスタ8020（平成17年度）

歯っぴーフェスタ8020（平成17年度）

歯っぴーフェスタ8020（平成18年度）

歯っぴーフェスタ8020（平成18年度）

歯っぴーフェスタ8020（平成19年度）

歯っぴーフェスタ8020（平成19年度）

歯っぴーフェスタ8020（平成20年度）

歯っぴーフェスタ8020（平成21年度）

歯っぴーフェスタ8020（平成21年度）

歯っぴーフェスタ8020（平成21年度）

歯っぴーフェスタ8020（平成22年度）

歯っぴーフェスタ8020（平成23年度）

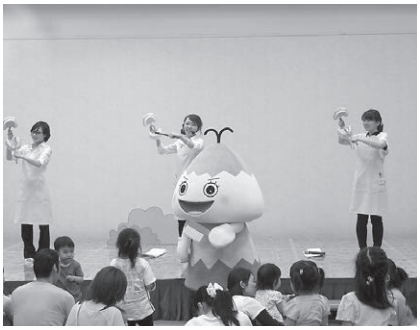
歯っぴーフェスタ8020（平成24年度）

歯っぴーフェスタ8020（平成24年度）

歯っぴーフェスタ8020（平成24年度）

歯っぴーフェスタ8020（平成25年度）

歯っぴーフェスタ8020（平成25年度）


歯っぴーフェスタ8020（平成25年度）

富山県歯の保健文化賞　昭和58（1983）年～平成14（2002）年

富山県歯科医師会が主催する「富山県歯の保健文化賞」（富山県、富山県市長会、富山県町村会共催、日本歯科医師会後援）は、置県100年を契機に、21世紀に向かって活力ある人間性豊かな福祉社会、特に県民一人ひとりが「自分の健康は、自分で守る」という自覚と認識をもつことが何よりも重要であるとの観点から、歯科保健衛生の分野において優れた業績を挙げた個人および団体の功績を表彰するものである。

昭和57（1982）年、富山県歯科医師会が、県民の歯科保健の推進と、永年に亘って地域住民の口腔衛生知識の普及、心身障害児に対する歯の治療などの業績により、第34回保健文化賞を受けたことを記念して創設された。

昭和58（1983）年の第１回開催から、平成14（2002）年に至るまで計20回に亘り多くの個人および団体を表彰し、審査委員には各報道（テレビ、新聞社）関係者にも協力を頂いた。

「富山県歯の保健文化賞」

回	年度	表彰日	受賞者		
第1回	昭和58	10月29日	（個人） 大田　輝子（大沢野町）	（個人） 坂下　栄作（富山市）	
第2回	昭和59	11月30日	（個人） 嶋畑　慶子（氷見市）	（団体） 財団法人 鉄道弘済会富山保健所 代表者　所長　前田　貞子	（団体） 入善子供の歯を守る会 代表者　中村　美恵子
第3回	昭和60	6月28日	（個人） 大野　和子（富山市）	（団体） 高岡市姫野地区母子愛育班 代表者　愛育班長　片岡　俊恵	
第4回	昭和61	6月4日		（団体） 細入村愛育班 代表者　愛育班長　加藤　加寿枝	（団体） 富山県学校保健会養護教諭会 代表者　会長　金山　桂子
第5回	昭和62	6月4日		（団体） 富山県立高志学園口腔ケアーグループ 代表者　小川　美智子	（団体） 中伏木校下愛育班 代表者　愛育班長　西川　敏子
第6回	昭和63	6月4日	（個人） 米田　由紀子（福光町）	（団体） 滑川市有金地区愛育班 代表者　愛育班長　岩田　陽子	（団体） 社会福祉法人桜谷児童福祉会桜谷保育園 代表者　園長　篁　民野
第7回	平成元	6月3日	（個人） 高島　きぬ子（砺波市）	（団体） 大島町新開発母子愛育班 代表者　班長　林　みち子	（団体） 杉原地区むし歯予防啓発推進事業実行委員会 代表者　委員長　島　詮
第8回	平成2	6月3日	（個人） 島田　直子（庄川町）	（団体） 大沢野町母子保健推進員協議会 代表者　会長　小林　文子	（団体） 片口校下愛育班 代表者　班長　片岡　逸子
第9回	平成3	6月4日	（個人） 悟道　秀子（細入村）	（団体） 高岡市母子保健推進員協議会	（団体） 富山県立砺波学園歯科保健グループ
第10回	平成4	11月10日	（個人） 佐藤　君子（婦中町）	（団体） 婦中町母子保健推進員協議会 代表者　会長　宮下　数枝	（団体） 砺波市母子保健推進員連絡協議会 代表者　会長　井沢　笑子
			（個人） 瀬川　宣子（婦中町）	（団体）子どもの歯を守るマーガレットの会 代表者　松島　直子	
第11回	平成5	11月11日	（個人） 荒川　豊（富山市）	（団体） 八尾町母子保健推進員連絡協議会 代表者　会長　浅地　きく	（団体） 新湊市作道校下母子愛育班 代表者　班長　竹橋　和子
第12回	平成6	11月8日		（団体） 大門町母子保健推進員協議会 代表者　協議会長　栗江　美代子	
第13回	平成7	10月13日	（個人） 崇田　輝子（立山町）	（団体） 井波町保健センター 代表者　センター長　細川　正雄	（団体） 上市町立宮川小学校 代表者　校長　松田　伸一
第14回	平成8	11月8日	（個人） 長沢　悦子	（団体） 砺波市在宅寝たきり老人等 歯科保健推進協議会 代表者　会長　桜木　正昭	（団体） 富山県立となみ養護学校 代表者　校長　稲垣　不二男
第15回	平成9	11月7日	（個人） 室谷　光子	（団体） 新湊市母子保健推進員協議会	（団体） 高岡市立牧野小学校
第16回	平成10	11月6日		（団体） 富山地方鉄道健康保険組合	（団体） 砺波市立砺波南部小学校
第17回	平成11	11月8日		（団体） 富山市立桜谷小学校	（団体） 富山市立根塚保育所
第18回	平成12	11月8日		（団体） 中部保健所八尾支所管内 母子保健推進員連絡協議会	（団体） 井口村健康管理センター
				（団体）魚津市立上中島小学校	
第19回	平成13	11月8日		（団体） 宇奈月町立宇奈月小学校	（団体） 老人保健施設　サンセリテ
				（団体）福光町健康増進センター	
第20回	平成14	11月8日		（団体） 小杉町立歌の森小学校	（団体） 特別養護老人ホーム喜寿苑
				（団体）小矢部市保健センター	

第1回富山県歯の保健文化賞表彰式

第6回富山県歯の保健文化賞表彰式

第7回富山県歯の保健文化賞表彰式

第9回富山県歯の保健文化賞表彰式

第13回富山県歯の保健文化賞表彰式

第14回富山県歯の保健文化賞表彰式

第15回富山県歯の保健文化賞表彰式

第16回富山県歯の保健文化賞表彰式

いい歯カムカムすこやか大賞　平成7（1995）年～現在

富山県歯科医師会では、平成７（1995）年度より、富山県の委託事業として、県民歯の健康プラン（旧富山県歯の健康プラン）に基づき、「いい歯 カムカム すこやか大賞」の名称で、富山県在住の80歳以上で20本以上自分の歯を保有している方を表彰している。

本人および歯科医院からの推薦によって応募者を募り、審査委員会で審査を実施し表彰者を選定。表彰式を、毎年11月８日の「いい歯の日」に行っており、現在も事業は継続している。

平成7年度第1回いい歯カムカムすこやか大賞（歯科保健フォーラム会場にて）

平成8年度第2回いい歯カムカムすこやか大賞

平成10年度第4回いい歯カムカムすこやか大賞

平成17年度第11回いい歯カムカムすこやか大賞

平成18年度第12回いい歯カムカムすこやか大賞

平成19年度第13回いい歯カムカムすこやか大賞

平成21年度ポスター

平成22年度ポスター

平成23年度ポスター

平成25年度ポスター

富山県「いい歯カムカムすこやか大賞」

第１回	表彰式　平成７年10月13日		
	富山県知事賞	最優秀賞	木下　茂夫（魚津市）
		優秀賞	西山　政二（滑川市） 高島　かの（富山市）
	富山県歯科医師会長賞	南　　竹蔵（富山市） 廉　　安夫（氷見市）	川原　勇仙（砺波市） 大島勝太郎（砺波市）
第２回	表彰式　平成８年11月８日		
	富山県知事賞	最優秀賞	荒川としゑ（富山市）
		優秀賞	小坂　儀一（小杉町） 岩井　つや（黒部市）
	富山県歯科医師会長賞	飛騨　芳男（魚津市） 尾崎　隆三（富山市）	菅野　友吉（高岡市）
第３回	表彰式　平成９年11月７日		
	富山県知事賞	最優秀賞	嶋　　政雄（高岡市）
		優秀賞	松田　孝作（福光町） 若林滋次郎（婦中町）
	富山県歯科医師会長賞	広瀬　吉雄（高岡市） 石野　賢子（高岡市）	大橋仁四郎（福光町）
第４回	表彰式　平成10年11月６日		
	富山県知事賞	最優秀賞	義井　久光（福野町）
		優秀賞	竹林　義雄（滑川市） 林　かず子（高岡市）
	富山県歯科医師会長賞	金子　鋳造（富山市） 北村　高久（富山市）	上羽眞一郎（富山市）
第５回	表彰式　平成11年11月８日		
	富山県知事賞	最優秀賞	山本　正光（小矢部市）
		優秀賞	小林とめを（高岡市） 池本　由藏（高岡市）
	富山県歯科医師会長賞	米島　初枝（入善町） 波岡　富男（富山市）	高桜　善次（朝日町）
第６回	表彰式　平成12年11月８日		
	富山県知事賞	最優秀賞	田屋　茂夫（小矢部市）
		優秀賞	金尾みよし（富山市） 中島ミサヲ（富山市）
	富山県歯科医師会長賞	田中　むめ（富山市） 岡部　昇栄（砺波市）	居波千吉郎（朝日町）
第７回	表彰式　平成13年11月８日		
	富山県知事賞	最優秀賞	高木かほり（富山市）
		優秀賞	吉川　吉春（小矢部市） 小八木　治（富山市）
	富山県歯科医師会長賞	石野　栄一（富山市） 宮田　久好（八尾町）	笹田　義衛（富山市）
第８回	表彰式　平成14年11月８日		
	富山県知事賞	最優秀賞	椿　　義夫（黒部市）
		優秀賞	加藤　武治（富山市） 間嶋　長作（氷見市）
	富山県歯科医師会長賞	五十嵐民子（魚津市） 飴井　佐八（高岡市）	竹内　久子（富山市）
第９回	表彰式　平成15年11月８日		
	富山県知事賞	最優秀賞	瀧田　貞壽（高岡市）
		優秀賞	田計　正二（大沢野町） 山本　助次（井波町）
	富山県歯科医師会長賞	明野　　博（富山市） 中川みどり（庄川町）	遠藤はりゑ（富山市）
第10回	表彰式　平成16年11月８日		
	富山県知事賞	最優秀賞	有沢　義一（新湊市）
		優秀賞	新タ　正朝（滑川市） 西尾　初枝（富山市）
	富山県歯科医師会長賞	平田　豊一（滑川市） 本郷　行雄（新湊市）	加藤　為之（小杉町）

第11回	表彰式　平成17年11月８日		
	富山県知事賞	最優秀賞	荻生　　俊（富山市）
		優秀賞	千代　武義（黒部市） 小山よ志子（高岡市）
	富山県歯科医師会長賞	津野あつ子（富山市）　小野百合子（高岡市） 有岡ミエコ（富山市）　山下　三次（富山市）	
第12回	表彰式　平成18年11月８日		
	富山県知事賞	最優秀賞	沢田　正一（黒部市）
		優秀賞	滝本　　行（南砺市） 村花政太郎（富山市）
	富山県歯科医師会長賞	八島　文雄（射水市）　山田　　潔（富山市） 中村　信正（南砺市）　豊田　まき（黒部市）	
第13回	表彰式　平成19年11月８日		
	富山県知事賞	最優秀賞	山﨑　静子（富山市）
		優秀賞	平井　義輝（富山市） 金森　芳行（高岡市）
	富山県歯科医師会長賞	野坂　忠義（入善町）　澤田ミユキ（富山市） 山本　　勉（富山市）　田中　モト（富山市）	
第14回	表彰式　平成20年11月7日		
	富山県知事賞	最優秀賞	岡本　長寿（富山市）
		優秀賞	中田喜久雄（上市町） 温井きよい（射水市）
	富山県歯科医師会長賞	田村　佳一（富山市）　笹岡　政義（富山市） 森田　松島（入善町）　渋谷　スマ（富山市）	
第15回	表彰式　平成21年11月6日		
	富山県知事賞	最優秀賞	村井　俊昭（射水市）
		優秀賞	小林　　寛（富山市） 高井　冨雄（射水市）
	富山県歯科医師会長賞	藤井　重光（富山市）　藤井　慶輝（富山市）　稲垣　典子（富山市） 松原　敏子（富山市）　谷村　文平（南砺市）	
第16回	表彰式　平成22年11月８日		
	富山県知事賞	最優秀賞	佐伯千鶴子（立山町）
		優秀賞	川内　貞義（富山市） 佐野チヱ子（射水市）
	富山県歯科医師会長賞	赤尾信太郎（富山市）　高野　宗之（富山市） 藤井　　薫（富山市）　新木キクヱ（富山市）	
第17回	表彰式　平成23年11月８日		
	富山県知事賞	最優秀賞	澤田　良子（富山市）
		優秀賞	新村　紀美（富山市） 高橋　武子（氷見市）
	富山県歯科医師会長賞	嶋田みつ子（南砺市）　筧田　笑子（富山市） 堀　　良雄（射水市）　坂田　キミ（富山市）	
第18回	表彰式　平成24年11月８日		
	富山県知事賞	最優秀賞	宮島　啓二（富山市）
		優秀賞	石橋　三郎（射水市） 奥田　　眞（富山市）
	富山県歯科医師会長賞	高畑　文子（射水市）　清都　信男（南砺市） 谷口　睦子（砺波市）	
第19回	表彰式　平成25年11月８日		
	富山県知事賞	最優秀賞	中村　光子（砺波市）
		優秀賞	石丸　隆義（富山市） 服部　順子（魚津市）
	富山県歯科医師会長賞	鈴木　政子（富山市）　林　　妙子（富山市） 飯田　光男（富山市）	

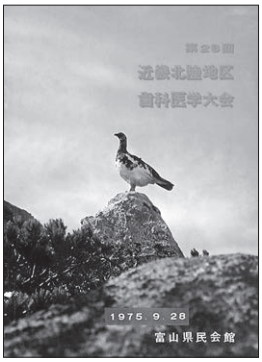
近畿北陸地区歯科医学大会（近北学会）

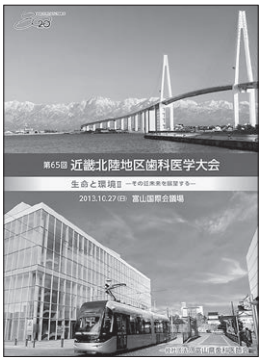
第65回近畿北陸地区歯科医学大会

近畿北陸地区歯科医学大会（近北学会）は、昭和23（1948）年８月１日、日本歯科医師会内に日本歯科医学会が発足されたことを受けて、同年10月31日に開催された「日本歯科医師会学術会議 近畿地区歯科医学大会」を前身とする。富山県をはじめ石川県・福井県の歯科医師会が、都道府県歯科医師会地方ブロック改編によって北信越ブロックから近畿ブロックに編入した昭和29（1954）年より、現在の名称となった。この年、北陸３県を加えた２府７県による第７回近北学会は、京都府立医科大学附属病院で開催された。

本会は、日本歯科医学会発足時より北陸３県、および新潟県・長野県を加えた北信越５県が連携して学術研究活動を行っていた。昭和23（1948）年８月21日には金沢市で北陸歯科医学会を、同年10月16日には同じ金沢市で日本歯科医師会共催による北信学術会議を開催している。

ここでは、会員による学術研究活動を、富山県で開催された近北学会（第14回、第28回、第41回、第53回、第65回）を通して振り返ってみる。





近畿北陸地区歯科医学大会の歩み

	開催年	開催地	テーマ
第１回	昭和23年	大阪	
第２回	昭和24年	京都	
第３回	昭和25年	兵庫	
第４回	昭和26年	和歌山	
第５回	昭和27年	奈良	
第６回	昭和28年	（第５回日本歯科医学会総会）	
第７回	昭和29年	京都	
第８回	昭和30年	兵庫	
第９回	昭和31年	石川	
第10回	昭和32年	滋賀	
第11回	昭和33年	大阪	
第12回	昭和34年	兵庫	
第13回	昭和35年	京都	
第14回	昭和36年	富山	
第15回	昭和37年	和歌山	
第16回	昭和38年	（第10回日本歯科医学会総会）	
第17回	昭和39年	兵庫	
第18回	昭和40年	京都	
第19回	昭和41年	福井	
第20回	昭和42年	奈良	
第21回	昭和43年	兵庫	印象
第22回	昭和44年	（第12回日本歯科医学会総会）	
第23回	昭和45年	京都	
第24回	昭和46年	石川	
第25回	昭和47年	大阪	新しい趣向と明日への適応
第26回	昭和48年	滋賀	
第27回	昭和49年	兵庫	
第28回	昭和50年	富山	
第29回	昭和51年	京都	
第30回	昭和52年	和歌山	
第31回	昭和53年	大阪	歯科医療を広く多くの人々へ
第32回	昭和54年	福井	新しい歯科医療を求めて―修復物とペリオの接点―
第33回	昭和55年	大阪	今こそ学術の灯を
第34回	昭和56年	兵庫	生体と口腔の調和
第35回	昭和57年	奈良	創造と伝達と飛躍を
	昭和58年	（第15回日本歯科医学会総会）	
第36回	昭和59年	京都	よりすこやかな生活は口腔から
第37回	昭和60年	石川	あすへの歯科医療
第38回	昭和61年	大阪	21世紀への歯科医療
第39回	昭和62年	滋賀	細分化時代の次に来るもの―生涯健歯とみのりある老後―
第40回	昭和63年	兵庫	成熟社会への歯科医療
第41回	平成元年	富山	自然との調和
第42回	平成２年	京都	心ゆたかな明日へ
第43回	平成３年	和歌山	より良い歯科医療を求めて
第44回	平成４年	大阪	今、そして、次代への想いを込めて
第45回	平成５年	福井	噛む（食と健康を考える）
第46回	平成６年	兵庫	成熟社会への歯科医療―8020をめざして―
第47回	平成７年	奈良	まほろばに集う九つの力―歯科医療の飛躍を胸に―
第48回	平成８年	京都	長寿と8020
第49回	平成９年	石川	21世紀をめざして～歯と健康～
第50回	平成10年	大阪	躍進する明日への歯科医療をもとめ～20世紀の反省をこめて～
第51回	平成11年	滋賀	新世紀へ、私達が求めるもの、求められるもの～歯科から健康科学への発信を～
第52回	平成12年	兵庫	世紀をこえて―全身の健康と歯科医療―
第53回	平成13年	富山	生命と環境
第54回	平成14年	京都	つなごう未来へ
第55回	平成15年	和歌山	知の世紀　現在（いま）、何をすべきか～人にやさしい医療を求めて～
第56回	平成16年	大阪	躍進する明日への歯科医療をもとめ～21世紀の輝ける展望を～
第57回	平成17年	福井	食と健康～おいしく食べて元気で長生き～
第58回	平成18年	兵庫	未来を見つめて―信頼と安心―
第59回	平成19年	奈良	健康長寿をめざして―口腔の健康から全身の健康へ―
第60回	平成20年	京都	21世紀の健康を支える歯科医療―オプティマルヘルスを求めて―
第61回	平成21年	石川	ハッピーエイジング・歯科医師としての挑戦
第62回	平成22年	大阪	躍進する明日への歯科医療をもとめ
第63回	平成23年	滋賀	生活を支える医療、歯科に求められるもの
第64回	平成24年	兵庫	チーム医療で創る未来
第65回	平成25年	富山	生命と環境Ⅱ―その近未来を展望する―

＊第1回～第5回は日本歯科医師会学術会議　近畿地区歯科医学大会として開催。第7回以降、近畿北陸地区歯科医学大会に名称変更

第14回近畿北陸地区歯科医学大会

富山県で初めて近北学会が開催されたのは、昭和36（1961）年９月23日の第14回大会である。大会は北陸３県担当のもとで行われ、会場は、当時日本３大公会堂の１つに称された富山市公会堂であった。北陸が当番県となることが分かったのが３年前、開催地が富山県と決定したのが１年前、京都で開催された第13回大会を全理事が視察し、１年かけて準備を進めた。

記念すべき大会は、富山市公会堂に３つの会場と展示会場を設け、第１会場では、特別講演、第２会場では一般講演、第３会場ではシンポジウムがそれぞれ行われた。来県された来賓の方々に記章を付けたのは、この年の６月に選ばれた歯の女王たちであった。

この大会では、他府県では取り扱わなかった観光宿泊の斡旋を初めて行い、宇奈月、黒部、立山の景観を観光するコースが設けられた。中秋の雄大な立山を訪ねるコースは悪天候のため中止となったが、多くの参加者が富山県の魅力に触れることができた。観光コース以外の方は、大会終了後富山ヘルスセンターへ移動し懇親会が行われた。

第14回大会式次第

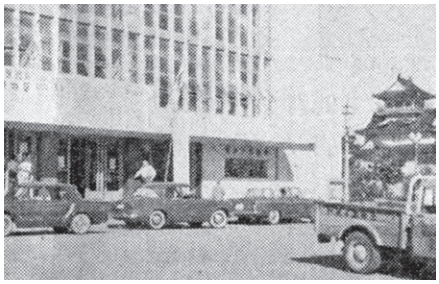
■第１会場
- ●観光映画「立山連峰」上映
- ●開会の辞
- ●特別講演「補綴臨床の盲点の追及」
  河邊清治東京歯科大学教授
- ●総会
- ●麦屋節（日本７大民謡・無形文化財）
- ●特別講演「歯石、とくに血石の沈着起始とその後の発展について」
  小野寅之助大阪歯科大学教授
- ●特別講演「保存、補綴、矯正に関係ある歯科外科」
  園山昇日本歯科大学教授
- ●閉会の辞

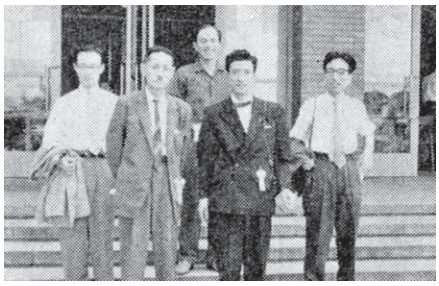
■第２会場
- ●開会の辞
- ●一般講演（22題）

■第３会場
- ●学術映画「歯科領域に於ける局所麻酔」「歯槽膿漏症に於けるノイマン法手術と式」など上映
- ●シンポジウム「総義歯とその材料」
  河邊清治教授ほか

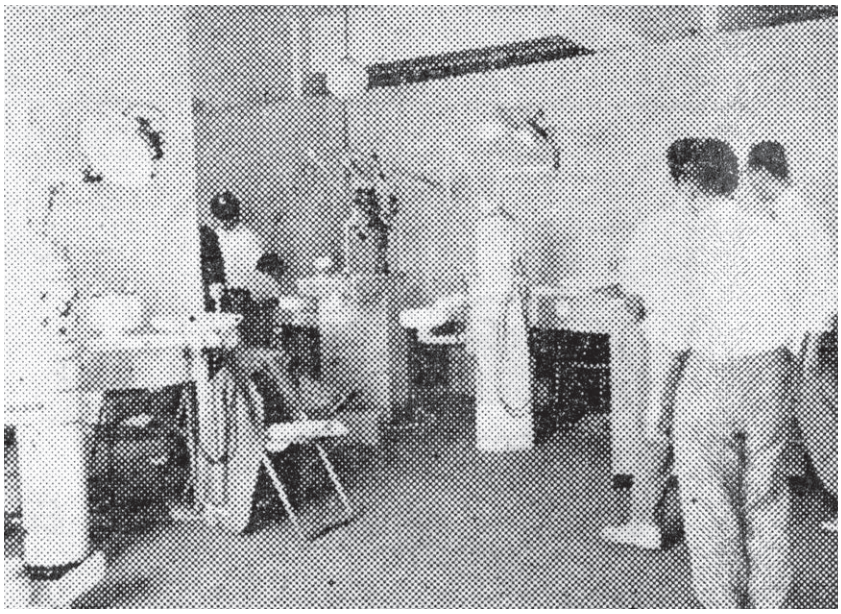
第14回近畿北陸地区歯科医学大会
大会役員

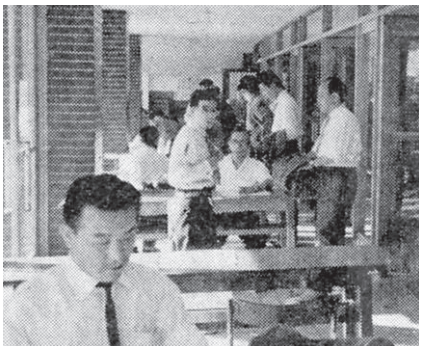
大会会長	岡田　信次
総務部長	永森　　収
講演・会場部長	阿部　清一
接待部長	浦野與四郎
懇親部長	山岸　確次
受付部長	川口　義門
案内宿泊部長	高田　育三
渉外部長	桜木　成一
記録部長	大道　憲治
観光部長	三羽　邦定



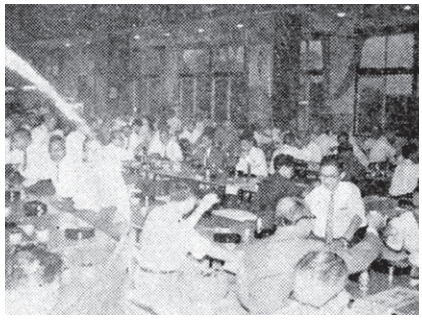


日本歯科医師会
近畿北陸地区
歯科医学大





歯科医学大会



第28回近畿北陸地区歯科医学大会

富山県で開催された２回目の近北学会は、昭和50（1975）年９月28日、富山県民会館を会場に開催された第28回大会であった。

大会は、前日夜からの雨も上がり、初秋の風も心地よい絶好の学会日和となった。オープニングを飾ったのは映画「交響詩立山」。黛敏郎の交響曲にのって立山連峰の雄大な姿が参加者の眼前に展開された。

午前10時、山崎安隆大会委員長の開会宣言に続いて永森収大会会長が挨拶に立った。祝辞は、中田幸吉富山県知事（代読）、改井秀雄富山市長、中原實日本歯科医師会長（代読）などの方々、最後に次期開催地の有本武二京都府歯科医師会長が挨拶を行い、オープニングセレモニーは終了した。

最初に特別講演に登壇したのは、難波恒雄富山大学和漢薬研究所教授であった。テーマは「和漢薬を探る」。折しも富山医科薬科大学が開学の運びとなり、薬都・富山ならではの講演となった。

昼食休憩をはさみ、午後の部で特別講演に立ったのは３名の方々であった。まず、深田英朗日本大学歯学部教授が「小児歯科とは」をテーマに講演され、続いて赤坂守人日本大学歯学部講師が「健康管理と予防」について、落合靖一東京医科歯科大学講師が「小児う蝕治療の理論と実際」について講演をした。小児う蝕治療については、６才以下のう蝕罹患児が873万９千人を超え、本数で見積もると4,369万９千本に及ぶという驚くべき罹患状況が紹介され、乳幼児の取り扱い方に関する映画が上映された。

藤井弘大会副会長による閉会が宣せられたのは午後５時すぎであった。

学術講演と並行して会場１階では、近北地区歯科医学会協賛のデンタルショーが開催された。

第28回近畿北陸地区歯科医学大会大会役員

大会会長	永森　収
大会副会長	山崎　安隆
	藤井　弘
大会委員長	山崎　安隆
大会副委員長	石川　静郎
	吉岡　達雄
総務	田上　修
渉外	飯田　弘
受付	水野　公之
接待	松田　正男
講演	石川　静郎
展示	寺島　祐輔
会場	吉村　史郎
記録	坊　明男
会計	青木　康三

第28回大会式次第

午前の部

8：30　開場受付
8：55　開会宣言
　大会委員長　山崎　安隆
9：00　映　画「交響詩立山」
10：00　大会セレモニー
　司会　田上　修
　挨　拶　大会会長　永森　収
　式　辞
　日本歯科医師会長　中原　實
　日本歯科医学会長　白数美輝雄
　富山県知事　中田　幸吉
　富山市長　改井　秀雄
　次期開催地　紹介　京都府
　次期開催地会長　挨拶
　京都府歯科医師会長　有本　武二
10：40　講　演「和漢薬を探る」
　富山大学和漢薬研究所教授　難波　恒雄
11：30　昼　食（休憩）

午後の部

12：30　講　演「小児歯科とは」
　日本大学歯学部教授　深田　英朗
13：10　講　演「健康管理と予防」
　日本大学歯学部講師　赤坂　守人
15：00　講　演「小児う蝕治療の理論と実際」
　東京医科歯科大学講師　落合　靖一
16：30　閉会の辞
　大会副会長　藤井　弘

祝第28回 近畿北陸地区歯科医学大会
和漢薬を探る
小児歯科とは
小児う蝕治療の理論と実際
健康管理と予防

祝 近畿北陸地区歯科医学大会 祝
第28回
会場

児う蝕治療の理論と実際
東京医科歯科大学講師 落合靖一先生
康管理と予防
日本大学歯学部講師 赤坂守人先生
大会々長
兵庫県
大阪府
京都府
和歌山県
奈良県
滋賀県
福井県

赤坂守人
難波恒雄
落合靖一
深田英朗
村上勝
白数美輝雄

祝第28回 近畿北陸地区歯科医学
演題
小児う蝕治療
日本大学歯学

講師

NSK

第41回近畿北陸地区歯科医学大会

富山県で３回目の開催となる第41回近北学会は、平成元（1989）年11月12日、市制100年を迎えた富山市の中心にある富山県民会館を会場に行われた。晩秋の富山では珍しい好天の中での開催となった。第25回大会以降、大会のメインテーマが掲げられるようになったことを受けて、本会は第41回大会のテーマを「自然との調和」とし、準備を進めた。

大会は、午前10時40分、今村勝彦大会副会長の開会のことばで始まり、評論家村松剛氏による「平成の始まりと世界」と題する特別講演に耳を傾けた。

12時より、大会会長である藤井弘富山県歯科医師会長が挨拶に立ち、中沖豊富山県知事、正橋正一富山市長、山崎数男日本歯科医師会長、砂田今男日本歯科医学会長に祝辞を戴き、次期開催地の長谷川博久京都府歯科医師会長の挨拶でセレモニーを終了した。

昼食休憩をはさみ午後からの特別講演に立ったのは、木村正康富山医科薬科大学教授と溝上隆男東京歯科大学教授のお二人。木村教授は「漢方薬体系の薬理学的特徴」を、溝上教授は「生体と調和した総義歯―無歯顎における咬合の場―」をテーマとする講演を行った。

同会館地下１階展示ホールでは、前日の11月11日から80余社が参加した'89トヤマデンタルショーが盛大に開催された。会場には、日進月歩の先進歯科医療機器をはじめ、セラミックスや特殊合金、レーザー、高分子系レジンなどの新素材、高度情報化時代の現代に対応したコンピュータシステム、高齢社会に対応したポータブルユニットなどの在宅診療機など、数多くが展示された。

第41回近畿北陸地区歯科医学大会大会役員

大会会長	藤井　弘					
大会副会長	今村　勝彦	坊　明男				
大会委員長	山本　壮一					
大会副委員長	奥村　朋宏	熊木　彰				
総務	大野　繁彦					
渉外	山岸　敏治	山崎　安隆	上田　昌			
受付	石崎　護	木村　純一				
接待	宮田　靖雄	高石　叡				
講演	平井　和輝	山崎　宣夫				
展示	佐渡　哲雄	岡田　洋昭				
会場	松田　倫雄	福島　武人				
記録	高畠　隆	山本　武夫				
会計	北山善之進					
実行委員	釣谷　東民	吉田　季彦	時女外与三	田中　慎二		
	水野　隆俊	上田外喜男	神田　純郎	岡野　秀成		
	坂本喜久雄	佐野　正之	松木　基祐	中島　清之		
	斎藤　雄二	川口　志郎	金子　光謙	石坂　正明		
	逸見　玲	金森　安信	川口　義治	萬谷　敏紀		
	片山　浄慧	和記徳久雄	高沢　尚人			

第41回大会式次第

●日時　平成元年11月12日（日）　午前９時
●大会会場　富山県民会館ホール
●展示会場　富山県民会館展示室（地下）
●大会テーマ　　メインテーマ「自然との調和」
●大会・日程
　９：00　会場・受付開始
　10：40　開会のことば
　　特別講演「平成の始まりと世界」
　　評論家　村松　剛
　12：00　大会セレモニー
　　昼食・休憩
　　特別講演
　　「漢方薬体系の薬理学的特長」
　　富山医科薬科大学教授　木村　正康
　　「生体と調和した総義歯」
　　―無歯顎における咬合の場―
　　東京歯科大学教授　溝上　隆男
　　閉会のことば

●会員紙上研究発表
●デンタルショー（11月11日・12日）

第41回
自然
魚野喜一

中沖豊
正一
山崎敬男
砂田今男

坂本俊夫
魚野喜一
辻本信輝
長谷川博久
藤井弘

総義歯
る咬合の場
溝上隆男
座長

第41回 近畿北陸地区歯科医学大会
自然との調和
特別講演
平成の始まりと世界
村松

総合案内
INFORMATION

GOOD IMPRESSION

第53回近畿北陸地区歯科医学大会

平成13（2001）年11月11日、富山県で４回目となる第53回近北学会が、緑あふれる富山城址公園に面した絶好のロケーションに建つ富山国際会議場大手町フォーラムで開催された。同会場２階では、デンタルショー2001 TOYAMAも行われた。

第53回大会のテーマは「生命と環境」。新世紀を迎え、爆発的な人口増加と高度経済成長によって、地球規模での環境破壊が進んでいる情勢を考えたとき、今こそ過去を振り返り、そこから得た教訓を生かしながら未来を展望する、改めて生命の意味を問い直すことを願い、このテーマが決定した。

大会は、宮田靖雄大会副会長のことばで始まり、特別講演として養老孟司北里大学教授が登壇した。テーマは「脳を通して何が見えるか」で、人間のアイデンティティともいうべき思考のシステムについて考えることは、生命の尊厳と環境問題に思いを巡らせる出発点となる講演となった。

その後大会セレモニーへと移り、大会会長の栗山豊実県歯科医師会長が挨拶を述べ、中沖豊富山県知事、正橋正一富山市長、臼田貞夫日本歯科医師会長、斎藤毅日本歯科医学会長から祝辞が述べられ、次期開催地の岩田明京都府歯科医師会長が挨拶した。昼食休憩をはさみ、午後から奥田克爾東京歯科大学教授（富山県出身）が「健康を脅かす歯周病原菌」をテーマに、中田稔九州大学大学院歯学研究院教授が「口腔領域における遺伝―その現状と未来」をテーマに講演をした。

第53回近畿北陸地区歯科医学大会大会役員

大会会長	栗山　豊実					
大会副会長	宮田　靖雄	北山善之進	桜木　正昭			
大会委員長	山﨑　安仁					
大会副委員長	熊木　　彰	安田　　篤				
総務	篠原　昭道					
渉外	奥川　澄夫	今村　勝彦				
受付	山崎　宣夫	村井　幸嗣	小森　　実			
接待	山田　真樹	森本　　伸	杉江　玄嗣			
講演	松岡　正道	杉本　友夫				
展示	中道　　勇	山岸　敏治	平木　光昭			
会場	焼田志図夫	福島　武人	加藤　高男			
記録	高畠　　隆					
会計	奥村　朋宏					
実行委員	佐野　正之	仲村辰一郎	吉岡　千尋	川口　志郎	上滝　　浩	
	折山　　弘	上田　　均	牧野　　明	土肥　勝博	齋藤　　彰	
	山岸　聡史	萬谷　敏紀	青木　一登	逸見　　玲	川口　義治	
	島　　秀一	稲田　次郎	魚津　博文	星野　照宗	安カ川　聡	

第53回大会式次第

9：00　開場・受付開始
10：00　開会のことば
　大会副会長　宮田　靖雄
　特別講演『脳を通して何が見えるか』
　北里大学教授　養老　孟司
　座長　大会副会長　宮田　靖雄
11：30　大会セレモニー
　挨拶　大会会長　栗山　豊実
　祝辞　富山県知事　中沖　豊
　富山市長　正橋　正一
　日本歯科医師会会長　臼田　貞夫
　日本歯科医学会会長　斎藤　毅
　次期開催地紹介と挨拶
　京都府歯科医師会会長　岩田　明
　司会　大会委員長　山﨑　安仁
12：10　昼食：休憩
13：30　特別講演『健康を脅かす歯周病原菌』
　東京歯科大学教授　奥田　克爾
　座長　大会副会長　桜木　正昭
15：00　特別講演
　『口腔領域における遺伝―その現状と未来』
　九州大学大学院歯学研究院教授
　中田　稔
　座長　大会副会長　北山善之進
16：30　閉会のことば
　大会副会長　北山善之進

9：00～17：00　デンタルショー2001 TOYAMA

宮田靖

第53回 近畿北陸地区歯科医学大会
テーマ「生命と環境」

正橋正一
日田貞夫
斎藤毅
養老孟司
奥田克爾

桜木正昭

第53回 近畿北陸地区歯科医学大会
テーマ「生命と環境」

第53回 近畿北陸地区歯科医学大会
デンタルショー 懇親パーティー

第65回近畿北陸地区歯科医学大会

平成25（2013）年10月27日、第65回近畿北陸地区歯科医学大会が、富山国際会議場大手町フォーラムで開催された。本県での開催は今回が５回目、本会が創立100周年を迎える記念すべき年の開催となった。恒例の「Dental Show 2013 富山」も、同会場２階で行われた。

本会では12年前に「生命と環境」をテーマに第53回大会を開催している。近年わが国では、口腔が健康に及ぼす影響についてさまざまな角度から研究が進み、口腔の健康に於ける位置づけも明確になりつつある。また、平成23年３月に発生した東北地方太平洋沖地震と津波で多くの尊い生命が失われ、原発事故を受けてエネルギー問題が顕在化し、がれきの処理といった環境問題も未解決のままとなっている。これらを踏まえ、今一度「生命と環境」の意味を問い直すために、第65回大会メインテーマを「生命と環境Ⅱ―その近未来を展望する―」とした。

大会は、安田篤大会副会長の開会のことばで幕が開き、テレビ番組で御馴染みの池田清彦早稲田大学教授が登壇され、「寿命はどこまで延ばせるか？」をテーマとする特別講演が行われた。

その後、中道勇大会委員長の司会進行による大会セレモニーへと移り、大会会長である吉田季彦歯科医師会会長が挨拶を述べ、石井隆一富山県知事（代読、寺林敏副知事）、森雅志富山市長、大久保満男日本歯科医師会会長、住友雅人日本歯科医学会会長が祝辞を述べられ、次期開催地から平塚靖規京都府歯科医師会会長が挨拶をされた。

午後からは、血管外科の第一人者である岩井武尚東京医科歯科大学名誉教授が「口腔内弱毒菌と血管疾患との関連について」をテーマに、歯科の立場から和泉雄一東京医科歯科大学大学院教授が「歯の健康力と全身の健康」をテーマに講演をされた。

第65回近畿北陸地区歯科医学大会 大会役員

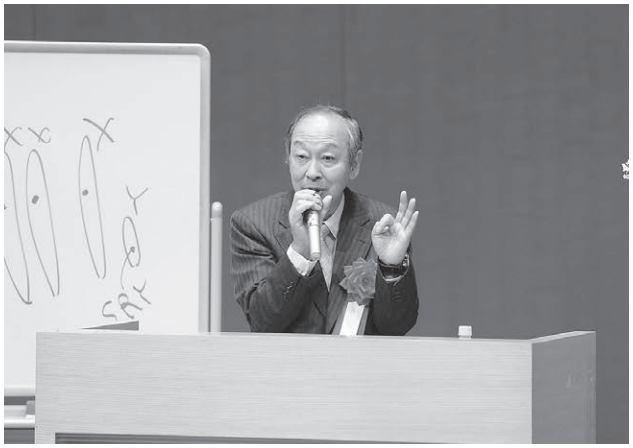
大会会長	吉田　季彦
大会副会長	安田　篤　山﨑　安仁
大会委員長	中道　勇
大会副委員長	齋藤　彰
渉外	林　俊郎　加藤　高男
受付	城川　和夫　清田　築　谷川　文紹
接待	野田　修　山田　隆寛
進行	立浪　徹
会場	上田　均　山本　尚靖　折山　弘　城野　利盛
記録	高島　周二
会計	松岡　正道
実行委員	山下　洋之　朝日　丈晴　岩井　健治　上田　和孝 奥川　裕司　井波　和孝　宮田　就弘　藤岡祐紀乃 吉田　尚史

第65回大会式次第

9：00　開場・受付開始
9：50　開会のことば
　大会副会長　安田　篤
10：00　特別講演Ⅰ『寿命はどこまで延ばせるか？』
　早稲田大学国際教養学部教授　池田　清彦
11：20　大会セレモニー
　挨拶　大会会長　吉田　季彦
　祝辞　富山県知事　石井　隆一
　富山市長　森　雅志
　日本歯科医師会会長　大久保満男
　日本歯科医学会会長　住友　雅人
　次期開催地紹介と挨拶
　京都府歯科医師会会長　平塚　靖規
　司会　大会委員長　中道　勇
12：00　休憩
13：20　特別講演Ⅱ『口腔内弱毒菌と血管疾患との関連について』
　東京医科歯科大学名誉教授
　慶友会つくば血管センター長
　日本静脈学会理事長　岩井　武尚
14：40　休憩
14：50　特別講演Ⅲ『歯の健康力と全身の健康』
　東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科
　生体支持組織学講座 歯周病学分野教授
　和泉　雄一
16：10　閉会のことば
　大会副会長　山﨑　安仁

9：00～16：30　Dental Show 2013 富山

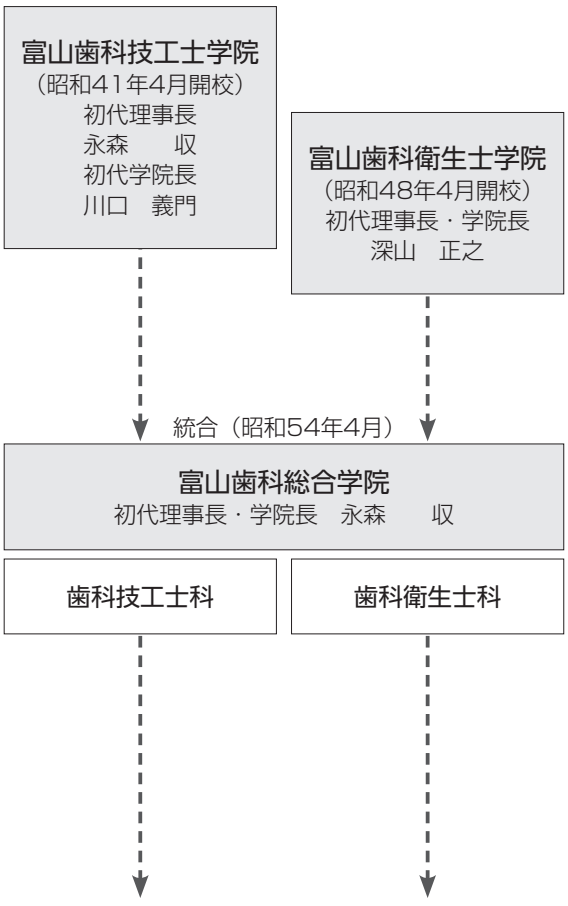
第65回 近畿北陸地区歯科医学大会
生命と環境Ⅱ ―その近未来を展望する―
特別講演Ⅰ
「寿命はどこまで延ばせるか?」
講師 池田 清彦氏
特別講演Ⅱ
「口腔内細菌と血管疾患との関連について」
講師 岩井 武尚氏
特別講演Ⅲ
「歯の健康力と全身の健康」
講師 和泉 雄一氏
挨拶
吉田 季彦



富山歯科総合学院のあゆみ

富山県歯科医師会立富山歯科総合学院は、歯科技工士科（修業年限２年）と歯科衛生士科（修業年限３年）を設置する県内唯一の歯科医療従事者を養成する専門学校である。本学院は、歯科技工士法および歯科衛生士法に基づき、歯科技工士と歯科衛生士を志す学生に、必要な基礎知識と専門的技能を修得させるとともに、歯科医療従事者（デンタルスタッフ）として特に重要となる広い視野をもった豊かな人間形成に努め、我が国の歯科医療の発展向上に資することを目的としている。

本学院の歴史は、昭和41（1966）年設立の富山歯科技工士学院、同48（1973）年設立の富山歯科衛生士学院を前身とし、同54（1979）年に富山歯科総合センターの建設を機に両学院を併設して、富山歯科総合学院として現在に至るもので、これまでに歯科技工士1,200名余、歯科衛生士1,500名余の優秀な学窓を輩出し、県内外の医療保健機関等で高度な専門知識と技能を発揮して歯科医療を支えている。



富山歯科技工士学院の設立

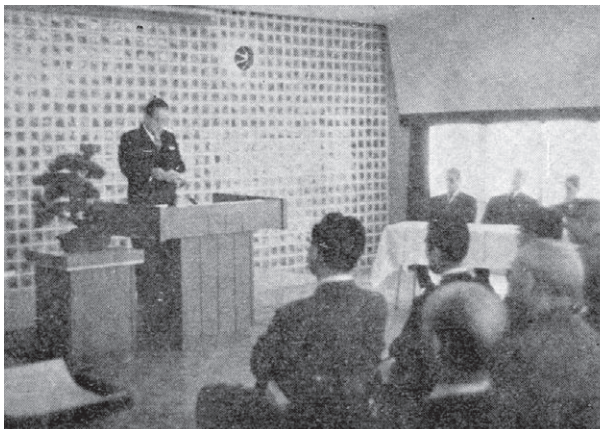
歯科技工士とは、歯科医師の指示に従い、入れ歯（義歯）、さし歯、金冠、矯正装置などの製作・修理に携わり、歯科医療の一端を担う、近代歯科医療において欠かせない存在の医療技術者である。昭和30（1955）年８月公布の歯科技工士法では、歯科技工を「特定人に対する歯科医療の用に供する補綴物、充てん物又は矯正装置を作成し、修理し、又は加工すること」（歯科技工士法第１章第２条）と定めている。歯科技工業務を行うのは歯科医師と歯科技工士に限るとされ、試験制度が導入された。

歯科技工士養成機関の設立は、本会の会員からの切実な要望から準備が始められ、昭和38（1963）年新しい会館建設計画案の決議と同時に、歯科技工士養成所設立準備委員会（委員５名）が置かれた。昭和40（1965）年５月に、富山市舟橋南町に竣工した歯科医師会館２階には歯科技工士養成所が併設され、翌41（1966）年４月１日に厚生大臣の認可を受け、北陸三県で初めての歯科技工士養成機関となる「富山歯科技工士学院」を開校。初代理事長には永森収・前社会保険委員会委員長、初代学院長には川口義門・富山県歯科医師会長が就いた。４月15日に行われた開校式で、学院設置功労者として、設立準備委員会のメンバーである高田寅四郎、三崎正春、杉江玄己、坂本清志、飯田弘各氏に川口学院長から感謝状が贈られた。

同年４月20日、第１期生19名を迎えて、来賓・父兄多数臨席されるなか、第１回入学式が挙行された。

会館竣工式

会員期待と希望の新しい歯科医師会館


富山歯科技工士学院開校式

富山歯科技工士学院入学式

富山歯科技工士学院第１期生巣立つ

昭和44（1969）年３月１日、学院において来賓・父兄多数臨席のもと、第１回卒業式が挙行された。永森学院長より一人ひとりに卒業証書が授与され、卒業生17名を代表して木下安弘が「この３年間ご指導いただいた理論と、技術を基礎にして、更に磨きをかけ、人格を陶冶し、社会に貢献することを誓います」と答辞を述べた。

第１回歯科技工士学院卒業式

卒業式を終えた第１期生17名は、歯科技工士法（昭和30年法律第168号）第十二条に規定する歯科技工士試験（学説・実施）に臨み、全員合格を果した。歯科技工士免許を取得した第１期生は、県内各地の歯科医院・診療所において歯科医療の一端を担う医療技術者として勤務した。また、第１期生のなかで木下安弘、新谷武彦、金井希則（旧姓中村）、本郷定子の４名は、技工研修の傍ら学院の技工実習指導の助手として勤務した。

本県における歯科衛生士養成

歯科衛生士は、歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上を図る（歯科衛生士法第２条・昭和23年制定）ことを目的として、人々の歯・口腔の健康づくりをサポートする専門職で、その業務は①歯科予防処置、②歯科診療の補助、③歯科保健指導、と法律で定められている。

昭和23（1948）年に歯科衛生士法が施行され、全国に65カ所の歯科衛生士養成所ができ、北陸では石川県に開校されていた。富山県における歯科衛生士養成機関の設置は、本会において昭和35（1960）年12月に歯科技工士並びに歯科衛生士養成機関設立準備委員会が設置され、設立に向けて準備が進められた。

その後、富山県厚生部において県立高等衛生学院新設が計画された。当時県下には、歯科衛生士が17名しかおらず、県下全域の223診療所のうち歯科衛生士がいる診療所は約２％、補助者（歯科衛生士）不足により歯科医師が医療の適正を期すことが困難となっている現状を踏まえ、本会から歯科衛生士養成機関の設置要望書を提出した。しかし、計画は富山県立中央病院付属高等看護学院（現･富山県立総合衛生学院）に保健婦専門学院が併設されるにとどまり、歯科衛生士養成機関（課程）は設置されなかった。

本会は､その後富山市舟橋南町に会館を建設、同時に富山歯科技工士学院を設置したが、医療保険制度の充実に伴う管理の合理化、事務複雑化、適正診療という実情を踏まえ、県民の健康保持増進、口腔衛生の普及徹底、歯科疾患の撲滅を図るためには歯科医師の補助的役割を担う歯科衛生士の必要性が会員の一致した思いであった。

富山歯科衛生士学院の設立

昭和47（1972）年４月、臨時代議員会において富山歯科衛生士養成所設立準備委員が承認され、設立準備委員会が設置された。島信行はじめ６名が委員に就き、同年８月には島信行を実行委員長とする９名の歯科衛生士養成所設置実行委員会が組織され、設置準備が進められた。

昭和48（1973）年１月、富山県立中央病院敷地内の元保健婦専門学院一部の貸与を受け学院の建物を建設､富山県厚生部の実地検分を経て、２月28日に厚生大臣の認可指定を受けた。

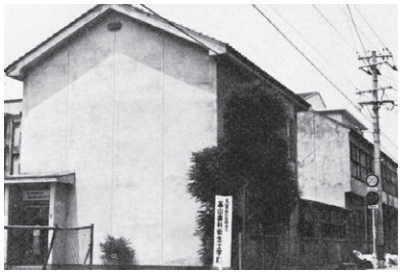
同年４月８日、富山県歯科医師会館において開校式を挙行、設立準備から学院建設に功労のあった９名の委員に対し、深山正之・県歯科医師会長より感謝状が贈られた。

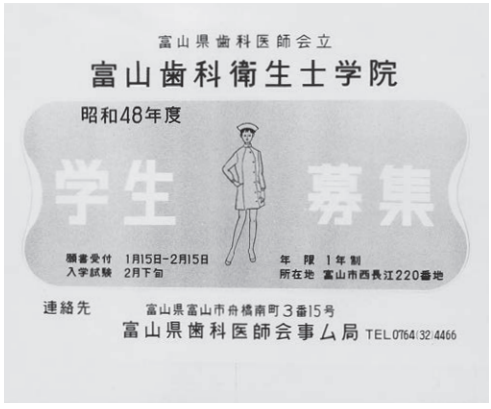
２日後の４月10日午前10時より、富山歯科衛生士学院（１年制）において、第１期生22名を迎えた入学式が行われた｡入学生を代表して、中村展子さんが「第１期生として入学を許可されました私どもは、非常に嬉しく希望に満ちあふれております。この１年間立派に衛生士としての使命を果せるよう十二分に勉学し、みんなで明るく活気のある気風にしたいと思います」と、挨拶を述べた。

昭和49（1974）年３月10日、第１回卒業式が挙行され、深山正之学院長より一人ひとりに卒業証書が授与され､第１期生20名が卒業した。卒業生を代表して、羽井美知子さんが「皆さんから愛され立派な衛生士になり、歯科医療行政の一端と県民の福祉に貢献いたします」と、力強い答辞が述べられた。

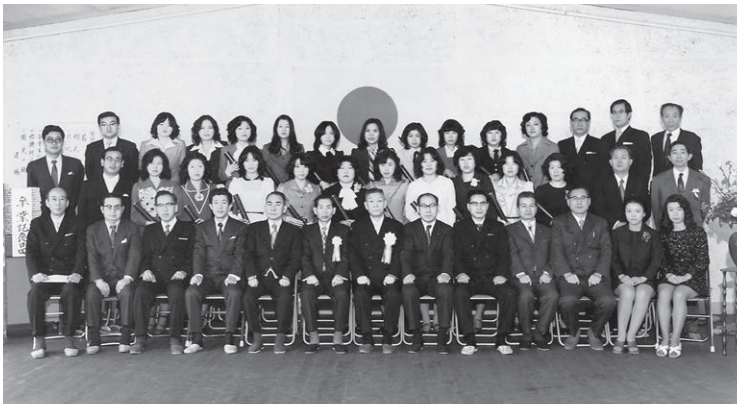
富山歯科衛生士学院開校式

入学式


中央病院内に開設された富山歯科衛生士学院


富山県歯科医師会立
富山歯科衛生士学院
昭和48年度
学生募集
願書受付　1月15日-2月15日
入学試験　2月下旬
年　限　1年制
所在地　富山市西長江220番地
連絡先　富山県富山市舟橋南町3番15号
富山県歯科医師会事ム局　TEL.0764(32)4466

富山歯科衛生士学院学生募集要項（昭和48年度）


第1回卒業式

富山歯科総合センター建設に伴い移転・統合
富山歯科総合学院と改称

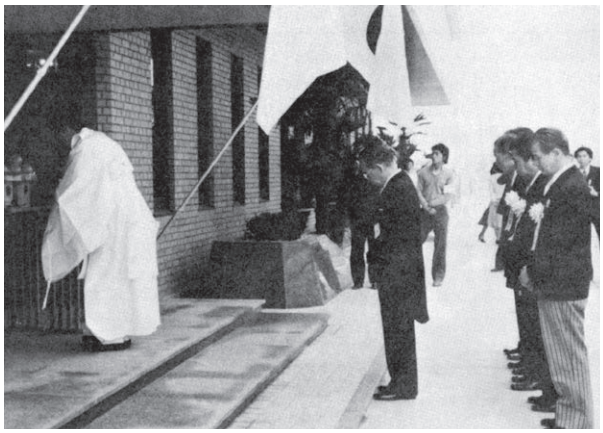
全国的にも有数の歴史を持つ会立学校として12年が経った歯科技工士学院は、法改正により部屋数が足らない状況に至った。５年目を迎えた歯科衛生士学院は、県立中央病院内に賃借している敷地を看護助手の教育機関として使用したいとの病院側の意向が絶えずあり、数年で明け渡す約束で設置したこともあって、新たな施設を作るべきであるとの機運が高まっていた。その頃、県歯科医師会の会員数も年々増加し、会館の収容能力をはるかに超えるまでになっていた。

こうした状況から、総合会館建設の協議が重ねられ、富山市五福字五味原に富山県歯科衛生総合会館（仮称）の建設が決まった。同会館には、口腔衛生センターを置いて歯科診療を行うとともに、歯科技工士学院、歯科衛生士学院を移転する計画であった。

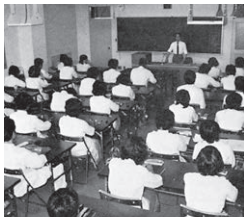
昭和53（1978）年５月23日に新会館の地鎮祭が行われ、６月20日に着工、翌54（1979）年４月７日、念願の新会館竣工式を迎えた。新しい会館は「富山歯科総合センター」と名付けられ、鉄筋コンクリート造４階建、延べ面積3,200㎡を擁する建物となった。同会館２階に衛生士関連の教室、実習室、検査室、３階に技工士関連の教室、実習室、鋳造室などが置かれ、４階には共用部分として体育館兼集団講義室､図書室、ホールなどが置かれた。

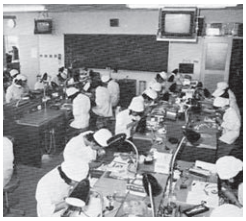
この歯科総合センター竣工と同時に、歯科技工士学院と歯科衛生士学院が統合され、富山歯科総合学院の歯科技工士科、歯科衛生士科として生まれ変わり、初代理事長･学院長に永森収･富山県歯科医師会長が就いた。

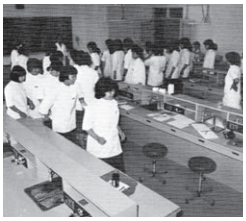
新装となった富山歯科総合学院の第１回入学式は、竣工式翌日の４月８日に、歯科技工士科14期生47名、歯科衛生士科７期生43名を迎えて、盛大に挙行された。


富山歯科総合センター竣工式

富山歯科総合センター







卒後教育・研修の実施

昭和55（1980）年３月２日、富山歯科総合学院となって初めての卒業式が行われた。永森収学院長より、技工士科（第13期生）38名、衛生士科（第７期生）41名の卒業生一人ひとりに卒業証書が授与され、はなむけの言葉が贈られた。

また、同月18日には、歯科技工士科新卒業生と先輩歯科技工士のつどいが、学院内で行われた。先輩技工士の方々は、技工所経営者、歯科医院勤務者など、県内外から11名の方に参加いただいた。このつどいは、本学院初めての試みで、歯科技工士・歯科衛生士の能力および技術のより一層の向上を図る目的で、現在行われている「卒後研修」の原型となった。

歯科総合学院初めての卒業式

歯科衛生士科卒後研修

校歌・校旗・制服の制定
歯科衛生士科２年制へ移行

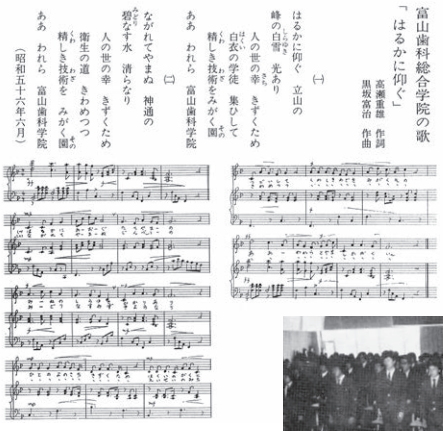
昭和57（1982）年４月４日、総合学院入学式が挙行され、歯科技工士科17期生39名、歯科衛生士科10期生46名が新たに学院の仲間入りをした。

この入学式が、これまでと違うところは、当年度より着用となった真新しい制服に包まれていたこと、そして「君が代」斉唱に続いて、「校歌」斉唱が行われたこと、そして歯科衛生士科が２年制となって最初の入学式であったことである。

校歌と校旗は、昭和56（1981）年４月に制定された。総合学院の歌「はるかに仰ぐ」は、高瀬重雄作詞、黒坂富治作曲である。

昭和55年度の集計で県下の歯科医師数が344名に対して歯科衛生士数が231名、うち本学院卒業者は130名余りで、他府県の養成所卒業生に頼っていた。不足する歯科衛生士の絶対数を是正するためには定員増が必要である。さらに、歯科医療の一端を担う歯科衛生士の業務が多様化し、その責任も年々増大しているため、１年制では歯科医療の現場に対応できない。２年制とすることで、質的、社会的地位の向上を図り、歯科医療の現場の期待に沿える歯科衛生士が養成できる。こうしたことを背景に、歯科衛生士科２年制移行は、厚生省、県厚生部と本会が協議を重ねた上で決定された。

その後法改正等を受け、第36期生から３年制となっている。


富山歯科総合学院の歌
「はるかに仰ぐ」
高瀬重雄 作詞
黒坂富治 作曲
（一）
はるかに仰ぐ 立山の
峰の白雪 光あり
人の世の幸 きずくため
白衣の学徒 集ひして
精しき技術をみがく園
ああ われら 富山歯科学院
（二）
ながれでやまぬ 神通の
潤なす水 清らなり
人の世の幸 きずくため
衛生の道 きわめつつ
精しき技術を みがく園
ああ われら 富山歯科学院
（昭和五十六年六月）

総合学院入学式（昭和57年）

記念行事の実施

富山歯科総合学院では、10年ごとに周年記念行事を実施している。

●昭和63年11月
富山歯科総合学院10周年記念講演会開催
「プロフェッショナルの家具作り」
柿谷　誠（KAKI工房　主宰）

10周年記念講演

●平成10年５月
富山歯科総合学院20周年記念講演会開催
「共生ということ」
八木近直（富山県立美術館館長）

20周年記念講演

●平成20年９月
富山歯科総合学院30周年記念講演会開催
「私の体験したディズニーマジック
～感動を呼ぶサービス～」
香取貴信（香取感動マネジメント）

30周年記念講演

研修旅行の実施

富山歯科総合学院では、毎年夏に研修旅行を実施しているが、初めて研修旅行が行われたのは昭和63（1988）年であった。

昭和63年９月30日～10月２日に２泊３日の日程で、歯科衛生士科で実施した。行き先は大阪、神戸。まず行きの列車内で保健指導のTBI実習、訪問先の大阪モリタで診療補助実技の１つフォーハンドテクニックの研修を受けた。２日目は貸切バスで神戸市内観光、夕食は中華料理のフルコースに舌鼓を打った。３日目は、帰りの列車内で２度目のTBI実習を行い、帰宅の途についた。

これを機に、歯科技工士科においても行われるようになり、恒例行事として定着している。

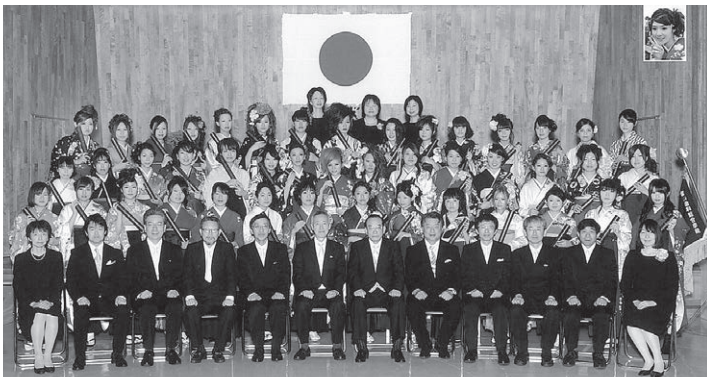
初めての研修旅行

列車内でのTBI実習

学院卒業者数推移

卒業	富山歯科技工士学院（S41設立）				富山歯科衛生士学院（S48設立）			
	富山歯科総合学院（S54統合）							
	期	定員	修業年限	技工士科卒業者（数）	期	定員	修業年限	衛生士科卒業者（数）
昭和44年３月	1	15	3	17				
昭和45年３月	2			24				
昭和46年３月	3			21				
昭和47年３月	4			22				
昭和48年３月	5			22				
昭和48年３月	6	20	2	26				
昭和49年３月	7			28	1	15	1	20
昭和50年３月	8			30	2			22
昭和51年３月	9	30		31	3			26
昭和52年３月	10			33	4			24
昭和53年３月	11			34	5			28
昭和54年３月	12			35	6			26
昭和55年３月	13			38	7	40		41
昭和56年３月	14	40		43	8			49
昭和57年３月	15			38	9			50
昭和58年３月	16			44				
昭和59年３月	17			33	10	48	2	39
昭和60年３月	18			27	11			54
昭和61年３月	19			29	12			46
昭和62年３月	20			28	13			42
昭和63年３月	21			16	14			51
平成元年３月	22	30		26	15			52
平成２年３月	23			27	16			46
平成３年３月	24			24	17			49
平成４年３月	25			37	18			50
平成５年３月	26			23	19			40
平成６年３月	27			29	20			49
平成７年３月	28			24	21			45
平成８年３月	29			24	22			40
平成９年３月	30			27	23			46
平成10年３月	31			24	24			42
平成11年３月	32			23	25			39
平成12年３月	33	40		30	26			33
平成13年３月	34			12	27			37
平成14年３月	35			32	28			36
平成15年３月	36			14	29			38
平成16年３月	37			23	30			51
平成17年３月	38			31	31			45
平成18年３月	39	35		20	32			45
平成19年３月	40			18	33			43
平成20年３月	41			18	34			33
平成21年３月	42	25		16	35			40
平成22年３月	43			16				
平成23年３月	44			21	36	48	3	36
平成24年３月	45			18	37			25
平成25年３月	46			12	38			45

歯科技工士科 第46期生卒業記念（平成25年3月10日）



歯科衛生士科 第38期生卒業記念（平成25年3月10日）

平成25年度 歯科技工士科学科課程表

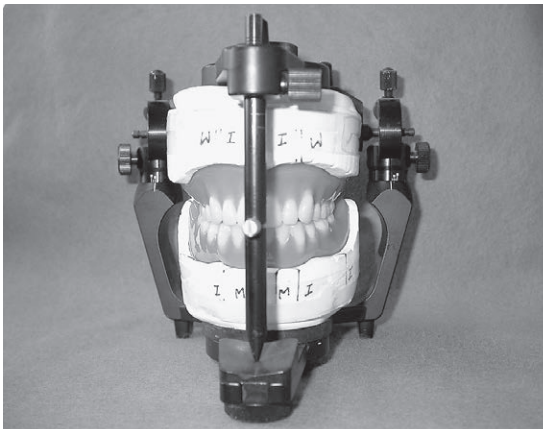
《1年生》

学　科　目		講　師　名	時間数
歯冠修復技工学		城野　利盛 羽岡　克規 （松﨑　　舞）	262
有床義歯技工学	〈全部床義歯〉	新谷　明宏	250
	〈部分床義歯〉	島　　信博	
歯の解剖学		串田　　茂 鈴木　　寧	165
歯科理工学		竹本慶一郎 野崎　　進	230
歯科技工学概論		山森　喜子	53
外国語（英語）		谷　みどり	33
造形美術概論		円戸　　智	17
歯科技工実習		島　　信博 羽岡　克規	180

《2年生》

学　科　目		講　師　名	時間数
歯科技工士関係法規		永森　　司	17
矯正歯科技工学		関　　康弘	33
小児歯科技工学		上田 美保子	33
選択必修科目〈有床義歯技工学〉		砂田　　賢	213
顎口腔機能学		荻野　新也	62
有床義歯技工学	〈全部床義歯〉	網谷　伸治	212
	〈部分床義歯〉	野崎　　進	
歯冠修復技工学		野崎　　進 （紺道　雅人） 菅谷　幸樹	200
歯科技工実習		関　　康弘 網谷　伸治 野崎　　進 菅谷　幸樹	380

美術概論（スケッチ）



有床義歯技工学

実習風景

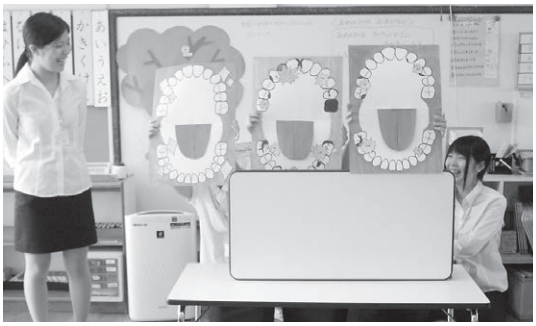
歯の解剖学

※巻末資料（P427～433）に開校以来の両科の講師名簿を掲載

平成25年度 歯科衛生士科学科課程表

学　科　目	講　師　名	授業単位
生物	中村　省吾	1
化学	會澤　宣一	1
心理学	佐藤　　徳	1
経済学	星野　富一	1
国語	奥野美友紀	1
歯科英語	谷　みどり	2
英会話	富山YMCA講師	1
保健体育	粂　美千子	1
美術	後藤　敏伸	1
解剖学	古田　　勲	1
生理学	高本　考一	1
生化学	富岡　徹久	1
栄養指導	大菅　洋子	1
口腔解剖学Ⅰ	中川　典孝	1
口腔解剖学Ⅱ	内田　昌宏	1
口腔解剖学Ⅲ	内田　昌宏	1
口腔生理学	大野　和人	1
組織・発生学	佐渡　忠司	2
病理学	新井　直也	2
薬理学	坪井　孝博	2
微生物・口腔微生物学	廣野　善丈	2
口腔衛生学	竹内玄太郎	3
衛生統計学	藤田洋一郎	1
衛生・公衆衛生学	永森　　司	2
衛生行政	城野　利盛	1
社会福祉	柴田　　稔	1
歯科衛生士概論	影近　瑞穂	2
歯科臨床概論・歯科医療倫理Ⅰ	上田　　均	1
歯科臨床概論・歯科医療倫理Ⅱ	上田　　均	1
保存修復学	澤井　　睦	1
歯内療法学	島　　秀一	1
歯周治療学	石多　謙一	1
歯科補綴学	野吾　昌宏	1
矯正歯科学	澤端　喜明	1
口腔外科学	野口　　誠	1

学　科　目	講　師　名	授業単位
小児歯科学	関　　康弘	1
歯科口腔放射線学	加須屋　聡	1
高齢者歯科学	前寺　一紀	1
障害者歯科学	歯科総合センター 歯科医師	1
う蝕予防処置Ⅰ	黒田由香里	1
う蝕予防処置Ⅱ	黒田由香里	1
歯科予防処置Ⅰ	山越智津子	3
歯科予防処置Ⅱ	山越智津子	2
口腔保健管理	影近　瑞穂	1
保健指導Ⅰ	吉田美津子	2
保健指導Ⅱ	吉田美津子	3
保健指導Ⅲ	影近　瑞穂	1
口腔介護学	新井　直也	1
歯科診療補助Ⅰ	岩井　艶子・影近　瑞穂	2
歯科診療補助Ⅱ	岩井　艶子・影近　瑞穂	2
歯科診療補助Ⅲ	岩井　艶子	1
救急蘇生	今村　知代	1
臨床検査学	野口　　誠	1
医療事務	片岡　弘一	1
介護学	井上　理絵・松居紀久子	1
臨床実習Ⅰ		9
臨床実習Ⅱ		11
臨地実習		1
医療情報処理技術	佐渡　忠司	1
プレゼンテーション技術	桶家　　樹	1
音楽療法	亀谷美規子	1
医療全般	浅井　正嗣・菅田　吉郎	2
医療コミュニケーション	高沢　由美	1
看護学	松岡美奈子	1
臨床歯科学Ⅰ	城野　利盛	1
臨床歯科学Ⅱ	永森　　司	1
臨床歯科学Ⅲ	澤井　　睦	1
臨床歯科学Ⅳ	吉田美津子	1
合計単位		104



保育園での衛生教育実習（保育指導Ⅱ）

バキューム相互実習（歯科診療補助Ⅰ）

二等分法の照射角度（歯科口腔放射線学）

心臓マッサージマネキン実習（救急蘇生）

富山歯科総合学院の主な行事

入学式

陶芸教室

レクリエーション

課外授業

研修旅行

歯科衛生教育実習

ボランティア研修

オープンキャンパス

ブラッシング実習

戴帽式

学院長講義

臨床実習

臨地臨床実習報告会

カービング大会

クリスマス会

卒業式

富山県歯科保健医療総合センターのあゆみ

平成６（1994）年３月、富山県歯科医師会館に隣接して富山県歯科保健医療総合センター（Toyama Prefecture Dental Health Care Center）は誕生した。乳幼児・児童から高齢者まで、生涯を通じた歯の健康づくりと、予防から治療までの総合歯科保健医療の推進拠点として、県民への口腔衛生思想の普及と啓発、予防処置の徹底を図り、地域歯科医療に貢献することを目的としている。同センターは、昭和54（1979）年４月完成の富山歯科総合センター内に併置した富山口腔保健センターを前身とし、以来35年に亘って富山県における歯科保健医療の中枢として事業を行っている。

その業務は、大きく２つに分けられる。１つは、歯科保健対策。各ライフステージに応じた総合的な歯科保健対策の推進で、口腔衛生思想の普及啓発、保健指導や健康教育・相談、集団指導によるむし歯予防対策、指導者の研修を行っている。もう１つが、休日および夜間等の歯科診療、心身障害児（者）の歯科診療である。

ここでは、富山口腔保健センターから現在の富山県歯科保健医療総合センターに至る30数年のあゆみを紹介する。

富山県歯科保健医療総合センターオープンセレモニー

オープン当時診療室風景

診療風景（永森靖夫先生）

富山口腔保健センター設立の経緯

新しい歯科医師会館を、歯科診療と歯科技工士および歯科衛生士養成所を併置した総合センターとして設立する構想が明らかとなった昭和50（1975）年、新しく県歯科医師会長に就いた永森収会長は、富山県に協力を仰ぎ、翌51（1976）年３月に富山県と県歯科医師会との間で土地売買契約を締結。さらに永森会長は、用地購入と並行して他府県の口腔センターの視察、助成金申請など、総合センター建設に向けて動き出した。

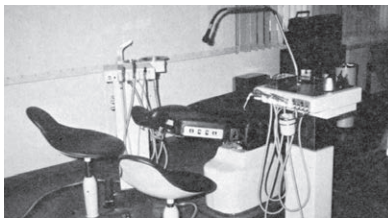
口腔保健センターで行う診療の目玉を「休日診療」と「心身障害児（者）診療」にすることとなり、同50（1975）年発足の公衆衛生委員会に、センターで心身障害児（者）歯科治療を行う歯科医師を置いてチームを構成､同54（1979）年４月の設立までの期間に、専門家や他府県の歯科診療センター関係者を招いた研修会を実施した。さらに、大阪府歯科医師会肢体不自由歯科診療センターへ８名の歯科医師を派遣したのをはじめ、心身障害児（者）の診療に対する理解、心構えの準備のため各地に研修に出向くなど、着々と準備が進められた。

建設予定地

富山歯科総合センター竣工式

富山歯科総合センター

診察室


心身障害者用ユニット

休日歯科診療用ユニット

休日診療、心身障害児（者）診療を開始

４年余りの月日を重ねて、昭和54（1979）年４月７日、ついに富山歯科総合センターが完成し、同日竣工式と祝賀会が開かれた。富山口腔保健センターにおいて行う診療は、その１週間後の４月15日（日）、休日急患診療から開始。その２日後の17日（火）には心身障害児（者）診療が開始された。

休日診療を行う歯科医師は､年間70日余りの休日を輪番制で割り振り、午前10時～午後４時まで、スタッフ歯科医師１名､専属歯科衛生士２名の体制で行われた。診療は急患に限定した。

心身障害児（者）歯科診療は、12名の歯科医師がプロジェクトチームを構成し、１チーム３名の４チーム編成とし、毎週火曜日、木曜日の午後１時～４時（後に５時）まで診療を行った。２年後には歯科医師12名に加え、常勤歯科衛生士４名、さらに非常勤スタッフ24名が歯科診療医局員として従事している。

その後、平成19（2007）年からは、障害児（者）のさらなる口腔衛生管理の向上を目的とし、歯周病専門歯科衛生士チームを中心としたユニットを毎週木曜日に併設した。平成25（2013）年現在、非常勤歯科医師12名、常勤歯科衛生士５名、非常勤歯科衛生士12名、歯周病専門チーム非常勤歯科衛生士４名にて対応している。

心身障害児のための母親教室

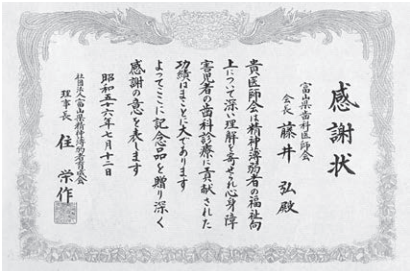
障害児をもつ保護者は、障害に対する関心は高いが、子どもの口腔衛生管理にまで注意が及ばないというケースが多く、本センターを訪れた心身障害児の母親の多くは、子どもがむし歯に罹患して初めて来院するという状況であった。そこで、少しでも心身障害児の口腔衛生管理の必要性を認識してもらうために、本センターの歯科医師、および歯科衛生士による母親教室を昭和55年度より実施した。

歯科医師は、スライド等を用いてう蝕発生の起序とその予防を内容とする説明を懇話形式で行い、歯科衛生士は、受講者の口腔状態を把握した上で、刷掃の実際について、歯垢染色剤を用いて指導した。その場合、母親自身の口腔の状況と刷掃法を理解させることでう蝕予防の認識と具体性を深めるようにした。

この母親教室は、本センター休診日の月･水･金曜日を刷掃指導日に当てて、母子共々に指導を行った。この活動は、第18回秋季日本小児歯科学会において講演を行い高い評価を受けたほか、昭和56（1981）年７月には富山県精神薄弱者育成会より表彰を受けている。

母親教室

刷掃指導


感謝状

富山県歯科医師会
会長 藤井 弘殿

貴医師会は精神薄弱者の福祉向上について深い理解を寄せられ心身障害児者の歯科診療に貢献された功績はまことに大であります
よってここに記念品を贈り深く感謝の意を表します

昭和五十六年七月十二日

仕事人富山県精神薄弱者育成会
理事長 住 栄作

富山県精神薄弱者育成会より感謝状

心身障害児（者）口腔保健衛生集団指導

母親教室で行った指導を、実際に心身障害児（者）のいる施設を訪問してう蝕予防を目的とする集団指導を、昭和56（1981）年度より実施した。

指導は、心身障害児（者）および教諭、保母（保育士）、保護者を対象として口腔衛生管理の必要性を、刷掃指導を中心に、食事指導などを加えて行った。知的障害児（者）や情緒障害児（者）、脳性麻痺児（者）に対しては、周囲の介助者に対して、障害の程度に応じた実際的な方法を指導し、日常生活の中で共に訓練しなければ効果は難しいことを理解してもらうように努めた。

全国に先駆けて実施した休日等在宅当番医制度

本会では、社会文明の進歩発展に伴い地域医療の社会的要請に応えるために、昭和56年度より新規事業として休日在宅当番医制度を実施した。

これは、日曜日、祝祭日、お盆、年末年始などの急患診療を行っている機関は口腔保健センター１カ所であり、地域的に富山市以外からの受診が困難な状況にあったため、地域ごとに一般歯科診療所でも、休日に診察が受けられることを望む県民の声が多いことから実施されたものである。

この制度では、県内を富山、高岡、新川、砺波の４地区に分け、休日等（昼間）に、歯科医師一人ずつが交代で当番医となり、各診療所で治療にあたるとともに、地域住民に対する救急医療知識の普及啓蒙も行うものである。この全国に先駆けて行われた地域医療活動は、昭和56（1981）年４月５日より実施された。

この制度の導入により、口腔保健センターでは、従来どおり診療も行うが、口腔外科など後方診療機関としての役割に重点を置くこととした。

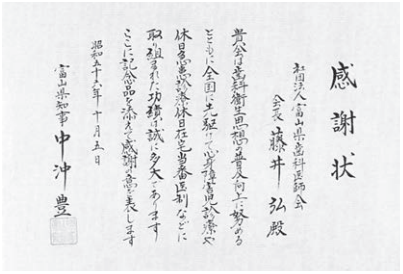
もう虫歯もこわくない

あす五日から

歯科医の日曜当番医制が発足

富山など四ブロックで

富山新聞（昭和56年4月4日）


感謝状

富山県知事より感謝状

富山県歯科保健医療総合センター設立

本会では、「富山県地域医療計画」に基づいて、今まで以上に県民のニーズに応え、県民の歯の健康づくりの総合歯科保健医療を推進するために、新しい口腔保健センターの建設、その資金捻出のために舟橋南町の富山県歯科医師会館の売却を平成３年度第３回臨時代議員会で決議し、委員会を置いて推進することとした。

平成５（1993）年３月27日開催の定時総会において新センターの建設基本計画が承認され、同年４月27日に歯科総合センター隣接地において起工式を行った。

建設基本計画が承認された日からちょうど１年後の平成６（1994）年３月27日、中沖豊富山県知事をはじめ多数の来賓臨席の中、新センターの竣工式を執り行った。新センターの名称は、「富山県歯科保健医療総合センター」。竣工

式の式辞で、藤井弘県歯科医師会長は、「本センターは国が進めている8020運動を含めた連続性のある総合的な歯科保健対策を推進し、保健・医療・福祉等、各分野の連携のもとに事業内容を更に充実させ、県民の期待に応えていく所存である。富山口腔保健センター設立以降行っている休日診療並びに心身障害児（者）歯科診療に加えて、この４月から新たに休日夜間診療を実施するとともに、心身障害児（者）歯科診療を週２回から３回に拡大する」と、挨拶した。

式辞（藤井会長）

竣工披露宴

臨席された来賓の方々

創立記念行事

富山口腔保健センター創立10周年記念研修会及び祝賀会開催

昭和63（1988）年２月25日、名鉄トヤマホテルにて富山口腔保健センター創立10周年記念研修会及び祝賀会が開催された。テーマは「京都歯科サービスセンターにおける障害者歯科診療について」で、講師には、京都にて開業されている、京都歯科サービスセンターの多田丞先生をお招きした。講演は映画やスライドをまじえて３時間にわたり内容ともに非常に充実した有意義な研修会となった。

研修会の後、別室にて10周年記念祝賀会が理事、OBの諸先生方をはじめ、OGの歯科衛生士も交えて多数の方の出席のもと盛大に開催された。

10周年記念祝賀会

富山県歯科保健医療総合センター創立20周年記念研修会及び祝賀会開催

平成10（1998）年11月21日、名鉄トヤマホテルにて、富山県歯科保健医療総合センター創立20周年記念研修会及び祝賀会が開催された。講師に、大阪府立身体障害者福祉センター附属病院歯科部長　西田百代先生をお迎えし、「障害者歯科診療における臨床のヒント」と題してご講演をいただいた。

センター同門会より、記念品として、車椅子用安頭台と軽量型車椅子が寄贈された。特殊歯科診療部からは、障害者歯科診療マニュアル発刊の報告があった。また、常勤歯科衛生士による刷掃指導の媒体紹介があった。

20周年記念祝賀会

富山県歯科保健医療総合センター創立30周年記念研修会及び祝賀会開催

平成20（2008）年11月22日、ANAクラウンプラザホテル富山にて、富山県歯科保健医療総合センター創立30周年事業が二部構成の企画で開催された。

第一部は創立30周年記念研修会であり、講師として岡山大学医学部歯学部附属病院小児歯科の岡崎好秀先生をお招きし、「謎解き口腔機能学　なぜ仙人は霞を食べていたのか？」という演題でご講演をいただいた。

第二部では創立30周年祝賀会が開催された。センター同門会から、総合センター待合室に42型液晶テレビが寄贈された。「30年のあゆみ」として、貴重な写真のスライドショーが開かれ、懐かしみや笑いの中、歴代の先生方、スタッフの方々の汗と涙の歴史を、あらためて痛感する機会となった。

30周年記念祝賀会

特殊歯科診療部・同門会発足

昭和54（1979）年４月、富山口腔保健センター開設時より事業として行ってきた心身障害児（者）歯科診療を開始して17年目、平成８(1996)年４月､センター医局員OBと現センター医局員で構成した「富山県歯科保健医療総合センター特殊歯科診療部･同門会（呼称:センター同門会)」を発足させた。

高志会館で行われた発会式では、同門会員25名が出席し、同会会長に永森靖夫元理事が選出された。永森会長は「同門会はOBの諸先生方と現部員の親睦を深めるだけにとどまらず微力ながらセンターの障害者歯科医療の発展に寄与したい」と挨拶し、名誉顧問に藤井弘県歯科医師会長、相談役に寺島祐輔元理事を依頼し、了承された。

現在、同門会長は平木光昭元理事、名誉会長は永森靖夫元理事が就任、会員は56名（内物故６名）となっている。

特殊歯科診療部・同門会発足時のメンバー

同門会名簿

家城　佳夫	林　　俊郎	砂子　満明	坂本　和隆	村山偉知朗	浦野　一郎	折山　　弘
故 高石　　叡	故 岡田　洋昭	山﨑　安仁	小熊　清史	片山　克己	稲場　　敦	横田　憲明
夏目　恭佐	小倉　孝夫	斉藤　雄二	故 直江　尚利	堀　比佐司	中村　祐信	水野　二郎
石川　哲夫	寺島　祐輔	河村　　允	永井清一郎	泉　　照雄	吉田　　徹	立浪　康晴
永森　靖夫	四日　隆夫	中島　　徹	後藤　　健	山室　孝義	大木　淳一	五郎丸知明
杉本　友夫	竹内　哲郎	大石　　聡	故 吉川　由治	高橋　正志	日出嶋康博	石川　　亨
山岸　敏治	山崎　宣夫	故 梶川　昌幸	故 荒井　亮雄	三崎　慎也	山岸　聡史	川上　清志
故 石多　譲治	平木　光昭	焼田志図夫	野田　　修	松浦　　幹	仲村辰一郎	藤井　達郎

総合センター　診療統計データ（延患者数）

（名）

年　度	総合センター			休日在宅当番医診療
	心身障障害児（者）診療	休日診療	休日夜間診療	4地区合計
昭和54年	1,492	727		
昭和55年	1,970	875		
昭和56年	2,276	718		1,080
昭和57年	2,479	803		1,233
昭和58年	2,606	682		1,274
昭和59年	2,651	661		1,381
昭和60年	2,659	647		1,385
昭和61年	2,686	660		1,357
昭和62年	2,685	598		1,380
昭和63年	2,668	549		1,480
平成元年	2,440	714		1,426
平成２年	2,473	698		1,749
平成３年	2,376	730		1,714
平成４年	2,547	645		1,453
平成５年	2,406	707		1,638
平成６年	2,407	812	272	1,457
平成７年	2,347	719	244	1,470

年　度	総合センター			休日在宅当番医診療
	心身障障害児（者）診療	休日診療	休日夜間診療	4地区合計
平成８年	2,401	805	305	1,883
平成９年	2,394	704	340	1,695
平成10年	2,356	594	298	1,486
平成11年	2,338	640	298	1,594
平成12年	2,502	716	347	1,682
平成13年	2,598	723	342	1,684
平成14年	2,563	762	343	1,901
平成15年	2,484	702	351	1,741
平成16年	2,274	679	320	1,691
平成17年	2,460	628	331	1,729
平成18年	2,690	696	336	1,867
平成19年	2,887	636	338	1,874
平成20年	3,047	712	337	1,871
平成21年	2,810	715	324	1,629
平成22年	2,693	666	290	1,660
平成23年	2,667	626	310	1,674
平成24年	2,697	750	335	1,621

富山県歯科保健医療総合センターにおける学会・研修会および活動の記録

昭和54年度

4月７日● **富山歯科総合センター　オープン**
15日　**口腔保健センター　休日歯科診療開始**
17日　**障害児（者）歯科診療開始　診療日：火・木曜日**
8月９日●「肢体不自由児特に脳性麻痺患者へのアプローチ」
富山県立高志学園　園長　大橋光伸　先生
9月13日●「情緒障害について」
富山市教育委員会　有沢恵美子　先生
10月11日●「精神薄弱児について」
富山県立高志養護学校　校長　谷井三朗　先生
11月22日●「障害児（者）の歯科診療と固定の実技」
大阪府歯科医師会肢体不自由児歯科診療センター
医局長　梶谷晃　先生
12月15・16日● 第７回　日本障害者歯科研究会（東京）

昭和54年4月　富山歯科総合センターオープン

昭和55年度

6月３日● **心身障害児のための母親教室開始**
11月７日● 第18回 秋季日本小児歯科学会
富山口腔保健センター・１年間の活動報告　小倉孝夫
11月15・16日● 第８回　日本障害者歯科研究会（大阪）
3月29日●「CPにおける口腔領域の異常運動のコントロール」
大阪府立身体障害者福祉センター附属病院歯科
西田百代　先生

昭和56年度

4月５日● **休日等在宅当番医制度開始**
7月13日● **養護学校および施設集団刷掃指導開始**
11月20日● 第９回 心身障害者医療研究会（横浜）
「口腔保健センター・心身障害児（者）歯科診療の２年間」
永森靖夫
11月20・21日● 第９回　日本障害者歯科研究会（横浜）
2月20日●「脳性麻痺、精神発達遅滞児における口腔機能の問題」
昭和大学歯学部口腔衛生学教室　教授　金子芳洋　先生

昭和56年　養護学校・施設集団刷掃指導開始

昭和57年度

10月22・23日● 第10回　日本障害者歯科研究会（栃木）
3月19日●「全身麻酔下における障害者歯科治療について」
聖ヨゼフ病院歯科口腔外科　医長　酒井信明　先生

昭和58年度

9月23・24日●第11回　日本障害者歯科研究会（松本）
「障害児への口腔衛生集団指導の実際」　宮川規子
3月10日●「被薬物療法による小児の行動管理」
日本歯科大学新潟歯学部小児歯科学教室
教授　下岡正八　先生

昭和59年度

6月12日●「てんかんについて」
富山県立高志学園　高倉廣樹　先生
11月9・10日●第1回　日本障害者歯科学会（千葉）
3月16日●「地域医療と障害者歯科」
緒方歯科医院　院長　緒方克也　先生
3月26日●「リハビリテーションについて　CP　ダウン　筋ジス等について」
富山県立高志学園　園長　大橋光伸　先生

診療風景（岡田洋昭先生）

昭和60年度

5月9日●「自閉症について」
めひの野園　園長　中田　勉　先生
11月23・24日●第2回　日本障害者歯科学会（愛知）
3月8日●「障害者歯科診療の実際：主に自閉症について」
松本歯科大学障害者歯科学教室　教授　笠原　浩　先生

昭和61年度

5月20日●「脳性麻痺を主とした肢体不自由について」
高志リハビリテーション病院　副医院長　大橋光伸　先生
11月1・2日●第3回　日本障害者歯科学会（新潟）
「富山口腔保健センターに来院した自閉症患者の行動的観察」
岡田洋昭
2月28日●「障害者歯科診療の実際　―心理面より考える―」
名古屋歯科医療センター　主任　糸山　昇　先生

昭和62年度

9月8日●「B型肝炎について」
富山市民病院　内科部長　黒崎正夫　先生
11月14・15日●第4回　日本障害者歯科学会（新潟）
2月20日●「障害者歯科の問題点　―主に自閉症児について―」
大阪府立身体障害者福祉センター附属病院
歯科部長　西田百代　先生

診療風景（竹内哲郎先生）

昭和63年度

6月1日●心身障害児（者）診療日変更　診療日：水・木曜日
6月15日●「障害児のライフサイクルについて」
富山県児童相談所　所長　田子　哲　先生
10月8・9日●第5回　日本障害者歯科学会（札幌）
2月25日●富山口腔保健センター創立10周年記念研修会
「京都歯科サービスセンターにおける障害者歯科診療について」
京都歯科サービスセンター　専任所員　多田　丞　先生

平成元年度

9月26日●「親が変われば子も変わる」
言語訓練士　木内哲子　先生
「心身障害者の摂食指導訓練について」
昭和大学歯学部　口腔衛生学　助教授　向井美恵　先生
11月12日●第41回　近畿北陸地区歯科医学大会
「富山口腔保健センターの障害者歯科治療における笑気吸入鎮静法の応用」　梶川昌幸
11月25・26日●第6回　日本障害者歯科学会（京都）
「富山口腔保健センターにおける10年の障害者歯科診療」
平木光昭
3月1日●10周年記念『富山口腔保健センター 10年のあゆみ』発行

平成2年　創立10周年記念
「富山口腔保健センター 10年のあゆみ」発行

平成2年度

11月14日●「心電図のモニタリングについて」
富山医科薬科大学　教授　古田　勲　先生
11月23・24日●第7回　日本障害者歯科学会（東京）
3月9日●「心身障害の成因と特性について」
神奈川県こども医療センター　池田正一　先生

平成3年度

9月18日●「精神薄弱者を主とした障害について」
富山県立中央病院　精神科医長　藤井　勉　先生
11月16・17日●第8回　日本障害者歯科学会（広島）
2月22日●「障害を持つ人の歯科治療」
東京都立心身障害者口腔保健センター
治療部長　大竹邦明　先生

平成4年度

11月14・15日● 第９回　日本障害者歯科学会（東京）

平成5年度

10月30･31日● 第10回　日本障害者歯科学会（長野）

２月19日●「障害者歯科の歴史とこれからの展望」
日本大学松戸歯学部　障害者歯科教室　上原　進　先生

平成6年度

４月１日● **富山県歯科保健医療総合センター　オープン**
心身障害児（者）診療日変更　診療日：火・水・木曜日
休日夜間歯科診療開始

７月13日●「富山における障害者現況」
富山県厚生部障害福祉課　主事　平柳　誠　先生

11月23・24日● 第11回　日本障害者歯科学会（横浜）

３月４日●「心身障害児（者）への行動療法の実際」
日本歯科大学新潟歯学部　小児歯科学教室
教授　下岡正八　先生

平成6年　富山県歯科保健医療総合センター　オープン

平成7年度

７月19日●「セーナー苑入所者の障害及び療育の現状」
セーナー苑　所長　斉藤乃夫　先生

11月３・４日● 第12回　日本障害者歯科学会（福岡）

平成8年度

４月● **特殊歯科診療部　同門会発足**

10月26・27日● 第13回　日本障害者歯科学会（大阪）

平成9年度

７月16日●「肢体不自由児を中心とした障害児について」
高志リハビリテーション病院
副病院長・高志学園園長　大橋光伸　先生

９月27・28日● 第14回　日本障害者歯科学会（福島）

２月19日● 第32回　富山県公衆衛生学会（富山）
「富山県歯科保健医療総合センターの概要と障害者歯科への取り組み（その１）―平成８年度の統計より現況の報告―」
平木光昭
「富山県歯科保健医療総合センターの概要と障害者歯科への取り組み（その２）―障害者施設集団指導の実際―」
長江悟子

２月21日●「泣かずにすませる小児歯科」
岡山大学歯学部　小児歯科学講座　岡崎好秀　先生

診療風景（平木光昭先生）

平成10年度

９月４・５・６日● 第15回　日本障害者歯科学会（神奈川）
「富山県歯科保健医療総合センターにおける歯科保健指導
―心身障害児（者）親子歯みがき教室の実施―」　長江悟子

11月21日● 創立20周年記念特別研修会
「障害者歯科診療における臨床のヒント」
大阪府立身体障害者福祉センター附属病院
歯科部長　西田百代　先生
創立20周年記念　『障害者歯科診療マニュアル』　発行

平成10年　創立20周年記念「障害者歯科診療マニュアル」発行

平成11年度

10月23・24日● 第16回　日本障害者歯科学会（徳島）
「富山県歯科保健医療総合センターにおける20年の診療実態について」　焼田志図夫

２月26日●「リハビリテーション口腔保健医療の理論と実際」
東京都立心身障害者口腔保健センター
副所長　大竹邦明　先生

平成12年度

10月14・15日● 第17回　日本障害者歯科学会（東京）

２月17日●「障害者の歯科保健と歯科医療をどのようにつなぐか」
大阪大学歯学部附属病院　障害者歯科治療部
教授　森崎市治郎　先生

平成13年度

12月７・８日● 第18回　日本障害者歯科学会（沖縄）
地域歯科保健の自由討論集会
「当センター開設22年の経緯及び現状と問題点」　平木光昭
「顎位の安定により日常生活に改善をみたパーキンソン病を伴う不安神経症の一例」　吉田　徹
歯科衛生士のシンポジウム「障害者および高齢者の口腔管理について」　長江悟子
「知的障害施設での口腔衛生指導〈デジカメを応用した個人用介助マニュアルの作成〉」　向野正子

平成13年　日本障害者歯科学会（沖縄）参加

3月16日●「レディネス・行動調整・無痛的浸潤麻酔」
松本歯科大学　障害者歯科学講座　助教授　小笠原　正　先生

平成14年度

10月18・19日●第19回　日本障害者歯科学会（北海道）
「デジカメを使用した個人用歯みがきマニュアルの作成と応用
―第２報、知的障害者施設・重度棟での取り組み―」
山越智津子
3月８日●「障害者歯科診療での臨床的考察
歯科医師会センターと大学障害者歯科の比較」
大阪歯科大学　小児歯科学講座　助教授　嘉藤幹夫　先生

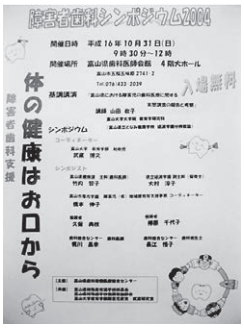
平成15年度

10月18・19日●第20回　日本障害者歯科学会（東京）
「当センターにおける口腔衛生指導の実際―絵カード『はみがき・すすむくん』を使用して―」　黒田由香里
障害者歯科認定医　認定　平木光昭　焼田志図夫　梶川昌幸　吉川由治
11月16日●「実際にやる障害者歯科診療」
瀬畑歯科医院　院長　瀬畑　宏　先生

診療風景（焼田志図夫先生）

平成16年度

10月31日●障害者歯科シンポジウム2004　―体の健康はお口から―
コーディネーター：富山大学教育学部
助教授　武蔵博文　先生
「県民の歯と歯ぐきのの健康づくり」
富山県厚生部健康課主幹　竹内智子　先生
「児童入所施設における歯みがき指導の現状と課題」
富山県立砺波学園　副主幹　大村淳子　先生
「学園児の家庭における歯磨きの実態と歯科医療に対する要望」
富山市恵光学園　障害児（者）地域療育等支援事業コーディネーター　橋本伸子　先生
「自閉症・知的障害児(者）への歯科支援　目でわかる歯科治療」
富山大学教育学部附属養護学校　保護者　久保典枝　先生
「障害があるからこそ、かかりつけ歯医者さんを求めています」
富山県立富山養護学校　保護者　柳原千代子　先生
「富山県歯科保健医療総合センターの現状について」
富山県歯科保健医療総合センター　歯科医師　梶川昌幸
「富山県歯科保健医療総合センターにおける障害児（者）の口腔管理について」
富山県歯科保健医療総合センター　歯科衛生士　長江悟子



平成16年　障害者歯科シンポジウム2004「体の健康はお口から」開催

11月13・14日●第21回　日本障害者歯科学会（大阪）
「某県における障害児の歯科医療に関する実態調査―口腔衛生について―」　影近瑞穂
「某県における障害児の歯科医療に関する実態調査―歯科治療について―」　共同発表

平成16年　日本障害者歯科学会（大阪）参加

2月16日●「救急蘇生」　たちなみ歯科口腔外科クリニック　立浪康晴　先生

平成17年度

6月11日●**日本障害者歯科学会　臨床研修施設認定**
10月15・16日●第22回　日本障害者歯科学会（山梨）
10月30日●「障害者歯科のＡＢＣ」
いかに行動調整を成功させるか
松本歯科大学　障害者歯科講座　　助教授　小笠原　正　先生

平成18年度

9月２日●「障害者歯科治療における全身管理ならびに昨今の医療事故」
日本歯科大学新潟生命歯学部　歯科麻酔・全身管理科
教授　佐野公人　先生
10月20・21日●第23回　日本障害者歯科学会（宮城）
《部内研修会》
6月20日●「自閉症について」
富山大学人間発達科学部　助教授　武蔵博文　先生
7月18日●「整形外科医から診た肢体不自由児」
高志リハビリテーション病院副院長　野村忠雄　先生
9月19日●「肢体不自由児(者）における障害者の理解・姿勢の保持」
国立病院機構　富山病院　作業療法士　浅生弘美　先生
10月17日●「小児のてんかんについて」
富山赤十字病院　小児科部長　本間一正　先生
11月14日●「発達障害者と医療について―自閉症者施設の実際について―」
発達支援センターありそセンター長　東　真盛　先生
12月12日●「知的障害児の療育と現状」
富山市恵光学園　統括指導主任　橋本伸子　先生

診療風景（吉川由治先生）

平成19年度

11月24・25日● 第24回　日本障害者歯科学会（長崎）
3月16日● 県民公開講座
「もう一度考えてみようむし歯のこと」
昭和大学歯学部 齲蝕・歯内治療学教授　久光　久　先生
3月● 『障害児・者歯科医療　ネットワークガイドブック』及び
リーフレット発行
《部内研修会》
5月22日●「広汎性発達障害児の理解と支援」
富山大学人間発達科学部　助教授　武蔵博文　先生
8月21日●「脳性麻痺の異常姿勢と反射　特に座位姿勢の問題」
高志リハビリテーション病院副院長　野村忠雄　先生
9月1日●「治療を効果的にすすめるために―臨床心理学からのアドバイス―」
信州大学大学院教育研究科　教授　村上千恵子　先生
ネットワーク登録医研修会
2月22日●「障害児（者）の現況と対応」
富山市恵光学園　統括指導主任　橋本伸子　先生

平成20年　県民公開講座「もう一度考えてみようむし歯のこと」開催

平成20年度

10月10・11日● 第25回　日本障害者歯科学会（東京）
11月22日● 総合センター創立30周年記念事業
「謎解き口腔機能学　なぜ仙人は霞を食べていたのか？」
岡山大学医学部・薬学部附属病院 小児歯科　岡崎好秀　先生
障害者歯科認定歯科衛生士　認定　長江悟子　向野正子　岩井艶子　山越智津子　影近瑞穂
《部内研修会》
7月15日●「精神障害及び発達障害の現況について」
谷野呉山病院　医師　谷口茂樹　先生
8月19日●「障害児（者）における救急蘇生法及び歯科治療上の全身的注意点」
たちなみ歯科口腔外科クリニック　立浪康晴　先生
9月2日●「障害児への薬物を用いない行動調整法」
平木歯科医院　平木光昭　先生

平成20年　「障害児・者歯科医療ネットワークガイドブック」及びリーフレット発行

平成21年度

10月30・31日● 第26回　日本障害者歯科学会（名古屋）
11月1日●「当センターにおける障害児（者）歯科医療提供ネットワーク事業の紹介」　立浪康晴
「養護学校中学部におけるブラッシング自立支援について」
向野正子
3月14日●「障害者歯科治療におけるリスクマネージメントとクライシスマネージメント」
東京歯科大学歯科麻酔学講座　教授　一戸達也　先生
障害者歯科認定歯科衛生士　認定　黒田由香里
《部内研修会》
7月7日●「聴覚障害児の早期発見と治療について」
みみはなのど・あそうクリニック　医師　麻生　伸　先生
8月4日●「障害児（者）における救急蘇生」
たちなみ歯科口腔外科クリニック　立浪康晴
9月8日●「特別支援学校現場からのお願い」
富山県立しらとり養護学校　養護教諭　水和真里子　先生

平成21年　日本障害者歯科学会（名古屋）参加

平成22年度

9月25日● 歯科用CT（3DXマルチイメージマイクロCT：モリタ製作所）設置
10月17日●「歯科用コンビームCTと医療連携」―保健センターでの運用開始にあたって―　日本大学歯学部特任教授　新井嘉則　先生
10月23・24日● 第27回　日本障害者歯科学会（東京）
「支援学校高等部におけるブラッシング自立支援について」
―1年間で良好な結果を得られた2例―　岩井艶子
障害者歯科認定医　認定　泉　照雄　立浪康晴
《センター研修会》
7月20日●「知的障害者施設での口腔管理への取り組み」
社会福祉法人射水福祉会　いみず苑　看護師　江口優美子　先生
10月5日●「歯科用CTの取扱い方法と活用時の留意点」
株式会社モリタ　金沢営業所
10月19日●「歯科用CTの取扱い方法と活用時の留意点」
株式会社モリタ　金沢営業所
11月9日●「歯科臨床におけるCTの活用について」
総合センター部員　立浪・泉・水野
12月7日●「歯科用CT取扱いのアドバンスコース」
株式会社モリタ　金沢営業所

平成22年　歯科用CT設置

平成23年度

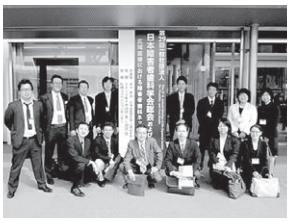
10月２日●「障害者の歯科治療」―治療方針の選択―
松本歯科大学障害者歯科学講座　教授　小笠原　正先生
11月４・５・６日●第28回　日本障害者歯科学会（福岡）
「スペシャルオリンピックス日本・富山におけるヘルシーアスリートプログラム」
第１報　アスリートの歯科疾患罹患状況　　日出嶋康博
第２報　ボランティアの意識調査　　金田　渚
「特別支援学校高等部におけるブラッシング自立支援について」
第２報　自立に向けての取り組み　　向野正子
《センター研修会》
６月７日●「歯科用CTの取扱い方法と活用時の留意点」ベーシックコース
株式会社モリタ　金沢営業所
６月８日●「歯科用CTの取扱い方法と活用時の留意点」アドバンスコース
６月16日●「歯科用CTの取扱い方法と活用時の留意点」アドバンスコース
株式会社モリタ　金沢営業所
７月12日●「診療室におけるCT活用の実際」
総合センター部員　立浪・泉・水野・五郎丸
８月23日●「発達障害の理解と支援」
富山県発達障害者支援センター　あおぞら　木立伸也　先生
２月22日●「てんかんについて」
高志リハビリテーション病院　非常勤医師
あゆみの郷　非常勤医師　本間一正　先生

平成23年　歯科用CT関連の研修会開催

平成24年度

９月28・29・30日●第29回　日本障害者歯科学会（北海道）
「特別支援学校高等部におけるブラッシング自立支援について」
第３報　自立に向けての取り組み　　土肥妙子
２月24日●「摂食嚥下リハビリテーション」―基本的な関わり方と臨床の実際―
芳賀デンタルクリニック　院長　芳賀　定　先生
障害者歯科認定歯科衛生士　認定　土肥妙子　　金田　渚
《センター研修会》
６月26日●「歯科用CTの取扱い方法と活用時の留意点」ベーシックコース
株式会社モリタ　金沢営業所
６月27日●「歯科用CTの取扱い方法と活用時の留意点」アドバンスコース
６月28日●「歯科用CTの取扱い方法と活用時の留意点」アドバンスコース
株式会社モリタ　金沢営業所
７月10日●「診療室におけるCT活用の実際」
総合センター部員　立浪・泉・水野
９月４日●「摂食・嚥下障害の対応と訓練」
富山協立病院リハビリテーション科　言語聴覚士　亀谷浩史　先生
２月19日●「子供の発達を理解するために」
高志通園センター　センター長　小児科医師　宮森加甫子　先生

診療風景


平成24年　日本障害者歯科学会（北海道）参加

平成25年度

６月12日●第４回　北信越障害者臨床研究会（長野）
シンポジウム「障害者歯科における医療安全のためのちょっとした備え」
「富山県歯科保健医療総合センターにおける医療安全への取り組み」　立浪康晴
10月11・12・13日●第30回　日本障害者歯科学会（兵庫）
《センター研修会》
６月18日●「歯科用CTの取り扱い方法と活用時の留意点」ベーシックコース
６月20日●「歯科用CTの取り扱い方法と活用時の留意点」アドバンスコース
株式会社モリタ　金沢営業所
７月16日●「利用者の生活と関わりについて」
社会福祉法人恵風会 あざみ園 支援課　山崎吉史　先生
９月17日●「当科の障害者全身麻酔下歯科治療について」
富山赤十字病院 歯科口腔外科医長　早津良和　先生
11月12日●「安全な歯科治療のためのバイタルサインセミナー」
―生体監視モニターを使いこなせるようになろう！―
たちなみ歯科口腔外科クリニック　立浪康晴

平成25年　第4回北信越障害者臨床研究会（長野）参加

一世紀録

富山県歯科医師会100年史

郡市歯科医師会

一般社団法人

富山市歯科医師会

DATA

■名　　称　一般社団法人富山市歯科医師会
■設　　立　大正10年8月4日
　　初代会長　藤井　義人
■会 員 数　223名（平成25年12月現在）
■診療所・病院数　200カ所（平成25年12月現在）
■所 在 地　〒939-8081
　　富山市堀川小泉町1丁目9-26
　　富山市歯科医師会館
　　TEL 076-424-8020
■ＵＲＬ　www.toyamacitydental.jp/

■役　　員（平成25年12月現在）
会　　長　宮本　宣良
副 会 長　永森　　司
専務理事　吉田　泰彦
理　　事　原田　修成　中川　典孝　長治　豊一
　　釣谷　宗義　石川　　亨　高橋　正志
　　安村　公成　稲波　謙良　中沼　邦欣
監　　事　小林　憲夫　山田　雅敏
※会員名は巻末資料（P434、435）に掲載

Ⅰ「誕生から戦時へ」

それまで二派に分れていた富山市内の13名の歯科医師は、大正10（1921）年に統合して富山市歯科医師会の創立総会を開いた。さっそく貧困児童に対する無料治療を始めている。

大正15年度には本会の年間予算は252円、会員数は24名になった。その数や額だけをみれば長閑（のどか）な時代だったと言えるかも知れない。だが国民に歯科医療の知識はまだ必ずしも普及しているとは言えず、開業しても歯科医の苦闘は続いていた。同年には新法令に従い、本会の活動を停止し休眠状態となった。

しかし昭和５（1930）年には、富山市、上新川郡、婦負郡を区域に会員34名で再発足できた。その後は、年間行事としてムシ歯予防デーの啓蒙運動や、学会の活動も活発となった。同12（1937）年には医師会・歯科医師会合同会館も富山市に落成し、そこを足場に着実に推移してゆくように見えたが、時代は戦争へと向かっていった。会員の応召も続き､同17（1942）年には国策で、本会をいったん解散し県の支部として改組した。

Ⅱ　「敗戦そして復興へ」

昭和20（1945）年の８月２日未明、富山市はＢ29爆撃機170余機の編隊に襲われた。市街は数時間にして焦土と化し、2,700人以上の犠牲者を数えた。本会でも４名の会員と、会員夫人１名が犠牲となり、32名が被災した。絶望と虚脱の焦土に放り出されたのだ。どれほどの苦労が待っていたか想像に余りある。

それでも同年の末には新支部長を選び、会は復興への道を歩み出した。当初は金属、薬品、燃料などは配給に頼った。２年後には新制の富山地区歯科医師会として、さらにその翌年には会員数82名で社団法人として新しいスタートをきった。

朝鮮戦争（1950～53年）を契機に日本の復興が本格化し、国民の暮らしは改善していった。砂糖の消費量も増え、齲蝕も増加した。学校検診の時期には、待合室は子供達であふれかえっていた。昭和28（1953）年から活動が始まった富山市学校歯科医会は、昭和50（1975）年に発展解消し、本会に合併し学校歯科委員会が引き継いでいる。

昭和38（1963）年から始まったルンビニ園への奉仕医療活動は、昨年には50周年を迎えた。半世紀にわたって先輩から引き継がれた活動は現在も継続している。また同37（1962）年からは３歳児健診、同54（1979）年からは１歳半児健診を行ってきた。その後、妊婦健診、歯周検

小林歯科医院内部（大正5年）

五箇山での無歯科医村巡回診療（昭和30年代）

市歯会館建設予定地での地鎮祭（平成5年）

診の事業も加わり、市民の口腔健康を支えている。

昭和50年代からは金沢市、福井市との間で、北陸三市歯科医師会役員連絡協議会が持たれるようになり、互いの情報を交換し、切磋琢磨してきている。

Ⅲ　「平成の成熟へ」

デフレ・足踏みの時代と言われる平成でも、本会は着実な歩みを続けてきた。在宅の寝たきり老人訪問歯科診療事業が始まったのは平成元（1989）年からで、法が変わった平成17（2005）年まで続いた。また会員の情報活動の根幹となっている会報の創刊号発行も、平成の始まりと時を同じくして、現在は80号を超えている。

県の歯科医師会館が五福に移転し歯科総合センターを建設するのに伴い、それまでその中の一部を使用していた本会は、平成６（1994）年に堀川小泉の現在の地に歯科医師会館を竣工し、自前の会館を持つことができた。

トヤマデンタル協同組合の設立は平成７（1995）年。最初の事業は各種保険の事務代行だけだったが､現在は資材等の共同購入や情報提供事業、福利厚生事業などを展開して、今や会を側面から支えていてくれる。

昨年には一般社団法人への移行もなり、新しい時代へと永続的な進化をとげている最中といえる。

（宮本宣良）

創立80周年記念式典　歴代会長・功労会員表彰（平成13年）

ルンビニ園訪問歯科検診50周年記念集合写真（平成24年）

富山市歯科保健事業説明会（平成25年）

一般社団法人

高岡市歯科医師会

DATA

■名　　称　一般社団法人高岡市歯科医師会
■設　　立　大正10年頃　詳細不明
■会 員 数　100名（平成25年12月現在）
■診療所・病院数　84カ所（平成25年12月現在）
■所 在 地　〒933-0045
高岡市本丸町7-１　本丸会館5階
TEL 0766-24-0303

■役　　員（平成25年12月現在）
会　　長　後藤　健
副 会 長　山田　真樹
専務理事　牧野　明
理　　事　畑　直宏　大野　和人　浦野　一郎
山下　洋之　松本　全　渡辺　満
山本　鉄也
監　　事　岩﨑　弘治　熊木　彰
※会員名は巻末資料（P435）に掲載

高岡市は、富山県西部の中核で、長らく商業の町として発展してきました。

しかし、1609年前田利長公が入城し町を開いて以来は（平成21年には開町400年を迎え盛大なイベントが行われた)“ものづくり”を推奨し、工業発達の基礎を築きました。その代表的なものとして鋳物技術があり、その後、そこから派生したアルミ産業は高岡の基幹産業として大きく発展し、一大産地を形成しています。

歴史都市認定に伴う地域の魅力を創生し、そして平成27（2015）年の春には北陸新幹線の開通ということで、高岡の今後はさらに発展するとの期待が高まっています。

高岡市歯科医師会の歴史については､創生期、戦前の記録がほとんど見当たらず、明確となったのは、戦後間もなくの昭和23（1948）年、富山県歯科医師会の法人化に伴いその支部として創立された時からです。その当時の会員は20名程度で､保険制度や社会保障も十分整備されていない状況下で､う蝕が氾濫し診療に追われる毎日の中､“和を以って貴しと為す”の精神のもとに一致団結し､現在の高岡市歯科医師会の礎が築かれました｡その後､日本の復興とともに経済も高度成長し､昭和40年代になると、歯科大学も急増し､会員数も徐々に増加傾向となり､平成に入る頃には80名近くになりました。

そうした中、国民皆保険や社会保障制度も充実し、歯科医師会に対する社会的ニーズも増加してくると、組織として関わっていくためには単なる職域団体かつ親睦団体では対応できないということで、公益法人への移行の必要性が問われることとなりました。いくつかのハードルを乗り越え、平成17（2005）年には公益社団法人として認可され、新しいスタートを切りました。その際には、各界から多数の来賓の方々のご臨席をいただき、記念式典を盛大に執り行うこと

キス釣り大会（平成14年6月）

社団法人設立記念式典・パーティー（平成17年7月）

歯科保健事業　義歯ネーム入れ等（平成18年8月）

三歯会結成・スポレク大会開催30周年記念パーティー（平成21年10月）

ができました。またこの年には市町村合併により旧福岡町の先生方にも入会いただきました。

そして平成20（2008）年、やっと法人として軌道に乗りかけた頃、国の行政改革の一つとして公益法人改革が施行され、高岡市歯科医師会もその選択を迫られました。検討の結果、県歯科医師会と同様に一般社団法人を選択し、平成25（2013）年４月１日からまた新たなスタートを切りました。

高岡市歯科医師会にとって特筆すべき事に“三歯会”があります。三歯会は、昭和55（1980）年に技工士会と歯科衛生士会とともに結成し、同じ歯科医療に携わる者同志として、ボランティア活動、スポレク大会、講習会等で協同活動を行ってきました。ボランティア活動としては、特別養護・老健施設での健診、口腔衛生指導、義歯のネーム入れ等を毎年実施しています。スポレク大会はソフトボール、ボーリング、ビーチボール等を毎年行ってきましたが、平成21（2009）年の三歯会30周年を機に一区切りとし、その後は文化講演会を開催しています（なおキス釣り大会は継続しています）。

長らく、高岡市歯科医師会は本丸会館の一室を事務局としてきましたが、平成26（2014）年４月には新しく建設中の新高岡市急患医療センター（仮称）内に構える予定であります。

一般社団法人としてのスタートを切りましたが、公益事業を通して、地域医療に貢献することは当然ですが、それに加えて先駆的で学術的な歯科医師会を目指しております。

（後藤　健）

歴代の高岡市歯科医師会会長（平成25年6月現在）

昭和23～25年度	大道　憲治先生
26～31年度	小高　啓三先生
32・33年度	島田　栄吉先生
34・35年度	浦野與四郎先生
36・37年度	金山　吉雄先生
38・39年度	四日　善一先生
40～45年度	米沢　真一先生
46～49年度	吉岡　達雄先生
50～55年度	三崎　正春先生
56～平成２年度	石川　静郎先生
平成３～17年度	林　俊郎先生
18～24年度	岩﨑　弘治先生

学術講演会（平成25年9月）

現高岡市歯科医師会執行部（平成25年11月）

射水市歯科医師会

DATA

■名　称　射水市歯科医師会
■設　立　平成18年4月
　初代会長　黒川勇次郎
■会員数　44名（平成25年12月現在）
■診療所・病院数　35カ所（平成25年12月現在）
■役　員（平成25年12月現在）

会　長	片口　宗久		
副会長	清水　秀明	織田　武吉	
理　事	中沖　一人	三崎　広樹	立浪　康晴
	嶋　直毅	奥村　俊晴	
監　事	青木　一登	松木　基祐	

■会　員

石川　静郎	伊藤　聡	稲田　雅一
岩井　健治	大谷　敦志	黒川勇次郎
黒川　和俊	越野培名男	帯刀　弘幸
高桜　大輔	高田　恒弘	高畑　保夫
高畠　隆	高畠　聖子	武　俊夫
立浪　次夫	中島　潔	中島　吉春
中山　圭子	夏目　明恒	夏目もえこ
三崎　慎也	三島　純子	三谷　巌
森永　丈策	安田　篤	安田　由美
山岸　敏男	山崎　史晃	山田　正昭
山田　理生	和田　三茂	和田めりい
渡辺　光生		

射水市歯科医師会は自治体の旧新湊市と旧射水郡の合併に伴い、旧新湊市歯科医師会と旧射水郡歯科医師会が合併して発足しました。創立総会は、平成18（2006）年４月16日に行われましたが、合併に関しては、当時のそれぞれの会長である高畠隆先生、松木基祐先生、創立総会実行委員長の青木一登先生、そして初代会長の黒川勇次郎先生などがご尽力されました。合併したことにより会員数が、富山市歯科医師会、高岡市歯科医師会に次ぐ第３番目の歯科医師会となり、平成25年４月現在44名であります。

主な活動としては、地域歯科公衆衛生の向上、会員相互の親睦、会員の歯科医療に関する知識の向上などを目的に行っていますが、具体的には、自治体からの依頼のもと、１歳６カ月・３歳６カ月児健診・虫歯予防教室における歯科健診やフッ素塗布を行っています。また、「口腔機能について」ということで高齢者を対象とした講演も公衆衛生部会が主体となり行っています。

学術部会では、保険請求に関する勉強会やスタッフの雇用に関する勉強会など、福祉部では、総会、新年会、家族同伴懇親会などの企画運営などが行われています。そして、平成23年より野球同好会も発足し、富山県歯科医師会会長杯野球大会にも出場しています。合併してやや大きな団体となったことにより、今後より活気のある歯科医師会になるのではないかと思われます。

（片口宗久）

新年会（平成25年1月）

懇親会（平成25年9月）

魚津市歯科医師会

DATA

■名　　称　魚津市歯科医師会
■設　　立　昭和37年4月
　　初代会長　赤祖父三郎
■会 員 数　25名（平成25年12月現在）
■診療所数　21カ所（平成25年12月現在）

■役　　員（平成25年12月現在）
　　会　　長　河内　昭人
　　副 会 長　三田村　聡
　　会　　計　関　　康弘
■会　　員　稲垣恭仁子　稲場　　敦　奥川　澄夫
　　奥川　博司　奥川　裕司　小熊　淳史
　　小熊　清史　河内　　康　清水　嗣貴
　　髙島　浩二　谷川　文紹　坪井　孝博
　　寺崎　　芳　寺崎　麻里　夏目　恭佐
　　羽田　宜弘　美濃千嘉子　森本　　伸
　　山崎　聖也　米田　仗二　米山　耕司
　　米山　俊夫

このたび富山県歯科医師会が、創立100周年を迎えられましたことは、全員にとりまして心からの喜びであります。

富山県歯科医師会が創立された大正３年から、魚津市支部が発足されるまでは、旧魚津市支部・黒部市支部・下新川郡支部の３支部が、合同で下新川郡支部と呼ばれていました。

魚津市支部は、昭和37（1962）年４月より赤祖父三郎先生が初代支部長を務められ11人の会員で発足。以後、谷井三郎･広瀬一男･奥川澄夫･米田仗二･小熊清史･米山俊夫･森本伸･谷川文紹･河内昭人先生と続いて現在に至っています。

特に４代目の奥川澄夫先生には、17年の長きに亘り務めていただいたことを大変感謝しております。その間には行政ともパイプを築いておられたおかげで、その後県内では３番目に市の健康センターと連携して訪問歯科診療を開始しました。

医師会とも良好な関係を保ち､訪問診療時には､かかりつけ医師の意見書も事前に用意され、患者様の状態を把握したうえで治療に取り掛かれるということで大変助かりました。その他、県歯で副会長をされ、県歯・支部共に活躍しておられた、奥村朋宏先生の急逝と色々ありました。

最近では、新入会員の先生も増え、今後の魚津市歯科医師会の活動も変化していくと思われます。

魚津市歯科医師会としての現在の年間行事は、１月の新年会、３月の総会、８月にはスタッフとの交流会を兼ねたボーリング大会、12月には新川地区合同忘年会、隔年で親睦旅行も行っています。

100周年を迎えられた富山県歯科医師会が、今後とも各郡市歯科医師会の会員を通じて結束し更なる発展充実されることを祈念しております。

（米田仗二）

新年会（平成24年1月）

ボーリング大会（平成25年8月）

氷見市歯科医師会

DATA

■名　　称　氷見市歯科医師会
■設　　立　大正10年頃　詳細不明
■会 員 数　20名（平成25年12月現在）
■診療所・病院数　18カ所（平成25年12月現在）

■役　　員　（平成25年12月現在）
会　　長　新川いくみ
■会　　員　安達　昭　油田　達朗　桶家　樹
小山　哲夫　小山　元秀　加藤　英一
加藤　和子　加藤　葉月　川上　清志
串田　茂　久津有紀夫　越田　喜規
新谷　明宏　竹口　英人　中辻　義忠
長谷川富久　紅井　外二　坊　明男
坊　真奈美

氷見市は富山県の西北、能登半島の東側付け根部分に位置し多くの幸をもたらしてくれる富山湾に面しています。

海越しに望む立山連峰の景観は氷見市のシンボルであり、3,000メートル級の山々を眺める場所は、能登半島の雨晴海岸から氷見海岸一帯にしかありません。

また、日本海側有数の氷見漁港には四季を通じて156種類もの魚が水揚げされ、初夏の「マグロ」､冬の「寒ブリ」､そして「氷見イワシ」は、広辞苑にも掲載されるほど有名です。

氷見市歯科医師会は、昭和23（1948）年当時の会員数は７名、現在の（平成25年）会員数は20名です。

昭和24（1949）年の記録を見ると、氷見市はへき地無歯科医地区と指定されている所もあり、全ての面で不備な時代、少ない先生方で多くの学校検診や診療にも大変苦労されたことと思います。

なかでも坊明男先生は、昭和44（1969）年より平成13（2001）年まで県の理事、副会長他多くの役職をされ、県歯科医師会、氷見市歯科医師会に大変ご尽力いただいたことで富山県知事表彰、他多くの表彰を受けられました。

氷見市歯科医師会のこれまでの印象を先輩の先生方にお聞きすると、「昔からとてもよくまとまっており、仲が良い」とのお言葉が返ってきます。

今氷見市は65歳以上の人口が35％近く富山県の中でも高齢化が進んでいる地域です。生涯お口から食べることを望まれる患者さんに、歯から口へ、口から生活へとの歯科臨床の大きな広がりを会員仲良く取り組んでいきたいと思います。

（新川いくみ）

勉強会（平成25年10月）

食事会（平成25年10月）

滑川市歯科医師会

DATA

■名　　称　滑川市歯科医師会
■設　　立　昭和40年4月
　　初代会長　藤井　弘
■会 員 数　13名（平成25年12月現在）
■診療所数　9カ所（平成25年12月現在）

■役　　員（平成25年12月現在）
　　会　　長　網谷　伸治
■会　　員　荒川　昌子　　金山　光宏　　酒井　義博
　　高野　建一　　竹島健太郎　　辻　　貴史
　　仲井　雄一　　水橋　景之　　水橋　哲夫
　　野吾　昌宏　　安田　有時　　山﨑　隆志

滑川市歯科医師会の歴史

昭和40（1965）年、初代会長藤井弘のもと、県歯科医師会の支部として発足しました。発足当時の会員は奥平ユキエ（平成14年４月５日御逝去）、酒井信義（平成８年４月10日御逝去）、高橋日出夫、藤井弘（平成16年２月６日御逝去）、水橋哲夫、飯田弘（平成３年２月22日御逝去）の６名でした。

発足以前に滑川市内で開院された先生は、飯田半六（昭和55年５月17日御逝去）、金川俊一（昭和34年12月17日御逝去）の御両名。尚、これは歯科医師会にある資料と記憶を基に調べたものであり、間違いがございましたら平にお詫び申し上げるとともに、間違いの程を御指摘願います。

滑川市歯科医師会の現在

滑川市の人口は昭和40（1965）年発足当時３万人くらいだったものが、平成25（2013）年現在で3.3万人へと１割ほど増えておりますが、歯科医院の数は６軒から９軒へと、あまり増えておりません。若い先生が増えてはいるのですが、様々な理由でおやめになった先生方も多く、現況に至っております。他の市町村の例にもれず65歳以上の高齢者の割合も、25パーセントくらいでほぼ全国平均並みです。ただしベッドタウン的な要素が強い市で、昼間人口はかなり減少してしまうため、来院患者数も昔に比してかなり減ってきているようです。

そんな中でも現在12名の会員で、各種学校の保健指導、検診、成人歯周疾患の検診、指導活動、健康センターにおける１歳半、３歳児健診および予防指導を分担して行っております。さらには、平成24（2012）年より滑川市医師会の要請を受けて医科の訪問診療の際の、口腔内治療および口腔衛生指導の補助を有志の先生を中心に実施しております。

本会は今後とも、歯科医道の高揚と歯科医学の進歩発展、公衆衛生の普及向上を図り地域の皆様の口腔衛生の向上増進と会員の福利の増進に寄与する所存であります。

（網谷伸治）

臨時総会（平成25年12月）

黒部市歯科医師会

DATA

■名　　称　黒部市歯科医師会
■設　　立　昭和37年8月
　　初代会長　渡辺　綱男
■会 員 数　22名（平成25年12月現在）
■診療所・病院数　17カ所（平成25年12月現在）

■役　　員　（平成25年12月現在）
　　会　　長　清田　　築
■会　　員　朝日　丈晴　岩井　正博　梅川　哲也
　　荻野　新也　小倉　義孝　女川　　清
　　女川　瑞夫　河村　　允　佐々木英富
　　島田　正豊　島田　正史　島田　　実
　　千代　敬子　田中　慎二　平井　和輝
　　平井　　要　平井きよみ　堀川　淳治
　　前田美智之　吉見　武志　渡辺　和夫

黒部市歯科医師会の歴史

黒部市歯科医師会は昭和37（1962）年８月、初代会長渡辺綱男先生のもと10名の会員で発足しました。 当時の会員は蓮本庄太郎先生、河村哲之助先生、北山静次先生、田中直次先生、小倉直義先生、吉見勇先生、渡辺綱男先生、女川清先生、峰村綾子先生、平井きよみ先生の10名でありました。この他、発足以前に黒部市内で開院されていた先生は渡辺庄治先生、平井菊枝先生のお二人と伺っています。また、北山善之進先生と田中貢先生は県歯科医師会の運営に長年尽力されました。

黒部市歯科医師会の現況

黒部市は県東部に位置し、平成25（2013）年現在人口約4.2万人で、発足当時の黒部市と宇奈月町との合わせた人口と比してあまり増加していませんが、平成27（2015）年春には北陸新幹線が開通し黒部宇奈月温泉駅が開業することから首都圏との交通の利便性が改善され、さらなる人口増加、産業の発展が期待されています。

現在、会員は22名で、市内の小中学校、高等学校の学校歯科医、幼稚園・保育所の園医、保健センターの１歳半、３歳児健診などを分担して行っています。さらに平成24年度からは黒部市の委託を受けて妊婦歯科健康診査事業、また母子保健事業として１歳半から４歳未満の希望する幼児に６カ月ごとに健診とフッ素塗布を行うむし歯予防事業を行っています。

本会は黒部市の歯科医師の相互理解と地域歯科医療の向上および会員相互の親睦をはかり、地域の皆様の口腔衛生の向上増進と会員の福利の増進に一層の努力をしてまいります。

（清田　築）

新川地区忘年会（平成25年12月）

乳幼児歯科検診・フッ素塗布事業

砺波市歯科医師会

DATA

■名　　称　砺波市歯科医師会
■設　　立　昭和42年4月
　　初代会長　千保　利
■会 員 数　17名（正），2名（準）（平成25年12月現在）
■診療所・病院数　17カ所（平成25年12月現在）

■役　　員（平成25年12月現在）
　　会　　長　菅野　　宏
■会　　員（正）安念　和英　　安念　博利　　奥田　泰生
　　小坂井　満　　桜木　正昭　　佐藤　英樹
　　澤越　　豊　　菅野　勝紀　　高田寅四郎
　　高田　保之　　田守　徳樹　　根尾　　満
　　藤岡祐紀乃　　村井　幸嗣　　村井　玉枝
　　芳尾　久志
　　（準）向澤　　舞　　由良　晋也

砺波市は富山県西部、庄川の流域に開けた扇状地である砺波平野の中心に位置します。富山市と石川県金沢市のほぼ中間にある北陸自動車道砺波ICを市内に持ち、また近年では東海北陸自動車道小矢部砺波JCTからの中京圏へのアクセスが大幅に向上し、県における交通の要所として、さらには大型の郊外型商業施設の出店により発展してきています。カイニョと呼ばれる屋敷林に囲まれた農家が田園に点々と散在する、散居村という独特な美しい風景と、県花であり市花でもあるチューリップの球根の生産が全国的にも有名です。

昭和29（1954）年、東礪波郡砺波町から市制施行により砺波市が誕生しました。砺波市は旧来から東砺波郡とともに東砺波郡支部として活動してきましたが、昭和42（1967）年に東砺波郡支部から砺波市が離れ、砺波市支部が発足しました。発足当時は支部長の千保利先生以下、会員数８名でした。その後、会員数は徐々に増加し、平成16（2004）年には東砺波郡庄川町が砺波市と合併、平成25年４月現在、富山県歯科医師会正会員17名、準会員２名です。

従来から会員の先輩方の尽力により、市歯科医師会と行政との結びつきは強く、ことにむし歯予防事業においては、平成９（1997）年より幼稚園と小学校でのフッ化物洗口事業をスタートさせ、平成25年４月現在では市内のすべての幼稚園保育所、小中学校でフッ化物洗口を実施しています。この取り組みがひとつの要因として、砺波市の子どもたちのDMFTは、県内はもとより国内の他の地域と比較しても格段に減少してきています。

また、平成25（2013）年からは砺波医師会との合同事業として、医科・歯科合同研修会を立ち上げ、医科と連携して研鑽を積む機会を設け、地域住民の健康のために幅広く活動しています。

（菅野　宏）

臨時総会（平成25年11月）

小矢部市歯科医師会

DATA

■名　　称　　小矢部市歯科医師会
■設　　立　　昭和42年9月
　　初代会長　吉村　史郎
■会 員 数　　18名（平成25年12月現在）
■診療所・病院数　　12カ所（平成25年12月現在）

■役　　員　（平成25年12月現在）
　　会　　長　荒井　克洋
■会　　員　上田　　昌　　上田外喜男　　岡宗祐二郎
　　五郎丸知明　　五郎丸智子　　坂上登志子
　　清水　盛弘　　谷口　時博　　津田すみ子
　　津田　伸之　　津田　　淳　　野田　孫就
　　山田　隆寛　　山室　仁幸　　渡辺　良隆
　　渡辺　智良
■特別会員　長澤　貴子

まずは、富山県歯科医師会創立100周年おめでとうございます。

小矢部市は、東西を北陸自動車道、南北には東海北陸自動車道と能越自動車道が交差し、小さな市ではありますがインターチェンジを２つも抱える交通の要衝となっており、今後ますますの発展が期待されます。

小矢部市歯科医師会は、昭和42（1967）年吉村史郎先生を初代会長とし会員数９名で、当時の西砺波郡歯科医師会から独立し、現在に至ります。

会の活動内容は、小矢部市の『むし歯予防パーフェクト作戦事業』に協力して、乳幼児の歯科健診、RDテストの判定、フッ素塗布むし歯予防教室の指導、保育所や小中学校の幼児、生徒に対するフッ化物洗口指導、妊婦歯科健診等々を行っております。

それ以外に、各学校や保育所などの年２回の歯科健診、節目年齢の成人を対象とした歯周疾患検診等も行っております。

さらに、小矢部市歯科医師会は、小矢部市在宅医療推進連絡会に積極的に参加しております。この会では、事例発表などを通して情報交換を行い、他職種の方々との横のつながりを強化することによって、より質の高い在宅医療を目指しております。

ところで、私事で恐縮ですが、筆者の身の回りでは、昨年が小矢部市市制施行50周年、今年が富山県歯科医師会の創立100周年、来年には筆者の出身大学の創立100周年というように、不思議と記念年が連続しております。50年、100年などという滅多に巡ってこない記念年にこうも立て続けに遭遇するものでしょうか。筆者だけが特別ではないとすれば、これは今が『時代の節目』と言われるひとつの現れなのかもしれません。

この『時代の節目』という大きな変化の渦中で、我々歯科医師の役割は、ますますその重要度を増していくものと思われます。小矢部市歯科医師会は、その責務を全うすべく日々努力しております。　　（荒井克洋）

臨時総会（平成25年12月）

南砺市歯科医師会

DATA

■名　　称　南砺市歯科医師会
■設　　立　平成17年4月
　　初代会長　斎藤　　進
■会 員 数　22名（平成25年12月現在）
■診療所・病院数　19カ所（平成25年12月現在）

■役　　員　会　　長　仲村辰一郎
　　副 会 長　中尾　一彦
　　専務理事　斎藤　　進
　　理　　事　山本　武夫　　山本　大輔
　　北川　武史　　齋藤　繁徳
　　監　　事　山本　　茂　　得能　昭夫
■会　　員　石崎　善司　　石崎　　護　　川口　義治
　　小坂井裕子　　新谷　政彦　　棚田　昌俊
　　成瀬　裕久　　林　　直樹　　細川　史郎
　　松田　　源
■特別会員　富山　祐佳　　中川　清昌　　向澤　　彩

南砺市歯科医師会は前身の東砺波郡歯科医師会より、平成16（2004）年11月に８町村（井波町、井口村、上平村、城端町、平村、利賀村、福野町、福光町）が合併して南砺市となったのに合わせて誕生しました。

南砺市は人口約54,000人で富山県の南西部に位置し、岐阜県と石川県に接しています。散居村の砺波平野、そして世界遺産の五箇山合掌集落を抱え、住みやすく美しい土地です。

本会は歯科健康診査として、妊婦歯科健康診査、幼児歯科健診・フッ化物塗布、小中学校歯科健診・フッ化物洗口、高等学校歯科健診、40才～80才まで５才刻みの節目者口腔疾患検診を行っています。

また、歯科健康教育として、マタニティ教室、離乳食教室、１歳児むし歯予防教室、保育園・幼稚園・子育て支援センター・小中学校におけるむし歯予防教室、特定高齢者の介護予防事業、歯科健康教育、歯科保健推進協議会の歯科保健講演会も行っています。

さらに、歯科訪問指導として、フッ化物洗口における巡回指導、口腔機能向上のための訪問指導、寝たきり者を抱える家族への歯科訪問指導も実施しています。

その他として、歯科表彰〈歯っぴースマイル大賞〉などの事業を主体に活動しています。

現在、会員19名と特別会員３名です。今後、南砺市における地域歯科医療並びに歯科保健の向上、および会員相互の理解と親睦をはかることを目的とし、南砺市民のお口の健康を守っていきます。

（仲村辰一郎）

臨時総会（平成25年11月）

南砺市歯科保健講演会

中新川郡歯科医師会

DATA

■名　　称　中新川郡歯科医師会
■設　　立　大正10年頃　詳細不明
■会 員 数　17名（平成25年12月現在）
■診療所数　17カ所（平成25年12月現在）

■役　　員　会　　長　加藤　弘直
立山町班長　川口　志郎
上市町班長　加藤　弘直
舟橋村班長　茂住　岳司
代　議　員　牧野　京介

■会　　員　荒井　晴彦　幾島　貴弘　小泉　隆英
小森　　実　佐伯　清秀　佐伯　正清
坂下　賢孝　佐渡　知宏　中村　祐信
前川　達哉　牧野　良昭　山本　尚靖
吉岡ゑく子

中新川郡は富山県東部に位置し、東側正面に立山連峰の景観が望める風光明媚な土地であります。

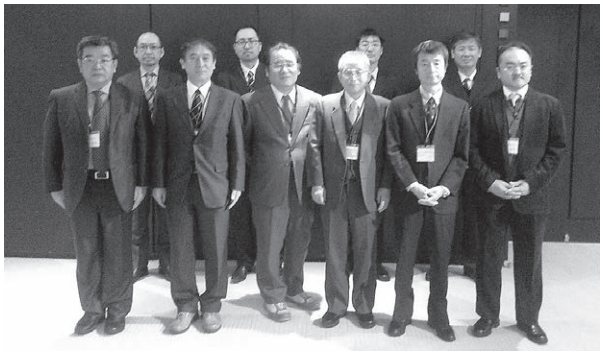
中新川郡歯科医師会は立山町・上市町・舟橋村にて歯科医業に従事されている17名の歯科医師によって構成されています。富山県歯科医師会入会者・退会者名簿によりますと、大正９年度に所属郡市歯科医師会として中新川郡・牧野昶先生の記載を認め、発足当時より昭和39年度に至り滑川市・旧水橋町が包含されていたと推察されます。そのため、昭和33（1958）年には所属歯科医師数が25名と最多になり、以外の時期は９～17名の歯科医師数の推移を認めます。

県歯役員等名簿に支部長の記載が昭和26年度飯田平六先生に始まり、酒井信義、中川武、大野静夫先生が昭和39年度まで、以降坂下孝則、小森甚作、佐渡永貞、小泉隆英、坂下賢孝、吉岡ゑく子、小森実先生が重責を全うされました。平成23年度以降、筆者が担当しています。

郡市会の総会は新年会を兼ね年１回上市町で開催、会食に先立ち当会が抱える諸問題や時節に適した製品の説明など勉強会を催しています。食事中は歯科事情の情報交換の場として和気あいあいと親睦を深めております。

本会会員は地域の学校歯科保健、歯科保健事業としての１才半、３才児歯科検診、妊婦歯科健康診断、歯周疾患検診に従事するとともに、「県民歯の健康プラン」作りとしての富山県健康づくり推進事業の一環として虫歯予防パーフェクト作戦を展開しました。会員はフッ素事業に対して県下でもいち早く賛同を明示協力し、多大な成果を現在においても収めています。平成24年度より中新川郡在宅医療連携事業として、たてやまつるぎネットワークが設立、今後の発展が期待されています。

（加藤弘直）



新川地区忘年会（平成25年12月）

上市町保健福祉総合センターでの3才児歯科検診

下新川郡歯科医師会

DATA

■名　　称　下新川郡歯科医師会
■設　　立　大正10年頃　詳細不明
■会 員 数　18名（平成25年12月現在）
■診療所数　15カ所（平成25年12月現在）

■役　　員　会　　長　田中　博
入善町班長　林　譲治
朝日町班長　小杉　斉
代 議 員　弥忠田 大
会　　計　佐藤 友保

■会　　員　阿部 弘一　魚津 純子　魚津 博文
大菅　明　大菅　武　小杉与三雄
近藤 俊行　近藤 隆行　塩見　哲
竹島 健潤　野田　修　平沢 滋康
柚木　功

富山県歯科医師会が、大正３年に設立されましたが下新川郡支部の設立年月日についての記録は残されていません。

大正２（1913）年に富山―直江津間の北陸本線が完成し県東部と県都の交通事情がようやく近代化したことで、東京・大阪と下新川の地が直結し、歯科医師が出現しました。

泊町の阿部歯科・大菅歯科・入善町の柚木歯科がその嚆矢でした。いずれも現在３代目が家業を継続しておられます。

昭和23（1948）年２月５日、魚津市・黒部市の２支部を含む24名の会員で再出発しましたが、昭和37（1962）年４月、朝日町･宇奈月町･入善町の３町で下新川支部を構成することになり､会員数も10名となりました。平成18（2006）年４月、宇奈月町が黒部市と合併することで黒部市歯科医師会へ移り、その直前には23名の会員数となりましたが、現在は２町で18名の会員数となっております。

戦争中のトピックとしては昭和20（1945）年８月２日富山空襲直後の医療救護の出勤です。医師・歯科医師の選抜チームで国鉄で鍋田まで行きその後徒歩で県庁へ伺ったのですが、一剤一薬ももらえず『いなり鉱泉』での医療活動を命ぜられ、バケツで頭から水をかけて全身を冷却する事と徳利と刺身皿を代用して洗眼することしか出来ませんでしたが、皆急に元気となり感謝されたと水の持つ力と平和の有り難さとして、伝えられています。

戦後の記録は、県歯70周年記念誌に詳しく述べられ、支部会員数の少ない割に県歯に貢献してきた戦後65年間の下新川郡支部の姿を見ることができます。

今後の郡歯科医師会の諸先生の活動力の根源ともなることを期待します。

（近藤俊行）

納涼会（平成25年8月）

新川地区忘年会（平成25年12月）

一世紀録

富山県歯科医師会100年史

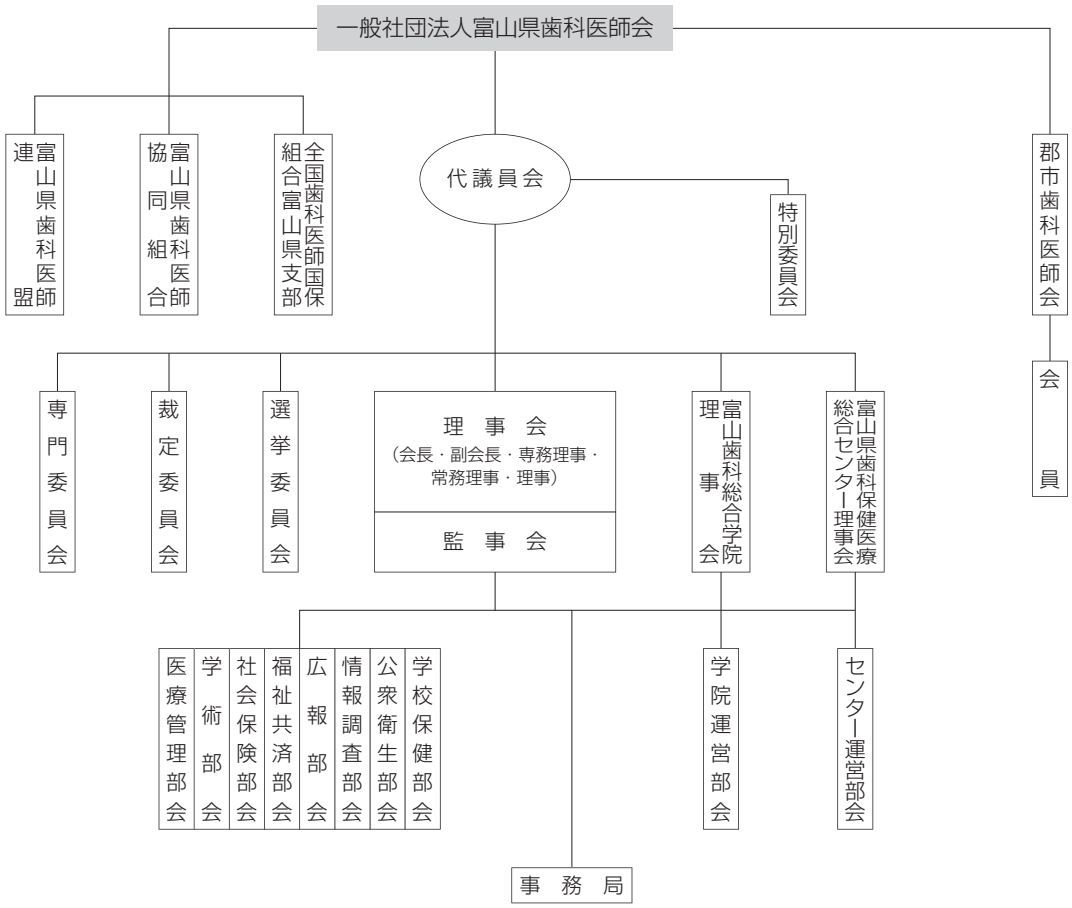
富山県歯科医師会の現況

富山県歯科医師会の概要

設立年月日　大正３年7月3日　会員10名
新制歯科医師会　昭和23年2月5日　会員198名（社団法人富山県歯科医師会設立許可）
公益法人改革　平成24年4月1日　会員536名（一般社団法人富山県歯科医師会に移行）
設立目的　本会は、日本歯科医師会及び郡市歯科医師会との連携のもと、歯科医学・歯科医療に携わる歯科医師を代表する公益団体として、医道の高揚、国民歯科医療の確立、公衆衛生・歯科保健の啓発、並びに歯科医学の進歩発達を図り、もって国民並びに会員の健康と福祉を増進することを目的とする。
事務所所在地　〒930-0887 富山市五福字五味原2741番2
TEL (076)432-4466　FAX (076)442-4013
URL www.tda8020.com/
（一般社団法人富山県歯科医師会館）
敷地面積　2,038.59平方メートル　建物面積　5階建　延3,205.76平方メートル
会員数　平成25年12月1日現在　536名
事業　本会は、設立の目的を達成するため次の事業を行なう。

（１）医道高揚に関する事項
（２）社会保障制度における国民歯科医療の確立に関する事項
（３）公衆衛生・歯科保健の研究と国民への普及啓発に関する事項
（４）歯科医学・歯科医療の進歩発展に関する事項
（５）歯科医学教育の研究と整備に関する事項
（６）歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士及び歯科補助者の研修に関する事項
（７）国民及び会員への広報活動に関する事項
（８）富山歯科総合学院の運営に関する事項
（９）富山県歯科保健医療総合センター運営に関する事項
（10）会員の福祉・歯科医業の向上に関する事項
（11）その他本会の目的を達成するに必要な事項

組織図



庶務会計部

主な会務

1）渉外に関する事項
2）会印及び職印の管守に関する事項
3）定款、諸規則及び規程に関する事項
4）団体契約及び登記に関する事項
5）文書管理に関する事項
6）職員の人事、労務、給与及び福祉厚生に関する事項
7）職員の研修並びに事務能率、改善に関する事項
8）会員及びその他表彰に関する事項
9）選挙管理並びに裁定紛争に関する事項
10）官庁及び各関係団体との連絡に関する事項
11）郡市歯科医師会との連絡に関する事項
12）予算、決算並びに会計に関する事項
13）財産の管理に関する事項
14）会計監査に関する事項
15）会館及び総合センターの維持管理及び営繕に関する事項
16）物品の発注、購入及び保存に関する事項
17）会員名簿及び管理事務に関する事項
18）会費及び負担金等の賦課徴収に関する事項
19）諸会議に関する事項
20）他の部門に属しない事項並びに一般庶務に関する事項

健全な運営を目指して

庶務会計部の業務内容は、本会の事務業務および各部門の管理業務を担う部門です。その業務範囲は非常に広くなっており、定款・諸規則に従って会務処理しなければなりません。

庶務関係においては、会員管理から歯科医師会館および総合センターの維持管理、官庁および各関係団体との連絡、定款諸規則等の新設・改正や代議員会・郡市会長会議・選挙委員会・裁定委員会等の諸会議を担当しています。

また、会計関係では、財産の管理、会費等の賦課徴収、歯科医師会全体の会計、予算・決算業務等を担当しています。

本会は、公益法人制度改革により平成24年４月１日に一般社団法人に移行しました。現在、公益目的支出計画の実施期間中であり、事業年度ごとに、実施の状況を明らかにする「公益目的支出計画実施報告書」を作成し、計算書類等とともに行政庁へ提出する必要があります。公益目的財産残額が「０」となったとき､本会は、同支出計画の実施義務はなくなり、行政庁による監督を受けなくなります。

新制度においては、法人自らが責任を持って自主的・自律的に運営を行っていけるよう、法律でガバナンスに関する様々な事項が明確に定められました。

庶務会計部では､コンプライアンスの原点『公正・適切な活動を通じ社会貢献を行う』ことを基本に、会員の皆さんに本会の事業内容並びに財政状況を分かりやすく説明すると共に、健全な運営に努めています。

（常務理事　松岡正道）

郡市歯科医師会長会議

代議員会

医療管理部

主な会務

1）医業経営の合理化に関する事項
2）歯科医業報酬に関する事項
3）歯科医療安全（感染予防等）に関する事項
4）歯科医療従事者の研修に関する事項
5）歯科医療従事者の雇用及び厚生福祉に関する事項
6）歯科医療機関整備に関する事項
7）医療事故及び苦情に関する事項
8）税務に関する事項
9）嘱託税理士に関する事項

会員に役立つ情報提供を

現在、医療管理部は、平成15年度より医療管理部と税務部が統合されて医療管理部となっています。

会務の中でも、とりわけ医療安全（感染予防）の占めるウエートが高く、外来環の算定要件の一つにもなっています。安心安全のためには、当然コストがかかります。患者さんに安心して、受診していただくためには必要不可欠な固定経費です。

また、医療従事者の研修会の開催、雇用の促進、税制改正等、様々な情報提供を発信すべきと考えています。

歯科界を取り巻く環境が、大変厳しい中、医業経営も維持していくのは至難の業といえるかもしれません。経営を成り立たせるためには、収入を増やすか、支出を減らすかしかありません。人口減少、少子高齢化の中で収入を増やし維持するためには一人あたりの単価を上げるしか手立てはないはずです。わが身を律して、あらゆる支出も見直す覚悟が必要でしょう。患者様のため、スタッフのため、わが診療所のため、そして家族のために、今こそ、歯科医師の矜持を示すべきでしょう。

大きなことはできませんが、会員の皆様のお役にたてる情報や行事を提供させていただきたいと思います。先輩諸氏から教わってきたことを受け継ぎ伝えていくことを現在の８名の部員と共に考え遂行していきます。法令を遵守し、うばいあえば足らぬ　わけあえばあまるの精神で会員の皆様のお役にたてる医療管理部を目指しています。

今後ともご指導ご教示の程お願いいたします。

（理事　立浪　徹）

医療管理部会

学術部

主な会務

1）歯科医学の振興に関する事項
2）歯科医学の研修教育に関する事項
3）歯科医学会・講習会の企画運営に関する事項
4）歯科医療安全（緊急時対応）に関する事項
5）歯科医薬品、材料等の取扱いに関する事項
6）歯科医学図書等の出版、推せん並びに図書室の整備に関する事項

より良い歯科医療を目指して

学術部会では研修会・セミナー等を年２～３回で開催しております。

１回目は歯科分野の細分深化に伴い、会員の先生方から要望されるテーマが多岐に渡るなか、保険の点数改定等も考え、時節にあった研修テーマを選ぶよう心掛けて実施しております。また、２回目は平成19年４月の医療法の改正に伴い、受講が義務付けられている研修会を地域基幹病院と消防署等の協力の元、診療所室内の急変時の対応や院内感染予防等の医療安全に関する研修会を医療管理部と連携し実施しております。

隔年の開催で、県民の皆様に口腔への関心を高めていただくために県民公開講座を開催しております。本年度（平成25年）は本県で第65回近畿北陸地区歯科医学大会の特別講演の３講演をすべて公開講座にいたしましたところ予想以上の参加者があり、927名（一般受講者274名）の方々に受講いただきました。

研修会以外の事業としては平成19年度より県内高校２年生全員（4,642名）を対象に口腔外傷の受傷率等についてアンケート調査を行い、アンケート結果を元に、スポーツ外傷による口のケガ、歯の喪失予防の啓発を図るため、マウスガードのリーフレットの作成やマウスガード作成歯科医療機関名簿を整備し、本会のHPに掲載をしております。

また、医科歯科連携事業として、糖尿病患者がかかりつけ歯科医師をもてるよう、平成22年より糖尿病診療情報提供書を作成、平成24年には「糖尿病と歯周病」のリーフレットを作成し、県内の病院内科との連携を図っております。

（理事　齋藤　彰）

学術部会

社会保険部

主な会務

1）医療保険制度に関する事項
2）診療報酬の算定方法に関する事項
3）医療保険の給付等の疑義解釈に関する事項
4）保険医及び医療従事者の指導、講習に関する事項
5）行政官庁、支払基金及び国保連合会等との連絡に関する事項
6）保険医療苦情処理に関する事項

保険診療の更なる充実を

現在の社会保険部は、昭和23年に創設以来、常に医療機関の経営基盤の安定化に資するべく、保険診療の正しい普及啓発に全力を挙げて取り組んできています。

しかし、改定ごとに複雑化する医療保険制度に即応するためには、従来からの保険講習会だけでは、周知徹底することは困難であることから、昭和50年４月から毎月６日を保険の窓口相談日とし、日々の診療での疑問点について社会保険部員から回答を行うとともに、希望の先生は、返戻レセプトとカルテ・レントゲン・模型等の資料を検討しながらの個別相談にも応じています。

また、全会員を対象とした社会保険講習会の他、地区別保険講習会を開催し、保険診療の改正点や問題点を分かりやすく解説するとともに、「保険歯科診療の手引き」や「保険の窓口Ｑ＆Ａ集」、「カルテ記載の要点」等を発刊し活用頂いてます。

特に、診療報酬改定に際しては、全体としての説明会を開催することは勿論、「より早く」「より正確」な情報を平等に会員へ提供すると同時に、希望される郡市歯科医師会の保険講習会には講師を派遣し、適正な保険診療の普及にも努めています。

保険診療の適正化に寄与する一方、保険医療機関に対する行政機関による指導に対する対応として、指導対象者には研修会や自主指導を行い、指導には立会うとともに行政当局とも常に連携しています。

社会保険部として、社会保険医療の適正かつ円滑な運営に努め、保険診療の更なる充実と医業経営の安定を図られることを目標としています。

（常務理事　野田　修　　理事　山田隆寛）

社会保険部会

福祉共済部

主な会務

1）会員及び家族の共済に関する事項
2）会員の保健・福祉に関する事項
3）福祉共済制度の管理・運営に関する事項
4）日歯福祉共済及び日歯年金に関する事項
5）会員の災害救護に関する事項

会員の健康と福祉の増進を目指して

福祉共済部の担当しております会務の殆どは、歯科医師会会員への福祉共済活動そのものであると理解し、その重要性を深く痛感しております。

本会の福祉共済制度は、会員の相互扶助の理念に則し、会員の福祉共済を図ることを目的として、順調に運営されています。

また、平成24年度福祉共済部事業実績としましては、歯科医師国保組合並びに協同組合の事業を含めて、

1．HBs抗原･抗体検査、HCV抗体検査の実施
2．人間・脳ドックの斡旋・節目検診の実施
3．ヘリカルCT肺がん検診の実施
4．レクリエーションの実施
5．インフルエンザ予防接種事業の実施
6．功労会員表彰式・顕彰式の祝賀会兼忘年会の実施

などを運営して、多くの会員の方々のご参加を頂き、感謝しております。

平成24年４月より、一般社団法人への組織変更を経て、その変更に伴い、本会の福祉共済制度は、1,000名未満の会員を対象とするため保険業法の適用が除外され、運用の変更はない形で、対応されております。今後とも恒久的に健全運営に努めてまいりたいと存じます。

富山県歯科医師会創立100周年を迎え、先達の諸先生方の見識と知恵の凝縮されました制度､歯科医師会の組織構造は､現在を生きる我々会員から思うと､「まるで、未来からの挑戦を、昔の時代の先達の諸先生方の気概と緊張感の中、受けて立っている姿そのもの」そのような様相が、感じ取ることができます。

節目の年を迎え、先達の諸先生方の業績に対して､多大な尊敬の念を､感じております｡今後、次の時代への橋渡しを鑑み、組織活動を、遂行する所存であります。　　（理事　上田　均）

福祉共済部会

広報部

主な会務

1）会報の企画、編集に関する事項
2）内外の広報に関する事項
3）県民向けホームページ等の管理に関する事項

正確な情報発信を目指して

広報部の主な業務は、会員及び関連機関への会誌としての富山県歯科医師会報の年６回の発行です。会報の内容は、報告事項として理事会や代議員会、各種協議会、研修会等があり、連載・お知らせとして広報部による企画連載や郡市歯科医師会だより、各種講習会、県歯同好会などの告知があります。これを部員10名にて３回の校正をし正確を期しています。また、保険改正の時期には速報として改正の要点をまとめ発行しています。

県民向けへの広報活動として、６月の「歯と口の健康週間」においては、新聞・ラジオの媒体にて口腔衛生の啓蒙活動をし、11月の「いい歯の日」には日歯とのコラボ企画や県歯企画の新聞広告があります。県民に如何に興味を持って見て頂けるかが重要です。

県民向けホームページでは、歯科医療情報の提供、県民参加型公衆衛生事業・イベント・講演会に関する告知、休日診療等の当番医のお知らせを毎月更新しています。

広報部では、会員への適切な報告や必要とされる情報を厳選し、正確にスピーディーに伝えることを目標にしています。また対外的には、県民へ新聞・ラジオ・ホームページ等にて県歯の活動を理解してもらい、公衆衛生の普及に努めています。

（理事　高島周二）

広報部会

情報調査部

主な会務

1）歯科医業調査に関する事項
2）本会の事業に必要な調査研究に関する事項
3）本会の事業に必要な情報の収集に関する事項
4）情報管理に関する事項
5）会員向けホームページ等の管理に関する事項

IT化による情報収集・管理の推進

当部会は、創設より長年にわたり、調査部として、歯科医業調査に関する事項、本会の事業に必要な調査研究に関する事項や会員向けホームページ等の管理に関する事項を行ってきました。歯科医業を取り巻く環境等の変化から、平成21年より、これまでの会務に加え、レセプト・オンライン化や歯科のIT化等、本会の事業に必要な情報の収集に関する事項、情報管理に関する事項が加わりました。

歯科医業調査や本会の事業に必要な調査研究に関する事項としては、市民公開講座に来場した県民向けの、歯科医院に求める事項や歯科診療に関する意識の調査や、本会会員向けのアンケートを行い、その結果を本会の事業遂行に反映しています。

情報収集の分野においては、レセプト・オンライン化に関して、日本歯科医師会、審査支払機関等の情報をもとに、会員に情報提示し、導入していただいたことにより、全国でもトップクラスのレセプトの電子化率に至っています。

会員向けホームページの管理については、昨年より、登録いただいた会員には、メールマガジンを発行し、ホームページの更新情報を随時、通知しています。登録いただいていない会員には、会報に更新状況を載せて、通知しています。本年春には、一般向けと会員向け両方のホームページのデザインや内容を一新し、講演会等の申込もホームページから出来るようにする等、より見やすく、より便利になるように、リニューアルを行いました。

情報管理に関しては、国のIT化政策により、様々な分野でIT化が進んできており、団体・個人に対しても、Securityや管理が求められています。当部会においても、当会の情報管理規定についての検討・答申を行い、情報管理に関する情報収集・検討を行っています。

（理事　山本尚靖）

情報調査部会

公衆衛生部

主な会務

1）口腔衛生の普及啓発に関する事項
2）妊産婦・乳幼児歯科保健対策に関する事項
3）成人・高齢者歯科保健対策に関する事項
4）産業歯科保健対策に関する事項
5）歯科保健関係者の指導、研修に関する事項
6）訪問診療に関する事項
7）介護保険に関する事項
8）法歯学に関する事項
9）防災・歯科医療救護に関する事項

よりよい歯科医療の環境づくり

現在、公衆衛生部は第１・第２部会の２部会で構成されています。

公衆衛生部会１の事業概要

①歯っぴーフェスタ8020

歯と口の健康週間における事業として、県民に歯科保健に対する正しい知識を普及啓発することを目的として行われています。平成25年はイオンモール高岡にて６月２日に開催されました。公衆衛生部員による歯科健康相談、県歯科衛生士会による歯みがき指導、県歯科技工士会による石膏手形づくりまたキャラクターショーなどが行われました。

②いい歯カムカムすこやか大賞表彰事業

80歳で自分の歯を20本以上持つ人を表彰することにより、県民に対し歯と歯ぐきの健康づくりの重要性を啓発することを目的として行われています。県民歯の健康プランでの8020達成者の目標値は30％以上としていますが、平成23年富山県成人歯科疾患調査では達成者の割合は36.26％でした。

③歯科保健関係者研修会事業

歯の健康プラン推進のために、歯科保健事業や歯科保健活動に従事する指導者や職員の歯科保健に関する正しい理解を深めることを目的として行われています。

④歯科専門職研修会事業

多様化する歯科保健医療ニーズに対応するための人材育成、資質向上のために歯科専門職を対象とした研修会を行っています。特に医科との連携を考慮し、平成24年度は「がん患者の周術期口腔機能管理を正しく運用するために」と題して県立静岡がんセンター歯科・口腔外科部長 大田洋二郎先生をお迎えして研修会を行いました。

（理事　清田　築）

公衆衛生部会１

公衆衛生部会２の事業概要

①成人歯科保健対策事業

主に事業所歯科健診がありますが、近年の厳しい社会情勢、総医療費高騰により企業、健保組合が赤字のため、歯科健診数は平成８年に16,335名でしたが、平成24年は848名と激減しています。法的に義務付けられている歯牙酸蝕症の歯科健診はわずかずつ増えています。

②法歯学に関する事業

警察法歯学協力医は昭和61年より法歯学協力歯科医制度として活動を始め、平成７年には富山県警察との協力援助に関する覚書を締結され、現在は各警察署毎に19名の協力医が登録され、会員の皆様にも協力会員としてご協力をいただいています。平成23年には海上保安庁とも歯牙鑑定等による個人識別に関する協定書を締結、また、富山県防災会議･国民保護協議会の委員として吉田会長が会議に出席し､大規模災害時の医療救護､身元確認作業に対応できるよう準備を進めているところです。

③高齢者歯科保健医療推進事業

平成22年度より行政の支援を受け、在宅歯科医療、介護予防の歯科保健医療の体制強化を図っています。歯科医師向け、介護関係者向けに研修会を毎年開催し、訪問診療協力医療機関リストを作成しました。平成22年度は各郡市歯科医師会へ訪問診療ポータブルユニット（16台）を貸与、平成23年度は在宅歯科医療連携室を設置、ポータブルレントゲンを２台整備しました。平成24年は「健康なお口でハッピー生活Ⅱ」の啓発用パンフレットを作成し、行政・介護関係施設等に配布し､研修会を開催しました。

平成25年度末までにはポータブルレントゲンを３台追加整備する予定です。

（理事　谷川文紹）

公衆衛生部会2

学校保健部

主な会務

1）学校保健思想の普及啓発に関する事項
2）学校保健施策の調査研究に関する事項
3）学校歯科保健対策に関する事項
4）学校歯科医の研修に関する事項
5）学校保健関係者の指導、研修に関する事項

更なる学校歯科保健の発展を目指して

富山県における学校歯科医会は、昭和５年に富山県小中学校に「学校歯科医を置くことを得」の県条例ができたことにより昭和７年に富山県学校衛生会歯学部として結成され始まりました。昭和28年に会則を制定し富山県学校歯科医会が発足しました。その後富山県よい歯の学校運動、無歯科医村診療（へき地学校巡回診療）、よい歯のポスターコンクール、歯のみがき方講習会の実施、フッ素洗口の推進、学校歯科保健特別研修会などを行い学校歯科保健活動の発展に大きく貢献してきました。特に昭和39年度、平成６年度においては全国学校歯科保健研究大会を開催し全国から多数の関係者が参加し大きな成果をあげました。そして平成16年に富山県学校歯科医会は、富山県歯科医師会と合併しこれまでの活動を継続しつつ更なる発展を目指しているところです。

最近の学校歯科保健の事業については、学校歯科医の資質の向上をはかることを目的とした学校歯科医基礎研修会、新任学校歯科医研修会の開催、生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業としての取り組み、歯と口の健康に関する図画ポスターコンクールの実施、 保育所、幼稚園、小中学校養護教諭などを対象に行っている歯科保健関係者研修会の実施、カミング30として小学校巡回事業などを行っています。学校歯科医は、疾病を発見し治療をするだけでなく、子どもたち自身が、将来自律的健康管理ができることを目標とした健康教育の推進、う蝕や歯肉炎だけではなく口腔機能、特に食べる機能の育成などますますその果たす役割は重要となってきています。

（常務理事　城川和夫）

学校保健部会

総合センター部

主な会務

1）歯科保健医療総合センターの運営に関する事項
2）心身障害児（者）歯科保健対策に関する事項
3）心身障害児（者）歯科診療に関する事項
4）休日歯科診療・休日夜間歯科診療に関する事項
5）休日在宅当番医制度に関する事項
6）歯科保健関係者の指導、研修に関する事項

すべての人に優しい歯科診療を

富山県歯科保健医療総合センターを管理及び運営する総合センター部は現在、県委託事業である心身障害児（者）歯科診療・休日等夜間診療、県補助事業である休日等歯科診療を中心に事業を行っています。

心身障害児（者）歯科診療には県内全域より種々の障害をお持ちの患者さんが来院されています。現在、診療は毎週火曜・水曜・木曜の13：30～16：30に12名の部員が２名ずつ総合センター所属の歯科衛生士５名と部員各自の診療室のスタッフ各１名で行っており、毎週木曜日には障害児（者）の歯周治療に特化した診療時間も設けています。また総合センターでは実際の歯科診療にとどまらず、平成19年より進めている障害児(者)歯科医療情報提供ネットワーク事業の中核として、障害児（者）施設刷掃指導を年間約15回、障害者歯科医療研修会を年１回開催、障害者に関係する他の色々な職種の専門家に講師となっていただくセンター研修会を年３回開催､障害児（者）歯科医療ネットワークニュースレターを発行等の情報発信を行っています。部員、スタッフは毎年行われる障害者歯科学会に参加し、時代の要求に即すことが出来るようよう研鑽を積んでいます。

休日等歯科診療は年間約74回、総合センターでの診療と全県下４地区（富山、高岡、新川、砺波）の会員診療所における休日在宅当番医制事業を各診療所輪番制で、休日等夜間診療を総合センターで会員の希望者抽選制で行っています。

また平成22年度より総合センターに設置された歯科用コーンビームCTの管理、運用も業務の１つとなっています。

（理事　折山　弘）

センター運営部会

総合学院部

主な会務

1）学院運営に関する事項
2）歯科技工士及び歯科衛生士の養成に関する事項
3）学院生の進路指導に関する事項
4）卒後研修に関する事項

時代の先を見通した教育を

歯科衛生士科と歯科技工士科が一緒になり歯科総合学院としてスタートして、早や35年が経とうとしています。２つの科の担当理事が１本化され私がひとり担当理事として両科に携わるようになりまして11年目となります。職種として大きく違う両科の特性により色々と困難がありましたが、「健康を保持・増進する」という共通の目標を持つ人材を育成する面から連携が図られるようになってきました。

会員の先生方のご理解の下、現在、学生（衛生士科121名、技工士科26名）を部員、教務、講師（内外含めて）で支えています。

歯科技工士科におきましては、国家試験の全国統一化が目前に迫ってきておりますが、法律が通る前に学生の学力向上はもちろんのこと、教員には良問作成能力と解り易い講義と実習を実施する、熱意と技術の修得が要求されます。また、歯科技工士の高齢化と少子化により学生数の増加が見込めない以上、カリキュラムにCAD/CAM等の革新的な技術を早期に取り入れることによる“オペレーター”的人材育成が必要になってきています。

歯科衛生士科におきましては、平成20年に無事３年制に移行を成し遂げました。学科課目を決めるときに力を入れた、プレゼンテーション技術とコミュニケーション能力育成は、今後の大学教育に於ける必須アイテムとなっており、我校の先見の明の高さは胸を張れるのではないでしょうか。また、歯科衛生士法第二条第１項の改正に伴う業務範囲の拡大におきましては、在宅医療や介護分野などの隣接医学分野の知識の吸収と医学的歯科学（メディコデンタルサイエンス）的教育理念の応用が大事であります。

私共は、学生の描く夢の少し先までを見通しながらの教育を目指しております。

（理事　城野利盛）

学院運営部会

事務局

富山県歯科医師会の事務局は、富山県歯科医師連盟・全国歯科医師国民健康保険組合富山県支部・富山県歯科医師協同組合の業務を兼務しながら、会長の指揮監督を受けて事務を掌理し、理事会の指示する企画調査等に関する分掌事務をつかさどっています。

歴史と伝統のある富山県歯科医師会の会務運営の一端を担う立場を与えられましたことに対しまして、光栄に存じますとともに職員一同、自覚をもって職務に精励し情熱をもって取り組んでまいります。

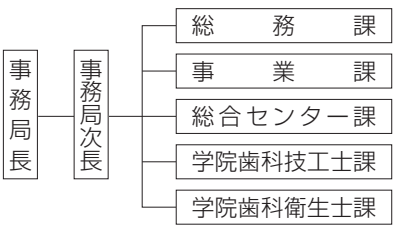
富山県歯科医師会全体で何をするのが最良か、最適化を考え、すべての事務局職員は会員のお役に立つ事務局として改革を進めると共に透明感のある、やる気のある意識の高い事務局となるよう努めてまいります。

今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

富山県歯科医師会職員・担当業務内容

事務局長 山本　吉博	会長の指揮監督を受けて事務を総括(歯科医師連盟・歯科医師国保・協同組合の運営)
事務局次長 兼事業課長 富山　悟	総括補佐　医事・苦情処理、無料職業紹介事業、事業課業務統括、事業課担当部会統括、協同組合業務(損害保険)
総務課（3名）	
課長(嘱託) 黒田美智子	総務課業務統括　会館・固定資産・公印管理、現預金管理、理事会・監事会、日歯事務、給与関係、職員福利厚生関係
主　任 増田　路子	予算・決算関係、会計帳簿・財務諸表作成、補助金関係、会務報告関係、給与関係、諸会議(理事会、代議員会、郡市会長会議、裁定委員会、選挙委員会、特別委員会)、各担当部会、歯科医師連盟業務
主　事 林　綾佳	会員管理、会費徴収、会員表彰関係、諸会議(理事会、代議員会、郡市会長会議、裁定委員会、選挙委員会、特別委員会)、庶務全般、各担当部会、協同組合業務(事業資金貸付、団体生保・損害保険)
事業課（4名）	
課　長 富山　悟	事業課業務統括
主　任 野上　沙織	歯科医師国保組合業務、各担当部会
主　事 神保　志帆	文書管理、文書発送、物品管理、郵便切手等管理、行事予定管理、会館使用関係、庶務全般、各担当部会、歯科医師連盟業務、協同組合業務(共同購入担当)
主　事 小野田幸恵	労働保険事務組合業務、庶務全般、各担当部会
総合センター課（5名）	
課　長 長江　悟子	総合センター課業務統括
主　任 向野　正子	診療統計(心障・休日・休日夜間)、実習生担当
主　任 土肥　妙子	センター会計、物品購入、備品管理
歯科衛生士 金田　渚	診療統計(在宅)、図書管理
歯科衛生士 大平　千尋	文書管理(受信・発信)
学院歯科技工士課（4名）	
課長(嘱託) 野崎　進	歯科技工士課業務統括　学院行事関係、入学・卒業関係、各種証明書、学生会計(2年)、卒後研修、2学年担任
主　任 菅谷　幸樹	学院会計、物品購入(学生)、各種証明書、学生会計(1年)、1学年担任
主　任 紺道　雅人	文書管理(受信)、図書管理、学生募集関係、学院会計
歯科技工士 松﨑　舞	文書管理(発信)、備品管理、学生募集関係、物品購入(学院)
学院歯科衛生士課（5名）	
課　長 吉田美津子	歯科衛生士課業務統括　主務官庁申請・報告、学生募集関係、卒後研修、3学年担任
主　任 岩井　艶子	学院行事関係、文書管理(受信)、各種証明書、1学年担任
主　任 山越智津子	学院会計、物品購入、物品管理、臨床実習関係、2学年担任
主　任 黒田由香里	講師報酬関係、図書管理、学生会計(1年)、1学年担任
歯科衛生士 影近　瑞穂	主務官庁申請･報告、カリキュラム関係、文書管理(発信)、学生会計(2.3年)、オープンキャンパス、2.3学年担任

職員数　22名



富山県歯科医師連盟

設立年月日　昭和26年12月2日

設立目的　本連盟は、会員相互の協力により、政治力を強化し、歯科医師の業権の確保とその発展を図り、医療体制を整備し、県民医療の発展に資することを目的とする。

事務所所在地　〒930-0887 富山市五福字五味原2741番2
TEL 076-432-4466

会員数　平成25年12月1日現在　495名

役員　会長　吉田　季彦　外18名

沿革　昭和26(1951)年12月2日､本会事務所（富山市常盤町17番地）において第25回代議員會が開催され、閉会後、政治連盟結成の発起人に全代議員がなることを申合せされました。続いて同日開催の臨時總會において政治連盟結成が可決され、同じく12月2日に、富山県歯科医師政治連盟結成大会が出席者137名のもと開催されました。

結成大会では永森收本会副会長より経過報告があり、以下の規約が原案通り可決され、役員選挙において浦野與四郎委員長、永森收副委員長が選出されました。

また、他の役員は両氏に一任することとなり、決定しました。

富山縣歯科醫師政治連盟規約　昭和26年12月2日制定(抜粋)

第一條　此の会は富山縣歯科醫師政治連盟と稱し事務所を富山縣歯科醫師会館内に置き団体等規正令による政治結社とする。

第二條　此の会は富山縣歯科醫師会と表裏一体となり醫政の改善及び歯科醫師の政治力強化を図るを以つて目的とする。

第三條　此の会の会員並びにその推薦する者にして此の会の目的並びに主義政策に賛同する者を以つて構成する。

第四條　此の会は目的達成のため次の事業を行う。

一、醫政並びに其の政治力強化に関する事項
二、醫政に関する弘報宣傳
三、醫療経営に関する事項
四、其の他目的達成に必要な事項

事業　本連盟は、会員の歯科医業経営の安定と発展を期するとともに歯科医療提供体制の整備充実を図り、もって歯科医療の向上に資するため、より一層の政治活動を推進するため次の事業を行う。

1. 歯科医業の業権確保・向上の推進
2. 歯科保健の富山県条例の制定促進・地域歯科保健の充実・強化
3. 医療保険制度の抜本改正に対する活動
4. 社会保険診療報酬適正化の推進
5. 介護保険における歯科保健の普及・充実と介護保険制度への対応
6. 内外広報活動の推進
7. 次期参議院議員選挙への対応
8. 国会議員及び地方自治体議会議員、首長選挙対策・支援
9. デンタルミーティングの開催
10. 関連諸団体・機関との連携・協力の強化
11. その他必要な事業への連係・協力

平成25(2013)年7月実施の第23回参議院比例代表選挙における日歯連盟組織代表候補者を石井みどり氏【参議院議員･広島県会員】とすることが決定され、本連盟としても全力を挙げて支援することを決定し、同年2月25日に「参議院議員石井みどり氏を励ます会」、同年5月16日に「石井みどり富山県後援会総決起大会」を開催するなど石井みどり支援者の獲得に努めました。

第23回参議院議員選挙は同年7月4日に公示され、7月21日投開票の結果、294,148票を獲得し、石井みどり氏は2期目の当選を果たしました。

政局が混迷する中、次期の歯科診療報酬改定等歯科界が抱える課題は多岐にわたり、極めて厳しい状況を呈していることはご承知のとおりであります。これらの解決に向けては、日歯連盟と都道府県歯連盟が連携して関係方面に行う政治的均衡が必須であり、その中で歯科界の声を国会に届ける組織代表国会議員はなくてはならない存在です。我々の歯科界を代表する組織代表を国政に送り込むことにより、厚労省、文科省等の行政、政治家に歯科界の結束力を誇示することができれば、諸課題解決に向けた大きな一歩となることと信じてやみません。何卒ご理解の上、ご支援ご協力賜わりますようお願い申し上げます。

全国歯科医師国民健康保険組合富山県支部

設立年月日　昭和53年4月1日

設立目的　本組合は、国民健康保険法（昭和33年法律第192号）に基づき、この組合の組合員及び組合員の世帯に属する被保険者の国民健康保険を行うことを目的とする。

事務所所在地　〒930-0887 富山市五福字五味原2741番2
TEL 076-432-9666

被保険者数　平成25年12月1日現在
1種　436名、家族 884名
2種　 41名、家族　31名
3種　919名、家族　97名　　合計　2,408名

役員　支部長　吉田　季彦　外8名

沿革　富山県の歯科医師の国保組合は、昭和37(1962)年11月1日に富山県歯科医師国民健康保険組合が結成され、理事長に岡田信次本会会長が就任し、事務所を旧富山県歯科医師会館(富山市舟橋南町3番15号)に置いて業務を開始しました。

その後医療給付額も逐次増加し、単一な組合では財政的に危惧感が出たため、数県で合併交渉が行われましたが、問題点も多く合意には至りませんでした。幾変遷を経て、昭和53(1978)年4月1日、全国歯科医師国民健康保険組合が結成された際、同年3月31日に富山県歯科医師国民健康保険組合は解散し、同年4月1日より現在の全国歯科医師国民健康保険組合に加盟し、富山県支部となり、支部長には酒井信義先生が就任されました。

その後、富山県支部の事務所は富山市舟橋南町3番15号から平成4(1992)年9月に現在の富山市五福字五味原2741番地にある富山県歯科医師会館内に移転しました。

国保組合の構成　当組合は、昭和53(1978)年4月1日に栃木県知事の認可を受けて設立され、被保険者は約67,000名、その被保険者資格は、規約第4条の区域（栃木県、山梨県、青森県、岐阜県、富山県、滋賀県、京都府、岡山県、山口県、島根県、鳥取県、香川県、徳島県、高知県、新潟県、岩手県、石川県、長野県、福井県、沖縄県）及び規約第4条に定める区域に住所を有する者で、各府県の歯科医師会の会員である歯科医師及びその家族、当該歯科医師が開設、管理する診療所に雇用される者及びその家族、並びに組合に勤務する者とその家族を被保険者として構成されています。

事業　富山県支部の保健事業内容については、平成3(1991)年から脳・人間ドック健診が始まり、平成8(1996)年からはレクリエーション事業、さらに平成11(1999)年からはHBs抗原・抗体検査、母子に対する小冊子の配布を始め、現在も継続しています。また、平成17(2005)年にヘリカルCT肺がん健診を行い、現在は隔年に実施しています。今後も組合員のご理解を得て時代に相応しい保健事業を展開するものであります。

1．療養の給付
- ○療養費（償還払）
- ○出産育児一時金
- ○傷病手当金
- ○葬祭費

2．保健事業の実施（支部事業）
- ○脳・人間ドック健診
- ○レクリエーション
- ○HBs抗原・抗体検査
- ○ヘリカルCT肺がん健診
- ○忘年会の開催
- ○母子に対する小冊子の配布

3．インフルエンザ予防接種（平成21年度より本部事業として実施）

4．節目健診（平成10年度より本部事業として実施）

富山県歯科医師協同組合

設立年月日　昭和57年5月17日

設立目的　本組合は、組合員の相互扶助の精神に基づき、組合員のために必要な共同事業を行い、もって、組合員の自主的な経済活動を促進し、かつ、その経済的地位の向上を図ることを目的とする。

事務所所在地　〒930-0887 富山市五福字五味原2741番2
TEL 076-432-4520

組合員数　平成25年12月1日現在　427名

役員　理事長　吉田　季彦　外18名

沿革　昭和54(1979)年当時、歯科医業界における経済環境は健保制度のもとに厳しいものがあり、歯科材料等の急騰がこれに拍車をかけていました。また医療費の引き上げも小幅にとどまっており、このような厳しい現状を打破するためには、本会会員が集い、中小企業等協同組合法に基づく事業協同組合を設立し、より一層の団結と相互扶助の精神の高揚を図り、組合員に必要な事業を積極的に行っていくことが急務であると確信し、歯科医師協同組合の設立に向かって、昭和54(1979)年度に、他県の歯科医師協同組合、並びに富山県医師協同組合の定款等の資料収集が始まり、同年度に発足した福井県歯科医師協同組合へ、当時、医療管理担当理事の飯田弘先生、委員長の立野泰三先生が視察を行いました。

昭和56(1981)年度から福祉共済担当理事に福井洋先生が就任し、事業協同組合設立準備委員会を設置し、定款及び事業計画の準備に着手されました。

その後、同年12月19日開催の代議員会において協同組合設立について協議され、昭和57(1982)年1月16日には臨時代議員会の議決並びに総会の承認を得ることが出来ました。

昭和57(1982)年5月6日には協同組合設立の認可を受け、同年5月17日に法人登記し、協同組合が設立しました。理事長には藤井弘本会会長が就任しました。

事業　本組合は、設立の目的を達成するため、次の事業を行う。

1. 組合員に必要な医薬品及び医薬材料等の共同購入
2. 組合員に対する事業資金の貸付け及び組合員のためにするその借入れ
3. 組合員の経済的地位の改善のためにする団体協約の締結
4. 組合員の事業に関する経営及び技術の改善向上又は組合事業に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供
5. 小規模企業共済事業に関する受託業務
6. 労働保険の保険料の徴収等に関する法律第４章の規定による労働保険事務組合としての業務
7. 生命保険の代理業務
8. 損害保険の代理店業務
9. 組合員の福利厚生に関する事業
10. 前各号に付帯する事業

第31回通常総代会（平成25年6月27日）

一世紀録

富山県歯科医師会100年史

座談会・寄稿・温故知新

富山県歯科医師会創立100周年記念

歴代役員座談会

これまでの100年、これからの100年。

日　時：平成25（2013）年７月９日（火）

会　場：天米 県庁前店（富山市桜町）

参加者：水野誓夫（元副会長）　今村勝彦（元副会長）　坊　明男（元副会長）
栗山豊実（前会長）　宮田靖雄（元副会長）
吉田季彦（会長）　安田　篤（副会長）　山﨑安仁（副会長）

司　会：中道　勇（専務理事）

吉田季彦（会長）

中道　勇（専務理事）

会長　本日は、お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。日頃より、会務運営に多大なご協力を賜わり感謝申し上げます。ご案内のように、大正３年に富山県歯科医師会が設立されて以来、本年ちょうど100周年を迎え、12月に記念式典を行い、記念史の発刊も予定しております。その前の９月には、歯科医師会が要望しておりました、歯と口腔の健康づくり推進に関する県の条例が議会に上程され、可決される見通しになっております。

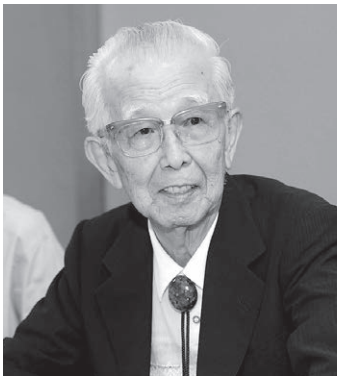
今回の歴代役員座談会では、入会されました当時の歯科医師会の様子や理事としての苦労話を伺い、最後に若い歯科医師会員に一言お言葉をいただきたいと思います。よろしくお願い致します。

司会（中道）　今回テーマを「これまでの100年、これからの100年」と致しまして、過去から現在に至る富山県歯科医師会の思い出について各自語っていただきたいと思っております。「順番は入会順ということで、水野先生、今村先生、坊先生、栗山先生、宮田先生の順にお願い致します。」最後に、これからの若い富山県歯科医師会の会員に言っておきたいこと等がありましたら、締めとしてお願いしたいと思います。水野先生から入会された時の思い出話、先生が担当されました学術、社保担当理事、さらに副会長を歴任されたり、社会保険の指導のほうをやっていただいたのでその辺のことを、思い出される範囲でよろしいですからお願いしたいと思います。

水野　私の会員時代の経過から言うと、歯科医師会というのは学術団体であり親睦団体であるにもかかわらず色々トラブルがありました。高岡と富山、富山の内部だけでもトラブルがあったんですね。今は会長選挙は会員全部の選挙ですよね。過去の代議員による選挙というのは数が限られていますから、非常にトラブルの元だったと私は思うんです。そういうことのないように、あくまで親睦団体ということで、会長というものを決めていかれた方がいいと思いますね。

社保担当しておりました頃だったと思うんですけど、今も金パラジウム、金の値段が高騰してみたり、パラジウムの値段が高騰してみたりして、材料費が逆さやになっておる時もある様ですけども、過去にもそういう時代があったんです。その時に、日歯は30％ぐらいの差額徴収をしてもよろしいという指令を出したんです。そういう時代がありましたね。それを逆手にとって30％のものを50％にも、あるいはもっとひどいのもあったのかもわかりませんけど。そういう差額徴収をしたために、世間から非難がありました。

その頃から新聞等に、歯ブラシだとかハミガキの広告がでて、大衆に口腔衛生思想というのがだいぶ浸透してきた。そうするとやっ


水野誓夫（元副会長）

ぱり歯も大事なものだということで皆さんが歯の治療を受けられることになる。それに対して供給する歯科医師の数が今とは逆に数少なかったということで、「３時間待ちの３分診療」。あるいはあんまり差額徴収をするものだから、悪徳歯科医とかと言われる時期がありましたね。そういう過去の暗い時期が。

そういうふうにマスコミで「３時間待ちの３分診療」と叩かれた時期が、歯科界の絶頂期と言ったらおかしいけど、今はもう供給が需要を上回って逆になってますからね。歯科医師も大変な時代になってきました。あの頃歯科医が少なかったものだから、歯科の学校を建設するということが非常に各地で盛んになった。次々と歯科の大学ができてきたということが、今日の歯科医の過剰ということに繋がっているんだろうと思うんです。

後で私が会を離れて国家公務員になった時に、厚生省に、なんで歯科の大学をあんなにたくさん認めるのかと聞いたら、厚生省はそれは文部省の問題で厚生省は関知せんと。文部省が学校を建てたんだと。文部省の人に聞いたら、それはあんた方の責任だと。というのは、文部省は歯科の大学を作るのには、敷地はここにあります、学校はこういうふうに建てます、教授はこれだけ用意しますというふうにして持ってこられると、許可せざるを得んがだと。それで許可しとるんだと。持って来るあんた方のほうが悪いのだと。

だいたい富山ででも歯科の大学を作るという話があった時期があるんですね。出来なくて幸いだったと現在は思うんですけど。なにしろ同業者の子息を簡単に歯科大学に入れるがために、同業の先輩が各地に歯科大学を作ったということが、現在の歯科医師数の過剰の原因だと思うわけですよね。

司会　保険医の総辞退というのがありましたが。

水野　深山会長の時ね、そういうことがありました。それはさっき言った差額徴収の前だと思いますね。医科が総辞退に突っ込んだんです。歯科も総辞退に突入する時に各会員から辞退届を取りまとめました。けれども、取りまとめた数を確認している時点で医科が総辞退を辞めたんです。そしたら歯科も取り止めになったんです。

司会　次、今村先生、よろしいですか。昭和28年に入会されてますが、何か思い出ありますか。

今村　ほんとは富山へまったく帰る気がなかった訳なんですけど、無理矢理連れ戻されました。帰ってみたら、家中、全部国税庁の差し押さえが貼ってあったんです。うちの親父は会長をやると全部放り出して会の事しかやらん。で、まったく食うや食わずだったみたいです。そんな状態でうちがガタガタになっておったんです。しょうがないから私がやるしかないなということで継いだんです。

今村勝彦（元副会長）

坊　明男（元副会長）

会の方はその時分に呉東と呉西という争いを、いつも聞いてました。呉東で会長をとると呉西の先生方が会費を払わん訳です。呉西でやると富山の先生方が今度は払わん訳。あきれ返ってその頃私が会をいっぺん辞めたんですよね。結局再入会の時は、今までの会費を全部納めたんです。他の先生方はそれはしない、私だけ。

その時分の歯科医師会は、いわゆるアカデミックなものは一つもない訳で、私が卒業して帰って来て3/4冠（スリークウォータークラウン）を作って入れたとたんに、ブーブーですよ。卒業したてのペーペーがあんなの作れる訳ないとね。その後、私は伝達麻酔をうって、アマルガムを４本いっぺんに詰めたこともありました。それをある技官の先生から過剰診療でないかと言われた。日本国民全員が虫歯にかかっていると言われた時代、少しでも早く処置するために伝麻をうってアマルガムを詰めてなんで悪いんやと言いました。そしたら、ＣＣを入れてストッピングするんですと。そんな馬鹿な話はない。そういう時代だったんです。

司会　坊先生、昭和30年に入会された頃の思い出は何かありますか。

坊　　ほとんど忘れてしまっとるんですが、入会したのは30年ですね。１年ほど東京の先輩の家で過ごして、義歯の研磨ばっかりやらされておって、つまらんから帰ってきた訳です。うちは百姓だったんです。たまたま同校下で、私の親父と同級生の内科医が一人いて、その人に、「うちの息子が東京へ行きたいと言うとるがだけど、うまいとこないかい」と聞いたら、「医者よりも歯医者の方がいいぞ。医者ちゃ朝早くから晩でも叩き起こされるぞ。歯医者なら来る人を待っとるんだから、歯医者が一番いい」と言われたそうです。

そしたらうちの親父が、歯科大学なら行ってもいいと。そう言われて、日大の歯学部に入ったんです。入ったけど、まずモデリングから始まって何のことやら全然わからん訳です。ちんぷんかんぷんわからん大学生活。どうやらこうやら卒業はしたんだけど、どうにもならんし東京で１年ほど遊んでおった。そしたら親父が「帰ってきたらどうや」と。帰ってきたんですが、歯科医師会の事は全然知らん訳です。先輩もあったけど親しい人もおらんし、お医者さんをしている先輩の先生が「あんちゃん、どこか歯医者の団体へ入らんといかんがやないがか」と言われて、その当時は車もないし、氷見から富山まで、１日がかりで探して聞いたら、どこか常磐町にあってね。どうやらこうやら着いて、ここやと言われて見たら、なんか山小屋みたい。吉川という女事務員の方がいらっしゃったけど、あの人やったと思う。それで歯科医師会に入ったんです。

歯科医師会たるものなんやら全然わからん。５年、10年そこにおるうちに、前の藤井会長が来て、「お前、執行部に入らんか」と。執行部ちゃ何をするところかわからんのに、「ちょっこり顔出せま」ということで歯科医師会に顔を出したのが最初。40になったかならん位じゃないかな。昭和45年ぐらいですかね。会長は大和でやっておられた阿部清一さんという方です。ところが先ほど水野さんが言われたように、その頃は本当に富山県歯科医師会というのは明けても暮れても喧嘩でした。

栗山　昔の歯科医師会なんてね、酒をよく飲んどったもんですよ。深山先生といわず、中島先生といわず。すごい酒飲んでた。今村先生は飲めんかった。

司会　栗山先生、乾杯の音頭をとってもらって、会の思い出をお願いします。

栗山　先生方、今日はほんとに暑い中、御苦労様です。先生方の話、あるだけ全部しゃべってたら明日になってしまうわね。私の大先輩ばっかり。皆さん本当にお元気でご活躍いただきますように、乾杯！

私ね、富山に来たのが小学校４年の時だったんですよ。小学校を５回代わりましたからね。神楽坂の愛日小学校、勝新太郎なんかその頃にいました。芸者屋の息子でね。

司会　栗山先生のお父さんは昭和32年から会

栗山豊実（前会長）

長をやっておられますね。

栗山　うちの親父はね、銀座の４丁目に和光があるでしょ、その隣の教文館ビルにいたんです。そこで開業してたんですが、２階に日本医師会長の武見太郎さんがいた。武見太郎さんの診療室はすごいんだ。賽銭箱が置いてあった。保険診療なんか全然ない訳ですから、「好きなだけ入れてください」と。

うちの親父が、一回だけ、これはもう銀座をやめなきゃならんと決めた。４トンぐらいの爆弾が教文館ビルの便所のところに落ちたんです。その時の音は腰が抜けた、本当に。その時にもう疎開しなきゃならんと思った。早くさっさとしとかなきゃならんかったのにできなかった。銀座の中に医者がもういなくなったので、疎開しちゃならんということになった。医者の端くれでも何でもいいから、そういうものがいないと困るからと。親父は残されたんだけれど、すぐさまその後終戦。今でも銀座の和光の建物なんて昔のままです。

坊　　栗山先生のお父さんは標準語なんですよ、スマートにしゃべられた。

司会　最後に宮田先生、歯科医師会の思い出をお話し願いますか。

宮田　昭和42年に富山に帰ってきて、２～３年、なんとか勉強するという雰囲気になった時に、三二会というスタディ・グループがあった。その三二会に入れて欲しいと思った。そ

宮田靖雄（元副会長）

安田　篤（副会長）

したらね、さっきの話じゃないけど、いわゆる西と東の喧嘩の真最中。「宮田入れて大丈夫か」と、そんなことまで言われてね。中央病院の本告先生の下で勉強した。そういう歴史があるんです。しかし僕は、歯科医師会は、今現在の歯科医師会でいいと思うんですよ。これがみんな会員のためだと思うんです。

今村　三二会を作ったら、あいつら秘密結社を作ったと言われて大変だった。

司会　藤井弘先生と皆さんいろんな関わりがあると思うんですけど。藤井先生というのは結構長く会長をやられましたけど、何か藤井弘先生の思い出とかありますか。

栗山　藤井会長はほんとは嫌いだったのよ。私が富山市歯科医師会の会長を辞めたら藤井さんが電話を掛けてこられた。「あんた何もしとらんがか」と。「あんた、遊んどるがなら県の歯科医師会に来られんか」と言われて平成６年４月から副会長になった。あの時から副会長は３人になった。

安田　自分が学術担当理事になってしばらくしてから藤井会長が「ハワイ行くぞー」と。

栗山　ハワイ行きましたよ。

安田　２回行きましたね。平成10年にも。

栗山　藤井先生ね、ハワイ好きだったんですよ。

山﨑　あの時の積立て、結構高かったけど良かったですね。

安田　和食の店でカツ丼食べて、すごく美味かったですよね。

栗山　そうそう。

司会　栗山先生は８年間会長をやられましたけど、会長職っていうのは結構大変だと思うんですけど。

栗山　皆さんに助けていただいてやったんですよ。ただね、今でも坊先生や皆さんにお世話になっていますけど、やっぱり一番大事なことは謙虚になってやらなきゃならんということはありますね。自分の意見は意見として。だから、気に入らなかったら相手と喧嘩するつもりでもかまわんと思いますよ。八方美人みたいなことになっている必要はない。ただ自分が悪いと思ったら引かなきゃならん。引き抜けが悪いと人に迷惑かけますからね。それだけは気を付けなければならんと、私は今でも思ってますけど。私は、怒るとほんとに怒るからね。だけどあんまり喧嘩なんかするもんじゃないですよ。後味悪いもの。

山﨑　栗山会長からの話がでたので補足させてもらいます。栗山会長の時、まず学校歯科医会との合併問題があった。見ててハラハラしたんですが、ある宴会場で栗山会長が学歯会の役員に県歯との合併が進まないことに怒ったことがあった。それでも学歯会の方はなかなか合併についてまとまらず、最後に学歯会会長の成瀬先生が学歯会総会に合併問題を諮られて一緒になれたけれど当時は大変で

した。今のように一緒にやっているのも栗山会長のお陰だと思います。

栗山　そんなことはない。私、あの頃、中島清則さん、それから黒木さん、中島忠一さん、そういう先生方と親しくお付き合いしてたんです。だから、あの人らのお陰ですね。あの方々が後押ししてくれるから、結構きついことを言ったりしたんです。

坊　　学校歯科医会が歯科医師会に入ったのは、栗山先生の功績大。私は最初広報をやってた。広報ってのは広報調査部。そしたらね、調査部の仕事がものすごく多くなった。そこで藤井会長に広報と調査を分けてくれと言ったら、「調査は誰がやるがや」と言われるので「わしがやる」と。調査というのは会の運営を基本的なものにするために調査する訳ですよ。そこで学校歯科医の報酬はいろいろ違うんで、それを調べて統一してもらうようにしようかとしたら、学歯会の会長が「なんでそんなもん調査するがか。そんなもん学校歯科医会でやるから、お前らが手を出すことはない」と言われて困った事がありました。

吉田会長､先ほど水野先生が言われたけど、会長選挙を全員選挙にしたことが、本当に今の富山県歯科医師会が平穏無事にいってる基礎を作った。会長選挙がなくなったっていうのはいいことなんですよ。

歯科医師会館で想い出されるのは、会長全員選挙による初代会長は、故永森収先生で、会自体も平穏となり、診療報酬も右肩上がりとなり、入会する会員も増加してきた。

当時会員数は250名位、然し将来は500名の会員が一堂で保険講習会などのできる入れものが欲しいという空気が執行部内で漲り、その中心となったのは、故藤井弘先生だった。

建設用地買収や資金面などで、代議員会や一般会員からは反対の声もあったが、舟橋南町から現在の五福の地で、どうしても新会館を建築したいと言う藤井先生の執念と熱意が会員から理解を得て現在の富山県歯科医師会館（昭和54年４月）が出来上がったのです。

栗山　私ね、学院の講義に行ったことがあるんですよ。中央病院の裏のあたり。こんなところで何の話をすればいいのかと思ったの。だけどやらなきゃあかん。舟橋南町の建物を処分しないでボォーとしてたら、現在の建物が建ったかどうかわかりませんよ。

会長　建設資金をどうするんだという時に、藤井会長が偉かったのは、やっぱりこれは全歯科医師会員が負担すべきであり、会のために年寄りが頑張ろうと言ったことです。

司会　水野先生、若い人に先輩の方から一言お願いします。

水野　今の歯科の業界は非常にきびしい時代が続いています。しかし、医療をやっているのです。人生長いので焦ったら駄目なんです。無理せず真面目にさえやっておればいいことはある。

坊　　水野先生、医療指導官をやられて大変でしたね。

水野　いや私は医療指導官というのは指導するのが第一と思っていましたので。指導は厳しく十分にやりました。返還金もありましたので精神的にも、経済的にも大変な思いをされた先生も数少なくないと思います。

又在任中、一人の先生を保険医停止にしま

した。苦渋の決断でした。

私はね、始めからなりたくて国家公務員になった訳じゃない。ある時たまたま保険課長が私と藤井会長を呼んで、「誰か技官をやってくれるもんがおらんがかと。おらんかったら、よそから来るかもわからんぞ」と強く言われ、そして、毎日じゃなくても、つきっきりで、ほんとの技官にならんでもいいから来てくれんかということで、しゃあない私が行くかということになった。息子もおったし。

だけど向こうへ行ってみると、向こうの立場と会の副会長の立場と全然違う。相反するものが多々あったから、これはちょっとまずいと。要するにやくざもんと同じで二足のわらじは履けんと。一足にした方がいいと決め、一年後に厚生省へ行って、厚生大臣から任命書をもらった、国家公務員の指導医療官の最初です。

山﨑　何年技官やっておられました？

水野　技官は４年。私が任官して指導医療官になった年に、たまたま医療官は65歳が定年になった。それで３年間だけ延長しますということに決まった。だけど私は65で入っとる。５月生まれなもんだから、４月が年度がわりで、後任が決まらぬ儘４年後はまるで日雇い。富山県歯科医師会のためにどんだけの損したかと思う。本当にね、息子は、「あんたがあんなことしとるからえらい損した」と。１年伸ばしで結局私は10年位でした。

点数が高いだけで指導をやるというのはちょっとおかしい。患者が少なければ歯周病も手掛けるだろうし、あるいは一口腔一単位の診療ができる訳。患者さんの多いところは主訴だけの診療で平均点数が下がる。一口腔一単位で調べて、患者の為ここも悪いと言ってやれば点数も上がる。一件当たりの平均点数だけで指導をするというのは、本当は間違っていると思います。

山﨑安仁（副会長）

山﨑　だけどそれがわかる、若い技官が少ないんです。臨床をもっと考えてほしい。

水野　臨床を知らないで指導医療官になるなんて。

会長　自分の首が大事、法律を守らなきゃいけない。それから始まってるから駄目なんだ。

栗山　大学出てすぐ技官になると、給料も安いしね。

司会　次、今村先生から若い人に一言お願いします。

今村　今の若い先生方はもっと年金生活者、後期高齢の患者さんに思いやりを持ってほしいと思います。総義歯の難症例の患者さんにももっと気配りをお願いしたい。

司会　今の若い人たちは総入れ歯って下手ですよね。

今村　あまりうまくないと思います。

水野　おかしいね。大学出てきておって、総入れ歯が作れんとは。やっぱりそれは技工を勉強せな。

安田　自分で技工をする若い先生方は少ないと思う。

栗山　みんな外注に出す。

安田　昔は自分である程度はしたと思うけど。

司会　坊先生、若い人に一言お願いします。

坊　　若い先生には今まで通りやってもらえばいいと思う。歯科医師会のいろんな委員・役員もちろんそうですが、こういう時代ですからやりづらいと思う。だけどその役職にあ

る人は、会のためにひとつ、仲良くやっていただたくように、心してやっていただきたい。それだけです。最後に私は良き先輩と同僚に出会って県歯の一員であることに誇りをもっている。

司会　次、栗山先生、若い人に。

栗山　私も年寄りになったからね。こういう時代ですから生意気なことを言う気はないんです。やっぱり自分が健康でなかったら人の歯は治せませんよ。自分が健康であるということが大事。その上でそこそこの生活ができるように頑張っていかなきゃならん。自分の能力の範囲内で幸せにちゃんとしていければ私はそれでいいんじゃないかと。

司会　宮田先生、若い人に一言お願いします。

宮田　歯科の勉強も大事だけれど、他の勉強もやったほうが良い。自分たちの仲間だけでなく、他の業界の人達とも交わることによって自分の見識を広げていくことが重要ではないでしょうか。

司会　ありがとうございました。時間もきました。

会長　先輩諸氏にいろんな話を聞かせていただいてありがとうございます。やっぱり皆さん困難なことがありましたし、今の若い人にはわからないようなこともありますけども、私らのやらなきゃいけないことの一つとして、歯科医師会のいろんな流れをみんなに理解してもらって、これから先もっともっと富山の歯科医師会が良くなるようにしなければならないと思いますので、頑張ります。

寄稿

富山歯科衛生士学院開設の思い出

砺波市
桜木　正昭

富山県歯科医師会会立富山歯科衛生士学院は、昭和48（1973）年２月28日厚生省より歯科衛生士養成所として認可を受け、同年４月８日富山県歯科医師会館（富山市舟橋南町）講堂において、開校式を挙行した。４月10日富山市西長江220番地富山県立中央病院敷地内、富山歯科衛生士学院にて一期生22名の入学式が深山正之学院長により挙行された。本会会立技工士学院開設７年後、石川歯科衛生士学院に９年遅れ、北信越で４番目、全国の64養成所（48年６校）の仲間入りであった。

本県でも歯科衛生士の需要が増え、会員の強い要望により昭和47（1972）年４月23日の臨時代議員会にて歯科衛生士養成所設立準備委員会の設置が議決され、島信行、三崎正春、中島忠一、松田正男、山本壯一、飯田弘、千保利が委員に選ばれた。さらに、８月20日の臨時代議員会にて、満場一致で設置が議決（予算30万円）され、実行委員に島信行、飯田弘、松田正男、千保利、山本壯一、今村勝彦、三崎正春の７氏が承認され、正式に活動を開始した。短期間での議決の背景には、当時急増した小児齲蝕、歯科大学の増校、歯周病への対応、近県に養成校が少なく就業歯科衛生士が非常に少ない上に結婚離職等歯科衛生士の極度の不足の事情があった。５月７日の準備委員会にて委員長島信行、副委員長三崎正春が互選された。詳細については、本会会報25巻（通算65号）、27巻（66号）に記されている。

残念なことに当時関与された各先輩の先生方はほとんど鬼籍に入られ、現存する者は、桜木正昭と開校時の歯科衛生士喜多美知子（元学院衛生士課長）のみである。開設準備より開学、軌道に乗るまで努力、苦労された各委員、理事の表記録に残らなかったいくつかを記し、その労に報いたい。

代議員での承認を受けての委員長の最初の仕事は建設用地の選定であった。しかし、これが開設時の最大難関となった。当初富山県議会厚生委員会で県施設の貸与が採択されていたので、本会は県総合学院の一部を予定していた。しかし、県立中央病院および総合学院より断られ、不首尾に終わった。その後県側より、婦人相談所、元農業試験場、元県立保健婦専門学院等の提示があるも各所管課より全て断られた。本会としても不信感と焦燥感が強まり、48年４月の開学も危ぶまれる状態となり、舟橋の会館の改築併設も検討され出した。その間、深山会長、県議会議員であった永森収（次期会長）氏の大変な努力と本会の熱意により、県医務課より県立中央病院敷地内の元保健婦専門学院の一部を条件付きで貸与可の提示を受けた。貸与の条件は木造２階建てと、プレハブ建て構造家屋の用地の使

用、入卒業式等の行事使用の為の講堂の使用が短期間、という条件付きであった（近い将来総合学院建設が予定されていた)。

厚生省への設置申請

用地のめどが立ったので早速各準備に入った。８月20日第２回臨時代議員会にて経過報告後、満場一致で可決され設置予算600万円、実行委員に準備委員の７氏および増員も認められた。

代議員会の議決を得､直ちに準備に入った。

設置基準に準じ学則の作成、必要な機具機材の選定・購入、図書の整備、教育講師陣の選定・承諾、臨床実習施設の選定依頼、所属長の承認、学院建物の設計等、10月末申請目標に皆一生懸命であった。一方、会員の先生方には図書、機材の寄贈をお願いした。図書は500冊以上、80％は専門書、雑誌類は１年間分は一冊と計算され、厳しい条件があったが、本会技工士学院の図書利用可ということもあって641冊に達した。機材も最大難関のユニットも戦前のを含めかなりの申し出があり、良質な４台を設置し、コンプレッサーなど、他の機具機材もそこそこ集まり、必要数量も予算内で整えることが出来た。

講師陣も、本県では学位を有される方も多くスムーズに決定、臨床実習施設も、富山県立中央病院、富山市民病院、富山保健所、高岡市民病院、高岡農協病院（後の厚生連高岡病院）の５施設に決まり各施設長、指導歯科医師、衛生士の履歴書、承諾書も９月中に完了した。敷地建物も10月17日に、富山県知事より正式に富山市西長江220、旧富山県立保健婦専門学院の建物、宅地の借用許可が下りた。短期間、要請があれば返還の条件付き借用料は年間５万５千円であった。

その間、県歯、県厚生部、厚生省と申請書は何回か往復し10月25日厚生省へ正式に申請を行った。10月中旬には歯科衛生士の採用面接を本会会議室で山本壯一、桜木正昭が面接を行い、３名中喜多美知子（45年石川歯科衛生士学院卒)、中島（広田）美鈴（鶴見短大歯科衛生士養成所）を採用した。

私桜木は、当時学術委員会に所属していたが、深山会長、山本壯一の要請により出向の形で要員として開設準備に参加していた。

東京医科歯科大学付属衛生士学校は歯科衛生士育ての親とも言われる岡本清纓、榊原悠紀田郎両先生が育てられた学校で優秀な人材と豊富な教育カリキュラムを有していた。私が大学院生で在籍していた頃、口腔衛生学教室は衛生士の学院臨床教育も兼ねており、初代日本歯科衛生士会会長萩野谷、二代江島女史等多くの衛生士達との交友があった。その関係でわりあい衛生士業務、教育に情報があった。多分その関係から参画要請があったと思われた。

彼女達より得た幾多の情報、交情、特に、二代会長江島房江氏と本学院衛生士達との交情は学院の実務運営に利することが多かったと思う。

設立認可～開学へ

厚生省に申請と同時に学院の改築工事が始まり昭和48年１月15日に完成した。同日２名の歯科衛生士も勤務を始め本格的準備体制に入った。

１月29日厚生省より三井課長補佐（後の東京歯科大学教授）が来県し、設備、教課内容、講師陣等、詳細なる査閲があり、若干の指摘があったものの、ほぼ合格の内容であり一同ほっとしたことが思い出される。

学生募集は、会員、学校推薦など定員15名を越え、22名が受験し、２月22日に入試を行

い、初回につき甲乙選び難く全員の入学許可とした。２月28日付けで厚生省より、歯科衛生士養成所の指定を受け正式に学院として発足した。47年４月代議員会の議決より10カ月、平坦な道では無かった。３月に入り４月開校に向け実務的活動に入り、講師陣との打合せ、カリキュラムの検討、設備の点検試動を始めたが、いろいろ問題が多発した。なにぶん寄贈のユニット等は中古なるが故、電気系統、水道関係のトラブルが少なからず発生した。仮設プレハブ建物故の不十分な防寒設備、寒さによる水道の凍結･破裂等であった。

学院の建物は貸与を受けた木造２階建ての２階を講義室、１階を実習室と、続きのコンクリートの渡り廊下を整備し、上に教務室兼図書室、講師控え室、隣りに、臨床実習室（ユニット４台）をコンクリート上に設置、奥に便所のプレハブ建てであった。

プレハブであるが故に夏は暑く、冬は床もコンクリートで寒く、五福の会館へ移るまで生徒、講師、職員共に大変な思いであった。

開学時の役員は、学院長深山正之、副学院長島信行、総務中島忠一、経理永森尚之、学務山本壯一、実務桜木正昭、営繕清水周明の７名の理事で運営を担当した。前期は主として教室での講義・実習を中心に行い、後期は臨床講義および協力診療施設における臨床実習を行った。臨床実習に先立ち各施設には理事が分担し依頼と挨拶廻りを行い、問題の無きよう努力したが、何しろ初めてのこと故、三者間で事がスムーズに運ばないことも多々あり、教務、実務が走り廻ることも多かった。最初の２年間はトラブルも多かったが、皆無我夢中でがんばってくれた。

教育面では講師間で出身校による専門用語、器具の名称、保存・補綴における治療内容等、会員の診療室に勤務している生徒間にとまどいがみられた（琺瑯質〈エナメル質〉、白亞質〈セメント質〉、インレー〈オンレー〉等々）。３期生、昭和50年より本会での役員交代により学院長に永森収が就任し、山本壯一、清水周明、永森尚之理事に代わり佐渡哲雄、北山善之進、松田正男が新理事となり、担当も副学院長島信行、総務中島忠一、経理桜木正昭、学務佐渡哲雄、実務北山善之進、営繕松田正男と代わり、昭和52年末、松田正男の死去により川口義治が交代したが他は変らず、学院の運営も軌道に乗った。学院の存在と歯科衛生士という職業が県内で認められたのか、２期生より応募者が急増し49年合格者22名（43名中）、50年25名（51名中）、51年24名（62名中）、52年25名（65名中）、53年31名（54名中）に達し、合格者数も増したが、県医務課より毎年御小言を頂戴した。会員推薦の受験生も多く、合格判定が難航し長時間に及ぶことも多く沢山のお小言をいただいた。当世とは今昔の感であった。学院の生徒数の増員、県立中央病院よりの立ち退き要請などもあり、本会での新会館の建設、歯科総合学院へと発展した。

新会館での歯科衛生士科の設計には、当時の役員、教務、モリタ等各氏が総力を結集し最善の設備を目指した。完成時、藤井会長が衛生士科の設計設備は日本一いや東洋一であると称されたことは、永年歯科衛生士の養成、教育に情熱を持って携わってきたものの一人として望外の喜びであり誇りでもある。

稿を終えるにあたり情報等記憶間違を訂正して下さった喜多美知子氏に謝意を表する。

近北学会と正倉院展

南砺市
川口　義治

富山県歯科医師会は平成25年を以て目出度く100周年を迎える。先人の言をまつまでもなく、その道のりは決して平坦なものでなく、歴代会長をはじめ先輩諸先生方のご努力によって無事運営されてきたものである。その志が引き継がれ150周年、200周年を迎えられることを祈願しながら、時の流れのひとときを共にして垣間見た事柄を記してみる。

日本歯科医師会は、会務運営の円滑を目的として全国を７地区に分けている。富山県は、大阪、京都府他７県とともに近畿北陸地区に所属する。かねてより歯科医師会は医道の高揚、歯科医学の進歩発達等の目的で学術大会を開催しているが、本地区において開催される最大のものは「近畿北陸地区歯科医学大会」である。この大会（近北学会）も、平成24（2012）年神戸開催にて64回を重ねる。開催は、大阪府、京都府、兵庫県がほぼ６年に１回、ほかの６県は12年に１回当番県として県（府）歯会長が大会会長を務める。平成25（2013）年は富山県が当番県になっている。

過去に本県において開催されたこの大会の履歴であるが、初回は第14回（昭和36年）岡田信次大会長（会場　富山市公会堂）、この後第28回（昭和50年）永森収大会長（富山県民会館）、第41回（平成元年）藤井弘大会長（富山県民会館）、第53回（平成13年）栗山豊実大会長（富山国際会議場）となっている。筆者の記憶にあるものは第28回以降であり特に41回、53回は僅かながら運営にかかわった。とはいってもささやかに大会誌の校正とか、大会セレモニーの準備などの下働きであった。大会誌とは学会の日程、大会役員、会場案内等を記載した冊子である。第45回（福井）まではＢ５判であったが、46回（兵庫）からはＡ４判に変わり厚さも大幅に増加した。原因は特別講演の抄録に加えて、紙上研究発表と題して会員投稿を掲載したこと、業者の広告を大量に募ったこと等にある。おかげで最盛期には紙上発表だけで200頁を超えたこともある。しかしながら近年は本来の大会誌のあり方に戻り、会場に持参可能な厚さのものになってきていることを歓迎する。

ところで近北学会と同様、平成24（2012）年に第64回を重ねたものに「正倉院展」がある。

正倉とは元来「正税を収める倉」の意で律令時代に各地から上納されたものを保管するため、役所に設けられたものであった。また大寺にも同様に存在しこれを正倉といい、この一画を塀で囲ったものを正倉院といった。南都七大寺にそれぞれ正倉院があったがそのうちの東大寺のものだけが残り、東大寺大仏殿北西に所在する宝庫だけが「正倉院」と固有名詞化している。正倉院宝物は天平勝宝８（756）年、光明皇后が聖武天皇の七七忌に、

天皇遺愛の品約650点と約60種の薬物を東大寺毘盧遮那仏（大仏）に奉献されたことに始まる。その後も３度にわたりゆかりの品を奉献された。

これらは通常は非公開であったが、戦前は奈良博覧会の一環として毎年大仏殿回廊で一部が一般に公開されていた。大規模な一般公開は昭和15（1940）年11月、皇紀2600年記念として東京帝室博物館での正倉院御物特別展である（140点）。戦後は昭和21（1946）年宝物の避難先、奈良国立博物館で「正倉院御物特別拝観」（第１回）として開催された。以降秋の２カ月の曝涼にあわせて開催されるようになった。現在の「正倉院展」の名称が定着するのは昭和27（1952）年頃からのようである。毎年多数の見学者を集めているが、特に伸びたのは平成13（2001）年以降、主催機関の奈良国立博物館の独立行政法人化を契機に、外部から協力を受ける開催方式となり、最初の４年間は朝日新聞社が、次いで読売新聞社（第57回から）がその役割を担い多彩で大規模なメディア展開を実行、見学者急増となってきている。

筆者は昭和57年（第35回）に初めて訪れたらしい。というのは同時期に第35回近北学会も奈良市史跡文化センターで開催されており、大会オープニングセレモニーの春日大社舞楽「蘭陵王」が鮮烈に印象に残っているからである。その後時折見学しているが、確かにここ数年の混みぐあいを実感している。期間中は特定時間に別室で主だった展示品の解説もあり、以前はボランティアらしき方が真剣に説明されていたが、昨年久しぶりに受講したところ学芸員らしき方が立て板に水のお話でやや興をそがれた。

正倉院展の魅力に「図録」がある。その年の主な展示物を解説した小冊子である。150頁余りだが良質紙のためかなり重い。しかし内容の豊富さは自宅に帰っての楽しみとなっている。筆者も何冊か購入してきている。

奈良県も本県同様近北学会の開催地であるが、この学会が昭和23（1948）年「日本歯科医師会学術会議　近畿地区歯科医学大会」として発足したため、第５回大会を昭和27（1952）年奈良県公会堂にて開催している。その後昭和28（1953）年に現在の名称となり、第20回（昭和42年）は天理市天理市民会館、第35回は奈良史跡文化センター（前述）、第47回（平成７年）は奈良県新公会堂、第59回（平成19年）は、なら100年会館において開催している。筆者の参加は第35回からで、時の流れというべきか開催場所の変遷は富山同様である。富山市公会堂は現存せず、奈良史跡文化センターも元の地にはない。他の県においても同じことが言える。ちなみに大会と正倉院展が同時期になったのは第35回のみであった。

これまで何回か大会に参加してきているが、オープニングセレモニーについては開催県の裁量にまかされている。それにしても春日舞楽は印象に残っている。

平成24（2012）年、晩秋から初冬にかけて富山県埋蔵文化財センターにて特別展が開催された。「寧楽と越　大伴家持がみた万葉の越」である。家持卿の越中赴任と奈良東大寺大仏建立が同時期であったことは、初めて知った。歳をとっても知らないことの多さに不勉強を恥じ入る次第であるとともに新たな勉学に励まんとする意欲も沸沸とわいてくる。

創立100周年にあたって

高岡市
林　　俊郎

富山県歯科医師会が早いもので100周年を迎えた。心から敬意と感謝を申し上げたい。しかし、あくまでも一区切りであり、節目であって更なる発展と進化を続けなければならない宿命がある。大正３年に創設され、当時の記録はほとんど無いが、大正５年には県内で会員が20数名であったと思われ、創生期としての当時のご苦労が偲ばれる。現在会員数は約540名だが全国の中では規模は小さいようだ。私も40年以上お世話になってきた。歯科医師会は勿論だが、大学、諸先輩、同窓会、歯科界の諸先生方に改めて感謝を申し上げたい。

私が大学を卒業したころは、国立大学歯学部、私立歯科大学を含めても９大学であった。現在は29大学で、毎年約3,000人が卒業する。急速に大学を増設した理由は定かではないが、当時は歯科医師は約25,000人程と記憶している。現在約89,000人程である。先輩の先生方からお聞きした話だが、60年程前では一部の保険制度は有ったものの、大部分が毎日の自由診療収入で足りていたと聞き、皆保険制度が導入されて、むしろ厳しくなったと伺った。当時を知る由もないが、現在の我々には想像もつかない。国民皆保険制度が導入されてから既に50年が経っている。その間、社会の構造変化に伴い、経済や社会保障制度も著しく変遷を遂げた。歯科医療も著しく進化し、技術的にも質的にも長足の発展を遂げた。また、国民のニーズも多様化し患者中心の選択肢が大幅に増加した。これらの諸条件が皆保険制度下では歯科医療を複雑にし混乱させているようだ。

1970年代ごろでは診療報酬改定率が二桁伸びたが、1980年代では経済成長率に合わせ数パーセント、しかし、1986年には薬価差益財源充当の理由で医科に主に配分され、歯科との格差がさらに拡大していった。そして、バブル崩壊後マイナス成長となり、小泉内閣では「構造改革なくして成長なし」と称して診療報酬の抑制政策を取ってきた事は記憶に新しい。最近では、日歯の努力で改善されたというものの総医療費に占める歯科の割合は約７％である。かつては10％近くあった。望ましい歯科医療費として３兆5,000億円とも４兆円とも試算していると聞くが、現状では到底不可能である。

最近世界に冠たる国民皆保険制度が危機に陥っている。毎年１兆円以上伸びる医療費の財源確保にともない、混合診療の解禁、TPP参加の是非など社会保障制度を取り巻く環境が大変混乱をきたしている。しかし、現行の保険制度の基では混合診療もTPP参加も絶対に馴染まないのである。あるとすれば、政治判断しかないであろう。一部の歯科医からは混合診療有りきの声も聞かれるが、それが

100年後の歯科界にどのような影響を与えているか、これからの歯科界の判断に注目したい。

この100年の経緯を振り返ると、歯科診療として、曲折があったもののまがりなりにも医療環境を維持していただいたことは先人の努力のおかげである。しかしながら、医療を取り巻く環境が大きく変わってきた。医療の技術的、質的な変化は勿論のことだが、社会のニーズによる変革に対応できるよう組織の改革が早急に求められそうである。歯科医師需要問題を論じているどころではない。国民は違和感を感じ、歯科医にとってマイナスイメージを与えている。歯科医師数は先進国と比較しても、国民の対比率は決して高くはない。それよりも、歯科医師という専門職の裁量権が守られ、さまざまな分野で活躍できる環境整備が大切である。そして将来、食育や保健活動が進み、「8020」も現実となり、一般歯科医と専門歯科医と細分化される可能性が高いとみている。臓器移植から人工材料の組織への応用、さらにiPS細胞、ES細胞による再生医療へと進化を続け、今後さらに加速するであろう。おそらく50～60年後には、実用化される。診療所も現在の形態とは異なるだろう。DNA遺伝子による歯科医療も行われる。そうすれば、歯科界は選択肢が増し歯科医が不足し、環境も大きく様変わりする。

日本歯科医師会や日本歯科医学会も現状のままでは機能しなくなる。

私はかねがね充分な医学教育の上に歯科教育が存在すると思っている。医療の観点から見て、歯科医療は特殊である。金属や高分子化学物質の人工加工物を口腔内に適応して、人間が生きていく上で最も基本的な咀嚼という機能を回復し、生きる力を獲得する歯科医療は実に特異的である。これからの長寿社会において、在宅医療や周術期の口腔管理など日本が抱える医療の構造変化には特に歯科医療が欠かせない。

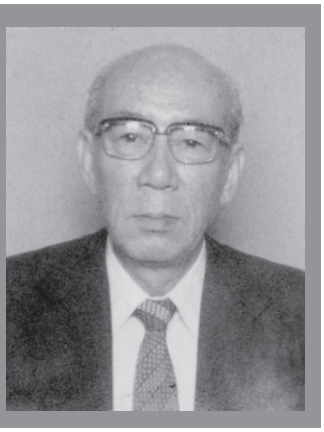
まず、全身管理ができる歯科医師で有りたい。30年近くの訪問診療、40年近くの歯科インプラント治療を手掛けて患者の持っている生命のポテンシャルを知ることが如何に大切であるかを知らされた。加齢にともない各器官の機能低下や障害、各臓器の委縮、変性、退化など人間の宿命を如何にして各器官や臓器の機能を回復させ、維持し、生きる力を与えるかが医療の根幹である。アンチエイジングのために歯科医療はその担い手として貢献できる筈である。

私が受けた大学教育と現在とは比べものにならないが、教育の面でも大編成があると思う。将来を見据えた教育と、意欲と使命感をもった歯科医師がたくさん育って欲しい。

歯科医師会は県民のニーズに対応できる学術団体である。幸い歯科口腔保健県条例が今年度に制定されるという。県民に歯科医師会の存在が示されたことになる。県民の為に、幅広い保健、福祉において積極的に参加し貢献する機会が増してくる。そこには歯科医師における医療の高い知識、見識が求められる。私は歯科医師の環境整備が法的に整えられれば、選択肢もたくさんあり、将来色々な分野で活躍できると確信している。そして、歯科医師会会員として、歯科医師専門職として、誇りを持てるはずである。そのためには、特に若い会員のさらなる意識改革を期待したい。

温故知新　会員インタビュー

中島忠一先生に聴く



中島　忠一
日本大学専門部歯科　昭和19年卒業
中島歯科医院　昭和24年開業（婦負郡）

『富山県歯科医師会報 第48巻4号（通算173号）』（平成６年7月発行）より抜粋

司会　まず、開業されたのは、いつ頃ですか。

中島　最初は戦前に呉羽の峠茶屋近辺で開業しまして、兵隊（軍医学校）から帰ってきてから今の所で開業しております。

昭和16年12月８日、この日が太平洋戦争勃発の日で、この日から日本の悲劇が始まったわけであります。

当時は歯科大学などというハイカラな学校は日本にはなく、専門学校だけでした。東京歯科、日本歯科、大阪歯科、九州歯科などの歯科医学専門学校、高等歯科医学校（現在の東京医科歯科大学）、日本大学専門部歯科ぐらいだったと思います。

戦争たけなわの昭和18年頃、いままで４年制であった歯科医学専門学校が３年半で繰り上げ卒業となりました。同時に国民皆保険ならぬ、国民皆兵ということで兵役の義務が待ち受けていて、男性は皆軍隊に引張られたわけで、国家試験が省略されて卒業試験がその代わりとなりました。

「お前海軍の軍医学校の試験を受けてみないか」と友達から勧められ、ツレション式に受験したところ、奇跡的に合格通知が来て驚きました。３年半の未熟児でありましたが、いずこも同じでありましたので…。

海軍軍医学校では一般医科が800名ほど、歯科が85名ほど、薬剤科が45名で合計930名余りの者が在籍していました。現在では随分減りましたが、他の歯科大の教授連中とも寝食を共にしたということで、同じ釜の飯同士なつかしさでご厚誼をいただいております。

司会　軍医時代のことをもう少し話してください。

中島　軍事訓練と治療の２本立てでした。訓練は普通どおり行いました。また、歯の病気は今でいう歯周疾患が多かったです。歯科室には、治療台が６台あり、衛生士はおらず、看護婦を使っていました。また当時、技工士という資格はなく、技工は私と友人でやっていました。メロットメタルを溶かしてやる圧印冠です。圧印床も少しやりました。

司会　兵隊（軍医学校）から戻られた頃の歯科医師会の様子はどんな風でしたか。

中島　歯科医院は県下で70軒ほどでした。そして最初は官選会長でした。それから会員による選挙が始まり、金森保芳、今村彦治、浦野與四郎先生と続いたわけです。

当時は請求書（レセプト）もガリ板で刷った紙に氏名と歯式、治療内容を書いて、合計して出したものです。

昭和22・23年頃は、保険証も一部の人しか持っておらず、国民皆保険ではありませんでした。開業して間もなく、厚生省の水野技官の集団指導があり、病名などを正確に書くよ

うにとの話があったりして、のんびりした保険制度でありました。

当時は痛み止めに特効薬などはありませんので、開放にした後CCにコカインを少し付けて痛み止めに使用しました。これが良く効きました。県へ麻薬の使用量を提出したものです。

司会　次に富山歯科総合学院のことについてお話してください。

中島　確か昭和23年に歯科衛生士法ができたと思います。

うちの歯科衛生士は、今年20期生であり、歯科技工士科はそれより７年早くできたと思います。歯科技工士の特例の期限が切れて、歯科技工士の必要があったからです。

当初は中卒以上の学歴で受験資格が与えられて修業年限は３年制でありました。

第１回生は17名で既に技工業務を各医院で行っている者が殆どでありました。

初代学長永森収先生の計らいで講義と共に行われた実習は昼食弁当なしで午前中に終了、早く各医院へ帰って技工室の手伝いをしなさいというぐあいで分刻みのスケジュールでありました。

その後法改正により、受験資格は高卒以上となり、修業年限は２年制となったのであります。

当時小生はパーシャルデンチャーを担当しておりました。フルデンチャーは杉江玄己先生でした。多分生徒が付けたニックネームだと思いますが、２人のヘアスタイルから担当科目が決った形となり、会員の中でも定着していたようです。杉江先生のことをフルデンチャー、私のことをパーシャルデンチャーと呼ぶようになってしまいました。両名共軍隊から帰った時点では髪を七三に分けての好青年（？）でありました。かたや陸軍少尉、こちらは海軍少尉ということで陸海両軍の共同作戦で、有床義歯をやっていたこととなり、試験問題も相談してやっておりました。

深山正之先生が会長の時代に、お隣の石川県にならって歯科衛生士の養成問題がもちあがり、県立中央病院の一角に木造の空き屋がありましたのを借り受け、富山歯科衛生士学院ができ上がりました。

歯科技工士学院より数年遅れて深山会長先生時代に役員人事の異動があり、「歯科衛生士学院のほうへ行きなさい」ということになりました。最初の担当は栄養学ということで“アミノ酸”の話に明け暮れておりました。後に臨床概論の担当ということになりました。

歯科衛生士学院においては、松田正男先生が異常なまでに情熱をもっておられたことをご報告しておきます。現在の歯科衛生士科喜多美知子さんは創設当初からの専任教官です。

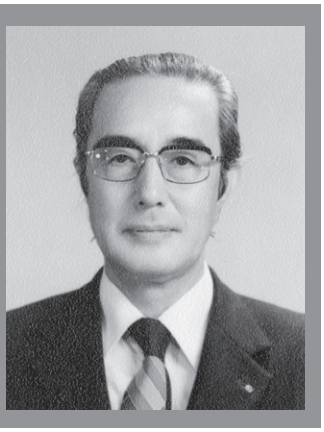
昭和54年、永森収県歯会長時代に現在の五福会館が建設され、歯科技工士科、歯科衛生士科が一体となって富山歯科総合学院となったわけであり、この時まで舟橋南の会館で頑張っていたことと相成ります。

司会　舟橋の会館についてほかに何かありませんか。

中島　昭和38年頃と記憶しておりますが、川口義門先生が会長をされた時代に木造の会館を取り壊し、鉄筋３階建て、延床350坪程度の会館が建設され、会員一同歓喜致しておりました。その後間もなく、歯科技工士養成という問題がもちあがり学院長に永森収先生が就任され、厚生省の認可を得て富山歯科技工士学院ができ上がりました。２階の集団指導室だったと思いますが、研修室を改装して、生徒募集が行われました。この時は東京で厚生省などに日参された高田寅四郎先生が大活躍でございました。

司会　本日は、貴重なお話をお聞かせいただきありがとうございました。

熊木甚朔先生に聴く



熊木　甚朔
日本大学専門部歯科　昭和19年卒業
熊木歯科医院　昭和22年開業（高岡市）

『富山県歯科医師会報 第48巻5号（通算174号）』（平成6年9月発行）より抜粋

司会　まず開業されたのはいつ頃ですか。

熊木　昭和22年に高岡市木町で開業しました。現在のところには、私ひとりでさえ狭い診療室だったのですが、11年前に息子が帰ってきたのを機に移転しました。開業当時は、８号線と面しているとはいえ建物はポツンポツンとしかありませんでした。

戦時中は配置の統制がありましたが、私が開業する時も、まだその名残がございました。本来は免許証をもっている者なら所轄の役所に届け出れば、いつ、どこで診療所を開設してもよいはずです。ところが私の場合、保健所は「県にいって許可だけもらってきてください」と理解を示してくれたのですが、保険課からはなかなか認可が得られず苦労しました。

司会　戦後の混乱期であったから、そういう状態だったのではないですか。

熊木　広く散在すれば地域社会の人に便利という役所の考えだったのでしょうかね。

司会　しかしその当時、歯科医院はそんなに多くはなかったのではないですか。

熊木　私が高岡では24番目くらいだったと記憶しています。

司会　逆に今のほうがよほどゆるやかですね。

熊木　さきほど言いましたように、私は戦時体制の名残の最後だったように思います。境目の人生とでもいいましょうか。ですから私より後に開業した先生は、現在の様式で開業できたようです。

司会　拝見しますと随分お元気そうですが。

熊木　30年ほど前に酔っぱらい運転で友人と車ごと13メートル下の崖下に落ち、10ヵ月ほど全身打撲で入院しました。骨折でもしていれば手術でもしたでしょうが、打撲だけだったので蘇生してくるのを待つだけで、痛ければ鎮痛薬をくれる。腫れていれば湿布をするぐらいのもので、毎日寝かされていました。

司会　10ヵ月といえばかなりの重傷ですね。

熊木　当時は毎晩出かけていましたので、近所では死んだという噂が流れたそうです。飲酒運転も今ほど厳しくなく、酩酊でない限りは警官もおおらかに対処してくれました。のんびりとしたよい時代でした。

司会　苦い想い出がありましたらお聞かせください。

熊木　今は藤井会長がうまくやっていますが、ここまでくるには富山県歯科医師会は戦国時代といってもいいぐらいでした。県にしろ、郡市の会長選挙となると大変でした。今晩決めたことが明日になってみると、がらっと変わっていたりすることも多々ありました。こういうことを知っている人もだんだん少なくなってきました。

司会　以前、会報で日本の伝統文化でもある刀剣のつばの話をして写真入りで紹介させていただきましたが、その後もその道を極めて

いらっしゃいますでしょうか。

熊木　この道は自然にはいったものですので、自然にはなかなかぬけないものです。いうなれば習慣みたいなものです。

司会　自然にはいったというのは何かきっかけがあったのですか。

熊木　中学の終り頃から少しずつはいったわけですが、その頃はただおもしろいなという興味だけからでした。

そのおもしろいなというだけでいいのです。例えば俳句であれ、絵画であれ、おもしろいと思っている間にのめりこんでいくのです。

司会　刀剣のどういったところに魅せられたのですか。

熊木　古美術全般に面白味をおぼえ、特に刀剣類に重点をおいた理由は、陶器が火と土との芸術品であるように、刀剣は火と鉄との芸術品で、共に火を介しての人智の努力によるものと後でわかったからです。

学生の頃は、だんだんと戦時色を帯びる頃で、家にあった刀の刃文の変化が少しずつ判明し光の当て様でますます千変万化することに気付き、いつしかその道の深間にのめり込んでいったわけです。刀剣の美しさはその姿、深く澄んだ鉄色の地文と白く冴えて変化する刃文の中に悠久の民族文化の一片を知ることができる喜びを感じさせてくれます。

刀は斬ることが第一の目的であると同時に自己を律することもまた、その目的であると自覚しています。

司会　刀剣の所蔵品の中に刃のはいったものもあるのですか。

熊木　「日本刀」という名称がつく以上は、すべて刃が健全であるということです。刃のないものは日本刀としては認められません。

司会　刀剣の管理は大変でしょうね。

熊木　鉄というのは分子が粗いものですから、放っておくとすぐ錆がつきます。だから少なくとも月に１回油をひき、湿気のないところにおいておけば、錆びることはありません。

また昔のままの鞘には必ず錆がついていますから、ピカピカの刀でも吸着して錆が発生します。だからのりだけで合わせた白鞘に入れて保存しておくのが最善です。ですから白鞘のことを「休め鞘」というのです。

素人の人たちに見せると、よく素手で刃を触ります。刃がついているのかどうかみているのかもしれませんが、自分の前でやれば後で手入れをするのですが、知らない間にやられると困ります。２本研ぎ直したことがあります。これは刀剣に対するタブーで、一番悪いことです。

司会　お金も相当かかりませんか。

熊木　欲しいものにはとびつくのです。しかし自分の小遣いの範囲内で無理をしてはいけません。

それと美術品というのは人を選びます。縁がなかったらお金をどれだけ積んでも自分の手にはいってきません。

それだけに自分の持っているものに対しては愛着があります。今まで１点たりとも処分したことはありません。

司会　いろいろ話をお伺いしておりますと、美術品を見る目、心とかは我々の仕事とどこか相通じるものがあるように思うのですが。

熊木　義歯は医学の中の美学だと思います。見て美しいだけじゃだめで、咀嚼・発音といった機能も合わせもたなければならないわけですから大変な美学・美術だと思います。

司会　本日は長時間にわたり本当にありがとうございました。

近藤秀雄先生に聴く

近藤　秀雄
歯科医師試験　昭和17年合格
近藤歯科医院　昭和18年開業（入善町）

『富山県歯科医師会報 第48巻6号（通算175号）』（平成6年11月発行）より抜粋

司会　まず歯科医師試験のことですが、どのような制度だったのでしょうか。

近藤　明治39年に歯科医師法が制定されました。いわゆる検定制度で、各歯科医院等に勤めて実績がある人は、一定の開業試験を通ってから開業する制度だったようです。東歯系統では血脇先生が先手をうっておられたようで、野口英世博士も籍をおかれたことがあると聞いております。その法律が大正15年に改正となり、日本大学専門部歯科（現在の日本大学歯学部）では３年間の専門教育を受けた者が歯科医師試験を受験できる制度になりました。大正の不景気の頃で、千円で下町のちょっとした家が建った時代でした。私は昭和５年に旧制魚津中学校へ入学しました。家業は米屋で次男坊でした。その年に、東京駅で浜口首相がピストルで撃たれた事件がありました。浜口首相のとったデフレ政策でますます不況がひどくなっていったのです。中学生時代は科学少年で、モーターを動かしたりラジオを作ったりするのが好きでしたから、父からブリキ屋にでもなるのかと言われていました。その頃は将来歯科医になるなんて夢にも思いませんでした。中学校を昭和10年３月に卒業してすぐ上京し、主婦の友社の隣にあった遠縁にあたる竹中内科医院に行きました。その年に盧溝橋事件、翌11年には二・二六事件が起き、時代はまさにひどい不景気で戦争の影がしのびよる感がありました。

日本大学専門部歯科へは昭和10年の９月に入学しました。入学した学生は、ヒゲをはやした人や学校の校長先生、３人の子をもつ年配の人等、まるで父兄かと間違えるような年齢の人たちが多く、私のような中学校を卒業したばかりの者は４～５名くらいしかいませんでした。学校は、できた当時はバラックでしたが、私が入学した頃は10年目で、整備されて、昼間の専門部の施設を全部使用していました。

司会　先生は夜間部だったのですか。

近藤　そうです。２部制でした。定員は１学年150名くらいで実際に入学したのは140名。経済的理由もあり卒業したのは110名くらいだったと思います。なかなかスムーズには進級できませんでした。

司会　当時はどのようにして通っておられたのですか。

近藤　今の学生は、自分の生活を楽しむためにアルバイトをしていますが、当時は学資の手助けのためにアルバイトをしておりました。私は日本橋の歯科医院に書生としてはいり、朝は７時に起きて９時までは掃除、診療が始まると助手をしたり技工をしたりしました。４時半頃に学校へ行かせてもらい、５時から９時まで４時間授業がありました。帰るのは夜10時頃となり、ほんとうに大変な日々でした。

司会　歯科医師試験に合格されたのはいつで

すか。

近藤　私は昭和13年の７月に卒業して、11月の試験を目前にした９月10日に召集令状が来たので兵役に行くことになりました。幸いにも翌14年の７月には帰ってこられたので、上野の森にある図書館に通い猛勉強して、同15年の秋の歯科医師試験に合格しました。同級生の中には卒業してすぐ合格して開業した者もいれば、２年がかりの者、シベリアへ抑留された者、戦死者などさまざまで、結局、卒業生の３分の２にあたる70名くらいしか合格できませんでした。

試験は学説と実地の両方がありました。あまり合格させると昼間部から文句がでるからという試験官もいて、口頭試問では即座に答えられなければ不合格になるくらい厳しいものでした。中学校を卒業してからこの道しか知らない私は、これしかないという思いでねばり強くやりとげました。

司会　もっと簡単なものと考えておりましたが、大変厳しい試験だったのですね。次に広報担当理事の頃のお話をしていただけますか。

近藤　２期４年間広報を担当しました。最初の頃、阿部会長より会報の題字をもらいました。当時の富山大学の書道の先生に書いてもらったそうです。

司会　題字については、いつ頃、誰が書いたものか不明でしたが、これでわかりました。

近藤　その頃、私は入善文化会にはいり、16ミリの映写機を持って各地を廻っておりました。混乱の時代で地域の啓蒙、青少年の育成のため、今でいうライオンズクラブのような活動に参加しておりました。『入善文化広報』を私の家を事務所にして発行していたので、広報担当理事をお引き受けすることにした次第です。

広報は一党一派に片寄らず、学閥にも左右されず公平無私、いろんな発想の転換が必要です。一つの情報を聞いても、片一方ではどうあるべきかを考える柔らかい思考が必要と常に心得ておりました。

会報の発行は年に４～５回で、編集は月に何回か舟橋南町の旧会館２階でやっておりました。調査の方もいっしょでしたが、今のような細かなアンケートはできなかったです。

会館ですが、戦災で焼かれた後、一時期中島清則先生のところに平屋の会館を建てたことがありました。それから舟橋南町へ移ったのですが、当時は中柱が真ん中に通った建物でした。また改築の際には、会館は呉羽山の近くの方が良いのではと発言したこともありました。私は入善ですので、約１時間余りかかります。にぎりめしをかじりながら通うのは、大変なことでした。

当時、「老人保健を政治の目玉にするな」と会報に書いたところ、日歯の全国紙に紹介されたことを覚えています。また、下新川郡の支部長の時には、保険医総辞退の問題が起こり委任状を集めるのに奔走したものです。そして会長選挙制度が問題となった時は、代議員との間にはいって難しい立場となりました。結局多数の先生方の意見があることは良いことではないかということになり、全会員選挙になりました。

司会　今お持ちのものは何ですか。

近藤　ゴム床です。圧力ガマでピンクのゴムを320℉～360℉くらいでたくわけです。高温ですから大変危険です。時間と温度を間違えて天井も打ち抜いたという話も聞いたことがあります。これはGHQの下では配給制で、コカインや金属等も登録制になった時期もありました。今は保険点数で同一の料金も、各地域で目安料金を決めた規定料金表がありました。

司会　長時間にわたり、貴重なお話をどうもありがとうございました。

芳尾弘史先生に聴く

芳尾　弘史
日本歯科医学専門学校　昭和12年卒業
芳尾歯科医院　昭和16年開業（富山市）

『富山県歯科医師会報 第49巻1号（通算176号）』（平成7年1月発行）より抜粋

司会　先生が開業された頃のお話を伺いたいと思います。

芳尾　戦時中､男は殆ど戦争（私は昭和13年１月～昭和15年８月まで北京方面に従軍）に参加し、老人と婦女子のみが残って焼夷弾の消火訓練をしているような時代でした。戦争も末期近くになると､仕事ができず疎開に明け暮れておりました。そして昭和20年８月１日の富山空襲に遭い、命からがら逃げたわけです。

私は戦時中の昭和16年７月に富山市で開業しました。家城先生、永森先生、岡田先生等20数人の先生がおられましたが、現在ではほとんどの方が他界されております。当時の富山県歯科医師会は会長宅に事務員を置いて、会務を処理していましたが、終戦後は、富山市の中央通りの裏にバラックを購入して、富山県歯科医師会を設立しました。その後、駅前の舟橋に会館を建造して移転しました。

私はその当時、副会長として竹林先生といっしょに阿部会長を補佐しておりました。会長選出は代議員の投票により選ばれましたが、トラブルが続いたので全会員の投票によって選出することに改正致しました｡その頃､小林金次（日歯５回卒）が長く富山県歯科医師会長をやっておりましたが、私はその甥で、よく訪ねて行き診療の手伝をさせてもらいました。

司会　今ほどお話になった資料などは、現在残っていますか。

芳尾　富山市歯科医師会に資料の一部が残っていて、当時のことが詳しく載っています。

司会　その時代の先生方の様子などお聞かせください。

芳尾　昭和18年頃、家城圭一、今村彦治、岡田信次、菅田晴山先生等含む20数名ほどで石川県の白山塾へ行き、教練で気合を入れられました。10年ほど前までは富山県歯科医師会の会長職は名誉職で忙しくはありませんでしたが、現在の会長さんは、並大抵ではできないほど多忙であります。富山県歯科保健医療総合センターが完成し仕事が増えて、若い先生方は大変だと思います。

私の話にもどりますが、昭和20年８月１日の空襲で富山市から疎開先の射水郡小杉町へ引越し、２年間歯科医院をやっていました。

司会　歯科医の道を選択されたのはどうしてですか。

芳尾　私の伯父（小林金次）が歯科医をしていたので、その影響を受けたからです。

司会　富山市では、どのあたりに開業されていたのですか。

芳尾　雪見橋付近（柳町、戦後豊川町）で東新地が近かったのでよく遊びました。

司会　富山市で博覧会があった時のことを聞かせてください。

芳尾　戦前には日満博覧会、そして戦後昭和29年に富山で博覧会が開催されました。今

の電気ビル、名鉄ホテル、県庁等（廃川地帯と呼ぶ）の場所が野原で、奥田から神通川まで続いて広がっていました。その地帯に神通中学校および大きなグランド等があり、電車が一本通っていました。富山市は２つに分かれ、駅前に少しの街並があり150～200メートル前後の距離に現在の街がありました。その中心に博覧会場が設けられ、賑やかに開催されていました。当時、立派な診療所は少なく一般から軽視されがちで肩身の狭い思いがしました。

司会　射水郡より富山市に戦後戻られてからどうされましたか。

芳尾　戦後、生活は安定せず混乱、貧困、食事情が悪く落ち着いて仕事ができない年が多くありました。だいぶん落ち着いてから見栄ときれいに見せるための金冠を使うことが沢山あり、見栄の流行が続きました。昭和30年近くのことだったと思います。お酒もだいぶん飲む機会が多くなりました。

司会　学生時代も豪快に過ごされたのですか。

芳尾　大学生時代の下宿が代々木だったので、その周辺で飲みました。その後新宿、次に渋谷に移り、学業は二の次でよく遊び、大いに青春を楽しみました。

司会　中原爽先生が参議院選挙に出られますが。

芳尾　私は大学校友会の理事を何年もやっておりますし、会長も数年しました。そのため中央にもよく出かけましたので、中原先生とは周知の間柄ですから、ぜひとも参議院選挙での上位当選をめざして頑張ってくださるよう、心より御健闘をお祈りしております。

司会　富山市に10数年おいでになって砺波市に移られた理由をお聞かせください。

芳尾　物価が安く遊ぶ場所が沢山でき、今まで苦しんだ時代が長かったからかいっぺんに開放され、遊びの根性が出て、次第にエスカレートして夜の帝王気分にまでなりました。本業を忘れておりましたので破産寸前に追い込まれ、一大決心をしなければならないことになりました。この場所にいれば身も心も破滅と考え、富山を去る決心を致しました。幸いに昭和32年、砺波中学校の同級生から「歯科が足りないので来ないか」と誘われ、砺波市に戻り開業することにしました。その時には菅野先生（中学同級）ほか３人ほどがおられました。

自慢できることは、心機一転汗にまみれて働き、短期間に土地を買い、家を建てたことです。そして人と付き合えるような財もできました。

司会　これからの若い先生方に一言アドバイスをお願いしたいと思います。

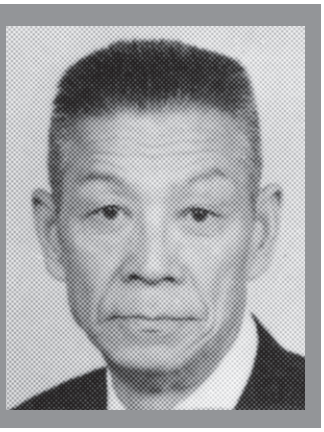
芳尾　こせこせしないこと、心配事はすぐ取除く、それが長生きできる秘訣と思います。「よく遊びよく学べ」と言うことと100の収入があれば半分くらい残すつもりで暮すことです。

また、できるだけ家族工業的に技工は自分でするように心がけることです。見栄や外聞のため派手になると、支出が大きく苦しみも増すので、この状態では長続きしませんから、無駄な出費を少なくすることです。また、人と付き合いをする時は相手に思いやりを持つことが必要です。

さらに富山県ではもっと人材を育てるようにしないとだめです。歯科医の中には、狭い了見の人が大変多いように思われます。これでは大物になれません。親に孝行することは必ず自分の時代に子が孝行してくれます。そして家族が仲良く暮していけると思っております。それが財をなせる根元です。

司会　波乱万丈に富んだ貴重なお話をどうもありがとうございました。

深山正之先生に聴く



深山　正之
東京歯科医学専門学校　昭和13年卒業
深山歯科医院　昭和29年開業（富山市）

『富山県歯科医師会報 第49巻2号（通算177号）』（平成7年3月発行）より抜粋

司会　まず軍隊時代のお話をお聞かせください。

深山　昭和13年に東京歯科医学専門学校を卒業して、兄が富山で開業しておりましたので、すぐにその手伝いを始めました。それも１年ほどで、昭和14年には金沢の山砲連隊に入営しました。

同年10月に千葉野戦砲兵学校幹部候補生隊に入隊し、昭和15年に少尉に任官、当時は歯科医には軍医制度はありませんでした。それで、いろいろな運動により昭和16年に歯科の軍医制度ができて、私は陸軍歯科医少尉となったわけです。それで満州（当時）の牡丹江第一陸軍病院に転属となりました。

当時は血気旺んにして夢多く、兵科将校から衛生将校になったことで欲求不満もありました。しかし大東亜戦争も激しさを増し、病院も収容2,000ベッドと増加し、不平不満を訴える余裕もなく、昭和20年の終戦まで続きました。その年の８月にソ連軍が東満州国境より侵入し、日ソ戦となりソ連の捕虜として、捕虜収容所病院で同胞の治療を続けたのです。

厳寒、物資医薬品不足、栄養失調、発疹チフス等、全く悲惨でした。

昭和21年にソ連軍が撤退したあとは中共軍に引き渡され、中共軍は医者があまりいないものだから、一般医も歯科医もすべて軍隊に配属させられました。私は中共軍の第４野戦軍（旧満州地区）特殊砲兵団衛生隊の医師として衛生業務に携わることになったのです。医者は私一人で歯科以外は分からないとも言えずに働かされました。

私は、中国語は知らないのですが満州の人の中には日本語をよく知っている人がいて、言葉にはまず困らなかったのです。

それからお前は日本の軍隊だから思想が悪いということで、洗脳が続く毎日でした。ビンタを食うような体罰はないのですが毎日反省会です。「君は今日何をしたか」とか、「私は何々をして、その時に君はこんなことを言ったじゃないか」とか言って、問いつめるわけです。それがまぁ厳しかったですね。30分から長いときは１時間もあって、それで一人に、例えば、彼を洗脳させようと思うといろいろなことを集中的に攻撃するわけです。いや、それはつらいですよ。心にもないことを言わねばならないし、毛沢東万歳みたいなことをね。だんだん、その気にさせられますよ。

昭和22年に中国内戦が始まると、いつしか中共軍の一員となり戦闘に参加していました。

司会　早く帰国したいとは思われませんでしたか。

深山　初めはもちろん思いましたが、１～２年も経つと半ば諦めでしょうね。でも日本人特有の勤勉と努力で中国の人とも人間関係が

徐々にできていきました。そして昭和28年、ついに待望の帰国となりました。

司会　帰国されてからどうされましたか。

深山　帰国してすぐ富山に帰り開業しました。兄は他界していて、もうおりませんでしたが、兄の友達の岡田先生や永森先生とか沢山の先生たちにかわいがってもらいました。それで学校歯科医会や富山県歯科医師会にもすぐ入会できました。

司会　先生は沢山の役職を歴任されていますが、それぞれ、当時の思い出話などをお聞かせください。

深山　昭和38年から42年にかけて富山支部長をしておりましたが、その頃、県の会館を作るとか国保組合を作るとか、それから全国の学校歯科医大会とかがありました。

ルンビニ園へ行くのも私が市の会長の時に初めてやりました。何か奉仕をしようということが、きっかけだったのですが、他に愛育園にも行きました。

昭和46年から50年までは県歯会長をしておりました。戦争帰りで血気旺んだったものですから、今から思えばずいぶんムリをしていたなあと思います。

この頃は保険医総辞退、差額徴収問題等、頭を悩ませる問題が数多くありました。昭和46年武見会長率いる日本医師会は保険医総辞退を指令しました。日歯会長は奥野先生でしたが、あまり総辞退という問題にはなっていませんでした。

司会　歯科衛生士学院は先生の会長時代に作られたのですね。

深山　その当時歯科衛生士学院が全国的に多くできて富山県にもどうしても作らなければいけないということで、富山県立総合衛生学院の中に一部遊休施設があったので、これの借用を申し入れることになりました。

県に陳情を繰り返しましたが、だめで、その内に数ヵ所の土地貸与の提示を受け、借用を申し込んだ途端に断られたため県当局に対する不信と焦燥にかられ、自力でやろうとの検討に入りました。

そうこうするうちに医務課より元保健婦専門学校（中央病院内）の不要になった木造校舎の貸与の話が持ち込まれて、この時は医務課の飯田課長さん、橋爪係長さん等に、本当にお世話になりました。

司会　最後に、後輩にアドバイスをお願いします。

深山　まず、無理をするな。能力は人間、そうは変わらないものです、与えられた能力以上に背伸びしようと思ったってできません。

それから、借金をするな。本人も大変だけれど奥さんはもっと気にするものです。あまり奥さんに心配をかけてはいけません。私のある友人が言っておりました「思うようにならなかったことを喜べ」と。人生なんてものは思うようにならないものです。それを、また喜ぶことが大切だと、今頃になって思っています。

また、軍隊に入った時、先輩は「お前は手と足を持っているんだから、それで働け」と教えてくれました。それが、私は人生だと思っています。

最後に一言。あなた方は歯科医なのですから、やっぱり医者であるべき。私はそういうつもりでやってきました。

人間なんて言うものはその人、その人の器量ですからね。それに逆らうことはありません。一人ひとりの人生ですからね。

司会　非常に含蓄のあるお言葉だと思います。本当に有難うございました。

松島正康先生に聴く

松島　正康
東京歯科医学専門学校　昭和13年卒業
松島歯科医院　昭和29年開業（高岡市）

『富山県歯科医師会報 第49巻3号（通算178号）』（平成7年5月発行）より抜粋

司会　本日はご多忙のところ、恐縮ですが古き良き時代のお話を承りたいと思っております。まずは先生のお生まれからお伺いします。

松島　５歳まで金沢におりましたが、学生時代は横浜でした。中学校は当時としてはハイカラにもサッカーの授業があり、以来東京歯科医学専門学校（現在の東京歯科大学）でもサッカー部に所属し、選手として鳴らしたものです。故中川弘氏（魚津）が日本歯科医学専門学校のゴールキーパーでライバルでした。３～４年前までは高岡市サッカー協会長を務めていました。

司会　ご卒業は何年でしたか。

松島　昭和13年に卒業して母校の補綴科に残りましたが、支那事変勃発のため兵役に就きました。陸軍二等兵からはじめ、一等兵になった頃に海軍で歯科軍医の募集が始まり、合格して海軍大尉になりました（９階級特進となります）。時を同じくして陸軍から召集令状がきましたがこれを断ることができました。日本人では初めてのケースでしょう。

11年間の兵役でしたが、最初は乗艦勤務で次第に敗色濃厚となりアッツ島の戦闘、キスカ島の撤退作戦にも参戦しました。傷病兵の診療もさることながら、自分の巡洋艦に向かって魚雷が進んでくるのを、息を飲んで見つめていたのが印象に残っています。

終戦直前は別府海軍病院におりました。近くに大分基地があり、私の患者さんの多くも沖縄戦で還らぬ人となりました。

大分航空隊指令宇垣纏中将が８月初旬から治療に来ておられましたが、８月13日に治療が完了、私の目をじっと見つめて「ありがとう」といってお帰りになりましたが、その足で沖縄へ向かわれ、単機突っ込んで壮烈な戦死をとげられたことを後で知らされました。あの時の温かい目は、今でも忘れることはありません。

戦後は南伊豆の湊海軍病院で、昭和24年まで残務整理などしておりました。身分は厚生技官でした。この間の功績により正七位に叙されています。

司会　富山県との縁はどんなところからですか。

松島　家内の実家が高岡で、横浜の家が焼けてしまったということもあって、昭和２４年に新湊の日本鋼管診療所に勤務しました。この時から富山県歯科医師会に加入しております。

その後昭和29年の桐木町の診療所を経て、同39年から現在地（高岡市新横町）にて診療いたしております。

司会　本会の記録によると、先生は昭和26年以来、各理事を歴任されておられます。何かご記憶に残っていることはございますか。

松島　本当は24年から理事していたのですよ。

最初は学術を担当していました。

当時の学会は、外部講師というよりも、私達が保存や補綴の話をしたものです。その後は社保、国保の理事、審査員もしていました。ちょうど、水野旋風※の頃で、彼とは東歯（東京歯科医学専門学校）で同時期学校に残っていた仲でしたが、いざ個別指導の場となると厳しいものでした。指導にあった先生もさぞ緊張されたことでしょう。社会保険の制度もまだ十分理解されておらず、カルテに前歯冠の記載などあろうものなら大変な剣幕でアネミイ（貧血）をおこす先生もでるくらいでした。今であれば人権問題ですよ。

私たちもなんとか保険を理解してもらいたく、社保講習会を９地区に分けて行いリセプト１件３桁を目指したものです。社保だけで１万点もあったら高額所得者でした。かれこれ20年近く本会のお世話をさせていただきました。

そのほか歯科技工士国家試験委員もしておりました。現在は全国歯科医師国保富山県支部の理事を務めています。

司会　ところで、先生はロータリアンとしても先達でしたね。

松島　昭和32年から関わっています。ロータリアンの使命は他人へのサービスと考えています。これは歯科医師の使命でもあるでしょう？

ロータリーの例会には欠かさずに出席しています。卓話も100回を超えました。

司会　最後に、近ごろの歯科医師・歯科医師会についてどのようにお考えですか。

松島　一言でいえば、物分かりが良くなりすぎて頼りないようです。いわゆる「歯医者馬鹿」がいなくなりましたね。

昔は作った義歯が上手く機能すれば、お金のことは二の次という手合いが多かったような気がします。一般に温和（おとな）しく争いごとはしない、またはしても仕方がないと考えているようですね。私の若い頃は高岡と富山は何かと張り合っていたものでしたよ。

司会　終わりに若い先生方に一言おねがいします。

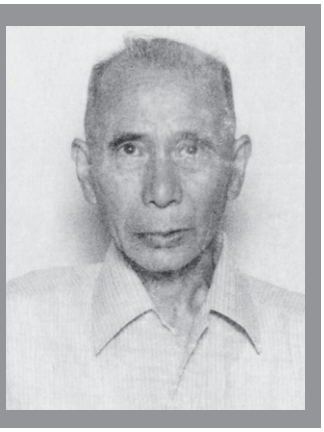
27才当時の面影

松島　利口になりすぎないことですかね。前から考えているのですが、歯科が一般医（稀に薬剤師）の下にみられているのが何とも歯痒い思いです。義眼・義肢に比して機能する代用物をサービスできることに誇りをもってほしいし、そうなるように導いていくのが指導的立場の人たちの役目ではないかと思います。

司会　本日は、貴重なお話をいただき誠にありがとうございます。先生にはご趣味の短歌の分野もあわせてご活躍なされますよう、ご健康にご留意ください。

※水野銈太郎：昭和30年代前半の厚生省保険局医療課課長補佐、まだ歯科医療管理官誕生前のため絶大なる権限の持ち主であった―広報部註

佐渡永貞先生に聴く



佐渡　永貞
日本歯科医学専門学校　昭和15年卒業
佐渡歯科医院　昭和18年開業（立山町）

『富山県歯科医師会報 第49巻4号（通算179号）』（平成7年7月発行）より抜粋

司会　失礼ですが､おいくつになられますか。

佐渡　今年の12月で80歳になります。

司会　先生の学生時代の思い出をお聞かせください。

佐渡　若い頃は野球が好きで、中学校１年生の時は、野球部に所属しピッチャーをしていました。その頃痛めた肩が、現在でも不都合であります。

また、自転車に乗り、ジャリ道を高岡まで、野球をよく見に行きました。

中学校１年生の時、野球をやりながら、校内の卓球大会で優勝しました。その影響か、日本歯科医学専門学校に入学した時には、卓球部に入部しました。その当時オール関東といい、１部から５部までの階級があり、一般の大学に混じって、春と秋２回試合がありました。日本歯科医専は１年生の時は５部でしたが、２年生の時に３部に昇格しました。

その当時、東京歯科医学専門学校が、慶應義塾大学・早稲田大学と並んで、１部リーグに入っていました。

司会　歯科医学専門学校を卒業されてからは、どうされましたか。

佐渡　卒業後１年の研究科に入り、その後医局員になる予定でしたが、研究科卒業１ヵ月前に軍隊の召集がかかり、昭和16年３月６日、現富山大学内にあった東部48部隊に入隊しました。今でも、歯科保健医療総合センターに来る度に当時のことが思い出されます。

東部48部隊に入って１年過ぎた頃に、腰を痛める怪我をして、除隊となりました。その怪我の後遺症の治療は、現在も行っています。

司会　先生は、いつ、どちらで開業されましたか。

佐渡　昭和18年６月20日に立山町の米沢で開業し、３年ほど経過した後に終戦となり、昭和21年８月28日に、現在地であり生家のある舟橋村に移り、現在に至ります。

司会　先生は、村議会議長をやられたことがあるとお聞きしましたが、その時のことをお聞かせください。

佐渡　60歳を過ぎた頃、本来政治的なものがあまり好きでなかったのですが、村会議員に１期だけの約束で要請されました。12人の定員だったところ急に８人の定員に減員されましたが、周りの有力者の方が動いてくれまして、無競争で当選。何期も務めている議員がいらっしゃる中、１期目でいきなり議長になりました。しかし、そのことが痼（しこり）となり、数十年経った今でも、酒の席になると語り草のように言われています。

その他に教育委員を８年やり、耕地整理委員もやりました。小さな村にいたせいか、歯科医師でありながら、いろいろな勉強をさせてもらいました。

私の父が、内科医をしながら、村長もして

いて、幼少時は、父の顔をあまり見ることがありませんでした。開業医と村長の両方を兼ねる激務のせいか、48歳の若さで他界しました。私が小学校３年生の時です。

そのせいか、父が家庭よりも村の仕事を優先していたことに懲りて、母からは「大きくなっても父の真似をするな」と、死ぬまで言われました。

司会　今までで特に思い出になったことは、何でしょうか。

佐渡　今までで一番の思い出は、昭和63年に受章した勲五等瑞宝章です。

家内同伴で上京し、まず国立劇場で文部省の役人より勲章を掛けてもらい、それから全員で皇居へバスで向かいました。皇居へ入り、豊明殿（皇居の表御殿の一室で、宴会を行う所）にて、御病気の昭和天皇に代わられ皇太子様（現天皇陛下）がお祝いの言葉を述べられました。

その後、皇太子様（現天皇陛下）に２～３歩で触れる場所でお会いできたことは、今でも感激で胸一杯になります。

二番目の思い出として、歯科医を開業しながら、耕地整理委員を引き受けたために、真冬の寒い折、診療後、夜７時から翌朝２時まで１週間続けた会議が、１週間後には皆が話す元気もなくなっていたくらい、苦しい思いをしたことです。今では、良き思い出となっています。

司会　ご健康の方は、いかがですか。

佐渡　若い頃は、いろいろな世話をしていた役柄上、３次会、４次会と行った方ですが、現在は飲むと体調がよくないことがあるので自重しています。

11年前に胃の手術をしました。退院後も任期中だからということで支部長を続け、都合12年間支部長をやりました。同時に、郡学校保健会の副会長をやり、一番働ける時期に本業が疎かになり、今考えると残念だったかなあと思いますね。

支部長をやり、かつ村会議会も仕事中にあり、仕事を放り出して議会へ行き、患者さんが来られても不在ということもあったので、患者さんには大変な迷惑をかけました。

司会　普通の方であれば、したくてもできない経験をされてこられた訳ですから、大変尊敬いたします。長い間、県の歯科医師会を見てこられて、最近感じられることがあれば、一言お願いします。

佐渡　会長さんも言われていることですが、保険の講習会であれば、沢山集まるが、それ以外は少ないのが気になります。昔は、私の場合バス・電車を乗り継いで来て、少しでも遅れると、「もっと遠い人が早く来ているんだぞ」と、先輩から注意を受けたものだし、出席するのが、会員として当然のことと思っていました。

司会　今は､会合に遅れたり､欠席しても怒る人もいないし、怒られることもありません。

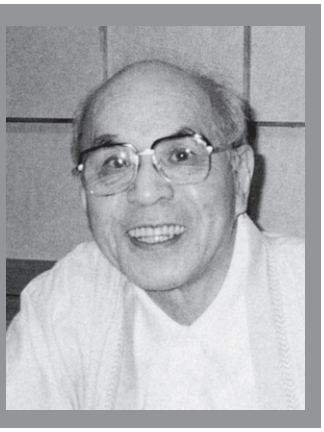
佐渡　戦前、戦後の教育の違いかもしれません。また、会員の方が多くなられたから、縦のつながり、横のつながりが難しくなってきているので、指導者がしっかりしていないと難しいと思います。

司会　最後に若い人たちに一言お願いします。

佐渡　仕事も大事ですが、健康第一に考えて、１日でも長生きすることを考え、５年を節目に、仕事に無理があれば、そこで考え直して、気持ちを少し転換することも考えてほしいと思います。

司会　本日は本当にありがとうございました。益々、ご健康であられますことをお祈りいたします。

米沢真一先生に聴く



米沢　真一
日本歯科医学専門学校　昭和19年卒業
米沢歯科医院　昭和22年開業（高岡市）

『富山県歯科医師会報 第49巻5号（通算180号）』（平成7年9月発行）より抜粋

司会　開業されたのはいつ頃ですか。

米沢　昭和22年５月16日に開業しました。その頃は、玄関が後ろについていて、その前を、瑞龍寺から読売会館の前を通って私の家の玄関前を通り公園へ通ずる路がありました。その路は、昔使者だとか使い番が通ったのだと聞いています。その玄関を桜場々向に今のように改造して開業しました。

当時、高岡には30数人いらっしゃったと思います。昭和10年生まれまでの方では浦野潤さん、金山さん、そして伏木の立野さんあたり、私の年代では三崎先生、亡くなられた石多先生、そしてその上に小高先生、島田先生、松島先生がいらっしゃいました。

司会　なぜ歯科医になられたのですか。

米沢　父もその御祖父さんも銀行に勤めていて、歯科には全く縁がありませんでした。

恥ずかしい話ですが、親父と亡くなられた大道先生とは飲み友達で仲が良かったので、「歯科医にならないか」と薦められたのがきっかけです。この頃陸軍に歯科軍医制度ができて、当時こんなことを言ったら非国民と言われたのですが、「軍医なら戦争に行っても死なずに帰ってこられるだろう」と言われ、「歯科なら前線にひっぱり出されたり、人を殺すこともないから、ぜひ歯科医になられ」と、親の命令で歯科医になったわけです。「私の出た学校に入って歯医者一本でいけ」と故大道先生に言われて、飯田橋の方へ行きました。

司会　卒業してすぐ開業ですか。

米沢　兵隊に10ヵ月間入りました。当時は召集ではなく入営なんです。学徒出陣式で先頭の学生が宮城に着いているのに、私たちはまだ明治神宮に雨の中で立っていました。

司会　学生時代にグライダーをやっておられたとか言うことですが。

米沢　新しがりやでして高岡中学校で３、４、５年とグライダーをやっていました。そして専門学校の寮が小金井にあり、そこでグライダーを飛ばそうと言うことになり、読売新聞の正力さんの所へねだりに行きました。

グライダーには水野式と伊藤式があります。水野式は頭が重く、上げ舵にすると頭が上がった拍子にあおられて、頭から突っ込んで、後部でよく折れました。部品もなかなかありませんでした。伊藤式は後部が鋼の管でできており、直すのも楽でした。水野式ならやると言われて小金井の寮へもって行き、滑走の練習だけに使用しました。

司会　スタディーグループの話を少しお聞かせください。

米沢　昭和37～38年頃に鋳造冠が出てきました。ポーセレンなどの収縮のことなど知らない時は恐ろしくないから楽だったのですが、少し判ってきて考え出すと心配になってきました。昔、補綴の助手をやっていた故石多君

と故宇和山君が「森田の水平診療が良い」と言うので見ていたら体が楽そうなので、私も少しずつ水平診療にしようと考えました。そして講習を受けに大阪へ行きました。その時、世の中が少しずつ変わってきたことに気がつきました。勉強しないと誰も教えてくれないので、昭和43～44年頃に桜木先生、釣谷先生らとスタディーグループを作りました。チーフは桜木先生でした。大変勉強されていた方で、あの方が道を開いてくれました。湯涌温泉へDr. Beach氏を招いて講習会を開いたのもその頃です。「歯科医は何をしても良いが、しても良いのとできるのとは違うのではないでしょうか」と言われて勉強せざるをえなかったのです。

司会　学生時代、兵隊時代の話を聞かせてください。

米沢　馬術部の先輩に、抜歯１本しかしないのに10本抜いたことにしてもらったり、根治も少ししかやらないのに皆やったことにしてもらいました。矯正では、患者だけ用意してくれと言われて知り合いの前突の女の子を紹介し、先生に「こんな人治してくれますか」と言って引き受けてもらいました。

なんとか卒業して補綴の研究室に入りましたが１ヵ月もたたないうちに入営通知、つまり白紙がきました。赤紙なら招集ですが、白紙は入営でした。11月に入って富山の連隊に放り込まれ、２月には銚子の連隊に行かされました。ここには決戦部隊がいて、富山と長野の人間を集めた連隊があり、九十九里浜から一里ほど平たい丘陵地帯があり、そこで穴掘りばかりやらされました。機関銃で連発できるのは一個中隊に一丁あり、私たちのように中学校５年間、専門学校３年半の者は単発銃ばかりやっていて、連発銃は動かす事はできても撃ったことはありません。それから富山の射撃場に連れて行かれました。一個中隊の中で連発できる機関銃は私たちのものが一丁だけで、10ヵ月で帰ってきました。兵隊の退職金はたしか250円でした。

司会　それからすぐ帰郷ですか。

米沢　東京に馬術部の友人が開業していたので、補綴の技術を習っていました。なにしろ学校ではバンド冠、嚙面鋳造冠、総義歯の排列ぐらいしかやっていないので。そのうち父親に「富山へ帰ってこい」と言われ、日曹の化学工場に宇和山先生の後嘱託で入り、１年２ヵ月ほどいました。その後今のところで開業しました。

司会　先生は昭和26年に予備代議員、32年に社保委員、それから40年に調査室長と高岡支部長、46年には理事と、県や支部の仕事を沢山やっておられますね。

米沢　いろいろやってきましたが、昭和57年の協同組合総代で終ったと思います。

司会　それから47年に学校保健会表彰、平成元年に富山県教育委員会表彰、そして日歯の創立60周年、70周年記念表彰、本会創立60周年記念表彰、それから平成５年に支部大臣表彰など、なかなか輝かしい経歴ですね。

米沢　いいえ。公職にあまりついていないのでたいしたことはありません。

司会　最後に若い人たちにアドバイスを一言いただけますか。

米沢　歯科医の免許を持っている限り、何をやっても良いのですが、していい歯科医よりできる歯科医になってほしいですね。きちんと仕事ができないと心配ばかりしていなければなりません。工芸家の人達も悩んでおられるけど、私たちの方がそれ以上に厳しいのではないでしょうか。私は自分の限界を決めて仕事をしています。

司会　長時間にわたり貴重なお話をお聞かせいただき、ありがとうございました。

中島清則先生に聴く

中島　清則
日本大学専門部歯科　昭和16年卒業
中島歯科医院　昭和18年開業（富山市）

『富山県歯科医師会報 第49巻6号（通算181号）』（平成7年11月発行）より抜粋

司会　ご出身はどちらですか。

中島　現在は富山市に入りましたが、婦負郡寒江村大塚という所です。

司会　子供の頃の思い出をお聞かせください。

中島　子供の頃はわんぱくのガキ大将で、写生会をさぼってフナやナマズを獲りに行ったりして、校長の前でよく立たされたものです。９才上の兄は教師なのですが、私の小学校に赴任してきたため、悪業の数々が全部ばれて大変バツの悪い思いをしたことが思い出されます。

司会　歯科医を志望された理由をお聞かせください。

中島　中学生の時、教師をしていた兄に医学の方へ進んだらどうかとアドバイスされたことがきっかけです。兄の友人に医師になった人が多かったものですから、それなら歯科をやってやろうと思い、この道を選びました。

司会　ご出身は日本大学ですが、学生時代の思い出等をお聞かせください。

中島　当時、日本大学専門部歯科では学生の和をはかるため、１年生は全員寮生活をすることになっておりました。寮には門限があるのですが、酒を飲みに行って遅くなり、生垣を破って部屋に忍び込んだり、かわいい悪戯ですが、飲んだ帰りに看板を盗んできて寮の前に立てたこと等が思い出されます。

当時酒は１本50銭ほどだったと思いますが、酒代欲しさに臨床実習で背広が必要だということで、親に金を送らせ、４年生の時は結局３着作ったことになりました。当時は白黒写真で、カラーは無かったのでばれずに済みました。

卒業の前年に太平洋戦争が始まり、３ヵ月繰り上げで卒業となりました。卒業後は、研究生として学校に残りましたが、翌年２月に招集令状がまいりました。同級生には戦死した者も多かったのですが、入営後の検査で学生時代に患った肋膜炎の跡が見つかり10日間ほどで除隊となりました。それ以後終戦まで招集令状はまいりませんでした。

司会　先生は昭和18年のご入会ですが、その当時の歯科医師会の状況等をお聞かせください。

中島　今では戦前の入会者が少なくなっており、当時を知っておられる方はあまりおられなくなりました。

当時は旧制歯科医師会の時代で、私の父は３回会長を務めましたが、３度目が旧制最後の昭和21年４月から22年10月までででした。昭和22年11月より新制歯科医師会に移行しました。

司会　旧制歯科医師会時代、会館はどこにありましたか。

中島　最初にできたのが何年だったか記憶にありませんが、父の１回目の会長時代、医師会と共同で、現副会長である今村先生の診療所の向い側に建てました。そこに県歯科医師会、県医師会、市医師会が同居しておりました。

昭和20年の戦災で焼失したため一時富山高校の所へ疎開をしておりました。仮事務所で大変不便でしたので、当時父が、会長をしていたこともあって、私の診療所の敷地内に事務所を作りました。そこには２～３年ほどいたと思いますが、それが戦後最初の県歯科医師会館です。

司会　その後舟橋南町へ移ったのですか。

中島　いいえ、その後現在の長崎屋の所に土地を購入し、そこへ建物を移動させました。そこに12～13年ほどいたと思います。それから舟橋南町へ移りました。

最初の舟橋南町の会館は味噌業界の組合の建物を購入して改築したもので木造２階建てでした。川口義門会長の時代に鉄筋コンクリートの建物に建て替えました。当時としては大変立派な物だと思いましたが、今になって思えば雑なものでした。

私が入会した昭和18年以前のことは記憶が確かではありませんし、戦前の歯科医師会の資料は、ほとんど戦災で焼失してしまったと思います。

司会　70周年記念誌に載っていない戦前の歯科医師会の歴史も資料として残したいと常々思っておりましたので、資料が焼失してしまったことは大変残念です。開業時の苦労話や思い出等をお聞かせください。

中島　開業は昭和18年でしたが、当時は富山市で会員数は30人くらいだったと思います。歯科医が大変欠乏していた時代で患者がとても多く、夜の８時半頃まで診療し、その後12時頃まで技工をするという毎日でした。歯科技工士はおりましたが、大変忙しく手がまわらないので、私も圧印冠や圧印床を作りました。

昭和20年の戦災で焼け出されたため、一時呉羽の追分茶屋で開業していたことがあるのですが､治療費の代わりに米等を持って来てくれました。戦後の食糧難の時代でしたから､お金よりかえってありがたかった記憶があります。当時は開業すれば必ず患者が来てくれるというのが方程式のようなものでしたが､現在は歯科医が過剰の時代になってきており、これから開業される若い人は大変だと思います。

司会　現在は歯科医過剰時代だからというお話が出ましたが、歯科の将来について何か思われるところがありましたらお聞かせください。

中島　歯科大学数が増え毎年３千名以上の卒業生が輩出される現状では、これから大変苦しい時代になることは間違いないと思います。医科と違い、歯科にはこれといった受け皿が無く、開業する以外に選ぶ道がない現状では、過当競争は避けられないと思います。以前は歯科医師免許があれば銀行もすぐ融資に応じてくれましたが、今ではそうでは無いと聞いています。過剰時代となって担保価値が下がったということでしょうか。今は円高ですが、歯科のライセンスは円安、不良債券と思われているのでしょうか。歯科医療は崇高な職業で決して不良債券ではないのですが、大変厳しい時代を迎えているように思います。

司会　この現状を打開するのに何か良い方法はありますでしょうか。

中島　現状では開業する以外に選択の余地がありませんので。官公庁に歯科医の採用枠を増やしてもらう等の受け入れ先の確保も必要ですが、歯科大学の統廃合も含め今以上の定員削減が必要かもしれません。これから開業される先生は、何か特技をもって開業され、冬の時代をぜひ乗り切って欲しいと思います。

司会　本日は長時間、貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。

島田栄吉先生に聴く

島田　栄吉
日本大学専門部歯科　昭和8年卒業
島田歯科医院　昭和11年開業(高岡市)

『富山県歯科医師会報 第50巻2号(通算183号)』(平成8年3月発行)より抜粋

司会　失礼ですが、先生はおいくつですか。

島田　今年で84歳になります。

司会　現在診療はしていらっしゃるのでしょうか。

島田　毎日診療をしております。朝は午前９時より、夕方は午後５時までです。

司会　１日に患者さんはどのくらいですか。

島田　20～25人ぐらいでしょうか。以前から診療している患者さんがほとんどです。

司会　先生は凄いですね。昭和38～45年まで、県歯科医師会の副会長をされていたのですね。

島田　川口義門会長と阿部清一会長の時に、副会長をしていました。阿部会長の時は１年半交代で、前期は私が、後期は芳尾弘史先生が副会長を任されておりました。

司会　昭和８年に日本大学を卒業されて、昭和11年に高岡市で開業されていますが、その頃は会員も少なかったでしょうか。

島田　私たちの頃は、会員は25人ほどで、高岡市歯科医師会の会合は会長宅や商工会議所の一室を借りて行い、私と桜木成一、木下友栄先生たちで運営しておりました。石川静郎先生が一番長く高岡市歯科医師会長をやっておられたのではないでしょうか。他には大道勇二、四日善一、米沢真一、三崎正春先生がいらっしゃいました。

司会　先生のご出身はどちらですか。

島田　東砺波郡庄川町の生まれです。砺波の人たちが懐かしくて川口義門､菅野宜紀先生と麻雀を持ち回りで日曜日ごとにやりました。

司会　日本大学歯学部医学校のご出身ですね。その当時の様子をお聞かせください。

島田　学生時代は麻布に住んでいましたが、学校はお茶の水にありました。同級生では伊東祐年先生がおられ、福光出身の方でした。また河合わたる校長が富山県に妹さんが嫁いでおられた関係もあって、よく家にお寄りいただきました。

司会　高岡市で先生の後輩はいらっしゃいましたか。

島田　特におられませんが、金山喜吉先生は専門部でしたけれども、よく知っております。

司会　歴代会長の川口義門、阿部清一先生の息子さんたちも頑張っておられますが、先生の御子息は何をされていらっしゃいますか。

島田　しばらく東京歯科大学で教授をしていましたが、現在は慶應義塾大学の教授をしており、孫は東京歯科大学に在学中です。

司会　奥様も歯科医でいらっしゃいますね。

島田　そうです。東洋女子歯科医学専門学校を出ていますが、廃校になりましたので同窓会もありません。

司会　先生は自動車が好きで長い間運転されていると聞いておりますが、昔のエピソード等ありますか。

島田　昭和35年ぐらいに運転免許を取りまし

た。その当時は地方試験で春と秋の２回だけ行われ、実地と学科が同時に受からないと運転免許がもらえず１年ぐらいかかりました。その時は、自動車学校を出ていなくてもよかったのですが、なかなか難しい試験でした。Ｓ字の実地練習は富山市の方にペンキでコースが書いてある場所があり、そこで練習しました。県の歯科医師会では、一番早く運転免許を取ったほうじゃないかと思います。

司会　すぐに車を買われましたか。

島田　車の練習場を借りる時にマツダのクーペを買うのを条件にしていましたので、その新車を買ったのが最初で、値段は30万円ほどだったと思います。２台目はスカイラインに乗り換えました。その後スカイラインを３台ほど乗り継いでおります。現在でも車を運転していますが、運転が楽なオートマチック車にしています。

司会　先生は富山県歯科医師会の役職経験が多いそうですがお聞かせください。

島田　昭和32～34年頃、舟橋南町にあった旧富山県歯科医師会館の会館建設委員をしておりました。その他には県緊急対策委員、高岡市支部長、国保理事等です。

公職関係では富山県社会保険診療報酬支払基金審査委員と富山県国民健康保険診療報酬審査委員を長い間交互にやっておりました。

司会　先生は叙勲を受けられましたがそれについてお話しください。

島田　昭和59年に勲五等双光旭日章をいただき、家内同伴で東京へ行きまして皇居で昭和天皇よりのお祝いの言葉を拝聴いたしました。高岡市では米沢真一、熊木甚朔先生が勲五等瑞宝章を受章されたと思います。他には高岡市民功労表彰（昭和43年頃）、富山県教育委員会表彰（昭和56年１月15日）、厚生大臣表彰（昭和51年11月24日）、富山県国民健康保険団体連合会理事長表彰（昭和43年11月27日）を受賞しております。

司会　スタディーグループでの勉強会のお話しを聞かせてください。

島田　以前はモリタのスペースラインについて勉強会をしていたことがあります。その他には日本歯科医療管理学会の会員になっております。昨年日本歯科医学総会出席のため帝国ホテルに行きました。保険の審査委員をしていた頃は、たいへん厳しいものがありましたので、大事だと思い保険の講習会は必ず出席しております。

司会　ここで先生の健康法についてお伺いしたいのですが。

島田　特にありませんが、ロータリーに１週間に一度出かけるので、例会場所へは診療室から歩いて行きます。これが健康に良いのじゃないでしょうか。

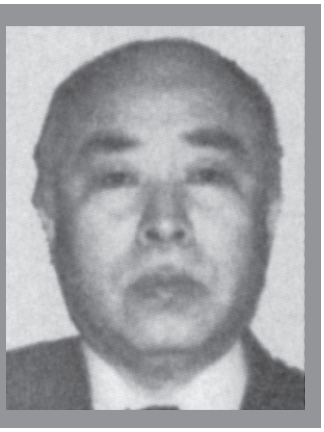
ロータリーの地区大会で35年の皆出席表彰も受けましたが、私は80歳になったらやめなければと思い一時ロータリーを退会しました。しかし他のロータリアンに説得されて再び出席するようになりました。

司会　最後に若い僕等に何か強烈なアドバイスを一言お願いします。

島田　保険、総会等いろんな講習会になるべく出席するようにしてもらいたい。必ず何か役立つことがあります。進んで学んでください。最近若い先生方には出席が少ないように思います。私はできるだけ会合には出席するように努めております。若い先生方には申し訳ないことを言うようだけれどお許しください。

司会　ありがとうございました。ご健康で益々ご活躍されることをお祈り致します。

酒井信義先生に聴く



酒井　信義
東京高等歯科医学校　昭和11年卒業
酒井歯科医院　昭和12年開業（滑川市）

『富山県歯科医師会報 第50巻3号（通算184号）』（平成8年5月発行）より抜粋

今回の会員インタビューで取材（平成８年３月28日）に応じてくださった酒井信義先生が思いもかけず、４月10日ご逝去なさいました。先生のご遺業をたたえ偲ぶとともに心からのご冥福をお祈りします。

司会　本日は御多忙のところ時間をさいていただきましてありがとうございます。

酒井　現在は腰を悪くしましてコルセットをしている為、仕事はほとんどしておりません。

司会　先生は、大正２年生まれの82歳ということですが、ご出身は東京高等歯科医学校（現在の東京医科歯科大学）ですね。

酒井　昭和11年高等歯科を卒業しまして、東京帝国大学（現在の東京大学）の口腔外科に入局しました。鉄門クラブ会員は、現在富山では私一人です。

司会　赤門というのは知っておりますが、鉄門クラブというのは何なのでしょうか？

酒井　一般の学生は赤門から出入りするのですが、医学部は裏側にありましたので鉄門から出入りしました。

東大の口腔外科出身は私と金森元会長の２人だけです。

開業して１年ほどで満州事変がぼっ発し、学校から満州の陸軍病院へいかないかといってきたので、家にいても招集を待つだけだと思いチチハルの陸軍病院へいきました。

そこは氷点下20度と非常に寒さが厳しく身体の調子を悪くしたため、大連近くのルイソンという２千人くらいの患者のいる病院に転勤させてもらい、そこに終戦までいました。

司会　先生が開業された頃、滑川には診療所は少なかったでしょうね。

酒井　奥平先生と飯田先生、そして私の３人ぐらいだったと思います。

司会　その頃は相当お忙しかったのではないですか。

酒井　歯科医の数が少なかったため、学校歯科医も６校担当いたしました。中には千数百名も児童がいるところもあり、４月になると診療どころではなかったですね。

司会　歯科医となられたきっかけは何だったのですか。

酒井　実は医学部も受験しました。試験は自信があったのですが、しばらくして父兄面接にきてくれと通知がありました。父親は教育には無関心だったので面接にいってくれませんでした。結果はだめで、歯科の方を選択いたしました。

司会　資料によりますと、先生は昭和26年の中新川支部長から代議員、学生委員、理事、会館建設委員、県の緊急対策委員、岡田会長の時には県歯の副会長、36年には国保組合の設立準備委員と、要職に永い間ついておられますね。

酒井　役員は30年以上やっております。特に国保組合設立に関してはかなり強引にやりました。

他の県が国保組合をつくっておりましたが富山県にはありませんでした。というのも、300名以上でないと単独の国保組合も認めないという規則がありました。ところが山梨県が富山県より人数が少ないにもかかわらず、どういう方法を用いたのかわかりませんが設立したのです。

歯科医師は、各市町村では国民保険料が高い種類にはいっております。

将来のためにやらなければと思い、岡田会長の時、近北地区に声をかけたのですが各府県とも賛成してくれませんでした。

それじゃまず富山県だけでもと思い、かなり強引にスタートさせました。幸い許可がおり、市町村よりは保険料は格段と安くし、本人は無料としたのですが、富山県だけでは人数が２百数十名と少ないものですから、決算してみると赤字まではいかないけれどぎりぎりのところでした。

その時、たまたま中国地方と四国地方が合併して共同で歯科医師国保組合を設立しておりました。ここがすばらしい成績をおさめていたのでそこに加盟させてもらおうと談判にいったら、規模をもっと大きくして全国レベルにするという話になり、準備の副会長を仰せつかりまして、全国歯科医師国保を発足させました。

司会　準備委員会ができてから何年くらいで発足したのですか。

酒井　会長には栃木県の大塚県歯会長（当時）にお願いし、次の年に発足しました。近北地区全県で入会したかったのですが、依然根強い反対があったため、富山県のみの入会となりました。その後すばらしい成果が認められ、今では近北地区全県が入会しております。

司会　これまでに数多くの表彰をうけておられますね。

酒井　昭和53年に、富山県知事から41年間学校歯科医として勤めたことに対して特別感謝状を授与されたのが私の自慢です。

司会　先生は82歳とは思えないほど顔の色艶も良いのですが、健康法はございますか。

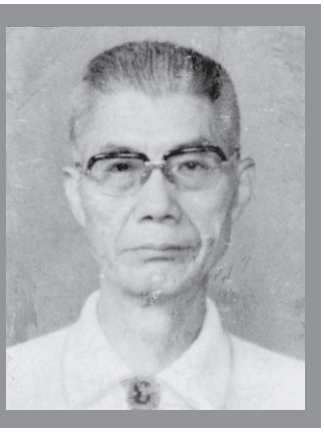
酒井　酒とたばこは一切やりません。学生の頃、山登りで腰を痛めてから無理をしないようにしています。しかし、生活もありますから気力だけで仕事も頑張ってきました。

司会　若い歯科医師に助言を一言お願いいたします。

酒井　皆さんよくやっておられると思います。健康が第一ですので健康に留意して頑張ってもらいたいですね。

司会　本日はなかなか聞くことのできないような貴重なお話を聞かせていただきまして本当にありがとうございました。

小林全二先生に聴く



小林　全二
東京高等歯科医学校　昭和17年卒業
小林歯科医院　昭和20年開業（山田村）

『富山県歯科医師会報 第50巻5号（通算186号）』（平成8年9月発行）より抜粋

司会　お生まれはどちらですか。

小林　大正８年８月29日生まれの77才。生まれたのは、朝日町泊です。旧姓は金森で、祖父は保全堂という薬を扱う仕事をしていました。父は旧制魚津女学校校長、富山市教育課長を経て助役を10年間務め、戦後には朝日町の初代町長となりました。長男が金森保芳で、戦後まもない頃、県歯会長を務めていました。

私は東京高等歯科医学校を卒業して、昭和17年２月１日に入隊し、３年８ヵ月の間、兵隊として富山におりました。戦争中の昭和19年に小林家へ養子に入りました。

戦後、疎開していた山田村で、同20年９月に山田温泉元湯の２室を借りて初めて開業しました。その頃、山田村には診療所はありましたが、無医村でした。当時は冬バスがないので、材料は近くまで汽車に乗り金沢へ買いに行きました。9ヵ月後に、すでに五百石で開業していた義父の全次と共に富山に出て、現在の場所に移りました。昭和31年頃までいっしょに診療し、その後、私が医院を任されました。

小林家は初代が大正６年頃に開業し、義祖父も義父も私も養子で、現在の憲夫が４代目、５代目は現在歯科大の２年生に在学中。３人でいっしょに診療するのが私の希望で、それまで元気でやっていたいですね。

司会　３代目の先生は何人もおられるようですが、５代目とは驚きました。先生のお元気なご様子から、希望がかなえられるものと思います。学生時代はどのように過ごされていたのですか。

小林　同級生に、城端町の及川先生がいます。１学年70～80名くらいおりました。そのうち存命しているのが25～30名くらいです。学生時代は、馬術をやったり、卓球もやりました。スキーは小さい頃からやっていましたが、クラブに属さないで、いろいろとやりました。その当時、学生服は１着30円くらいでした。人体解剖した後によく飲みに行ったものですが、その時、学生服が黒の背広でしたので、黒のネクタイを替え、ソフトをかぶり背広を着て飲みに出かけたものです。

司会　楽しい学生時代でしたね。次に、歯科医師会の代議員をなさっておられた頃のことをお聞かせください。

小林　歯科医師会入会も来年で50年になります。思い出してみるといろいろなことがありました。代議員をしている時に、会長選挙があり、各陣営が会合をあちこちで開いていました。学会や研修会での討論は、いくらやってもいいけれど、政治的なことで会員を惑わすのはあまり良いこととは思いません。選挙後にしこりが残ったので、できれば選挙はない方が良いのではないでしょうか。

また、先生方と草野球をよくやりました。ユニフォームを作って山王さんの境内で家城

圭一先生、松田先生、田谷先生、青木康三先生らとよく練習したものです。岐阜県や石川県と対外試合をやったのも覚えています。ゴルフもやっていましたが、最初は年に５～６回、後にはゴールドマークから打っていました。ゴルフのできない冬場によくマージャンをやりました。マージャンの県大会を２回やって２回とも、私がブロック優勝しました。それ以来大会がないので優勝カップは私の手元にあります。いつかまたマージャン大会をやってもらえませんか。

何事にもめぐり合わせが大事です。めぐり合わせがよければ､すべて良くなります｡研修会のことでは､昭和42年頃に小山哲夫､島秀雄､宮森正次、山田外雄、青木康三各先生たちと、霞ヶ関の納富先生のところへ月１回、１年半通いました。金曜日の夜行列車で行き、日曜日の夜行列車で帰る強行スケジュールでした。そこで高橋日出夫先生が当時助手をしておられた関係で、お世話になった日本歯学センターの田北敏夫先生や寺川国秀先生と知り合いになりました。田北先生は現在、ホテルニューオータニ新館で開業されており、故福田赳夫、故本田宗一郎をはじめ政財界の大物社長の治療もされています。今でも時々伺っては、治療方法を聞いて勉強させてもらっています。同時に社会情勢も聞いたりしています。

我々が昭和40年頃に作った「永久会」という勉強会は、年に１、２回開いて、30年以上続いています。田北先生にも７、８回講師で来富してもらっています。現在はインプラントに興味を持って勉強しているところです。技工については当時、技工士学校はなく、私が、治療の終わった後でポーセレンを焼いたりして技工をやっていました。

司会　現在も現役で診療されていらっしゃるとのことですが。

小林　午前は10時から12時まで、午後は３時から５時まで、古くからの患者さんを10人くらいみることもあります。患者さんと長いつき合いになって信用度が増すと、チェアーの上で安心して患者さんがいびきをかくようになります。それぐらい信用されないといけません。

司会　ストレス解消に何かされていますか。

小林　旅行とマージャンです。井上アタッチメントの学会でスイスに３回、シンガポール、バンコクへ行きました。またインプラントの学会では、ボストンに10日間、ハワイ等、勉強と遊びの両方で行っております。それからマージャンしている時は、全てを忘れることができるので楽しいです。

酒は１日１合程度を３回に分けて飲みます。ドライブも好きで、よく出かけますが、足が弱ったと感じたらデパートの階段をのぼっています。付き合いは二の次で我が道を行くことにしています。

司会　若い会員に助言をいただけたらありがたいのですがお願いいたします。

小林　人の迷惑になるような治療はしないこと。自分が満足し、納得し、また患者さんも満足してくれるような治療をしてほしいです。我々の仕事は形に残るので、これが信用のもとになります。だから十分勉強してください。それから、人の悪口を言わないこと、かばってやるくらいの度量をもって接することも大事です。できる限り学会等に出席して、本に書いてない大切なことはいくらでもありますし、経験談を聞くことも大切です。つまらないことと思っても、わからないことは誰にでも聞いて、自分が納得いくまで勉強することです。自分の仕事あっての人生ですから。

司会　含蓄のあるお言葉をお聞かせいただき、本当にありがとうございました。

大井ハツ子先生に聴く

大井ハツ子
東洋女子歯科医学専門学校　昭和14年卒業
大井歯科医院　昭和15年開業（八尾町）

『富山県歯科医師会報 第50巻6号（通算187号）』（平成8年11月発行）より抜粋

司会　大井先生は大正４年10月29日のお生まれで今年81歳になられますが、ご出身はどちらでしょうか。

大井　香川県木田郡庵治村というところです。最近テレビでも紹介されていますが、「庵治石」という大変良い石が採れるところです。

実家も石屋を営んでいました。当時は大変景気が良く、使用人を20人以上も使って、専用の波止場から神戸、大阪の方へ荒石を積み出していました。

司会　先生は東洋女子歯科医学専門学校を昭和14年に卒業されていますが、学校はどちらにありましたか。

大井　東京の本郷に在りました。学校の舎監からは、寮に入ることを薦められましたが、中野で下宿しておりました。省線（後の日本国有鉄道）に乗って新宿で乗り換え、水道橋で下りて通っておりました。

昔のことですからコンビニ等がありませんでしたので、毎日自炊生活をしておりました。下宿代がいくらだったかは、昔のことなので、もう忘れてしまいました。

司会　当時学費はいくらくらいでしたか。

大井　学費は入学時に全額前納となっていました。卒業までの授業料、実習の器具代まで含めて1400円で、その当時では相当の大金だったと思います。ですから、父親が亡くなったり、家庭の都合で毎年15人ほど学校を辞めていきました。入学時は１学年150人いましたが、卒業時には75人ほどになっていました。それと、戦争が始まってから中国、台湾からの留学生は、資格はもらえたのですが帰国させられました。当時の留学生は授業料、生活費等を全て国から支給されていたので、パーマをかけ、化粧をして贅沢な生活をしていました。ところが、私たちがパーマをかけると先生に大変叱られました。

司会　歯科医を志望された理由をお聞かせください。

大井　実際どうだったのか分かりませんが、子供だった私の知るかぎりでは、高松に歯科医院がありませんでした。ですから、歯の生えかわるときに乳歯の抜歯を普通のお医者さんにしてもらいました。その時、お祭りの晴れ着を着ていたのですが、それに血が付いて大変悲しい思いをした思い出があります。それで女学校時代に歯科医になろうと決心いたしました。

その当時は、女学校でさえ村で３、４人しか行かない時代でしたから、女の子を東京の学校へ進学、まして歯科医にさせるなどということは、近所の人に父が気でも狂ったのかと言われたほどです。今から思えば私もよく一人で東京へ行ったものだと思います。

司会　八尾は大変良い町ですが、富山へ来られたのはご結婚がきっかけだったのですか。

大井　いいえ。「雪が見たかった」というのが一番の理由です。四国では雪があまり降りませんので…。当時、出征をしている人が多く、学校にたくさんの求人がきておりました。それで雪を見たさに八尾の大井歯科医院に決めました。

その頃雪が大変多く、雪が積もるとあたりがシーンと静かになります。その静けさが好きで、八尾で永久就職することになりました。最初は半年から１年ほどで郷里へ戻って父の用意してくれていたところで開業しようと思っていました。親が八尾に来た時、「一緒に帰ろう」と言われたこともありましたが、結局一生八尾にいることになりました。

司会　ご主人が出征されてからの苦労話等がありましたらお聞かせください。

大井　昭和16年から21年まで出征しておりましたが、そのころは患者が多く、１日（朝８時から夜10時頃まで）100人ほども診ておりました。

主人が出征して１年ほど経った頃、材木の下敷きになり下顎を骨折した小学校５年生の男の子が運ばれてきたことがありました。「さて、これはどう処置したものか」と悩みましたが、矯正で使っていたシーネで固定しようと思いつき、やってみたところ１ヵ月ほどで良くなりました。

患者さんに、どうしたら良いか分からないと言うわけにもいかず、何でも自分でこなさなければという気持ちで頑張りました。主人と仕事をしている時に「そんなことも知らんのか」と怒鳴られるのが癪にさわるので、私も負けん気が強い方ですから、横からコッソリ主人の仕事を覗いて技術を吸収したことが良かったのだと思います。

馬に蹴られ骨折した患者さんを、技工士の和田さんを助手に処置していたところ、彼が血を見て、あまりのひどさに貧血を起こして倒れてしまったことなども思い出されます。

主人が居なかったおかげで何でもこなせるようになりました。縫合等、今にして思えば我ながら大変うまくやれたと思います。

司会　今でも現役で仕事をされているそうですが、１日何人くらい診ておられるのですか。

大井　最近手の具合が良くないため診療室にはでておりません。

義歯の排列等の技工を中心に仕事をしております。最近、義歯が多く大変なのですが、仕事を辞めるとボケてしまいそうなので忙しくても頑張って技工をしております。

昔からの患者さんから「今でも元気でやっておられるのですね」と声をかけられることが度々ありますが、それが生き甲斐の一つになっているように思います。

司会　ご入会当時、女性会員の親睦会や旅行等はありましたか。

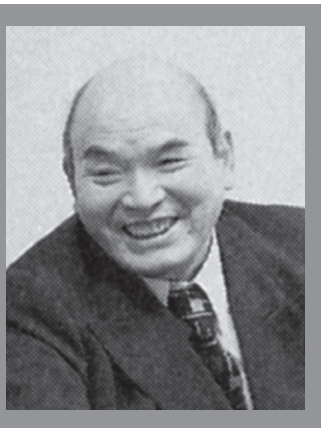
大井　少したってから、そういう会ができました。会からではありませんが、旅行は関先生とよく行きました。私と関先生は、同じ年に主人を亡くしたものですから、その翌年から毎年海外旅行へ行こうということになり、学会にかこつけて世界中をまわりました。イギリス、フランス、トルコ、中国にはじまり、アフリカの南端の喜望峰へも行きました。ロシア以外の主要な国へは、全部行ったような気がします。

司会　81歳でも現役でご活躍されていますが、特別な健康法がございますか。

大井　特別なことはしておりません。骨折で入院した以外、大きな病気はありません。やっぱり１番は、今でも仕事を続けていることだと思います。

司会　貴重なお話をお聞かせいただきありがとうございました。

魚津竹男先生に聴く



魚津　竹男
大阪歯科医学専門学校　昭和25年卒業
魚津歯科医院　昭和29年開業（入善町）

『富山県歯科医師会報 第51巻2号（通算189号）』（平成9年3月発行）より抜粋

司会　先生は現在おいくつになられますか。

魚津　今年の１月で76歳になったところです。大正10年に舟見町で、５人兄弟の三男として生まれました。

小学校は舟見小学校で、当時１クラス55人と今では考えられないくらいの人数でした。走るのが速くて、６年生の頃には陸上とバスケットボールで活躍し、他校との試合で決勝まで進みました。また、冬にはスキーの不倒競争で、１等の賞状をもらったことを嬉しく覚えています。小学校、中学校と合わせて11年間皆勤賞でした。ですから、今の子供たちの登校拒否というのは、私には考えられないことです。

司会　その後、どうされましたか。

魚津　日本大学法文学科に入り、そこで法文学科・商経学科の弁論部に入部。２年後に常務委員になりました。

また、戦争中でしたから陸軍戸山学校で毎週土、日曜日に銃剣道の指導をうけ、初段をいただき、そこでもまた他の学生の指導的立場を努めました。

司会　歯科の道は、どういう動機で進まれたのでしょうか。

魚津　軍隊に行く前に、既に二人の兄が歯科に進んでいました。私は当時、あまり歯科への興味はなく、兄に薦められるも気が進みませんでした。それで文系に進み、戦争に行けば生きては帰れないと思っていたのが終戦。世の中も変わり、就職や生活の安定を考えると歯科医師となるのが良いとの母親の強い勧めで、大阪歯科医学専門学校（現在の大阪歯科大学）へ進みました。

入学は、終戦翌年の昭和21年です。新入生には、若い中学校出身者に混じり陸大（陸軍大学校）、陸士（陸軍士官学校）、海兵（海軍兵学校）出身の将校や幹部候補生将校、下士官といった者も多く、講師が応対に戸惑うといった異色な学年でした。同級生は330人はいたでしょうか。私は１年から卒業まで総代を務め、大学記念祭の委員長もしました。県下での同級生は、大島輝哉先生、寺島祐輔先生、亡き高野秀次郎先生です。

卒業後、研究生として１年間残った後、母のたっての頼みで帰省を決心し、学長の学校に留まるようにとのありがたい説得を後に、富山に戻りました。

昭和26年から２年間、富山市民病院に勤務し、その後舟見町にて学校歯科医として開業致しました。

当時、初診料は５点だったと記憶しております。朝７：30から夜７：30まで診療をし、１日70人位診ておりましたが、このまま一開業医として日々の暮らしに溺れたくないと思い、昭和31年より４年間、金沢大学医学部第１解剖学教室（組織学）の研究生となり、醫

学博士号を取得しました。その教室は、当時大学内でも特に厳しかったため研究生は少なく、途中でやめられる先生もおられたほどで、私も途中幾度か入らなければ良かったと後悔したものです。

その後、昭和38年に現在の入善に移転致しました。

司会　本会で成された仕事で思い出に残ることはございませんか。

魚津　『富山県歯科医師会七十年のあゆみ』にありますので省略しますが、昭和39年の舟橋の旧歯科医師会館建設の折、順調に鉄筋作業も進むなか、突然会員の一部から建設資金出費を拒み、建設反対意見が臨時会員大会で出されました。

私は建設実行委員をしておりましたので、「この期に及んでなんと困った問題が起こった」と当惑しましたが、さまざまな意見が飛び交う中、私は思い切って会員の前で、「多くの皆様の好意と努力で、できあがりつつあるものを、ここで止めてしまっては、富山県歯科医師会は、市のみならず、県民の皆様の信頼を失うばかりか、嘲笑すら買いかねない。如何なることがあろうとも、完成するまでやるべきではないですか」と、発言してしまいました。

沈黙の後閉会し、そのためかどうかは判りませんが、工事は続行となり、当時としては立派な建物ができたと喜んだものです。その他、歯科技工士学院開設にも尽力させていただきました。

司会　その他に何か思い出はございますか。

魚津　大阪歯科大学の同窓会の理事を昭和50年から、13年間やりました。始めは、珍しくもあり名誉と思ってやって参りましたが、毎月平日に理事会があり、10年もするとこれは大変と思い、途中で止めさせてくださいと申しましたが、会長に引き止められ、何とか続けました。

司会　先生の健康の秘訣は何でしょうか。

魚津　診療は、現在は義歯を中心にやっております。酒もタバコもやりませんし、庭の手入れ、駐車場や家の周りの掃除等、日常生活で意識して体を動かすようにしております。時々、近くの海岸にも自転車で散歩に出たりします。また頭の訓練のため、株式投資など少々やっております。

司会　最後に、県歯科医師会の会員になられて45年あまりになりますが、会に対して感じておられること、また若い人たちへのお言葉をいただけますか。

魚津　昔のように大学間の悪い意味での意識が無くなり、会の運営もうまくいっているのではないですか。若い先生方には健康に留意され50歳を過ぎたら診療時間を長くしないで、マラソンのランナーのように、無理せず長く頑張っていただきたいです。

基督は愛を説き
孔子は仁を教え
釈迦は慈悲をたれました

基督、孔子、釈迦の３聖人の説くところは、真心の道を教えているのだと、私は理解しております。また、そのように今日まで生きてきたつもりです。

司会　本日はありがとうございました。今後共、ご健康で益々ご活躍されることをお祈り致します。

吉田　茂先生に聴く

吉田　　茂
東京医学歯学専門学校　昭和19年卒業
吉田歯科医院　昭和21年開業（八尾町）

『富山県歯科医師会報 第51巻6号（通算193号）』（平成9年11月発行）より抜粋

司会　お生まれはどちらですか？

吉田　八尾生まれの八尾育ちです。

司会　おいくつになられましたか？

吉田　75歳と11ヵ月になりました。

司会　先生は現在も現役で診療なさっておられますが、先代も歯科医でいらっしゃいましたか？

吉田　いいえ。私がまだ小さい時に両親が亡くなりまして、祖父と吉田の叔父に育てられ、昭和17年に吉田の家に入籍致しました。

司会　学生時代はいかがでしたか？

吉田　昭和16年４月に東京高等歯科医学校に入学しました。未だに頭にこびり付いていますのが、同年12月８日の昼休み、キャッチボールをしておりました時に聞いた真珠湾攻撃の放送です。この時には大変びっくりさせられたものです。

この戦争で20年３月卒業のところ、繰り上げとなり19年９月に卒業致しました。

司会　当時は１学年何人でしたか？

吉田　Ａ組Ｂ組各40名ずつで、生徒数は80名でした。

司会　県内で同級の方はおられましたか？

吉田　北陸では私１人でした。同窓では５人おいでになりました。

司会　先生の健康法は何でしょうか？

吉田　散歩でしょうか。片道30～40分、歩数にして７千～８千歩になります。また、散歩のかたわら、感じたことを短歌にするのも楽しみにしております。

他にも楽しみと言えば、信楽焼の徳利で飲む１合半の晩酌がありますが、体のことを考え、なるべく月・火曜日は休肝日としております。

司会　歯科への道をお選びになったのは、どのような理由からでしょうか？

吉田　祖父の親友・長尾さんの息子さんが、東京高等歯科医学校の技工士養成科の主任をなさっておいでになり、そのつてで養成科へ入りました。しかし、どうしても本科（高等歯科）へ進みたくて、昭和16年３月に合格したのがそもそもこの道に入った始まりです。

私が在学中の昭和18年には、東京医学歯学専門学校と学校名が改められました。

当時は、卒業と同時に兵役に就くことが多かったのですが、私は金沢医科大学（現金沢大学医学部）に進み、海軍軍医学生になりました。

昭和19年５月に祖父が亡くなり、翌20年の終戦で今後どの道に進むべきか迷いましたが、金沢市野町で開業なさっておいでになる清水先輩を訪ねて相談し、開業の手ほどきを受け、また金沢市尾張町の佐波歯科材料店の親爺さんと親しくしていたものですから、幸い倉庫に残っていたユニットを１台分けて貰って、どうにか開業の準備を進めることができました。

当時は何も無い時代ですから、ユニットの代金替わりに米を持って行きまして、それが大層喜ばれたのを覚えております。

司会　開業はいつでしたか？

吉田　昭和21年２月５日、自宅の１室を改造してのスタートでした。

司会　昭和36年より42年まで社保、国保、社保と理事をなさっておいでになり、また昭和48年には医療管理の理事をなさっていらっしゃいますね。

吉田　医療管理、税務は昭和48年よりできた部門で、水野副会長から電話で「医療管理を引き受けてくれないか」とのお話がありまして、辞退しようとも思ったのですが、同窓の先輩のお誘いということもあって、お引き受けすることに致しました。

司会　先生の「吉田茂」というお名前で損得はございますか？

吉田　損をしていることが多いですね。当時、隣家が歌手で有名な伊藤久男であったため、風の盆で来ていた観光客が、２軒並んだ有名人の表札を見る度ビックリしていたのを覚えております。また、ある時、北日本新聞社の記者が来まして「県内で私と同姓同名の人を集めているので経歴を聞かせてほしい」ということもありました。

司会　最後に、若い歯科医に何かお話をいただければ幸いですが？

吉田　私の祖父は厳格な人で、子供の頃、食事の際に時々話していたなかに、次のような言葉がありました。

“人の一生は重荷を負うて遠き道を行くが如し。急ぐべからず”（家康遺訓の一節）

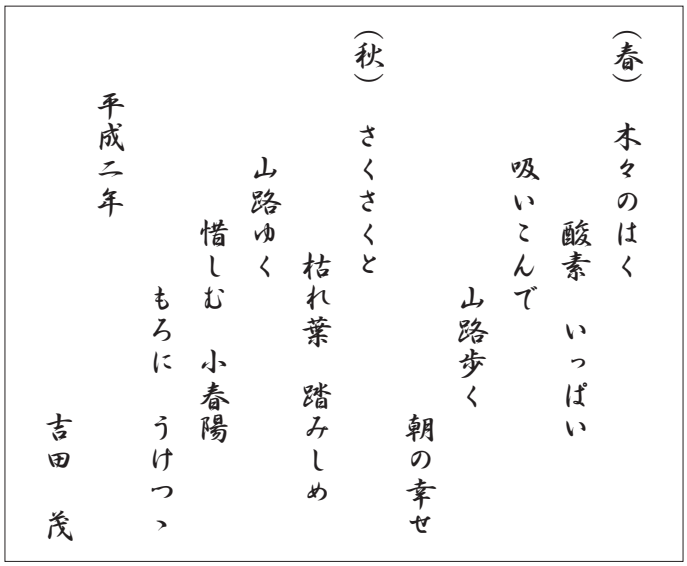
“明日ありと思ふ心のあだ桜 夜半（よわ）に嵐の吹かぬものかは”（親鸞）

私共が在学中は、歯科医専が全国で７校でしたが、現在では歯科大学が28校に増えており、歯科医数も相当なものです。終戦後の歯科医療の需要アンバランスと現在の需要アンバランスは、全く反対の様相を呈してきています。

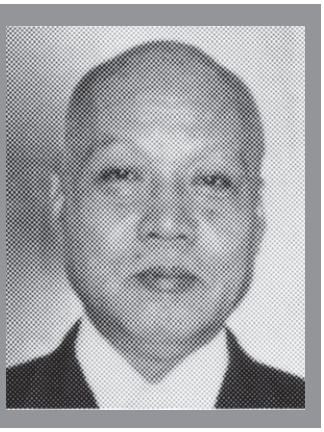
私共の若い頃は、歯科医は希少価値がありました。また、それだけに仕事も大変でした。これからは、経営上先生方の歩まれる道も大変だと思います。

日進月歩の世の中では、人に遅れぬようによく勉強していただき、苦難の道を立派な歯科医として、又また良識ある社会人として頑張っていただくことを期待しております。

司会　先生、本日は本当に長い間ありがとうございました。



杉江玄己先生に聴く



杉江　玄己
東京歯科医学専門学校　昭和19年卒業
杉江歯科医院　昭和33年開業(富山市)

『富山県歯科医師会報 第52巻2号(通算195号)』(平成10年3月発行)より抜粋

司会　先生は、お幾つになられましたか。

杉江　大正12年生まれで74才です。

司会　お生れはどちらですか。

杉江　生まれたのは富山市の古鍛冶町で、小学校時代は神通町で過ごし、父親が戦争に行ったため、その後覚中町（今の西町）にあった実家に移り、そこで神通中学校時代を過ごしました。孟母三遷（もうぼさんせん）の教えではありませんが、いろいろと変わりました。

司会　ご両親が教育熱心でいらっしゃったのでしょうか。歯科の道を選ばれたのは？

杉江　父親が歯科医で開業しておりました。私自身はあまり好きな道ではなかったのですが、父親の勧めもあり、一度くらいは親孝行をしようかと思い、試験を受けました。それでも入りたくなかったのでしょうね。英語の答案は答えを書きませんでしたが、なんとか東京歯科医学専門学校(現在の東京歯科大学)に合格しました。

司会　学生時代のお話を聞かせてください。

杉江　当時の若者は軍人になりたい人が多く私もその一人でしたね。

ちょうど、入学した年に陸軍・海軍の委託制度というのができまして、私は真っ先に飛びつきました。学校に通いながら軍隊（国）から１ヵ月35円の給料が貰えるわけです。１ヵ月50円あれば下宿代と生活費が出るほどですから結構な金額でした。ですから厳しい試験があって、倍率は、なんと25倍の狭き門でした。

英語（または独語)、物理、化学、生物、数学の中から３科目選択でした。物理は工学部志望だったので得意、生物はちょうど学校で習った問題が出たので、やはり満点でして楽勝でした。私の学校からは５名、全国でも15名しか合格しませんでした。

司会　すごいですね。流行のことばで言えば自分を誉めてあげたい、という感じですね。委託学生のお話をもう少しお聞かせください。

杉江　普段は普通に学校に通っていましたが夏休みなどは軍事訓練を受けました。１年目は近衛第一連隊、２年目は近衛第二連隊、３年目は世田谷の上馬にあった近衛騎兵連隊に所属していました。軍隊では乗馬の訓練もあり、学校では馬術部に入って、朝飯前に馬の運動をかねて多摩川まで遠乗りしたものでした。「委託学生」というのは学生服に星の記章を付けておりまして、それを付けていると部隊への出入りが自由でした。

部隊の売店には甘いものなど沢山あり、お金にも不自由していなかったので、いつも下宿に買って帰っていました。それを目当てかどうか、物の無い時代でしたから、友達も沢山下宿に集まって酒盛りならぬ茶飲み会で騒いでおりました。

司会　先生は明倫学館のご出身ですか。

杉江　１年間ほどしかおりませんでした。家賃は月15円だったでしょうか、お人好しというか友人が家賃を払えないというのでその分を貸してあげたため、自分の家賃が２ヵ月も滞ってしまい、館長と喧嘩になって飛び出してしまいました。当時は下宿が多く、やれ飯がまずい、夜締め出されたなどで、３年半の間に８回も引越しをしました。家からの仕送りが50円と給料の35円とで結構優雅な生活ができました。

一期上の先輩には石黒悦朗、倉田卓、辻敬吉、藤井三郎、宮本乙男、吉岡達雄先生（以上故人）、そして青木康三、島信行、島秀雄、山崎安隆先生と10人もおられて、その先生方の送別会ともなると千保利、青木進、松田正男先生（以上故人）と高橋日出夫先生、私の５人でお金を出しあうわけですから、１ヵ月分の給料がパーッと飛んでしまいました。

司会　随分とリッチな学生生活でしたね。それで卒業後はどうなさいましたか。

杉江　私たちの時代は３年半の繰り上げ卒業でした。卒業と同時に昭和19年10月１日付で大阪の中部28部隊に入隊し、歩兵科で訓練に明け暮れました。12月には陸軍歯科医少尉に任官され、戸山の陸軍軍医学校（現在の早稲田実業学校の近く）に入学しました。

野戦病院の配置や防疫の仕方などの戦術の講義ばかりを聞かされ、翌年６月に卒業となり、中部管区司令付きとなったのですが、少尉と言ってもペイペイで、上官に敬礼ばかりしているのが嫌になって臨時名古屋第二陸軍病院に配属してもらいました。その後すぐ終戦を迎え、11月30日に富山に帰ってきて五福にあった国立病院に勤務したわけです。しかし事務的な仕事ばかりで臨床をしようにも器械もなければ患者さんもいないので、つまらなくなり大学の口腔外科に戻りました。

ところが職業軍人（現役軍人）はマッカーサー指令による追放令Ｇ項該当で教職員、公務員として大学に勤めてもらっては困るということで追い出され、軍隊時代の上官に請われて昭和23年に富山の日清紡績の歯科診療所に勤務することになりました。

司会　戦争を経験された先生方は、我々には想像もつかないご苦労をなさっているのですね。富山に戻ってこられてから開業医になられた頃のお話を聞かせてください。

杉江　家は戦災で焼失、現在地で父が開業していたのですが昭和33年に診療室、住宅を新築したのを機に日清紡績を退職して一緒に診療を始めたのです。

司会　歯科医師会の役職もいろいろなさっていらっしゃいますが。

杉江　開業した頃は父親が監事をしておりその間はいっさいしませんでした。

歯科技工士養成所を作ろうということで、たまたま厚生省に親戚の者が勤めていたこともあり昭和38年から準備委員を務めました。設備を揃えるのが大変で鋳造器等はあったのですが、検査器械は高岡工業試験場から借りて申請をしました。その頃のことは中島忠一先生が話しておられましたので省略しますが、44年～54年まで５期にわたって歯科技工士学院の、そして54年～56年にかけて総合学院歯科技工士科の理事と講師を務めました。

司会　最後になりましたが後輩の会員の方に一言お願いします。

杉江　「今の若い者は…」と言う方がおられますが、誰でも皆、若い頃はあったのです。それを考えたら、特に言うつもりはありませんし、それが一番良いのではないですか。

司会　本日はありがとうございました。

山口清衣先生に聴く

山口　清衣
東洋女子歯科医学専門学校　昭和21年卒業
山口歯科医院　昭和30年開業（魚津市）

『富山県歯科医師会報 第52巻4号（通算197号）』（平成10年7月発行）より抜粋

司会　女性にお歳をお聞きするのは失礼かと思いますが、先生は大正13年のお生まれということですが、おいくつになられましたか？

山口　まもなく74歳になります。

司会　お生まれはどちらですか？

山口　新潟県の糸魚川です。

司会　魚津で開業された理由をお聞かせください。

山口　最初、主人の故郷の青森県弘前市で開業してはと考えたのですが、たまたま友人に魚津を紹介され、いろいろ迷った結果、実家の糸魚川に近いし、急行が停車する駅であることにインパクトがあり、魚津に決めました。魚も果物もおいしい本当にいいところへ来たと思っております。

司会　歯科医の道を選ばれた理由をお聞かせください。

山口　一番上の姉が歯科医で、末っ子の私とかなり歳が離れていたものですから、父はその歯科医院を継がせたかったらしいです。私自身としては他の方向の学校へ進みたかったのですが、父の意向に添って歯科の方を受験し、歯科医になることで親孝行になったと云うことになりますね。

司会　先生は東洋女子歯科医学専門学校のご出身ですが、学校はどちらにあったのですか？

山口　学校は東京の本郷にありました。富山県の同期では黒部の峰村綾子先生がおられ、東洋女子歯科入学時は、120人くらいおりましたが、卒業時には80人になっていました。

司会　先生の学生当時の思い出をお聞かせください。

山口　私が入学した昭和16年４月は、戦争の影響でその頃からぽつぽつ食料品や衣類が無くなってきておりました。当時私は寮生活をしていたので、実家から母がよく、白米や海産物を大きな荷物で送ってくれました。

昭和20年３月の東京大空襲の時は、寮にも焼夷弾がどんどん落ちてきて、今思えば笑い話ですが、バケツリレーで水をかけておりました。残念なことに、当時の大事な角帽や写真などがほとんど焼けてしまい、命からがら逃げたのを記憶しております。

東京大空襲によって学校が甲府に移転した頃は、ちょうど臨床に入る時期だったので、甲府で開業している卒業生の元で臨床実習をさせられました。ところが、その15日目に、今度は甲府が全滅するような大空襲があり、近くの荒川に飛び込んで逃げ回りました。焼夷弾がどんどん流れてきて、とても怖かったのを覚えています。

そんなことで、学校から「甲府にいた学生は、家が歯科医である場合は自宅で臨床を行ってもよい」という指示があり、姉が開業している実家に戻り、自宅待機というかたちで

他の学生さんより比較的楽な生活をしました。

卒業式は昭和21年３月、学校が焼失していたため湯島天神で行われ、時期的に梅がきれいに咲いており、梅を見ながらの卒業式は感慨深いものがありました。

その後実家へ戻ったのですが、どうしても臨床の勉強をしたいと思い親を説得して母校に入りました。ところが、入ったのはいいのですが、勉強などほとんど無く学生を卒業させるための手伝いばかりでした。困っていたところ、矯正の教授から「東京医科歯科大学へ見学生として入ったらどうですか」と言われ、学長に推薦状を書いてもらいました。それで口腔外科教室に見学生として入学させていただきました。当時の制度として研究生と見学生があり、見学生は無料でした。その時、口腔外科教室の部長であった中村平蔵教授の「研修生も見学生も区別することなく、勉強を志すものは平等にしなさい」とのお言葉により、授業料を払うことなく研修生と同様の勉強をすることができました。その時、教室には、たまたま内地留学をされていた石川静郎先生がおられました。

司会　現在ご家族は何人おられますか？

山口　娘が一人おります。結婚して神戸に住んでおりますので、今は主人と二人だけです。

司会　開業されたのはいつですか？

山口　昭和30年８月30日魚津大火の10日前でした。大火の時は随分心配しましたが、幸いにも難を免れ、本当によかったと思いました。

司会　先生のご趣味をお聞かせください。

山口　主人も私も動物が大好きで、一時６匹の犬を飼っていたことがあります。現在はチロという名前の老犬だけが同居しています。

家の庭の池に友人から譲り受けた石亀を放したところ、自然に繁殖して今年も20匹ほどの子亀が生まれ、親亀、子亀合わせると70匹ほどになりました。子亀たちは朝起きて私の顔を見ると、エサが欲しくて寄ってくるので本当にかわいいですよ。

また、年寄りのトンビのつがいや、カラスがエサをねだりに庭にやってきます。私も主人も動物が大好きですから、ついついエサをあげているうち習慣になってしまい、毎日飛んでくるようになりました。

司会　最後に、若い会員に何かお言葉をいただきたいと思います。

山口　若い先生方は、皆さんしっかりして立派な方々ばかりですので、別段申し上げることはございませんわ。

私自身は、これからの短い人生一日一日を大切に送りたいと思っております。

司会　今日は長時間にわたり貴重なお話しをお聞かせいただきありがとうございました。これからも、ご健康で益々ご活躍されることをお祈りいたします。

一世紀録

富山県歯科医師会100年史

資料編

現行定款

第１章　総　　則

（名　称）

第１条　本会は、一般社団法人富山県歯科医師会という。

（事務所）

第２条　本会は、主たる事務所を富山県富山市五福字五味原2741番２に置く。

第２章　目的及び事業

（目　的）

第３条　本会は、日本歯科医師会及び郡市歯科医師会との連携のもと、歯科医学・歯科医療に携わる歯科医師を代表する公益団体として、医道の高揚、国民歯科医療の確立、公衆衛生・歯科保健の啓発、並びに歯科医学の進歩発達を図り、もって国民並びに会員の健康と福祉を増進することを目的とする。

（事　業）

第４条　本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行なう。

⑴　医道高揚に関する事項

⑵　社会保障制度における国民歯科医療の確立に関する事項

⑶　公衆衛生・歯科保健の研究と国民への普及啓発に関する事項

⑷　歯科医学・歯科医療の進歩発展に関する事項

⑸　歯科医学教育の研究と整備に関する事項

⑹　歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士及び歯科補助者の研修に関する事項

⑺　国民及び会員への広報活動に関する事項

⑻　富山歯科総合学院の運営に関する事項

⑼　富山県歯科保健医療総合センター運営に関する事項

⑽　会員の福祉・歯科医業の向上に関する事項

⑾　その他本会の目的を達成するに必要な事項

２　前項各号の事項を実施するに必要な規則は、別に定める。

３　第１項各号の事業は、富山県において行うとともに必要に応じて県外でも行うものとする。

第３章　会　　員

（会　員）

第５条　本会は次の会員をおく。

⑴　正会員

⑵　準会員

２　前項の会員の資格は１人いずれか１個とし、重複して取得することはできない。

３　第１項第１号の正会員のうち、栄誉の敬称である終身会員は、別途規則に定める。

（正会員の資格の取得）

第６条　第５条の正会員は、日本で歯科医師の免許を受けた者で、かつ、富山県内に就業所または住居を有する歯科医師のうち、本会の目的及び事業に賛同した者とする。ただし、本会が承認した郡市を区域とする歯科医師会（以下「郡市歯科医師会」という。）の会員（富山県歯科医師会の正会員に相当する会員）に限る。

２　本会に入会しようとする正会員は、別に定める入会申込書に入会金を添えて、郡市歯科医師会を経て本会へ提出し、理事会の承認を受けなければならない。

３　正会員は、前項の手続きを経て、同時に日本歯科医師会の会員となる。

（正会員の権利）

第７条　正会員は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律に規定された次に掲げる社員の権利を、第４章代議員と同様に本会に対して行うことができる。

⑴　同法第14条第２項の権利（定款の閲覧等）

⑵　同法第32条第２項の権利（代議員名簿の閲覧等）

⑶　同法第50条第６項の権利（代議員の代理権証明書面等の閲覧等）

⑷　同法第51条第４項及び第52条第５項の権利（議決権行使書面の閲覧等）

⑸　同法第57条第４項の権利（代議員会の議事録の閲覧等）

⑹　同法第129条第３項の権利（計算書類等の閲覧等）

⑺　同法第229条第２項の権利（清算法人の貸借対照表等の閲覧等）

⑻　同法第246条第３項、第250条第３項及び第256条第３項の権利（合併契約等の閲覧等）

２　正会員は、本会の行事、学会及び講習会等に出席し、協力し、又は意見を述べることができ、本

会から発行する会誌その他の印刷物の頒布を受け、又は購入することができる。

（正会員の義務）

第８条　正会員は、代議員会の決定事項に服する義務を有する。

２　正会員は、本会所定の会費及び負担金等を本会へ支払う義務を負う。

（任意退会）

第９条　正会員が、本会を退会しようとするときは、その旨を記載した書面を郡市歯科医師会を経て本会へ提出しなければならない。

２　退会しても、支払った入会金、会費及び負担金の返還を受けることはできない。

（身分喪失）

第10条　郡市歯科医師会の会員（富山県歯科医師会の正会員に相当する会員）たる身分を喪なった者は、当該歯科医師会の通知があったときから本会の正会員たる身分を喪なうものとする。

（会費等の未納に伴う退会）

第11条　本会は、正会員が１年以上又は１年分に相当する会費若しくは負担金を支払わぬときは､催告し、なお支払わぬときは、退会させることができる。

２　前項により退会した者が、６箇月以内にその未払金を支払ったときは、理事会の承認を得て、正会員の資格を復すものとする。

３　本条の退会については、第12条第３項の規定を準用する。

（戒告・除名）

第12条　正会員であって、次の各号の一に該当するものは、戒告、正会員の権利（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の社員の権利を除く。）の一部停止、除名することができる。

⑴　歯科医師としての職務をけがした者

⑵　本会の体面をけがした者

⑶　本会の綱紀をみだした者

⑷　正会員たる義務を怠った者

２　前項に規定する戒告､正会員の権利の一部停止、除名は、裁定委員会の決議、理事会の決議を経て、代議員会の決議を経るものとする。ただし、代議員である正会員の除名については、第15条第１項による。

３　前項により除名したときは、その旨及び理由の概要を記載した書面をもって、所属の郡市歯科医師会及び本人に通知する。

４　本会から除名された者は、５年を経過した後、裁定規則に従い、理事会の決議を経て再入会することができる。

（準会員）

第13条　準会員は、本会の正会員としての権能を有しないが、本会主催の歯科医学会に出席し、その学術研究を発表し、又は本会の会誌及び刊行物を受けることができる。

２　準会員の資格、入会、退会、除名及び会費、負担金等の必要事項は、別途規則に定める。

第４章　代　　議　　員

（代議員の選出）

第14条　本会は、代議員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の社員とする。

２　代議員の数は、概ね正会員15人の中から１人の割合をもって選出する。

３　代議員を選出するため、郡市歯科医師会において本会の正会員による選挙を行う。ただし、郡市歯科医師会に代議員会が存在する場合には代議員会において選挙を行う（郡市歯科医師会の正会員が他の正会員と等しく代議員選挙に立候補する権利並びに選挙する権利を有する場合に限る。）。なお、郡市歯科医師会代議員のうち、本会の正会員でない者は、本会代議員選出についての議決権を有しない。代議員選挙を行うために必要な規則は別に定める。

４　代議員は正会員の中から選ばれることを要する。正会員は、前項の選挙に立候補することができる。

５　第３項の代議員選挙において、正会員は他の正会員と等しく代議員を選挙する権利を有する。理事又は理事会は、代議員を選出することができない。

６　第３項の代議員選挙は、２年に１度に実施することとし、代議員の任期は、選任後最初の７月１日から２年間とする。ただし、任期満了時において、代議員が代議員会決議取消しの訴え、解散の訴え、責任追及の訴え及び役員解任の訴え（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第266条

第１項、第268条、第278条、第284条）を提起している場合（同法第278条第１項に規定する訴えの提起の請求をしている場合を含む。）には、当該訴訟が終結するまでの間、当該代議員は上記訴えに関する限りにおいて社員たる地位を失わない（当該代議員は、代議員会において解散以外の事項については議決権を有しないこととする。）。なお、当該代議員は、第２項の代議員の数に含まないものとする。

７　後任として選出された代議員の任期は、前任者の残任期間とする。

（代議員の資格の喪失）

第15条　代議員会は、正当な事由があると認められる場合には、総代議員の３分の２以上の多数による決議により､代議員の資格を喪失させることができる。この場合、その代議員に対し、代議員会の１週間前までに、理由を付して資格喪失に関する議案の内容を通知し、代議員会において弁明の機会を与えなければならない。

２　前項の他、代議員は、次に掲げる事由によって代議員の資格を失う。

⑴　第10条により正会員の資格を喪ったとき

⑵　郡市歯科医師会の所属を変更したとき

⑶　辞任したとき

⑷　死亡又は退会

第５章　代議員会

（構　成）

第16条　代議員会は、すべての代議員をもって構成する。

２　前項の代議員会をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の社員総会とする。

（権　限）

第17条　代議員会は、次の事項について決議する。

⑴　正会員の除名

⑵　役員の選任又は解任

⑶　役員の報酬等の額

⑷　事業計画及び収支予算書を記載した書類の承認

⑸　貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認

⑹　定款の変更

⑺　解散及び残余財産の処分

⑻　入会金の額並びに会費及び負担金等の額

⑼　その他代議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

（開　催）

第18条　代議員会は、定時代議員会として毎年度６月に開催するほか、必要がある場合に臨時代議員会を開催する。

（招　集）

第19条　代議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき会長が招集する。

２　総代議員の議決権の５分の１以上を有する代議員は、会長に対し、代議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、代議員会の招集を請求することができる。

（議長・副議長）

第20条　代議員会の正副議長は、代議員選挙後最初に開催される代議員会で選出する。任期中にいずれかが欠けた場合には、代議員会で選出する。

（議決権）

第21条　代議員会における議決権は、代議員１名につき１個とする。

（決　議）

第22条　代議員会の決議は、総代議員の議決権の過半数を有する代議員が出席し、出席した当該代議員の過半数をもって行う。

２　前項の規定にかかわらず、次の決議は、総代議員の議決権の３分の２以上に当たる多数をもって行う。

⑴　正会員の除名

⑵　監事の解任

⑶　定款の変更

⑷　解散

⑸　その他法令で定められた事項

３　理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第１項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第24条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

（議事録）

第23条　代議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2　議事録は、議長及び当日議長の指名した出席代議員２名がこれに署名捺印し、これを本会に保管する。

第６章　役　　員

（役員の設置）

第24条　本会に次の役員を置く。

理　事　　21名以内

監　事　　２名以内

2　理事のうち、１名を会長とする。

3　前項の会長をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の代表理事とする。

4　副会長、専務理事及び常務理事をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第91条第１項第２号の業務執行理事とする。

5　前項のほか、理事会の決議をもって業務執行理事を選定することができる。

6　役員及び代議員は、互に他を兼ねることができない。

（役員の選任及び解任）

第25条　役員は、代議員会の決議によって選任及び解任する。

2　代表理事及び業務執行理事は、理事会の決議によって選定する。

3　役員は、正会員の中から選任する。

（理事の職務及び権限）

第26条　本会においては、理事会の決議により、次の役職を置く。

2　会長は、本会を代表し、会務を統轄する。

3　副会長は２名とし、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けた時は、予め理事会で決めた順位に従い、法人の代表を伴わない業務執行のみを代行する。

4　専務理事は１名とし、会長の旨を受けて会務を掌理し、会長及び副会長共に事故があるとき又は会長及び副会長共に欠けたときは、法人の代表を伴わない業務執行のみを代行する。

5　常務理事は４名以内とし、会長の旨を受けてその担当業務を掌理して専務理事を補佐し、専務理事が事故あるときは、予め理事会で決めた順位に従い、専務理事の職務を代理し、その欠けたときは、その職務を代行する。

6　前各項に定める以外の業務執行理事は、会長の旨を受けて会務を分掌し、予め理事会で決めた順位に従い、常務理事共に事故あるときは、その職務を代理し、総て欠けたときは、その職務を代行する。

（監事の職務及び権限）

第27条　監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2　監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、本会の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

（役員の任期）

第28条　役員の任期は、選任後２年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時代議員会の終結の時までとする。

2　補欠として選任された役員の任期は、前任者の任期の終了する時までとする。

3　増員として選任された理事の任期は、他の役員の任期の終了する時までとする。

（任期満了等における前任者の職務）

第29条　理事又は監事は、法令に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

（役員報酬）

第30条　役員に対して、その職務の対価として、代議員会において別に定める報酬等の支給の規則に従って算定した額を代議員会の決議を経て支給することができる。

（責任の免除）

第31条　役員は、その任務を怠ったときは、本会に対し、これによって生じた損害を賠償する責任を負い、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第112条の規定にかかわらず、この責任は、すべての正会員の同意がなければ、免除することができない。

第７章　理　　事　　会

（構　成）

第32条　本会に理事会を置く。

2　理事会は、すべての理事をもって構成する。

（権　限）

第33条　理事会は、次の職務を行う。

⑴　本会の業務執行の決定
⑵　理事の職務の執行の監督
⑶　代表理事である会長及び業務執行理事の選定及び解職

2　前項第３号の会長の選定にあたっては、会員の意識を調査し、その結果を参考にすることができる。その方法については別に定める。

（招　集）

第34条　理事会は、会長が招集する。

2　会長が欠けたとき又は会長に事故あるときは、予め理事会で決めた順位に従い、理事会を招集する。

（決　議）

第35条　理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2　前項の規定にかかわらず、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第96条の要件を満たしたときは、理事会の決議があったものとみなす。

（議事録）

第36条　理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2　出席した代表理事及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

第８章　会計及び財産

（事業年度）

第37条　本会の事業年度は、毎年４月１日に始まり翌年３月31日に終わる。

（事業計画及び収支予算）

第38条　本会の事業計画書、収支予算書を記載した書類については、毎事業年度の開始の前日までに、会長が作成し、理事会の承認を経て、代議員会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

2　前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置くものとする。

（事業報告及び決算）

第39条　本会の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、会長が次の第１号から第５号までの書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。理事会の承認を受けた第１号、第３号、第４号の書類については、定時代議員会に提出し、第１号の書類についてはその内容を報告し、第３号、第４号の書類については承認を受けなければならない。

⑴　事業報告
⑵　事業報告の附属明細書
⑶　貸借対照表
⑷　正味財産増減計算書
⑸　貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書

2　前項の書類のほか、監査報告を主たる事務所に５年間備え置くとともに、定款、代議員名簿を主たる事務所に備え置くものとする。

（剰余金の分配）

第40条　本会は、剰余金の分配を行うことができない。

第９章　定款の変更及び解散

（定款の変更）

第41条　この定款は、代議員会の決議によって変更することができる。

（解　散）

第42条　本会は、代議員会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

（残余財産の帰属）

第43条　本会が清算をする場合において有する残余財産は、代議員会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第５条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

第10章　公告の方法

（公告の方法）

第44条　本会の公告は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

附　　則

１　この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第121条第１項において読み替えて準用する同法第106条第１項に定める一般社団法人の設立

の登記の日から施行する。

2　本会の最初の代表理事である会長は、吉田季彦とする。

3　本会の移行の登記後最初の理事は、次に掲げる者とし、平成25年６月の定時代議員会の終結の時までの任期とする。

吉田季彦　　安田　篤　　山﨑安仁　　中道　勇
松岡正道　　野田　修　　城川和夫　　城野利盛
清田　築　　稲田次郎　　谷川文紹　　立浪　徹
山田隆寛　　上田　均　　齋藤　彰　　山本尚靖
折山　弘

4　本会の移行の登記後最初の監事は、次に掲げる者とする。

林　俊郎　　加藤高男

5　この定款の施行後最初の代議員は、第14条と同じ方法で予め行う代議員選挙において最初の代議員として選出された者とし、平成25年６月末日までの任期とする。

6　この定款施行の際、現に代議員会の議長及び副議長の職にある者は、改正後の定款の規定に基づき、代議員会において、それぞれ選出されたものとみなす。ただし、その任期は、それぞれ平成25年６月末日までとする。

7　一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第121条第１項において読み替えて準用する同法第106条第１項に定める特例民法法人の解散の登記と、一般社団法人の設立の登記を行ったときは、第37条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の日を事業年度の開始日とする。

富山県歯と口腔の健康づくり推進条例

（議決日、公布日、施行日　平成25年９月30日）

歯と口腔の健康は、県民が生涯にわたって健康で質の高い生活を営む上で基礎的かつ重要な役割を果たしている。このため、本県では、乳幼児期から高齢期までのそれぞれの時期に応じた歯科疾患の予防や噛む機能の強化などの歯科保健対策に取り組んできた。

しかしながら、高齢化の進展等に伴い、生涯を通じた切れ目のない歯科保健対策、障害者や介護を必要とする高齢者など歯科検診等を受けることが困難な者への支援、歯科保健医療サービスの地域間での差異の解消などが重要な課題となっており、県民が年齢、心身等の状況、居住する地域にかかわらず必要な歯科保健医療サービスを受けることができる環境を整備し、県民一人一人の歯と口腔の健康づくりに関する取組の促進に努めていかなければならない。

ここに、本県の歯と口腔の健康づくりについての基本的な考え方を明らかにすることにより、県民の理解を深め、関係者の連携協力の下、県民が一体となって歯と口腔の健康づくりを推進するため、この条例を制定する。

（目的）

第１条　この条例は、県民の歯と口腔の健康づくりについて、基本理念を定め、県、市町村及び県民の責務並びに歯科医師等、教育関係者等、医療保険者及び事業者の役割を明らかにするとともに、施策の基本となる事項を定めることにより、歯と口腔の健康づくりを総合的かつ計画的に推進することを目的とする。

（基本理念）

第２条　歯と口腔の健康づくりは、次に掲げる事項を基本理念として行われなければならない。

⑴　県民が、歯と口腔の健康づくりの重要性を認識し、生涯にわたり自らの歯と口腔の健康の保持及び増進に向けた取組を行うとともに、歯科疾患を早期に発見し、早期に治療を受けることを促進すること。

⑵　乳幼児期から高齢期までのそれぞれの時期において、県民が口腔及びその機能の状態並びに歯科疾患の特性に応じて、必要な歯科保健医療サービスを適切かつ効果的に受けることができる環境の整備を推進すること。

⑶　保健、医療、社会福祉、労働衛生、教育その他の関連施策の有機的な連携を図りつつ、その関係者の協力を得て、総合的に歯と口腔の健康づくりを推進すること。

（県の責務）

第３条　県は、前条の基本理念（次条において「基本理念」という。）にのっとり、国及び市町村との連携を図りつつ、本県の特性に応じた歯と口腔の健康づくりに関する総合的な施策を策定し、及び実施する責務を有する。

２　県は、市町村が実施する歯と口腔の健康づくりに関する施策、並びに歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士その他の歯科医療又は保健指導に係る業務に携わる者（以下「歯科医師等」という。）、教育関係者等（食育基本法（平成17年法律第63号）第11条第１項に規定する教育関係者等をいう。以下同じ。）、医療保険者（介護保険法（平成９年法律第123号）第７条第７項に規定する医療保険者をいう。以下同じ。）及び事業者（労働安全衛生法（昭和47年法律第57号）第２条第３号に規定する事業者をいう。以下同じ。）が行う歯と口腔の健康づくりの活動に対し、情報の提供、技術的な助言などの必要な支援を行うものとする。

（市町村の責務）

第４条　市町村は、基本理念にのっとり、県の施策と相まって、その地域の特性に応じた歯と口腔の健康づくりに関する総合的な施策を推進するよう努めるものとする。

（県民の責務）

第５条　県民は、歯と口腔の健康づくりに関する知識及び理解を深めるとともに、日常生活において、自ら歯科疾患の予防の取組を行うとともに、定期的に歯科検診（健康診査又は健康診断において実施する検診を含む。以下同じ。）を受け、及び必要に応じて歯科保健指導を受けることにより、歯と口腔の健康づくりに努めるものとする。

２　乳幼児及び児童生徒の保護者は、家庭において、子どものむし歯及び歯周病の予防、適切な食習慣の定着その他の歯と口腔の健康づくりに取り組むよう努めるものとする。

（歯科医師等の役割）

第６条　歯科医師等は、医師その他医療又は保健指導に係る業務に関連する業務に従事する者と緊密な連携を図りつつ、良質かつ適切な歯科保健医療サービスを提供するよう努めるとともに、県及び市町村が実施する歯と口腔の健康づくりに関する施策に協力するよう努めるものとする。

（教育関係者等及び医療保険者の役割）

第７条　教育関係者等及び医療保険者は、それぞれの業務において、歯と口腔の健康づくりの推進に努めるものとする。

（事業者の役割）
第８条　事業者は、雇用する従業員の歯科検診及び歯科保健指導の機会の確保その他の歯と口腔の健康づくりの推進に努めるものとする。
（関係者の連携及び協力）
第９条　県、市町村、歯科医師等、教育関係者等、医療保険者及び事業者は、歯と口腔の健康づくりが総合的かつ効果的に推進されるよう、相互に連携を図りながら協力するよう努めるものとする。
（基本的施策の推進）
第10条　県は、県民の歯と口腔の健康づくりを推進するため、次に掲げる事項を基本として施策を講ずるものとする。
⑴　県民が定期的に歯科検診を受けること等の勧奨に関すること。
⑵　歯と口腔の健康づくりの推進に資する情報の収集及び提供並びに知識の普及啓発に関すること。
⑶　歯と口腔の健康づくりに関する施策と保健、医療、社会福祉、労働衛生、教育その他の関連施策との連携体制の構築に関すること。
⑷　学校等における幼児、児童及び生徒への歯と口腔の健康づくりに対する関心及び理解を深める機会の確保に関すること。
⑸　フッ化物洗口等の科学的根拠に基づく効果的なむし歯予防対策に関すること。
⑹　歯周病の予防及び重症化予防対策に関すること。
⑺　噛む機能の強化等による口腔機能の向上、維持及び回復に関すること。
⑻　がん、糖尿病等の患者の口腔機能の管理のための医科歯科連携体制の整備に関すること。
⑼　障害者、介護を必要とする高齢者その他の歯科検診又は歯科医療を受けることが困難な者に対する在宅歯科医療等に関すること。
⑽　災害発生時の歯科保健医療サービスの提供体制の整備に関すること。
⑾　歯と口腔の健康づくりの業務に携わる者の確保及び資質の向上に関すること。
⑿　その他歯と口腔の健康づくりのために必要な施策に関すること。
（調査等）
第11条　県は、歯と口腔の健康づくりに関する実態の定期的な調査、歯科疾患に係るより効果的な予防及び医療に関する調査及び研究並びにその成果の活用を推進するための施策を講ずるものとする。
（基本計画）
第12条　知事は、県民の生涯にわたる歯と口腔の健康づくりに関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、歯と口腔の健康づくりの推進に関する基本的な計画（以下「基本計画」という。）を定めなければならない。
２　基本計画には、次に掲げる事項について定めるものとする。
⑴　県民の生涯にわたる歯と口腔の健康づくりに関する基本的な方針及び目標
⑵　その他県民の生涯にわたる歯と口腔の健康づくりに関する施策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項
３　知事は、基本計画を定めようとするときは、富山県歯科保健医療対策会議の意見を聴くとともに、県民の意見を反映することができるよう、必要な措置を講ずるものとする。
４　知事は、基本計画を定めたときは、これを公表するものとする。
（富山県歯科保健医療対策会議の設置）
第13条　知事の諮問に応じ、次に掲げる事項を調査審議するため、富山県歯科保健医療対策会議（この条において「対策会議」という。）を置く。
⑴　この条例の規定によりその権限に属させられた事項
⑵　前号に掲げるもののほか、歯と口腔の健康づくりの推進に関する重要事項
２　対策会議は、委員25人以内で組織する。
３　対策会議の委員は、歯と口腔の健康づくりに関し識見を有する者のうちから知事が任命する。
４　前２項に定めるもののほか、対策会議の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。
（財政上の措置等）
第14条　県は、歯と口腔の健康づくりに関する施策を推進するため、必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。
附　則
この条例は、公布の日から施行する。

提　案　理　由
歯と口腔の健康が生涯にわたって健康で質の高い生活を営む上で基礎的かつ重要な役割を果たすことにかんがみ、県民の歯と口腔の健康づくりについて、基本理念を定め、県等の責務及び歯科医師等の役割を明らかにし、施策の基本となる事項を定めることにより、歯と口腔の健康づくりを総合的かつ計画的に推進するもの。

現役員一覧（任期　H 25. 6 .25～ H 27. 6 ）

役職	担当	氏名
会　　長		吉　田　季　彦
副 会 長		安　田　　篤
副 会 長		山　﨑　安　仁
専務理事		中　道　　勇
常務理事	庶務会計	松　岡　正　道
常務理事	社会保険	野　田　　修
常務理事	学校保健・公衆衛生	城　川　和　夫
理　　事	医療管理	立　浪　　徹
理　　事	学　　術	齋　藤　　彰
理　　事	社会保険	山　田　隆　寛

役職	担当	氏名
理　　事	福祉共済	上　田　　均
理　　事	広　　報	高　島　周　二
理　　事	情報調査	山　本　尚　靖
理　　事	公衆衛生	清　田　　築
理　　事	公衆衛生	谷　川　文　紹
理　　事	総合センター	折　山　　弘
理　　事	総合学院	城　野　利　盛
監　　事		林　　俊　郎
監　　事		加　藤　高　男

（後列左から）　高島　周二　　折山　　弘　　立浪　　徹　　齋藤　　彰　　上田　　均　　谷川　文紹
（中列左から）　山本　尚靖　　山田　隆寛　　加藤　高男　　林　　俊郎　　城野　利盛　　清田　　築
（前列左から）　野田　　修　　中道　　勇　　安田　　篤　　吉田　季彦　　山﨑　安仁　　松岡　正道　　城川　和夫

一般社団法人 富山県歯科医師会 歴代役員等名簿

（昭和23年２月５日～平成24年３月31日まで　社団法人 富山県歯科医師会）
（平成24年４月１日～　一般社団法人に移行）

昭和26年度～27年度　（第3期 1951.4.1～1953.3.31）

本会役員	会長	浦野與四郎				
	副会長	永森　収（S27.8.31まで）	岩井二三雄（S27.9.1より）			
	専務理事	岡田　信次（S27.8.31まで）	阿部　清一（S27.9.1より）			
	理事	河村哲之助（財政）	山本荘太郎（社会保険）（S27.8.31まで）	松島　正康（学術研究）	川口　義門（厚生）	小幡　義雄（社会保険）（S27.9.1より）
	監事	三羽　邦定	田谷　壽夫			
	顧問	藤井　義人	小林　金次			
代議員・予備代議員 ◎議長 ○副議長	（地区）	（代議員）	（予備代議員）	（地区）	（代議員）	（予備代議員）
	富山地区	坪田　忠一	平井　茂光	中新川郡	中川　武	
		○栗山　実純（副議長S27.9.1より）	坂本　清志	下新川郡	赤祖父三郎	谷井　三郎
		芳尾　弘史	松本　常久		柚木　薫	
		和記　憲一		婦負郡	高田　正英	城生越　義
		山崎　安三		射水郡	岩井二三雄（S27.8.31まで）	三島　三郎（S27.8.31まで）
		金森　保芳			三島　三郎（S27.9.1より）	小橋　長造（S27.9.1より）
	高岡市	◎大道　憲治	熊木　甚朔	※氷見郡	千鳥　健二	吉野　克男
		関　剛三郎	米沢　真一	東砺波郡	西野　俊雄	青木　康三
		小高　啓三			河原　信隆	
	新湊市	舟木　直久	越野培名男	西砺波郡	吉村　史郎（S27.8.27より）	伊東　祐年（S26.8.27より）
	中新川郡	牧野　昶	佐渡　永貞（S26.11.13より）			
委員会 ◎委員長	総務委員会	◎大道　憲治	和記　憲一	赤祖父三郎	岡田　信次（S27.8.31まで）	吉村　史郎（S26.9.24より）
		阿部　清一（S27.9.1より）	元井　英夫（編集委員S27.9.1より）			
	財政委員会	◎柚木　薫	中川　武	舟木　直久	河原　信隆	河村哲之助
	社会保険委員会	◎栗山　実純	坪田　忠一	牧野　昶	岩井二三雄（S27.8.31まで）	山本荘太郎（S27.8.31まで）
		小幡　義雄（S27.9.1より）	三島　三郎（S27.9.1より）			
	（追加　S26.9.26より）	永森　収	松島　正康	大道　憲治	関　剛三郎	舟木　直久
		赤祖父三郎	柚木　薫	高田　正英	千鳥　健二	西野　俊雄
		河原　信隆	吉村　史郎			
	学術研究委員会	◎山崎　安三	金森　保芳	関　剛三郎	高田　正英	松島　正康
	厚生委員会	◎芳尾　弘史	小高　啓三	千鳥　健二	西野　俊雄	川口　義門
	選挙管理委員会	◎菅田　晴山	阿部彦太郎	金山　吉雄	小幡　義雄（S27.8.31まで）	島田余三男
		高広　勇次（S27.9.1より）				
	裁定委員会	◎堀井　勝三	浦上　則政	横田　太一	桝山　武	石崎　憲吾
	共済審査委員会（S27.9.1新設）	◎芳尾　弘史	川口　義門	小高　啓三	赤祖父三郎	河原　信隆
支部長	（支部名）	（支部長名）		（支部名）	（支部長名）	
	富山地区	三羽　邦定		婦負郡	大井　潤	
	高岡市	小高　啓三		射水郡	島田余三男	
	新湊市	舟木　直久		※氷見郡	長谷川徳光	
	中新川郡	飯田　半六（S26.12.8まで）	酒井　信義（S26.12.9より）	東砺波郡	西野　俊雄	
	下新川郡	蓮本庄太郎		西砺波郡	渡辺　親良	

※氷見郡は昭和27年８月１日から市制施行、氷見市となる

昭和28年度～昭和29年度

（第4期 1953.4.1～1955.3.31）

本会役員	会長	浦野與四郎				
	副会長	岩井二三雄				
	専務理事	阿部　清一				
	理事	小幡　義雄（財政） 川口　義門（学術研究）（S28.8.30より）	松島　正康（社会保険）	河村哲之助（学術研究）（S28.8.29まで）	川口　義門（厚生・共済審査）（S28.8.29まで）	中川　弘（厚生・共済審査）（S28.8.30より）
	監事	田谷　壽夫	山下　長藏（S28.8.31まで）	杉江　玄照（S28.9.1より）		
	顧問	藤井　義人	小林　金次	蓮本庄太郎（S29.4.1追加）		

代議員・予備代議員 ◎議長 ○副議長	（地区）	（代議員）	（予備代議員）	（地区）	（代議員）	（予備代議員）
	富山地区	坪田　忠一	小林　全二	中新川郡	牧野　昶	佐渡　永貞
		三羽　邦定	平井　茂光		酒井　信義	
		岡田　信次		下新川郡	米田　祐弘	赤祖父三郎
		永森　收			柚木　薫	
		和記　憲一		婦負郡	高田　正英（S28.12.10まで）	佐々木　止
		竹林　正俊			城生越　義（S28.12.11より）	
		○金森　保芳		射水郡	郷倉　信一	立浪　次作
	高岡市	◎大道　憲治	吉岡　達雄	氷見市	倉田敬二郎	吉野　克男
		小高　啓三	米沢　真一	東砺波郡	宇和山礼三	松田　逸郎
		熊木　甚朔（S28.9.27より）			菅野　宜紀	
	新湊市	中島　吉春	清水　周明	西砺波郡	渡辺　親良	吉村　史郎

委員会 ◎委員長					
総務委員会	◎大道　憲治	永森　收	米田　祐弘	高野秀次郎（S29.4.1より）	桝山　武（S29.4.1より）
財政委員会	◎柚木　薫	郷倉　信一	倉田敬二郎	竹林　正俊（S28.12.13より）	
社会保険委員会	◎三羽　邦定	金森　保芳	牧野　昶	小高　啓三	和記　憲一（S28.12.13より）
学術研究委員会	◎高田　正英（S29.3まで委員長）	坪田　忠一	菅野　宜紀（S29.4より委員長）	中島　吉春	岡田　信次（S28.12.13より）
厚生委員会	◎宇和山礼三	渡辺　親良	酒井　信義	熊木　甚朔（S28.11.10より）	城生越　義（S28.12.13より）
共済審査委員会	◎宇和山礼三	渡辺　親良	熊木　甚朔（S28.11.10より）	城生越　義（S28.12.13より）	
選挙管理委員会	◎島田　栄吉	河原　信隆	島　信行	金山　晴顕	小倉　直義
裁定委員会	関　剛三郎	吉見　勇	成瀬　八郎	◎山本荘太郎（S28.12.13より）	早見　治顕（S28.12.13より）

支部長	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）
	富山地区	永森　收	中新川郡	酒井　信義	射水郡	郷倉　信一
	高岡市	小高　啓三	下新川郡	米田　祐弘	東砺波郡	菅野　宜紀
	新湊市	中島　吉春	婦負郡	高田　正英（S28.11まで）	西砺波郡	渡辺　親良
	氷見市	倉田敬二郎		城生越　義（S28.12より）		

昭和30年度～31年度

（第5期 1955.4.1～1957.3.31）

本会役員	会長	浦野與四郎（S31.3.31まで）	栗山 実純（S31.5.6より）			
	副会長	岩井二三雄（S31.3.31まで）	阿部 清一（S31.5.6より）			
	理事	松島 正康（総務）（S31.3.31まで）	小幡 義雄（財政）（S31.3.31まで）	川口 義門（社会保険）（S31.3.31まで）	竹林 正俊（学術）（S31.3.31まで）	中川 武（厚生・共済）（S31.3.31まで）
		関 剛三郎（総務）（S31.5.6より）	竹林 正俊（財政）（S31.5.6より）	松島 正康（社会保険）（S31.5.6より）	菅野 宜紀（学術）（S31.5.6より）	阿部彦太郎（厚生・共済）（S31.5.6より）
	監事	杉江 玄照	島田 栄吉			
	顧問	藤井 義人	小林 金次	蓮本庄太郎		

代議員・予備代議員 ◎議長 ○副議長	（地区）	（代議員）	（予備代議員）	（地区）	（代議員）	（予備代議員）
	富山地区	松能喜久次	家城 圭一	中新川郡	酒井 信義	中川 武
		◎三羽 邦定（S31.5.6より議長）	源 三郎	下新川郡	魚津 竹男	米田 祐弘
		岡田 信次	松田 正男	婦負郡	城生越 義	佐々木 止
		阿部 清一（S31.3.31まで）	水野 誓夫	射水郡	三島 三郎	小橋 長造
		和記 憲一（S31.5.6～）		氷見市	倉田敬二郎	吉野 克男
	高岡市	◎大道 憲治（S31.3.31まで議長）	吉岡 達雄	東砺波郡	菅野 宜紀（S31.3.31まで）	高田寅四郎
		三崎 正春	熊木 甚朔		小幡 義雄（S31.5.6より）	
	新湊市	清水 周明	中島 吉春	西砺波郡	○成瀬 八郎	伊東 祐年

委員会 ◎委員長						
	総務委員会	◎大道 憲治	米田 祐弘	桝山 武	小高 啓三	舟木 直久（S31.5.6より）
	財政委員会	◎三羽 邦定	倉田敬二郎	柚木 薫	牧野 昶	立浪 次作
	社会保険委員会	◎金森 保芳	成瀬 八郎	家城 圭一	熊木 甚朔	吉田 茂
	学術委員会	◎岡田 信次	吉岡 達雄	水野 誓夫	伊東 祐年	菅野 宜紀（S31.3.31まで）
		小幡 義雄（S31.5.6より）				
	厚生委員会	◎松能喜久次	酒井 信義	源 三郎	吉野 克男	関 信一
	共済委員会	◎城生越 義	清水 周明	高田寅四郎	三崎 正春	阿部 清一（S31.3.31まで）
		和記 憲一（S31.5.6より）				
	選挙委員会	◎河原 信隆	小倉 直義	金山 晴顕	島 信行	高広 勇次
	裁定委員会	◎早見 治顕	山本荘太郎	岡本 文夫	関 剛三郎（S31.3.31まで）	吉見 勇（S31.3.31まで）
		赤祖父三郎（S31.5.6より）	金山 吉雄（S31.5.6より）			

会館建設委員会（S31.9設置）						
	委員長	◎三羽 邦定				
	副委員長	大道 憲治	永森 収			
	委員	松能喜久次	和記 憲一	岡田 信次	三崎 正春	清水 周明
		酒井 信義	魚津 竹男	城生越 義	三島 三郎	倉田敬二郎
		小幡 義雄	成瀬 八郎	小高 啓三	米田 祐弘	岩井二三雄
		河原 信隆	渡辺 親良			

支部長	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）
	富山地区	永森 収	中新川郡	酒井 信義	東砺波郡	河原 信隆
	高岡市	小高 啓三	下新川郡	米田 祐弘	西砺波郡	渡辺 親良
	新湊市	清水 周明	婦負郡	城生越 義		
	氷見市	倉田敬二郎	射水郡	岩井二三雄		

昭和32年度～33年度

（第6期 1957.4.1～1959.3.31）

本会役員	会長	栗山　実純				
	副会長	岡田　信次	川口　義門			
	理事	竹林　正俊（総務）	酒井　信義（財政）	小高　啓三（社保）	渡辺　親良（国保）	菅野　宜紀（学術）
		阿部彦太郎（厚生・共済）				
	監事	杉江　玄照	島田　栄吉			
	顧問	藤井　義人	小林　金次	蓮本庄太郎		
代議員・予備代議員　◎議長　○副議長	（地区）	（代議員）	（予備代議員）	（地区）	（代議員）	（予備代議員）
	富山地区	松能喜久次	小林　全二	中新川郡	中川　武	高橋日出夫
		三羽　邦定	島　秀雄	下新川郡	中川　弘	谷井　三郎
		◎永森　収	林　弘	婦負郡	吉田　茂	佐々木　止
		○阿部　清一	坂本　清志	射水郡	立浪　次作	島田余三男
	高岡市	大道　憲治	米沢　真一	氷見市	倉田敬二郎	吉野　克男
		三崎　正春	斉藤　義寿	東砺波郡	小幡　義雄	青木　康三
	新湊市	寺崎　久良（S32.7.30まで）	清水　周明	西砺波郡	吉村　史郎	青木　健治
		越野培名男（S32.8.25より）				
委員会　◎委員長	総務委員会	◎大道　憲治	永森　収	阿部　清一	三羽　邦定	家城　圭一
		四日　善一（S32.9.1より）				
	財政委員会	◎松能喜久次	中川　弘	小幡　義雄	小林　全二	斉藤　義寿
	社保委員会	◎金森　保芳	立浪　次作	米沢　真一	西野　俊雄	吉野　克男
		高橋日出夫	平井　喜美			
	国保委員会	◎中川　武	島田余三男	吉村　史郎	三崎　秀郎	分田　文子
	学術委員会	◎山崎　安三	松島　正康	吉田　茂	島　秀雄	青木　進
		青木　健治	石多　謙三			
	厚生委員会	◎佐々木　止	米沢　卯一	河原　信隆	三崎　正春	坂本　清志
	共済委員会	◎倉田敬二郎	谷井　三郎	佐渡　永貞	林　弘	寺崎　久良（S32.7.30まで）
		越野培名男（S32.8.25より）				
	選挙委員会	◎小倉　直義	金山　晴顕	舟木　直久	高広　勇次	山岸　確次
	裁定委員会	◎山本荘太郎	早見　治顕	赤祖父三郎	木下　友栄	成瀬　八郎
会館建設委員会	委員長	◎三羽　邦定				
	小委員	浦野與四郎	阿部　清一	永森　収	中川　武	松能喜久次
		関　剛三郎				
	委員	大道　憲治	立浪　次作	三崎　正春	家城　圭一	越野培名男（S32.8.25より）
		島田　栄吉	倉田敬二郎	酒井　信義	中川　弘	北山　静次
		吉村　史郎	岡本　文夫	吉田　茂	河原　信隆	小幡　義雄
県緊急対策委員会	委員長	◎栗山　実純				
	委員	竹林　正俊	北山　静次	大道　憲治	岡本　文夫	永森　収
		河原　信隆	阿部　清一	吉田　茂	三羽　邦定	酒井　信義
		家城　圭一	倉田敬二郎	関　剛三郎	立浪　次作	島田　栄吉
		寺崎　久良（S32.7.30まで）	越野培名男（S32.8.25より）			
支部長	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）
	富山地区	家城　圭一	氷見市	倉田敬二郎	射水郡	立浪　次作
	高岡市	島田　栄吉	中新川郡	酒井　信義	東砺波郡	河原　信隆
	新湊市	寺崎　久良（S32.7.30まで）	下新川郡	北山　静次	西砺波郡	岡本　文夫
		越野培名男（S32.8.25より）	婦負郡	吉田　茂		

昭和34年度～35年度

（第7期 1959.4.1～1961.3.31）

本会役員	会長	岡田　信次				
	副会長	川口　義門	酒井　信義			
	理事	関　剛三郎（総務）	河原　信隆（財政）	家城　圭一（社保）	島田　栄吉（国保）	松島　正康（学術）
		高田　育三（厚生・共済）				
	監事	金山　吉雄	山本荘太郎			
	顧問	藤井　義人	小林　金次	蓮本庄太郎		

代議員・予備代議員 ◎議長 ○副議長	（地区）	（代議員）	（予備代議員）	（地区）	（代議員）	（予備代議員）
	富山地区	栗山　実純	深山　正之	下新川郡	河村哲之助	小倉　直義
		◎永森　収	山下　銀七		中川　弘	谷井　三郎（S34.12.23まで）
		○阿部　清一（S35.3.31より議長）	坂本　清志			米田　祐弘（S34.12.24より）
		中島　清則	高野秀次郎	婦負郡	吉田　茂	小杉　元治
	高岡市	大道　憲治	米沢　真一	射水郡	小橋　長造	三島　三郎
		浦野與四郎	斉藤　義寿	氷見市	倉田敬二郎	吉野　克男
	新湊市	有川　肇	越野培名男	東砺波郡	小幡　義雄	板橋　修
	中新川郡	中川　武	高橋日出夫	西砺波郡	吉村　史郎	青木　健治

委員会 ◎委員長						
	総務委員会	◎大道　憲治	中川　武	坂本　清志	小倉　直義	米沢　真一
	財政委員会	◎小幡　義雄	倉田敬二郎	小橋　長造	中島　清則	谷井　三郎
	社保委員会	◎永森　収	吉田　茂	深山　正之	斉藤　義寿	三島　三郎
	国保委員会	◎浦野與四郎	河村哲之助	越野培名男	山下　銀七	板橋　修
	学術委員会	◎阿部　清一	中川　弘	高橋日出夫	青木　健治	高野秀次郎
	厚生委員会	◎栗山　実純	吉村　史郎	吉野　克男	有川　肇	小杉　元治
	共済委員会	◎栗山　実純	吉村　史郎	吉野　克男	有川　肇	小杉　元治
	選挙委員会	◎山岸　確次	金山　晴顕	舟木　直久	高広　勇次	北山　静次
	裁定委員会	◎早見　治顕	牧野　昶	赤祖父三郎	木下　友栄	成瀬　八郎

会館建設委員会						
	委員長	◎栗山　実純				
	小委員	竹林　正俊	有川　肇	浦野與四郎	岡本　文夫	中川　武
		芳尾　弘史	阿部彦太郎	吉田　茂	倉田敬二郎	小橋　長造
	委員	永森　収	吉村　史郎	阿部　清一	小幡　義雄	大道　憲治
		中川　弘	中島　清則	河村哲之助		

県緊急対策委員会						
	委員長	◎岡田　信次				
	委員	関　剛三郎	阿部彦太郎	大道　憲治	倉田敬二郎	中川　武
		有川　肇	坂本　清志	岡本　文夫	小倉　直義	芳尾　弘史
		米沢　真一	吉田　茂	竹林　正俊	小橋　長造	浦野與四郎

支部長	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）
	富山地区	竹林　正俊	中新川郡	中川　武（辞任）	射水郡	小橋　長造
	高岡市	浦野與四郎		大野　静夫（後任）	東砺波郡	芳尾　弘史
	新湊市	有川　肇	下新川郡	阿部彦太郎	西砺波郡	岡本　文夫
	氷見市	倉田敬二郎	婦負郡	吉田　茂		

昭和36年度～37年度

（第8期 1961.4.1～1963.3.31）

本会役員	会長	岡田 信次				
	副会長	川口 義門	桜木 成一			
	理事	関 剛三郎（総務）	酒井 信義（会計）	吉田 茂（社保）	島田 栄吉（国保）	松島 正康（学術）
		家城 圭一（厚生）	柚木 薫（共済）（S37.2.11まで）	高田 育三（共済）（S37.2.12より）		
	監事	金山 晴顕	米田 祐弘			
	顧問	藤井 義人	小林 金次	蓮本庄太郎		
代議員・予備代議員 ◎議長 ○副議長	（地区）	（代議員）	（予備代議員）	（地区）	（代議員）	（予備代議員）
	富山地区	三羽 邦定	島 信行	中新川郡	中川 武	高橋日出夫
		永森 収	山下 銀七	下新川郡	魚津 佐一	魚津 竹男
		○阿部 清一	高野秀次郎	※黒部市（S37.8.1支部発足）	渡辺 綱男（S37.8.1より）	平井きよみ（S37.8.1より）
		中島 清則	坂本 清志	婦負郡	佐々木 止	小杉 元治
		水野 誓夫	松能 喜一	射水郡	島田余三男	郷倉 信一
	高岡市	◎大道 憲治	米沢 真一	氷見市	倉田敬二郎	茶山 信吉
		浦野與四郎	斉藤 義寿	東砺波郡	小幡 義雄（S36.6.4死亡）	仲村 博
	新湊市	舟木 直久	中島 吉春		菅野 宜紀（S36.7.18より）	
	※魚津市（S37.4.1支部発足）	清水 幸七（S37.4.1より）	広瀬 一男（S37.4.1より）	西砺波郡	高広 勇次	小山 辰二
委員会 ◎委員長	総務委員会	◎大道 憲治	中川 武	島 信行	坂本 清志	米沢 真一
	財政委員会	◎島田余三男	倉田敬二郎	高野秀次郎	中島 吉春	山下 銀七
	社保委員会	◎永森 収	佐々木 止	水野 誓夫	高広 勇次	斉藤 義寿
	国保委員会	◎浦野與四郎	舟木 直久	中島 清則	松能 喜一	仲村 博
	学術委員会	◎阿部 清一	茶山 信吉	魚津 佐一	高橋日出夫	小山 辰二
	厚生委員会	◎三羽 邦定	郷倉 信一	魚津 竹男	熊木 甚朔	牧野 貞子
	共済委員会	◎深山 正之	菅野 宜紀	小杉 元治	三崎 秀郎	岩倉 リイ
	選挙委員会	◎山岸 確次	小倉 直義	関 信一（S37.5.31まで）	山崎 安隆	千保 利
	裁定委員会	◎早見 治顕	牧野 昶	木下 友栄	成瀬 八郎	河村哲之助
会館建設委員会	委員長	三羽 邦定				
	小委員	竹林 正俊	赤祖父三郎	金山 吉雄	佐々木 止	舟木 直久
		高田寅四郎	長谷川徳光	島田 正三（S37.10.28まで）	島田余三男（S37.10.28まで）	大野 静夫
		郷倉 信一（S37.10.29より）	渡辺 綱男（S37.10.29より）	近藤 秀雄（S37.10.29より）		
	委員	永森 収	中川 武	阿部 清一	魚津 佐一	中島 清則
		水野 誓夫	倉田敬二郎	大道 憲治	高広 勇次	浦野與四郎
		小幡 義雄（S36.6.4死亡）	菅野 宜紀（S36.7.18より）			
県緊急対策委員会	委員長	岡田 信次				
	委員	米沢 真一	島 信行	竹林 正俊	金山 吉雄	舟木 直久
		長谷川徳光	大野 静夫	赤祖父三郎	島田余三男	佐々木 止
		高田寅四郎	島田 正三（S37.10.28まで）	近藤 秀雄（S37.10.29より）	蓮本庄太郎	関 剛三郎
		大道 憲治	中川 武	坂本 清志		

国保組合設立準備委員会	委員長	浦野與四郎				
	副委員長	三羽　邦定				
	小委員	岡田　信次	島田　栄吉	川口　義門	大道　憲治	桜木　成一
	委員	永森　　収	阿部　清一	中島　清則	水野　誓夫	舟木　直久
		佐々木　止	島田余三男	中川　　武	魚津　佐一	倉田敬二郎
		高広　勇次	関　剛三郎	酒井　信義	松島　正康	吉田　　茂
		家城　圭一	竹林　正俊	金山　吉雄	長谷川徳光	大野　静夫
		赤祖父三郎	高田寅四郎	蓮本庄太郎	柚木　　薫 (辞任)	島田　正三 (S37.10.28まで)
		小幡　義雄 (S36.6.4死亡)	菅野　宜紀 (S36.7.18より)	清水　幸七 (追任)	高田　育三 (S37.2.12より)	近藤　秀雄 (S37.10.29より)
技工士・衛生士養成機関設立準備委員会	委員長	永森　　収				
	委員	大道　憲治	三羽　邦定	浦野與四郎	中川　　武	倉田敬二郎
		水野　誓夫	阿部　清一	松能喜久次	中島　清則	山本荘太郎
医療対策改善県対策本部	委員長	岡田　信次				
	小委員	島田　栄吉	大道　憲治	吉田　　茂	竹林　正俊	
	委員	川口　義門	浦野與四郎	桜木　成一	舟木　直久	関　剛三郎
		佐々木　止	酒井　信義	島田余三男	松島　正康	中川　　武
		家城　圭一	魚津　佐一	三羽　邦定	倉田敬二郎	永森　　収
		高広　直次	阿部　清一	金山　吉雄	中島　清則	長谷川徳光
		水野　誓夫	大野　静夫	赤祖父三郎	高田寅四郎	蓮本庄太郎
		柚木　　薫 (辞任)	高田　育三 (S37.2.12より)	小幡　義雄 (S36.6.4死亡)	菅野　宜紀 (S36.7.18より)	島田　正三 (S37.10.28まで)
		近藤　秀雄 (S37.10.29より)				

支部長	(支部名)	(支部長名)	(支部名)	(支部長名)	(支部名)	(支部長名)
	富山地区	竹林　正俊	中新川郡	大野　静夫	射水郡	島田余三男
	高岡市	金山　吉雄	下新川郡	赤祖父三郎 (S37.3.31まで)	東砺波郡	高田寅四郎
	新湊市	舟木　直久		蓮本庄太郎 (S37.4.1より)	西砺波郡	島田　正三
	※魚津市	赤祖父三郎 (S37.4.1より)	婦負郡	佐々木　止		
	※黒部市	渡辺　綱男 (S37.8.1より)	氷見市	長谷川徳光		

※魚津市は昭和37年4月1日から、黒部市は昭和37年8月1日から支部となる

昭和38年度～39年度

（第9期 1963.4.1～1965.3.31）

本会役員	会長	川口　義門				
	副会長	関　剛三郎	島田　栄吉			
	理事	家城　圭一（総務）	四日　善一（財政）	松島　正康（社保）	吉田　茂（国保）	魚津　佐一（学術）
		松能　喜一（厚生）	藤井　弘（共済）			
	監事	杉江　玄照	金山　晴顕			
	顧問	蓮本庄太郎				
代議員・予備代議員 ◎議長 ○副議長	（地区）	（代議員）	（予備代議員）	（地区）	（代議員）	（予備代議員）
	富山地区	松能　喜一（S38.5.7まで）	篠川　之靖	下新川郡	魚津　佐一（S38.7.30まで）	魚津　竹男（S38.8.18まで）
		水野　誓夫（S38.5.8より）			魚津　竹男（S38.7.31より）	宝田　力（S38.8.19より）
		山崎　安隆	分田　文子	中新川郡	中川　武	飯田　弘
		坂本　清志	杉江　玄己	黒部市	田中　直次	渡辺　綱男
		永森　収	水野　公之	婦負郡	小杉　元治	羽井　良三
		岩倉　リイ	藤井起三郎	射水郡	岩井二三雄	小橋　長造
	高岡市	◎大道　憲治	米沢　真一	氷見市	倉田敬二郎	茶山　信吉
		浦野與四郎	斉藤　義寿	東砺波郡	菅野　宜紀	芳尾　弘史
	新湊市	中島　吉春	清水　周明	西砺波郡	吉沢　進	上田　昌
	魚津市	○谷井　三郎	中川　弘			
委員会 ◎委員長	総務委員会	◎大道　憲治	中川　武	坂本　清志	米沢　真一	三崎　秀郎
	財政委員会	◎倉田敬二郎	岩井二三雄	藤井起三郎	清水　周明	分田　文子
	社保委員会	◎永森　収	中島　吉春	吉沢　進	中川　弘	斉藤　義寿
	国保委員会	◎浦野與四郎	魚津　竹男	芳尾　弘史	上田　昌	篠川　之靖
	学術委員会	◎菅野　宜紀	水野　誓夫	茶山　信吉	飯田　弘	杉江　玄己
	厚生委員会	◎谷井　三郎	山崎　安隆	小橋　長造	宝田　力	渡辺　綱男
	共済委員会	◎水野　公之	岩倉　リイ	小杉　元治	羽井　良三	田中　直次
	選挙委員会	◎山岸　確次	柚木　一夫	三崎　正春	青木　康三	千保　利
	裁定委員会	◎早見　治顕	佐渡　永貞	河村哲之助	木下　友栄	成瀬　八郎
歯科技工士歯科衛生士養成所設立準備委員会（S38.9.22設置）		◎高田寅四郎	杉江　玄己	三崎　正春	坂本　清志	飯田　弘
会館建設実行委員会（S39.10.4設置）（S40.5.30解散）		◎浦野與四郎	川口　義門	関　剛三郎	島田　栄吉	永森　収
		中川　武	深山　正之	魚津　竹男	大道　憲治（辞任）	倉田敬二郎
		青木　勝二（後任）				
支部長	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）
	富山地区	深山　正之	黒部市	渡辺　綱男	氷見市	長谷川徳光
	高岡市	四日　善一	中新川郡	大野　静男	射水郡	岩井二三雄
	新湊市	中島　吉春	下新川郡	近藤　秀雄	東砺波郡	高田寅四郎
	魚津市	赤祖父三郎	婦負郡	小杉　元治	西砺波郡	青木　勝二

昭和40年度～41年度

（第10期 1965.4.1～1967.3.31）

本会役員	会長	川口　義門				
	副会長	関　剛三郎	島田　栄吉			
	理事	家城　圭一（総務）	四日　善一（財政）	吉田　茂（社保）	松島　正康（国保）	魚津　佐一（学術）
		松能　喜一（厚生）	中川　武（共済）	三崎　秀郎（広報・調査）		
	監事	杉江　玄照	金山　晴顕			
	顧問	蓮本庄太郎				

代議員・予備代議員 ◎議長 ○副議長	（地区）	（代議員）	（予備代議員）	（地区）	（代議員）	（予備代議員）
	富山地区	岡田　信次	田上　修	魚津市	谷井　三郎	中川　弘
		○阿部　清一（S41.4.1より議長）	分田　文子	黒部市	小倉　直義	女川　清
		坂本　清志	水野　公之	中新川郡	小森　甚作	山本　壮一
		小林　全二	篠川　之靖	下新川郡	魚津　竹男	宝田　力
		青木　康三	松田　正男	婦負郡	羽井　良三	木村　美明
	高岡市	◎大道　憲治（議長辞任）	斉藤　義寿	射水郡	立浪　次作	岩井二三雄
		浦野與四郎	三崎　正春	氷見市	倉田敬二郎	小山　哲夫
	新湊市	清水　周明	越野培名男	東砺波郡	菅野　宜紀（S41.4.1より副議長）	芳尾　弘史
	※滑川市（S40支部発足）	飯田　弘	水橋　哲夫	西砺波郡	伊東　祐年	石崎　護

委員会 ◎委員長 ○室長						
	総務委員会	◎大道　憲治	三崎　正春	岩井二三雄	深山　正之	坂本　清志
	財政委員会	◎倉田敬二郎	田上　修	分田　文子	清水　周明	伊東　祐年
	社保委員会	◎岡田　信次	斉藤　義寿	魚津　竹男	中川　弘	山本　壮一
	国保委員会	◎芳尾　弘史	篠川　之靖	飯田　弘	羽井　良三	浦野與四郎
	学術委員会	◎阿部　清一	松田　正男	青木　康三	島　秀雄	石崎　護
		石多　謙三	藤井　弘			
	厚生委員会	◎小倉　直義	小林　全二	越野培名男	菅野　宜紀	小山　哲夫
	共済委員会	◎谷井　三郎	水野　公之	中島　忠一	木村　美明	立浪　次作
	広報室	○宝田　力	高田寅四郎	女川　清	水野　誓夫	
	調査室	○米沢　真一	上田　昌	島　信行	小森　甚作	水橋　哲夫
	選挙委員会	◎山岸　確次（辞任）	柚木　一夫	千保　利	三崎　正春（辞任）	青木　康三（辞任）
		林　弘（S41.4.1より）	高野秀次郎（S41.4.1より）	石川　静郎（S41.4.1より）		
	裁定委員会	◎早見　治顕	佐渡　永貞	河村哲之助	木下　友栄	成瀬　八郎
定款改正特別委員会		◎大道　憲治	岡田　信次	菅野　宜紀	阿部　清一	魚津　竹男
歯科技工士養成所設置委員会		◎高田寅四郎	杉江　玄己	三崎　正春	坂本　清志	飯田　弘
会館建設実行委員会（S40.5.30解散）		◎浦野與四郎	川口　義門	関　剛三郎	島田　栄吉	永森　収
		中川　武	深山　正之	魚津　竹男	青木　勝二	倉田敬二郎
会館賃借料設定委員会（S40.8.22設置）		◎浦野與四郎	岡田　信次	谷井　三郎	阿部　清一	魚津　竹男
		菅野　宜紀	倉田敬二郎			
歯科技工士学院（S41.4.1設置）		永森　収（理事長）	阿部　清一（副理事長）	川口　義門（学院長）		
		家城　圭一（理事）	三崎　正春（理事）	高田寅四郎（理事）	山本　壮一（理事）	

支部長	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）
	富山地区	深山　正之	※滑川市	藤井　弘	射水郡	立浪　次作
	高岡市	米沢　真一	黒部市	女川　清	東砺波郡	高田寅四郎
	新湊市	清水　周明	中新川郡	坂下　孝則	西砺波郡	成瀬　八郎
	魚津市	赤祖父三郎	下新川郡	近藤　秀雄		
	氷見市	長谷川徳光	婦負郡	羽井　良三		

※滑川市は昭和40年から支部となる

昭和42年度～43年度

（第11期 1967.4.1～1969.3.31）

本会役員	会長	阿部 清一				
	副会長	島田 栄吉	竹林 正俊			
	理事	深山 正之（総務）	高田 育三（経理）	山崎 安隆（社保）	水野 誓夫（学術）	藤井 弘（厚生）
		千保 利（共済）	近藤 秀雄（広報・調査）	高田寅四郎（学院）		
	監事	米田 祐弘	河原 信隆			

代議員・予備代議員 ◎議長 ○副議長	（地区）	（代議員）	（予備代議員）	（地区）	（代議員）	（予備代議員）
	富山地区	岡田 信次	三羽 博久	下新川郡	宝田 力	山内 登
		田上 修	佐渡 哲雄	魚津市	◎谷井 三郎	広瀬 一男
		小林 全二	篠川 之靖	黒部市	小倉 直義	平井 和輝
		宮本 乙男	高橋日出夫	婦負郡	羽井 良三	木村 美明
		水野 公之	寺島 祐輔	射水郡	小橋 長造	岩井 輝雄
	高岡市	浦野與四郎	斉藤 義寿	氷見市	千鳥 健二	小山 哲夫
		米沢 真一	三崎 正春	東砺波郡	○菅野 宜紀（S42.5.17まで）	芳尾 弘史（S42.5.17まで）
	新湊市	阿部 則行	越野培名男		川口 義門（S42.5.18より）	板橋 修（S42.5.18より）
	滑川市	飯田 弘	水橋 哲夫	※砺波市（S42.4.1支部発足）	○菅野 宜紀（S42.5.18より）	芳尾 弘史（S42.5.18より）
	※上新川郡（S43.4.1支部発足）	米沢 卯一（S43.5.11より）	山田 外雄（S43.5.11より）	西砺波郡	上田 昌（S42.11.8まで）	青木 健治（S42.11.8まで）
	中新川郡	大野 静夫（S43.5.10まで）	坂下 孝則（S43.5.10まで）		新谷 政彦（S42.11.9より）	成瀬 達雄（S42.11.9より）
		坂下 孝則（S43.5.11より）	佐渡 永貞（S43.5.11より）	※小矢部市（S42.9.1支部発足）	上田 昌（S42.11.9より）	青木 健治（S42.11.9より）

委員会 ◎委員長 ○室長						
	総務委員会	◎岡田 信次	谷井 三郎	菅野 宜紀	中島 清則	三崎 正春
	経理委員会	◎坂下 孝則	千鳥 健二	越野培名男	木村 美明	三羽 博久
	社保委員会	◎芳尾 弘史	飯田 弘	田上 修	小山 哲夫	佐渡 哲雄
		浦野與四郎	寺島 祐輔	大島 輝哉	米沢 真一	米沢 卯一
	学術委員会	◎吉岡 達雄	篠川 之靖	高橋日出夫	阿部 則行	石崎 護
		山田 外雄	水野 公之			
	厚生委員会	◎小林 全二	広瀬 一男	小倉 直義	岩井 輝雄	山内 登
	共済委員会	◎小橋 長造	宮本 乙男	青木 健治	斉藤 義寿	
	広報室	○大野 静夫	宮森 正次	永森 尚之	松原清一郎	桜木 正昭
	調査室	○小森 甚作	上田 昌	平井 和輝		
	選挙委員会	◎林 弘	高野秀次郎	石川 静郎	柚木 一夫（S44.2.13まで）	島 信行（S44.2.2より）
		小山 辰二				
	裁定委員会	◎早見 治顕	佐渡 永貞（S44.2.13まで）	河村哲之助	金山 晴顕	成瀬 八郎
	歯科技工士学院	阿部 清一（理事長）	松田 正男（副理事長）	永森 収（学院長）		
		高田 育三（理事）	中島 忠一（理事）	高田寅四郎（理事）	山本 壮一（理事）	今村 勝彦（理事）
	富山県歯科医師会定款一部改正案・選挙規程案・選挙管理委員会規程案起草特別委員会（S43.9.29設置）	◎浦野與四郎	川口 義門	岡田 信次	小林 全二	水野 公之
		小倉 直義	小橋 長造	米沢 真一	谷井 三郎	菅野 宜紀
		飯田 弘				

支部長	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）
	富山地区	中島 清則	黒部市	平井 和輝	射水郡	小橋 長造
	高岡市	米沢 真一	※砺波市	千保 利（S42.5.18より）	東砺波郡	仲村 博（S42.5.18より）
	新湊市	阿部 則行	※上新川郡	石黒宗次郎（S43.5.11より）	西砺波郡	吉村 史郎（S42.11.8まで）
	魚津市	赤祖父三郎	中新川郡	小森 甚作		伊東 祐年（S42.11.9より）
	氷見市	茶山 信吉	下新川郡	魚津 佐一	※小矢部市	吉村 史郎（S42.11.9より）
	滑川市	藤井 弘	婦負郡	羽井 良三		

※砺波市は昭和42年4月1日、小矢部市は同年9月1日、上新川郡は昭和43年4月1日から支部となる。

昭和44年度～45年度

（第12期 1969.4.1～1971.3.31）

本会役員	会長	阿部 清一				
	副会長	島田 栄吉（S45.3.31まで）	竹林 正俊	芳尾 弘史（S45.4.1より）		
	理事	高田 育三（総務）	近藤 秀雄（経理）	山崎 安隆（社保）	松浦 實（学術）	藤井 弘（厚生）
		坊 明男（共済）	三崎 正春（広報・調査）	中島 忠一（学院）		
	監事	伊東 祐年	大菅 十造			

代議員・予備代議員 ◎議長 ○副議長	（地区）	（代議員）	（予備代議員）	（地区）	（代議員）	（予備代議員）
	富山地区	水野 公之	篠川 之靖（S45.6.8まで）	魚津市	◎谷井 三郎	広瀬 一男
		山崎 安三（S45.4.26まで）	松原清一郎	黒部市	田中 直次（S45.4.12まで）	島田 正豊
		○小林 全二	佐渡 哲雄（S45.6.7まで）	婦負郡	吉田 茂（S45.4.12まで）	関 清子
		田上 修（S45.4.26まで）	青木 康三（S45.5.30まで）	射水郡	立浪 次作（S45.4.12まで）	島田余三男
		三羽 博久	寺島 祐輔		郷倉 信一（S45.7.22より）	
	高岡市	浦野與四郎（S45.4.12まで）	三崎 正春（S44.6.30まで）	氷見市	茶山 信吉（S45.4.12まで）	小山 哲夫
		米沢 真一（S45.4.12まで）	吉岡 達雄（S45.8.1まで）	東砺波郡	川口 義門（S45.4.12まで）	板橋 修
	新湊市	越野培名男	舟木 直久	砺波市	菅野 宜紀（S45.4.12まで）	芳尾 弘史（S45.3.31まで）
	滑川市	飯田 弘	水橋 哲夫	西砺波郡	新谷 政彦（S45.4.12まで）	成瀬 達雄
	中新川郡	小森 甚作	佐伯 正清	小矢部市	渡辺 親良	青木 健治
	下新川郡	山内 登	宝田 力	上新川郡	山田 外雄	黒川五一郎

委員会 ◎委員長 ○室長						
	総務委員会	◎小林 全二	谷井 三郎	川口 義門	渡辺 親良	三羽 博久
		小森 甚作	中島 清則			
	経理委員会	坂下 孝則	茶山 信吉	越野培名男	山内 登	島田余三男
		佐伯 正清				
	社保委員会	◎田上 修	芳尾 弘史	水野 公之	米沢 真一	吉田 茂
		飯田 弘	小山 哲夫	大島 輝哉		
	学術委員会	◎吉岡 達雄（S45.6.30まで）	山田 外雄	成瀬 達雄	篠川 之靖（S45.6.8まで）	島田 正豊
		佐渡 哲雄	高橋日出夫	内田 安博		
	厚生委員会	宮森 正次	中川 武	菅野 宜紀	新谷 政彦（辞任）	広瀬 一男
		熊木 甚朔	永森 尚之（S45.1.31より）	長谷川富久（S45.1.31より）		
	共済委員会	浦野與四郎	立浪 次作	田中 直次	青木 康三	関 清子
		松原 明男（S45.1.31より）	吉見 武志（S45.1.31より）	大野 繁彦（S45.1.31より）		
	広報室	○松原清一郎	青木 健治	宝田 力	水橋 哲夫	清水 周明
	調査室	○板橋 修	寺島 祐輔	黒川五一郎	永森 尚之	舟木 直久
	選挙委員会	平井 茂光	石川 哲夫（S45.2.8より）	鷹取 昭治（S45.2.8より）	小杉与三雄（S45.2.8より）	桜木 成一
	裁定委員会	◎早見 治顕	成瀬 八郎	河村哲之助	赤祖父三郎	倉田敬二郎
歯科技工士学院		阿部 清一（理事長）	松田 正男（副理事長）	永森 収（学院長）		
		中島 忠一（理事）	坊 明男（理事）	杉江 玄己（理事）	山本 壮一（理事）	今村 勝彦（理事）

支部長	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）
	富山地区	中島 清則	黒部市	島田 正豊	婦負郡	吉田 茂
	高岡市	米沢 真一	砺波市	千保 利	射水郡	立浪 次作
	新湊市	越野培名男	小矢部市	吉村 史郎	東砺波郡	仲村 博
	魚津市	谷井 三郎	上新川郡	米沢 卯一	西砺波郡	伊東 祐年
	氷見市	茶山 信吉	中新川郡	坂下 孝則		
	滑川市	藤井 弘	下新川郡	大菅 十造		

昭和46年度～47年度

（第13期 1971.4.1～1973.3.31）

本会役員	会長	深山　正之				
	副会長	四日　善一	藤井　弘			
	理事	中島　清則（総務）	高田寅四郎（経理）	水野　誓夫（社保）	吉岡　達雄（学術）	高田　育三（厚生）
		米沢　真一（共済）	近藤　秀雄（広報・調査）	永森　尚之（学院）		
	監事	大菅　十造	立浪　次作			
代議員・予備代議員 ◎議長 ○副議長	（地区）	（代議員）	（予備代議員）	（地区）	（代議員）	（予備代議員）
	※富山市	寺島　祐輔	高野秀次郎	中新川郡	小森　甚作	佐伯　正清
		◎家城　圭一	松原　明男	下新川郡	柚木　一夫	宝田　力
		関　剛三郎	松原清一郎	魚津市	谷井　三郎	広瀬　一男
		佐渡　哲雄	宮本　乙男	黒部市	渡辺　綱男	峰村　綾子
		松能　喜一	篠川　之靖	婦負郡	関　清子	大井ハツ子
		源　三郎	原田　修逸	射水郡	岩井二三雄	小橋　長造
		島　信行（S46.8.20より）		氷見市	吉野　克男	坊　明男
	高岡市	石川　静郎	平出　町男	東砺波郡	川口　義門	仲村　博
		熊木　甚朔	立野　泰三	砺波市	千保　利	鷹取　昭治
		関　信一	青木　進	西砺波郡	成瀬　達雄	棚田　昌俊
	新湊市	○舟木　直久	中島　吉春	小矢部市	青木　健治	谷口　博朗
	滑川市	飯田　弘	水橋　哲夫	上新川郡	黒川五一郎	山田　外雄
委員会 ◎委員長 ○室長	総務委員会	家城　圭一	谷井　三郎	山崎　安隆	関　剛三郎	川口　義門
		熊木　甚朔	菅野　宜紀			
	経理委員会	舟木　直久	岩井二三雄	鷹取　昭治	源　三郎	関　清子
		仲村　博	立野　泰三			
	社保委員会	佐渡　哲雄	飯田　弘	成瀬　達雄	原田　修逸	寺島　祐輔
		平出　町男	千保　利	山本　壮一	谷口　博朗	
	学術委員会	柚木　一夫	篠川　之靖	山田　外雄	桜木　正昭	石川　静郎
		松能　喜一	宮本　乙男	青木　進	高橋日出夫	川口　義門
	厚生委員会	小森　甚作	小橋　長造	松原　明男	関　信一	黒川五一郎
		坂下　孝則（S46.8.27まで）	三羽　博久			
	共済委員会	中島　吉春	大井ハツ子	小山　哲夫	吉野　克男	峰村　綾子
		高野秀次郎	青木　健治			
	広報室	宝田　力	坊　明男	金山　嘉城	松原清一郎	水橋　哲夫
		広瀬　一男				
	調査室	棚田　昌俊	佐伯　正清	板橋　修	渡辺　綱男	松能　二郎
	選挙委員会	桜木　成一	石川　哲夫	上田　昌	平井　茂光	小杉与三雄
	裁定委員会	早見　治顕	河村哲之助	倉田敬二郎	成瀬　八郎	赤祖父三郎
	税務委員会	◎吉田　茂（S46.11.7より委員長）	舟木　直久	千保　利	岩井二三雄	成瀬　達雄
	（S46.8.28設置）	谷井　三郎	篠川　之靖	坂下　孝則	倉田　卓（S46.12.18より）	三崎　正春
歯科技工士学院		深山　正之（理事長）	永森　収（学院長）	山本　壮一（理事）	永森　尚之（理事）	杉江　玄己（理事）
		今村　勝彦（理事）	松田　正男（理事）	中島　忠一（理事）		
歯科衛生士養成所設立準備委員会（S47.4.20～S47.8.20）		島　信行	松田　正男	山本　壮一	千保　利	三崎　正春
		中島　忠一				
歯科衛生士養成所設置実行委員会（S47.8.20～S47.12.20）		島　信行	松田　正男	山本　壮一	今村　勝彦	三崎　正春
		飯田　弘	千保　利			
富山歯科衛生士学院運営委員会（S47.12.20～S48.4.10）		島　信行	松田　正男	山本　壮一	三崎　正春	
支部長	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）
	※富山市	山崎　安隆	黒部市	峰村　綾子	婦負郡	関　清子
	高岡市	吉岡　達雄	砺波市	千保　利	射水郡	岩井二三雄
	新湊市	舟木　直久	小矢部市	上田　昌	東砺波郡	板橋　修
	魚津市	谷井　三郎	上新川郡	山田　外雄	西砺波郡	島田　正三
	氷見市	倉田　卓	中新川郡	坂下　孝則		
	滑川市	藤井　弘	下新川郡	大菅　十造		

※昭和47年より富山地区から富山市に変更

昭和48年度～49年度

（第14期 1973.4.1～1975.3.31）

本会役員	会長	深山　正之				
	副会長	四日　善一	松能　喜一			
	理事	中島　清則（総務）	高田寅四郎（財務）	吉田　茂（医療管理・税務）	吉岡　達雄（学術）	水野　誓夫（社保）
		米沢　真一（福祉共済）	三崎　正春（広報調査）	宝田　力（公衆衛生）	永森　尚之（学院）	
	監事	島田　栄吉	大菅　十造			
代議員・予備代議員 ◎議長 ○副議長	（地区）	（代議員）	（予備代議員）	（地区）	（代議員）	（予備代議員）
	富山市	家城　圭一	松原清一郎	下新川郡	○柚木　一夫	宝田　力（S48.6.4まで）
		佐渡　哲雄	松原　明男			小杉与三雄（S48.6.5より）
		水野　公之	原田　修逸	魚津市	広瀬　一男	奥川　澄夫
		金森　安信	岡田　洋昭	黒部市	女川　清	吉見　武志
		島　秀雄	高橋日出夫	婦負郡	大井ハツ子	小杉　元治
		寺島　祐輔	高野秀次郎	射水郡	立浪　次作	三島　三郎
	高岡市	関　信一	青木　進	氷見市	吉野　克男	坊　明男
		石川　静郎	平出　町男	東砺波郡	◎川口　義門	仲村　博
		熊木　甚朔	立野　泰三	砺波市	千保　利	桜木　正昭
	新湊市	中島　吉春	清水　周明	西砺波郡	成瀬　達雄	棚田　昌俊
	滑川市	飯田　弘	水橋　哲夫	小矢部市	青木　健治	津田すみ子
	中新川郡	佐渡　永貞	牧野　貞子			
委員会 ◎委員長 ○副委員長	総務委員会	川口　義門	家城　圭一	熊木　甚朔	谷井　三郎	山崎　安隆
		飯田　弘	菅野　宜紀			
	財務委員会	◎立浪　次作	○佐渡　哲雄	佐渡　永貞	大井ハツ子	津田すみ子
		仲村　博	牧野　貞子			
	医療管理委員会	◎青木　康三	○石黒　繁	栗山　豊実	岡田　洋昭	石川　静郎
	税務委員会	◎坂下　孝則	○篠川　之靖	浦野　潤	松野　二郎	新谷　政彦
	学術委員会	◎島　秀雄	○金森　安信	青木　進	柚木　一夫	林　俊郎
		福井　洋	松浦　實			
	社保委員会	◎千保　利	○寺島　祐輔	水野　公之	広瀬　一男	成瀬　達雄
		佐伯　正清	奥村　朋宏			
	福祉共済委員会	◎吉野　克男	○青木　健治	中島　吉春	松原　明男	高野秀次郎
		奥川　澄夫	立野　泰三			
	広報調査委員会	◎松原清一郎	○女川　清	水橋　哲夫	金山　嘉城	坊　明男
		平出　町男	大野　繁彦			
	公衆衛生委員会	◎関　信一	○山下　銀七	三島　三郎	小杉　元治	棚田　昌俊
	選挙委員会	◎平井　茂光	石川　哲夫	上田　昌	倉田　卓	小杉与三雄（S48.6.5まで）
		島田　正豊（S49.4.1より）				
	裁定委員会	早見　治顕	河村哲之助	倉田敬二郎	成瀬　八郎	赤祖父三郎
歯科技工士学院		深山　正之（理事長）	永森　尚之（担当理事）			
		松田　正男（理事）	杉江　玄己（理事）	今村　勝彦（理事）	内田　安博（理事）	宮田　靖雄（理事）
歯科衛生士学院		深山　正之（理事長）	永森　尚之（担当理事）			
		島　信行（理事）	中島　忠一（理事）	山本　壮一（理事）	清水　周明（理事）	桜木　正昭（理事）
支部長	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）
	富山市	山崎　安隆	滑川市	藤井　弘	下新川郡	大菅　十造
	高岡市	吉岡　達雄	黒部市	吉見　武志	婦負郡	大井ハツ子
	新湊市	中島　吉春	砺波市	鷹取　昭治	射水郡	立浪　次作
	魚津市	谷井　三郎	小矢部市	上田　昌	東砺波郡	及川　哲夫
	氷見市	倉田　卓	中新川郡	佐渡　永貞	西砺波郡	島田　正三

昭和50年度～51年度

（第15期 1975.4.1～1977.3.31）

本会役員	会長	永森　収				
	副会長	山崎　安隆	藤井　弘			
	理事	田上　修（総務）	青木　康三（財務）	飯田　弘（医療管理・税務）	石川　静郎（学術）	水野　公之（社会保険）
		吉村　史郎（福祉共済）	坊　明男（広報調査）	寺島　祐輔（公衆衛生）	松田　正男（学院）	
	監事	岩井二三雄	米田　祐弘			

代議員・予備代議員　◎議長　○副議長	（地区）	（代議員）	（予備代議員）	（地区）	（代議員）	（予備代議員）
	富山市	家城　圭一	三崎　譲司	新湊市	清水　周明	越野培名男
		黒木　正直	佐渡　哲雄（S50.5.14まで）	滑川市	飯田　弘（S50.5.14まで）	水橋　哲夫
			松原清一郎（S50.5.15より）		大野　繁彦（S50.5.15より）	
		杉江　玄己（S50.5.14まで）	逸見　玲	中新川郡	佐伯　正清	牧野　貞子
		島　秀雄（S50.5.15より）		下新川郡	小杉与三雄	大菅　武
		高橋日出夫	栗山　豊実	魚津市	奥川　澄夫	山口　清衣
		◎阿部　清一	黒川五一郎	黒部市	女川　清	田中　直次
		三羽　博久	大浦　重光	婦負郡	小杉　元治	大井　克彦
		竹林　正俊	北山善之進（S50.5.14まで）	射水郡	三島　三郎	立浪　次夫
			原田　修逸（S50.5.15より）	氷見市	○吉野　克男（S51.1.24まで）	長谷川富久（S51.1.24まで）
	高岡市	宮田　靖雄（S50.5.14まで）	岩井　道雄		長谷川富久（S51.1.25より）	時女外与三（S51.1.25より）
		四日　善一（S50.5.15より）		東砺波郡	川口　義門	仲村　博
		青木　進	福井　洋	砺波市	千保　利	鷹取　昭治
		元井　英夫	松田　倫雄	西砺波郡	高広　勇次	小山　辰二
		熊木　甚朔	立野　泰三	小矢部市	青木　健治	津田すみ子

委員会　◎委員長						
	総務委員会	◎川口　義門	竹林　正俊	三羽　博久	熊木　甚朔	阿部　清一
		黒木　正直	吉野　克男			
	財務委員会	◎家城　圭一	仲村　博	栗山　豊実	津田すみ子	田中　直次
		千保　利	青木　進			
	医療管理委員会	◎清水　周明	大菅　武	大野　繁彦	女川　清	島　秀雄
	税務委員会	◎坂下　孝則	三崎　譲司	四日　善一	石川　哲夫	篠川　之靖
	学術委員会	◎吉岡　達雄	金森　安信	菅野　勝紀	福井　洋	小倉　孝夫
		大井　克彦	山下　銀七	高橋日出夫	大浦　重光	林　俊郎
		山岸　敏治				
	社会保険委員会	◎成瀬　達雄	小杉与三雄	長谷川富久	佐伯　正清	佐渡　哲雄
		黒川五一郎	奥村　朋宏			
	福祉共済委員会	◎小杉　元治	青木　健治	立野　泰三	牧野　貞子	立浪　次夫
		鷹取　昭治	島田　正美			
	広報調査委員会	松原清一郎（広報室長）	松田　倫雄（広報副室長）	逸見　玲	岩井　道雄	水橋　哲夫
		奥川　澄夫（調査室長）	篠原　昭道			
	公衆衛生委員会	◎関　信一	小山　辰二	高広　勇次	山口　清衣	三島　三郎
		越野培名男	原田　修逸			
	選挙委員会	◎平井　茂光	石川　哲夫	上田　昌	島田　正豊	斉藤　義寿
	裁定委員会	早見　治顕	北山　静次	倉田敬二郎	成瀬　八郎	赤祖父三郎

歯科技工士学院						
	理事長	永森　収				
	担当理事・副理事長	松田　正男				
	理事	内田　安博	山本　壮一	杉江　玄己	今村　勝彦	宮田　靖雄

歯科衛生士学院	理事長	永森　収				
	担当理事	松田　正男				
	副理事長	島　信行				
	理事	中島　忠一	佐渡　哲雄	桜木　正昭	北山善之進	
総合会館建設特別委員会（S51.4.1設置）	理事長	阿部　清一				
	副理事長	四日　善一	黒木　正直			
	財務部長	四日　善一				
	財務副部長	山崎　安隆				
	財務委員	川口　義門	千保　利	倉田　卓	深山　正之	青木　康三
		吉村　史郎	石川　静郎	坊　明男		
	建設部長	黒木　正直				
	建設副部長	藤井　弘				
	建設委員	熊木　甚朔	竹林　正俊	水野　誓夫	石崎　護	今村　勝彦
		中島　忠一	松田　正男	寺島　祐輔	水野　公之	飯田　弘

支部長	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）
	富山市	黒木　正直	下新川郡	近藤　秀雄	氷見市	倉田　卓
	高岡市	三崎　正春	魚津市	広瀬　一男	東砺波郡	中尾　修
	新湊市	清水　周明	黒部市	田中　直次	砺波市	鷹取　昭治
	滑川市	藤井　弘	婦負郡	小杉　元治	西砺波郡	石崎　護
	中新川郡	佐渡　永貞	射水郡	三島　三郎	小矢部市	上田　昌

昭和52年度～53年度

（第16期 1977.4.1～1979.3.31）

本会役員	会長	永森　収				
	副会長	山崎　安隆	藤井　弘			
	専務理事	田上　修（総務）				
	理事	青木　康三（財務）	飯田　弘（医療管理・税務）	石川　静郎（学術）	水野　公之（社会保険）	吉村　史郎（福祉共済）
		坊　明男（広報調査）	寺島　祐輔（公衆衛生）	松田　正男（学院）（S53.2.11死亡）	中島　忠一（学院）（S53.3.11より）	
	監事	岩井二三雄	倉田　卓			

代議員・予備代議員　◎議長　○副議長	（地区）	（代議員）	（予備代議員）	（地区）	（代議員）	（予備代議員）
	富山市	家城　圭一	三崎　譲司	滑川市	水橋　哲夫	奥平ユキヱ
		黒木　正直	松原清一郎	中新川郡	佐伯　正清	牧野　貞子
		篠川　之靖	金森　安信	下新川郡	小杉与三雄	大菅　武
		高橋日出夫	栗山　豊実	魚津市	夏目　恭佐	奥村　朋宏
		◎阿部　清一	黒川五一郎	黒部市	平井　和輝	小倉　直義
		竹林　正俊	原田　修逸	婦負郡	大井　克彦	吉田　季彦
		三羽　博久	大浦　重光	射水郡	○郷倉　信一	小橋　長造
	高岡市	立野　泰三	岩井　道雄	氷見市	長谷川富久	時女外与三
		四日　善一	福井　洋	東砺波郡	川口　義門	仲村　博
		青木　進	金山　喜吉	砺波市	高田寅四郎	鷹取　昭治
		元井　英夫	松田　倫雄	西砺波郡	高広　勇次	小山　辰二
	新湊市	越野培名男	山田　正昭	小矢部市	青木　健治	渡辺　親良

委員会　◎委員長　○副委員長						
	総務委員会	阿部　清一	川口　義門	竹林　正俊	四日　善一	三羽　博久
		黒木　正直	高田寅四郎			
	財務委員会	◎家城　圭一	○郷倉　信一	田中　直次	仲村　博	青木　進
		栗山　豊実	山下　銀七	平井　和輝		
	医療管理委員会	◎山本　壮一	○大野　繁彦	大菅　武	寺田　周明	永森　靖夫
		林　直樹	立野　泰三	高広　勇次	吉田　季彦	四日　隆夫
	税務委員会	◎今村　勝彦	○金森　安信	篠川　之靖	三崎　譲司	鷹取　昭治
		時女外与三	木村　純一			
	学術委員会	◎高橋日出夫	○川口　義治	大浦　重光	福井　洋	大井　克彦
		宮田　靖雄	小林　憲夫	小山　辰二		
	社会保険委員会	◎佐渡　哲雄	○小杉与三雄	成瀬　達雄	黒川五一郎	長谷川富久
		奥村　朋宏	佐伯　正清	松浦　實	浦野　潤	
	福祉共済委員会	◎小橋　長造	○元井　英夫	青木　健治	牧野　貞子	立浪　次夫
		島田　正美	水橋　哲夫	越野培名男	小倉　直義	奥平ユキヱ
	広報調査委員会	◎松原清一郎	○奥川　澄夫	松田　倫雄	逸見　玲	篠原　昭道
		岩井　道雄	山田　正昭			
	公衆衛生委員会	◎関　信一	○石川　哲夫	原田　修逸	家城　佳夫	小倉　孝夫
		山岸　敏治	夏目　恭佐	林　俊郎	中辻　義忠	杉本　友夫
		石多　謙治				
	選挙委員会	◎桜木　成一	沖田　弘正	上田　昌	島田　正豊	家城　佳夫

歯科技工士学院	理事長	永森　収				
	副理事長	松田　正男（S53.2.11死亡）	中島　忠一（S53.3.11より）			
	理事	内田　安博	山本　壮一	杉江　玄己	今村　勝彦	宮田　靖雄
歯科衛生士学院	理事長	永森　収				
	副理事長	島　信行				
	理事	松田　正男（S53.2.11死亡）	中島　忠一	佐渡　哲雄	桜木　正昭	北山善之進

総合会館建設特別委員会（S54.4.30まで）	理事長	阿部　清一					
	副理事長	四日　善一	黒木　正直				
	財務部長	四日　善一					
	財務副部長	山崎　安隆					
	財務委員	川口　義門	千保　利	倉田　卓	深山　正之	青木　康三	
		吉村　史郎	石川　静郎	坊　明男			
	建設部長	黒木　正直					
	建設副部長	藤井　弘					
	建設委員	熊木　甚朔	竹林　正俊	水野　誓夫	石崎　護	今村　勝彦	
		中島　忠一	松田　正男（S53.2.11死亡）	寺島　祐輔	水野　公之	飯田　弘	
支部長	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）	
	富山市	黒木　正直	下新川郡	近藤　秀雄	氷見市	倉田　卓	
	高岡市	三崎　正春	魚津市	奥川　澄夫	東砺波郡	中尾　修	
	新湊市	越野培名男	黒部市	小倉　直義	砺波市	桜木　正昭	
	滑川市	藤井　弘	婦負郡	大井　克彦	西砺波郡	石崎　護	
	中新川郡	佐渡　永貞	射水郡	郷倉　信一	小矢部市	上田　昌	

昭和54年度～55年度

（第17期 1979.4.1～1981.3.31）

本会役員	会長	永森　収（S55.11.28死亡）	藤井　弘（S55.12.15より）			
	副会長	山崎　安隆	藤井　弘（S55.12.14まで）			
	専務理事	田上　修（総務）				
	理事	青木　康三（財務）	飯田　弘（医療管理・税務）	石川　静郎（学術）	水野　公之（社保）	佐渡　哲雄（国保）
		吉村　史郎（福祉共済）	坊　明男（広報調査）	栗山　豊実（公衆衛生）	今村　勝彦（学院技工士科）	中島　忠一（学院衛生士科）
		寺島　祐輔（口腔保健センター）				
	監事	岩井二三雄	倉田　卓			

代議員・予備代議員 ◎議長 ○副議長	（地区）	（代議員）	（予備代議員）	（地区）	（代議員）	（予備代議員）
	富山市	黒木　正直	松浦　實	滑川市	水橋　哲夫	奥平ユキヱ
		阿部　清一	高石　叡	中新川郡	佐伯　正清	小泉　隆英
		家城　圭一	三崎　譲司	下新川郡	小杉与三雄	大菅　武
		竹林　正俊	岡崎　満雄	魚津市	奥村　朋宏	谷井　三利
		三羽　博久	大浦　重光	黒部市	島田　正豊	渡辺　綱男
		小林　全二	寺田　周明	婦負郡	吉田　季彦	山本　征彦
		逸見　玲	柚木　邦夫	射水郡	小橋　長造	黒川勇次郎
	高岡市	立野　泰三	金山　喜吉	氷見市	長谷川富久	加藤　英一
		四日　善一	福井　洋	東砺波郡	川口　義門	仲村　博
		青木　進	岩井　道雄	砺波市	高田寅四郎	鷹取　昭治
		元井　英夫	松田　倫雄	西砺波郡	石崎　護	島田　正美
	新湊市	山田　正昭	和田めりい	小矢部市	上田　昌	岡本　学

委員会 ◎委員長 ○副委員長						
	総務委員会	阿部　清一	川口　義門	竹林　正俊	三羽　博久	黒木　正直
		高田寅四郎	中島　清則	芳尾　弘史		
	財務委員会	家城　圭一	深山　正之	小林　全二	永森　尚之	青木　進
		四日　善一	田中　直次	小橋　長造		
	医療管理委員会	◎立野　泰三	○寺田　周明	高石　叡	佐伯　正清	小泉　隆英
		四日　隆夫	木下　信雄	加藤　英一	成瀬　達雄	林　直樹
		岡崎　満雄				
	税務委員会	◎金森　安信	○谷口　博朗	篠川　之靖	三崎　譲司	木村　純一
		夏目　恭佐	谷井　三利	菅野　勝紀	新谷　政彦	
	学術委員会	◎高橋日出夫	○山本　征彦	小林　憲夫	柚木　邦夫	福島　武人
		大道　素夫	吉田　季彦	岡本　学		
	保険委員会	◎奥村　朋宏	○長谷川富久	小杉与三雄	松浦　實	浦野　潤
		千保　利	石崎　護	川口　義治	家城　佳夫	
	福祉共済委員会	大野　繁彦	林　弘	島田　栄吉	元井　英夫	和田めりい
		小倉　直義	島田　正豊	立浪　次夫	高田　育三	島田　正美
		上田　昌				
	広報調査委員会	◎松原清一郎	○奥川　澄夫	逸見　玲	篠原　昭道	松田　倫雄
		山田　正昭	水橋　哲夫			
	公衆衛生委員会	◎平井　和輝	○森井　徹雄	砂子　満明	中嶋　渉	米山　俊夫
		山崎　宣夫	水野　隆俊	平木　光昭	吉岡　達博	稲場　文久
		小熊　清史	河村　允	黒川勇次郎	中辻　義忠	芳尾　久志
		中尾　修				
	選挙委員会	◎桜木　成一（S55.12.26まで）	沖田　弘正（S55.12.26まで）	上田　昌（S55.12.26まで）	島田　正豊（S55.12.26まで）	家城　佳夫（S55.12.26まで）
		◎島　秀雄（S55.12.27より）	大野　繁彦（S55.12.27より）	奥川　澄夫（S55.12.27より）	越野　学（S55.12.27より）	中尾　修（S55.12.27より）

富山口腔保健センター理事会	理事長	永森　収 (S55.11.28死亡)	藤井　弘 (S55.12.15より)			
	副理事長	藤井　弘 (S55.12.14まで)	寺島　祐輔			
	理事	田上　修	青木　康三	石川　静郎	栗山　豊実	永森　靖夫
		林　俊郎	家城　佳夫	石川　哲夫	小倉　孝夫	岡田　洋昭
		杉本　友夫	山岸　敏治	石多　謙治	高石　叡	夏目　恭佐
富山歯科総合学院理事会	理事長	永森　収 (S55.11.28死亡)	藤井　弘 (S55.12.15より)			
	副理事長	山崎　安隆	中島　忠一	今村　勝彦		
	技工士科理事	田上　修	青木　康三	内田　安博	山本　壮一	宮田　靖雄
		杉江　玄己	松田　倫雄	大井　克彦		
	衛生士科理事	田上　修	青木　康三	桜木　正昭	北山善之進	福井　洋
		川口　義治	逸見　玲	大浦　重光		

支部長	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）
	富山市	黒木　正直	下新川郡	近藤　秀雄	氷見市	倉田　卓
	高岡市	三崎　正春	魚津市	奥川　澄夫	東砺波郡	川口　義治
	新湊市	山田　正昭	黒部市	渡辺　綱男	砺波市	桜木　正昭
	滑川市	藤井　弘	婦負郡	吉田　季彦	西砺波郡	棚田　昌俊
	中新川郡	佐渡　永貞	射水郡	小橋　長造	小矢部市	上田　昌

昭和56年度～57年度

（第18期 1981.4.1～1983.3.31）

本会役員	会長	藤井　弘				
	副会長	水野　誓夫	三崎　正春			
	専務理事	水野　公之（総務）				
	理事	山本　壯一（財務）	飯田　弘（医療管理）	今村　勝彦（税務）	桜木　正昭（学術）	佐渡　哲雄（保険）
		浦野　潤（保険）	福井　洋（福祉共済）	山田　正昭（広報）	坊　明男（調査）	栗山　豊実（公衆衛生）
		宮田　靖雄（学院技工士科）	北山善之進（学院衛生士科）	石川　哲夫（口腔保健センター）		
	監事	倉田　卓	中島　清則			

代議員・予備代議員　◎議長　○副議長	（地区）	（代議員）	（予備代議員）	（地区）	（代議員）	（予備代議員）
	富山市	◎家城　圭一	三崎　譲司	滑川市	水橋　哲夫	奥平　秀子
		三羽　博久	大浦　重光	中新川郡	小泉　隆英	佐渡　永貞
		小林　全二	岡田　洋昭	下新川郡	小杉与三雄	大菅　武
		山崎　安隆	柚木　邦夫	魚津市	奥村　朋宏	稲場　文久
		高橋日出夫	山崎　宣夫	黒部市	峰村　綾子（S56.7.25まで）	女川　清
		寺島　祐輔	山岸　敏治		吉見　武志（S56.8.30より）	
		松浦　實	中嶋　渉	婦負郡	山本　征彦	吉田　茂
		高石　叡	竹内　哲郎	射水郡	立浪　次夫	岩井　輝雄
	高岡市	四日　善一	木下　信雄	氷見市	長谷川富久	加藤　英一
		米沢　真一	大道　素夫	東砺波郡	中尾　修	川口　義治
		石川　静郎	岩﨑　弘治	砺波市	○高田寅四郎	菅野　勝紀
		立野　泰三	吉沢　啓（S56.11.26死亡）	西砺波郡	石崎　護	島田　正美
			谷口　博朗（S57.1.8より）	小矢部市	上田　昌	岡本　学
	新湊市	青木　一登	森永　丈策			

委員会　◎委員長　○副委員長						
	総務委員会	◎家城　圭一	○吉田　茂	寺島　祐輔	高石　叡	石川　静郎
		立野　泰三	長谷川富久	小杉与三雄	石崎　護	
	財務委員会	◎高田寅四郎	○三羽　博久	小林　全二	岡田　洋昭	柚木　邦夫
		四日　善一	稲場　文久	山本　征彦	大井　克彦	
	医療管理委員会	◎立野　泰三	○寺田　周明	中島　忠一	永森　靖夫	平木　光昭
		四日　隆夫	木下　信雄	米沢　真一	成瀬　達雄	女川　清
	税務委員会	◎三崎　譲司	○谷口　博朗	林　勉	内田　安博	河野　吉秀
		木村　純一	加藤　英一	島田　正豊	水橋　哲夫	菅野　勝紀
		林　直樹	岡本　学	稲場　文久	岩井　輝雄	吉見　武志
	学術委員会	◎高橋日出夫	○釣谷　東民	中嶋　渉	水野　隆俊	小林　憲夫
		大道　素夫	岩﨑　弘治	石多　謙治	森永　丈策	吉田　季彦
		吉沢　啓（S56.11.26死亡）	大城　宣之			
	保険委員会	◎奥村　朋宏	○長谷川富久	川口　義治	家城　佳夫	小倉　孝夫
		林　俊郎	石崎　護	小泉　隆英	小杉与三雄	
	福祉共済委員会	◎佐渡　永貞	○大野　繁彦	高石　叡	篠川　之靖	杉本　友夫
		松岡　正道	山田　真樹	高畠　隆	奥平　秀子	
	広報委員会	◎逸見　玲	○篠原　昭道	加藤　高男	石坂　正明	金森　安信
		島田　正美	青木　一登	高畠　隆	金子　光謙	
	調査委員会	◎松原清一郎	○奥川　澄夫	山崎　安隆	阿部　輝夫	東　忍
		上田　昌	中尾　修			

委員会	公衆衛生委員会	◎平井　和輝	○森井　徹雄	砂子　満明	中嶋　　渉	米山　俊夫
		山崎　宣夫	水野　隆俊	宮本　宣良	平木　光昭	吉岡　達博
		黒川勇次郎	立浪　次夫	中辻　義忠	小熊　清史	森本　　伸
		河村　　允	芳尾　久志	山本　武夫	倉田　雅人	大菅　　武
		松浦　　實				
	選挙委員会	◎島　　秀雄	奥川　澄夫	大野　繁彦	越野　　学	中尾　　修
富山口腔保健センター理事会	理事長	藤井　　弘				
	副理事長	水野　誓夫	石川　哲夫			
	理事	水野　公之	山本　壯一	栗山　豊実	桜木　正昭	永森　靖夫
		岡田　洋昭	高石　　叡	小倉　孝夫	家城　佳夫	平木　光昭
		竹内　哲郎	山崎　宣夫	四日　隆夫	石多　謙治	山岸　敏治
富山歯科総合学院理事会	理事長	藤井　　弘				
	副理事長	三崎　正春	北山善之進	宮田　靖雄		
	技工士科理事	水野　公之	山本　壯一	松田　倫雄	大井　克彦	山本　征彦
		吉田　季彦	木村　純一	小林　憲夫		
	衛生士科理事	水野　公之	山本　壯一	大浦　重光	柚木　邦夫	大城　宣之
		福島　武人	菅野　勝紀	吉沢　　啓 (S56.11.26死亡)	阿部　輝夫 (S57.4.1より)	

支部長	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）
	富山市	寺島　祐輔	下新川郡	近藤　秀雄	氷見市	倉田　　卓
	高岡市	石川　静郎	魚津市	奥川　澄夫	東砺波郡	川口　義治
	新湊市	山田　正昭	黒部市	女川　　清	砺波市	桜木　正昭
	滑川市	水橋　哲夫	婦負郡	山本　征彦	西砺波郡	棚田　昌俊
	中新川郡	佐渡　永貞	射水郡	立浪　次夫	小矢部市	上田　　昌

昭和58年度～59年度

（第19期 1983.4.1～1985.3.31）

本会役員	会長	藤井　弘				
	副会長	水野　誓夫	三崎　正春			
	専務理事	水野　公之				
	理事	大野　繁彦（総務）	山本　壯一（財務）	立野　泰三（医療管理）	今村　勝彦（税務）	桜木　正昭（学術）
		佐渡　哲雄（保険）	浦野　潤（保険）	福井　洋（福祉共済）	山田　正昭（広報）	坊　明男（調査）
		栗山　豊実（公衆衛生）	永森　靖夫（口腔保健センター）	宮田　靖雄（学院技工士科）	北山善之進（学院衛生士科）	
	監事	中島　清則	三羽　博久			

代議員・予備代議員　◎議長　○副議長	（地区）	（代議員）	（予備代議員）	（地区）	（代議員）	（予備代議員）
	富山市	◎田上　修	松原清一郎	新湊市	青木　一登	森永　丈策
		三崎　譲司	福島　武人	滑川市	水橋　哲夫	奥平　秀子
		山崎　安隆	金川　直博	魚津市	奥村　朋宏	稲場　文久
		杉江　玄己	米沢　徹	黒部市	河村　允	平井　和輝
		寺島　祐輔	森井　徹雄	中新川郡	小泉　隆英	佐渡　永貞
		松浦　實	中嶋　渉	下新川郡	小杉与三雄	大菅　武
		金森　安信	坂本喜久雄	婦負郡	吉田　茂	羽井　良三
		高石　叡	竹内　哲郎	射水郡	岩井　輝雄	高畠　隆
	高岡市	四日　善一（S59.7.8死亡）	木下　信雄	氷見市	長谷川富久	加藤　英一
		林　俊郎（S59.8.7より）		東砺波郡	中尾　修	川口　義治
		米沢　真一	大道　素夫	砺波市	○高田寅四郎	菅野　勝紀
		熊木　甚朔	谷口　博朗	西砺波郡	島田　正美	石崎　護
		石川　静郎	岩﨑　弘治	小矢部市	上田外喜男	野田　孫就
		釣谷　東民	吉岡　達博			

委員会　◎委員長　○副委員長						
	総務委員会	◎田上　修	○吉田　茂	四日　善一	寺島　祐輔	高石　叡
		石川　静郎	長谷川富久	小杉与三雄	杉江　玄己	
	財務委員会	◎高田寅四郎	○山崎　安隆	松浦　實	柚木　邦夫	稲場　文久
		大井　克彦	米沢　真一	熊木　甚朔	家城　佳夫	
	医療管理委員会	◎中島　忠一	○寺田　周明	四日　隆夫	木下　信雄	成瀬　達雄
		女川　清	水橋　哲夫	焼田志図夫	上田外喜男	藤井　俊彦
		米沢　徹				
	税務委員会	◎三崎　譲司	○谷口　博朗	林　勉	内田　安博	河野　吉秀
		木村　純一	加藤　英一	島田　正豊	山本　武夫	岡本　学
		岩井　輝雄	米山　俊夫			
	学術委員会	◎高橋日出夫	○釣谷　東民	吉田　季彦	小林　憲夫	水野　隆俊
		中嶋　渉	大城　宣之	大道　素夫	岩﨑　弘治	森永　丈策
		杉本　友夫				
	保険委員会	◎石崎　護	○家城　佳夫	奥村　朋宏	長谷川富久	小杉与三雄
		川口　義治	小倉　孝夫	林　俊郎	小泉　隆英	谷口　博朗
		竹内　哲郎	水野　隆俊	坂本喜久雄		
	福祉共済委員会	◎佐渡　永貞	○羽井　良三	高石　叡	篠川　之靖	松岡　正道
		山田　真樹	高畠　隆	三﨑　公晴	河村　允	千保　利
	広報委員会	◎逸見　玲	○高畠　隆	加藤　高男	石坂　正明	金森　安信
		島田　正美	青木　一登	金子　光謙	野田　孫就	
	調査委員会	◎松原清一郎	○奥川　澄夫	山崎　安隆	阿部　輝夫	上田　昌
		中尾　修	夏目　恭佐	和田　敦志	大菅　武	奥平　秀子

委員会	公衆衛生委員会	◎平井　和輝	○森井　徹雄	中嶋　　渉	米山　俊夫	山崎　宣夫
		砂子　満明	吉岡　達博	黒川勇次郎	小熊　清史	森本　　伸
		芳尾　久志	山本　武夫	倉田　雅人	金川　直博	山村　辰雄
		江川　正通				
	選挙委員会	◎島　　秀雄	○奥川　澄夫	越野　　学	中尾　　修	林　　直樹
富山口腔保健センター理事会	理事長	藤井　　弘				
	副理事長	水野　誓夫	三崎　正春	水野　公之	永森　靖夫	
	理事	山本　壯一	栗山　豊実	桜木　正昭	小倉　孝夫	岡田　洋昭
		家城　佳夫	四日　隆夫	高石　　叡	山崎　宣夫	竹内　哲郎
		砂子　満明	平木　光昭	山崎　安仁	石多　謙治	斉藤　雄二
富山歯科総合学院理事会	理事長	藤井　　弘				
	副理事長	水野　誓夫	三崎　正春	水野　公之	北山善之進	宮田　靖雄
	技工士科理事	山本　壯一	松田　倫雄	大井　克彦	山本　征彦	吉田　季彦
		木村　純一	小林　憲夫			
	衛生士科理事	山本　壯一	大浦　重光	柚木　邦夫	大城　宣之	福島　武人
		菅野　勝紀	阿部　輝夫			

支部長	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）
	富山市	寺島　祐輔	中新川郡	佐渡　永貞	氷見市	坊　　明男
	高岡市	石川　静郎	下新川郡	近藤　秀雄	東砺波郡	川口　義治
	新湊市	山田　正昭	黒部市	平井　和輝	砺波市	菅野　勝紀
	滑川市	水橋　哲夫	婦負郡	吉田　　茂	西砺波郡	新谷　政彦
	魚津市	奥川　澄夫	射水郡	岩井　輝雄	小矢部市	岡本　　学

昭和60年度～62年度

（第20期 1985.4.1～1988.3.31）

本会役員

会長	藤井　弘				
副会長	三崎　正春（S62.7.17まで）	水野　公之	今村　勝彦（S62.8.12より）		
専務理事	今村　勝彦（S62.8.11まで）	坊　明男（S62.8.12より）（総務兼任）			
理事	坊　明男（総務）	山本　壮一（財務）	立野　泰三（医療管理）	三崎　譲司（税務）	奥村　朋宏（学術）
	佐渡　哲雄（保険）	浦野　潤（保険）	山本　征彦（福祉共済）	山田　正昭（広報）	大野　繁彦（調査）
	桜木　正昭（公衆衛生）	木村　純一（公衆衛生）	永森　靖夫（口腔保健センター）	宮田　靖雄（学院技工士科）	北山善之進（学院衛生士科）
監事	中島　清則	吉村　史郎			

代議員・予備代議員　◎議長　○副議長

（地区）	（代議員）	（予備代議員）	（地区）	（代議員）	（予備代議員）
富山市	松浦　實	坂下　賢孝	新湊市	森永　丈策	中島　潔
	横田　一二	小倉　孝夫	魚津市	夏目　恭佐	稲場　文久
	山崎　安隆	高橋日出夫	氷見市	加藤　英一	中辻　義忠
	金川　直博	山﨑　安仁	滑川市	酒井　義博	永井清一郎（辞任）
	家城　佳夫	福島　武人			水橋　景之（S61後任）
	○永森　尚之	松原清一郎	黒部市	渡辺　綱男	島田　正豊
	水野　隆俊	高石　叡	砺波市	◎高田寅四郎	菅野　勝紀
	岡田　洋昭	砂子　満明	小矢部市	上田外喜男	野田　孫就
	寺島　祐輔	森井　徹雄	中新川郡	小泉　隆英	小森　実
高岡市	石川　静郎	岩﨑　弘治	下新川郡	近藤　俊行	田原　保夫
	米沢　真一	木下　信雄	婦負郡	大井　克彦	吉田　季彦
	釣谷　東民	吉岡　達博	射水郡	黒川勇次郎	三島　三郎
	谷口　博朗	杉本　友夫	東砺波郡	川口　義治	林　直樹
	林　俊郎	四日　隆夫	西砺波郡	島田　正美	石崎　護

部会　◎部会長　○副部会長

総務部会	◎高田寅四郎	○松浦　實	石川　静郎	渡辺　綱男	寺島　祐輔
	福井　洋	高石　叡	田原　保夫		
財務部会	◎永森　尚之	○米沢　真一	山崎　安隆	林　俊郎	坂下　賢孝
	大井　克彦	福島　武人	山崎　宣夫		
医療管理部会	◎中島　忠一	○女川　清	水橋　哲夫	松原　明男	木下　信雄
	藤井　俊彦	米沢　徹	佐藤　慎一	倉田　雅人	熊木　彰
	松能　雄一	焼田志図夫			
税務部会	◎谷口　博朗	○林　勉	内田　安博	成瀬　達雄	島田　正豊
	岩井　輝雄	山岸　敏治	林　直樹	越野　学	河野　吉秀
	上田外喜男	米山　俊夫			
学術部会	◎釣谷　東民	○吉田　季彦	杉本　友夫	田中　慎二	岩﨑　弘治
	四日　隆夫	水野　隆俊	神田　純郎	中嶋　渉	坂本喜久雄
保険部会	◎石崎　護	○阿部　輝夫	小杉与三雄	谷口　博朗	加藤　英一
	菅野　勝紀	大城　宣之	杉本　友夫	米田　仗二	竹内　哲郎
	水野　隆俊	坂本喜久雄			
（S60.6.1増員）	平井　和輝	家城　佳夫	小倉　孝夫	福井　洋	
福祉共済部会	◎高石　叡	○松岡　正道	阿部　弘一	岡崎　満雄	芳尾　久志
	武　俊夫	飯田　良彦	小森　実	三﨑　公晴	小崎　利章
広報部会	◎高畠　隆	○金森　安信	逸見　玲	川口　義治	島田　正美
	野田　孫就	金子　光謙	和記　徳郎	青木　一登	石坂　正明
調査部会	◎松原清一郎	○奥川　澄夫	横田　一二	酒井　義博	寺田　周明
	篠原　昭道	島　秀一	中島　潔	島崎　聡	和田　敦志
公衆衛生部会	◎小熊　清史	○山本　武夫	原田　修逸	松岡　正道	森永　丈策
	坂本　和隆	中道　勇	山田　真樹	狩野　覚	谷川　文紹

部会	口腔保健センター部会	◎岡田　洋昭 平木　光昭 梶川　昌幸	○山崎　宣夫 山﨑　安仁 焼田志図夫（S61.4.1より）	河村　允 中島　徹（S61.3.31まで）	砂子　満明 大石　聡	竹内　哲郎 斉藤　雄二
	学院 歯科技工士科	◎松田　倫雄 狩野　覚	○大井　克彦	吉田　季彦	小林　憲夫	加藤　高男
	学院 歯科衛生士科	◎大浦　重光 岡本　学（S61.3.19死亡）	○阿部　輝夫 山田　真樹（S61.4.1より）	福島　武人	河野　吉秀	岩﨑　弘治
委員会	選挙委員会	◎島　秀雄	○奥川　澄夫	中尾　修	狩野　覚	越野　学
	裁定委員会	桜木　成一	竹林　正俊	芳尾　弘史	田中　直次	小林　信
富山口腔保健センター理事会	理事長	藤井　弘				
	副理事長	水野　公之				
	理事	三崎　正春（S62.7.17まで） 山崎　宣夫	永森　靖夫 砂子　満明	今村　勝彦	山本　壮一	岡田　洋昭
富山歯科総合学院理事会	理事長	藤井　弘				
	副理事長	三崎　正春（S62.7.17まで）	今村　勝彦（S62.8.12より）			
	理事	水野　公之 阿部　輝夫	北山善之進 松田　倫雄	宮田　靖雄 大井　克彦	今村　勝彦（S62.8.11まで） 大浦　重光	山本　壮一

（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）
富山市	松浦　實	黒部市	島田　正豊	婦負郡	大井　克彦
高岡市	石川　静郎	砺波市	菅野　勝紀	射水郡	黒川勇次郎
新湊市	山田　正昭	小矢部市	岡本　学（S61.3.19死亡）	東砺波郡	林　直樹
魚津市	奥川　澄夫		上田外喜男（S61.4.1より）	西砺波郡	新谷　政彦
氷見市	坊　明男	中新川郡	小森　甚作		
滑川市	水橋　哲夫	下新川郡	小杉与三雄		

昭和63年度～平成2年度

（第21期 1988.4.1～1991.3.31）

本会役員	会長	藤井　弘				
	副会長	今村　勝彦	坊　明男			
	専務理事	山本　壮一				
	理事	大野　繁彦（総務）	北山善之進（財務）	宮田　靖雄（医療管理）	高石　叡（医療管理）	山岸　敏治（税務）
		奥村　朋宏（学術）	熊木　彰（学術）	佐渡　哲雄（保険）	浦野　潤（保険）（S63.8.10まで）	石崎　護（保険）（S63.8.11より）
		山崎　宣夫（福祉共済）	高畠　隆（広報）	平井　和輝（調査）	木村　純一（公衆衛生）	山本　武夫（公衆衛生）
		岡田　洋昭（口腔保健センター）	松田　倫雄（学院技工士科）	福島　武人（学院衛生士科）		
	監事	山崎　安隆	上田　昌			

代議員・予備代議員　◎議長　○副議長	（地区）	（代議員）	（予備代議員）	（地区）	（代議員）	（予備代議員）
	富山市	寺島　祐輔	江川　正通	新湊市	森永　丈策	中島　潔
		◎水野　公之	狩野　覚	魚津市	清水　嗣貴	米田　仗二
		松原清一郎	坂本　和隆	氷見市	時女外与三	中辻　義忠
		栗山　豊実	米沢　徹	滑川市	酒井　義博	水橋　景之
		家城　佳夫	山田　耕	黒部市	田中　慎二	吉見　武志
		寺田　周明	小崎　利章	砺波市	桜木　正昭	菅野　勝紀
		金川　直博	村山偉知朗	小矢部市	上田外喜男	野田　孫就
		河野　吉秀	長沢　久	中新川郡	小森　実	吉岡ゑく子
		中嶋　渉	城川　和夫	下新川郡	田原　保夫	阿部　弘一
	高岡市	米沢　真一	木下　信雄	婦負郡	吉田　季彦	山本　征彦
		○石川　静郎	岩﨑　弘治	射水郡	佐野　正之	三島　純子
		釣谷　東民	吉岡　達博	東砺波郡	川口　義治	林　直樹
		谷口　博朗	杉本　友夫	西砺波郡	新谷　政彦	成瀬　達雄
		林　俊郎	四日　隆夫			

部会　◎部会長　○副部会長						
	総務部会	◎水野　公之	○栗山　豊実	寺島　祐輔	成瀬　達雄	桜木　正昭
		吉見　武志	林　俊郎	山田　正昭	福井　洋	
	財務部会	◎石川　静郎	○米沢　真一	松浦　實	三崎　譲司	新谷　政彦
		川口　義治	永森　靖夫	山本　征彦	田原　保夫	
	医療管理部会	◎木下　信雄	○焼田志図夫	坂下　賢孝	近藤　俊行	藤井　俊彦
		米沢　徹	安田　篤	芳尾　久志	島　秀一	飯田　良彦
		長沢　久	塩見　哲	三﨑　公晴		
	税務部会	◎谷口　博朗	○小林　憲夫	内田　安博	島田　正豊	中辻　義忠
		寺田　周明	林　直樹	越野　学	上田外喜男	米山　俊夫
		松岡　正道	源　義明			
	学術部会	◎釣谷　東民	○吉田　季彦	時女外与三	田中　慎二	水野　隆俊
		上田外喜男	神田　純郎	岡野　秀成	坂本喜久雄	佐野　正之
		松木　基祐	中島　清之	斉藤　雄二	川口　志郎	
	保険部会	◎家城　佳夫	○小倉　孝夫	小杉与三雄	坂本喜久雄	菅野　勝紀
		大城　宣之	杉本　友夫	水野　隆俊	石崎　護（S63.8.11より理事）	
	（H1.8.1増員）	横田　一二	酒井　義博	木下　信雄	山本　征彦	金川　直博
		藤井　俊彦	小林　憲夫	岩﨑　弘治	芳尾　久志	山﨑　安仁
		森本　伸	田原　保夫	松岡　正道	米澤　明成	
	福祉共済部会	◎森本　伸	○狩野　覚	金川　直博	宇和山義雄	松能　雄一
		高野　建一	武　俊夫	森永　丈策	村井　幸嗣	小森　実
		野田　修	小崎　利章	水野　知之		
	広報部会	◎金子　光謙	○石坂　正明	逸見　玲	金森　安信	川口　義治
		萬谷　敏紀	片山　浄慧	和記　徳郎	斉藤　雄二	高沢　尚人

部会	調査部会	◎松原清一郎	○奥川　澄夫	酒井　義博	篠原　昭道	清水　嗣貴
		竹内　哲郎	島　信博	島崎　聡	中島　潔	稲田　次郎
		和田　敦志	山本　茂			
	公衆衛生部会	◎中道　勇	○山田　真樹	砂子　満明	青木　一登	後藤　健
		安念　和英	城川　和夫	渡辺　和夫	魚津　博文	油田　達朗
		谷川　文紹	水越　弘	山田　隆寛		
	口腔保健センター部会	◎平木　光昭	○砂子　満明	河村　允	永井清一郎	小熊　清史
		山﨑　安仁	焼田志図夫	坂本　和隆	直江　尚利	大石　聡
		梶川　昌幸				
	学院 歯科技工士科	◎大井　克彦	○吉田　季彦	小林　憲夫	加藤　高男	松岡　正道
		狩野　覚				
	学院 歯科衛生士科	◎河野　吉秀	○岩﨑　弘治	宮本　宣良	中嶋　渉	中道　勇
		山田　真樹				
委員会	選挙委員会	◎島　秀雄	○奥川　澄夫	中尾　修	越野　学	横田　一二
	裁定委員会	桜木　成一	竹林　正俊	芳尾　弘史	田中　直次	小林　信
富山口腔保健センター理事会	理事長	藤井　弘				
	副理事長	坊　明男				
	理事	今村　勝彦	山本　壯一	大野　繁彦	北山善之進	岡田　洋昭
		平木　光昭				
富山歯科総合学院理事会	理事長	藤井　弘				
	副理事長	今村　勝彦				
	理事	坊　明男	山本　壯一	大野　繁彦	北山善之進	松田　倫雄
		福島　武人	大井　克彦	河野　吉秀		

支部長	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）
	富山市	栗山　豊実	滑川市	水橋　哲夫	下新川郡	小杉与三雄
	高岡市	石川　静郎	黒部市	吉見　武志	婦負郡	吉田　季彦
	新湊市	山田　正昭	砺波市	芳尾　久志	射水郡	佐野　正之
	魚津市	奥川　澄夫	小矢部市	上田外喜男	東砺波郡	林　直樹
	氷見市	長谷川富久	中新川郡	小森　甚作	西砺波郡	島田　正美

平成3年度～5年度

（第22期 1991.4.1～1994.3.31）

本会役員	会長	藤井　弘				
	副会長	今村　勝彦	坊　明男			
	専務理事	山本　壮一（H5.8.18死亡）				
	理事	大野　繁彦（総務）	北山善之進（財務）	宮田　靖雄（医療管理）	森井　徹雄（医療管理）	釣谷　東民（税務）
		熊木　彰（学術）	木下　信雄（学術）	菅野　勝紀（保険）	山﨑　安仁（保険）	平井　和輝（福祉共済）
		高畠　隆（広報）	山崎　宣夫（調査）	山岸　敏治（公衆衛生）	山本　武夫（公衆衛生）	平木　光昭（口腔保健センター）
		高石　叡（学院技工士科）	福島　武人（学院衛生士科）			
	監事	上田　昌	奥川　澄夫			

代議員・予備代議員　◎議長　○副議長	（地区）	（代議員）	（予備代議員）	（地区）	（代議員）	（予備代議員）
	富山市	○松浦　實	城野　利盛	新湊市	山田　正昭	安田　篤
		松原清一郎	坂本　和隆	魚津市	奥村　朋宏	森本　伸
		栗山　豊実	大城　宣之	氷見市	中辻　義忠	安達　昭
		永森　靖夫	直江　尚利	滑川市	酒井　義博	水橋　景之
		米沢　徹	宮本　宣良	黒部市	田中　慎二	田中　貢
		砂子　満明	松能　雄一	砺波市	桜木　正昭	芳尾　久志
		水野　隆俊	島　秀一	小矢部市	上田外喜男	野田　孫就
		中嶋　渉	城川　和夫	中新川郡	小森　実	吉岡ゑく子
		石坂　正明	飯田　良彦	下新川郡	阿部　弘一	野田　修
		村山偉知朗	稲田　次郎	婦負郡	山本　征彦	折山　弘
	高岡市	◎石川　静郎	岩﨑　弘治	射水郡	岩井　輝雄	大谷　敦志
		浦野　潤	宇和山義雄	東砺波郡	林　直樹	川口　義治
		谷口　博朗	杉本　友夫	西砺波郡	新谷　政彦	得能　昭夫
		林　俊郎	四日　隆夫			
		松田　倫雄	川渕　金哉			

部会　◎部会長　○副部会長						
	総務部会	◎石川　静郎	○栗山　豊実	桜木　正昭	岩井　輝雄	林　俊郎
		松田　倫雄	阿部　弘一	福井　洋	山本　征彦	
	財務部会	◎松浦　實	○浦野　潤	新谷　政彦	谷口　博朗	川口　義治
		永森　靖夫	山田　正昭	奥村　朋宏		
	医療管理部会	◎島　秀一	○飯田　良彦	米沢　徹	田中　慎二	岡野　秀成
		芳尾　久志	中島　潔	長沢　久	三﨑　公晴	
	税務部会	◎吉田　季彦	○小林　憲夫	中辻　義忠	林　直樹	坂下　賢孝
		上田外喜男	米山　俊夫	松岡　正道		
	学術部会	◎佐野　正之	○山村　辰雄	吉岡　千尋	仲村辰一郎	塩見　哲
		川口　志郎	上滝　浩	折山　弘	上田　均	牧野　明
	保険部会	◎水野　隆俊	○酒井　義博	小杉与三雄	佐渡　哲雄	家城　佳夫
		大井　克彦	吉田　季彦	倉田　雅人	木村　純一	宮本　宣良
		山田　真樹	和田　敦志	米澤　明成	斎藤　進	森本　伸（H5.6.1増員）
	福祉共済部会	◎森本　伸	○村井　幸嗣	大城　宣之	川渕　金哉	高野　建一
		杉江　玄嗣	水野　知之	織田　武吉		
	広報部会	◎萬谷　敏紀	○石坂　正明	逸見　玲	川口　義治	米田　仗二
		青木　一登	安ヵ川　聡	稲田　次郎（H4.4.1増員）	星野　照宗（H4.4.1増員）	
	調査部会	◎篠原　昭道	○竹内　哲郎	松原清一郎	宇和山義雄	古戸　充
		小森　実	山本　茂			
	公衆衛生部会	◎中道　勇	○山田　真樹	砂子　満明	山田　隆寛	安念　和英
		渡辺　和夫	魚津　博文	今村　明弘	油田　達朗	谷川　文紹
		水越　弘	原田　修成			

部会	口腔保健センター部会		◎焼田志図夫 坂本　和隆 荒井　亮雄	○梶川　昌幸 吉川　由治	永井清一郎 直江　尚利	小熊　清史 野田　修	後藤　健 村山偉知朗		
	学院	歯科技工士科	◎小林　憲夫 城川　和夫	○狩野　覚	加藤　高男	安田　篤	島　信博		
		歯科衛生士科	◎河野　吉秀 中島　清之	○岩﨑　弘治	中嶋　渉	宮本　宣良	島　秀一		
委員会	選挙委員会		島　秀雄	中尾　修	横田　一二	越野　学	森本　伸		
	裁定委員会		熊木　甚朔	中島　忠一	千保　利	高橋日出夫	小杉与三雄		
富山口腔保健センター理事会	理事長		藤井　弘						
	副理事長		今村　勝彦						
	理事		坊　明男 焼田志図夫	山本　壮一 (H5.8.18死亡)	大野　繁彦	北山善之進	平木　光昭		
富山歯科総合学院理事会	理事長		藤井　弘						
	副理事長		坊　明男						
	理事		今村　勝彦 福島　武人	山本　壮一 (H5.8.18死亡) 小林　憲夫	大野　繁彦 河野　吉秀	北山善之進	高石　叡		
富山口腔保健センター建設委員会 (H4.4.1設置)			石川　静郎 桜木　正昭 北山善之進	松浦　實 川口　義治 山本　壮一 (H5.8.18死亡)	栗山　豊実 今村　勝彦	林　俊郎 坊　明男	奥村　朋宏 大野　繁彦		
支部長	(支部名)		(支部長名)	(支部名)	(支部長名)	(支部名)	(支部長名)		
	富山市		栗山　豊実	滑川市	水橋　哲夫	下新川郡	小杉与三雄		
	高岡市		林　俊郎	黒部市	北山善之進 (H4.2.19まで)	婦負郡	山本　征彦		
	新湊市		青木　一登		田中　貢 (H4.2.20より)	射水郡	岩井　輝雄		
	魚津市		奥川　澄夫	砺波市	芳尾　久志	東砺波郡	川口　義治		
	氷見市		時女外与三 (H4.11.29死亡) 加藤　英一 (H4.11.30より)	小矢部市	上田外喜男	西砺波郡	島田　正美		
				中新川郡	小森　甚作				

平成6年度～8年度

（第23期 1994.4.1～1997.3.31）

本会役員	会長	藤井　弘				
	副会長	今村　勝彦	坊　明男	栗山　豊実		
	専務理事	宮田　靖雄				
	理事	大野　繁彦（総務）（H6.5.14死亡）	桜木　正昭（総務）（H6.7.28より）	北山善之進（財務）	山崎　宣夫（医療管理）	松木　基祐（医療管理）
		釣谷　東民（税務）	熊木　彰（学術）	安田　篤（学術）	山﨑　安仁（保険）	山田　真樹（保険）
		平井　和輝（福祉共済）	高畠　隆（広報）	篠原　昭道（調査）	山本　武夫（小児・学校歯科保健）	中道　勇（成人・産業歯科保健）
		山岸　敏治（高齢者歯科保健）	平木　光昭（特殊歯科診療）	焼田志図夫（特殊歯科診療）	高石　叡（学院歯科技工士科）	福島　武人（学院歯科衛生士科）
	監事	上田　昌	奥川　澄夫			
代議員・予備代議員 ◎議長 ○副議長	（地区）	（代議員）	（予備代議員）	（地区）	（代議員）	（予備代議員）
	富山市	松浦　實	城野　利盛	新湊市	山田　正昭	森永　丈策
		松原清一郎	坂本　和隆	魚津市	奥村　朋宏	清水　嗣貴
		家城　佳夫	砂子　満明	氷見市	安達　昭	倉田　雅人
		大浦　重光	直江　尚利	滑川市	酒井　義博	水橋　景之
		金川　直博	星野　照宗	黒部市	渡辺　和夫	田中　貢
		水野　隆俊	島　秀一	砺波市	菅野　勝紀	芳尾　久志
		松能　雄一	岡田　洋昭	小矢部市	上田外喜男	津田　伸之
		宮本　宣良	稲田　次郎	中新川郡	小森　実	吉岡ゑく子
		坂本喜久雄	橋本　正博	下新川郡	野田　修	魚津　博文
		島崎　聡	山村　辰雄	婦負郡	折山　弘	上田美保子
		城川　和夫	中島　清之	射水郡	大谷　敦志	三崎　慎也
	高岡市	浦野　潤	宇和山義雄	東砺波郡	村井　幸嗣	山本　茂
		岩井　道雄	川渕　金哉	西砺波郡	成瀬　達雄	島田　正美
		林　俊郎	四日　隆夫			
		杉本　友夫	中島　徹			
		岩﨑　弘治	福井　洋			
部会 ◎部会長 ○副部会長	総務部会	◎浦野　潤	○松原清一郎	家城　佳夫	林　俊郎	水橋　景之
		成瀬　達雄	桜木　正昭	杉本　友夫	松能　雄一	
	財務部会	◎奥村　朋宏	○松浦　實	岩井　道雄	山田　正昭	菅野　勝紀
		大浦　重光	福井　洋	金川　直博		
	医療管理部会	◎小森　実	○島崎　聡	砂子　満明	高橋　正志	釣谷　宗義
		松浦　幹	福尾　元成	北川　武史	宇和山義雄	
	税務部会	◎小林　憲夫	○狩野　覚	安達　昭	梶川　昌幸	坂下　賢孝
		田中　慎二	上田外喜男	根尾　満	坂本喜久雄	
	学術部会	◎佐野　正之	○山村　辰雄	吉岡　千尋	仲村辰一郎	川口　志郎
		上滝　浩	折山　弘	上田　均	牧野　明	土肥　勝博
	保険 第一部会	○吉田　季彦	水野　隆俊	斎藤　進	和田　敦志	倉田　雅人
		高野　建一	森永　丈策	山本　尚靖	米澤　明成	
	保険 第二部会	◎酒井　義博	佐渡　哲雄	家城　佳夫	菅野　勝紀	木村　純一
		宮本　宣良	森本　伸			
	（H7.6.1増員）	上田外喜男	小林　憲夫	河野　吉秀	杉江　玄嗣	
	福祉共済部会	◎村井　幸嗣	○西島　泰人	川渕　金哉	江川　正通	吉田　泰彦
		浅田　勝久	稲場　敦	吉崎　定夫		
	広報部会	◎萬谷　敏紀	○石坂　正明	逸見　玲	川口　義治	米田　仗二
		青木　一登	稲田　次郎	星野　照宗	安ヵ川　聡	
	調査部会	◎山本　茂	○竹内　哲郎	水野　知之	塩見　哲	新川いくみ
		米沢　吉治	内田　昌宏			

部会	歯科保健医療総合センター	小児・学校歯科保健部会	◎油田　達朗 小池　潤	○山田　隆寛 片岡　弘一	沖田　進	水分　寿雄	柚木　功
		成人・産業歯科保健部会	◎谷川　文紹 片口　宗久	○水越　弘 松倉純一郎	原田　修成	池田　寿人	得能　昭夫
		高齢者歯科保健部会	◎安念　和英 砂田　賢	○渡辺　和夫 織田　武吉	藤井　俊彦 大谷　敦志	杉江　玄嗣	今村　明弘
		特殊歯科診療部会	◎坂本　和隆 野田　修	○直江　尚利 荒井　亮雄	永井清一郎 片山　克己	吉川　由治 泉　照雄	後藤　健 堀　比佐司
	学院	歯科技工士科	◎加藤　高男 平澤　滋康	○城川　和夫	島　信博	城野　利盛	立浪　徹
		歯科衛生士科	◎河野　吉秀 山田　雅敏	○岩﨑　弘治	中嶋　渉	島　秀一	中島　清之
委員会	選挙委員会		島　秀雄	中尾　修	越野　学	田中　貢	大城　宣之
	裁定委員会		熊木　甚朔 (H7.3.20死亡) 石川　静郎 (H7.9.1より)	中島　忠一	青木　康三	女川　清	高田寅四郎
富山県歯科保健医療総合センター理事会	理事長		藤井　弘				
	副理事長		今村　勝彦	坊　明男	栗山　豊実		
	理事		宮田　靖雄	大野　繁彦 (H6.5.14死亡)	桜木　正昭 (H6.7.28より)	北山善之進	平木　光昭
			焼田志図夫	山本　武夫	中道　勇	山岸　敏治	坂本　和隆
			油田　達朗	谷川　文紹	安念　和英		
富山歯科総合学院理事会	理事長		藤井　弘				
	副理事長		坊　明男				
	理事		今村　勝彦	栗山　豊実	宮田　靖雄	大野　繁彦 (H6.5.14死亡)	桜木　正昭 (H6.7.28より)
			北山善之進	高石　叡	福島　武人	加藤　高男	河野　吉秀

支部長	(支部名)	(支部長名)	(支部名)	(支部長名)	(支部名)	(支部長名)
	富山市	家城　佳夫	黒部市	河村　允	下新川郡	小杉与三雄
	高岡市	林　俊郎	砺波市	神田　純郎	婦負郡	折山　弘
	新湊市	青木　一登	小矢部市	野田　孫就	射水郡	黒川勇次郎
	魚津市	米田　仗二	中新川郡	小森　甚作 (H8.6.17死亡)	東砺波郡	山本　武夫
	氷見市	加藤　英一		小泉　隆英 (H8.7.13より)	西砺波郡	得能　昭夫
	滑川市	水橋　哲夫				

※班長	(町村名)	(班長名)	(町村名)	(班長名)	(町村名)	(班長名)
	大沢野町	山田　雅敏	八尾町	大井　克彦	井波町	山本　武夫
	大山町	黒川五一郎	細入村		平村	
	舟橋村	佐渡　永貞	婦中町	上田美保子	上平村	林　直樹
	上市町	佐伯　正清	山田村		庄川町	村井　幸嗣
	立山町	小泉　隆英 (H8.7.12まで)	小杉町	黒川勇次郎	利賀村	板橋　修
		坂下　賢孝 (H8.7.13より)	大門町	三島　純子	井口村	山本　茂
	宇奈月町	河村　允	下村	高畠　隆	福野町	中尾　修
	入善町	近藤　俊行	大島町	岩井　輝雄	福光町	成瀬　達雄
	朝日町	阿部　弘一	城端町	川口　義治	福岡町	島田　正美

※平成7年4月1日より班長が発足

平成9年度～11年度

（第24期 1997.4.1～2000.3.31）

本会役員	会長	藤井　弘				
	副会長	今村　勝彦	坊　明男	栗山　豊実		
	専務理事	宮田　靖雄				
	理事	桜木　正昭（総務）	北山善之進（財務）	山崎　宣夫（医療管理）	小森　実（医療管理）	釣谷　東民（税務）
		熊木　彰（学術）	安田　篤（学術）	山﨑　安仁（保険）	山田　真樹（保険）	平井　和輝（福祉共済）
		高畠　隆（広報）	篠原　昭道（調査）	山本　武夫（小児・学校歯科保健）	中道　勇（成人・産業歯科保健）	山岸　敏治（高齢者歯科保健）
		平木　光昭（特殊歯科診療）	焼田志図夫（特殊歯科診療）	加藤　高男（学院歯科技工士科）	福島　武人（学院歯科衛生士科）	
	監事	上田　昌	奥川　澄夫			

代議員・予備代議員　◎議長　○副議長						
（地区）	（代議員）	（予備代議員）	（地区）	（代議員）	（予備代議員）	
富山市	松原　明男	水越　弘	高岡市	◎浦野　潤	宇和山義雄	
	家城　佳夫	石坂　正明		岩井　道雄	松岡　正道	
	金川　直博	稲田　次郎		林　俊郎	四日　隆夫	
	小林　憲夫	岡野　秀成		杉本　友夫	谷口　博朗	
	砂子　満明	橋本　正博		岩﨑　弘治	木村　純一	
	水野　隆俊	安ヵ川　聡	黒部市	堀川　淳治	岩井　正博	
	坂本喜久雄	片岡　弘一	砺波市	菅野　勝紀	芳尾　久志	
	城川　和夫	中島　清之	小矢部市	上田外喜男	津田　伸之	
	杉江　玄嗣	星野　照宗	中新川郡	山本　尚靖	牧野　京介	
	城野　利盛	水野　知之	下新川郡	魚津　博文	平澤　滋康	
	横田　憲明	永森　司		柚木　功	塩見　哲	
新湊市	山田　正昭	中島　潔	婦負郡	上田美保子	沖田　進	
魚津市	○奥村　朋宏	清水　嗣貴	射水郡	三島　純子	大谷　敦志	
氷見市	安達　昭	倉田　雅人	東砺波郡	山本　茂	斎藤　進	
滑川市	酒井　義博	水橋　景之	西砺波郡	成瀬　達雄	島田　正美	

部会　◎部会長　○副部会長					
総務部会	◎浦野　潤	○家城　佳夫	成瀬　達雄	酒井　義博	林　俊郎
	山田　正昭	高石　叡	水野　隆俊		
財務部会	◎奥村　朋宏	○岩井　道雄	松原　明男	水橋　景之	菅野　勝紀
	杉本　友夫	金川　直博	松木　基祐		
医療管理部会	◎島崎　聡	○宇和山義雄	宮本　宣良	森井　忠晴	横田　憲明
	釣谷　宗義	大木　淳一	北川　武史	大野　和彦	
税務部会	◎狩野　覚	○梶川　昌幸	安達　昭	坂本喜久雄	津田　伸之
	高田　保之	野田　修	網谷　伸治		
学術部会	◎佐野　正之	○山村　辰雄	吉岡　千尋	仲村辰一郎	川口　志郎
	上滝　浩	折山　弘	上田　均	牧野　明	土肥　勝博
保険部会	◎酒井　義博	○吉田　季彦	佐渡　哲雄	森本　伸	河野　吉秀
	小林　憲夫	上田外喜男	杉江　玄嗣	倉田　雅人	高野　建一
	斎藤　進	和田　敦志	山本　尚靖	福尾　元成	西島　泰人
	横林　康男（H9.6.1増員）	水野　隆俊（H11.6.1増員）	浦野　潤（H11.6.1増員）		
福祉共済部会	◎村井　幸嗣	○川渕　金哉	江川　正通	吉田　泰彦	浅田　勝久
	吉崎　定夫	早川　徹	前田美智之	三島　純子	上田美保子
広報部会	◎萬谷　敏紀	○青木　一登	逸見　玲	川口　義治	稲田　次郎
	星野　照宗	安ヵ川　聡	島　秀一	魚津　博文	
調査部会	◎山本　茂	○竹内　哲郎	水野　知之	塩見　哲	新川いくみ
	米沢　吉治	内田　昌宏			

部会	歯科保健医療総合センター	小児・学校歯科保健部会	◎油田　達朗 片岡　弘一	○山田　隆寛 堀川　淳治	沖田　進	水分　寿雄	柚木　功
		成人・産業歯科保健部会	◎谷川　文紹 片口　宗久	○水越　弘 松倉純一郎	原田　修成 立浪　徹	池田　寿人	得能　昭夫
		高齢者歯科保健部会	◎安念　和英 砂田　賢	○渡辺　和夫 織田　武吉	砂子　満明	今村　明弘	大谷　敦志
		特殊歯科診療部会	◎後藤　健 高橋　正志	○吉川　由治 三崎　慎也	泉　照雄 松浦　幹	堀　比佐司 浦野　一郎	山室　孝義 稲場　敦
	学院	歯科技工士科	◎城川　和夫	○城野　利盛	島　信博	小池　潤	土生　清春
		歯科衛生士科	◎岩﨑　弘治	○中嶋　渉	島　秀一	中島　清之	山田　雅敏
委員会	選挙委員会		◎島　秀雄	中尾　修	越野　学	田中　貢	大城　宣之
	裁定委員会		青木　康三	石川　静郎	中島　忠一	高田寅四郎	女川　清
富山県歯科保健医療総合センター理事会	理事長		藤井　弘				
	副理事長		今村　勝彦	坊　明男	栗山　豊実		
	理事		宮田　靖雄 山本　武夫 谷川　文紹	桜木　正昭 中道　勇 安念　和英	北山善之進 山岸　敏治	平木　光昭 後藤　健	焼田志図夫 油田　達朗
富山歯科総合学院理事会	理事長		藤井　弘				
	副理事長		今村　勝彦				
	理事		坊　明男 加藤　高男	栗山　豊実 福島　武人	宮田　靖雄 城川　和夫	桜木　正昭 岩﨑　弘治	北山善之進

支部長	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）	
	富山市	家城　佳夫	滑川市	水橋　哲夫	下新川郡	近藤　俊行	
	高岡市	林　俊郎	黒部市	渡辺　和夫	婦負郡	上田美保子	
	新湊市	森永　丈策	砺波市	安念　和英	射水郡	立浪　次夫	
	魚津市	米田　仗二	小矢部市	野田　孫就	東砺波郡	村井　幸嗣	
	氷見市	中辻　義忠	中新川郡	小泉　隆英	西砺波郡	得能　昭夫	

班長	（町村名）	（班長名）	（町村名）	（班長名）	（町村名）	（班長名）	
	大沢野町	山田　雅敏	八尾町	高沢　尚人	井波町	山本　武夫	
	大山町	黒川五一郎	細入村		平村		
	舟橋村	幾島　貴弘 (H10.3.31まで)	婦中町	沖田　進	上平村	林　直樹	
		牧野　良昭 (H10.4.1より)	山田村		庄川町	村井　幸嗣	
	上市町	佐伯　正清 (H9.11.6まで)	小杉町	黒川勇次郎	利賀村		
		加藤　弘直 (H9.11.7より)	大門町	三島　純子	井口村	山本　茂	
	立山町	坂下　賢孝	下村	高畠　隆	福野町	中尾　修	
	宇奈月町	島田　正史	大島町	三崎　慎也	福光町	成瀬　達雄	
	入善町	田原　保夫	城端町	川口　義治	福岡町	島田　正美	
	朝日町	阿部　弘一					

平成12年度～14年度

（第25期 2000.4.1～2003.3.31）

本会役員	会長	藤井　弘（H13.3.31まで）	栗山　豊実（H13.4. 6より）			
	副会長	坊　明男（H13.3.31まで）	北山善之進（H13.4.17より）	栗山　豊実（H13.4. 5まで）	桜木　正昭（H13.4.17より）	宮田　靖雄
	専務理事	北山善之進（H13.4.16まで）	山﨑　安仁（H13.4.24より）			
	理事	桜木　正昭（総務）（H13.4.16まで）	篠原　昭道（総務）（H13.4.24より）	奥村　朋宏（財務）	山崎　宣夫（医療管理）	村井　幸嗣（医療管理）
		小森　実（税務）	熊木　彰（学術）	安田　篤（学術）	山﨑　安仁（保険）（H13.4.23まで）	森本　伸（保険）（H13.4.24より）
		山田　真樹（保険）	杉江　玄嗣（福祉共済）	高畠　隆（広報）	篠原　昭道（調査）（H13.4.23まで）	松岡　正道（調査）（H13.4.24より）
		山本　武夫（小児・学校歯科保健）（H13.4.18まで）	杉本　友夫（小児・学校歯科保健）（H13.4.24より）	中道　勇（成人・産業歯科保健）	山岸　敏治（高齢者歯科保健）	平木　光昭（特殊歯科診療）
		焼田志図夫（特殊歯科診療）	加藤　高男（学院歯科技工士科）	福島　武人（学院歯科衛生士科）		
	監事	奥川　澄夫	今村　勝彦			

代議員・予備代議員　◎議長　○副議長	（地区）	（代議員）	（予備代議員）	（地区）	（代議員）	（予備代議員）
	富山市	家城　佳夫	永森　司	高岡市	岩井　道雄	松岡　正道（H13.4.23まで）
		小倉　孝夫	中島　清之			立浪　徹（H13.5.11より）
		○金川　直博	稲田　次郎		◎林　俊郎	四日　隆夫
		高石　叡	竹内　哲郎		杉本　友夫（H13.4.23まで）	谷口　博朗（H13.8.30死亡）
		片山　淨慧	杉本　裕史		萬谷　敏紀（H13.5.11より）	
		松能　雄一	片岡　弘一		宇和山義雄	今村　明弘
		宮本　宣良	星野　照宗		木村　純一	吉岡　千尋
		岡野　秀成	泉　照雄		牧野　明	水分　寿雄
		坂本喜久雄	橋本　正博	砺波市	芳尾　久志	神田　純郎
		狩野　覚	水野　知之	小矢部市	野田　孫就	山田　隆寛
		飯田　良彦	片山　克己	中新川郡	山本　尚靖	牧野　京介
		水越　弘	小池　潤	下新川郡	塩見　哲	竹島　健潤
	新湊市	山田　正昭	森永　丈策		平澤　滋康	田中　博
	魚津市	米田　仗二	米山　俊夫	婦負郡	沖田　進	島　信博
	氷見市	倉田　雅人	加藤　和子	射水郡	片口　宗久	清水　秀明
	滑川市	酒井　義博	水橋　景之	東砺波郡	斎藤　進	仲村辰一郎
	黒部市	岩井　正博	堀川　淳治	西砺波郡	島田　正美	成瀬　裕久（H14.10.1まで）

部会　◎部会長　○副部会長						
	総務部会	◎林　俊郎	○坂本喜久雄	釣谷　東民	酒井　義博	山田　正昭
		小倉　孝夫	杉本　友夫（H13.4.23まで）			
	財務部会	◎金川　直博	○木村　純一	平井　和輝	岩井　道雄	島田　正美
		家城　佳夫	高石　叡			
	医療管理部会	◎島崎　聡	○宇和山義雄	宮本　宣良	横田　憲明	釣谷　宗義
		大木　淳一	北川　武史	太田　真治	平澤　滋康	中島　清之
	税務部会	◎梶川　昌幸	○津田　伸之	飯田　良彦	森井　忠晴	岩井　正博
		近川　洋	小山　元秀	稲波　謙良	三田村　聡	横田　聡
	学術部会	◎佐野　正之	○仲村辰一郎	吉岡　千尋	川口　志郎	上滝　浩
		折山　弘	上田　均	牧野　明	土肥　勝博	齋藤　彰
		山岸　聡史				
	保険部会	◎上田外喜男	○森本　伸（H13.4.23まで）	佐渡　哲雄	河野　吉秀（H13.5.31まで）	小林　憲夫（H13.5.31まで）
		高野　建一	山本　尚靖	西島　泰人	福尾　元成（H13.6.1より副部会長）	横林　康男
		浦野　潤（H13.5.31まで）	水野　隆俊	安達　昭	城川　和夫	野田　修
		山田　雅敏	山田　隆寛	片口　宗久	奥川　博司	大野　和彦
	（H13.6.1増員）	斎藤　進	吉田　季彦	家城　佳夫		
	福祉共済部会	◎吉田　泰彦	○吉崎　定夫	浅田　勝久	早川　徹	前田美智之
		芳尾　久志	中尾　一彦	松倉純一郎		
	広報部会	◎萬谷　敏紀	○青木　一登	逸見　玲	川口　義治	島　秀一
		稲田　次郎	魚津　博文	星野　照宗	安ヵ川　聡	

部会	調査部会	◎山本　茂 長治　豊一	○内田　昌宏 大野　和彦	水野　知之	塩見　哲	新川いくみ	
	歯科保健医療総合センター 小児・学校歯科保健部会	◎油田　達朗 堀川　淳治	○柚木　功 深田　貴史	水分　寿雄 片岡　弘一	沖田　進（H13.4.18まで） 渡辺　満（H13.4.24増員）	片山　淨慧（H13.4.18まで）	
	歯科保健医療総合センター 成人・産業歯科保健部会	◎谷川　文紹 立浪　徹	○水越　弘 斎藤　進	原田　修成 原田　昭博	池田　寿人 清田　築	得能　昭夫	
	歯科保健医療総合センター 高齢者歯科保健部会	◎安念　和英 大谷　敦志	○渡辺　和夫 米田　仗二	今村　明弘 狩野　覚	砂田　賢	織田　武吉	
	歯科保健医療総合センター 特殊歯科診療部会	◎吉川　由治 松浦　幹	○堀　比佐司 浦野　一郎	山室　孝義 稲場　敦	高橋　正志 吉田　徹	三崎　慎也 中村　祐信	
	学院 歯科技工士科	◎城野　利盛	○網谷　伸治	城川　和夫	新谷　明宏	桶家　樹	
	学院 歯科衛生士科	◎山田　雅敏	○永森　司	澤井　睦	金山　元信	嶋　直毅	
委員会	選挙委員会	◎中尾　修	越野　学	田中　貢	大城　宣之	柚木　邦夫	
	裁定委員会	青木　康三	石川　静郎	高田寅四郎	女川　清	水野　誓夫	
	組織検討専門委員会（H14.5.1設置）	◎釣谷　東民 高石　叡	永森　靖夫 木村　純一	菅野　勝紀	森井　徹雄	米田　仗二	
富山県歯科保健医療総合センター理事会	理事長	藤井　弘（H13.3.31まで）	栗山　豊実（H13.4. 6より）				
	副理事長	坊　明男（H13.3.31まで）	北山善之進（H13.4.17より）	栗山　豊実（H13.4. 5まで）	桜木　正昭（H13.4.17より）	宮田　靖雄	
	理事	北山善之進（H13.4.16まで）	桜木　正昭（H13.4.16まで）	奥村　朋宏	平木　光昭	焼田志図夫	
		山本　武夫（H13.4.18まで）	中道　勇	山岸　敏治	吉川　由治	油田　達朗	
		谷川　文紹	安念　和英	山﨑　安仁（H13.4.24より）	篠原　昭道（H13.4.24より）	杉本　友夫（H13.4.24より）	
富山歯科総合学院理事会	理事長	藤井　弘（H13.3.31まで）	栗山　豊実（H13.4. 6より）				
	副理事長	宮田　靖雄					
	理事	坊　明男（H13.3.31まで）	栗山　豊実（H13.4.5まで）	北山善之進	桜木　正昭	奥村　朋宏	
		加藤　高男	福島　武人	城野　利盛	山田　雅敏		
		山﨑　安仁（H13.4.24より）	篠原　昭道（H13.4.24より）				

支部長	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）	（支部名）	（支部長名）
	富山市	小倉　孝夫	黒部市	渡辺　和夫	婦負郡	沖田　進
	高岡市	林　俊郎	中新川郡	小泉　隆英（H14.9.30まで）	射水郡	三島　純子
	新湊市	武　俊夫		坂下　賢孝（H14.10.1より）	東砺波郡	山本　茂
	魚津市	小熊　清史	下新川郡	阿部　弘一	西砺波郡	深田　貴史
	氷見市	安達　昭	砺波市	根尾　満		
	滑川市	奥平　秀子	小矢部市	津田　伸之		

班長	（町村名）	（班長名）	（町村名）	（班長名）	（町村名）	（班長名）
	大沢野町	吉田　徹	朝日町	魚津　博文	井波町	山本　茂
	大山町	黒川五一郎（H13.4.30まで）	八尾町	吉田　季彦	井口村	
		藤川　晃（H13.5.1より）	細入村		平村	近川　洋
	舟橋村	吉岡ゑく子（H14.3.31まで）	婦中町	島　信博	上平村	林　直樹
		中村　祐信（H14.4.1より）	山田村		庄川町	村井　幸嗣
	上市町	加藤　弘直	小杉町	黒川勇次郎	利賀村	山本　武夫
	立山町	坂下　賢孝（H14.9.30まで）	大門町	三島　純子	福野町	中尾　修
		川口　志郎（H14.10.1より）	下村	高畠　隆	福光町	得能　昭夫
	宇奈月町	島田　正史	大島町	奥村　俊晴	福岡町	深田　貴史
	入善町	野田　修	城端町	川口　義治		

平成15年度～17年度

（第26期 2003.4.1～2006.3.31）

本会役員

会長	栗山　豊実					
副会長	宮田　靖雄	奥村　朋宏（H17.1.3死亡）	中道　勇（H17.2.8より）			
専務理事	山﨑　安仁					
常務理事	川口　義治（庶務会計）	吉田　季彦（社会保険）				
理事	津田　伸之（医療管理）	仲村辰一郎（学術）	野田　修（社会保険）	村井　幸嗣（福祉共済）	萬谷　敏紀（広報）	
	魚津　公美（情報調査）	松岡　正道（地域保健）	西島　泰人（産業保健）	梶川　昌幸（総合センター）	城野　利盛（総合学院）	
	清田　築（学校保健）（H16.4.1より）					
監事	今村　勝彦	福井　洋				

代議員・予備代議員　◎議長　○副議長

（地区）	（代議員）	（予備代議員）	（地区）	（代議員）	（予備代議員）
富山市	高石　叡	佐渡　忠司	高岡市	木村　純一	吉岡　千尋
	大浦　重光	上滝　俊彦		宇和山義雄	今村　明弘
	永森　司	吉田　真治		浦野　一郎	福尾　元成
	中島　清之	横田　聡	新湊市	森永　丈策	青木　一登
	中嶋　渉	大野　和彦	魚津市	米田　仗二	米山　俊夫
	稲田　次郎	吉田　泰彦	氷見市	加藤　和子	油田　達朗
	星野　照宗（H15.10.6まで）	内田　昌宏	滑川市	酒井　義博	水橋　景之
	杉江　玄嗣（H15.11.12より）		黒部市	清田　築（H16.3.31まで）	前田美智之（H16.3.31まで）
	○水野　隆俊（H17.3.8より副議長）	安村　公成		前田美智之（H16.4.14より）	朝日　丈晴（H16.4.14より）
	杉本　裕史	高島　周二	砺波市	神田　純郎	安念　和英
	小林　憲夫	山村　辰雄	小矢部市	山田　隆寛	岡宗祐二郎
	泉　照雄	岡本　英之	中新川郡	山本　尚靖	牧野　京介
	○中道　勇（H17.1.25まで）	片岡　弘一（H17.1.26まで）	下新川郡	田中　博	林　譲治
	片岡　弘一（H17.2.9より）	土肥　勝博（H17.2.9より）		竹島　健潤	松倉純一郎
	坂本喜久雄	澤端　喜明	婦負郡	島　信博	高沢　尚人
高岡市	◎林　俊郎	後藤　健（H15.10.16まで）	射水郡	高畠　隆	三島　純子
	岩井　道雄（H16.7.9死亡）	日尾　清史（H16.12.3より）		清水　秀明	嶋　直毅
	後藤　健（H16.12.3より）	立浪　徹	東砺波郡	山本　武夫	山本　大輔
	篠原　昭道	浅田　勝久	西砺波郡	島田　正美	成瀬　達雄

部会　◎部会長　○副部会長

医療管理部会	◎釣谷　宗義	○立浪　徹	北川　武史	稲波　謙良	杉本　裕史
	三田村　聡	佐藤　友保	杉木　進		
学術部会	◎折山　弘	○上田　均	横田　憲明	牧野　明	齋藤　彰
	日尾　清史	小山　元秀（H16.3.31まで）	山下　洋之	黒川　拓治（H16.3.31まで）	五郎丸知明
	佐伯　清秀	三島　純子			
社会保険部会	◎山田　雅敏	○山田　隆寛	佐渡　哲雄（H15.5.31まで）	家城　佳夫	山田　真樹
	森本　伸（H15.5.31まで）	上田外喜男（H15.5.31まで）	福尾　元成	水野　隆俊（H15.5.31まで）	城川　和夫（H15.5.31まで）
	斎藤　進	横林　康男	杉浦　正	山本　尚靖	片口　宗久
	奥川　博司	大野　和彦	川口　志郎	上滝　俊彦	
	中島　清之（H15.6.1より）	吉田　真治（H15.6.1より）	城川　和夫（H17.6.1より）		
福祉共済部会	◎吉田　泰彦	○前田美智之	早川　徹	中尾　一彦	平澤　滋康
	松本　全	橋本　正博	太田　真治		
広報部会	◎島　秀一	○稲田　次郎	魚津　博文	星野　照宗（H15.10.6まで）	安ヵ川　聡
	山森　喜子	高島　周二	椎名　謙司	女川　瑞夫	澤越　豊（H16.1.1より）

部会	情報調査部会	◎長治　豊一 小澤真理子	○新川いくみ 谷井　賀一	内田　昌宏	近川　　洋	山崎　一人
	地域保健部会	◎水越　　弘 朝倉慎一郎	○今村　明弘 片岡　弘一	片山　克己 織田　武吉	水分　寿雄 朝日　丈晴	清田　　築 (H16.3.31まで) 田守　徳樹 (H16.4.1より)
	産業保健部会	◎谷川　文紹 畑　　直宏	○原田　修成 渡辺　　満	渡辺　和夫 中沼　邦欣	得能　昭夫	池田　寿人
	総合センター部会	◎吉川　由治 浦野　一郎 山岸　聡史	○山室　孝義 稲場　　敦	高橋　正志 吉田　　徹	三崎　慎也 大木　淳一	松浦　　幹 日出嶋康博
	総合学院部会	◎永森　　司 澤井　　睦	○新谷　明宏 島　　信博	金山　元信 串田　　茂	桶家　　樹 佐渡　忠司	嶋　　直毅 安村　公成
	学校保健部会 (H16.4.1新設)	◎柚木　　功 奥村　俊晴	○小山　元秀 上田　和孝	野吾　昌宏 黒川　拓治	川中　健一 吉田　隆司	佐藤　英樹
委員会	選挙委員会	◎中尾　　修	越野　　学	田中　　貢	大城　宣之	柚木　邦夫
	裁定委員会	松浦　　實	坊　　明男	佐渡　哲雄	奥川　澄夫	桜木　正昭
	会務運営専門委員会	◎林　　俊郎 森本　　伸	○金川　直博 中道　　勇 (H17.2.7まで)	岩井　道雄 山田　真樹	杉本　友夫 水野　隆俊 (H17.2.9より)	高畠　　隆
	歯科医療苦情処理専門委員会(H17.4.14設置)	◎山﨑　安仁 野田　　修	川口　義治	吉田　季彦	津田　伸之	仲村辰一郎
富山県歯科保健医療総合センター理事会	理　事　長	栗山　豊実				
	副理事長	奥村　朋宏 (H17.1.3死亡)	中道　　勇 (H17.2.8より)			
	理　　事	宮田　靖雄 吉川　由治	山﨑　安仁	川口　義治	吉田　季彦	梶川　昌幸
富山歯科総合学院理事会	理　事　長	栗山　豊実				
	副理事長	宮田　靖雄				
	理　　事	奥村　朋宏 (H17.1.3死亡) 城野　利盛	中道　　勇 (H17.2.8より) 永森　　司	山﨑　安仁	川口　義治	吉田　季彦

支部長(H17.3.31まで)						
(支部名)	(支部長名)	(支部名)	(支部長名)	(支部名)	(支部長名)	
富山市	高石　　叡	滑川市	奥平　秀子	下新川郡	田原　保夫	
高岡市	林　　俊郎	黒部市	田中　慎二	※婦負郡	島　　信博	
新湊市	松木　基祐	砺波市	高田　保之	射水郡	高畠　　隆	
魚津市	米山　俊夫	小矢部市	津田　伸之	※東砺波郡	斎藤　　進	
氷見市	倉田　雅人	中新川郡	坂下　賢孝	※西砺波郡	深田　貴史	

※郡市歯科医師会(H17.4.1より)						
(郡市名)	(会長名)	(郡市名)	(会長名)	(郡市名)	(会長名)	
富山市	高石　　叡	滑川市	奥平　秀子	中新川郡	坂下　賢孝	
高岡市	林　　俊郎	黒部市	田中　慎二	下新川郡	田原　保夫	
新湊市	松木　基祐	砺波市	高田　保之	射水郡	高畠　　隆	
魚津市	米山　俊夫	小矢部市	津田　伸之			
氷見市	倉田　雅人	※南砺市	斎藤　　進			

班長						
(町村名)	(班長名)	(町村名)	(班長名)	(町村名)	(班長名)	
※大沢野町	岡本　英之	※八尾町	大井　克彦	※井波町	山本　　茂	
※大山町	藤川　　晃	※細入村		※井口村		
舟橋村	吉岡ゑく子	※婦中町	早川　　徹	※平村	近川　　洋	
上市町	加藤　弘直	※山田村		※上平村	林　直樹	
立山町	川口　志郎	小杉町	黒川勇次郎	※庄川町	村井　幸嗣	
宇奈月町	島田　正史	大門町	三島　純子	※利賀村	山本　武夫	
入善町	柚木　　功	下村	和田　三茂	※福野町	中尾　　修	
朝日町	平澤　滋康	大島町	奥村　俊晴	※福光町	得能　昭夫	
		※城端町	川口　義治	※福岡町	深田　貴史	

※平成17年4月1日に支部組織を改正し、名称を郡市歯科医師会とする。
※上新川郡、婦負郡、東砺波郡、西砺波郡は市町村合併により消滅し、新たに南砺市が発足。それに伴って平成17年4月1日より班長も削減された。

平成18年度～20年度

（第27期 2006.4.1～2009.3.31）

本会役員	会長	栗山　豊実				
	副会長	吉田　季彦	林　俊郎			
	専務理事	山﨑　安仁				
	常務理事	川口　義治（庶務会計）	野田　修（社会保険）			
	理事	松岡　正道（医療管理）	安田　篤（学術）	城川　和夫（社会保険）	今村　明弘（福祉共済）	萬谷　敏紀（広報）
		魚津　公美（情報調査）	津田　伸之（地域保健）	西島　泰人（産業保健）	清田　築（学校保健）	仲村辰一郎（総合センター）
		城野　利盛（総合学院）				
	監事	福井　洋（H20.2.26まで）	桜木　正昭（H20.3.11より）	宮田　靖雄		

代議員・予備代議員　◎議長　○副議長	（郡市歯科医師会名）	（代議員）	（予備代議員）	（郡市歯科医師会名）	（代議員）	（予備代議員）
	富山市	小林　憲夫	山村　辰雄	高岡市	焼田志図夫	水分　寿雄
		高石　叡（H19.6.5死亡）	佐渡　忠司		後藤　健	日尾　清史
		中道　勇（H19.6.27より）			立浪　徹	加須屋　聡
		水野　隆俊	安村　公成		浦野　一郎	太田　真治
		中嶋　渉	大野　和彦	※射水市	◎黒川勇次郎	片口　宗久
		坂本喜久雄	杉木　進		高畠　隆	大谷　敦志
		内田　昌宏	高橋　正志		青木　一登	松木　基祐
		片山　克己	山室　孝義	魚津市	○米田　仗二	米山　俊夫
		中島　清之	横田　聡	氷見市	油田　達朗	新川いくみ
		高沢　尚人	早川　徹	滑川市	高野　建一	網谷　伸治
		水越　弘	小池　潤	黒部市	女川　瑞夫	前田美智之
		吉田　泰彦	澤本　正登	砺波市	安念　和英	根尾　満
		高島　周二	杉本　裕史	小矢部市	上田外喜男	岡宗祐二郎
		横田　憲明	吉田　真治	南砺市	山本　武夫	得能　昭夫
		片岡　弘一	日出嶋康博	中新川郡	山本　尚靖	牧野　京介
	高岡市	岩﨑　弘治	吉岡　千尋	下新川郡	松倉純一郎	大菅　明
		熊木　彰	山田　真樹		林　譲治	佐藤　友保

部会　◎部会長　○副部会長						
	医療管理部会	◎立浪　徹	○杉本　裕史	越田　喜規	佐伯　亮太	澤越　豊
		佐藤　友保	坪井　孝博			
	学術部会	◎齋藤　彰	○山下　洋之	三島　純子	片岡　弘一	佐伯　清秀
		上田　和孝	奥川　裕司	宮田　就弘		
	社会保険部会	◎福尾　元成（H18.12.31まで）	○山本　尚靖	家城　佳夫	山田　真樹（H19.5.31まで）	横林　康男
		斎藤　進（H19.5.31まで）	山田　雅敏	◎山田　隆寛（H19.1.1より部会長）	杉浦　正	大野　和彦（H19.5.31まで）
		川口　志郎	片口　宗久	奥川　博司	小池　潤	杉木　進
		松浦　幹	堀　比佐司（H19.4.1より）	浦野　一郎（H19.4.1より）	後藤　健（H19.6.1より）	澤越　豊（H20.4.1より）
	福祉共済部会	◎吉田　泰彦	○前田美智之	橋本　正博	中尾　一彦	早川　徹
		松本　全	織田　武吉	小杉　斉		
	広報部会	◎稲田　次郎	○魚津　博文	安ヵ川　聡	高島　周二	椎名　謙司
		女川　瑞夫	山森　喜子	三崎　広樹	山田　美和（H19.6.21まで）	金山　普拡（H20.4.1より）
	情報調査部会	◎山崎　一人	○長治　豊一	新川いくみ	近川　洋	谷井　賀一
		梅川　哲也	菅野　宏			
	地域保健部会	◎水越　弘	○釣谷　宗義	水分　寿雄	稲波　謙良	朝倉慎一郎
		田守　徳樹	弥忠田　大			
	産業保健部会	◎谷川　文紹	○原田　修成	渡辺　和夫	池田　寿人	得能　昭夫
		畑　直宏	中沼　邦欣	渡辺　満		
	学校保健部会	◎柚木　功	○小山　元秀	奥村　俊晴	川中　健一	黒川　拓治
		佐藤　英樹	野吾　昌宏			

部会	総合センター部会	◎吉川　由治 (H20.3.1まで)	○浦野　一郎 (H20.4.1より部会長)	○日出嶋康博 (H20.4.1より副部会長)	折山　弘	横田　憲明
		大木　淳一	水野　二郎	立浪　康晴	五郎丸知明	石川　亨
		山岸　聡史	川上　清志 (H20.4.1より)			
	総合学院部会	◎永森　司	○新谷　明宏	金山　元信	桶家　樹	澤井　睦
		島　信博	串田　茂	佐渡　忠司	安村　公成	関　康弘
委員会	選挙委員会	◎中尾　修	柚木　邦夫	大城　宣之	田中　貢 (H20.1.31まで)	平木　光昭
		渡辺　和夫 (H20.2.1より)				
	裁定委員会	松浦　實	坊　明男	成瀬　達雄	佐渡　哲雄	奥川　澄夫
	歯科医療苦情処理専門委員会	◎山﨑　安仁	川口　義治	野田　修	松岡　正道	安田　篤
		城川　和夫				
	代議員特別委員会	◎米田　仗二	○小林　憲夫	高石　叡 (H19.6.5死亡)	中嶋　渉	岩﨑　弘治
	予算決算特別委員会 (H18.6.1設置)	熊木　彰	上田外喜男	坂本喜久雄 (H20.2.1より)		
富山県歯科保健医療総合センター理事会	理事長	栗山　豊実				
	副理事長	林　俊郎				
	理事	吉田　季彦	山﨑　安仁	川口　義治	野田　修	仲村辰一郎
		吉川　由治 (H20.3.1まで)	浦野　一郎 (H20.4.1より)			
富山歯科総合学院理事会	理事長	栗山　豊実				
	副理事長	吉田　季彦				
	理事	林　俊郎	山﨑　安仁	川口　義治	野田　修	城野　利盛
		永森　司				

郡市歯科医師会	(郡市名)	(会長名)	(郡市名)	(会長名)	(郡市名)	(会長名)
	富山市	高石　叡 (H19.6.5死亡)	滑川市	水橋　景之 (H20.3.31まで)	南砺市	山本　茂
		小林　憲夫 (H19.6.27より)		高野　建一 (H20.4.1より)	※射水市	黒川勇次郎
	高岡市	岩﨑　弘治	黒部市	岩井　正博	中新川郡	吉岡ゑく子 (H20.3.31まで)
	魚津市	森本　伸	砺波市	佐藤　英樹		小森　実 (H20.4.1より)
	氷見市	加藤　和子	小矢部市	山田　隆寛	下新川郡	魚津　博文
班長	(町村名)	(班長名)	(町村名)	(班長名)	(町村名)	(班長名)
	舟橋村	茂住　岳司	立山町	川口　志郎	朝日町	松倉純一郎 (H20.7.10まで)
	上市町	小森　実	入善町	塩見　哲		大菅　明 (H20.7.10より)

※射水郡と新湊市が合併し、平成18年4月1日に射水市歯科医師会が発足。

平成21年度～22年度

（第28期 2009.4.1～2011.3.31）

本会役員	会長	吉田　季彦				
	副会長	山﨑　安仁	安田　篤			
	専務理事	中道　勇				
	常務理事	松岡　正道（庶務会計）	野田　修（社会保険）	城川　和夫（学校保健・地域保健・産業保健）		
	理事	立浪　徹（医療管理）	齋藤　彰（学術）	山田　隆寛（社会保険）	上田　均（福祉共済）	稲田　次郎（広報）
		山本　尚靖（情報調査）	清田　築（地域保健）	谷川　文紹（産業保健）	仲村辰一郎（総合センター）	城野　利盛（総合学院）
	監事	林　俊郎	加藤　高男			

代議員・予備代議員　◎議長　○副議長	（郡市歯科医師会名）	（代議員）	（予備代議員）	（郡市歯科医師会名）	（代議員）	（予備代議員）
	富山市	小林　憲夫	吉田　泰彦	高岡市	岩﨑　弘治	澤井　睦
		○水野　隆俊	安村　公成		後藤　健	加須屋　聡
		山田　雅敏	高橋　正志		◎篠原　昭道	水分　寿雄
		坂本喜久雄	湯口　正治		平木　光昭	松本　全
		狩野　覚	水野　二郎		山田　真樹	山下　洋之
		澤本　正登	島　博史		牧野　明	大石　聡
		水越　弘	小池　潤		大野　和人	宮田　雅代
		泉　照雄	岡本　英之	魚津市	河内　昭人	奥川　博司
		山室　孝義	長治　豊一	氷見市	新川いくみ	吉崎　定夫（H23.2.21死亡）
		杉本　裕史	島　秀一	滑川市	野吾　昌宏	安田　有時
		横田　憲明	吉田　真治	黒部市	朝日　丈晴	女川　瑞夫
		早川　徹	山上　邦夫		島田　正史	島田　実
		松浦　幹	横田　聡	砺波市	桜木　正昭	根尾　満
		佐渡　忠司	日出嶋康博	小矢部市	上田外喜男	津田　伸之
	射水市	黒川勇次郎	嶋　直毅	南砺市	山本　武夫	中尾　一彦
		青木　一登	織田　武吉	中新川郡	牧野　京介	佐伯　清秀
		片口　宗久	奥村　俊晴	下新川郡	西島　泰人	佐藤　友保

部会　◎部会長　○副部会長						
	医療管理部会	◎佐渡　忠司	○川中　健一	近川　洋	高畑　保夫	家城　信良
		佐藤　友保	坪井　孝博	福井　功政		
	学術部会	◎山下　洋之	○朝日　丈晴	岩井　健治	上田　和孝	奥川　裕司
		井波　和孝	宮田　就弘	藤岡祐紀乃		
	社会保険部会	◎片口　宗久	○奥川　博司	家城　佳夫	横林　康男	杉浦　正
		後藤　健	堀　比佐司	澤越　豊	川口　志郎	小池　潤
		松浦　幹	浦野　一郎	片岡　弘一	安村　公成	栗山　智有
		金山　普拡				
	福祉共済部会	◎吉田　泰彦	○早川　徹	中尾　一彦	松本　全	小杉　斉
		黒川　拓治	茂住　岳司	夏目もえこ		
	広報部会	◎高島　周二	○椎名　謙司	女川　瑞夫	三崎　広樹	兒玉　幸久
		山崎　一人	山森　喜子	小島　一紀	江尻　弘茂	
	情報調査部会	◎桶家　樹	○前田美智之	岡本　英之	佐伯　亮太	小坂井　満
		鈴木　寧	岡崎　考亮			
	地域保健部会	◎水越　弘	○水分　寿雄	朝倉慎一郎	田守　徳樹	渡辺　光生
		野吾　昌宏	弥忠田　大			
	産業保健部会	◎原田　修成	○得能　昭夫	渡辺　和夫	畑　直宏	中沼　邦欣
		渡辺　満	石多　謙一			
	学校保健部会	◎小山　元秀	○佐藤　英樹	奥村　俊晴	島　博史	長治　豊一
		荻野　新也	加藤　葉月			
	総合センター部会	◎折山　弘	○日出嶋康博	泉　照雄	横田　憲明	大木　淳一
		水野　二郎	立浪　康晴	五郎丸知明	石川　亨	川上　清志
		山岸　聡史				

部会	総合学院部会	◎永森　司 金山　元信	○新谷　明宏 島　信博	澤井　睦 上田美保子	串田　茂 砂田　賢	関　康弘 廣野　善丈
委員会	選挙委員会	大城　宣之	焼田志図夫	中嶋　渉	村井　幸嗣	渡辺　和夫
	裁定委員会	佐渡　哲雄	奥川　澄夫	釣谷　東民	川口　義治	宮田　靖雄
	歯科医療苦情処理専門委員会	中道　勇 齋藤　彰	松岡　正道 山田　隆寛	野田　修	城川　和夫	立浪　徹
	代議員特別委員会 予算決算特別委員会	◎水野　隆俊 桜木　正昭	○岩﨑　弘治 西島　泰人	小林　憲夫	山田　雅敏	後藤　健
	公益法人制度改革に関わる専門委員会(新設) (H22.5.13設置)	◎川口　義治 水野　隆俊 水分　寿雄 (H22.6.1追加)	○山崎　宣夫 森本　伸 吉田　泰彦 (H22.6.1追加)	小林　憲夫 後藤　健	高畠　隆 山田　雅敏	岩﨑　弘治
富山県歯科保健医療総合センター理事会	理事長	吉田　季彦				
	副理事長	山﨑　安仁				
	理事	安田　篤 仲村辰一郎	中道　勇 折山　弘	松岡　正道	野田　修	城川　和夫
富山歯科総合学院理事会	理事長	吉田　季彦				
	副理事長	安田　篤				
	理事	山﨑　安仁 城野　利盛	中道　勇 永森　司	松岡　正道	野田　修	城川　和夫

郡市歯科医師会	(郡市名)	(会長名)	(郡市名)	(会長名)	(郡市名)	(会長名)
	富山市	小林　憲夫	氷見市	油田　達朗	小矢部市	岡宗祐二郎
	高岡市	岩﨑　弘治	滑川市	高野　建一	南砺市	山本　茂
	射水市	黒川勇次郎	黒部市	堀川　淳治	中新川郡	小森　実
	魚津市	谷川　文紹	砺波市	田守　徳樹	下新川郡	柚木　功
班長	(町村名)	(班長名)	(町村名)	(班長名)	(町村名)	(班長名)
	舟橋村	茂住　岳司	立山町	川口　志郎	朝日町	大菅　明
	上市町	小森　実	入善町	田中　博		

平成23年度～24年度

（第29期 2011.4.1～2013.6.25）

本会役員	会長	吉田　季彦				
	副会長	安田　篤	山﨑　安仁			
	専務理事	中道　勇				
	常務理事	松岡　正道（庶務会計）	野田　修（社会保険）	城川　和夫（学校保健・地域保健・産業保健）（H24.4.1より学校保健・公衆衛生）		
	理事	立浪　徹（医療管理）	齋藤　彰（学術）	山田　隆寛（社会保険）	上田　均（福祉共済）	稲田　次郎（広報）
		山本　尚靖（情報調査）	清田　築（地域保健）（H24.4.1より公衆衛生）	谷川　文紹（産業保健）（H24.4.1より公衆衛生）	折山　弘（総合センター）	城野　利盛（総合学院）
	監事	林　俊郎	加藤　高男			

（第29期 2011.4.1～2013.6.30）

	（郡市歯科医師会名）	（代　議　員）	※（予備代議員）	（郡市歯科医師会名）	（代　議　員）	※（予備代議員）
代議員・予備代議員　◎議長　○副議長	富山市	◎小林　憲夫	吉田　泰彦	高岡市	○岩﨑　弘治	米森　誠
		水野　隆俊	安村　公成		熊木　彰	北村　悟
		坂本喜久雄	大木　淳一		焼田志図夫	金山　普拡
		狩野　覚	水野　二郎		後藤　健	加須屋　聡
		島　信博	飴谷　孝之		山田　真樹	畑　直宏
		内田　昌宏	高橋　正志		大野　和人	宮田　雅代
		水越　弘	小池　潤		浦野　一郎	茶谷　修平
		横田　憲明	吉田　真治	魚津市	河内　昭人	三田村　聡
		本村　浩	栗山　智有		奥川　博司	河内　康
		松浦　幹	横田　聡	氷見市	紅井　外二	新谷　明宏
		土肥　勝博	砂子　満明	滑川市	野吾　昌宏	安田　有時
		松能　努	杉本　裕史	黒部市	島田　実	島田　正史
		岡本　英之	前寺　一紀	砺波市	高田　保之	佐藤　英樹
		長治　豊一	島崎　聡	小矢部市	上田外喜男	津田　伸之
	射水市	松木　基祐	織田　武吉	南砺市	山本　武夫	山本　大輔
		片口　宗久	奥村　俊晴	中新川郡	牧野　京介	佐伯　清秀
		清水　秀明	嶋　直毅	下新川郡	西島　泰人（H23.8.30まで） 佐藤　友保（H23.9.20より）	佐藤　友保（H23.9.2まで） 小杉　斉（H23.9.20より）
部会　◎部会長　○副部会長	医療管理部会	◎澤端　喜明	○川中　健一	近川　洋（H25.1.3死亡）	高畑　保夫	家城　信良
		佐藤　友保	坪井　孝博	福井　功政		
	学術部会	◎山下　洋之	○朝日　丈晴	岩井　健治	上田　和孝	奥川　裕司
		井波　和孝	宮田　就弘	藤岡祐紀乃		
	社会保険部会	◎片口　宗久	○奥川　博司	家城　佳夫	横林　康男	杉浦　正（H23.5.31まで）
		後藤　健	堀　比佐司	澤越　豊	川口　志郎	小池　潤
		松浦　幹	浦野　一郎	片岡　弘一	安村　公成	栗山　智有
		金山　普拡	竹口　英人（H23.6.1より）			
	福祉共済部会	◎早川　徹	○松本　全	中尾　一彦	黒川　拓治	茂住　岳司
		小杉　斉	夏目もえこ	鈴木　久美		
	広報部会	◎高島　周二	○椎名　謙司	女川　瑞夫	三崎　広樹	兒玉　幸久
		山崎　一人	山森　喜子	小島　一紀	江尻　弘茂	
	情報調査部会	◎桶家　樹	○前田美智之	岡本　英之	佐伯　亮太	小坂井　満
		鈴木　寧	岡崎　考亮			
	地域保健部会（H24.4.1より公衆衛生部会1）	◎水越　弘	○田守　徳樹	本村　浩	朝倉慎一郎	渡辺　光生
		野吾　昌宏	弥忠田　大			
	産業保健部会（H24.4.1より公衆衛生部会2）	◎原田　修成	○得能　昭夫	渡辺　和夫	畑　直宏	中沼　邦欣
		渡辺　満	石多　謙一			

部会	学校保健部会	◎奥村　俊晴 加藤　葉月	○佐藤　英樹 網谷　伸治	島　博史	長治　豊一	荻野　新也
	総合センター部会 (H24.4.1よりセンター運営部会)	◎日出嶋康博 立浪　康晴 藤井　達郎	○水野　二郎 五郎丸知明	泉　照雄 石川　亨	横田　憲明 川上　清志	大木　淳一 山岸　聡史
	総合学院部会 (H24.4.1より学院運営部会)	◎永森　司 金山　元信 (H24.10.30まで)	○新谷　明宏 島　信博	澤井　睦 上田美保子	串田　茂 砂田　賢	関　康弘 廣野　善丈
委員会	裁定委員会	佐渡　哲雄	奥川　澄夫	釣谷　東民	川口　義治	宮田　靖雄
	選挙委員会	◎大城　宣之	平木　光昭	中嶋　渉	村井　幸嗣	渡辺　和夫
	歯科医療苦情処理専門委員会	◎中道　勇 齋藤　彰	松岡　正道 山田　隆寛	野田　修	城川　和夫	立浪　徹
	代議員特別委員会 予算決算特別委員会	◎岩﨑　弘治 山田　真樹	○水野　隆俊 松木　基祐	坂本喜久雄 山本　武夫	水越　弘 西島　泰人 (H23.8.30まで)	後藤　健 河内　昭人 (H23.9.1より)
	定款等改正特別委員会（新設）	◎岩﨑　弘治 山田　真樹	○水野　隆俊 松木　基祐	坂本喜久雄 山本　武夫	水越　弘 西島　泰人 (H23.8.30まで)	後藤　健 河内　昭人 (H23.9.1より)
	創立100周年記念史編纂委員会 (H24.5.1設置)	◎中道　勇 山田　秀樹	○松岡　正道 夏目　明恒	山田　真樹	池田　寿人	山崎　一人
富山県歯科保健医療総合センター理事会	理事長	吉田　季彦				
	副理事長	山﨑　安仁				
	理事	安田　篤 折山　弘	中道　勇 日出嶋康博	松岡　正道	野田　修	城川　和夫
富山歯科総合学院理事会	理事長	吉田　季彦				
	副理事長	安田　篤				
	理事	山﨑　安仁 城野　利盛	中道　勇 永森　司	松岡　正道	野田　修	城川　和夫

郡市歯科医師会	（郡市名）	（会長名）	（郡市名）	（会長名）	（郡市名）	（会長名）
	※富山市	小林　憲夫	氷見市	新川いくみ	小矢部市	岡宗祐二郎
	※高岡市	岩﨑　弘治	滑川市	網谷　伸治	南砺市	山本　茂
	※射水市	松木　基祐	黒部市	前田美智之	※中新川郡	加藤　弘直
	魚津市	河内　昭人	砺波市	澤越　豊	下新川郡	塩見　哲
班長	（町村名）	（班長名）	（町村名）	（班長名）	（町村名）	（班長名）
	※舟橋村	茂住　岳司	※立山町	川口　志郎	朝日町	弥忠田　大
	※上市町	加藤　弘直	入善町	竹島　健潤		

※H24.4.1に一般社団法人に移行し、任期が延長となる。
※予備代議員の任期はH24.3.31まで、以後廃止となる。
※富山市・高岡市・射水市・中新川郡歯科医師会会長、班長の任期はH25.6.まで、それ以外の郡市歯科医師会会長の任期はH25.3.31まで。

平成25年度～26年度

（第30期 2013.6.25～2015.6開催予定の定時代議員会終結時まで）

本会役員	会長	吉田　季彦				
	副会長	安田　篤	山﨑　安仁			
	専務理事	中道　勇				
	常務理事	松岡　正道（庶務会計）	野田　修（社会保険）	城川　和夫（学校保健・公衆衛生）		
	理事	立浪　徹（医療管理）	齋藤　彰（学術）	山田　隆寛（社会保険）	上田　均（福祉共済）	高島　周二（広報）
		山本　尚靖（情報調査）	清田　築（公衆衛生）	谷川　文紹（公衆衛生）	折山　弘（総合センター）	城野　利盛（総合学院）
	監事	林　俊郎	加藤　高男			

（第30期 2013.7.1～2015.6.30）

	（郡市歯科医師会名）	（代　議　員）	（郡市歯科医師会名）	（代　議　員）	（郡市歯科医師会名）	（代　議　員）
代議員 ◎議長 ○副議長	富山市	宮本　宣良	富山市	安村　公成	魚津市	奥川　博司
		○山村　辰雄		岡本　英之		三田村　聡
		坂本喜久雄	高岡市	◎岩﨑　弘治	氷見市	新谷　明宏
		水越　弘		熊木　彰	滑川市	野吾　昌宏
		吉田　泰彦		焼田志図夫	黒部市	荻野　新也
		吉田　徹		後藤　健	砺波市	佐藤　英樹
		杉本　裕史		山田　真樹	小矢部市	上田外喜男
		永森　司		牧野　明	南砺市	山本　武夫
		横田　憲明		大野　和人	中新川郡	牧野　京介
		佐渡　忠司	射水市	片口　宗久	下新川郡	弥忠田　大
		原田　修成		清水　秀明		
		松能　努		織田　武吉		
部会 ◎部会長 ○副部会長	医療管理部会	◎澤端　喜明	○川中　健一	高畑　保夫	家城　信良	佐藤　友保
		坪井　孝博	福井　功政	本多　寛行		
	学術部会	◎山下　洋之	○朝日　丈晴	岩井　健治	上田　和孝	奥川　裕司
		井波　和孝	宮田　就弘	藤岡祐紀乃	吉田　尚史	
	社会保険部会	◎片口　宗久	○奥川　博司	家城　佳夫	横林　康男	後藤　健
		澤越　豊	川口　志郎	小池　潤	松浦　幹	浦野　一郎
		片岡　弘一	安村　公成	栗山　智有	金山　普拡	竹口　英人
		長治　豊一	篠原　昭智			
	福祉共済部会	◎早川　徹	○松本　全	中尾　一彦	黒川　拓治	茂住　岳司
		小杉　斉	夏目もえこ	鈴木　久美		
	広報部会	◎山崎　一人	○山森　喜子	女川　瑞夫	三崎　広樹	兒玉　幸久
		小島　一紀	江尻　弘茂	宮田　雅代	近藤　久紀	
	情報調査部会	◎前田美智之	○岡本　英之	佐伯　亮太	小坂井　満	鈴木　寧
		岡崎　考亮				
	公衆衛生部会1	◎水越　弘	○田守　徳樹	本村　浩	朝倉慎一郎	渡辺　光生
		野吾　昌宏	弥忠田　大			
	公衆衛生部会2	◎原田　修成	○得能　昭夫	渡辺　和夫	畑　直宏	中沼　邦欣
		渡辺　満	石多　謙一			
	学校保健部会	◎奥村　俊晴	○佐藤　英樹	網谷　伸治	島　博史	荻野　新也
		加藤　葉月	岡崎　泰尋			
	センター運営部会	◎日出嶋康博	○水野　二郎	泉　照雄	横田　憲明	大木　淳一
		立浪　康晴	五郎丸知明	石川　亨	川上　清志	山岸　聡史
		藤井　達郎				
	学院運営部会	◎新谷　明宏	○澤井　睦	永森　司	串田　茂	関　康弘
		島　信博	上田美保子	砂田　賢	廣野　善丈	前寺　一紀

委員会	裁定委員会	川口　義治	宮田　靖雄	山岸　敏治	金川　直博	米田　仗二
	選挙委員会	大城　宣之	平木　光昭	中嶋　渉	村井　幸嗣	渡辺　和夫
	歯科医療苦情処理専門委員会	◎中道　勇 齋藤　彰	○松岡　正道 山田　隆寛	野田　修	城川　和夫	立浪　徹
	代議員特別委員会	宮本　宣良	山村　辰雄	吉田　泰彦	永森　司	後藤　健
	予算決算特別委員会	山田　真樹	片口　宗久	奥川　博司	上田外喜男	
	創立100周年記念史編纂委員会	◎中道　勇 山田　秀樹	○松岡　正道 夏目　明恒	山田　真樹	池田　寿人	山崎　一人
富山県歯科保健医療総合センター理事会	理事長	吉田　季彦				
	副理事長兼センター長	山崎　安仁				
	副センター長	折山　弘				
	理事	安田　篤 折山　弘	中道　勇 日出嶋康博	松岡　正道	野田　修	城川　和夫
富山歯科総合学院理事会	理事長	吉田　季彦				
	副理事長兼学院長	安田　篤				
	副学院長	城野　利盛				
	理事	山崎　安仁 城野　利盛	中道　勇 新谷　明宏	松岡　正道	野田　修	城川　和夫

郡市歯科医師会	（郡市名）	（会長名）	（郡市名）	（会長名）	（郡市名）	（会長名）
	※富山市	宮本　宣良	氷見市	新川いくみ	小矢部市	荒井　克洋
	高岡市	後藤　健 （H25.6.21より）	滑川市	網谷　伸治	南砺市	仲村辰一郎
	※射水市	片口　宗久	黒部市	清田　築	※中新川郡	加藤　弘直
	魚津市	河内　昭人	砺波市	菅野　宏	下新川郡	田中　博
班長	（町村名）	（班長名）	（町村名）	（班長名）	（町村名）	（班長名）
	※舟橋村	茂住　岳司	※立山町	川口　志郎	朝日町	小杉　斉
	※上市町	加藤　弘直	入善町	林　譲治		

※富山市・射水市・中新川郡歯科医師会会長、班長はH25.7.1より、それ以外の郡市歯科医師会会長はH25.4.1より就任となる。

郡市歯科医師会別会員数(各年4月1日現在)

郡市歯科医師会名(支部名)	S23.2.5創立当初	S23年度	S24年度	S25年度	S26年度	S27年度	S28年度	S29年度	S30年度	S31年度	S32年度	S33年度	S34年度	S35年度	S36年度
富山地区(内上新川郡)	60(6)	61(6)	67(6)	68(5)	69(6)	70(7)	73(6)	73(7)	70(5)	72(5)	71(6)	72(6)	77(6)	77(6)	77(6)
婦負郡	12	12	13	13	13	13	13	13	13	13	12	11	12	13	13
高岡市	30	30	31	34	32	33	34	35	33	35	36	37	37	37	38
新湊市	7	7	7	8	8	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
※1氷見市	7	7	7	7	7	7	7	7	8	8	8	8	9	10	10
射水郡	5	5	5	5	6	7	7	7	6	6	6	6	6	6	6
中新川郡	21	22	21	20	21	20	20	21	21	23	24	25	23	23	22
下新川郡	24	23	25	26	29	29	30	28	29	29	30	33	31	30	30
東砺波郡	19	19	19	19	20	20	20	21	20	19	21	20	20	23	22
西砺波郡	13	14	16	16	17	17	17	17	18	18	17	17	19	19	19
合計	198	200	211	216	222	223	228	229	225	230	232	236	241	245	244

※1　氷見市は昭和27年8月1日から市制施行、それ以前は氷見郡とする

郡市歯科医師会名(支部名)	S37年度	S38年度	S39年度	S40年度	S41年度	S42年度	S43年度	S44年度	S45年度	S46年度	S47年度	S48年度	S49年度	S50年度	S51年度
※2富山地区(内上新川郡)	76(6)	77(6)	80(6)	85(5)	83(4)	82(4)	84	85	89	90	94	98(4)	104(4)	104(4)	105(4)
							※34	4	4	4	4				
婦負郡	12	12	10	9	9	9	9	10	10	9	9	10	10	11	11
高岡市	38	39	36	37	38	41	40	40	42	44	47	50	52	56	59
新湊市	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	8	7	7	7	9
氷見市	10	10	10	11	12	13	14	13	13	13	13	12	12	15	14
射水郡	6	7	7	7	7	7	7	7	8	9	9	9	9	10	11
※4滑川市	-	-	-	6	6	6	6	6	6	7	7	9	8	8	8
※5魚津市	11	13	13	12	12	13	13	13	13	14	14	14	15	16	17
※6黒部市	10(8月)	11	11	11	12	12	12	11	11	11	11	10	10	11	11
中新川郡	22	21	20	12	11	11	11	10	10	11	10	9	9	9	9
下新川郡	10	12	11	12	12	12	12	12	11	11	12	12	12	12	12
※7砺波市	-	-	-	-	-	8	8	8	8	9	9	9	10	10	10
※8小矢部市	-	-	-	-	-	9(9月)	9	9	9	6	6	6	6	6	8
東砺波郡	22	22	22	22	21	12	12	11	12	13	13	13	13	13	13
西砺波郡	19	20	21	21	19	10	10	10	10	10	11	11	11	11	11
合計	243	251	248	252	249	252	258	256	263	268	277	279	288	299	308

※2　富山地区は昭和47年まで、その後は富山市とする
※3　上新川郡は昭和43年4月～48年3月まで支部となる
※4　滑川市は昭和40年から支部となる
※5　魚津市は昭和37年4月から支部となる
※6　黒部市は昭和37年8月から支部となる
※7　砺波市は昭和42年4月から支部となる
※8　小矢部市は昭和42年9月から支部となる

郡市歯科医師会名（支部名）	S52年度	S53年度	S54年度	S55年度	S56年度	S57年度	S58年度	S59年度	S60年度	S61年度	S62年度	S63年度	H元年度	H2年度	H3年度
富山市（内上新川郡）	107 (4)	109 (4)	112 (4)	115 (4)	120 (4)	120 (4)	121 (3)	126 (3)	127 (3)	128 (4)	137 (4)	140 (5)	145 (5)	156 (5)	157 (6)
婦負郡	11	11	11	11	11	9	9	8	7	11	12	12	12	12	12
高岡市	61	59	60	65	67	67	69	68	72	71	72	74	74	78	77
新湊市	8	9	9	10	11	11	11	12	12	13	13	13	14	15	15
氷見市	14	14	14	14	11	11	11	11	11	15	15	16	17	19	19
射水郡	11	11	11	12	12	12	12	12	12	13	13	13	15	15	15
滑川市	10	10	9	12	12	11	11	11	11	13	13	13	13	13	13
魚津市	18	19	19	19	19	19	19	22	22	22	22	21	20	20	19
黒部市	11	11	11	12	12	12	13	13	13	13	13	15	16	17	17
中新川郡	9	9	9	9	9	9	10	11	11	11	12	13	13	13	13
下新川郡	11	12	12	13	14	14	14	14	14	15	16	18	19	20	19
砺波市	9	10	12	11	11	12	11	11	12	12	12	12	13	13	12
小矢部市	8	9	9	9	10	10	10	9	10	10	9	9	8	8	8
東砺波郡	13	13	14	16	16	15	15	14	14	14	14	14	15	19	20
西砺波郡	11	11	11	11	11	11	11	10	10	10	10	9	10	10	10
[※9]甲乙会員 計	312	317	323	339	346	343	347	352	358	371	383	392	404	428	426
[※9]丙会員	-	-	-	-	-	-	4	5	6	7	7	8	9	10	12
[※9]準会員	-	-	-	-	-	-	3	8	11	12	13	13	19	18	18
合計							354	365	375	390	403	413	432	456	456

※9　昭和57年11月14日から定款施行規則を新設し、本会会員種別を甲・乙・丙・準会員として区分する

郡市歯科医師会名（支部名）	H4年度	H5年度	H6年度	H7年度	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度
富山市（内[※10]上新川郡）	159 (6)	161 (6)	165 (6)	167 (6)	169 (6)	171 (6)	175 (6)	180 (6)	183 (6)	184 (6)	186 (6)	190 (6)	189 (6)	207 婦負郡会員が加入	209
[※10]婦負郡	12	12	13	13	14	14	14	15	15	16	15	15	16	富山市と合併	-
[※11]高岡市	79	78	78	78	78	79	83	85	86	87	90	91	90	96 福岡町会員が加入	97
新湊市	15	14	15	16	17	17	16	16	15	15	15	15	15	16	射水市に移行
氷見市	21	20	20	20	21	21	20	21	21	21	21	21	22	22	22
射水郡	14	15	15	16	17	19	18	19	20	21	22	23	24	25	射水市に移行
[※12]射水市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	41
滑川市	13	12	12	12	12	11	11	12	13	13	13	12	11	11	11
魚津市	19	19	18	16	17	18	19	18	19	19	20	19	23	22	22
[※13]黒部市	16	16	16	15	15	17	18	19	19	19	20	20	21	21	22 宇奈月町会員が加入
中新川郡	13	15	16	16	15	15	16	15	15	15	16	15	15	15	17
[※13]下新川郡	19	19	21	21	21	23	22	23	23	23	23	23	22	23	22 宇奈月町会員が移行
[※14]砺波市	12	12	12	12	12	12	12	12	13	14	16	15	16	20 庄川町会員が加入	21
小矢部市	9	9	11	10	10	10	11	12	14	14	14	14	14	14	14
[※15]南砺市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	20
[※15]東砺波郡	21	22	20	20	19	19	20	20	20	19	17	17	18	砺波市・南砺市に移行	-
[※15]西砺波郡	10	10	11	11	12	11	11	10	10	10	10	9	9	高岡市・南砺市に移行	-
甲乙会員 計	432	434	443	443	449	457	466	477	486	490	498	499	505	512	518
丙会員	13	13	13	12	11	11	11	13	13	14	14	14	16	16	15
準会員	13	16	9	10	7	8	10	7	6	8	9	6	6	7	6
合計	458	463	465	465	467	476	487	497	505	512	521	519	527	535	539

※　平成17年４月１日に支部組織を改正し、名称を支部から郡市歯科医師会とする
※10　婦負郡、上新川郡は平成17年４月１日に富山市と合併、婦負郡会員は富山市会員となる
※11　西砺波郡福岡町会員は平成17年４月１日に高岡市会員となる（市町合併は平成17年11月１日）
※12　射水郡と新湊市は平成17年11月１日に合併し射水市となり、平成18年４月１日に射水市歯科医師会が発足した
※13　下新川郡宇奈月町は平成18年３月31日に黒部市と合併し、同年４月１日に会員が黒部市へ移行した
※14　東砺波郡庄川町は平成16年11月１日に砺波市と合併、平成17年４月１日に砺波市会員となる
※15　東砺波郡・西砺波郡福光町は平成16年11月１日に合併し南砺市となり、平成17年４月１日に南砺市歯科医師会が発足した

郡市歯科医師会名	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	※16郡市歯科医師会名	H24年度	H25年度
富山市	208	203	207	208	209	富 山 市	210	209
高岡市	97	99	97	98	98	高 岡 市	101	102
射水市	41	40	39	40	39	射 水 市	40	38
魚津市	22	21	22	23	25	魚 津 市	24	25
氷見市	22	22	22	22	20	氷 見 市	20	20
滑川市	11	11	11	11	12	滑 川 市	12	12
黒部市	23	22	22	21	21	黒 部 市	21	22
砺波市	21	20	19	18	18	砺 波 市	17	17
小矢部市	14	14	14	14	13	小矢部市	13	13
南砺市	20	21	21	21	22	南 砺 市	21	19
中新川郡	17	16	17	17	17	中新川郡	17	17
下新川郡	21	21	19	18	19	下新川郡	18	18
甲乙会員 計	517	510	510	511	513	※17正会員第1・2種 計	514	512
丙会員	15	14	14	15	16	※17準会員第3種	16	17
準会員	5	5	6	6	6	※17準会員第4種	6	6
合計	537	529	530	532	535	合計	536	535

※16　平成24年３月31日に支部規則が廃止され、同年４月１日より本会が承認した郡市歯科医師会となる
※17　平成24年４月１日に定款施行規則を改正し、本会種別の名称が変更される
（甲→正会員第１種、乙→正会員第２種、丙→準会員第３種、準→準会員第４種）

入会者・退会者名簿（年度別）

所属郡市歯科医師会	氏　　名	出身校等	入会日	退会・異動
大正3年度				9名
富山市	島　川　安次郎	歯科医師試験	T03/07/03	死亡日不明(T5頃)
富山市	菅　田　良　雄	歯科医師試験	T03/07/03	T7/8/2死亡
富山市	殿　城　金次郎	歯科医師試験	T03/07/03	T8/8/25死亡
富山市	藤　井　義　人	東京歯科医学専門学校	T03/07/03	S37/3/30死亡
高岡市	永　野　一　彦	歯科医師試験	T03/07/03	S17/4/5死亡
魚津町	多　田　正　隆	東京歯科医学専門学校	T03/07/03	死亡日不明(T14以前)
下新川郡	阿　部　孫太郎	日本歯科医学専門学校	T03/07/03	S23/9/14死亡
下新川郡	柳　澤　耕　作	歯科医師試験	T03/07/03	死亡日不明(S4以前)
	野　中　寛　治		T03/07/03	死亡日不明
大正5年度				3名
富山市	小　林　金　次	日本歯科医学専門学校	T05	S37/4/13死亡
新湊市	渡　邊　　實	歯科医師試験	T05	S52/8/3死亡
下新川郡	片　桐　正　義	東京歯科医学専門学校	T05	S35/6/8死亡
大正6年度				3名
富山市	佐　渡　喜一郎	歯科医師試験	T06	S51/11/9死亡
富山市	中　島　清　作	歯科医師試験	T06	S29/2/22退会
下新川郡	渡　邊　庄　治	歯科医師試験	T06	S28/3/25死亡
大正7年度				3名
高岡市	大　道　憲　治	日本歯科医学専門学校	T07	S44/2/16死亡
婦負郡	浅　岡　典　常	日本歯科医学専門学校	T07	S57/1/3死亡
婦負郡	城生越　　義	東京歯科医学専門学校	T07	S37/8/7死亡
大正8年度				2名
富山市	早　見　治　顕	日本歯科医学専門学校	T08	H3/7/23死亡
中新川郡	山　本　荘太郎	歯科医師試験	T08	S38/8/5死亡
大正9年度				6名
富山市	大　島　秋　知	歯科医師試験	T09	S28/12/10死亡
富山市	山　下　長　藏	歯科医師試験	T09	S60/9/9死亡
高岡市	堀　井　勝　三	日本歯科医学専門学校	T09	S38/4/8死亡
新湊市	清　水　清　通	日本歯科医学専門学校	T09	S33/5/7死亡
中新川郡	牧　野　　昶	日本歯科医学専門学校	T09	S48/6/1死亡
西砺波郡	石　崎　憲　吾	歯科医師試験	T09	S59/3/12死亡
大正10年度				1名
富山市	宮　本　俊　治	東京歯科医学専門学校	T10	退会(S23以前)・S24/5/1再入会
大正11年度				5名
富山市	杉　江　玄　照	歯科医師試験	T11	S59/4/7死亡
富山市	松　能　喜久次	歯科医師試験	T11	S42/1/25死亡
高岡市	浦　野　與四郎	歯科医師試験	T11	S55/5/25死亡

所属郡市歯科医師会	氏名	出身校等	入会日	退会・異動
下新川郡	柚木　薫	歯科医師試験	T11	S45/8/23死亡
東砺波郡	片之坂　藤儀	歯科医師試験	T11	S28/12/12死亡
大正12年度				4名
富山市	今村　彦治	日本歯科医学専門学校	T12	S29/2/22退会
富山市	坪田　忠一	歯科医師試験	T12	S57/10/9死亡
高岡市	三崎　政男	日本歯科医学専門学校	T12	S41/3/25死亡
氷見市	倉田　敬二郎	歯科医師試験	T12	S62/2/20死亡
大正13年度				3名
富山市	浦上　則政	東京歯科医学専門学校	T13	S51/12/3死亡
東砺波郡	宮岡　宇平次	大阪歯科医学専門学校	T13	S56/1/13死亡
下新川郡	蓮本　庄太郎	日本大学専門部歯科	T13	S44/8/9死亡
大正14年度				3名
氷見市	長谷川　徳光	日本歯科医学専門学校	T14	S48/5/31死亡
西砺波郡	上田　馨	日本歯科医学専門学校	T14	S32/1/9死亡
	関口　雄三	東京歯科医学専門学校	T14	死亡日不明(S23以前)
大正15・昭和元年度				5名
富山市	田谷　壽夫	日本歯科医学専門学校	T15	S30/6/1死亡
富山市	三羽　邦定	歯科医師試験	T15	S56/3/30死亡
中新川郡	飯田　半六	歯科医師試験	T15	S55/5/17死亡
射水郡	島田　余三男	日本歯科医学専門学校	T15	H2/3/23死亡
西砺波郡	青木　勝二	歯科医師試験	T15	H1/2/16死亡
大正年間の入会者（入会日不明）				27名
富山市	坂井　茂	醫師		S14/1/23死亡
富山市	志村　金太郎	日本歯科医学専門学校	T12開業	S27/12退会・S38/10/1再入会
富山市	宮島　忠治	東京歯科医学専門学校	T07開業	死亡日不明(S23以前)
富山市	村井　信義	日本歯科医学専門学校	(T03卒)	S12/7/3死亡
富山市	室橋　余所雄	東京歯科医学専門学校	(T03卒)	死亡日不明(T15以前)
富山市	和記　見津吉	日本歯科医学専門学校	T11/07開業	S19/3/6死亡
上新川郡	羽柴　作蔵	歯科医師試験		T15/5/13死亡
高岡市	川岸　吉之助	歯科医師試験	(T08卒)	S22/5/7死亡
高岡市	川岸　要助	歯科医師試験	T12開業	死亡日不明(S23以前)
高岡市	鷹島　慶二	日本歯科医学専門学校	T04開業	S19/4/1死亡
高岡市	四竈　文三郎	歯科医師試験	T04/06開業	死亡日不明(S23以前)
射水郡	山下　敬松	歯科医師試験	T09開業	S17/7/15死亡
射水郡	和田　義孝	東京歯科医学専門学校	T14開業	S27/3/12退会・S29/3/22再入会
中新川郡	岡本　弘	東京歯科医学専門学校	T12開業	S16/8/5死亡
中新川郡	高橋　愛二	東京歯科医学専門学校	T08開業	S25/7/29退会
下新川郡	赤祖父　元吉郎	東京歯科医学専門学校	T11開業	S3/2/27死亡

所属郡市歯科医師会	氏名	出身校等	入会日	退会・異動
下新川郡	沼隈遠影	歯科医師試験	T14開業	S8/7死亡
氷見市	高井勇三	日本歯科医学専門学校	T03開業	S10/2/27死亡
氷見市	南川信	歯科医師試験	T06開業	S5/10/6死亡
東砺波郡	近江貞仁	日本大学専門部歯科	T15開業	S14/1/5死亡
東砺波郡	仲村音義	日本歯科医学専門学校	(T04卒)	S22/9/21死亡
東砺波郡	松田外司	日本歯科医学専門学校	T12/10開業	S24/6/28退会・S28/6/23再入会
東砺波郡	宮野龍吉	歯科医師試験	T10/08開業	S30/3/16死亡
東砺波郡	湯浅環	歯科医師試験	T05/01開業	S26/1/8退会
東砺波郡	渡邊初太郎	東京歯科医学専門学校	T10開業	S23/5/6死亡
西砺波郡	折井信雄	歯科医師試験	T15開業	死亡日不明(S23以前)
西砺波郡	神島俊一郎	歯科医師試験	T04開業	S25/10/19死亡
昭和2年度				4名
富山市	松浦三郎	日本大学専門部歯科	S02	S20/8/2死亡
高岡市	木下友栄	歯科医師試験	S02	H6/2/3死亡
中新川郡	横田太一	日本大学専門部歯科	S02	S32/12/23死亡
下新川郡	赤祖父三郎	東京歯科医学専門学校	S02	S63/7/16死亡
昭和3年度				3名
上新川郡	石黒宗次郎	歯科医師試験	S03	S58/1/25死亡
中新川郡	佐伯清之助	日本歯科医学専門学校	S03	S36/5/31死亡
東砺波郡	川口義門	日本大学専門部歯科	S03	S58/9/23死亡
昭和4年度				6名
富山市	平井喜美	東京女子歯科医学専門学校	S04	H5/8/14死亡
富山市	山崎安三	東京歯科医学専門学校	S04	S46/3/20死亡
下新川郡	大菅十造	東京歯科医学専門学校	S04	H10/3/12死亡
下新川郡	平井菊枝	歯科医師試験	S04	S29/2/22退会
東砺波郡	西野俊雄	日本歯科医学専門学校	S04	S41/10/15退会
西砺波郡	成瀬八郎	日本大学専門部歯科	S04	S63/3/18死亡
昭和5年度				6名
富山市	岡崎仁	東京歯科医学専門学校	S05	S26/11/8死亡
富山市	小泉直久	日本歯科医学専門学校	S05	S60/9/26死亡
高岡市	柴太郎	東京歯科医学専門学校	S05	S45/7/31死亡
射水郡	立浪次作	日本歯科医学専門学校	S05	S56/4/4死亡
東砺波郡	新谷寿康	歯科医師試験	S05	H13/4/8死亡
	中塚音次郎		S05	死亡日不明(S23以前)
昭和6年度				6名
富山市	植田実		S06	S20/8/2死亡
富山市	菅田晴山	東京歯科医学専門学校	S06	S61/4/29死亡
高岡市	櫻木成一	日本歯科医学専門学校	S06	H6/3/30死亡

所属郡市歯科医師会	氏名	出身校等	入会日	退会・異動
下新川郡	阿部彦太郎	日本歯科医学専門学校	S06	S52/6/27死亡
下新川郡	河村哲之助	日本歯科医学専門学校	S06	S48/11/7死亡
下新川郡	木下庄作	日本大学専門部歯科	S06	H5/10/10死亡
昭和7年度				4名
富山市	阿部清一	大阪歯科医学専門学校	S07	S58/2/17死亡
富山市	永森収	日本歯科医学専門学校	S07	S55/11/28死亡
下新川郡	奥川熊治	歯科医師試験	S07	S36/7/15死亡
氷見市	時女フミ子	東洋女子歯科医学専門学校	S07	S56/9/27死亡
昭和8年度				7名
富山市	岡田信次	日本歯科医学専門学校	S08	S53/8/20死亡
富山市	金森保芳	日本歯科医学専門学校	S08	S34/9/4死亡
高岡市	関剛三郎	東京歯科医学専門学校	S08	S46/8死亡
高岡市	吉岡二枝	東京女子歯科医学専門学校	S08	H14/1/6死亡
婦負郡	大井潤	日本大学専門部歯科	S08	S46/11/16死亡
下新川郡	北山静次	日本大学専門部歯科	S08	H3/8/15死亡
下新川郡	米田祐弘	東京歯科医学専門学校	S08	退会(S23以前)・S26/10/28再入会
昭和9年度				2名
下新川郡	塚本栄春	東京歯科医学専門学校	S09	S40/6/6死亡
下新川郡	菅洞栄蔵	日本歯科医学専門学校	S09	S29/3/14退会・S30/4/17再入会
昭和10年度				4名
富山市	家城圭一	日本歯科医学専門学校	S10	H5/1/26死亡
富山市	竹林正俊	日本大学専門部歯科	S10	H11/7/13死亡
射水郡	岩井二三雄	日本歯科医学専門学校	S10	H1/12/9死亡
射水郡	郷倉信一	日本歯科医学専門学校	S10	H3/7/16死亡
昭和11年度				7名
富山市	分田文子	東洋女子歯科医学専門学校	S11	H16/3/31退会
高岡市	金山吉雄	日本大学専門部歯科	S11	S43/1/15死亡
高岡市	小高啓三	京城歯科医学専門学校	S11	H4/4/15死亡
高岡市	島田栄吉	日本大学専門部歯科	S11	H11/6/30死亡
中新川郡	中川武	東京歯科医学専門学校	S11	S44/12/11死亡
西砺波郡	伊東祐年	歯科医師試験	S11	H6/9/18死亡
東砺波郡	村井玉枝	東洋歯科医学専門学校	S11	
昭和12年度				7名
富山市	林弘	日本歯科医学専門学校	S12	H4/2/18死亡
高岡市	岡田正三	日本大学専門部歯科	S12	H7/12/22死亡
中新川郡	奥平ユキエ	日本女子歯科医学専門学校	S12	H14/4/5死亡
中新川郡	酒井信義	東京高等歯科医学校	S12	H8/4/10死亡
氷見市	千鳥健二	歯科医師試験	S12	S56/1/22死亡

所属郡市歯科医師会	氏名	出身校等	入会日	退会・異動
西砺波郡	島田正三	日本歯科医学専門学校	S12	H17/6/30死亡
西砺波郡	吉村史郎	日本歯科医学専門学校	S12	S63/7/14死亡
昭和13年度				3名
富山市	小島平焉	大阪歯科医学専門学校	S13	死亡日不明(S23以前)
下新川郡	清水幸七	日本大学専門部歯科	S13	H2/2/12死亡
砺波市	菅野宜紀	東京歯科医学専門学校	S13	退会(S23以前)・S26/1/9再入会
昭和14年度				2名
婦負郡	関清子	東洋女子歯科医学専門学校	S14	H7/6/16死亡
下新川郡	田中直次	東京歯科医学専門学校	S14	H6/8/21死亡
昭和15年度				3名
富山市	堀井富子	日本女子歯科医学専門学校	S15	H19/5/15死亡
中新川郡	大野静夫	日本大学専門部歯科	S15	S61/4/8死亡
西砺波郡	渡邊親良	大阪歯科医学専門学校	S15	S59/2/17死亡
昭和16年度				6名
富山市	芳尾弘史	日本歯科医学専門学校	S16	H9/4/18死亡
高岡市	関信一	日本歯科医学専門学校	S16	H15/1/13死亡
婦負郡	大井ハツ子	東洋女子歯科医学専門学校	S16	H14/9/1死亡
中新川郡	岡本正	東京歯科医学専門学校	S16/10開業	S34/7/17死亡
下新川郡	魚津佐一	日本大学専門部歯科	S16	S56/4/23死亡
下新川郡	谷井三郎	日本大学専門部歯科	S16	S50/6/11死亡
昭和17年度				5名
富山市	中島清則	日本大学専門部歯科	S17	H19/12/7死亡
富山市	平井茂光	日本歯科医学専門学校	S17	S57/11/22死亡
高岡市	島田忍子	東洋女子歯科医学専門学校	S17	H15/12/1死亡
新湊市	越野培名男	大阪歯科医学専門学校	S17	
下新川郡	小倉直義	日本大学専門部歯科	S17	S58/5/9死亡
昭和18年度				4名
富山市	宮本乙男	東京歯科医学専門学校	S18	S60/2/7死亡
氷見市	倉田卓	東京歯科医学専門学校	S18	H4/8/27死亡
中新川郡	佐渡永貞	日本歯科医学専門学校	S18	H14/12/30死亡
下新川郡	近藤秀雄	歯科医師試験	S18	H20/4/11死亡
昭和19年度				7名
富山市	杉江玄己	東京歯科医学専門学校	S19	H17/2/8死亡
富山市	藤井三郎		S19	S20/8/2死亡
富山市	和記憲一	日本歯科医学専門学校	S19	S48/6/22死亡
高岡市	石多謙三	日本歯科医学専門学校	S19	H5/3/24死亡
高岡市	吉岡達雄	東京歯科医学専門学校	S19	S58/9/3死亡
婦負郡	木村美明	東洋女子歯科医学専門学校	S19	S57/1/13死亡

所属郡市歯科医師会	氏　　名	出身校等	入会日	退会・異動
西砺波郡	高　広　勇　次	日本歯科医学専門学校	S19	H8/11/7死亡
昭和20年度				1名
上新川郡	米　沢　卯　一	東京高等歯科医学校	S20	S52/11/14死亡
昭和23年2月5日以前の入会者（入会日不明）				29名
富山市	大　金　　均			S19/5死亡
富山市	近　藤　　緑			S23/7/13死亡
富山市	高　木　善　鉞	日本大学専門部歯科		S28/10/11死亡
富山市	谷　口　仙太郎			死亡日不明(S23以前)
富山市	平　野　　力			S25/5/15退会
富山市	深　山　敏　弘			S14/9/20死亡
富山市	藤　井　義　次			S18/1/30死亡
富山市	宮　田　　正			S26/5/2死亡
上新川郡	北　森　愛　子			S20/8/2死亡
上新川郡	吉　江　政　保			S25/9/30退会
高岡市	青　木　健　治			S24/3/1退会・S24/10/1再入会
中新川郡	浮　田　　豊	大阪歯科医学専門学校		S29/4/30退会
中新川郡	北　原　初　子			S24/3/28退会
中新川郡	酒　井　ヤヨヱ			S25/1/30退会
中新川郡	山　本　千代治	歯科医師試験		S10死亡
中新川郡	横　田　と　も	東洋女子歯科医学専門学校		S26/3/31退会・S32/12/27再入会
下新川郡	峰　村　綾　子	東洋女子歯科医学専門学校		S27/3/22退会・S35/5/1再入会
婦負郡	高　田　正　英	京城歯科医学専門学校		S32/12退会
氷見市	宮　島　　義			S12/10/17死亡
東砺波郡	秋　知　八　平			死亡日不明(S23以前)
東砺波郡	近　江　貞　之			S19/11/26死亡
東砺波郡	仲　村　義　重			S19/8/2死亡
東砺波郡	二階堂　和　彦			S25/2/1退会
東砺波郡	三　崎　恒　子			S11/4/13死亡
西砺波郡	神　島　長　次	歯科医師試験		死亡日不明(S23以前)
西砺波郡	田　中　安　義			死亡日不明(S23以前)
西砺波郡	橋　本　良　信	日本歯科医学専門学校		S15/2/16死亡
不明	川　口　吉　之			死亡日不明(S23以前)
不明	田　中　安　吉			死亡日不明(S23以前)
昭和22年度				57名
富山市	沖　田　弘　正	日本歯科医学専門学校	S23/02/05	H12/1/25死亡
富山市	北　野　伴　雄	東京歯科医学専門学校	S23/02/05	S27/12/16退会
富山市	栗　山　実　純	東京歯科医学専門学校	S23/02/05	S52/3/22死亡
富山市	小　林　全　二	東京高等歯科医学校	S23/02/05	H19/3/5死亡

所属郡市歯科医師会	氏名	出身校等	入会日	退会・異動
富山市	坂本清志	日本大学専門部歯科	S23/02/05	S42/2/5死亡
富山市	渋谷孝雄	東京歯科医学専門学校	S23/02/05	S59/8/16死亡
富山市	島信行	東京歯科医学専門学校	S23/02/05	H23/4/3死亡
富山市	田上修	日本歯科医学専門学校	S23/02/05	H10/10/30死亡
富山市	中島忠一	日本大学専門部歯科	S23/02/05	H10/8/17死亡
富山市	松浦玉子	東京女子歯科医学専門学校	S23/02/05	S28/6/5退会
富山市	松田正男	東京歯科医学専門学校	S23/02/05	S53/2/11死亡
富山市	松能喜一	東京高等歯科医学校	S23/02/05	S56/1/24死亡
富山市	松本常久	歯科医師試験	S23/02/05	S41/3 死亡
富山市	本告武人	日本歯科医学専門学校	S23/02/05	S54/7/20死亡
上新川郡	石黒繁	歯科医師試験	S23/02/05	H13/1/11死亡
上新川郡	北森実	東洋女子歯科医学専門学校	S23/02/05	S28/4/11退会・S28/6/15再入会
上新川郡	山崎安隆	東京歯科医学専門学校	S23/02/05	H10/8/4死亡
高岡市	石川静郎	東京医学歯学専門学校	S23/02/05	
高岡市	宇和山礼三	日本大学専門部歯科	S23/02/05	S53/12/14死亡
高岡市	金山晴顕	歯科医師試験	S23/02/05	S43/1/11死亡
高岡市	熊木甚朔	日本大学専門部歯科	S23/02/05	H7/3/20死亡
高岡市	斉藤義寿	日本大学専門部歯科	S23/02/05	S53/12/19死亡
高岡市	三崎正春	日本歯科医学専門学校	S23/02/05	
高岡市	三崎秀郎	日本歯科医学専門学校	S23/02/05	S47/7/4死亡
高岡市	元井英夫	日本歯科医学専門学校	S23/02/05	S57/5/23死亡
高岡市	吉岡シゲ	日本女子歯科医学専門学校	S23/02/05	
高岡市	四日善一	日本歯科医学専門学校	S23/02/05	S59/7/8死亡
高岡市	米沢真一	日本歯科医学専門学校	S23/02/05	H11/2/21死亡
新湊市	清水周明	日本歯科医学専門学校	S23/02/05	H5/1/3死亡
新湊市	中島吉春	日本大学専門部歯科	S23/02/05	
新湊市	舟木直久	日本大学専門部歯科	S23/02/05	S48/4/1退会
中新川郡	金川俊一	日本大学専門部歯科	S23/02/05	S34/12/17死亡
中新川郡	小森甚作	日本歯科医学専門学校	S23/02/05	H8/6/17死亡
中新川郡	高橋日出夫	東京歯科医学専門学校	S23/02/05	
中新川郡	蔦まつみ	日本女子歯科医学専門学校	S23/02/05	S39/9/2死亡
中新川郡	牧野貞子	東洋女子歯科医学専門学校	S23/02/05	H7/10/9死亡
下新川郡	加藤喜四郎	日本大学専門部歯科	S23/02/05	S34/8/23死亡
下新川郡	高田育三	日本歯科医学専門学校	S23/02/05	H4/9/22退会
婦負郡	奥野和男	日本大学専門部歯科	S23/02/05	H11/12/5死亡
婦負郡	佐々木止	日本大学専門部歯科	S23/02/05	S58/11/21死亡
婦負郡	桝山武	九州歯科医学専門学校	S23/02/05	S39/9/15退会
婦負郡	吉田茂	東京医学歯学専門学校	S23/02/05	H14/1/31死亡

所属郡市歯科医師会	氏名	出身校等	入会日	退会・異動
射水郡	三島三郎	日本大学専門部歯科	S23/02/05	H16/11/1死亡
氷見市	茶山信吉	東京歯科医学専門学校	S23/02/05	H9/11/15死亡
氷見市	吉野克男	日本大学専門部歯科	S23/02/05	S56/8/19死亡
東砺波郡	青木康三	東京歯科医学専門学校	S23/02/05	
東砺波郡	小幡義雄	歯科医師試験	S23/02/05	S36/6/4死亡
東砺波郡	河原信隆	日本大学専門部歯科	S23/02/05	H12/11/16死亡
東砺波郡	千保利	東京歯科医学専門学校	S23/02/05	H3/10/21死亡
東砺波郡	高田澄子	日本女子歯科医学専門学校	S23/02/05	H21/5/27死亡
東砺波郡	長久良一	日本大学専門部歯科	S23/02/05	S57/9/14死亡
東砺波郡	松田逸郎	日本大学専門部歯科	S23/02/05	S33/4/19死亡
東砺波郡	若林狷介	大阪歯科医学専門学校	S23/02/05	S30/3/31退会
西砺波郡	大道勇二	日本大学専門部歯科	S23/02/05	H5/12/24死亡
西砺波郡	岡本文夫	日本大学専門部歯科	S23/02/05	S63/3/26退会
西砺波郡	加羅田つよ	東洋女子歯科医学専門学校	S23/02/05	S46/12/4退会
婦負郡	小杉元治	日本大学専門部歯科	S23/03/01	H21/8/3死亡
昭和23年度				5名
西砺波郡	吉沢進	日本歯科医学専門学校	S23/05/15	H18/3/31死亡
富山市	島秀雄	東京歯科医学専門学校	S23/08/03	H12/10/22死亡
中新川郡	対馬久雄	歯科医師試験	S23/09/03	H10/4/22死亡
東砺波郡	高田寅四郎	日本大学専門部歯科	S23/10/01	
富山市	細川喜代子	日本女子歯科医学専門学校	S23/10/01	H16/7/24死亡
昭和24年度				21名
新湊市	松島正康	東京歯科医学専門学校	S24/04/01	H21/3/5死亡
西砺波郡	上田昌	日本歯科医学専門学校	S24/04/01	
富山市	三羽博久	日本歯科医学専門学校	S24/04/14	S62/2/4死亡
婦負郡	今井美津子	東洋女子歯科医学専門学校	S24/04/20	S26/12/25退会
東砺波郡	板橋修	日本歯科医学専門学校	S24/04/30	H14/3/31死亡
富山市	宮本俊治	東京歯科医学専門学校	S24/05/01	再入会・S60/4/22死亡
富山市	上滝元彦	日本大学専門部歯科	S24/05/21	H18/9/23死亡
富山市	宮森正次	日本歯科医学専門学校	S24/05/21	
西砺波郡	小山辰二	日本歯科医学専門学校	S24/05/25	H11/2/12死亡
下新川郡	宝田力	日本歯科医学専門学校	S24/06/01	H18/4/17死亡
下新川郡	吉見勇	大阪歯科医学専門学校	S24/06/15	S40/12/31死亡
富山市	岡田博		S24/06/15	S25/10/23退会
高岡市	青木健治	日本歯科医学専門学校	S24/10/01	再入会・H6/11/16死亡
富山市	水野誓夫	東京高等歯科医学校	S24/10/15	
高岡市	金山喜吉	日本大学専門部歯科	S24/10/25	
富山市	山岸確次	歯科医師試験	S25/01/05	S58/4/8死亡

所属郡市歯科医師会	氏名	出身校等	入会日	退会・異動
高岡市	草刈　博	日本大学専門部歯科	S25/01/05	S26/8/16死亡
富山市	源　三郎	日本大学専門部歯科	S25/01/07	H13/2/5死亡
富山市	山本栄助		S25/02/10	S26/1/17退会
新湊市	和田周志	東京歯科医学専門学校	S25/02/10	S27/8/31退会
高岡市	立野泰三	日本大学専門部歯科	S25/02/17	H15/7/11死亡
昭和25年度				7名
富山市	山下銀七	日本歯科医学専門学校	S25/04/01	
西砺波郡	斉藤孝雄	日本大学専門部歯科	S25/05/28	H22/9/7死亡
東砺波郡	仲村　博	日本歯科医学専門学校	S25/10/01	H6/3/20死亡
下新川郡	藤井　弘	日本大学専門部歯科	S25/11/03	H16/2/6死亡
高岡市	青木　進	東京歯科医学専門学校	S25/12/01	H7/6/17死亡
中新川郡	黒木正直	日本歯科医学専門学校	S25/12/10	S27/3/31退会・S30/5/28再入会
東砺波郡	菅野宜紀	東京歯科医学専門学校	S26/01/09	再入会・H2/11/28死亡
昭和26年度				13名
富山市	高野秀次郎	大阪歯科医学専門学校	S26/04/10	S60/5/5死亡
富山市	魚津竹男	大阪歯科医学専門学校	S26/04/25	H15/7/4死亡
下新川郡	魚津佐吉	大阪歯科医学専門学校	S26/05/15	S34/1/26死亡
婦負郡	羽井良三	東京歯科医学専門学校	S26/05/27	S59/4/9退会
中新川郡	佐藤英三郎	日本大学専門部歯科	S26/07/24	S48/12退会
富山市	岩倉リイ	日本女子歯科医学専門学校	S26/07/31	H2/11/27死亡
東砺波郡	及川哲夫	東京高等歯科医学校	S26/08/17	H21/4/16死亡
射水郡	小橋長造	日本歯科医学専門学校	S26/10/01	H9/12/20死亡
下新川郡	中川　弘	日本歯科医学専門学校	S26/10/27	S62/9/3死亡
下新川郡	米田祐弘	東京歯科医学専門学校	S26/10/28	再入会・H6/9/8死亡
富山市	寺崎久良	九州歯科医学専門学校	S26/12/01	S32/8/8退会・S33/8/1再入会
中新川郡	小西俊雄	日本大学専門部歯科	S26/12/09	S31/11/21退会
高岡市	石田新也	東京歯科医学専門学校	S27/01/14	S30/10/31退会・S32/6/16再入会
昭和27年度				13名
富山市	藤井起三郎	日本歯科医学専門学校	S27/04/08	H1/5/18死亡
射水郡	野村昭子	日本女子歯科医学専門学校	S27/04/15	S38/1/1退会
新湊市	内田安博	東京歯科医学専門学校	S27/08/01	
富山市	水野公之	日本大学専門部歯科	S27/08/14	H10/6/28死亡
上新川郡	藤井寛英	日本大学専門部歯科	S27/10/22	S30/9/17退会
富山市	大島輝哉	大阪歯科医学専門学校	S27/12/01	
富山市	日爪由利枝	東洋女子歯科医学専門学校	S28/02/10	S29/12退会
富山市	松浦　實	日本大学専門部歯科	S28/02/13	
富山市	堀　欣子		S28/02/17	S28/12退会
下新川郡	鴻池叢恵	東洋女子歯科医学専門学校	S28/02/23	H2/3/31退会

所属郡市歯科医師会	氏名	出身校等	入会日	退会・異動
富山市	今村勝彦	日本歯科医学専門学校	S28/02/28	
富山市	大久保泰男	東京歯科医学専門学校	S28/02/28	S32/8/31退会
富山市	永森尚之	日本歯科医学専門学校	S28/02/28	H6/12/29死亡
昭和28年度				8名
下新川郡	渡辺綱男	東京歯科医学専門学校	S28/04/01	H20/2/14死亡
高岡市	中野由蔵	歯科医師試験	S28/04/09	S61/2/11死亡
上新川郡	北森実	東洋女子歯科医学専門学校	S28/06/15	再入会・S30/3/7退会
東砺波郡	松田外司	日本歯科医学専門学校	S28/06/23	再入会・S30/1/26死亡
富山市	深山正之	東京歯科医学専門学校	S28/10/28	H19/12/20死亡
東砺波郡	徳留八重子	東洋女子歯科医学専門学校	S29/01/14	S33/11/1退会
中新川郡	水橋哲夫	日本歯科医学専門学校	S29/03/15	
新湊市	和田義孝	東京歯科医学専門学校	S29/03/22	再入会・S58/2/23死亡
昭和29年度				4名
中新川郡	坂下孝則	日本大学専門部歯科	S29/04/10	H19/8/24死亡
富山市	宮西亨	大阪歯科医学専門学校	S29/04/20	S31/5/31退会
高岡市	草間清文		S29/05/01	S30/10/14退会
上新川郡	山田外雄	日本歯科医学専門学校	S29/06/22	H5/4/30死亡
昭和30年度				5名
下新川郡	菅洞栄蔵	日本歯科医学専門学校	S30/04/17	再入会・S33/3/31退会
富山市	黒木正直	日本歯科医学専門学校	S30/05/28	再入会・H16/11/4死亡
氷見市	坊明男	日本大学歯学部	S30/07/20	
西砺波郡	津田すみ子	日本女子歯科医学専門学校	S30/12/24	
高岡市	後藤俊		S31/02/10	S32/4/1退会
昭和31年度				9名
中新川郡	飯田弘	日本歯科医学専門学校	S31/07/01	H3/2/22死亡
富山市	寺島祐輔	大阪歯科医学専門学校	S31/07/05	
下新川郡	山口清衣	東洋女子歯科医学専門学校	S31/09/05	H23/12/11死亡
富山市	松本秀子	明華女子歯科医学専門学校	S31/10/17	H8/12/14死亡
婦負郡	篠川之靖	東京医科歯科大学歯学部	S31/10/21	S33/12退会・S34/12/1再入会
中新川郡	橋本静雄	歯科医師試験	S31/11/21	S41/2/9死亡
富山市	中保朔男	東京歯科医学専門学校	S32/02/01	H10/1/20死亡
上新川郡	寺戸斉	歯科医師試験	S32/02/10	S32/4/1退会
高岡市	廣井清智	東京医科歯科大学歯学部	S32/02/22	S35/10/31退会
昭和32年度				9名
中新川郡	山本壯一	東京医科歯科大学歯学部	S32/04/20	H5/8/18死亡
下新川郡	柚木一夫	東京歯科医学専門学校	S32/05/24	H14/10/26死亡
東砺波郡	石田新也	東京歯科医学専門学校	S32/06/16	再入会・S34/9/30退会
上新川郡	加藤茂	日本大学専門部歯科	S32/06/20	S41/3/31退会

所属郡市歯科医師会	氏名	出身校等	入会日	退会・異動
東砺波郡	木下善光	九州歯科大学	S32/09/01	S38/4/20退会
高岡市	大迫啓一	東京医科歯科大学歯学部	S32/11/10	S35/4/11退会
中新川郡	横田とも	東洋女子歯科医学専門学校	S32/12/27	再入会・S57/9/10死亡
下新川郡	広瀬一男	東京医科歯科大学歯学部	S33/03/10	H14/5/23死亡
下新川郡	森本君雄	東京歯科医学専門学校	S33/03/11	S34/12退会
昭和33年度				12名
東砺波郡	中保仁久	東京歯科医学専門学校	S33/04/03	S33/11/18死亡
高岡市	浦野潤	東京歯科大学	S33/04/06	
新湊市	有川肇	京城歯科医学専門学校	S33/05/23	S37/5/1退会
中新川郡	寺崎久良	九州歯科医学専門学校	S33/08/01	再入会・H24/12/13死亡
西砺波郡	新谷政彦	東京歯科大学	S33/08/10	
砺波市	鷹取昭治	日本歯科大学歯学部	S33/08/30	H19/8/10死亡
下新川郡	井坂貞一	歯科医師試験	S33/08/30	S39/1/6退会
下新川郡	大町弘夫	日本歯科医学専門学校	S33/10/01	S35/4/23退会
富山市	楠崎渥	東京歯科医学専門学校	S34/01/16	S35/3/31退会
富山市	井藤みねゑ	東洋女子歯科医学専門学校	S34/02/02	S36/6/30退会
氷見市	小山哲夫	東京歯科大学	S34/03/01	
西砺波郡	石崎護	東京歯科大学	S34/03/15	
昭和34年度				9名
西砺波郡	成瀬達雄	東京医科歯科大学歯学部	S34/04/13	H23/4/20死亡
東砺波郡	忠縄五郎	東京歯科医学専門学校	S34/05/10	S42/7/28退会
富山市	石川総子	東洋女子歯科医学専門学校	S34/05/25	S41/3/31退会
富山市	原田修逸	日本大学歯学部	S34/08/01	H4/5/30死亡
下新川郡	女川清	東京歯科医学専門学校	S34/08/01	
東砺波郡	小幡義昭	日本大学専門部歯科	S34/10/01	S40/3/13退会
富山市	逸見玲	東京歯科医学専門学校	S34/11/01	H23/5/25死亡
富山市	篠川之靖	東京医科歯科大学歯学部	S34/12/01	再入会
東砺波郡	五十嵐正	日本大学歯学部	S35/01/04	S35/12/15退会
昭和35年度				10名
下新川郡	峰村綾子	東洋女子歯科医学専門学校	S35/05/01	再入会・H11/6/1退会
富山市	三崎譲司	日本歯科大学歯学部	S35/06/01	H6/4/17死亡
東砺波郡	矢野淳	九州歯科大学	S35/06/10	S40/12退会
東砺波郡	中尾修	日本歯科大学歯学部	S35/07/04	H24/8/27死亡
高岡市	田中文子		S35/07/13	S36/9/11退会
富山市	金森安信	東京医科歯科大学歯学部	S35/12/08	H14/9/7死亡
高岡市	尾崎正俊	日本歯科医学専門学校	S35/12/10	S39/9/10退会
東砺波郡	谷口博朗	日本大学歯学部	S35/12/15	H13/8/30死亡
氷見市	長谷川富久	日本歯科大学歯学部	S35/12/15	

所属郡市歯科医師会	氏名	出身校等	入会日	退会・異動
富山市	阿部則行	大阪歯科大学	S36/03/10	H21/3/20死亡
昭和36年度				4名
高岡市	尾崎正枝	京城歯科医学専門学校	S36/07/30	S43/10退会
下新川郡	山内登	日本大学専門部歯科	S36/11/01	H2/7/31退会
高岡市	金山嘉城	東京歯科大学	S36/11/15	
黒部市	平井きよみ	東京歯科大学	S37/01/08	
昭和37年度				10名
富山市	佐渡哲雄	日本歯科大学歯学部	S37/04/02	
富山市	栗山豊実	東京歯科大学	S37/07/20	
魚津市	福島武之助	東京歯科医学専門学校	S38/02/15	S39/8/31退会
魚津市	奥川澄夫	東京歯科大学	S38/03/14	
下新川郡	魚津純子	東洋歯科医学専門学校	S38/03/20	
射水郡	岩井輝雄	日本歯科大学歯学部	S38/03/24	H20/1/17死亡
高岡市	平井晃	日本大学専門部歯科	S38/03/29	S39/12退会
富山市	松原明男	日本歯科大学歯学部	S38/03/31	
中新川郡	佐伯正清	日本歯科大学歯学部	S38/03/31	
下新川郡	大菅武	東京歯科大学	S38/03/31	
昭和38年度				6名
富山市	志村金太郎	日本歯科医学専門学校	S38/10/01	再入会・S38/12/15死亡
東砺波郡	新谷宗計		S38/10/09	S40/3/30退会
高岡市	大江金雄	東京歯科大学	S38/10/12	H23/7/22死亡
東砺波郡	宮本菊枝	東洋女子歯科医学専門学校	S38/11/05	S41/8/16退会・S45/1/1再入会
黒部市	島田正豊	日本大学歯学部	S38/12/03	
富山市	松能二郎	日本歯科大学歯学部	S39/02/02	H7/9/21死亡
昭和39年度				3名
魚津市	稲場文久	大阪歯科大学	S39/09/12	H11/1/30死亡
西砺波郡	棚田昌俊	日本歯科大学歯学部	S39/10/06	
黒部市	吉見武志	日本歯科大学歯学部	S40/01/20	
昭和40年度				8名
高岡市	釣谷東民	東京歯科大学	S40/04/25	
富山市	石川哲夫	大阪歯科大学	S40/05/01	
砺波市	桜木正昭	東京医科歯科大学歯学部	S40/05/10	
氷見市	時女外与三	東京医科歯科大学歯学部	S40/06/13	H4/11/29死亡
富山市	松原清一郎	日本歯科大学歯学部	S40/07/01	
下新川郡	小杉与三雄	日本歯科医学専門学校	S40/07/23	
東砺波郡	川口義治	東京医科歯科大学歯学部	S40/08/29	
東砺波郡	菊地正憲	日本大学専門部歯科	S40/09/28	S42/9退会

所属郡市歯科医師会	氏　　名	出身校等	入会日	退会・異動
昭和41年度				5名
氷見市	加　藤　英　一	日本大学歯学部	S41/04/15	
砺波市	郷　倉　　満	日本歯科大学歯学部	S41/05/12	
黒部市	平　井　和　輝	東京歯科大学	S41/06/06	
富山市	黒　川　五一郎	大阪歯科大学	S41/09/01	H25/3/18死亡
高岡市	宮　田　靖　雄	日本歯科大学歯学部	S42/01/20	
昭和42年度				7名
高岡市	岩　井　道　雄	日本歯科大学歯学部	S42/06/06	H16/7/9死亡
魚津市	寺　崎　　芳	東京歯科大学	S42/06/20	
中新川郡	浅　田　宗之輔	東京歯科大学	S42/07/03	S42/12/6退会
富山市	山　岸　敏　治	大阪歯科大学	S42/07/12	
東砺波郡	能　登　辰　起	日本大学専門部歯科	S42/09/13	S44/12退会
高岡市	平　出　町　男	日本大学歯学部	S42/10/01	
氷見市	日　比　正　也	日本歯科大学歯学部	S42/11/02	S44/11退会
昭和43年度				9名
高岡市	金　山　珪　子	東京歯科大学	S43/04/01	
氷見市	中　辻　義　忠	日本歯科大学歯学部	S43/04/03	
富山市	今　村　き　み	日本歯科医学専門学校	S43/04/05	
富山市	横　田　一　二	日本大学歯学部	S43/05/07	H8/4/26死亡
中新川郡	小　泉　隆　英	日本大学歯学部	S43/05/11	
富山市	石　坂　国　一	日本歯科大学歯学部	S43/07/31	S54/3/31退会
富山市	大　野　繁　彦	日本大学歯学部	S43/08/13	H6/5/14死亡
富山市	永　森　靖　夫	日本歯科大学歯学部	S43/08/13	
高岡市	福　井　　洋	愛知学院大学歯学部	S43/10/29	
昭和44年度				5名
高岡市	萬　谷　敏　紀	日本大学歯学部	S44/04/01	
富山市	家　城　佳　夫	日本歯科大学歯学部	S44/08/01	
婦負郡	大　井　克　彦	日本大学歯学部	S44/08/19	
東砺波郡	宮　本　菊　枝	明華女子歯科医学専門学校	S45/01/01	再入会・H5/9/9死亡
高岡市	林　　俊　郎	日本歯科大学歯学部	S45/03/30	
昭和45年度				11名
富山市	三　鍋　厚　樹	日本大学歯学部	S45/04/01	H6/9/12死亡
富山市	小　林　　信	大阪歯科大学	S45/04/01	H15/12/10死亡
富山市	坪　田　忠　近	日本大学専門部歯科	S45/04/13	H19/12/6死亡
富山市	浮　舟　宣　武	東京医科歯科大学歯学部	S45/05/27	S45/9/24退会
射水郡	立　浪　次　夫	日本歯科大学歯学部	S45/06/20	
高岡市	立　浪　昭　夫	日本歯科大学歯学部	S45/08/04	S47/12退会
富山市	寺　田　周　明	東京医科歯科大学歯学部	S45/08/20	

所属郡市歯科医師会	氏名	出身校等	入会日	退会・異動
高岡市	宇和山　義　雄	大阪歯科大学	S45/12/24	
中新川郡	坂　下　賢　孝	日本大学歯学部	S46/01/11	
魚津市	夏　目　恭　佐	日本大学歯学部	S46/03/01	
高岡市	越　野　　学	大阪歯科大学	S46/03/21	
昭和46年度				10名
東砺波郡	林　　直　樹	日本歯科大学歯学部	S46/04/06	
砺波市	菅　野　勝　紀	東京医科歯科大学歯学部	S46/04/21	
富山市	岡　田　洋　昭	東京医科歯科大学歯学部	S46/05/01	H21/7/29死亡
富山市	小　泉　明　久	日本歯科大学歯学部	S46/10/18	H16/2/2死亡
富山市	菅　田　博　子	東京歯科大学	S46/11/24	H25/10/31死亡
富山市	小　倉　孝　夫	日本大学歯学部	S46/11/27	
富山市	佐　渡　邦　夫	日本歯科大学歯学部	S47/02/01	
高岡市	松　田　倫　雄	日本歯科大学歯学部	S47/02/10	
富山市	北　山　善之進	日本大学歯学部	S47/02/15	H21/3/4死亡
新湊市	和　田　めりい	日本女子歯科医学専門学校	S47/03/04	
昭和47年度				7名
下新川郡	近　藤　俊　行	日本大学歯学部	S47/05/13	
富山市	大　城　宣　之	愛知学院大学歯学部	S47/05/15	
高岡市	奥　村　朋　宏	愛知学院大学歯学部	S47/06/07	H17/1/3死亡
高岡市	福　島　武　人	日本歯科大学歯学部	S47/07/18	H19/9/16死亡
西砺波郡	島　田　正　美	日本歯科大学歯学部	S47/08/01	
高岡市	篠　原　昭　道	日本大学歯学部	S47/09/28	
高岡市	木　下　信　雄	日本歯科大学歯学部	S47/11/05	H6/10/3死亡
昭和48年度				9名
滑川市	水　橋　景　之	日本歯科大学歯学部	S48/04/01	
富山市	和　記　徳　郎	愛知学院大学歯学部	S48/07/01	
婦負郡	吉　田　季　彦	東京医科歯科大学歯学部	S48/08/01	
魚津市	川　上　清　江	東洋女子歯科医学専門学校	S48/08/06	H19/8/24死亡
高岡市	四　日　隆　夫	日本歯科大学歯学部	S48/08/12	
高岡市	大　道　素　夫	日本歯科大学歯学部	S48/09/01	
高岡市	山　本　征　彦	愛知学院大学歯学部	S48/10/10	
高岡市	佐　藤　昌　子	日本歯科大学歯学部	S48/11/01	
富山市	高　石　　叡	愛知学院大学歯学部	S49/02/12	H19/6/5死亡
昭和49年度				13名
富山市	大　浦　重　光	日本歯科大学歯学部	S49/04/01	
富山市	黒　川　勇次郎	大阪歯科大学	S49/04/01	
高岡市	杉　本　友　夫	日本大学歯学部	S49/04/02	
高岡市	長　久　巧　一	大阪歯科大学	S49/04/11	

所属郡市歯科医師会	氏名	出身校等	入会日	退会・異動
富山市	林　勉	日本歯科大学歯学部	S49/05/01	
富山市	柚木邦夫	東京歯科大学	S49/05/07	
高岡市	川渕金哉	日本歯科大学歯学部	S49/08/01	
富山市	小林憲夫	大阪歯科大学	S49/10/01	
高岡市	石多謙治	日本歯科大学歯学部	S50/01/27	H5/7/6死亡
氷見市	倉田雅人	東京歯科大学	S50/02/25	H22/7/13死亡
氷見市	藤野鶴子	九州歯科大学	S50/03/27	S51/3/20退会
高岡市	矢原孝雄		S50/03/29	S50/7/31退会
富山市	谷井三利	日本大学歯学部	S50/03/31	
昭和50年度				9名
砺波市	芳尾久志	神奈川歯科大学	S50/04/26	
高岡市	木村純一	新潟大学歯学部	S50/05/26	
富山市	森井徹雄	大阪歯科大学	S50/06/09	
高岡市	吉沢　啓	日本大学歯学部	S50/07/13	S56/11/26死亡
黒部市	河村　允	日本歯科大学歯学部	S50/07/19	
氷見市	安達　昭	日本歯科大学歯学部	S50/08/14	
高岡市	平木光昭	大阪歯科大学	S50/09/20	
魚津市	竹島恵子	新潟大学歯学部	S50/10/01	H4/12/26死亡
小矢部市	野田孫就	岩手医科大学歯学部	S51/03/15	
昭和51年度				17名
富山市	河合宏一	日本歯科大学歯学部	S51/06/02	S54/10退会
射水郡	高畠　隆	神奈川歯科大学	S51/06/04	
新湊市	山田正昭	神奈川歯科大学	S51/06/14	
高岡市	藤井俊彦	大阪歯科大学	S51/06/18	
富山市	山崎宣夫	東京歯科大学	S51/07/01	
富山市	砂子満明	東北大学歯学部	S51/09/07	
魚津市	小熊清史	東京医科歯科大学歯学部	S51/09/30	
高岡市	示野直政	愛知学院大学歯学部	S51/10/10	S53/2退会
新湊市	山田阿月	神奈川歯科大学	S51/10/24	H11/8/19死亡
高岡市	中島　徹	日本大学歯学部	S51/10/24	
小矢部市	岡本　学	日本大学歯学部	S51/12/01	S61/3/19死亡
富山市	水野隆俊	愛知学院大学歯学部	S52/02/18	
富山市	米山俊夫	東京歯科大学	S52/03/15	
富山市	河野吉秀	愛知学院大学歯学部	S52/03/22	
滑川市	奥平秀子	東京歯科大学	S52/03/24	H22/3/20退会
滑川市	酒井義博	日本大学歯学部	S52/03/26	
魚津市	清水嗣貴	日本大学歯学部	S52/03/28	

所属郡市歯科医師会	氏　　名	出身校等	入会日	退会・異動
昭和52年度				6名
高岡市	吉　岡　達　博	東京歯科大学	S52/06/01	
富山市	米　沢　　徹	東京歯科大学	S52/12/01	
高岡市	岩　﨑　弘　治	新潟大学歯学部	S53/02/01	
富山市	竹　内　哲　郎	愛知学院大学歯学部	S53/02/07	
富山市	中　嶋　　渉	日本大学歯学部	S53/02/10	
富山市	山　村　辰　雄	大阪歯科大学	S53/03/09	
昭和53年度				11名
富山市	岡　崎　満　雄	日本大学歯学部	S53/04/01	H20/4/26死亡
高岡市	佐　藤　慎　一	日本歯科大学歯学部	S53/09/06	
下新川郡	阿　部　弘　一	東京医科歯科大学歯学部	S53/09/21	
新湊市	青　木　一　登	日本歯科大学歯学部	S53/11/01	
魚津市	森　本　　伸	東京歯科大学	S53/11/08	
小矢部市	渡　邊　良　隆	大阪歯科大学	S53/12/21	
富山市	江　川　正　通	城西歯科大学	S54/03/12	
富山市	酒　井　信　治	愛知学院大学歯学部	S54/03/15	
富山市	加　藤　高　男	愛知学院大学歯学部	S54/03/22	
東砺波郡	山　本　武　夫	新潟大学歯学部	S54/03/29	
富山市	平　井　高　明	愛知学院大学歯学部	S54/03/30	H23/11/12死亡
昭和54年度				8名
高岡市	阿　部　輝　夫	日本歯科大学歯学部	S54/06/30	
砺波市	神　田　純　郎	神奈川歯科大学	S54/10/11	H20/4/7死亡
高岡市	大　石　　聡	岩手医科大学歯学部	S54/11/22	
砺波市	長　久　　隆	岐阜歯科大学	S54/12/04	H7/11/2死亡
高岡市	松　岡　正　道	日本歯科大学歯学部	S55/01/17	
富山市	宮　本　宣　良	東京歯科大学	S55/02/05	
高岡市	東　　忍	日本大学歯学部	S55/03/08	
高岡市	熊　木　　彰	城西歯科大学	S55/03/11	
昭和55年度				17名
射水郡	佐　野　正　之	城西歯科大学	S55/04/01	
高岡市	山　田　真　樹	岐阜歯科大学	S55/04/05	
高岡市	金　子　光　謙	岐阜歯科大学	S55/04/18	
新湊市	森　永　丈　策	神奈川歯科大学	S55/04/23	
東砺波郡	村　井　幸　嗣	城西歯科大学	S55/06/28	
富山市	杉　井　芳　文	東京歯科大学	S55/07/18	
下新川郡	田　原　保　夫	東京歯科大学	S55/07/31	H20/7/16退会
高岡市	三　﨑　公　晴	日本歯科大学歯学部	S55/08/12	
富山市	坂　本　和　隆	日本歯科大学歯学部	S55/08/23	

所属郡市歯科医師会	氏　　名	出身校等	入会日	退会・異動
富山市	石　坂　正　明	城西歯科大学	S55/09/28	
富山市	狩　野　　覚	日本大学歯学部	S55/09/28	
滑川市	永　井　清一郎	日本大学歯学部	S55/11/01	
滑川市	吉　岡　ゑく子	鶴見大学歯学部	S55/11/01	
滑川市	高　野　建　一	北海道大学歯学部	S55/11/01	
東砺波郡	山　本　　茂	岐阜歯科大学	S55/12/20	
富山市	松　能　雄　一	東京医科歯科大学歯学部	S56/01/24	
高岡市	斉　藤　雄　二	日本歯科大学新潟歯学部	S56/02/19	
昭和56年度				16名
富山市	坂　本　喜久雄	新潟大学歯学部	S56/04/24	
富山市	大　野　　均	愛知学院大学歯学部	S56/04/24	
下新川郡	魚　津　博　文	松本歯科大学	S56/05/08	
小矢部市	上　田　外喜男	日本歯科大学歯学部	S56/06/26	
高岡市	焼　田　志図夫	日本大学歯学部	S56/07/10	
富山市	金　川　直　博	東京歯科大学	S56/07/25	
東砺波郡	玉　井　健　三	日本歯科大学歯学部	S56/08/12	S57丙へ異動・S62/10/25死亡
富山市	稲　田　次　郎	東京歯科大学	S56/08/12	
富山市	岩　坪　敏　江	日本歯科大学新潟歯学部	S56/08/12	
下新川郡	野　田　　修	東京歯科大学	S56/08/12	
新湊市	武　　俊　夫	愛知学院大学歯学部	S56/08/12	
射水郡	三　島　純　子	鶴見大学歯学部	S56/09/03	
富山市	長　沢　　久	愛知学院大学歯学部	S56/09/11	
高岡市	島　崎　　聡	岐阜歯科大学	S56/09/18	
高岡市	和　田　敦　志	東北大学歯学部	S57/03/24	
新湊市	中　島　　潔	日本大学歯学部	S57/03/29	

昭和57年11月14日から定款施行規則を新設し、以下のように本会会員種別を甲・乙・丙・準会員として区別することとした。

第２条　定款第７条第１項の本会に入会しようとする者とは、次の各号に掲げる者とする。
⑴甲会員　病院及び診療所を開設する歯科医師
⑵乙会員　ア．第１号の病院及び診療所に就業する歯科医師
　　イ．県内に住所を有する歯科医師
⑶丙会員　第１号以外の病院及び診療所を代表する歯科医師
⑷準会員　第１号及び第３号の病院及び診療所に勤務する歯科医師

所属郡市歯科医師会	氏　名	出身校等	入会日	種別	勤務先	退会・異動
昭和57年度						18名
	吉川　由治	新潟大学歯学部	S57/04/01	丙	県立中央病院	H1/7/13甲へ異動・H25/6/13死亡
中新川郡	小森　　実	日本歯科大学新潟歯学部	S57/04/08	乙		
高岡市	安念　博利	城西歯科大学	S57/04/23	甲		H2/11/30退会
富山市	山﨑　安仁	東京歯科大学	S57/05/25	乙		
	根尾　　満	松本歯科大学	S57/06/16	丙	砺波総合病院	S59/11/13甲へ異動
	河合　宏一	日本歯科大学歯学部	S57/06/25	丙	富山逓信病院	再入会･S62/2/1準へ異動･H25/3/31退会
高岡市	松木　基祐	愛知学院大学歯学部	S57/06/25	甲		
魚津市	岡田　富哉	東京歯科大学	S57/09/09	甲		H19/2/28退会
黒部市	田中　慎二	東京医科歯科大学歯学部	S57/09/16	甲		
砺波市	安念　和英	大阪大学歯学部	S57/09/22	甲		
富山市	小崎　利章	新潟大学歯学部	S57/10/06	甲		
富山市	源　　義明	愛知学院大学歯学部	S57/12/28	乙		
高岡市	梶川　昌幸	日本歯科大学歯学部	S57/12/28	甲		H25/10/23死亡
	土生　清春	岩手医科大学歯学部	S58/01/14	準	水野歯科医院	S60/1/25甲へ異動・H22/11/20退会
	中村　玲子	日本大学松戸歯学部	S58/01/26	準	藤井歯科医院	S58/12 退会
	直江　尚利	日本歯科大学新潟歯学部	S58/01/26	準	藤井歯科医院	S58/7/2甲へ異動・H10/7/27死亡
	大谷　敦志	日本歯科大学新潟歯学部	S58/01/26	準	藤井歯科医院	S58/12 退会
	横田　憲明	日本歯科大学新潟歯学部	S58/01/26	準	藤井歯科医院	S61/4/10甲へ異動
昭和58年度						18名
富山市	須河　　修	東北大学歯学部	S58/04/01	甲		S62/1/31退会
魚津市	米田　仗二	神奈川歯科大学	S58/04/01	乙		
高岡市	寺田　康子	新潟大学歯学部	S58/05/09	甲		
富山市	城川　和夫	日本大学歯学部	S58/05/10	甲		
	後藤　　健	日本歯科大学歯学部	S58/05/16	丙	高岡市民病院	S60/1/25甲へ異動
	新川いくみ	松本歯科大学	S58/06/07	準	しのぶ歯科医院	S60/11/10甲へ異動
富山市	石黒　　真	愛知学院大学歯学部	S58/06/16	乙		
	加藤　弘直	日本歯科大学新潟歯学部	S58/06/24	準	奥村歯科医院	S58/9/29甲へ異動

所属郡市歯科医師会	氏　名	出身校等	入会日	種別	勤務先	退会・異動
	村山偉知朗	松本歯科大学	S58/06/27	準	しのぶ歯科医院	S58/10/14甲へ異動
	高島　周二	神奈川歯科大学	S58/07/01	準	藤井歯科医院	S63/4/14甲へ異動
	米澤　明成	日本大学歯学部	S58/07/01	準	藤井歯科医院	S60/6/13乙へ異動
	紅井　外二	東京歯科大学	S58/07/08	準	歯科クリニック福井	S60/4/25甲へ異動
	山田　　耕	日本歯科大学新潟歯学部	S58/07/12	準	藤井歯科医院	S62/4/9甲へ異動
富山市	中道　　勇	東京医科歯科大学歯学部	S58/09/08	甲		
	安ヵ川　聡	愛知学院大学歯学部	S58/09/29	準	高石歯科医院	S60/6/13甲へ異動
黒部市	渡辺　和夫	東京歯科大学	S58/10/14	乙		
富山市	飯田　良彦	岐阜歯科大学	S59/02/22	甲		
魚津市	谷川　文紹	東北歯科大学	S59/03/29	甲		
昭和59年度						13名
富山市	島　　秀一	神奈川歯科大学	S59/04/05	乙		
	熊谷　立子	愛知学院大学歯学部	S59/04/10	丙	氷見市民病院	H8/7/19甲へ異動
富山市	島　　信博	東京歯科大学	S59/05/18	乙		
高岡市	米沢　吉治	日本歯科大学歯学部	S59/07/22	乙		
	山本　大輔	岐阜歯科大学	S59/08/09	準	山本歯科クリニック	H1/11/9甲へ異動
	川口　志郎	東北歯科大学	S59/08/21	準	しのぶ歯科医院	S61/6/19甲へ異動
小矢部市	増田　真理	鶴見大学歯学部	S59/09/03	甲		H23/1/31退会
	澤本　正登	松本歯科大学	S59/09/10	準	富山赤十字病院	S62/1/22甲へ異動
富山市	中島　清之	日本大学歯学部	S59/11/13	甲		
富山市	森井　忠晴	愛知学院大学歯学部	S59/12/23	甲		
	水越　　弘	日本歯科大学新潟歯学部	S60/01/25	準	奥村歯科医院	S62/5/14甲へ異動
高岡市	今村　明弘	城西歯科大学	S60/02/24	乙		
高岡市	太田　真治	大阪大学歯学部	S60/03/16	乙		
昭和60年度						23名
富山市	山下　哲哉	日本歯科大学歯学部	S60/04/03	乙		
	上田美保子	城西歯科大学	S60/04/03	準	あすなろ小児歯科医院	S60/11/10甲へ異動
富山市	泉　　照雄	城西歯科大学	S60/04/25	甲		
	仲村辰一郎	日本歯科大学歯学部	S60/04/25	丙	高岡市民病院	H2/3/22甲へ異動
	梶村　悦朗	東京歯科大学	S60/04/25	丙	砺波総合病院	S62/4/1退会
富山市	片山　浄慧	神奈川歯科大学	S60/06/13	甲		H20/12/27死亡
	福尾　元成	愛知学院大学歯学部	S60/06/13	丙	厚生連高岡病院	H2/1/31乙へ異動
	山村　孝夫	愛知学院大学歯学部	S60/06/27	準	高石歯科水橋医院	S63/7/31退会
滑川市	岡田　雅子	東京歯科大学	S60/07/25	甲		H2/4/26退会
婦負郡	折山　　弘	愛知学院大学歯学部	S60/09/12	甲		
	高沢　尚人	鶴見大学歯学部	S60/09/12	準	伏木歯科診療所	S61/10/9甲へ異動
氷見市	加藤　和子	日本大学松戸歯学部	S60/09/12	乙		
富山市	星野　照宗	松本歯科大学	S60/09/26	甲		

所属郡市歯科医師会	氏　名	出身校等	入会日	種別	勤務先	退会・異動
下新川郡	塩見　哲	東京医科歯科大学歯学部	S60/09/26	甲		
射水郡	大谷　敦志	日本歯科大学新潟歯学部	S60/09/26	乙		再入会
	田中　博	九州歯科大学	S60/10/11	準	しのぶ歯科医院	S62/4/9甲へ異動
	山田　隆寛	東京医科歯科大学歯学部	S60/10/11	準	不二越病院	S62/10/29甲へ異動
	古田　勲	東京医科歯科大学歯学部	S60/11/10	準	富山医科薬科大学	H19/3/31退会
新湊市	安田　篤	日本歯科大学歯学部	S61/01/23	甲		
婦負郡	沖田　進	新潟大学歯学部	S61/02/13	甲		
富山市	小山　俊彦	大阪歯科大学	S61/03/30	甲		H4/9/23死亡
小矢部市	岡本　祥子	鶴見大学歯学部	S61/03/30	甲		
氷見市	吉崎　定夫	日本歯科大学新潟歯学部	S61/03/30	甲		H23/2/21死亡
昭和61年度						20名
富山市	岡野　秀成	城西歯科大学	S61/04/10	甲		
氷見市	油田　達朗	東北歯科大学	S61/04/10	甲		
富山市	水野　知之	日本大学松戸歯学部	S61/04/24	乙		H18/3/12死亡
富山市	山室　孝義	岐阜歯科大学	S61/05/08	甲		
	中村　祐信	日本歯科大学新潟歯学部	S61/06/19	準	くまの歯科医院	S62/1/22甲へ異動
	森　和久	日本歯科大学歯学部	S61/06/19	丙	北陸中央病院	S62/2/12退会
	園田　嘉彦	北海道大学歯学部	S61/06/19	準	しのぶ歯科医院	S63/5/12退会
下新川郡	柚木　功	日本大学歯学部	S61/07/10	乙		
	清水　秀明	日本歯科大学新潟歯学部	S61/08/07	準	米山歯科医院	H1/7/13甲へ異動
滑川市	網谷　伸治	東京医科歯科大学歯学部	S61/10/09	甲		
	水分　寿雄	鶴見大学歯学部	S61/11/12	準	中村記念病院	H2/3/22乙へ異動
	牧野　明	東京歯科大学	S61/12/09	準	山崎歯科医院	S62/3/29甲へ異動
富山市	城野　裕子	日本大学松戸歯学部	S62/01/22	甲		
富山市	荒井　亮雄	大阪歯科大学	S62/01/22	甲		H19/3/11死亡
	恵森　登	岡山大学歯学部	S62/01/22	準	しのぶ歯科医院	S63/11/19甲へ異動・H25/1/4死亡
富山市	大村由美子	日本歯科大学歯学部	S62/02/12	甲		
	岡野　篤夫	日本歯科大学歯学部	S62/02/12	丙	北陸中央病院	S63/7/30退会
富山市	丹羽　敏勝	大阪歯科大学	S62/03/14	甲		
	池田　寿人	大阪歯科大学	S62/03/14	準	富山赤十字病院	H1/4/13甲へ異動
富山市	上田　均	城西歯科大学	S62/03/29	甲		
昭和62年度						14名
	斎藤　進	大阪大学歯学部	S62/04/09	丙	砺波総合病院	S63/5/12甲へ異動
高岡市	浅田　勝久	松本歯科大学	S62/04/21	甲		
	三崎　慎也	日本歯科大学歯学部	S62/04/21	準	三崎歯科医院	S63/10/28甲へ異動
	三原　弘	日本歯科大学新潟歯学部	S62/05/14	準	奥村歯科医院	H1/3/31退会
富山市	本村　浩	松本歯科大学	S62/06/16	甲		

所属郡市歯科医師会	氏　名	出身校等	入会日	種別	勤務先	退会・異動
富山市	上滝　浩	日本大学歯学部	S62/06/16	乙		
黒部市	千代　敬子	岐阜歯科大学	S62/06/16	甲		
黒部市	田中　貢	北海道大学歯学部	S62/06/16	甲		H21/4/21死亡
	鈴木　功	日本歯科大学新潟歯学部	S62/06/16	準	小山歯科医院	S63/7/28甲へ異動・H14/11/18退会
氷見市	新谷　明宏	日本大学歯学部	S62/09/01	甲		
高岡市	立浪　徹	日本歯科大学新潟歯学部	S62/09/10	甲		
下新川郡	平澤　滋康	神奈川歯科大学	S62/10/13	甲		
	香林　正治	大阪大学歯学部	S62/10/13	丙	YKKデンタルクリニック	H8/9/26退会
	中川　清昌	愛知学院大学歯学部	S62/10/25	丙	平村国民健康保険診療所	
昭和63年度						26名
富山市	吉田　泰彦	東京歯科大学	S63/04/14	乙		
富山市	高橋　正志	東京歯科大学	S63/04/14	乙		
下新川郡	竹島　健潤	鶴見大学歯学部	S63/04/14	甲		
黒部市	堀川　淳治	東日本学園大学歯学部	S63/04/14	甲		
氷見市	小山　元秀	神奈川歯科大学	S63/04/14	乙		
	和記　暢子	愛知学院大学歯学部	S63/04/14	準	しろがね小児歯科医院	H2/3/23退会
富山市	城野　利盛	日本大学松戸歯学部	S63/05/12	乙		
	倉田　透	日本歯科大学新潟歯学部	S63/05/12	丙	荒木歯科医院	H1/8/31退会
	松野　成子	東日本学園大学歯学部	S63/05/12	準	石坂歯科医院	H1/3/31退会
	橋本　正博	昭和大学歯学部	S63/05/12	準	ムラヤマ歯科医院	H2/3/22乙へ異動
新湊市	和田　信雄	松本歯科大学	S63/06/09	甲		H17/4/13死亡
富山市	吉田　徹	昭和大学歯学部	S63/06/09	甲		
	池渕　史郎	神奈川歯科大学	S63/06/09	準	藤井歯科医院	H1/4/13甲へ異動
	坊　真奈美	日本歯科大学新潟歯学部	S63/06/09	準	藤井歯科医院	H2/3/22乙へ異動
	荒川　昌子	日本大学松戸歯学部	S63/06/09	準	藤井歯科医院	H3/3/11退会
	松本　全	城西歯科大学	S63/07/28	準	金山歯科クリニック	H2/1/31甲へ異動
	北野千佳子	日本歯科大学新潟歯学部	S63/07/28	準	藤井歯科医院	H1/3/30退会
	細川　史郎	昭和大学歯学部	S63/07/28	丙	砺波総合病院	H2/10/11乙へ異動
	満岡　潤悟	愛知学院大学歯学部	S63/09/08	準	高石歯科医院	H6/2/3甲へ異動
	東野　信昭	日本歯科大学新潟歯学部	S63/09/08	丙	北陸中央病院	H1/9/30退会
	兒玉　幸久	神奈川歯科大学	S63/10/28	準	広瀬歯科医院	H2/3/22乙へ異動
西砺波郡	得能　昭夫	東北大学歯学部	S63/10/28	甲		
高岡市	吉岡　千尋	大阪大学歯学部	H01/01/26	甲		
	八田　央明	日本歯科大学新潟歯学部	H01/01/26	準	伏木歯科診療所	H10/3/1丙へ異動・H14/8/1甲へ異動
	土肥　勝博	東京医科歯科大学歯学部	H01/01/26	準	山崎歯科医院	H2/3/28退会
	多知真理子	日本歯科大学新潟歯学部	H01/02/23	準	木下歯科医院	H6/10/27甲へ異動

所属郡市歯科医師会	氏　名	出身校等	入会日	種別	勤務先	退会・異動
平成元年度						35名
	織田　武吉	朝日大学歯学部	H01/04/13	準	奥村歯科医院	H2/2/22乙へ異動
	釣谷　宗義	松本歯科大学	H01/05/11	準	内田歯科医院	H2/3/22乙へ異動
	桝田　伸二	松本歯科大学	H01/05/11	準	さわもと歯科医院	H2/10/29退会
富山市	杉江　玄嗣	松本歯科大学	H01/07/13	甲		
	濱田由美子	昭和大学歯学部	H01/07/13	準	神通歯科医院	H3/4/1甲へ異動
	深田　貴史	新潟大学歯学部	H01/07/13	準	しのぶ歯科医院	H8/2/29甲へ異動
	牧野　良昭	東日本学園大学歯学部	H01/07/13	準	藤井歯科医院	H8/9/1甲へ異動
	串田　　茂	日本歯科大学新潟歯学部	H01/07/13	準	林歯科医院（戸出）	H3/6/11退会
	岩井　正博	鶴見大学歯学部	H01/07/13	準	五福歯科医院	H2/3/22乙へ異動
	藪田　健作	新潟大学歯学部	H01/07/13	準	しのぶ歯科医院	H5/4/8退会
	澤田　　忠	神奈川歯科大学	H01/07/13	準	山田歯科クリニック	H1/11/24退会
	横林　康男	新潟大学歯学部	H01/09/14	丙	県立中央病院	
	堀　比佐司	愛知学院大学歯学部	H01/09/14	準	石坂歯科医院	H2/2/22乙へ異動
	仲井　雄一	東北歯科大学	H01/09/14	丙	荒木歯科医院	H2/12/13甲へ異動
富山市	古戸　　充	東京歯科大学	H01/09/14	甲		H6/10/16死亡
下新川郡	西島　泰人	日本大学歯学部	H01/09/14	甲		H23/8/30退会
射水郡	片口　宗久	朝日大学歯学部	H01/09/14	甲		
富山市	砂田　　賢	新潟大学歯学部	H01/11/09	甲		
	近藤　帥典	日本歯科大学新潟歯学部	H01/11/09	丙	北陸中央病院	H2/8/9退会
	早川　　徹	日本大学松戸歯学部	H01/11/09	準	城野歯科医院	H5/6/22甲へ異動
	岡宗祐二郎	日本歯科大学新潟歯学部	H01/11/09	準	林歯科医院（井波）	H3/7/11甲へ異動
富山市	原田　修成	日本大学歯学部	H02/01/31	乙		
	池渕　晴美	鶴見大学歯学部	H02/01/31	準	池渕歯科クリニック	H3/3/12退会
	坂本　　積	日本大学歯学部	H02/01/31	丙	厚生連高岡病院	H4/6/11退会
東砺波郡	中尾　一彦	日本歯科大学新潟歯学部	H02/02/22	乙		
	松本　洋美	城西歯科大学	H02/03/22	準	松本歯科医院	
	牛嶋　星地	松本歯科大学	H02/03/22	準	大山歯科	H3/9/1退会
富山市	内田　昌治	松本歯科大学	H02/03/22	乙		
富山市	永森　　司	日本歯科大学歯学部	H02/03/22	乙		
富山市	山田　雅敏	東京歯科大学	H02/03/22	乙		
	大木　淳一	新潟大学歯学部	H02/03/22	丙	富山赤十字病院	H3/9/6甲へ異動
	松野　成子	東日本学園大学歯学部	H02/03/22	準	山崎歯科医院	再入会･H4/9/1甲へ異動
氷見市	桶家　　樹	日本歯科大学新潟歯学部	H02/03/22	甲		
東砺波郡	北川　武史	神奈川歯科大学	H02/03/22	乙		
富山市	片山　克己	岐阜歯科大学	H02/03/30	甲		
平成2年度						11名
	森　　和久	日本歯科大学歯学部	H02/05/16	丙	高岡市民病院	再入会・H4/6/11退会

所属郡市歯科医師会	氏　名	出身校等	入会日	種別	勤務先	退会・異動
	小池　充弘	北海道大学歯学部	H02/06/20	準	しのぶ歯科医院	H10/4/1甲へ異動
	日尾　清史	日本歯科大学新潟歯学部	H02/06/20	準	高岡市民病院	H10/4/1甲へ異動
	清水　禎明	日本歯科大学新潟歯学部	H02/08/09	丙	北陸中央病院	H4/11/12退会
	長治　豊一	朝日大学歯学部	H02/10/11	準	水野歯科医院	H4/3/17甲へ異動
	澤田　敏晴	広島大学歯学部	H02/10/11	丙	砺波総合病院	H3/11/1退会
富山市	小池　　潤	日本歯科大学新潟歯学部	H02/11/22	乙		
	松原　完也	日本歯科大学歯学部	H02/12/13	丙	荒木歯科医院	H7/11/9退会
富山市	杉木　　進	昭和大学歯学部	H03/01/24	甲		
	河内　昭人	松本歯科大学	H03/03/12	丙	陽和温泉病院	H4/5/14退会
	朝倉慎一郎	日本歯科大学歯学部	H03/03/12	丙	黒部温泉病院	H4/6/11退会
平成3年度						10名
氷見市	久津有紀夫	九州歯科大学	H03/06/11	甲		
	梶村　悦朗	東京歯科大学	H03/06/11	丙	中村記念病院	再入会・H6/8/25退会
砺波市	高田　保之	大阪大学歯学部	H03/07/11	甲		
	杉本　裕史	鶴見大学歯学部	H03/10/09	丙	富山赤十字病院	H11/11/1甲へ異動
小矢部市	津田　伸之	神奈川歯科大学	H03/10/09	乙		
富山市	土肥　勝博	東京医科歯科大学歯学部	H03/11/07	甲		再入会
	奥田　泰生	愛知学院大学歯学部	H03/11/07	丙	砺波総合病院	H15/4/10準へ異動・ H17/4/1甲へ異動
高岡市	山本　鉄也	九州歯科大学	H03/11/28	乙		
高岡市	勝山　　豪	広島大学歯学部	H04/02/13	甲		
氷見市	越田　喜規	日本歯科大学歯学部	H04/03/29	甲		
平成4年度						21名
富山市	藤川　　晃	東日本学園大学歯学部	H04/04/09	甲		
	松倉純一郎	松本歯科大学	H04/04/09	準	佐野小児歯科医院	H6/2/3甲へ異動・ H22/3/31退会
高岡市	畑　　直宏	東北歯科大学	H04/05/14	甲		
	湯口　正治	岩手医科大学歯学部	H04/05/14	丙	中村記念病院	H5/1/4退会
	尾崎　守男	日本歯科大学新潟歯学部	H04/06/11	丙	高岡市民病院	H6/5/12退会
	山内　浅則	昭和大学歯学部	H04/06/11	丙	黒部温泉病院	H6/8/25退会
	西村　　悟	日本大学歯学部	H04/06/11	丙	厚生連高岡病院	H5/3/31退会
富山市	松浦　　幹	日本大学歯学部	H04/08/06	乙		
	嶋　　直毅	日本歯科大学新潟歯学部	H04/08/06	準	石川歯科医院	H4/10/19甲へ異動
氷見市	串田　　茂	日本歯科大学新潟歯学部	H04/10/08	甲		再入会
	小林　祐之	北海道大学歯学部	H04/10/19	準	しのぶ歯科医院	H5/4/22乙へ異動
	大野　和人	日本歯科大学新潟歯学部	H04/10/19	準	松岡歯科診療所	H5/12/2甲へ異動
	岡本　英之	明海大学歯学部	H04/11/12	準	山崎歯科医院	H5/8/26甲へ異動
	杉山　貴彦	日本歯科大学新潟歯学部	H04/11/12	丙	北陸中央病院	H6/2/3退会

所属郡市歯科医師会	氏　名	出身校等	入会日	種別	勤務先	退会・異動
魚津市	稲場　敦	大阪歯科大学	H04/11/12	乙		
富山市	内田　昌宏	東京歯科大学	H04/12/08	甲		
中新川郡	牧野　京介	日本歯科大学新潟歯学部	H05/02/10	乙		
中新川郡	佐伯　清秀	日本歯科大学新潟歯学部	H05/02/10	甲		
射水郡	三谷　巌	日本大学松戸歯学部	H05/02/10	甲		
	寺島　龍一	大阪歯科大学	H05/02/10	丙	中村記念病院	H6/5/12退会
東砺波郡	近川　洋	大阪大学歯学部	H05/03/11	甲		H25/1/3死亡
平成5年度						15名
	安田　聡	九州歯科大学	H05/04/08	丙	厚生連高岡病院	H8/10/24退会
高岡市	浦野　一郎	東京歯科大学	H05/05/13	甲		
新湊市	三崎　広樹	新潟大学歯学部	H05/05/13	乙		
高岡市	渡辺　満	九州歯科大学	H05/06/22	甲		
高岡市	金山　元信	日本歯科大学新潟歯学部	H05/06/22	乙		H24/10/30退会
下新川郡	林　譲治	昭和大学歯学部	H05/06/22	甲		
高岡市	烏帽子田敬	明海大学歯学部	H05/08/26	甲		H16/5/24退会
中新川郡	山本　尚靖	日本歯科大学歯学部	H05/09/28	甲		
中新川郡	幾島　貴弘	愛知学院大学歯学部	H05/09/28	甲		
富山市	片岡　弘一	東京医科歯科大学歯学部	H05/10/19	甲		
西砺波郡	成瀬　裕久	鶴見大学歯学部	H05/10/19	乙		H14/10/1退会
富山市	児島三津男	岡山大学歯学部	H05/10/19	甲		
富山市	吉田　隆司	日本歯科大学新潟歯学部	H06/02/03	甲		
	椎名　謙司	日本歯科大学新潟歯学部	H06/02/03	丙	北陸中央病院	H10/7/6甲へ異動
小矢部市	荒井　克洋	九州歯科大学	H06/02/17	甲		
平成6年度						15名
富山市	澤端　喜明	新潟大学歯学部	H06/04/03	甲		
高岡市	山下　洋之	朝日大学歯学部	H06/04/03	乙		
射水郡	中山　圭子	鶴見大学歯学部	H06/04/03	乙		
	杉浦　正	日本歯科大学新潟歯学部	H06/05/12	丙	高岡市民病院	
富山市	稲波　謙良	新潟大学歯学部	H06/05/12	甲		
富山市	三崎千恵子	日本歯科大学歯学部	H06/05/12	甲		
	中川　典孝	鹿児島大学歯学部	H06/05/12	丙	中村記念病院	H11/11/1甲へ異動
富山市	相澤　博	日本大学歯学部	H06/05/12	甲		
新湊市	高畑　保夫	日本歯科大学新潟歯学部	H06/05/12	甲		
富山市	大野　和彦	日本大学歯学部	H06/07/14	甲		
富山市	山崎　一人	日本歯科大学歯学部	H06/07/14	甲		
	山上　邦夫	松本歯科大学	H06/07/14	準	山崎歯科医院	H7/4/13甲へ異動
	戸村　鷹男	日本歯科大学歯学部	H06/08/25	丙	黒部温泉病院	H7/10退会
西砺波郡	高広　直子	日本歯科大学歯学部	H06/10/27	乙		H25/10/20退会

所属郡市歯科医師会	氏　名	出身校等	入会日	種別	勤務先	退会・異動
	河内　昭人	松本歯科大学	H07/02/09	準	奥村歯科医院	再入会･H7/6/22甲へ異動
平成7年度						10名
富山市	吉田　真治	日本歯科大学新潟歯学部	H07/05/11	甲		
新湊市	竹内　千尋	東京医科歯科大学歯学部	H07/05/11	甲		H9/12/31退会
富山市	湯口　正治	岩手医科大学歯学部	H07/06/22	甲		再入会
射水郡	藤　雅治	日本大学歯学部	H07/09/14	甲		H14/5/31退会
富山市	松能　努	神奈川歯科大学	H07/10/09	甲		
高岡市	梶村　悦朗	東京歯科大学	H07/11/09	甲		再入会
氷見市	長谷川泰章	鶴見大学歯学部	H07/11/09	乙		H19/8/31退会
富山市	野中　俊克	奥羽大学歯学部	H07/11/09	甲		H22/7/21退会
	山室　仁幸	松本歯科大学	H07/11/09	丙	荒木歯科医院	H9/4/19甲へ異動
砺波市	石森　幹淑	昭和大学歯学部	H08/02/29	甲		H24/1/31退会
平成8年度						16名
黒部市	前田美智之	新潟大学歯学部	H08/04/11	甲		
黒部市	清田　築	東京歯科大学	H08/04/11	甲		
下新川郡	島田　正史	昭和大学歯学部	H08/04/11	甲		
富山市	横田　聡	日本大学歯学部	H08/05/09	甲		
射水郡	奥村　俊晴	朝日大学歯学部	H08/05/09	甲		
富山市	朝倉慎一郎	日本歯科大学新潟歯学部	H08/06/27	甲		再入会
高岡市	原田　昭博	東京医科歯科大学歯学部	H08/06/27	甲		H20/10/22死亡
富山市	林　恒人	松本歯科大学	H08/07/25	甲		
	小竹　彌	神奈川歯科大学	H08/08/22	丙	氷見市民病院	H15/5/8甲へ異動
	澤井　睦	東京医科歯科大学歯学部	H08/08/22	準	広瀬歯科医院	H10/4/1甲へ異動
高岡市	山内　浅則	昭和大学歯学部	H08/09/26	甲		再入会
下新川郡	大菅　明	東北歯科大学	H08/09/26	甲		
	出村　昇	岐阜歯科大学	H08/09/26	丙	YKKデンタルクリニック	H11/8/31退会
	河内　康	松本歯科大学	H08/09/26	準	奥村歯科医院	H15/7/24甲へ異動
	阿部　一雄	日本歯科大学新潟歯学部	H08/10/24	丙	厚生連高岡病院	H15/3/31退会
魚津市	三田村　聡	朝日大学歯学部	H09/01/23	甲		
平成9年度						18名
	澤越　豊	新潟大学歯学部	H09/04/21	丙	荒木歯科医院	H10/2/26退会
富山市	黒川　拓治	大阪歯科大学	H09/05/08	甲		
富山市	奥野　雅典	朝日大学歯学部	H09/05/08	甲		H19/12/7退会
高岡市	川中　健一	岡山大学歯学部	H09/05/08	甲		
魚津市	奥川　博司	東北大学歯学部	H09/05/08	乙		
中新川郡	荒井　晴彦	明海大学歯学部	H09/05/29	甲		
	三鍋　昌人	日本歯科大学新潟歯学部	H09/06/12	準	しのぶ歯科医院	H14/5/1甲へ異動
富山市	前寺　一紀	明海大学歯学部	H09/08/21	甲		

所属郡市歯科医師会	氏　名	出身校等	入会日	種別	勤務先	退会・異動
高岡市	米森　誠	長崎大学歯学部	H09/08/21	甲		
高岡市	藪田　健作	新潟大学歯学部	H09/08/21	甲		再入会
黒部市	女川　瑞夫	東京歯科大学	H09/10/09	乙		
富山市	上滝　俊彦	日本歯科大学新潟歯学部	H09/11/13	甲		
	中沖　一人	北海道大学歯学部	H09/11/13	準	吉田歯科分院	H11/1/1甲へ異動
	和田　三茂	福岡歯科大学	H09/11/13	準	林歯科医院（井波）	H11/4/14甲へ異動
	佐藤　英樹	九州歯科大学	H09/11/13	準	あらい歯科クリニック	H10/2/1甲へ異動
富山市	鈴木　久美	日本大学歯学部	H10/01/29	甲		
東砺波郡	林　裕子	日本歯科大学歯学部	H10/01/29	乙		
高岡市	宮田　秀昭	松本歯科大学	H10/02/26	甲		
平成10年度						19名
富山市	水野　二郎	昭和大学歯学部	H10/04/09	甲		
富山市	北野千佳子	日本歯科大学新潟歯学部	H10/04/09	甲		再入会・H24/9/30退会
富山市	長曽　善彦	鶴見大学歯学部	H10/04/09	甲		
富山市	齋藤　彰	新潟大学歯学部	H10/04/09	甲		
	佐渡　忠司	東京医科歯科大学歯学部	H10/04/09	丙	黒部市民病院	H12/10/1甲へ異動
婦負郡	飴谷　孝之	鶴見大学歯学部	H10/04/09	甲		
高岡市	佐伯　亮太	昭和大学歯学部	H10/04/09	甲		
	茶谷　修平	朝日大学歯学部	H10/04/09	丙	新湊市民病院	H15/7/24甲へ異動
滑川市	安田　有時	九州歯科大学	H10/04/09	甲		
富山市	魚津　公美	大阪歯科大学	H10/06/30	甲		
	小澤　一嘉	日本歯科大学新潟歯学部	H10/06/30	丙	北陸中央病院	H11/4/19退会
富山市	直江智恵子	日本歯科大学新潟歯学部	H10/08/27	甲		
下新川郡	佐藤　友保	朝日大学歯学部	H10/08/27	甲		
氷見市	川上　清志	東北大学歯学部	H10/09/24	甲		
小矢部市	清水　盛弘	鹿児島大学歯学部	H10/09/24	甲		
富山市	中沼　邦欣	日本大学松戸歯学部	H10/10/22	甲		
黒部市	朝日　丈晴	新潟大学歯学部	H11/01/28	甲		
	谷口　時博	東日本学園大学歯学部	H11/01/28	準	谷口歯科医院	H11/10/1乙へ異動
富山市	江尻　弘茂	鶴見大学歯学部	H11/02/25	甲		
平成11年度						16名
富山市	安村　公成	愛知学院大学歯学部	H11/04/22	甲		
富山市	山岸　聡史	大阪歯科大学	H11/04/22	乙		
	宮田　就弘	日本歯科大学歯学部	H11/04/22	準	宮田歯科医院	H14/12/1乙へ異動
富山市	吉田　義弘	神奈川歯科大学	H11/05/13	甲		
砺波市	田守　徳樹	九州歯科大学	H11/06/24	甲		
	小林英三郎	日本歯科大学新潟歯学部	H11/08/26	丙	北陸中央病院	H12/7/31退会
	曽山　善之	新潟大学歯学部	H11/09/22	丙	YKKデンタルクリニック	

所属郡市歯科医師会	氏　名	出身校等	入会日	種別	勤務先	退会・異動
高岡市	加須屋　聡	日本歯科大学新潟歯学部	H11/10/28	甲		
滑川市	辻　　貴史	奥羽大学歯学部	H11/10/28	甲		
黒部市	島田　　実	日本歯科大学新潟歯学部	H11/10/28	甲		
	竹口　英人	東北大学歯学部	H11/10/28	丙	中村記念病院	H18/3/31退会
	小杉　弘美	新潟大学歯学部	H11/11/25	丙	富山赤十字病院	H17/3/31退会
高岡市	北村　　悟	明海大学歯学部	H12/02/24	甲		
滑川市	野吾　昌宏	新潟大学歯学部	H12/02/24	甲		
魚津市	美濃千嘉子	愛知学院大学歯学部	H12/02/24	甲		
小矢部市	五郎丸知明	東京医科歯科大学歯学部	H12/02/24	甲		
平成12年度						12名
高岡市	松田　　敬	日本歯科大学新潟歯学部	H12/04/06	乙		
	井城　香織	昭和大学歯学部	H12/05/11	準	八尾総合病院	H16/2/26丙へ異動
	長澤　泉子	日本大学松戸歯学部	H12/05/11	準	加藤歯科医院	
富山市	日出嶋康博	東北大学歯学部	H12/08/10	甲		
砺波市	澤越　　豊	新潟大学歯学部	H12/08/10	甲		再入会
富山市	谷井　賀一	明海大学歯学部	H12/10/12	甲		
婦負郡	片岡　源司	大阪歯科大学	H12/10/12	甲		
	小根山隆浩	日本歯科大学新潟歯学部	H12/10/12	丙	北陸中央病院	H14/3/31退会
射水郡	山田　理生	昭和大学歯学部	H12/11/24	甲		
富山市	小澤真理子	新潟大学歯学部	H12/12/22	甲		
	稲田　雅一	岡山大学歯学部	H13/03/29	丙	真生会富山病院	
射水郡	高波　信彦	松本歯科大学	H13/03/29	甲		
平成13年度						14名
富山市	山森　喜子	日本大学歯学部	H13/04/12	甲		
高岡市	髙木　雅代	日本歯科大学新潟歯学部	H13/04/12	甲		
高岡市	近川美喜子	大阪大学歯学部	H13/06/28	甲		
魚津市	関　　康弘	新潟大学歯学部	H13/06/28	甲		
黒部市	荻野　新也	日本歯科大学新潟歯学部	H13/08/09	甲		
砺波市	安念　博利	城西歯科大学	H13/08/09	甲		再入会
	菅野　　宏	新潟大学歯学部	H13/08/09	準	菅野歯科医院	H14/1/8甲へ異動
高岡市	金山　普拡	日本大学歯学部	H13/09/27	乙		
射水郡	帯刀　弘幸	日本歯科大学歯学部	H13/09/27	甲		
富山市	上田　和孝	日本歯科大学歯学部	H13/10/25	甲		
富山市	廣野　善丈	徳島大学歯学部	H13/10/25	甲		
高岡市	釣谷　英史	松本歯科大学	H14/01/24	乙		H16/1/22退会
	勝木　完司	松本歯科大学	H14/01/24	準	佐野小児歯科医院	H15/3/14死亡
高岡市	近藤　久紀	北海道大学歯学部	H14/02/28	甲		

所属郡市歯科医師会	氏　名	出身校等	入会日	種別	勤務先	退会・異動
平成14年度						11名
	渡邉　良人	岡山大学歯学部	H14/04/25	丙	荒木歯科医院	H18/3/31退会
富山市	宮本　将利	神奈川歯科大学	H14/04/25	甲		
婦負郡	羽岡　克規	東北大学歯学部	H14/05/09	甲		
射水郡	山崎　史晃	九州歯科大学	H14/05/09	甲		
	早津　良和	東京歯科大学	H14/08/22	丙	富山赤十字病院	
富山市	中田　　眞	九州歯科大学	H14/08/22	甲		
富山市	澤本　正悟	昭和大学歯学部	H14/08/22	甲		
	伊藤　秀俊	日本歯科大学新潟歯学部	H14/08/22	丙	北陸中央病院	H15/3/31退会
	松井　俊明	北海道大学歯学部	H14/10/24	丙	氷見市民病院	
下新川郡	弥忠田　大	奥羽大学歯学部	H14/10/24	甲		
富山市	島　　博史	東京歯科大学	H15/01/23	乙		
平成15年度						17名
	由良　晋也	北海道大学歯学部	H15/04/10	丙	砺波総合病院	
	宮本　　謙	愛知学院大学歯学部	H15/04/10	丙	厚生連高岡病院	H16/3/31退会
	辻内　実英	日本歯科大学新潟歯学部	H15/04/10	丙	北陸中央病院	H17/3/31退会
魚津市	寺崎　麻里	鶴見大学歯学部	H15/04/10	乙		
氷見市	加藤　葉月	日本大学歯学部	H15/04/10	乙		
黒部市	梅川　哲也	鶴見大学歯学部	H15/05/08	乙		
	寺島　龍一	大阪歯科大学	H15/06/12	丙	富山市民病院	再入会
	宮田　雅代	日本歯科大学歯学部	H15/06/12	準	いわせの歯科医院	H18/1/12乙へ異動
魚津市	奥川　裕司	東京歯科大学	H15/06/12	乙		
魚津市	坪井　孝博	愛知学院大学歯学部	H15/06/12	乙		
砺波市	藤岡祐紀乃	明海大学歯学部	H15/06/12	甲		
	高桜　大輔	東京歯科大学	H15/07/24	丙	新湊市民病院	
婦負郡	塚田　正資	日本歯科大学新潟歯学部	H15/07/24	甲		
高岡市	石多　謙一	日本歯科大学新潟歯学部	H15/07/24	甲		
富山市	小島　一紀	北海道大学歯学部	H16/01/29	甲		
射水郡	立浪　康晴	東北大学歯学部	H16/01/29	乙		
東砺波郡	小坂井　満	日本歯科大学歯学部	H16/01/29	乙		
平成16年度						17名
	阿部　一雄	日本歯科大学新潟歯学部	H16/04/01	丙	厚生連高岡病院	再入会･H24/3/31退会
	安田　由美	日本歯科大学新潟歯学部	H16/04/08	準	安田歯科医院	
富山市	井波　和孝	東北大学歯学部	H16/04/08	甲		
高岡市	中川　　昇	神奈川歯科大学	H16/04/08	甲		
下新川郡	小杉　　斉	日本歯科大学新潟歯学部	H16/04/08	乙		
射水郡	渡辺　光生	奥羽大学歯学部	H16/06/10	甲		
新湊市	夏目もえこ	昭和大学歯学部	H16/06/10	乙		

所属郡市歯科医師会	氏　名	出身校等	入会日	種別	勤務先	退会・異動
中新川郡	北口　力也	九州大学歯学部	H16/06/10	甲		H16/11/20死亡
高岡市	木島　香奈	日本歯科大学歯学部	H16/07/22	甲		
富山市	菅田　吉昭	日本歯科大学新潟歯学部	H16/09/09	乙		
婦負郡	石川　　亨	朝日大学歯学部	H16/09/09	甲		
高岡市	長久　由起	日本歯科大学新潟歯学部	H16/09/09	乙		
富山市	黒木　正孝	日本歯科大学歯学部	H16/11/25	甲		
西砺波郡	松田　　源	東北大学歯学部	H16/11/25	甲		
富山市	澤田　敏晴	広島大学歯学部	H17/02/08	甲		再入会
射水郡	高田　恒弘	岩手医科大学歯学部	H17/02/08	甲		
西砺波郡	長澤　勝将	日本歯科大学新潟歯学部	H17/03/24	甲		
平成17年度						11名
	小黒　英紀	日本歯科大学新潟歯学部	H17/04/01	丙	北陸中央病院	H19/3/31退会
高岡市	福井　功政	東北大学歯学部	H17/04/14	乙		
中新川郡	前川　達哉	徳島大学歯学部	H17/04/14	甲		
	高桜　武史	愛知学院大学歯学部	H17/04/28	丙	黒部市民病院	
富山市	家城　信良	東日本学園大学歯学部	H17/06/23	乙		
富山市	山田　美和	日本歯科大学新潟歯学部	H17/08/24	甲		
	夏目　明恒	昭和大学歯学部	H17/09/08	準	山田歯科医院	
高岡市	金山　由直	東京歯科大学	H17/09/08	乙		
中新川郡	茂住　岳司	愛知学院大学歯学部	H17/09/08	甲		
射水郡	岩井　健治	松本歯科大学	H17/10/27	乙		
富山市	岡崎　考亮	日本歯科大学新潟歯学部	H18/03/09	甲		
平成18年度						5名
	小林　　剛	朝日大学歯学部	H18/04/01	丙	荒木歯科医院	H19/3/31退会
富山市	鈴木　　寧	愛知学院大学歯学部	H18/04/27	乙		
富山市	山岸美智子	日本歯科大学新潟歯学部	H18/04/27	甲		
滑川市	荒川　昌子	日本大学松戸歯学部	H18/07/04	甲		再入会
黒部市	小倉　義孝	日本大学松戸歯学部	H18/11/09	乙		
平成19年度						8名
	美宅いずみ	九州歯科大学	H19/04/01	丙	荒木歯科医院	H20/7/31退会
	小野　　徹	日本歯科大学新潟歯学部	H19/04/01	丙	北陸中央病院	H20/3/31退会
富山市	谷口　伸剛	日本歯科大学新潟歯学部	H19/04/26	甲		
高岡市	川渕　貴司	松本歯科大学	H19/04/26	乙		
高岡市	飛見　立高	愛知学院大学歯学部	H19/05/10	甲		
氷見市	竹口　英人	東北大学歯学部	H19/07/26	甲		再入会
富山市	福田　　敬	日本歯科大学新潟歯学部	H19/09/27	甲		
南砺市	齋藤　繁徳	朝日大学歯学部	H19/09/27	甲		

所属郡市歯科医師会	氏　名	出身校等	入会日	種別	勤務先	退会・異動
平成20年度						11名
富山市	饗場　広和	新潟大学歯学部	H20/04/10	甲		
富山市	岡崎　泰尋	日本大学歯学部	H20/04/10	乙		
中新川郡	佐渡　知宏	日本歯科大学新潟歯学部	H20/04/10	甲		
魚津市	小熊　淳史	奥羽大学歯学部	H20/04/10	乙		
富山市	小林　岳志	大阪歯科大学	H20/06/26	乙		
	松尾　治茂	日本大学歯学部	H20/06/26	丙	神田歯科医院	H22/3/31退会
富山市	竹本慶一郎	日本歯科大学新潟歯学部	H20/09/18	甲		
富山市	栗山　智有	東京歯科大学	H20/09/18	乙		
黒部市	佐々木英富	神奈川歯科大学	H20/09/18	乙		
	藤岡　陽介	明海大学歯学部	H20/11/13	準	藤の丘歯科医院	
富山市	髙田　　晋	昭和大学歯学部	H20/11/13	甲		
平成21年度						9名
	長澤　貴子	日本歯科大学新潟歯学部	H21/05/14	丙	北陸中央病院	
富山市	野上　喜史	鶴見大学歯学部	H21/05/14	甲		
富山市	青木富実子	日本大学歯学部	H21/05/14	甲		
魚津市	羽田　宜弘	岩手医科大学歯学部	H21/08/27	甲		
高岡市	島田　芳紀	日本歯科大学新潟歯学部	H21/11/26	乙		
富山市	岡田　信昭	長崎大学歯学部	H22/01/28	甲		
射水市	山岸　敏男	明海大学歯学部	H22/01/28	甲		
滑川市	金山　光宏	東京医科歯科大学歯学部	H22/02/18	甲		
南砺市	成瀬　裕久	鶴見大学歯学部	H22/02/18	乙		再入会
平成22年度						10名
	小田原謙介	神奈川歯科大学	H22/04/08	丙	神田歯科医院	H24/8/1退会
富山市	藤田洋一郎	日本歯科大学新潟歯学部	H22/04/08	甲		
魚津市	米山　耕司	日本歯科大学新潟歯学部	H22/04/08	甲		
富山市	萩中　仁徳	松本歯科大学	H22/08/19	甲		
高岡市	藤井　達郎	日本歯科大学新潟歯学部	H22/08/19	乙		
滑川市	竹島健太郎	鶴見大学歯学部	H22/08/19	甲		
魚津市	稲垣恭仁子	日本歯科大学新潟歯学部	H22/10/14	甲		
下新川郡	近藤　隆行	松本歯科大学	H22/11/25	乙		
南砺市	石﨑　善司	鶴見大学歯学部	H23/02/10	甲		
	山嶋　敦盛	日本歯科大学新潟歯学部	H23/03/08	丙	吉崎歯科医院	
平成23年度						9名
高岡市	篠原　昭智	日本歯科大学新潟歯学部	H23/04/28	乙		
高岡市	宇和山　猛	松本歯科大学	H23/04/28	乙		
射水市	伊藤　　聡	朝日大学歯学部	H23/04/28	甲		
富山市	山田　秀樹	新潟大学歯学部	H23/06/09	乙		

所属郡市歯科医師会	氏　名	出身校等	入会日	種別	勤務先	退会・異動
富山市	吉田　尚史	鶴見大学歯学部	H23/06/23	乙		
高岡市	釣谷　英史	松本歯科大学	H23/09/22	乙		再入会
富山市	小林　健剛	九州歯科大学	H23/10/27	甲		
富山市	永森　太一	日本歯科大学新潟歯学部	H23/10/27	甲		
富山市	中島　光夫	神奈川歯科大学	H23/11/24	甲		

一般社団法人移行に伴い、平成24年４月１日から定款施行規則を変更し、以下のように本会会員種別を正会員第１種・第２種・準会員第３種・第４種として区別することとした。

第２条　定款第５条第１項に規定する本会の会員種別は就業形態等により次のとおりとする。
⑴正会員　第１種　病院及び診療所を開設する歯科医師
　　第２種　第１種会員の病院及び診療所に就業する歯科医師又は県内に住所を有する歯科医師
⑵準会員　第３種　第１種会員以外の病院及び診療所を代表する歯科医師
　　第４種　第１種会員及び第３種会員の病院及び診療所に勤務する歯科医師

所属郡市歯科医師会	氏　名	出身校等	入会日	種別	勤務先	退会・異動
平成24年度						9名
	今村　知代	日本歯科大学歯学部	H24/04/12	準４	今村歯科医院	
富山市	本多　寛行	東京医科歯科大学歯学部	H24/04/12	正１		
	中谷　弘光	北海道医療大学歯学部	H24/06/14	準３	城南デンタルクリニック	
黒部市	平井　　要	東京歯科大学	H24/06/14	正２		
高岡市	松岡　正浩	日本歯科大学新潟歯学部	H24/07/26	正２		
	向澤　　舞	明海大学歯学部	H24/09/20	準３	神田歯科医院	
高岡市	吉江　正隆	神奈川歯科大学	H24/10/11	正１		
	山下　知巳	北海道大学歯学部	H24/11/08	準３	厚生連高岡病院	
魚津市	髙島　浩二	新潟大学歯学部	H25/01/24	正１		
平成25年度						5名
富山市	寺嶌　伸佳	松本歯科大学	H25/07/11	正１		
富山市	坂東　三史	岩手医科大学歯学部	H25/07/11	正１		
魚津市	山崎　聖也	岡山大学歯学部	H25/10/10	正２		
富山市	鍛冶　昌孝	新潟大学歯学部	H25/11/13	正１		
富山市	水野　貴之	東京歯科大学	H25/11/14	正２		

叙勲受章者・表彰受賞者（年度別）

昭和27年度

健康保険法施行25周年･厚生年金10周年記念厚生大臣表彰

浦野與四郎

昭和28年度

文部大臣表彰

今村　彦治

富山県教育功労表彰

今村　彦治

昭和32年度

紺綬褒章

米沢　真一

健康保険法施行30周年記念厚生大臣表彰

栗山　実純

富山県教育功労表彰

坪田　忠一

昭和33年度

国民健康保険法施行20周年記念厚生大臣表彰

永森　　収

文部大臣表彰

坪田　忠一

国民健康保険法施行20周年記念富山県知事表彰

蓮本庄太郎　　島田余三男

国民健康保険法施行20周年記念中央会長表彰

川口　義門

昭和34年度

富山県教育功労表彰

山下　長藏

昭和36年度

富山県教育功労表彰

牧野　　昶

昭和37年度

国民皆保険達成記念厚生大臣表彰

大道　憲治

富山県教育功労表彰

菅田　晴山

昭和38年度

富山県教育功労表彰

平井　茂光

昭和39年度

富山県教育功労表彰

和記　憲一

昭和40年度

文部大臣表彰

山下　長藏

富山県教育功労表彰

島田余三男

昭和41年度

富山県教育功労表彰

石崎　憲吾

昭和42年度

文部大臣表彰

菅田　晴山

富山県教育功労表彰

新谷　寿康

昭和43年度

富山県功労表彰

坪田　忠一

富山県教育功労表彰

長谷川徳光

昭和44年度

勲五等瑞宝章

倉田敬二郎

従六位勲五等瑞宝章

大道　憲治

富山県教育功労表彰

佐渡　永貞

昭和45年度

富山県教育功労表彰

川口　義門

昭和46年度

文部大臣表彰

平井　茂光

昭和47年度

勲五等双光旭日章

浦野與四郎　　坪田　忠一

昭和48年度

文部大臣表彰

新谷　寿康

富山県功労表彰

石崎　憲吾

富山県教育功労表彰

小高　啓三

昭和49年度

勲五等双光旭日章

永森　　収

文部大臣表彰

島田余三男

富山県功労表彰

今村　彦治

富山県教育功労表彰

沖田　弘正

昭和50年度

勲五等瑞宝章

石崎　憲吾

富山県功労表彰

新谷　寿康

富山県教育功労表彰

宮岡宇平次

昭和51年度

勲五等双光旭日章

今村　彦治

富山県功労表彰

阿部　清一

富山県教育功労表彰

赤祖父三郎

昭和52年度

文部大臣表彰

川口　義門

富山県教育功労表彰

青木　勝二

昭和53年度

勲五等双光旭日章

新谷　寿康

厚生大臣表彰

島田　栄吉

文部大臣表彰

沖田　弘正

富山県教育功労表彰

小倉　直義

昭和54年度

勲五等双光旭日章

川口　義門　　赤祖父三郎

富山県教育功労表彰

黒木　正直

昭和55年度

勲五等双光旭日章

菅田　晴山

富山県知事表彰

小倉　直義

富山県教育功労表彰

島田　栄吉

昭和56年度

勲五等瑞宝章

青木　勝二

勲五等双光旭日章

阿部　清一

富山県功労表彰

小倉　直義

富山県知事表彰（教育功労）

島田　栄吉

富山県教育功労表彰

熊木　甚朔

昭和57年度

勲五等瑞宝章

島田余三男

文部大臣表彰

佐渡　永貞

富山県教育功労表彰

中島　清則

日本学校歯科医会会長表彰

島田余三男　　佐渡　永貞

昭和58年度

勲六等単光旭日章

小倉　直義

勲五等瑞宝章

小高　啓三

富山県功労表彰

中島　清則　　藤井　　弘

富山県教育功労表彰

三崎　正春

日本学校歯科医会会長表彰

小高　啓三

昭和59年度

勲五等双光旭日章

島田　栄吉

富山県教育功労表彰

林　　弘

日本学校歯科医会会長表彰

島田　栄吉

昭和60年度

文部大臣表彰

中島　清則

富山県知事表彰（厚生功労）

坊　　明男

富山県教育功労表彰

倉田　　卓

日本学校歯科医会会長表彰

中島　清則

昭和61年度

藍綬褒章

藤井　　弘

勲五等瑞宝章

林　　弘

文部大臣表彰

関　　信一　　分田　文子

富山県功労表彰

黒木　正直

富山県知事表彰（厚生功労）

山崎　安隆

富山県教育功労表彰

島　　秀雄

昭和62年度

勲五等瑞宝章

沖田　弘正

厚生大臣表彰（健康保険法施行60周年）

水野　公之

富山県知事表彰（厚生功労）

吉田　　茂

富山県教育功労表彰

深山　正之

昭和63年度

勲五等瑞宝章

佐渡　永貞

厚生大臣表彰

酒井　信義

文部大臣表彰

熊木　甚朔

富山県知事表彰（厚生功労）

中島　忠一

富山県教育功労表彰

山崎　安隆

日本学校歯科医会会長表彰

佐渡　永貞　　熊木　甚朔

平成元年度

厚生大臣表彰（歯科保健事業功労）

坊　　明男

厚生大臣表彰

山崎　安隆　　中島　忠一

文部大臣表彰

黒木　正直

富山県功労表彰

倉田　　卓

富山県知事表彰（厚生功労）

今村　勝彦

富山県教育功労表彰

米沢　真一　　中島　忠一

日本歯科医師会会長表彰

松島　正康　　芳尾　弘史

日本学校歯科医会会長表彰

黒木　正直

平成2年度

厚生大臣表彰（歯科保健事業功労）

今村　勝彦

厚生大臣表彰（国民健康保険功労）

郷倉　信一

文部大臣表彰

島　　秀雄

富山県知事表彰（厚生功労）

佐渡　哲雄

富山県知事表彰（厚生功労国保）

郷倉　　満

富山県教育功労表彰

寺島　祐輔

日本学校歯科医会会長表彰

島　　秀雄

平成3年度

勲五等瑞宝章

熊木　甚朔

厚生大臣表彰（歯科保健事業功労）

吉田　　茂

厚生大臣表彰

田上　　修

文部大臣表彰

（学校歯科医制度60周年・日学歯設立20周年記念）

田中　直次　　深山　正之　　吉田　　茂

富山県知事表彰（厚生功労）

山本　壮一

富山県教育功労表彰

山口　清衣

日本学校歯科医会会長表彰

（学校歯科医制度60周年・日学歯設立20周年記念）

板橋　　修　　大道　勇二　　河原　信隆

木下　友栄　　木下　庄作　　越野培名男

小杉　元治　　小橋　長造　　小山　辰二

近藤　秀雄　　酒井　信義　　島田　正三

菅洞　栄蔵　　関　　信一　　竹林　正俊

茶山　信吉　　水野　誓夫　　山崎　安隆

芳尾　弘史　　吉沢　　進　　魚津　竹男

奥平ユキエ　　高田　澄子　　高広　勇次

平成4年度

勲五等双光旭日章

山崎　安隆

富山県功労表彰

島　　秀雄

富山県知事表彰（厚生功労）

石川　静郎

富山県教育功労表彰

永森　尚之

日本歯科医師会有功章

藤井　　弘

日本学校歯科医会会長表彰

青木　康三　　小森　甚作　　島　　信行

仲村　　博　　三島　三郎

平成5年度

勲五等瑞宝章

黒木　正直　　田中　直次

厚生大臣表彰（歯科保健事業功労）

佐渡　哲雄

文部大臣表彰

米沢　真一

富山県知事表彰（厚生功労）

水野　誓夫

富山県教育功労表彰

立野　泰三

日本学校歯科医会会長表彰

山下　銀七

平成6年度

勲五等瑞宝章

吉田　　茂

文部大臣表彰

山口　清衣

富山県知事表彰（厚生功労）

奥川　澄夫

富山県教育功労表彰

高田寅四郎

平成7年度

藍綬褒章

坊　　明男

勲五等瑞宝章

板橋　　修

文部大臣表彰

寺島　祐輔

富山県功労表彰

山口　清衣

富山県知事表彰（厚生功労）

上田　　昌

富山県知事表彰（厚生功労国保）

小泉　隆英　　高田　澄子

富山県教育功労表彰

成瀬　達雄

平成8年度

勲五等瑞宝章

小杉　元治

厚生大臣表彰（歯科保健事業功労）

奥川　澄夫

文部大臣表彰

河原　信隆　　島田　正三

富山県知事表彰（厚生功労）

桜木　正昭

富山県教育功労表彰

金森　安信

平成9年度

勲五等瑞宝章

中島　忠一

富山県功労表彰

成瀬　達雄

富山県知事表彰（厚生功労）

水橋　哲夫

富山県教育功労表彰

松原清一郎

日本学校歯科医会会長表彰

柚木　一夫　　上田　　昌　　上滝　元彦

渡辺　綱男

平成10年度

厚生大臣表彰（歯科保健事業功労）

桜木　正昭

文部大臣表彰

成瀬　達雄

富山県知事表彰（厚生功労）

平井　和輝

富山県教育功労表彰

水橋　哲夫

日本歯科医師会有功章

坊　　明男

平成11年度

勲四等旭日小綬章

藤井　　弘

勲五等瑞宝章

高田寅四郎　　河原　信隆

厚生大臣表彰（歯科保健事業功労）

水橋　哲夫

富山県功労表彰

三崎　正春

富山県知事表彰（厚生功労）

栗山　豊実

富山県教育功労表彰

石川　哲夫

日本学校歯科医会会長表彰

坪田　忠近　　松浦　　實

平成12年度

厚生大臣表彰（歯科保健事業功労）

平井　和輝

文部大臣表彰

金森　安信

富山県知事表彰（厚生功労）

宮田　靖雄

富山県教育功労表彰

栗山　豊実

日本学校歯科医会会長表彰

女川　　清　　水橋　哲夫

平成13年度

※平成13年度より厚生大臣は厚生労働大臣、文部大臣は文部科学大臣に名称変更となる。

藍綬褒章

栗山　豊実

勲五等双光旭日章

今村　勝彦

文部科学大臣表彰

水野　誓夫　　吉沢　　進

富山県知事表彰（厚生功労）

林　　俊郎

富山県教育功労表彰

中尾　　修

日本学校歯科医会会長表彰

篠川　之靖　　三崎　正春

平成14年度

厚生労働大臣表彰（歯科保健事業功労）

宮田　靖雄

文部科学大臣表彰

松原清一郎

富山県知事表彰（厚生功労）

北山善之進

富山県教育功労表彰

家城　佳夫

日本歯科医師会会長表彰

上田　　昌

平成15年度

厚生労働大臣表彰（歯科保健事業功労）

林　　俊郎

厚生労働大臣表彰

小泉　隆英

富山県功労表彰

寺島　祐輔

富山県知事表彰（厚生功労）

山岸　敏治

富山県教育功労表彰

女川　　清

日本学校歯科医会会長表彰

佐渡　哲雄　　新谷　政彦

平成16年度

厚生労働大臣表彰（歯科保健事業功労）

北山善之進

文部科学大臣表彰

中尾　　修

富山県知事表彰（厚生功労）

釣谷　東民

富山県知事表彰（厚生功労国保）

川口　義治

富山県教育功労表彰

松浦　　實

日本歯科医師会会長表彰

小杉与三雄

日本学校歯科医会会長表彰

川口　義治　　松原　明男　　吉見　武志

平成17年度

厚生労働大臣表彰（歯科保健事業功労）

山岸　敏治

富山県功労表彰

松原清一郎

富山県知事表彰（厚生功労）

家城　佳夫

富山県知事表彰（厚生功労国保）

村井　幸嗣

富山県教育功労表彰

福井　　洋

日本歯科医師会有功章

今村　勝彦

日本歯科医師会会長表彰

逸見　　玲

日本学校歯科医会会長表彰

平出　町男　　萬谷　敏紀　　棚田　昌俊

林　　勉　　坂下　賢孝

平成18年度

厚生労働大臣表彰（歯科保健事業功労）

釣谷　東民

文部科学大臣表彰(全国学校歯科保健研究大会第70回記念)

青木　康三

文部科学大臣表彰

家城　佳夫

富山県知事表彰（厚生功労）

山田　正昭

富山県知事表彰（厚生功労国保）

林　　直樹

富山県教育功労表彰

阿部　輝夫

日本歯科医師会会長表彰

内田　安博

平成19年度

厚生労働大臣表彰（歯科保健事業功労）

山田　正昭

富山県知事表彰（厚生功労）

小倉　孝夫

富山県教育功労表彰

水橋　景之

日本歯科医師会有功章

宮田　靖雄

日本歯科医師会会長表彰

浦野　　潤

日本学校歯科医会会長表彰

夏目　恭佐　　永森　靖夫

平成20年度

厚生労働大臣表彰（歯科保健事業功労）

小倉　孝夫

厚生労働大臣表彰（国民健康保険関係功績者）

村井　幸嗣

文部科学大臣表彰

福井　　洋

富山県知事表彰（厚生功労）

杉本　友夫

富山県教育功労表彰

黒川勇次郎

日本歯科医師会有功章

栗山　豊実

日本歯科医師会会長表彰

篠川　之靖

日本学校歯科医会会長表彰

松田　倫雄

平成21年度

旭日小綬章

栗山　豊実

旭日双光章

坊　　明男

厚生労働大臣表彰（歯科保健事業功労）

杉本　友夫

厚生労働大臣表彰（国民健康保険関係功績者）

林　　直樹

厚生労働大臣表彰(社会保険診療報酬支払基金関係功績者)

家城　佳夫

富山県功労表彰

水橋　景之

富山県知事表彰（厚生功労）

山崎　宣夫

富山県知事表彰（厚生功労国保）

山本　　茂

富山県教育功労表彰

安達　　昭

日本歯科医師会会長表彰

石崎　　護

日本学校歯科医会会長表彰

菅野　勝紀

平成22年度

厚生労働大臣表彰（歯科保健事業功労）

山崎　宣夫

文部科学大臣表彰

阿部　輝夫

富山県知事表彰（厚生功労）

小林　憲夫

富山県教育功労表彰

菅野　勝紀

日本歯科医師会会長表彰

新谷　政彦

日本学校歯科医会会長表彰

大浦　重光

平成23年度

厚生労働大臣表彰（歯科保健事業功労）

小林　憲夫

文部科学大臣表彰

安達　　昭

文部科学大臣表彰（日学歯設立40周年記念）

篠川　之靖　　林　　勉

富山県知事表彰（厚生功労）

高畠　　隆

富山県教育功労表彰

立浪　次夫

日本歯科医師会会長表彰

長谷川富久

日本学校歯科医会会長表彰

河村　　允

平成24年度

厚生労働大臣表彰（歯科保健事業功労）

高畠　　隆

厚生労働大臣表彰(社会保険診療報酬支払基金関係功績者)

横林　康男

富山県知事表彰（厚生功労）

岩﨑　弘治

富山県教育功労表彰

青木　一登

日本歯科医師会会長表彰

島田　正豊

日本学校歯科医会会長表彰

小熊　清史

平成25年度

旭日双光章

櫻木　正昭

厚生労働大臣表彰（歯科保健事業功労）

岩﨑　弘治

文部科学大臣表彰

立浪　次夫

富山県功労表彰

吉田　季彦　　黒川勇次郎

富山県知事表彰（厚生功労）

山﨑　安仁　　木村　純一　　熊木　　彰

平木　光昭

富山県教育功労表彰

安田　　篤

日本歯科医師会会長表彰

佐伯　正清

特別表彰受賞者

日本歯科医師会特別表彰

日本歯科医師会創立50周年記念表彰（昭和28年10月31日）

藤井　義人　　小林　金次　　中島　清作

日本歯科医師会創立60周年記念表彰（昭和38年10月27日）

（会務貢献者）

浦野與四郎　　大道　憲治　　岡田　信次

（永年会員）

米沢　真一　　永森　　収　　栗山　実純

坪田　忠一

（会務貢献）

吉川　敏子

日歯福祉共済部10周年記念表彰（昭和40年10月1日）

川口　義門　　吉川　敏子

日本歯科医師会創立70周年記念表彰（昭和48年9月22日）

（永年会員）

石崎　憲吾　　早見　治顕　　佐渡喜一郎

（会務貢献者）

浦野與四郎　　倉田敬二郎　　永森　　収

立浪　次作　　川口　義門　　岡田　信次

竹林　正俊　　島田　栄吉　　深山　正之

阿部　清一　　中島　清則　　酒井　信義

岩井二三雄　　赤祖父三郎　　大菅　十造

家城　圭一　　山下　長藏　　菅田　晴山

宮本　俊治　　坪田　忠一　　吉田　　茂

藤井　　弘　　近藤　秀雄　　千保　　利

米沢　真一　　清水　周明　　越野培名男

坂下　孝則　　小高　啓三　　島田余三男

高田寅四郎

（叙勲褒章　知事賞受賞者）

吉岡　達雄　　金山　嘉城

（永年会務貢献職員）

吉川　敏子

日本歯科医師会創立80周年記念表彰（昭和59年11月28日）

（永年会員）

木下　友栄　　成瀬　八郎　　青木　勝二

小泉　直久　　平井　喜美

（会務貢献者）

竹林　正俊　　深山　正之　　佐渡　永貞

近藤　秀雄　　山崎　安隆　　倉田　　卓

上田　　昌　　藤井　　弘　　三崎　正春

（永年勤続職員）

中林くみ子　　竹内　和美

日本歯科医師会創立90周年記念表彰（平成5年9月16日）

石川　静郎　　上田　　昌　　奥川　澄夫

近藤　秀雄　　島田　栄吉　　田中　直次

中島　清則　　藤井　　弘　　坊　　明男

三崎　正春　　山崎　安隆　　芳尾　弘史

吉田　　茂

（職員）

竹内　和美

日本歯科医師会創立100周年記念表彰（平成15年11月27日）

藤井　　弘　　坊　　明男　　今村　勝彦

桜木　正昭　　栗山　豊実　　北山善之進

宮田　靖雄　　山岸　敏治　　福島　武人

山崎　宣夫　　高畠　　隆　　熊木　　彰

水橋　哲夫　　奥川　澄夫　　石川　静郎

上田　　昌　　平井　和輝　　山田　正昭

山本　武夫

（職員）

喜多美知子

日本歯科医師会創立110周年記念表彰（平成25年9月12日）

青木　康三　　中島　吉春　　水野　誓夫

宮森　正次　　村井　玉枝　　山下　銀七

川口　義治　　中道　　勇　　林　　俊郎

安田　　篤　　山﨑　安仁　　吉田　季彦

富山県歯科医師会特別表彰

富山県歯科医師会創立40周年記念表彰

（昭和28年10月18日）

藤井　義人　　小林　金次　　大道　憲治

本会功労者として代議員会より感謝文贈呈

（昭和31年11月11日）

浦野與四郎　　岩井二三雄　　大道　憲治

富山県歯科医師会館建設功労者表彰（昭和33年3月30日）

（委員長　常任委員）

三羽　邦定　　浦野與四郎　　永森　　収

松能喜久次

（委員）

阿部　清一　　中川　　武　　関　剛三郎

大道　憲治　　三崎　正春　　越野培名男

倉田敬二郎　　中川　　弘　　吉村　史郎

吉田　　茂　　小幡　義雄　　立浪　次作

家城　圭一　　島田　栄吉　　酒井　信義

北山　静次　　岡本　文夫　　河原　信隆

富山県歯科医師会創立50周年記念表彰

（昭和38年10月20日）

岩井二三雄　　家城　圭一　　早見　治顕

長谷川徳光　　大井　　潤　　大道　憲治

岡田　信次　　渡辺　親良　　和記　憲一

河原　信隆　　米田　祐弘　　吉田　　茂

吉村　史郎　　立浪　次作　　高田　育三

竹林　正俊　　坪田　忠一　　成瀬　八郎

中川　　武　　中川　　弘　　中島　清則

永森　　収　　浦上　則政　　栗山　実純

倉田敬二郎　　山崎　安三　　山下　長藏

松能喜久次　　松島　正康　　牧野　　昶

舟木　直久　　小高　啓三　　越野培名男

郷倉　信一　　赤祖父三郎　　阿部　清一

佐渡喜一郎　　酒井　信義　　木下　友栄

柚木　　薫　　三羽　邦定　　宮本　俊治

三崎　政男　　島田余三男　　島田　栄吉

関　剛三郎　　菅野　宜紀　　杉江　玄照

蓮本庄太郎

（職員）

吉川　敏子

富山県歯科医師会館建設功労者表彰（昭和40年5月30日）

（表彰状）

浦野與四郎　　栗山　実純　　岡田　信次

川口　義門　　大道　憲治　　倉田敬二郎

永森　　収　　青木　勝二　　三羽　邦定

関　剛三郎　　島田　栄吉　　中川　　武

深山　正之　　魚津　竹男

（感謝状）

石川県歯科医師会　　福井県歯科医師会

高岡市歯科医師会　　婦負郡歯科医師会

三羽　邦定　　牧野　　昶　　関　　清子

金山　吉雄

富山歯科技工士学院設置功労者感謝状

（昭和41年4月15日）

高田寅四郎　　三崎　正春　　杉江　玄己

坂本　清志　　飯田　　弘

富山歯科衛生士学院設置功労者感謝状

（昭和48年4月8日）

島　　信行　　中島　忠一　　飯田　　弘

三崎　正春　　千保　　利　　今村　勝彦

山崎　安隆　　松田　正男　　山本　壯一

富山県歯科医師会創立60周年記念表彰

（昭和48年7月15日）

杉江　玄照　浦野與四郎　倉田敬二郎
赤祖父三郎　永森　収　立浪　次作
大菅　十造　阿部　清一　川口　義門
岡田　信次　伊東　祐年　島田　栄吉
岩井二三雄　家城　圭一　魚津　佐一
竹林　正俊　高田　育三　菅野　宜紀
坂下　孝則　吉村　史郎　深山　正之
茶山　信吉　田中　直次　松島　正康
近藤　秀雄　中島　清則　田上　修
四日　善一　谷井　三郎　小林　全二
仲村　博　水野　誓夫　山崎　安隆
魚津　竹男　小森　甚作　吉田　茂
羽井　良三　松能　喜一　三崎　正春
米沢　真一　杉江　玄己　中島　忠一
千保　利　山田　外雄　松田　正男
高田寅四郎　渡辺　綱男　藤井　弘
水野　公之　飯田　弘　今村　勝彦
山本　壮一

（勤続職員）

西田　重晴　吉川　敏子　中林くみ子
竹内　和美

富山歯科技工士学院創立10周年記念表彰

（昭和50年10月19日）

（理事長功績）

阿部　清一　川口　義門　深山　正之
永森　収

（役員功績）

松田　正男　山本　壮一　中島　忠一
今村　勝彦　杉江　玄己　内田　安博
宮田　靖雄

（講師功績）

小倉　孝夫　松原清一郎　水野　公之
永森　尚之　石川　哲夫　松原　明男
水橋　哲夫　逸見　玲　金森　安信
山岸　敏治　永森　靖夫　家城　佳夫
金井　希則

（事務職員功績）

西田　重晴　藤田　信子

富山県歯科医師会創立70周年記念表彰

（昭和58年10月22日）

（本会関係）

藤井　弘　水野　誓夫　三崎　正春
水野　公之　山崎　安隆　田上　修
青木　康三　飯田　弘　石川　静郎
今村　勝彦　中島　清則　吉村　史郎
岩井二三雄　寺島　祐輔　倉田　卓
坊　明男　佐渡　哲雄　栗山　豊実
家城　圭一　黒木　正直　小林　全二
高橋日出夫　奥村　朋宏　竹林　正俊
青木　進　立野　泰三　熊木　甚朔
四日　善一　長谷川富久　水橋　哲夫
女川　清　高田寅四郎　千保　利
青木　健治　上田　昌　佐伯　正清
小杉与三雄　三羽　博久　高広　勇次
石崎　護　桜木　正昭　山田　正昭
奥川　澄夫　鷹取　昭治　佐渡　永貞
近藤　秀雄　中尾　修　川口　義治
棚田　昌俊

（口腔保健センター関係）

永森　靖夫　家城　佳夫　石川　哲夫
小倉　孝夫　岡田　洋昭　山岸　敏治
石多　謙治　高石　叡

（学院関係）

内田　安博　山本　壮一　宮田　靖雄
杉江　玄己　大井　克彦　松田　倫雄
吉田　季彦　山本　征彦　小林　憲夫
木村　純一　松原清一郎　杉本　友夫
川渕　金哉　和記　徳郎　篠原　昭道

大道　素夫　　中島　忠一　　北山善之進
大浦　重光　　林　　俊郎　　菅野　勝紀
小泉　明久　　逸見　　玲　　金山　嘉城
島　　信行　　大城　宣之　　福井　　洋
水野　隆俊　　山崎　宣夫　　河野　吉秀
柚木　邦夫

（外部講師）

金井　希則　　谷　みどり　　佐藤　良正
中川　秀幸　　東　　敬介　　粟田喜代治

（職員）

中林くみ子　　竹内　和美　　藤田　信子
喜多美知子

富山県歯科医師会創立80周年記念表彰

（平成5年11月28日）

（本会関係）

石川　静郎　　今村　勝彦　　上田外喜男
大野　繁彦　　奥川　澄夫　　奥村　朋宏
川口　義治　　北山善之進　　小杉与三雄
桜木　正昭　　島田　正美　　新谷　政彦
釣谷　東民　　藤井　　弘　　坊　　明男
水橋　哲夫　　宮田　靖雄　　山田　正昭

（口腔保健センター関係）

平木　光昭

（学院関係）

岩﨑　弘治　　河野　吉秀　　中嶋　　渉
福島　武人　　古田　　勲　　加藤　高男
狩野　　覚　　小林　憲夫　　城川　和夫
松原清一郎　　三崎　公晴

富山県歯科医師会創立90周年記念表彰

（平成15年11月29日）

（本会関係）

坊　　明男　　奥川　澄夫　　酒井　義博
北山善之進　　岩井　道雄　　林　　俊郎
家城　佳夫　　山岸　敏治　　山田　正昭
黒川勇次郎　　篠原　昭道　　安達　　昭
福島　武人　　杉本　友夫　　金川　直博
山崎　宣夫　　米田　仗二　　高畠　　隆
熊木　　彰　　安田　　篤　　平木　光昭
焼田志図夫　　坂本喜久雄　　中道　　勇
山田　真樹　　山本　武夫　　渡辺　和夫
小森　　実　　得能　昭夫

（歯科保健医療総合センター関係）

吉川　由治　　堀　比佐司

（歯科総合学院関係）

古田　　勲　　加藤　高男　　島　　秀一
島　　信博　　城川　和夫　　網谷　伸治
永森　　司　　山田　雅敏　　新谷　明宏
上田　　均

富山県歯科医師会創立100周年記念表彰

（平成25年12月１日）

（特別功労者）

今村　勝彦　　栗山　豊実　　宮田　靖雄
坊　　明男

（永年会員　本会在籍50年以上）

青木　康三　　内田　安博　　大島　輝哉
佐渡　哲雄　　篠川　之靖　　高橋日出夫
寺島　祐輔　　松浦　　實　　松原　明男
水野　誓夫　　宮森　正次　　山下　銀七
浦野　　潤　　金山　嘉城　　金山　喜吉
三崎　正春　　吉岡　シゲ　　石川　静郎
越野培名男　　中島　吉春　　奥川　澄夫
小山　哲夫　　長谷川富久　　水橋　哲夫
女川　　清　　平井きよみ　　高田寅四郎
村井　玉枝　　上田　　昌　　津田すみ子
石崎　　護　　新谷　政彦　　佐伯　正清
魚津　純子　　大菅　　武

（本会役員　在職10年以上）

加藤　高男　　城野　利盛　　中道　　勇
山岸　敏治　　山崎　宣夫　　山﨑　安仁

吉田　季彦　　熊木　　彰　　平木　光昭
松岡　正道　　高畠　　隆　　安田　　篤
平井　和輝　　桜木　正昭　　山本　武夫
野田　　修

（本会代議員・郡市歯科医師会会長　在職15年以上）

家城　佳夫　　金川　直博　　坂本喜久雄
水野　隆俊　　林　　俊郎　　酒井　義博
上田外喜男

（本会委員・部員　在職20年以上）

稲田　次郎　　大城　宣之　　折山　　弘
河野　吉秀　　小林　憲夫　　島　　秀一
島　　信博　　城川　和夫　　砂子　満明
中嶋　　渉　　原田　修成　　松原清一郎
水越　　弘　　岩﨑　弘治　　越野　　学
杉本　友夫　　福井　　洋　　青木　一登
谷川　文紹　　森本　　伸　　渡辺　和夫
菅野　勝紀　　山田　隆寛　　川口　義治
川口　志郎　　小杉与三雄

（本会役員・代議員・郡市歯科医師会会長・委員・部員
在職通算25年以上）

木村　純一　　篠原　昭道　　島田　正美
釣谷　東民　　焼田志図夫　　山田　真樹
山田　正昭

（本会職員　勤続30年以上）

富山　　悟　　長江　悟子　　山本　吉博
吉田美津子

富山県歯科医師会会長表彰受賞者（功労会員）

昭和26年度	藤井　義人	小林　金次	中島　清作	宮本　俊治	山下　長藏
昭和27年度	上田　　馨	片桐　正義			
昭和29年度	柚木　　薫	清水　清通	早見　治顕		
昭和30年度	牧野　　昶	堀井　勝三			
昭和31年度	浦野與四郎	大道　憲治			
昭和32年度	佐渡喜一郎	渡邊　　實			
昭和33年度	浅岡　典常	城生越　義	山本莊太郎	石崎　憲吾	
昭和34年度	松能喜久次	杉江　玄照	倉田敬二郎	三崎　政男	坪田　忠一
昭和35年度	栗山　実純	浦上　則政	宮岡宇平次	蓮本庄太郎	長谷川徳光
昭和36年度	三羽　邦定	島田余三男	青木　勝二	飯田　半六	
昭和37年度	木下　友栄	赤祖父三郎	川口　義門	柴　　太郎	
昭和38年度	石黒宗次郎	成瀬　八郎	大菅　十造	平井　喜美	小泉　直久
昭和39年度	大道　憲治	浦野與四郎	山崎　安三	菅田　晴山	新谷　寿康
昭和40年度	木下　庄作	櫻木　成一	河村哲之助	立浪　次作	
昭和41年度	永森　　収	阿部　清一	時女　フミ		
昭和42年度	大井　　潤	岡田　信次	吉岡　二枝	北山　静次	米田　祐弘
	岩井二三雄				
昭和43年度	伊東　祐年	郷倉　信一	和田　義孝	竹林　正俊	
昭和44年度	島田　栄吉	小高　啓三	千鳥　健二	吉村　史郎	村井　玉枝
	分田　文子				
昭和45年度	林　　弘	奥平ユキヱ	阿部彦太郎	酒井　信義	島田　正三
	高田　育三				
昭和46年度	清水　幸七	関　剛三郎			
昭和47年度	関　　清子	田中　直次	堀井　富子		
昭和48年度	菅野　宜紀	家城　圭一	大野　静夫	本告　武人	渡辺　親良
昭和49年度	小倉　直義	魚津　佐一	芳尾　弘史	関　　信一	岡田　正三
	谷井　三郎	大井ハツ子	越野培名男		
昭和50年度	平井　茂光	島田　忍子	近藤　秀雄	中島　清則	佐渡　永貞
	倉田　　卓	宮本　乙男	吉岡　達雄	木村　美明	石多　謙三
	高広　勇次	米沢　卯一	吉野　克男	小林　全二	栗山　実純
	杉江　玄己	長久　良一	宇和山礼三	大道　勇二	斉藤　義寿
	山崎　安隆				
昭和51年度	松能　喜一	吉田　　茂	青木　康三	茶山　信吉	河原　信隆
	牧野　貞子	沖田　弘正	四日　善一	中島　忠一	吉岡　シゲ
	三崎　正春	清水　周明			
昭和52年度	熊木　甚朔	三島　三郎	米沢　真一	島　　信行	小森　甚作

昭和52年度	佐々木　止	千保　　利	高田　澄子	石黒　　繁	高橋日出夫
	奥野　和男	中島　吉春			
昭和53年度	小杉　元治	岡本　文夫	吉沢　　進	小山　辰二	峰村　綾子
	島　　秀雄	対馬　久雄	高田寅四郎	上田　　昌	
昭和54年度	三羽　博久	源　　三郎	板橋　　修	松島　正康	柚木　一夫
	宝田　　力	水野　誓夫	金山　喜吉		
昭和55年度	山岸　確次	元井　英夫	仲村　　博	山下　銀七	細川喜代子
	青木　健治	斉藤　孝雄	青木　　進	藤井　　弘	立野　泰三
昭和56年度	岩倉　リイ	宮森　正次	魚津　竹男	中川　　弘	鴻池　叢恵
	小橋　長造	永森　尚之			
昭和57年度	藤井起三郎	及川　哲夫	羽井　良三	大島　輝哉	水野　公之
	今村　勝彦				
昭和58年度	深山　正之	中野　由蔵	山口　清衣	渡辺　綱男	内田　安博
	松浦　　實				
昭和59年度	上滝　元彦	山田　外雄	水橋　哲夫	坂下　孝則	
昭和60年度	黒木　正直	津田すみ子	坊　　明男		
昭和61年度	飯田　　弘	寺島　祐輔	松本　秀子	篠川　之靖	
昭和62年度	中保　朔男	山本　壯一	広瀬　一男		
昭和63年度	浦野　　潤	寺崎　久良	新谷　政彦	鷹取　昭治	小山　哲夫
	田上　　修	石崎　　護			
平成元年度	成瀬　達雄	原田　修逸	女川　　清	逸見　　玲	
平成２年度	三崎　譲司	中尾　　修	金森　安信	谷口　博朗	長谷川富久
	阿部　則行				
平成３年度	金山　嘉城	平井きよみ			
平成４年度	佐渡　哲雄	栗山　豊実	石川　静郎	奥川　澄夫	魚津　純子
	岩井　輝雄	松原　明男	佐伯　正清	大菅　　武	
平成５年度	大江　金雄	島田　正豊	松能　二郎		
平成６年度	稲場　文久	棚田　昌俊	吉見　武志		
平成７年度	釣谷　東民	石川　哲夫	桜木　正昭	松原清一郎	小杉与三雄
	川口　義治				
平成８年度	加藤　英一	平井　和輝	宮田　靖雄	郷倉　　満	黒川五一郎
平成９年度	岩井　道雄	寺崎　　芳	山岸　敏治	平出　町男	
平成10年度	金山　珪子	中辻　義忠	今村　きみ	小泉　隆英	永森　靖夫
	福井　　洋				
平成11年度	萬谷　敏紀	家城　佳夫	大井　克彦	林　　俊郎	
平成12年度	小林　　信	坪田　忠近	立浪　次夫	寺田　周明	宇和山義雄

平成12年度	坂下　賢孝	夏目　恭佐	越野　　学		
平成13年度	林　　直樹	菅野　勝紀	岡田　洋昭	小泉　明久	菅田　博子
	小倉　孝夫	佐渡　邦夫	松田　倫雄	北山善之進	和田めりい
平成14年度	近藤　俊行	大城　宣之	奥村　朋宏	福島　武人	島田　正美
	篠原　昭道				
平成15年度	水橋　景之	和記　徳郎	吉田　季彦	川上　清江	大道　素夫
	山本　征彦	佐藤　昌子	高石　　叡		
平成16年度	大浦　重光	黒川勇次郎	杉本　友夫	長久　巧一	林　　勉
	柚木　邦夫	川渕　金哉	小林　憲夫	倉田　雅人	谷井　三利
平成17年度	芳尾　久志	木村　純一	森井　徹雄	河村　　充	安達　　昭
	平木　光昭	野田　孫就			
平成18年度	高畠　　隆	山田　正昭	藤井　俊彦	山崎　宣夫	砂子　満明
	小熊　清史	中島　　徹	水野　隆俊	米山　俊夫	河野　吉秀
	奥平　秀子	酒井　義博	清水　嗣貴		
平成19年度	米沢　　徹	岩﨑　弘治	竹内　哲郎	中嶋　　渉	山村　辰雄
	吉岡　達博				
平成20年度	佐藤　慎一	阿部　弘一	青木　一登	森本　　伸	渡邊　良隆
	江川　正通	酒井　信治	加藤　高男	山本　武夫	平井　高明
平成21年度	阿部　輝夫	大石　　聡	松岡　正道	宮本　宣良	東　　忍
	熊木　　彰				
平成22年度	佐野　正之	山田　真樹	金子　光謙	森永　丈策	村井　幸嗣
	杉井　芳文	三﨑　公晴	坂本　和隆	石坂　正明	狩野　　覚
	永井清一郎	吉岡ゑく子	高野　建一	山本　　茂	松能　雄一
	斉藤　雄二				
平成23年度	坂本喜久雄	大野　　均	魚津　博文	上田外喜男	焼田志図夫
	金川　直博	武　　俊夫	野田　　修	稲田　次郎	岩坪　敏江
	三島　純子	長沢　　久	島崎　　聡	和田　敦志	中島　　潔
平成24年度	吉川　由治	小森　　実	山﨑　安仁	根尾　　満	松木　基祐
	田中　慎二	安念　和英	小崎　利章	源　　義明	梶川　昌幸
	横田　憲明				
平成25年度	米田　仗二	寺田　康子	城川　和夫	後藤　　健	新川いくみ
	石黒　　真	加藤　弘直	村山偉知朗	高島　周二	米澤　明成
	紅井　外二	山田　　耕	中道　　勇	安ヵ川　聡	渡辺　和夫
	飯田　良彦	谷川　文紹			

富山県学校保健会表彰受賞者（学校保健功労）

昭和24年度	山下　長藏				
昭和26年度	大菅　十造	牧野　　昶			
昭和27年度	谷井　三郎	田谷　壽夫			
昭和29年度	坪田　忠一				
昭和30年度	長谷川徳光				
昭和31年度	河村哲之助	菅田　晴山			
昭和32年度	菅洞　栄蔵				
昭和33年度	木下　庄作				
昭和34年度	飯田　半六				
昭和35年度	田中　直次	佐々木　止			
昭和36年度	佐渡喜一郎	大道　憲治	石崎　憲吾		
昭和37年度	小高　啓三				
昭和38年度	坂下　孝則	島田　栄吉	島田余三男		
昭和39年度	奥平ユキエ	三崎　政男	新谷　寿康		
昭和40年度	酒井　信義	平井　喜美	吉村　史郎		
昭和41年度	北山　静次	岡田　信次			
昭和42年度	佐渡　永貞	分田　文子	平井　菊枝	岡田　正三	大井　　潤
昭和43年度	小倉　直義	赤祖父三郎	対馬　久雄	小山　辰二	柚木　　薫
昭和44年度	横田　とも	島　　秀雄	四日　善一	川口　義門	松能　喜一
	中島　清則				
昭和45年度	沖田　弘正	阿部彦太郎	熊木　甚朔		
昭和46年度	小森　甚作	早見　治顕	倉田　　卓	長久　良一	河原　信隆
	成瀬　八郎	石多　謙三	浅岡　典常		
昭和47年度	清水　幸七	阿部　清一	米沢　真一		
昭和48年度	立浪　次作	三崎　正春	吉岡　達雄	吉沢　　進	宮岡宇平次
	上田　　昌				
昭和49年度	水橋　哲夫	竹林　正俊	家城　圭一	米沢　卯一	青木　勝二
	立野　泰三	木下　友栄	関　　信一		
昭和50年度	藤井　　弘	深山　正之	林　　弘	元井　英夫	吉野　克男
昭和51年度	細川喜代子	浦野　　潤	中島　忠一		
昭和52年度	魚津　佐一	関　　清子	大道　勇二	島田　正三	渡辺　親良
昭和53年度	黒木　正直	山田　外雄	板橋　　修	吉田　　茂	柚木　一夫
昭和54年度	水野　誓夫	山崎　安隆	高田寅四郎	青木　健治	山口　清衣
昭和55年度	木下　庄作	小杉　元治	宮本　乙男	松原清一郎	
昭和56年度	岡本　文夫	岩井二三雄	島　　信行		
昭和57年度	羽井　良三	金森　安信	石黒　　繁	成瀬　達雄	

昭和58年度	高田　澄子	青木　康三	清水　周明	牧野　貞子	永森　尚之
昭和59年度	奥野　和男	高広　勇次	三島　三郎	山下　銀七	内田　安博
	坊　　明男				
昭和60年度	島田　正豊	宮森　正次	仲村　　博	棚田　昌俊	菅野　宜紀
	越野培名男	渡辺　綱男			
昭和61年度	近藤　秀雄	広瀬　一男	上滝　元彦	水野　公之	石崎　　護
	宝田　　力	小山　哲夫			
昭和62年度	寺島　祐輔	松浦　　實	阿部　則行	茶山　信吉	千保　　利
	飯田　　弘				
昭和63年度	魚津　竹男	佐渡　哲雄	中島　吉春	長谷川富久	新谷　政彦
	山本　壮一				
平成元年度	峰村　綾子	奥川　澄夫	佐伯　正清	篠川　之靖	坪田　忠近
	金山　嘉城	芳尾　弘史			
平成２年度	女川　　清	黒川五一郎	小橋　長造	和田めりい	釣谷　東民
	鷹取　昭治				
平成３年度	吉見　武志	松原　明男	石川　哲夫	時女外与三	加藤　英一
平成３年度	桜木　正昭	川口　義治			
平成４年度	大菅　　武	横田　一二	宮田　靖雄	福井　　洋	中辻　義忠
	中尾　　修				
平成５年度	寺崎　　芳	家城　佳夫	岩井　道雄	平出　町男	津田すみ子
平成６年度	坂下　賢孝	永森　靖夫	佐渡　邦夫	大井　克彦	萬谷　敏紀
	菅野　勝紀				
平成７年度	夏目　恭佐	小泉　隆英	大城　宣之	柚木　邦夫	山本　征彦
	松田　倫雄				
平成８年度	小杉与三雄	河村　　允	奥村　朋宏	黒川勇次郎	岩井　輝雄
	安達　　昭				
平成９年度	林　　俊郎	林　　勉	高石　　叡	倉田　雅人	大道　素夫
	岡田　洋昭	米沢　　徹			
平成10年度	小熊　清史	四日　隆夫	大浦　重光	林　　直樹	山田　正昭
	小林　憲夫	稲場　文久			
平成11年度	栗山　豊実	阿部　輝夫	水野　隆俊	米田　仗二	水橋　景之
	中嶋　　渉	山崎　宣夫	森井　徹雄	砂子　満明	
平成12年度	平井　和輝	米山　俊夫	酒井　義博	竹内　哲郎	青木　一登
	金子　光謙	渡邊　良隆	芳尾　久志	立浪　次夫	岩﨑　弘治
平成13年度	阿部　弘一	北山善之進	奥平　秀子	杉井　芳文	松能　雄一
	高畠　　隆	森永　丈策	熊木　　彰		

平成14年度	小倉　孝夫	吉岡ゑく子	石坂　正明	江川　正通	加藤　高男
	平井　高明	福島　武人	吉田　季彦	佐野　正之	野田　孫就
平成15年度	田原　保夫	酒井　信治	坂本　和隆	長沢　久	坂本喜久雄
	大野　均	島崎　聡	小崎　利章	折山　弘	三島　純子
	武　俊夫	中島　潔	山本　武夫	村井　幸嗣	
平成16年度	魚津　博文	谷川　文紹	加藤　弘直	村井偉知朗	金川　直博
	岡崎　満雄	上田美保子	沖田　進	山田　真樹	安田　篤
	焼田志図夫	平木　光昭	上田外喜男	安念　和英	
平成17年度	清水　嗣貴	稲田　次郎	中道　勇	宮本　宣良	山﨑　安仁
	島　信博	松木　基祐	福尾　元成	山田　隆寛	山本　茂
平成18年度	森本　伸	泉　照雄	飯田　良彦	高沢　尚人	森井　忠晴
	水越　弘	神田　純郎	中川　清昌	加藤　和子	紅井　外二
平成19年度	平澤　滋康	野田　修	塩見　哲	田中　慎二	小森　実
	澤本　正登	吉崎　定夫	油田　達朗	新谷　明宏	
平成20年度	西島　泰人	堀川　淳治	吉川　由治	網谷　伸治	川口　志郎
	吉田　徹	米沢　郁子	新川いくみ	増田　真理	得能　昭夫
平成21年度	渡辺　和夫	仲井　雄一	原田　修成	織田　武吉	今村　明弘
	後藤　健	池田　寿人	坊　真奈美	根尾　満	
平成22年度	林　譲治	岩井　正博	山本　尚靖	山田　雅敏	上田　均
	早川　徹	三崎　広樹	大野　和彦	立浪　徹	浦野　一郎
	桶家　樹	仲村辰一郎			
平成23年度	高田　保之	河内　昭人	永森　司	牧野　京介	細川　史郎
	久津有紀夫	多知真理子	高畑　保夫		
平成24年度	島田　正美	斎藤　進	山本　大輔	串田　茂	中尾　一彦
	横田　聡	大菅　明	越田　喜規	朝倉慎一郎	岡本　英之
	三田村　聡	佐伯　清秀			
平成25年度	柚木　功	前田美智之	林　恒人	大木　淳一	城川　和夫
	片山　克己	奥村　俊晴	川中　健一	岩坪　敏江	小山　元秀
	北川　武史				

富山県歯科医師会表彰歴

表彰名（表彰年月日）	事　項	主　体
奥村賞（昭和36年11月12日）	よい歯の学校運動に寄与（富山県学校歯科医会）	奥村賞管理委員会 会長　山口　晋吾
褒状（昭和53年7月29日）	社会福祉法人セーナー苑事業資金寄付	内閣総理大臣　福田　赳夫
感謝状（昭和56年7月12日）	心身障害児(者)の歯科診療に寄与	財団法人富山県精神薄弱者育成会 理事長　住　　栄作
知事感謝状 （昭和56年10月5日）	心身障害児(者)診療、休日急患診療、休日等在宅当番医制事業に寄与 (第9回健康増進のための県民のつどい)	富山県知事　中沖　　豊
厚生大臣表彰 （昭和56年10月24日）	多年にわたる歯科保健の普及向上に寄与 (第2回全国歯科保健大会)	厚生大臣　村山　達雄
第34回保健文化賞 （昭和57年9月30日）	永年にわたり地域住民の口腔衛生知識の普及と心身障害児の歯の診療など予防から治療までの総合歯科保健医療対策に努める	厚生大臣　森下　元晴
同上感謝状（同上）		第一生命保険相互会社 社長　西尾　信一
富山県政功労表彰（厚生功労）（昭和57年11月2日）	同　　上	富山県知事　中沖　　豊

富山歯科総合学院（富山歯科技工士学院･富山歯科衛生士学院）講師一覧

富山歯科技工士学院（S41.4～S54.3）・富山歯科総合学院　歯科技工士科（S54.4～現在）

科　目	氏　名	担当年度
継続架工学	飯田　弘	S41
	山本壯一	S41
	小林全二	S41
	松能喜一	S41
	坂本清志	S41
	松田正男	S41～S49
	今村勝彦	S41～S49
	内田安博	S42～S49
	宮田靖雄	S42～S49
	坂下孝則	S43～S44
	栗山豊実	S43～S45
	山岸敏治	S43～S48
	石川静郎	S44
	金井希則	S44～S49
	立浪昭夫	S46
	平出町男	S46～S47
	永森靖夫	S46～S49
	奥村朋宏	S47～S49
	近藤俊行	S49
充填学	水橋哲夫	S42～S49
歯冠修復学	松田正男	S50～S51
	水橋哲夫	S50～S51
	今村勝彦	S50～S55
	内田安博	S50～S55
	宮田靖雄	S50～S61
	金井希則	S50～H5
	永森靖夫	S50～S54
	奥村朋宏	S50～S54
	近藤俊行	S50
	大井克彦	S50～H2
	小林憲夫	S50～H5
	吉田季彦	S54～H2
	竹内哲郎	S55
	由川隆治	S55～H5
	加藤高男	S56～H8
	米沢　徹	S57～S63
	島　信博	H1～H10
	城野利盛	H3～H25
	野崎　進	H5～12･H14～25
	谷川恵美子	H6～H10
	中家むら子	H8･H11～15
	菅谷幸樹	H10･13～H16･25
	菅野　宏	H16～H22
	萩中正二	H17～H24

科　目	氏　名	担当年度
歯冠修復学	羽岡克規	H21～H25
矯正歯科技工学	松原清一郎	S41～H8
	加藤高男	H9～H14
	関　康弘	H15～H25
小児歯科技工学	杉本友夫	S46～S58
	城川和夫	S59～H14
	上田美保子	H15～H25
国語	大西秀海	S41～S43
	清田秀博	S44～S45
数学	中村　宏	S41～S43
	西野	S44～S45
物理・化学	佐藤治幸	S41
	瀬川昭博	S42～S43
	亀谷順七	S44～S45
保健体育	志甫秀文	S41
	金谷嘉盛	S42～S43
	高橋敏雄	S44～S46
全部床義歯技工学	山崎安隆	S41
	魚津佐一	S41
	杉江玄已	S41～S55
	永森尚之	S41～S50
	逸見　玲	S43～S45
	小倉孝夫	S44～S56
	和記徳郎	S53～S59
	狩野　覚	S57～H5
	長沢　久	S60～H7
	田中慎二	S63～H4
	網谷伸治	H5～H25
	新谷明宏	H6～H25
部分床義歯技工学	水野公之	S41～S49
	坂下孝則	S42～S44
	中島忠一	S42～S54
	家城佳夫	S44～S56
	北山善之進	S46～S51
	大道素夫	S50～S57
	山本征彦	S51～S59
	由川隆治	S55～S62
	砂子満明	S56～S58
	谷川恵美子	S56～H14
	森永丈策	S57～H2
	中家むら子	S58～H10･15
	石黒　真	S60～H8
	野崎　進	S63～H3･10･16～25
	平澤滋康	H3～H8

科　目	氏　名	担当年度
部分床義歯技工学	菅谷幸樹	H8～H10
	島　信博	H11～H25
選択必修(全部床義歯)	菅谷幸樹	H11～H12
	中家むら子	H13
	萩中正二	H14
	谷川恵美子	H15
	砂田　賢	H16～H25
歯の解剖学	中川　武	S41
	島　秀雄	S41
	高橋日出夫	S42～S45
	逸見　玲	S43～S49
	松田倫雄	S48～S62
	篠原昭道	S49～S56
	三﨑公晴	S57～H5
	安田　篤	S63～H5
	小池　潤	H6～H11
	土生清春	H6～H11
	安村公成	H12～H20
	串田　茂	H12～H25
	鈴木　寧	H21～H25
顎口腔機能学	山本尚靖	H8～H9
	吉田真治	H10～H14
	吉田隆司	H15～H17
	上田和孝	H18～H22
	荻野新也	H23～H25
カウンセリング	広本京子	H11～H14
	竹村祥恵	H15～H17
	村由美子	H18～H20
	川島江美子	H21～H22
	根塚明子	H23～H24
	黒田昌美	H25
歯科理工学	松田正男	S41～S42
	羽井良三	S41～S43
	青木康三	S42
	金森安信	S43～S50
	松原明男	S44～S49
	石川哲夫	S44～S50
	高石　叡	S49～S56
	川渕金哉	S51～S57
	木村純一	S51～S59
	小崎利章	S60～S62
	沖田　進	S63～H8
	松岡正道	S58～H2
	立浪　徹	H3～H8

科　目	氏　名	担当年度
歯科理工学	萩中正二	H9～H11
	桶家　樹	H9～H24
	野崎　進	H12～H16･25
	菅谷幸樹	H17～H24
	竹本慶一郎	H25
歯科鋳造学	松原明男	S50
	平井高明	S57～S63
	森井忠晴	H1～H6
歯科技工学概論	阿部清一	S41～S46
	深山正之	S46～S56
	三崎正春	S56～S58
	小林憲夫	S59
	宮田靖雄	S60～S61
	松田倫雄	S62～H1
	高石　叡	H2～H8
	谷川恵美子	H9～H11･14･15
	萩中正二	H12～H13･16
	菅谷幸樹	H17
	加藤葉月	H18～H22
	山森喜子	H23～H25
関係法規	川口義門	S41
	永森　収	S42～S54
	針山俊一	S55～S57
	佐々木信治	S58～H3
	鍋島貞夫	H4～H7
	石黒幸雄	H8～H15
	永森　司	H16～H25
美術概論	岩田金七	S41～S48
	長江兼次	S46～S47
	黒田哲二	S51～S54
	佐藤良正	S54～H8
	岡崎　忍	H8～H17
	薮内明子	H18～H23
	円戸　智	H24～H25
英語	飯田昭正	S41～S42
	藤瀬茂美	S43～S45
	谷みどり	S46～H25

富山歯科衛生士学院（S48.4～S54.3）・富山歯科総合学院　歯科衛生士科（S54.4～現在）

科　目	氏　名	担当年度
解剖　一般	松田正男	S48～S52
	水野隆俊	S53
解剖	水野隆俊	S54
	戸塚盛雄	S55～S56
	山本康一	S57～S59
	古田　勲	S60
	山本康一	S61～S63
	寺島龍一	H元
	古田　勲	H2～H19
解剖学	古田　勲	H20～H25
解剖　口腔	島　秀雄	S48～S49
	逸見　玲	S50～S53
歯牙解剖実習	佐渡哲夫	S48～S53
	逸見　玲	S57～S58
歯牙解剖	逸見　玲	S54～S56
口腔解剖Ⅰ	阿部輝夫	S57～S62
	岩﨑弘治	S63～H12
	日出嶋康博	H13～H14
	中川典孝	H15～H19
口腔解剖学Ⅰ	中川典孝	H20～H25
口腔解剖Ⅱ	逸見　玲	S57～S58
口腔解剖Ⅱ（実習含）	逸見　玲	S59～S62
口腔解剖Ⅱ	逸見　玲	S63
	稲田次郎	H元～H10
	内田昌宏	H11～H19
口腔解剖学Ⅱ	内田昌宏	H20～H25
口腔解剖学Ⅲ	内田昌宏	H20～H25
組織	山崎安隆	S48～S52
	山崎宣夫	S53
組織発生	大浦重光	S54～S56
組織・組織実習	大浦重光	S57～S58
組織（実習含）	大浦重光	S59～S62
組織・発生	大浦重光	S63
	中島清之	H元～H12
	佐渡忠司	H13～H19
組織・発生学	佐渡忠司	H20～H25
生理	女川　清	S48～S49
	石崎　護	S50～S56
一般生理	東　敬介	S57～H2
	小崎利章	H3～H11
	西条寿夫	H12～H14
	小林恒之	H15～H16
	栗脇淳一	H17～H19
生理学	梅野克身	H20～H22
生理学	高本考一	H23～H25
口腔生理	柚木邦夫	S57～S60
	宮本宣良	S61～H3
	水越　弘	H4～H8
	大野和人	H9～H19
口腔生理学	大野和人	H20～H25
病理	林　俊郎	S48～S53
病理・病理実習	河野吉秀	S54～S58
口腔病理	河野吉秀	S53
病理（実習含）	河野吉秀	S59～S62
病理	河野吉秀	S63
	吉岡千尋	H元～H13
	高橋勝雄	H14
	津野宏彰	H15～H17
	野口　誠	H18～H19
病理学	津野宏彰	H20
	新井直也	H21～H25
細菌　臨床検査	石倉康宏	S48
	香取幸治	S49～S51
	高柳尹立	S52
	東　敬介	S53
細菌	東　敬介	S54～S56
細菌・臨床検査	東　敬介	S57～S58
細菌	東　敬介	S59～S62
微生物	東　敬介	S63～H3
	山田雅敏	H4～H14
	廣野善丈	H15～H19
微生物・口腔微生物	廣野善丈	H20～H25
臨床検査	東　敬介	S54～S56
臨床検査Ⅱ	岡田洋昭	S57～S58
臨床検査Ⅰ・Ⅱ	東　敬介	S59～S62
臨床検査	野口　誠	H20～H25
薬理一般	城石和子	S48～S51
薬理	岡田洋昭	S52～S54
	河村　允	S55～S59
	近藤俊行	S60～S62
	後藤　健	S63～H2
	仲村辰一郎	H3～H14
	宮田就弘	H15～H19
薬理学	宮田就弘	H20
	坪井孝博	H21～H25
薬理・口腔	岡田洋昭	S48～S51
	福井　洋	S52～S53
衛生	岩岡　保	S48～S51

科　目	氏　名	担当年度
衛生	中川秀幸	S52～S63
	中田慶子	H元
	倉本安隆	H2～H4
	永森　司	H5～H19
衛生・公衆衛生	永森　司	H20～H25
口腔衛生　個人	寺田周明	S48～S49
	北川峰雪	S50～S51
	北山善之進	S52～S53
個人口腔衛生	吉沢　啓	S54・S56
	川口義治	S55
	大城宣之	S57～S60
	福尾元成	S61～S62
口腔衛生	福尾元成	S63～H2
	竹内智子	H3～H4
	横林康男	H5～H7
	日出嶋康博	H8
	中谷　現	H9
	柴田桂子	H10
	川上美貴	H11
	水野健太郎	H12～H13
	加藤幸生	H14
	高井貞浩	H15～H16
	加藤祐介	H17～H18
	船山昭典	H19
	佐藤秀樹	H20～H21
	金丸祥平	H22
	高辻紘之	H23
	長谷部大地	H24
	竹内玄太郎	H25
口腔衛生　公衆	島　信行	S48～S50
	島　信行 金山嘉城	S50～S51
	金山嘉城	S52～S53
社会口腔衛生	金山嘉城	S54
	米山俊夫	S55～S59
	大城宣之	S60
	福尾元成	S61～S62
衛生統計	岸岡　保	S48～S50
	保健所（中川・林・野島）	S51
	島　信行	S52～S53
	柚木邦夫	S54～S56
	芳尾久志	S57～H2
	中道　勇	H3～H4

科　目	氏　名	担当年度
衛生統計	清水秀明	H5～H10
	金山元信	H11～H24
	藤田洋一郎	H25
栄養一般	横関光子	S48～S51
	栗山豊実	S52～S53
栄養	山崎宣夫	S54～S56
栄養Ⅰ	山崎宣夫	S57～S59
	島　秀一	S60～H8
	吉田美津子	H9～H16
	吉田美津子 影近瑞穂	H17～H18
	吉田美津子	H19
栄養Ⅱ	中川千賀子	S58～H5
	桑守豊美 富岡徹久	H6～H7
	大菅洋子 富岡徹久	H8～H19
生化学	富岡徹久	H20～H25
栄養指導	大菅洋子 吉田美津子	H20～H25
栄養歯科	中島忠一	S48～S53
衛生行政・社会福祉	渋谷知一	S48～S49
	武脇長良	S50
	県医務科（嘉藤・本郷・大浜）	S51～S53
	北山善之進	S57～S58
衛生行政	永森　収	S52～S53
	中島忠一	S54
	桜木正昭	S55～S56
	北山善之進	S59～S61
	福島武人	S62
	河野吉秀	S63～H元
	佐々木信治	H2
	鍋島貞夫	H3～H6
	石黒幸雄	H7～H14
	城野利盛	H15～H25
社会福祉	山岸敏治	S52～S53
	中島忠一	S54
	桜木正昭	S55～S56
	佐々木信治	S59～H3
	鍋島貞夫	H4～H6
	石黒幸雄	H7～H14
	城野利盛	H15～H20
	三谷　巌	H21～H23

科　目	氏　名	担当年度
社会福祉	柴田　稔	H24～H25
歯科臨床概論	山本壯一 川口義治 杉本友夫	S48
	山本壯一	S49
	永森　収	S50～S52
	中島忠一	S57～H4
	北山善之進 大浦重光 桜木正昭	H5
	大浦重光 桜木正昭	H6
	大浦重光	H7～H8
	上田　均	H9～H25
臨床概論Ⅰ	永森　収	S53
臨床概論Ⅱ	大城宣之	S53
疾患概論	川口義治	S49～S50
	大城宣之	S51～S52
器械材料	吉田季彦	S49～S53
臨床概論	大城宣之	S54～S55
	中島忠一	S56
歯科衛生士概論	中島忠一	S62
	喜多美知子	S63～H15
	影近瑞穂	H16～H25
歯科医療倫理	上田　均	H20～H25
診療事務	山本壯一	S50～S53
概論事務	水野公之	S54
	佐渡哲雄	S55～H元
	水野隆俊	H2～H4
社会保険	水野隆俊	H5～H7
	河野吉秀	H8～H13
	福尾元成	H14
	山田隆寛	H15～H16
	奥川博司	H17～H18
	小池　潤	H19
医療事務	小池　潤	H20
	山田隆寛	H21
	片岡弘一	H22～H25
歯科診療補助	桜木正昭 釣谷東民 菅野勝紀	S48
診療補助Ⅰ	菅野勝紀	S54～S56
診療補助Ⅱ	福井　洋	S54

科　目	氏　名	担当年度
診療補助Ⅱ	北山善之進 福井　洋 福島武人	S55～S56
診療補助実習Ⅰ	川口義治	S54
	水野隆俊	S55～S59
	松木基祐	S60～H2
	福尾元成	H3～H10
診療補助実習Ⅱ	北山善之進	S54
	島田美津子	S55
	長江悟子 山田真理	S57～S58
	専任教員全員	S57～H17
歯科診療補助	向野正子 影近瑞穂	H18～H19
	岩井艶子 影近瑞穂	H20～H25
診療補助実習Ⅲ	喜多美知子	S54
	島田美津子	S55
診療補助Ⅲ	小泉明久	S54～S56
保存	釣谷東民	S49～S50
	川口義治	S51～S53
保存Ⅰ	菅野勝紀	S57～S58
保存Ⅰ（修復）	菅野勝紀	S59
	中道　勇	S60～H3
	土肥勝博	H4～H9
	澤井　睦	H10
保存修復	澤井　睦	H11～H19
保存修復学	澤井　睦	H20～H25
保存Ⅱ	山田真樹	S57～S58
保存Ⅱ（歯周）	山田真樹	S59～S62
保存Ⅲ（歯周）	山田真樹	S63～H2
	河野吉秀	H3～H7
	嶋　直毅	H8～H10
保存Ⅲ（歯内）	山本武夫	S60～S62
保存Ⅱ（歯内）	水野知之	S63～H2
	上田　均	H3～H8
歯内療法	島　秀一	H9～H19
歯内療法学	島　秀一	H20～H25
歯周療法	嶋　直毅	H11～H17
	石多謙一	H18～H19
歯周療法学	石多謙一	H20～H25
経済学	粟田喜代治	S48～S61
	佐藤良一	H7
	星野富一	H8～H13

科　目	氏　名	担当年度
経済学	岩田真一郎	H14
	星野富一	H15～H25
予防実習	喜多美知子 広田美鈴	S48～S50
診療補助実習	喜多美知子 広田美鈴	S51～S53
外科	小泉明久	S49～S53
口腔外科	戸塚盛雄	S57
	古田　勲	S58～H19
口腔外科学	野口　誠	H20～H25
外国語	南日孝雄	S48
英語	南日孝雄	S49
	仲井信政	S50
	新村リミ	S51
	谷みどり	S52～S58
外国語Ⅰ	谷みどり	S59～S62
英語	谷みどり	S63～H19
歯科英語	谷みどり	H20～H25
外国語Ⅱ	吉田　清	S62
独語	吉田　清	S63～H8
英会話	Joshua Bautista	H9～H11
	Sally Newport	H12
	Erizabeth Holladers	H13～H15
	ｶﾚﾝ･ﾌｪﾝﾀﾞｰﾎﾙﾄ	H16
	Bitta　朝倉	H17～H19
	ｴﾘｵｯﾄ･ﾌﾞﾘｶﾞﾝ ﾜﾄｿﾝ･ｷﾞﾙ	H20
	ﾌｨﾘｯﾌﾟ･ｸﾞﾗｰﾑ	H21
	ｼﾞｮｴｰﾙ･ｶﾌﾏﾝ	H22～H23
	ｹｲﾚﾝ・キース	H24～H25
予防	桜木正昭	S49
	北山善之進	S50～S51
	吉沢　啓	S52～S53
予防処置	喜多美知子	S54
	喜多美知子 西真知子	S55
	喜多美知子 馬場昌子	S56～S58
	専任教員全員	S59～H17
歯周予防処置	土肥妙子 田原寛子	H18
	土肥妙子 中橋千尋	H19
	土肥妙子	H20
歯周予防処置	山越智津子 影近瑞穂	H21
	山越智津子	H22～H25
齲蝕予防処置	影近瑞穂	H18～H19
	影近瑞穂 中橋千尋	H20～H22
	大平千尋	H23～H24
	黒田由香里	H25
歯科保健指導	喜多美知子 島田美津子 稲田園枝	S54
	稲田園枝	S55
	島田美津子	S56～S57
	島田美津子 沢田久子	S58
	専任教員全員	S59～H17
	吉田美津子 田原寛子	H18
	吉田美津子 中橋千尋	H19
	吉田美津子	H20～H25
補綴	菅野勝紀	S49～S53
	北山善之進	S57～S58
	中嶋　渉	S59～H11
	大野和彦	H12～H13
	齋藤　彰	H14～H15
	野吾昌宏	H16～H19
歯科補綴学	野吾昌宏	H20～H25
麻酔	小泉明久	S57～S61
X線学	菅野勝紀	S49～S50
	大浦重光	S51～S53
	岩崎弘治	S57～S62
	小林　信	S63～H7
歯科口腔放射線	金山元信	H20～H22
	加須屋聡	H23～H25
小児歯科・矯正	福島武人	S57～S58
小児	桜木正昭	S49～S53
小児歯科	福島武人	S59
	直江尚利	S60～H2
	丹羽敏勝	H3～H13
	関　康弘	H14～H19
小児歯科学	関　康弘	H20～H25
矯正	桜木正昭	S49
	松原清一郎	S50～S53

科　目	氏　名	担当年度
矯正	福島武人	S59～H7
	寺田康子	H8
	澤端喜明	H9～H19
矯正歯科学	澤端喜明	H20～H25
看護学	柴田清野	S57～S62
	稲坂啓子	S63～H17
	荒木晴美	H18
	森田幸子	H19
	松岡美奈子	H20～H25
隣接医学	浅地　元	S58
	水越鉄理	S59
	大橋直樹	S60
	麻生　伸	S61～H10
	浅井正嗣	H11～H17
	藤坂美千郎	H18
	浅井正嗣	H19～H25
障害者歯科学	永森靖夫 小倉孝夫	S58～S59
	永森靖夫	S60～S62
	岡田洋昭	S63
	直江尚利	H元～H2
	小熊清史	H3～H6
	永井清一郎	H7～H8
	平木光昭	H9～H14
	梶川昌幸	H15～H17
	日出嶋康博	H18～H21
	日出嶋康博 水野二郎 五郎丸知明 山岸聡史	H22
	日出嶋康博 大木淳一 立浪康晴 五郎丸知明	H23
	日出嶋康博 立浪康晴 五郎丸知明 石川　亨	H24
	日出嶋康博 立浪康晴 五郎丸知明	H25
診断学	岡本　学	S57～S59
	中島清之	S60～S63
美術	佐藤良正	S57～S58

科　目	氏　名	担当年度
美術	後藤敏伸	H20～H25
美術（倫理）	佐藤良正	S59～S62
倫理学	佐藤良正	S63～H10
心理学	小芝　隆	S57～S58
	村上千恵子	S59～H11
	久保田真功	H20
	佐藤　徳	H21～H25
化学	高安　紀	S62～H2
	森田弘之	H3～H20
	會澤宣一	H21～H25
生物学	中村省吾	S62～H25
教育学	宮崎州弘	H12
	堀井啓幸	H13～H16
	久保田真功	H17～H19
介護学	高田英子	H11
	茶山壽美子 西井啓子	H12～H15
	茶山壽美子 河越美和子	H16～H19
	茶山壽美子 井上理絵	H20～H21
	井上理絵 松居紀久子	H22～H25
高齢者歯科	前寺一紀	H20～H25
口腔保健管理法	影近瑞穂	H20～H25
口腔介護	井上さやか	H20
	新井直也	H21～H25
救急蘇生	今村知代	H20～H25
国語	奥野美友紀	H20～H25
保健体育	粂　美千子	H20～H25
医療情報処理技術	佐渡忠司	H20～H25
プレゼンテーション技術	桶家　樹	H20～H25
音楽療法	亀谷美規子	H20～H25
医療全般	増田　明	H20～H23
	風間泰蔵	H24
	安川　透	H25
産科	菅田吉郎	H20～H25
医療コミュニケーション	高沢由美	H20～H25

一般社団法人 富山県歯科医師会 在籍会員名簿

（平成25年12月１日現在）

一般社団法人 富山市歯科医師会

正会員　212名

相澤　博	饗場広和	青木康三	青木富実子	朝倉慎一郎
東　忍	飴谷孝之	飯田良彦	家城信良	家城佳夫
池渕史郎	石川哲夫	石川　亨	石黒　真	石坂正明
泉　照雄	稲田次郎	稲波謙良	井波和孝	今村勝彦
今村きみ	上田和孝	上田　均	上田美保子	魚津公美
内田昌治	内田昌宏	内田安博	江川正通	江尻弘茂
大井克彦	大浦重光	大木淳一	大島輝哉	大城宣之
大野和彦	大野　均	大村由美子	岡崎考亮	岡崎泰尋
岡田信昭	岡野秀成	岡本祥子	岡本英之	沖田　進
小倉孝夫	小澤真理子	小竹　彌	折山　弘	鍛冶昌孝
片岡源司	片岡弘一	片山克己	加藤高男	金川直博
狩野　覚	上滝俊彦	上滝　浩	河野吉秀	熊谷立子
栗山智有	栗山豊実	黒川拓治	黒木正孝	小池　潤
小池充弘	小崎利章	小島一紀	児島三津男	兒玉幸久
小林健剛	小林岳志	小林憲夫	小林祐之	齋藤　彰
酒井信治	坂本和隆	坂本喜久雄	佐渡邦夫	佐渡忠司
佐渡哲雄	佐野正之	澤田敏晴	澤端喜明	澤本正悟
澤本正登	椎名謙司	篠川之靖	島　秀一	島　信博
島　博史	島崎　聡	城川和夫	城野利盛	城野裕子
菅田吉昭	杉井芳文	杉江玄嗣	杉木　進	杉本裕史
鈴木久美	鈴木　寧	砂子満明	砂田　賢	高沢尚人
高島周二	髙田　晋	高波信彦	高橋日出夫	高橋正志
竹内哲郎	竹本慶一郎	谷井三利	谷井賀一	谷口伸剛
塚田正資	釣谷宗義	寺嶌伸佳	寺島祐輔	寺田周明
土肥勝博	直江智恵子	永井清一郎	中川典孝	長沢　久
長治豊一	中島清之	中島光夫	中嶋　渉	長曽善彦
中田　眞	中沼邦欣	中道　勇	永森太一	永森　司
永森靖夫	丹羽敏勝	野上喜史	羽岡克規	萩中仁徳
橋本正博	濱田由美子	早川　徹	林　勉	林　恒人
原田修成	坂東三史	日出嶋康博	廣野善丈	福田　敬
藤川　晃	藤田洋一郎	星野照宗	堀　比佐司	本多寛行
前寺一紀	松浦　幹	松浦　實	松野成子	松能　努
松能雄一	松原明男	松原清一郎	三崎千恵子	水越　弘
水野隆俊	水野貴之	水野誓夫	水野二郎	満岡潤悟
三鍋昌人	源　義明	宮本宣良	宮本将利	宮森正次
村山偉知朗	本村　浩	森井忠晴	森井徹雄	安カ川　聡
安村公成	山上邦夫	山岸聡史	山岸敏治	山岸美智子
山崎一人	山崎宣夫	山﨑安仁	山下銀七	山下哲哉

山田　耕	山田秀樹	山田雅敏	山田美和	山村辰雄
山室孝義	山本征彦	山森喜子	湯口正治	柚木邦夫
横田憲明	横田　聡	吉田真治	吉田季彦	吉田隆司
吉田　徹	吉田尚史	吉田泰彦	吉田義弘	米澤明成
米沢　徹	和記徳郎			

一般社団法人 高岡市歯科医師会

正会員　100名

浅田勝久	阿部輝夫	池田寿人	石多謙一	今村明弘
岩﨑弘治	岩坪敏江	浦野一郎	浦野　潤	宇和山　猛
宇和山義雄	大石　聡	太田真治	大野和人	大道素夫
梶村悦朗	加須屋　聡	勝山　豪	金山嘉城	金山喜吉
金山珪子	金山普拡	金山由直	金子光謙	川中健一
川渕金哉	川渕貴司	木島香奈	北村　悟	木村純一
熊木　彰	郷倉　満	越野　学	後藤　健	近藤久紀
斉藤雄二	佐伯亮太	佐藤昌子	佐藤慎一	澤井　睦
篠原昭智	篠原昭道	島田正美	島田芳紀	杉本友夫
髙木雅代	多知真理子	立浪　徹	近川美喜子	茶谷修平
釣谷東民	釣谷英史	寺田康子	中川　昇	長澤勝将
中島　徹	長久巧一	長久由起	畑　直宏	八田央明
林　俊郎	日尾清史	飛見立高	平木光昭	平出町男
深田貴史	福井功政	福井　洋	福尾元成	藤井達郎
藤井俊彦	牧野　明	松岡正浩	松岡正道	松田　敬
松田倫雄	松本　全	萬谷敏紀	三﨑公晴	三崎正春
水分寿雄	宮田就弘	宮田秀昭	宮田雅代	宮田靖雄
焼田志図夫	藪田健作	山内浅則	山下洋之	山田真樹
山本鉄也	吉江正隆	吉岡シゲ	吉岡達博	吉岡千尋
四日隆夫	米沢吉治	米森　誠	和田敦志	渡辺　満

射水市歯科医師会

正会員　38名

青木一登	石川静郎	伊藤　聡	岩井健治	大谷敦志
奥村俊晴	織田武吉	片口宗久	黒川勇次郎	越野培名男
嶋　直毅	清水秀明	帯刀弘幸	高田恒弘	高畑保夫
高畠　隆	武　俊夫	立浪次夫	立浪康晴	中沖一人
中島　潔	中島吉春	中山圭子	夏目もえこ	松木基祐
三崎慎也	三崎広樹	三島純子	三谷　巌	森永丈策
安田　篤	山岸敏男	山崎史晃	山田正昭	山田理生
和田三茂	和田めりい	渡辺光生		

魚津市歯科医師会

正会員　25名

稲垣恭仁子	稲場　敦	奥川澄夫	奥川博司	奥川裕司
小熊淳史	小熊清史	河内昭人	河内　康	清水嗣貴
関　康弘	髙島浩二	谷川文紹	坪井孝博	寺崎　芳
寺崎麻里	夏目恭佐	羽田宜弘	三田村　聡	美濃千嘉子
森本　伸	山崎聖也	米田仗二	米山耕司	米山俊夫

氷見市歯科医師会

正会員　20名

安達　昭	油田達朗	桶家　樹	小山哲夫	小山元秀
加藤英一	加藤和子	加藤葉月	川上清志	串田　茂
久津有紀夫	越田喜規	新川いくみ	新谷明宏	竹口英人
中辻義忠	長谷川富久	紅井外二	坊　明男	坊　真奈美

滑川市歯科医師会

正会員　12名

網谷伸治	荒川昌子	金山光宏	酒井義博	高野建一
竹島健太郎	辻　貴史	仲井雄一	水橋景之	水橋哲夫
野吾昌宏	安田有時			

黒部市歯科医師会

正会員　22名

朝日丈晴	岩井正博	梅川哲也	荻野新也	小倉義孝
女川　清	女川瑞夫	河村　允	佐々木英富	島田正豊
島田正史	島田　実	清田　築	千代敬子	田中慎二
平井和輝	平井　要	平井きよみ	堀川淳治	前田美智之
吉見武志	渡辺和夫			

砺波市歯科医師会

正会員　17名

安念和英	安念博利	奥田泰生	小坂井　満	桜木正昭
佐藤英樹	澤越　豊	菅野勝紀	菅野　宏	高田寅四郎
高田保之	田守徳樹	根尾　満	藤岡祐紀乃	村井幸嗣
村井玉枝	芳尾久志			

小矢部市歯科医師会

正会員　13名

荒井克洋	上田　昌	上田外喜男	岡宗祐二郎	五郎丸知明
清水盛弘	谷口時博	津田すみ子	津田伸之	野田孫就
山田隆寛	山室仁幸	渡邊良隆		

南砺市歯科医師会　正会員　19名

石崎善司	石崎　護	川口義治	北川武史	齋藤繁徳
斎藤　進	新谷政彦	棚田昌俊	得能昭夫	中尾一彦
仲村辰一郎	成瀬裕久	林　直樹	林　裕子	細川史郎
松田　源	山本　茂	山本大輔	山本武夫	

中新川郡歯科医師会　正会員　17名

荒井晴彦	幾島貴弘	加藤弘直	川口志郎	小泉隆英
小森　実	佐伯清秀	佐伯正清	坂下賢孝	佐渡知宏
中村祐信	前川達哉	牧野京介	牧野良昭	茂住岳司
山本尚靖	吉岡ゑく子			

下新川郡歯科医師会　正会員　18名

阿部弘一	魚津純子	魚津博文	大菅　明	大菅　武
小杉　斉	小杉与三雄	近藤隆行	近藤俊行	佐藤友保
塩見　哲	竹島健潤	田中　博	野田　修	林　譲治
平澤滋康	弥忠田　大	柚木　功		

準会員 第3種　17名

井城香織	稲田雅一	杉浦　正	曽山善之	高桜大輔
高桜武史	寺島龍一	中川清昌	長澤貴子	中谷弘光
早津良和	松井俊明	向澤　舞	山下知巳	山嶋敦盛
由良晋也	横林康男			

準会員 第4種　6名

今村知代	長澤泉子	夏目明恒	藤岡陽介	松本洋美
安田由美				

参考文献・資料一覧

東京歯科大学創立七十周年記念誌　東京歯科大学
東京歯科大学百年史　東京歯科大学
日本歯科大学60周年誌　日本歯科大学
日本歯科大学創立100周年記念誌　日本歯科大学
歯科研究会会員名簿（明治27年版）久住切次郎　荒木盛英編
歯科学会会員名簿（明治30年版）荒木盛英　高橋全次編
帝国医籍宝鑑（明治31年版）山口力之助編　南江堂
歯科医籍　第壹巻（明治36年末）大日本歯科医会編
日本杏林要覧（明治42年版）日本杏林社編　日本杏林社
歯科医師宝典　大正５年　血脇守之助編　歯科学報社
全国歯科医師名鑑（大正14年版）日本口腔衛生社出版
日本醫籍録：附医學博士録・法規／大正15年　医事時論社
日本歯科醫籍録（昭和５年版）日本歯科医師会編纂　歯宛社
日本歯科医師名簿：附･歯科商工業一覧　日本歯科新聞社　1935
高山歯科医学院ノ過去及現在ノ状況 血脇守之助著　1895
大日本職業別明細図　第270　東京交通社　1932
歯科学報（第５巻第１号～現在）東京歯科大学学会　1900～
歯科新報（第１巻第１号～22巻７号）歯科新報社　1907～1929
歯科時報　歯科時報社　1946～1978
日本歯科評論　ヒョーロン・パブリッシャーズ　1940～
血脇守之助伝　血脇守之助伝編集委員会編　東京歯科大学　1979
東京歯科医学専門学校総覧　東京歯科医学専門学校　1915
三十年の回顧　日本歯科医師会　1933
医制80年史　厚生省医務局著　印刷局朝陽会　1955
歯界五十年　高津弍古希記念執筆　日本歯科評論　1965
歯記列伝　榊原悠紀田郎著　クインテッセンス出版　1995
歯科保健医療小史　榊原悠紀田郎著　医歯薬出版　2002
スタンダード歯科医学史　石井拓男ら著　学建書院　2009
日本歯科医師会雑誌　日本歯科医師会
日本歯科医史学会会誌　日本歯科医史学会
歯科医事衛生史（前巻、後巻）日本歯科医師会
日本歯科医事衛生史（第１巻、第２巻）日本歯科医師会
日本歯科医師会史（第１巻、第２巻、資料編）日本歯科医師会
富山県史　通史編＆統計図表　富山県　1983
高岡市史　下巻　高岡市史編纂委員会　1969
富山県のあゆみ　置県90周年記念　富山県　1973
置県百年　富山県　富山県知事公室広報課企画　富山県　1983
富山県100年「写真集・富山県100年」北日本新聞社　1989
図説富山県の歴史（図説日本の歴史）河出書房新社　1993
ビジュアル富山百科　富山新聞社　1994
明治の富山をさぐる　水間直二著　廣文堂　1979

とやま元祖しらべ　桂書房編　桂書房　2005
富山県歯科医師会70年のあゆみ　富山県歯科医師会　1983
富山県学校歯科沿革史　和記憲一著　1969
富山県学校歯科医会50年史　富山県学校歯科医会　2003
富山県歯科医師会報　1951～
富山市歯科医師会史　富山市歯科医師会編　1984
富山市歯科医師会史Ⅱ　富山市歯科医師会編　2006
富山県歯科技工士会創立50周年記念会史　富山県歯科技工士会編　2002
石川県歯科医師会創立60周年誌　石川県歯科医師会編
福井県歯科医師会史　福井県歯科医師会編
福島県歯科医師会100年史　福島県歯科医師会編
熊本県歯科医師会80年史　熊本県歯科医師会編
滋賀県歯科医師会100年史　滋賀県歯科医師会編
新潟県歯科医師会100周年記念史　新潟県歯科医師会編

官報
富山県報
北陸タイムス
北陸日日新聞
富山日報
北日本新聞
富山新聞

国立国会図書館ＨＰ
ヨミダス歴史館
聞蔵Ⅱビジュアル

写真・資料提供者

阿部　弘一　　今村　勝彦　　浦野　　潤　　大村由美子　　小林　憲夫　　桜木　正昭
菅田　博子　　中川　典孝　　中島　清之　　永森　　司　　成瀬　裕久　　林　　俊郎
分田　康寛　　牧野　京介　　宮本　宣良　　山下　哲哉　　山本　尚靖　　和記　徳郎
樋口　輝雄（日本歯科大学新潟生命歯学部 医の博物館）　　北林　伸康（東京歯科大学史料室室長）

今回の富山県歯科医師会100年史の作成にあたり、写真や資料を提供いただきました皆様に感謝いたします。

富山県歯科医師会創立100周年記念史編纂委員会

委員　夏目　明恒
委員　池田　寿人
副委員長　松岡　正道
委員長　中道　勇
委員　山崎　一人
委員　山田　秀樹
委員　山田　真樹
事務局長　山本　吉博

編集後記

30年前の創立70周年を記念して発刊された、富山県歯科医師会70年のあゆみには、戦前の詳細な歴史に関する記述は一切ありませんでした。今回の100周年記念史では、大正３年から昭和21年までの会の歴史の空隙を埋めるべく、編纂作業を行いました。当初、古い資料や写真が残っているかどうか疑心暗鬼でありましたが、戦前の日歯会報、歯科学報、地元新聞紙、歯科医師名簿等で、ほぼ戦前の会の流れを把握し、創立以来の入会者全員の氏名が判明しました。記念史編纂を通じて、諸先輩が歩んできた道を知り、自分が現在いる立ち位置を再確認できました。

委員長　　中道　　勇

100年、言葉にすると一言だが、100年前の時代は４世代、いや５世代をも繋ぐことの出来る時間であります。日々の生活に追われ、過去を振り返ることなどしない自分が、この記念史の編集に関われたことで、100年におよぶ先達の苦労や功績、仕事ぶりなどに思いを馳せることが出来たのは貴重な経験でありました。歴史に学ぶと言われますが、歯科医師会の変遷、発展を知ることで、これからの新たな100年の糧に少しでもなるよう希望しています。　　副委員長　　松岡　正道

大正３年に富山県歯科医師会が誕生してから、戦後一度の生まれ変わりの経験を経て100歳になったそうです。一人で生きてきたなら相当の高齢者となったといえますが、100年の歴史を読み返したとき、その間のたくさんの先輩先生方、そして今を生きる会員の先生方の知恵と汗によって歳をとらないばかりか、富山県歯科医師会がどんどん若返っていくような気もちになりました。　　山田　真樹

今回、百年史の編纂に携わることができ、大変貴重な経験ができました。黎明期における歯科事情や会設立の苦労、戦後の混乱期における会の運営、高度成長期から今日に至る時代の保険、医療費問題など、諸先輩方の御苦労と熱意には頭が下がる思いです。私も、歯科医師としての誇りを持ち、日々精進すべく決意を新たにしたところです。　　池田　寿人

創立100周年記念史編纂にあたり、まず明治･大正･昭和初期に先人達が数多くの貴重な資料、記録を残していることに驚きました。それらに目を通すことで記録の重み、大切さを痛感すると共に、史学から歯学を学ぶことができた貴重な機会でした。今回富山県歯科医師会設立当初からの記録の作成に携われたことに感謝したいと思います。　　山崎　一人

100周年という記念すべき年に、記念史の編纂委員という貴重な体験をさせていただいた事を深く感謝致します。記念史の完成には約１年以上に渡る準備期間を要しました。100年という歳月の重みと歴史を作り上げてこられた先生方の功績を再認識する事が出来ました。これからの新しい時代に向けて、本会の更なる発展を祈念致します。　　山田　秀樹

はじめにこの編纂委員の話をいただいた時は、編集方針に沿った仕事ができるか不安でした。懇切丁寧な御指導､御教示をいただき､委員会を重ねていくうちに脈々と継がれてきた「富山県歯科医師会100年」の歴史足跡をたどることで諸先輩のご尽力、志に触れたような気がしました。次の100年にむけて想い出として、また記録として一助になるようでしたら幸甚です。

夏目　明恒

編纂委員会の開催日

第１回	平成24年５月29日	第５回	平成25年２月21日	第９回	平成25年７月23日	第13回	平成25年12月12日
第２回	７月12日	第６回	４月18日	第10回	８月27日	第14回	平成26年１月16日
第３回	９月13日	第７回	５月21日	第11回	９月19日		
第４回	11月15日	第８回	６月20日	第12回	10月17日		

富山県歯科医師会100年史

一世紀録

2014年3月1日発行

発行者

一般社団法人 富山県歯科医師会

〒930-0887 富山県富山市五福字五味原2741番2

TEL.076-432-4466 FAX.076-442-4013

編集

富山県歯科医師会創立100周年記念史編纂委員会

印刷

富山スガキ株式会社